

大阪府埋蔵文化財調査報告2011-2

大町遺跡Ⅲ

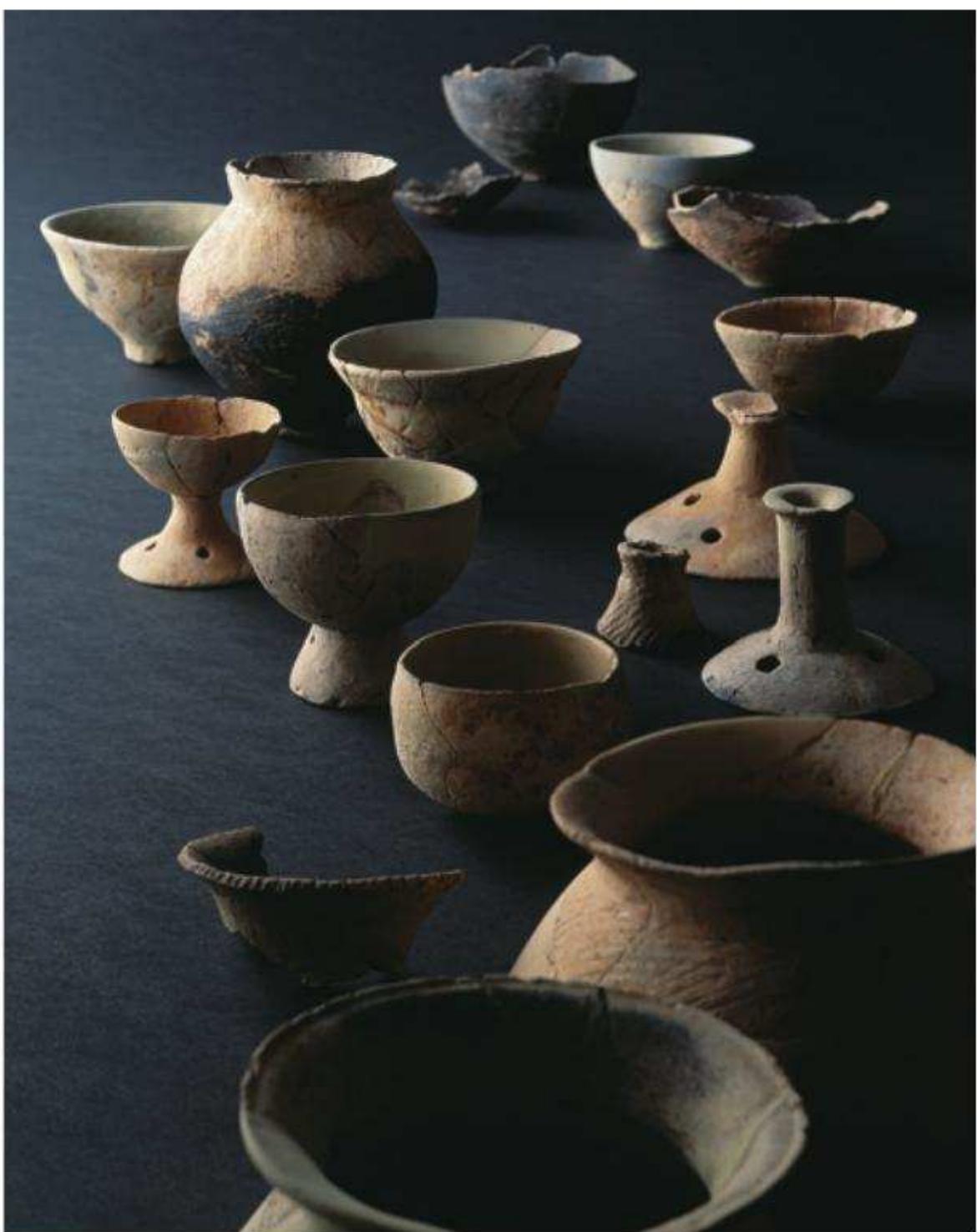
—府営岸和田大町住宅建て替え工事に伴う発掘調査—

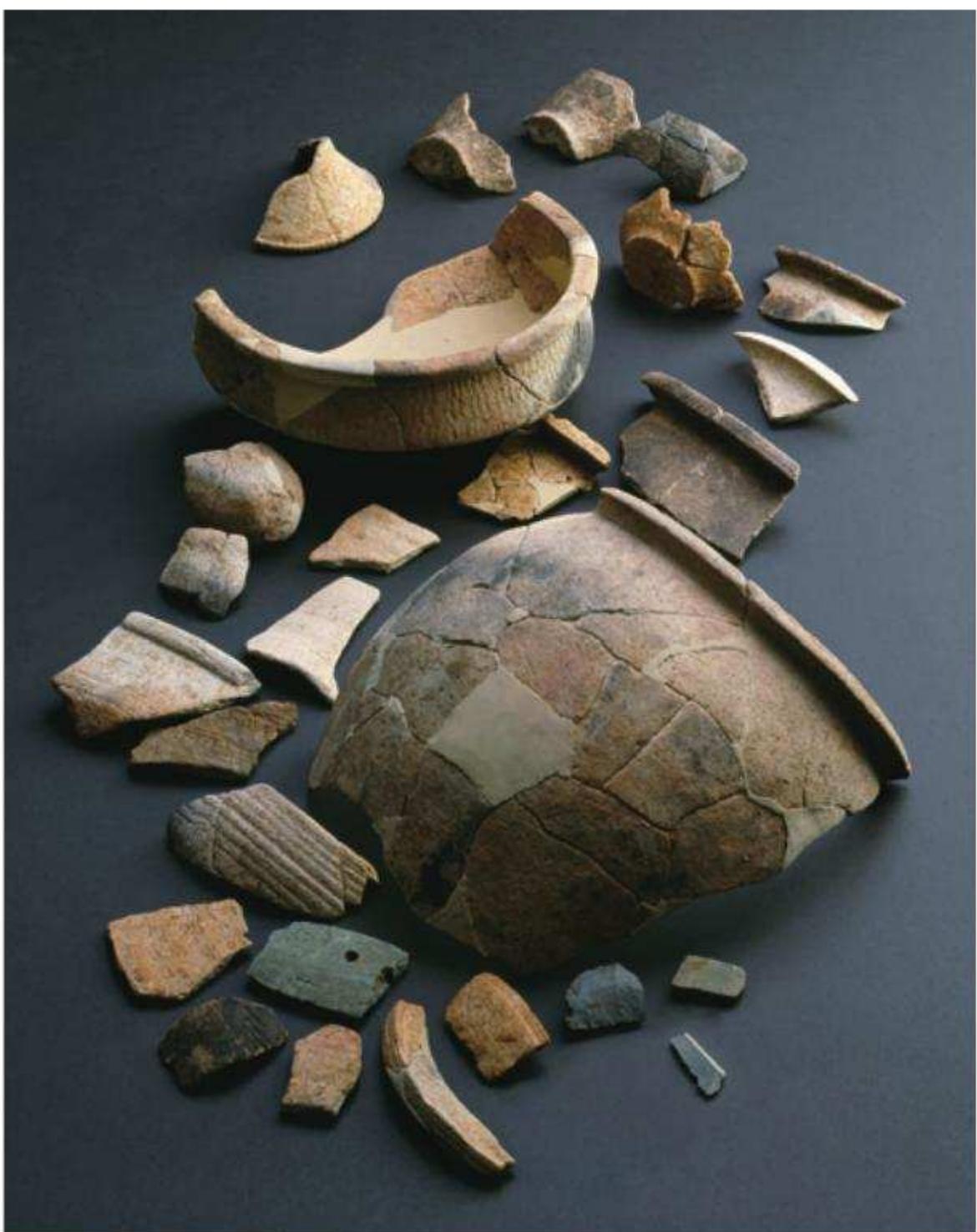
大阪府教育委員会

大町遺跡Ⅲ

—府営岸和田大町住宅建て替え工事に伴う発掘調査—

大阪府教育委員会







1 65土坑出土土器 (93)



2 02河道出土土器 (14)



3 02河道出土土器 (13)



4 100河道出土土器 (170)



1 09-1区01·02河道



2 10-1区全景



1 02河道土器出土状況



2 65土坑遺物出土状況

序 文

本書で報告いたします岸和田市所在の大町遺跡は、市内の北部にあり、JR阪和線久米田駅の東約300mに位置しています。また行基による開削との伝承をもつ久米田池は、南方約800mにあります。

本府教育委員会は府営岸和田大町住宅の建て替え工事に伴い、これまで4カ年度にわたって発掘調査を実施しました。その結果、弥生時代後期から古墳時代初頭にかけて埋まっていた河川跡を幾条も発見し、そこからは多量の土器が出土しました。

本書は平成21・22年度に実施した発掘調査の報告書です。その調査成果のなかでも特に注目されるのは、22年度の調査において発見された弥生時代中期後葉の土器・石器を廃棄した土坑、平安時代から鎌倉時代前半期にかけて営まれた水田跡、鎌倉時代後半期以降の畠地など、これまで遺跡内で見つかっていなかった時代の遺構を発見した点です。

こうした発見によって、大町遺跡内における土地利用の変遷を明らかにすることができ、さらに大町遺跡周辺地域の歴史的展開を推測できるようになりました。

大町遺跡は、平成13年度の試掘調査に基づいて範囲を拡大した遺跡です。その後、上述したように発掘調査を重ねてきました。私どもが日々行っております文化財保護のための遺跡発掘調査の地道な積み重ねにより地域歴史の解明の糸口を得ることができたことは、文化財調査の意義を示し得た成果だといえます。

調査にあたりましては、関係各位から多大なご指導、ご助力をいただき、厚く感謝いたしております。今後とも文化財保護行政にいっそうのご理解とご協力を賜りますようお願い申し上げます。

平成24年3月

大阪府教育委員会事務局
文化財保護課長 野口 雅昭

例　言

1. 本書は、大阪府教育委員会が大阪府住宅まちづくり部から依頼を受けて実施した岸和田市大町所在の府営岸和田大町住宅建て替え工事に伴う大町遺跡の発掘調査報告書である。
2. 現地調査は、平成21年度を文化財保護課調査第二グループ主査三木弘、平成22年度を三木および同グループ副主査杉本清美が担当して実施した。遺物整理事業は調査管理グループ主査三宅正浩、副主査藤田道子を担当者として、平成22・23年度に実施した。
3. 発掘調査地点は大町遺跡と田鶴羽遺跡にまたがるが、既往の調査との統一を図るために書名を大町遺跡とした。
4. 本調査の調査番号は、平成21年度が09029、平成22年度が10004である。
5. 空中写真測量は、平成21年度は大阪測量株式会社、平成22年度は株式会社ジオテクノ関西に委託した。撮影フィルムは各社で保管している。
6. 出土遺物の写真撮影は、有限会社阿南写真工房に委託した。
7. 本書の執筆は、IV章2節を杉本が行ったほかは、三木が行った。編集は三木が行った。
8. 調査で作成した記録資料と出土遺物は、大阪府教育委員会で保管している。
9. 調査の実施にあたっては、岸和田市教育委員会のご協力・ご援助を得た。記して感謝します。
10. 発掘調査・遺物整理および本書の作成に要した経費は、大阪府住宅まちづくり部が負担した。
11. 本報告書は300部作成し、一部あたりの印刷単価は2468円である。

凡　例

1. 本書中の基準高はすべて東京湾平均海水位（T.P.）+値を使用している。
2. 遺構図の座標は国土座標軸（世界測地系）を使用し、第VI座標系に準拠している。表記の単位はすべてmである。
3. 方位はすべて座標北で示した。調査地の座標北は磁北より東へ6°58'、真北より西へ0°20'振れている。
4. 遺構番号は各年度ごとに01番から始めている。
5. 本書で使用した土色は、小山正忠・竹原秀雄編『新版標準土色帖』2006年版 農林水産省農林水産技術会議事務局監修・財團法人日本色彩研究所色票監修に準拠した。

本文目次

序文	文化財保護課長 野口雅昭
例言	
凡例	
I 発掘調査の経緯と経過	(三木) 1
1 大町遺跡と田鶴羽遺跡の位置	
2 調査に至る経緯	
3 調査の経過	
II 大町遺跡の立地環境と歴史	(三木) 5
1 大町遺跡の立地環境	
2 大町遺跡周辺の歴史	
III 発掘調査の成果	(三木) 13
1 09-1区の発掘調査	13
(1) 調査成果の概要	
(2) 調査区土層	
(3) 検出遺構と出土遺物	
2 10-1区の発掘調査	46
(1) 調査成果の概要	
(2) 調査区土層	
(3) 第1遺構面の検出遺構と出土遺物	
(4) 第2遺構面の検出遺構と出土遺物	
3 10-2区の発掘調査	81
(1) 調査成果の概要	
(2) 調査区土層	
(3) 検出遺構と出土遺物	
4 10-3区の発掘調査	84
(1) 調査成果の概要	
(2) 調査区土層	
(3) 検出遺構と出土遺物	
IV まとめ	
1 平成21・22年度と既往の調査成果	(三木) 98
2 弥生時代中期における大町遺跡	(杉本) 105

3 大町遺跡周辺の古墳時代初頭および前後期の集落動向	(三木)	107
4 田鶴羽遺跡の古墳群	(三木)	113
5 大町遺跡周辺の中世遺跡の動向	(三木)	118
 参考文献		123
遺構一覧表		126
遺物觀察表		134
遺物組成表		150

挿 図 目 次

第1図 大町遺跡と田鶴羽遺跡の位置	1
第2図 平成21・22年度調査区	2
第3図 調査区の位置	3
第4図 大町遺跡周辺の地質	5
第5図 大町遺跡周辺の遺跡	8
第6図 09-1区遺構全体	15・16
第7図 09-1区土層	17・18
第8図 02河道土層	23・24
第9図 02河道土器出土状況（1）	25
第10図 02河道土器出土状況（2）	26
第11図 02河道土器集中範囲の土器相	27
第12図 02河道土器集中範囲出土土器（1）	28
第13図 02河道土器集中範囲出土土器（2）	29
第14図 02河道出土土器	30
第15図 01河道出土土器（1）	32
第16図 01河道出土土器（2）	33
第17図 06河道出土土器	35
第18図 26土坑・27溝・28溝	37・38
第19図 11溝・40土坑・86土坑・87土坑・88土坑	40
第20図 遺構出土遺物	41
第21図 106溝	41
第22図 09-1区のグリッド	42

第23図 トレンチ内出土土器	43
第24図 サスカイト剥片出土状況	44
第25図 サスカイト剥片	45
第26図 10-1区土層	47・48
第27図 10-1区第1遺構面遺構全体	52
第28図 20溝・21溝・22溝・25溝	53
第29図 12土坑・15溝	54
第30図 10-1区第2遺構面遺構全体	56
第31図 65土坑	57
第32図 65土坑の遺物相	58
第33図 65土坑出土土器（1）	59
第34図 65土坑出土土器（2）	60
第35図 65土坑出土土器（3）	61
第36図 65土坑出土石器	62
第37図 54河道	64
第38図 54河道士層	65・66
第39図 54河道のグリッド	67
第40図 54河道出土土器類	67
第41図 55溝・58溝・63溝	68
第42図 55溝土層	69
第43図 55溝出土土器	70
第44図 56溝	70
第45図 61土坑	70
第46図 45畦出土瓦器	71
第47図 第1・2遺構面間土層	73・74
第48図 10-1区のグリッド	76
第49図 第1・2遺構面間出土土器類	76
第50図 鉄釘	77
第51図 サスカイト原石・石鎌	77
第52図 10-2区第1遺構面遺構全体	78
第53図 10-2区第2遺構面遺構全体	78
第54図 10-2区グリッド	78
第55図 10-2区土層	79・80
第56図 60河道士層	81

第57図	60河道のグリッド	82
第58図	60河道出土土器	83
第59図	10-3区遺構全体	84
第60図	10-3区土層	85・86
第61図	100河道	88
第62図	100河道出土土器	90
第63図	101溝・102溝	92
第64図	104溝	93
第65図	73水田	94
第66図	遺構出土遺物	95
第67図	10-3区のグリッド	96
第68図	遺構外出土遺物	96
第69図	平成21・22年度と既往の調査区	98
第70図	09-1区と周辺の調査区	99
第71図	10-1・2区と周辺の調査区	100
第72図	10-3区と周辺の調査区	102
第73図	大町遺跡既往調査の非在地系土器	104
第74図	大町遺跡周辺の古墳時代初頭および前後期の遺跡概念	108
第75図	田鶴羽遺跡の遺構（平成元年度調査）	114
第76図	田鶴羽古墳群出土須恵器（1）	115
第77図	田鶴羽古墳群出土須恵器（2）	116
第78図	大町遺跡周辺の中世の遺跡概念	120

表 目 次

表1	大町遺跡検出の中世遺構	118
----	-------------	-----

図 版 目 次

卷頭図版1 02河道出土土器

卷頭図版2 65土坑出土土器・石器

卷頭図版3 出土土器

- | | |
|------------------------|-----------------------|
| 1 65土坑出土土器 (93) | 2 02河道出土土器 (14) |
| 3 02河道出土土器 (13) | 4 100河道出土土器 (170) |
| 卷頭図版4 09-1区・10-1区 | |
| 1 09-1区01・02河道 | 2 10-1区全景 |
| 卷頭図版5 02河道・65土坑 | |
| 1 02河道具出土状況 | 2 65土坑遺物出土状況 |
| 図版1 09-1区 | |
| 1 09-1区全景 (南西から) | 2 09-1区全景 (北東から) |
| 図版2 09-1区 | |
| 1 09-1区全景 (北東から) | 2 09-1区全景 (北東から) |
| 図版3 09-1区 | |
| 1 01・02河道全景 (北西から) | 2 01・02河道全景 (南西から) |
| 図版4 09-1区 | |
| 1 01河道全景 (北西から) | 2 01河道具層断面 (東から) |
| 図版5 09-1区 | |
| 1 02河道全景 (北東から) | 2 02河道具出土状況 (南から) |
| 図版6 09-1区 | |
| 1 02河道具出土状況 (北から) | 2 02河道具出土状況 (南東から) |
| 図版7 09-1区 | |
| 1 02河道具出土状況 (東から) | 2 06河道全景 (北西から) |
| 図版8 09-1区 | |
| 1 26土坑、27・28溝全景 (南西から) | 2 86・87土坑全景 (南から) |
| 3 88土坑全景 (北東から) | 4 106溝全景 (北西から) |
| 5 サヌカイト剥片出土状況 (北東から) | |
| 図版9 10-1区 | |
| 1 10-1区第1遺構面全景 (北西から) | 2 10-1区第1遺構面北側 (北東から) |
| 図版10 10-1区 | |
| 1 10-1区第1遺構面中央 (北東から) | 2 10-1区第1遺構面南側 (北東から) |
| 図版11 10-1区 | |
| 1 21・22・25溝全景 (北東から) | 2 12土坑全景 (北東から) |
| 図版12 10-1区 | |
| 1 15溝土層断面 (南西から) | 2 36畦全景 (北東から) |
| 図版13 10-1区 | |
| 1 10-1区第2遺構面全景 (南東から) | 2 10-1区第2遺構面全景 (北西から) |

図版14 10-1区

1 10-1区第2遺構面北側（北東から） 2 10-1区第2遺構面南側（北東から）

図版15 10-1区

1 65土坑遺物出土状況（東から） 2 65土坑遺物出土状況（西から）

図版16 10-1区

1 65土坑全景（東から） 2 65土坑全景（西から）

図版17 10-1区

1 54河道流木出土状況（北から） 2 54河道全景（北から）

図版18 10-1区

1 63溝土層断面（南から） 2 58溝土層断面（南から）

3 58溝土層断面（南から） 4 55溝土層断面（北西から）

5 55・58・63溝全景（北東から）

図版19 10-1区

1 56土坑全景（北東から） 2 61土坑全景（南から）

図版20 10-2区

1 10-2区第1遺構面全景（南東から） 2 10-2区第1遺構面全景（北東から）

図版21 10-2区

1 10-2区第2遺構面全景（南東から） 2 60河道士層断面（南から）

図版22 10-3区

1 10-3区全景（北東から） 2 10-3区全景（南西から）

図版23 10-3区

1 100河道土層断面（北から） 2 100河道土層断面（北から）

図版24 10-3区

1 100河道全景（東から） 2 100河道全景（南東から）

図版25 10-3区

1 101・102溝土層断面（南東から） 2 101・102溝全景（南東から）

図版26 10-3区

1 104溝土層断面（南東から） 2 104溝全景（南東から）

図版27 10-3区

1 73水田土層断面（西から） 2 73水田全景（南東から）

図版28 09-1区 02河道出土土器

1 壺・甕 2 壺

図版29 09-1区 02河道出土土器

1 高杯 2 高杯

3 高杯	4 高杯
5 高杯	6 高杯
図版30 09-1区 02河道出土土器	
1 高杯	2 台付鉢
3 鉢	4 鉢
図版31 09-1区 02河道出土土器	
1 壺	
図版32 09-1区 02河道出土土器	
1 壺	2 壺
3 壺	4 製塩土器
図版33 09-1区 02河道出土土器	
1 壺	2 壺
図版34 09-1区 02河道出土土器	
1 壺	2 壺
図版35 09-1区 02河道出土土器	
1 壺・高杯	2 壺
図版36 09-1区 01河道出土土器	
1 壺・無頸壺	2 壺・台付土器
図版37 09-1区 01河道出土土器	
1 壺	2 壺
図版38 09-1区 01河道出土土器	
1 壺	2 壺
図版39 09-1区 01河道出土土器	
1 壺	2 高杯
図版40 09-1区 01河道・06河道出土土器	
1 01河道出土壺・壺	2 06河道出土器台
図版41 09-1区 基盤層・26土坑出土遺物	
1 基盤層出土無頸壺	2 基盤層出土壺
3 基盤層出土小型壺	4 基盤層出土製塩土器
5 基盤層出土壺	6 26土坑出土瓦
図版42 09-1区 基盤層出土石器	
1 サヌカイト剥片（1）	2 サヌカイト剥片（2）
図版43 10-1区 65土坑出土土器	
1 鉢	2 鉢

3 瓢

図版44 10-1区 65土坑出土石器

- 1 石劍 2 砥石
3 サスカイト剥片

図版45 10-1区 65土坑出土石器・土器

- 1 石庖丁 2 高杯
3 瓢

図版46 10-1区 65土坑出土土器

- 1 壺 2 鉢・高杯

図版47 10-1区 65土坑出土土器

- 1 瓢 2 蛸壺

図版48 10-1区 65土坑出土器類・鉄器

- 1 壺・高杯 2 上層出土黒色土器椀・瓦器椀・鉄釘

図版49 10-3区 100河道出土土器類

- 1 製塩土器 2 台付瓢
3 須恵器高杯

図版50 10-3区 100河道出土土器

- 1 瓢 2 瓢・製塩土器

図版51 10-3区 100河道出土土器

- 1 壺・器台・高杯 2 壺

図版52 10-1・3区 54河道・55溝・104溝・堆積土出土土器類

- 1 55溝出土瓢（左） 2 104溝出土須恵器杯蓋（右上）
3 堆積土出土製塩土器（右下） 4 54河道出土瓢

図版53 10-2区 60河道／10-3区 73水田出土遺物

- 1 60河道出土鉢・壺・瓢 2 73水田出土埴輪・陶器椀・瓦器皿

図版54 10-1区 第1・2遺構面間出土遺物

- 1 サスカイト原石 2 土師器皿・椀・瓦器椀

図版55 10-1区 第1・2遺構面間出土土器類

- 1 瓦器椀 2 瓦器椀・皿

図版56 10-3区 遺構外出土土器類

- 1 瓦器椀・皿 2 土師器皿・黑色土器椀・須恵質土器捏鉢

I 発掘調査の経緯と経過

1 大町遺跡と田鶴羽遺跡の位置

大町遺跡は大阪府南部の岸和田市に所在する。北西－南東方向に長い市域の比較的海岸寄りに位置していて、大町四丁目に該当する。

大町遺跡の範囲は、府営岸和田大町住宅（旧称：久米田第二住宅）内の、久米田池を水源として流れる天の川の東にはほぼあたり、北東－南西方向300m、北西－南東方向200mほどの広さである。



第1図 大町遺跡と田鶴羽遺跡の位置

天の川を挟んで大町遺跡の南西には田鶴羽遺跡が隣接している。その範囲は、120m四方の集合住宅敷地部分と府営住宅建て替えに伴なって新設される道路部分がほぼ該当する。所在地は大町遺跡と同じく大町四丁目にあたる。

2 調査に至る経緯

老朽化した府営岸和田大町住宅の建て替え整備事業が、平成16年度より順次実施されてきている。

この一連の事業に先立ち、大阪府教育委員会と大阪府建築都市部（現：住宅まちづくり部）が埋蔵文化財の取り扱いについて協議し、住宅地内における埋蔵文化財の存否を確認するため平成13年7月に試掘調査を行ったところ、南西隅を除く住宅地のほぼ全域で弥生時代から中世にかけての遺物包含層が検出された。

試掘調査以前においては、大町遺跡の範囲は府営住宅地の北西一隅を占める直径40～50mほどの広さであったが、試掘調査の結果に基づき岸和田市教育委員会とも協議を行い、天の川以東の府営住宅地内および金池に隣接する大町公園内を遺跡の範囲とした。

その上で、文化財保護課と住宅整備課が協議を行い、住宅地のほぼ中央に予定された第1期工事の住棟3棟、集会所、電気室、受水槽のうち、平成15年度は住棟2棟（03-1・2区）と集会



第2図 平成21・22年度調査区

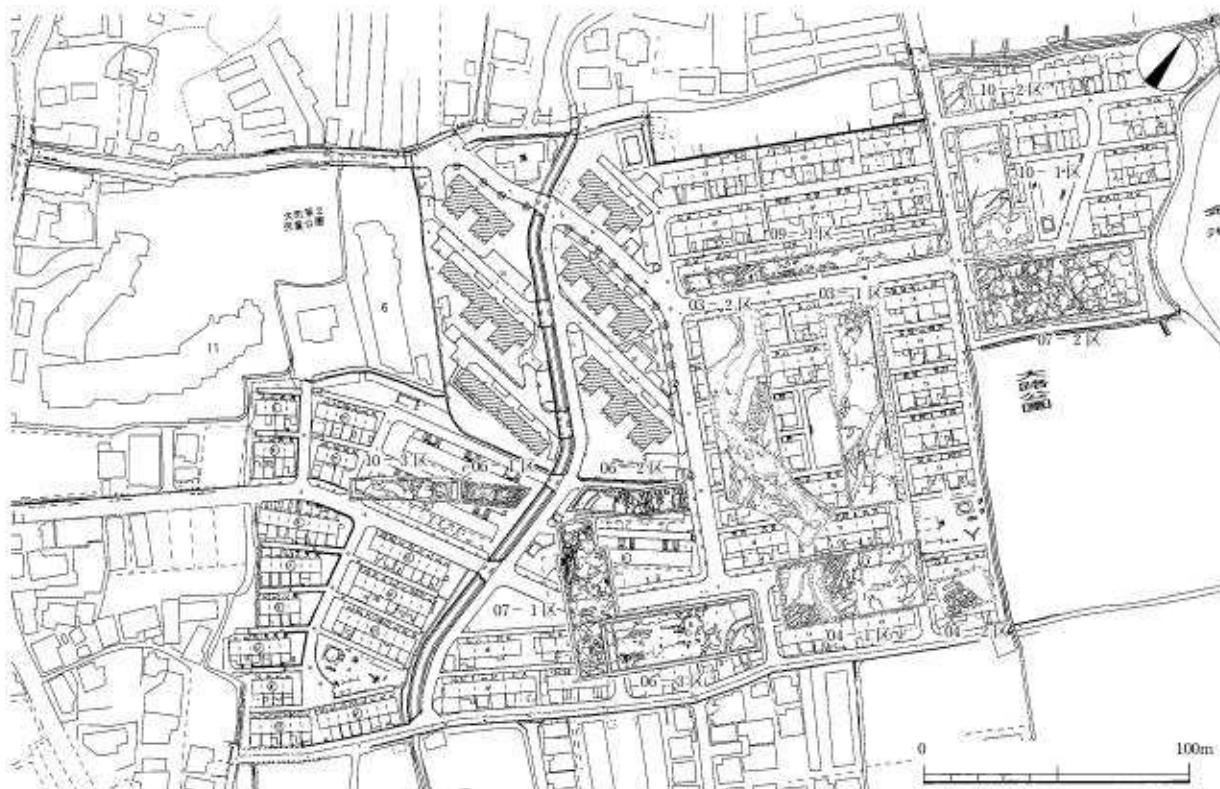
所（03-2区）、平成16年度には住棟1棟（04-1区）と電気室・受水槽（04-2区）の範囲を発掘調査することとした。なお集会所と住棟の位置が近接していることから、両範囲をつなげて調査を行った（03-2区）。また平成16年度には、前年度に発掘調査を終了した部分の建設工事が実施された。

なお、大町遺跡の範囲を天の川以東としたが、天の川の西方約100mの地点では集合住宅の建築に伴う発掘調査が平成元年に岸和田市教育委員会により実施され、田鶴羽遺跡として周知化されていた。

第2期工事は、第1期工事範囲の南西に2棟、北東に1棟の住棟を建設するとともに、住宅内を横断する道路の新設が予定された。新設道路の一部は天の川の西に延びていて、大町遺跡の範囲外にあたる。そこで遺跡の広がりを確認するために、平成18年5月に道路新設部分の試掘調査を実施した。その結果、遺跡未周知の範囲においても古墳時代～鎌倉時代の遺物包含層の存在が認められた。そこで田鶴羽遺跡の範囲を東方に拡大し、道路敷設範囲において発掘調査を実施することとした。

第2期工事に伴う発掘調査は住棟3棟（06-3区、07-1・2区）と天の川を挟んだ新設道路部分（06-1・2区）の合計4箇所を対象とし、平成18年10月～翌年3月および平成19年6月～12月に行った。

第3期工事は、本書で報告する住棟1棟（10-1区）、防火水槽1棟（10-2区）および新設道路部分（09-1区・10-3区）の工事が計画され、それぞれを対象として発掘調査を実施した。



第3図 調査区の位置

3 調査の経過

第3期工事に伴う発掘調査は平成21年度と平成22年度に分けて実施した。平成21年度は住宅地内の北辺近くを東西に横断する新設道路部分（09-1区）を対象として、平成21年11月から翌年2月にかけて発掘調査を行った。調査範囲は全長99m、幅8mで、面積は約800m²である。

調査はまず府営住宅造成時の盛土や旧耕作土・床土を重機により除去することから始めた。機械掘削終了面がほぼ遺構面にあたる。

検出された02河道の北東岸肩部には26土坑や小穴、耕作痕が重複していたため、02河道の一部を掘り残したまま12月2日に空中写真測量を実施し、その後02河道の肩部全体を検出し、手測りで遺構平面図を作成・追加した。また遺構が形成された基盤層の状況を調べるために、調査区の北西辺に沿ってトレーニングを設定した。

1月16日に遺跡の現地公開を開催し、200名近い見学者が来場した。また一部報道でも紹介された。

平成22年度はI号棟の建築部分（10-1区）、その北西に接する防火水槽部分（10-2区）および第2期工事により敷設された新設道路の南西方向への延長部分（10-3区）の発掘調査をそれぞれ行った。

10-1区と10-2区は、平成22年7月から同時に発掘調査を開始した。両調査区とも重機により盛土、旧耕作土・床土を除去した直下面を第1遺構面とした。この両調査区の第1遺構面を、8月11日に空中写真測量を行って図化した。

その後、人力掘削によりさらに30~40cm掘り下げ、基盤層上面を検出した。この基盤層上面を第2遺構面とし、遺構検出作業を行った。両調査区とも多様な遺構が検出され、ことに10-1区では数多くの遺構を発見した。それらはすべて手測りで平面図を作成した。

10-1・2区の第2遺構面の調査がほぼ終了した段階の10月16日に現地公開を開催し、135名の来場者があった。また新聞紙面でも紹介された。

10-1・2区の調査を10月末で終了し、11月から両調査区の埋め戻しと平行して、10-3区の発掘調査を開始した。10-3区の遺構面は、機械掘削終了直下の1面のみであった。この面は基盤層上面に対応する。

11月30日に空中写真測量を行い、遺構面を図化した。その後、遺構が形成される基盤層の調査を実施するために調査区の南西辺および南東辺に沿ってトレーニングを設定し、人力により掘り下げた。年内に発掘調査を終え、年明けから埋戻しと整地を行い、1月上旬にすべての作業を終了した。

なお調査面積は10-1区が966m²、10-2区が166m²、10-3区が347m²で、合計は約1480m²であった。

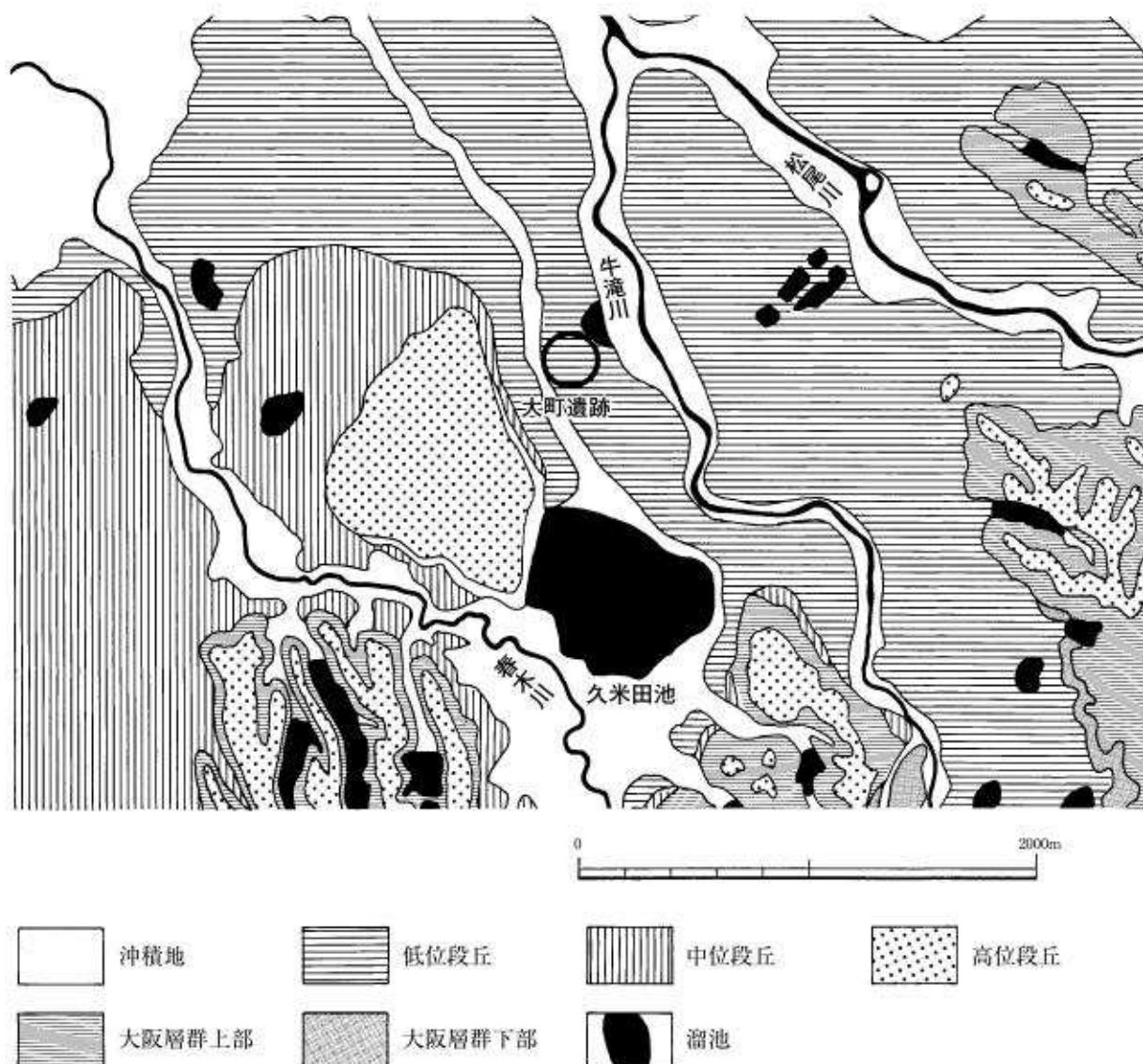
II 大町遺跡の立地環境と歴史

1 大町遺跡の立地環境

大町遺跡が位置する和泉地域は、和歌山県との障壁をなす和泉山脈、そこから海岸に広がる丘陵地帯、丘陵の前面に広がる洪積台地、そして海岸線までの間の沖積平野に大きく区分できる。

和泉山脈は標高800m前後とあまり高くなく、山部は割合に緩やかである。この山脈は領家花崗岩類、泉南酸性火碎岩類を基盤層として、それを覆って凝固の不充分な礫岩・砂岩・泥岩が互層をなして堆積している。和泉山脈は、大阪湾方向には緩やかに、和歌山県側には比較的急峻に傾斜している。

さらに山脈の基盤層が大阪湾側に張り出し、神於山をはじめとする前衛山地が幅4~5kmほど



第4図 大町遺跡周辺の地質

にわたって形成されている。

前衛山地の北には丘陵地帯が広がっている。この丘陵地帯は大阪層群と呼ばれる、充分に凝固していない礫岩・砂岩・泥岩およびこれらの互層からなる地層により形成されている。そして和泉山脈に源をもつ中・小河川がこの丘陵地帯を深く切り込み、南北方向を幾つも分断している。

丘陵地帯に流れる中・小河川に沿って河岸段丘が広がり、あるいはその丘陵の縁辺にも段丘が伸びる。段丘は比高30~50mほどの高位段丘、10~30mの中位段丘、10m以下の低位段丘に分かれ、和泉地域では主として中位段丘面が発達している。高位段丘面は、和泉市信太山付近、大町遺跡の西方にあたる久米田池の西辺から北にかけて、そして泉佐野市見出川西岸で認められる程度である。

低位段丘面は、和泉山脈から大阪湾に注ぐ河川の縁辺に広がりをみせるが、横尾川・松尾川・牛滝川およびそれらが合流した大津川の流域を除くとあまり発達していない。

河岸段丘は、河川の西岸よりも東岸で発達している。これは河谷の西に寄って河川が現状では流れているためで、河川は東から西へ移動する傾向がある。

沖積平野は大阪湾の沿岸に広がるとともに、各河川に沿って認められる。河川沿いの沖積平野はあまり発達していない。和泉地域における沖積平野は概して狭小であり、ことに南ほど面積は狭くなっている。

こうした和泉地域の地形にあって大町遺跡は、東を流れる牛滝川と西を流れる天の川に挟まれた間の低位段丘上に位置している。地質図をみると限り、比較的安定した地形の上に所在しているように見えるかも知れない。しかし遺跡周辺は久米田池から久米田古墳群にかけて伸びる比高差10mほどの微高地の縁辺にあたっていて、遺跡周辺は比較的冠水しやすい地形である。このことは、調査区内に設定したトレンチ内の堆積土状況を観察することでも肯定される。

2 大町遺跡周辺の歴史

大町遺跡および田鶴羽遺跡は岸和田市大町地内に所在するが、約1.4km北東に進むと和泉市内に入る。したがって、ここでは岸和田市と和泉市の両域について、遺跡周辺の歴史的状況を概観したい。

(旧石器時代～縄文時代草創期)

和泉地域における旧石器時代の生活痕跡は明瞭ではなく、岸和田市、和泉市においても幾つかの遺跡で石器が出土し、あるいは採取されている程度である。

岸和田市内においては、国府型ナイフ形石器が岡山遺跡、葛城山頂遺跡、琴山遺跡、上フジ遺跡、西山遺跡、山ノ内遺跡で出土している。葛城山頂遺跡は、標高850m付近に位置していて、その周辺地域における旧石器時代の遺跡の中でも、最も高所にあたる。また山ノ内遺跡では、船底形石器や横長剥片も出土している。

三田遺跡、下池田遺跡、黒石遺跡、栄の池遺跡では有舌尖頭器が出土した。

和泉市内をみると、父鬼町の標高400mの山腹に位置する大床遺跡から国府型ナイフ形石器、翼状剥片が出土していて、葛城山頂遺跡ほどではないが、高所に位置する旧石器時代の遺跡である。さらに伯太北遺跡、信太山遺跡、觀音寺山遺跡で国府型ナイフ形石器が、和氣遺跡で翼状剥片が出土している。

万町北遺跡、伯太北遺跡では有舌尖頭器の出土が認められている。

以上の遺跡は、葛城山頂遺跡や大床遺跡などを例外として、丘陵地帯およびその裾部寄りの洪積台地上に位置し、和泉山脈と平行するように分布している。そして和泉市域より北になると、山脈と大阪湾との間の距離が広がるため、当該期の遺跡分布は散在となる。

(縄文時代早期～晚期)

岸和田市、和泉市内における縄文時代の遺跡の在り方も、旧石器時代に続いて散在的である。両市内において古くに遡るのは、和泉市の仏並遺跡で出土した早期末とみられる織維土器である。仏並遺跡は山地と丘陵に挟まれた狭い谷間の、標高100mほどの中位段丘上に位置し、早期末の土器のほか、前・中期の土器、後期の堅穴住居跡や土器棺墓が発見されている。

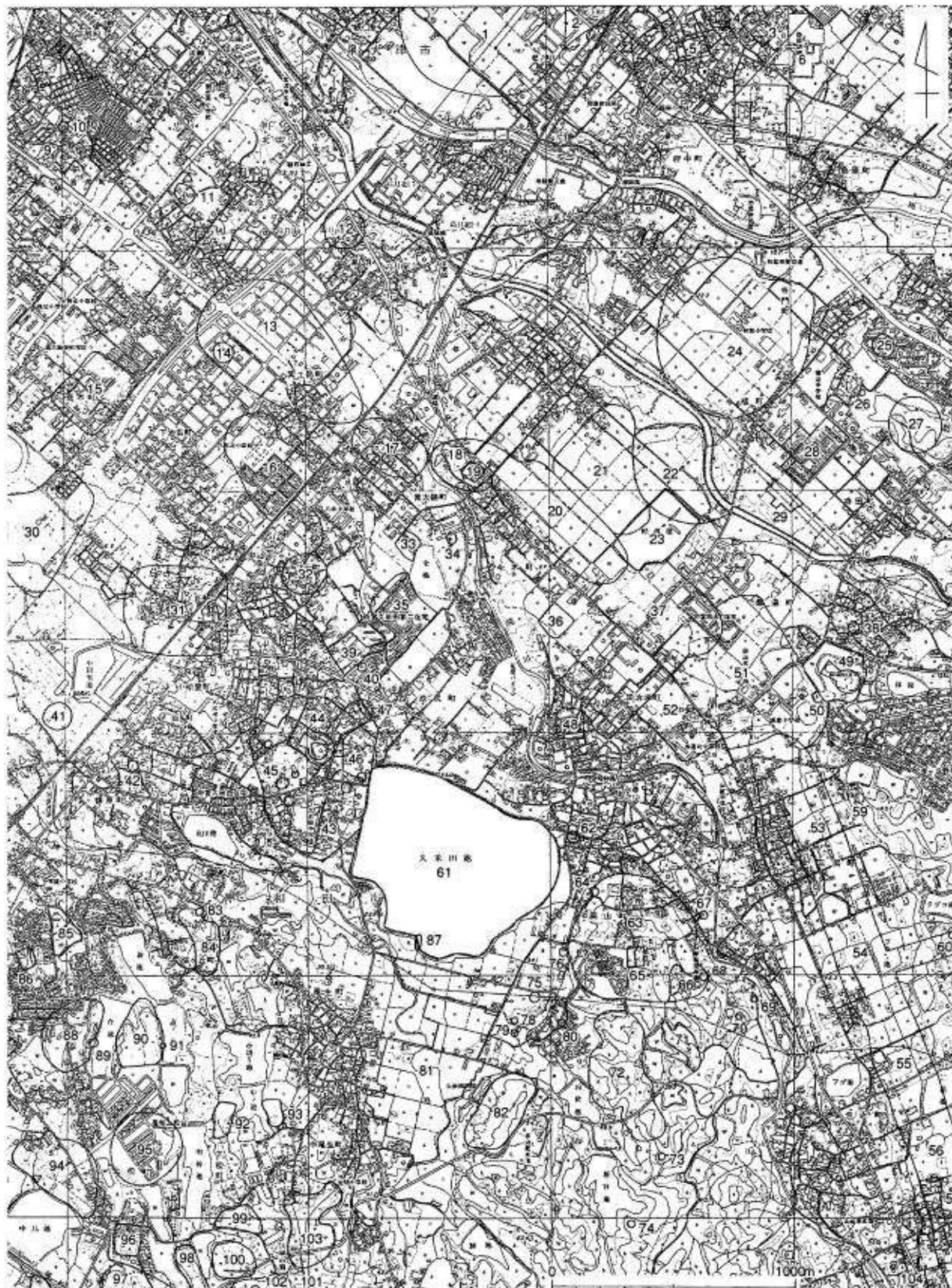
前期の土器は和泉市小田遺跡、池田寺遺跡、板原遺跡で出土しているが、早期と同様に遺跡の分布は極めて散漫である。

中期になると、遺跡数は増す。岸和田市内では箕土路遺跡、葛城山頂遺跡で土器が、和泉市内では先の仏並遺跡をはじめ、小田遺跡、万町北遺跡、府中遺跡でやはり土器が出土している。このうち箕土路遺跡や府中遺跡は低位段丘上に位置しており、低域に生活圏が拡大する。大町遺跡でも09-1区で中期の土器が出土している。

後期になると、遺跡数はさらに増加する。岸和田市内では、山ノ内遺跡をはじめ、沖積地上に位置する春木八幡山遺跡や春木天の川遺跡、低位段丘上の府中遺跡や軽部池西遺跡、箕土路遺跡で土器が出土している。さらに葛城山頂遺跡や高位段丘上の山直中遺跡でも土器の出土が認められる。

和泉市内では、仏並遺跡で先述したように堅穴住居跡や土器棺墓が検出されている。また中位段丘上の池田寺遺跡や万町遺跡、低位段丘上の伯太北遺跡、府中遺跡、板原遺跡、池上曾根遺跡で土器の出土が認められる。遺跡数の増加とともに、立地場所が多様になり、高位段丘以下の広い範囲に普遍化する。また大町遺跡からも後期の土器が出土している。

晚期になると、後期から継続しない遺跡があり、遺跡数が後期よりも若干減少する。後期から続く遺跡としては、岸和田市内では春木八幡山遺跡、春木天の川遺跡、山ノ内遺跡、山直中遺跡、和泉市内では府中遺跡、板原遺跡、万町北遺跡、仏並遺跡、池上曾根遺跡があがる。このうち山ノ内遺跡ではサスカイトの石核などが出土地で出土していて、石器製作の可能性が推測されている。また小田遺跡でも、後期にいったん断続するが、晚期の土器が出土している。晚期の遺跡は高位段丘上から沖積地まで認められるが、概して中位段丘上に多く集まっている。大町遺跡からも、晚期の土器が出土している。



第5図 大町遺跡周辺の遺跡

なお、詳細な時期比定は難しいが、岸和田市内では加守三昧山遺跡、二俣池北遺跡、土生遺跡、下池田遺跡で石匙、琴山遺跡、尾崎遺跡、三本松下遺跡で石鏃の出土が認められ、その他の石器出土が知られる遺跡としては狐塚遺跡、荒子遺跡、畠遺跡、土生滝遺跡、大澤遺跡などもある。また栄の池遺跡では緑色結晶片岩製の石棒が出土している。

(弥生時代)

縄文後・晩期に遺跡数が増加する岸和田市内、和泉市内だが、弥生前期になると遺跡数は減少する。しかも春木八幡山遺跡以外、弥生時代になって出現する遺跡であり、春木八幡山遺跡にあっても、出土土器は前期でも後半期のものなので、縄文時代からは一時期断続している。

弥生前期の遺跡としては、岸和田市内では上述の春木八幡山遺跡のほか、田治米宮内遺跡、加守三昧山遺跡、和泉市内では池浦遺跡と池上曾根遺跡があがる。岸和田市内の3遺跡は土器が出土しているのみで、明瞭な遺構の存在は知られていない。池浦遺跡では前期中葉の幅2m、深さ1m以上の「V」字状溝が発見され、集落を囲む環濠であるとの考えも示されている。この集落は短期間で廃絶したようで、前期後葉には続かないが、入れ替わるように前期後葉になると池上曾根遺跡が出現する。池上曾根遺跡は和泉地域の最大級の拠点的集落であり、中期中葉・後葉に盛行期を迎える。後期末まで継続する。

中期になると、遺跡数は爆発的に増加する。ただし、岸和田市内、和泉市内とともに、中期前半にあっては当該時期の土器の出土が知られている程度であり、本格的な集落形成がなされるのは中期中葉以降である。

中期の遺跡としては岸和田市内では、前期から続く田治米宮内遺跡、春木八幡山遺跡に加えて、春木天の川遺跡、下池田遺跡、栄の池遺跡、池尻遺跡、田治米菅原神社遺跡、畠遺跡、児子池東遺跡、岡山矢取遺跡、土生遺跡などがあり、さらに中期末頃から集落の形成が始まるとみられる遺跡には上松中尾遺跡があがる。大町遺跡においても中期中葉～後葉の土器が出土しているとともに、10-1区では中期後葉の廃棄土坑が検出された。

1：板原遺跡	2：豊中遺跡	3：和泉国府跡	4：泉井上神社	5：国府城跡	6：府中遺跡	7：和泉寺跡
8：磯ノ上遺跡	9：吉井遺跡	10：吉井上品寺跡	11：夜姫庵寺跡	12：高月寺跡	13：美土路遺跡	14：犬飼堂庵寺
15：荒木土塁跡	16：下池田遺跡	17：西大路遺跡	18：今木遺跡	19：今木庵寺	20：輕部池西遺跡	21：小田遺跡
22：輕部池遺跡	23：輕部池	24：和氣遺跡	25：觀音寺城跡	26：氣塚古墳	27：寺門古墳・古墓	28：寺田遺跡
29：摩湯北遺跡	30：栄の池遺跡	31：小松里庵寺	32：八木城跡	33：大路城跡	34：丸山古墳	35：大町遺跡
36：今木城跡	37：山ノ内遺跡	38：イナリ古墳	39：田鶴羽遺跡	40：池尻古墳	41：額原遺跡	42：津行寺古墳
43：久米田古墳群	44：貝吹山古墳	45：風吹山古墳	46：久米田寺跡	47：池尻町遺跡	48：田治米庵寺	49：摩湯山古墳
50：馬子塚古墳	51：山直北遺跡	52：田治米宮内遺跡	53：三田遺跡	54：上フジ遺跡	55：二俣池北遺跡	56：水込遺跡
57：黒石遺跡	58：山直中遺跡	59：東山古墳	60：三田古墳	61：久米田池	62：岡山矢取遺跡	63：岡山遺跡
64：岡山氣塚古墳	65：岡山獣坊跡	66：西山遺跡	67：古錢出土地	68：西山古墳	69：植木神社古墳	70：高山古墳
71：三田墓地	72：どぞく遺跡	73：お立場古墳	74：箱谷古墳	75：重ノ原古墳群	76：松尾池尻道輪窓跡	
77：馬塚古墳	78：重ノ原遺跡	79：重ノ原古墳	80：小金塚古墳	81：尾生遺跡	82：赤山古墳群	83：下松狐塚古墳
84：狐塚遺跡	85：上松三昧遺跡	86：武蓮庵寺	87：岡山八ツ川遺跡	88：合池窓跡	89：合池窓跡	90：上松遺跡
91：道ノ池窓跡	92：唐池遺跡	93：笠松遺跡	94：板屋遺跡	95：上松中尾遺跡	96：泉光寺	97：豪山遺跡
98：佐谷尾遺跡	99：尾崎遺跡	100：肥子池東遺跡	101：荒子遺跡	102：上松狐塚古墳	103：琴山遺跡	104：土居城跡

春木八幡山遺跡は早い段階に集落形成がなされるが、その他の遺跡においては集落形成が明瞭になるのは中期中葉からである。市内最大級の集落と推定される畠遺跡をはじめ、軽部池西遺跡、下池田遺跡、栄の池遺跡でも集落形成が推定できる。

中期末になると、標高50mの丘陵上に位置する上松中尾遺跡などの高地性集落が出現する。

後期になると遺跡数は若干減少するが、後期後半～庄内・布留式期の堅穴住居跡7軒が検出された西大路遺跡、河道や土器溜りが見つかった箕土路遺跡、標高60～70mの丘陵上で堅穴住居跡や掘立柱建物跡が発見されたとぞく遺跡、軽部池西遺跡などがある。このうち前2者は大町遺跡の北、牛滝川の西岸に位置する、連接した遺跡である。牛滝川の東岸には、焼失家屋が発見された山ノ内遺跡もある。さらに下池田遺跡では堅穴住居跡や円形周溝墓が存在し、大町遺跡を含めた複数の遺跡から構成されるひとつの集落域（遺跡群）を形成していたと考えられる。

和泉市内における中期以降の遺跡動向についてみると、万町北遺跡で堅穴住居跡5軒、池田下遺跡で堅穴住居跡や方形周溝墓が発見されているのをはじめ、和氣遺跡、虫取遺跡、池田寺遺跡、小田遺跡、寺田遺跡でも当該時期の遺構あるいは遺物が検出されている。岸和田市内と同様に、和泉市内においてもこの時期には遺跡数が増加し、立地場所も広がる。

また後期になると、岸和田市内でも存在が認められた高地性集落が出現する。標高65mに位置する観音寺山遺跡、標高50～60mの惣の池遺跡があり、前者では100軒以上の堅穴住居跡が検出された。また万町北遺跡では堅穴住居跡と方形周溝墓、小田遺跡では溝など、府中遺跡でも後期や後期末～庄内式期の堅穴住居跡や方形周溝墓が発見されている。これらの遺跡には中期から継続したものもあり、万町北遺跡以外、中期よりもさらに集落が盛行する。岸和田市の畠遺跡、和泉市の池上曾根遺跡など中期に盛行し、後期に衰退傾向を示す遺跡と入れ替わるように集落が形成されている。

（古墳時代）

岸和田市内の田治米宮内遺跡、春木天の川遺跡、箕土路遺跡、下池田遺跡、土生遺跡、西大路遺跡は弥生後期に引き続いて庄内式期も集落の形成がなされたようだが、しかし布留式期になるとそれらも消滅、あるいは衰退傾向を示す。

古墳時代前期に明瞭な集落形成をみせるのは、堅穴住居跡2軒や掘立柱建物跡2棟などが発見された芝ノ垣外遺跡、布留式系土器が多量に発見された磯上遺跡、そして前期後半に比定される100基以上にものぼる土壙墓が発見された三田遺跡がある。三田遺跡は摩湯山古墳の南約400mに位置していて、それとの関係が指摘されている。また和泉市の寺田遺跡では、前期後半以降中期後半まで継続的に集落が形成される。大町遺跡においても、布留式系甕などの前期の土器が複数点出土している。

中期後半から後期にかけては遺跡数が若干増加する。山直北遺跡で中期後半とみられる堅穴住居跡、二俣池北遺跡や上フジ遺跡では後期後半の堅穴住居跡が発見されている。また畠遺跡は中・後期に、水込遺跡は後期後半に集落の形成がなされている。

和泉市内では和氣遺跡や府中遺跡、小田遺跡で弥生後期から継続して古墳前期にも集落が形成されている。これらの遺跡は、先述の寺田遺跡も含め、中期以降にも継続する。また後期になると万町北遺跡で再び集落形成がみられ、池田寺遺跡も現れる。

古墳については、岸和田市の摩湯山古墳（前方後円墳：200m）、貝吹山古墳（前方後円墳：130m）、和泉市の和泉黄金塚古墳（前方後円墳：94m）が前期後葉に築造される。そのうち貝吹山古墳は風吹山古墳、および10基以上の円墳へと系譜を続け、久米田古墳群を形成する。摩湯山古墳の南西には、後続する1辺約35mの方墳である馬子塚古墳が存在する。この摩湯山古墳・馬子塚古墳と久米田古墳群とは系譜が異なるとみられる。また田鶴羽遺跡では、1辺10m前後の方墳が6基見つかっている。周溝内から多くの須恵器が出土した古墳もあり、5世紀後葉頃から古墳群の形成が始まったと考えられる。

ところで先述したように、摩湯山古墳と三田遺跡の土壙墓とは相互に関係する可能性が指摘されているが、久米田古墳群との関連が考えられる集落域は今のところ詳細を得ない。ひとつの可能性は、久米田池の構築とともに破壊された、あるいは水没したとの見方である。いまひとつは、大町遺跡や下池田遺跡、箕土路遺跡などを含めた集落群と関係させて考えるという捉え方もできよう。

（飛鳥・奈良時代）

7世紀代の集落は、岸和田市内、和泉市内ともに少なく、岸和田市内では二俣池北遺跡と水込遺跡が、和泉市内では池田寺遺跡と万町北遺跡がそれあがる程度であり、多くの遺跡では古墳時代後期から一時的に集落形成は断絶する。がしかし、8世紀になると両市内とも再び集落は激増している。

岸和田市内では山直北遺跡、芝ノ垣外遺跡、三田遺跡、上フジ遺跡、吉井一ノ坪遺跡、栄の池遺跡、西大路遺跡、畠遺跡、黒石遺跡が、和泉市内では觀音寺遺跡、板原遺跡、古池遺跡、府中遺跡、小田遺跡がそれあがり、さらに7世紀代に集落を形成した各遺跡も8世紀代に継続していく。

また吉井遺跡では「天平寶字三年」の記年銘木簡が出土した。759年にあたる。京の刑部省囚獄司の役人である「主守」から、遺跡周辺に発給された木簡だとみられている。

古代寺院としては、7世紀後半の建立とみられる小松里廃寺や春木廃寺をはじめ、行基建立の伝承がある久米田寺、7世紀中葉の建立と推定され、寺院に附設されたとみられる掘立柱建物群が発見された池田寺、法隆寺式の伽藍配置に近いと推測される坂本寺、建物基壇の一部が検出され、さらに奈良時代の掘立柱建物跡群も見つかった信太寺、承和6（839）年に和泉国分寺に昇格した安楽寺、そして和泉寺などが両市内にそれぞれ建立されたと考えられる。

和泉寺跡からは「珍懸主廣足作…」、「坂合部連前…」、「讚美…」、「…美…」、「…宮…」と記された8世紀代の文字瓦が出土している。寺院や寺域に関する遺構は明確には見つからなかったが、当該期の和泉寺造営との関連が窺える資料である。

ところで、和泉は古代の五畿のひとつであるが、当初は河内国に含まれていた。靈亀2（716）年に和泉・日根の2郡を河内国から割いて珍努宮に供したことが始まりとなり、同年には大鳥・和泉・日根の3郡を割いて和泉監が置かれた。和泉監をもって3郡を治めたが、天平12（740）年に和泉監が廃され、再び河内国に併合される。その後、天平寶字元（757）年になって、その3郡をもって和泉国が成立したという推移をたどっている。

なお大町遺跡の所在地は、和泉郡八木郷にある。八木郷には今木・池尻・大町・西大路・東大路・小松里・下池田・箕土路・中井・吉井の10村が属したといわれている。大町遺跡はそのうちの大町に所在する。

（平安時代）

奈良時代以降、平安時代にかけても継続する遺跡が数多くある。掘立柱建物跡群が検出された山直北遺跡や栄の池遺跡をはじめ、三田遺跡、上フジ遺跡、芝ノ垣外遺跡、水込遺跡、二俣池北遺跡、吉井遺跡などがあがる。他方、掘立柱建物跡群や溝、井戸、土壙墓が見つかった山直中遺跡、掘立柱建物跡群、井戸、土坑が見つかった黒石遺跡は前時代とは継続性がなく、この時代になって形成が始まった集落である。

和泉市内にあっては、掘立柱建物跡群の発見された万町北遺跡が奈良時代からの継続的な集落、下池田遺跡や和氣遺跡は断続的な集落といえ、池上曾根遺跡も後者のタイプである。また和氣遺跡では、同時代後葉の建物跡群が検出されている。

大町遺跡では、平安時代後期の軒丸瓦・軒平瓦が出土している。また10-1区ではこの時期に水田が形成されていた。

（鎌倉・室町時代）

鎌倉時代になって集落形成が始まると上松宮之遺跡、室町時代になって始まる板屋遺跡などもあるが、当該時代に集落形成がなされた多くの遺跡では、弥生・古墳時代以降、一度は開発の及んだ場所である。

ただし、山直中遺跡、吉井遺跡、中之社遺跡、黒石遺跡、犬飼堂遺跡のように平安時代から継続する集落と、平安時代には集落形成が認められない、もしくはその痕跡が極めて稀薄な集落とがある。後者の例としては、西大路遺跡、箕土路遺跡、軽部池西遺跡などがあり、西大路遺跡では平安時代においてのみ集落形成が不明瞭となるが、箕土路遺跡では奈良～平安時代の、軽部池西遺跡では古墳～平安時代の集落痕跡を残していない。

こうした遺跡のうち、西大路遺跡では鎌倉時代の掘立柱建物跡群や区画溝、井戸などが発見され、屋地が形成されているとみられる。上松宮之遺跡では数枚の完形の皿を埋納した鎌倉時代後期の祭祀関連土坑が発見されている。また二俣池北遺跡や箕土路遺跡、軽部池西遺跡では水田関連遺構が検出されている。大町遺跡では畠作地や用水路と思われる複数の溝が見つかっている。

和泉市内における鎌倉・室町時代の遺跡には、区画溝が検出された和氣遺跡や福瀬遺跡、板原遺跡をはじめ、池田寺遺跡、万町遺跡などがある。

III 発掘調査の成果

1 09-1区の発掘調査

(1) 調査成果の概要

平成21年度に発掘調査を実施した09-1区は、府営岸和田大町住宅内でも北寄りの、住宅敷地内を横断する新設道路部分である。調査面積は約800m²を測る。遺構面は旧耕作土・床土下の基盤層上面にあたる1面のみであった。検出遺構は河道3条、溝8条、土坑35基、小穴11基、耕作痕42条である。河道のうち2条は調査区の南西端で重複して位置し、1条は北東端近くを流れていた。遺構は調査区の南西半分に多く分布している。

出土遺物は09-1区全体で871点・25868gを数えた。大半は02河道から出土したものであり、01・02河道を除くと、いずれの遺構も出土遺物は皆無か少量であった。

また基盤層の状況を確認するために設定したトレーニチ内からも遺物の出土がみられた。これは基盤層内に本来包含されていたもののほか、上面から踏み込まれて基盤層内に混入したものも少なからず存在している。遺構面下30cm程度までは踏み込みが及んでいたようである。さらにそれ以上の深さから出土したものには、基盤層の亀裂内に落下したものもあったと考えられる。

(2) 調査区土層

現地表面の下には府営住宅造成時の盛土が0.7~1.1mの厚さであり、旧耕作土（厚さ0.1~0.2m）と床土（厚さ0.05m）が続き、その下が遺構の検出面である。遺構面では耕作痕が見つかっているが1・2層以外には耕作土が認められないことから、1・2層形成時に地形の削平があったと考えられる。

この遺構面から切り込んだ01・02河道の様相は土層断面で明瞭に認められる。これに対して06河道は、北東壁は遺構面から切り込んでいるが、南西壁は遺構面下の基盤層内に落ち込んでいて、基盤層に先行する堆積状況を示している。

遺構面下の基盤層も粘土・シルト・砂からなる河川状堆積である。この基盤層は、縄文時代後期に埋没したと考えられる06河道の堆積土を肩にして、西方に堆積が進んだ状況を呈している。04-1区の調査では基盤層内から出土した流木を年代測定（AMS法）した結果、弥生時代中期中葉に基盤層が形成されたことが判明した。09-1区においても、同様の時期に基盤層が形成されたと考えられる。

基盤層の上部には黄褐色・黄色系の粘土・シルト（4・13・14・15・60・61・81・96・105層など）、あるいは酸化した灰白色系のシルト（37・90層など）が水平に延びている。調査地周辺に広がる遺構面の黄褐色系粘土とほぼ同質土である。

また砂・砂質土（39・47・55・63・66・67・68・70・80・82・83）が粘土・シルト系の堆積土

の間に介在するように水平堆積していて、緩急ある堆積の過程で砂系土が流れ込んだ時期が何度かあったことが窺われる。

(3) 検出遺構と出土遺物

検出遺構は河道3条、溝8条、土坑35基、小穴11基、耕作痕42条の合計99基である。そのうち主な遺構を取り上げる。

02河道

02河道は調査区南西端に位置する。北東岸は検出されたが、南西岸は調査区外に延び出ているため全体幅は不明である。現状での幅は22mを測る。北東岸近くに01河道が切り込んで重複しているが、02河道の立ち上がり壁面は崩されていない。また26土坑が岸の肩部に重複しているが、浅いために肩部の形状は旧形をほぼ留めていた。

01河道がこの02河道を切り込んでいることは覆土の状況から明らかであり、02河道が先行する。02河道がいったん埋没したのち、新たな流水が削り込み、01河道が形成されたのである。

この09-1区の南東に近接する03-2区では幅10m以上を測るNR001が検出されていて、位置的状況からこの02河道につながるとみられる。またNR001は庄内式期を中心に弥生後期（後半）から布留式期にかけて埋没した河道であり、後述する02河道の出土遺物の時期とも一致する。このことからも両河道が同一のものだと判断できる。

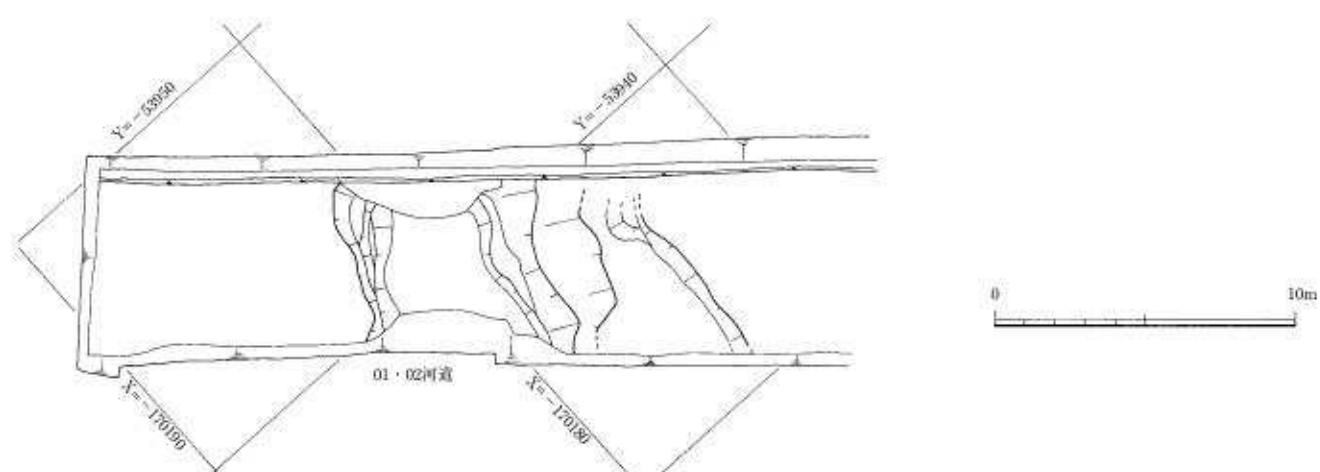
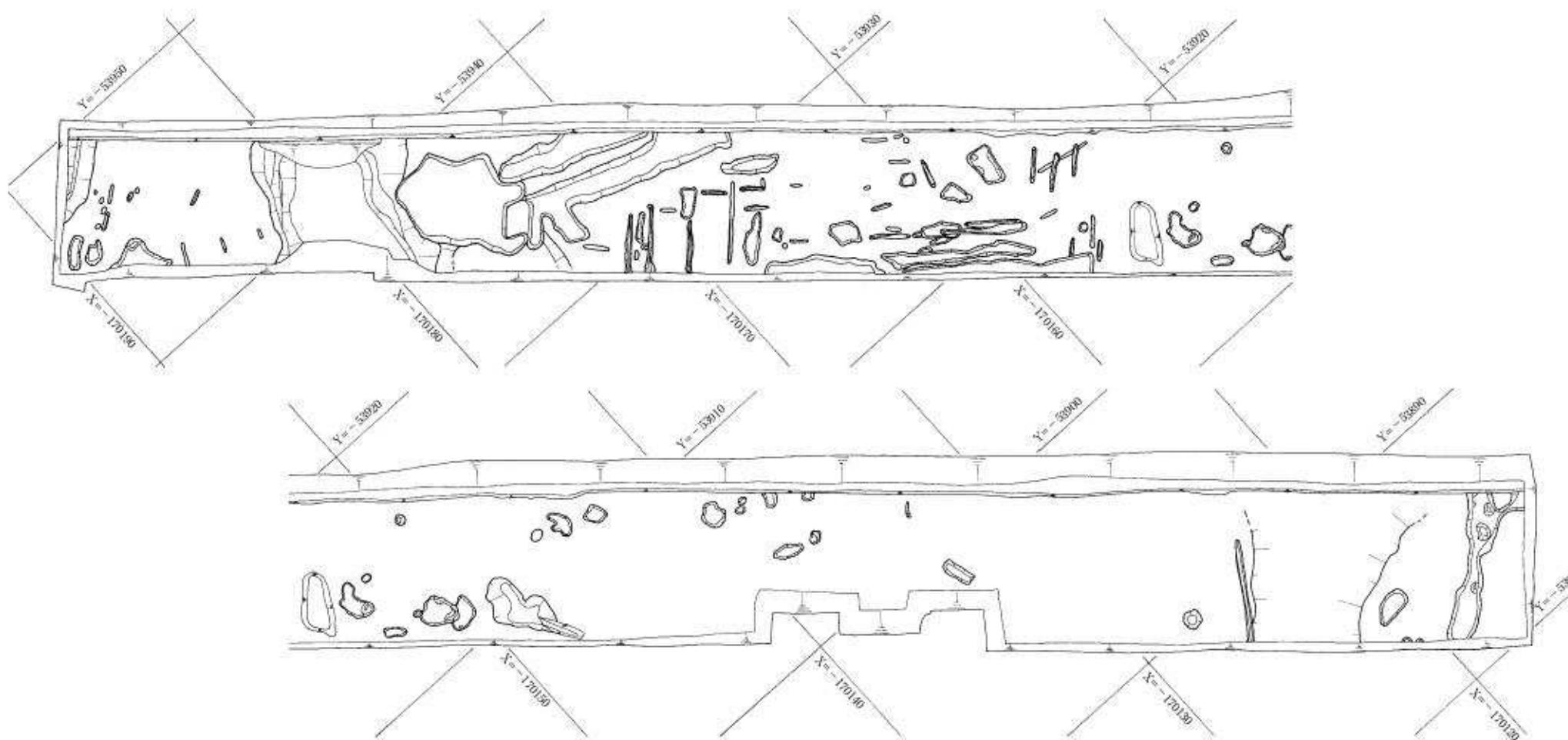
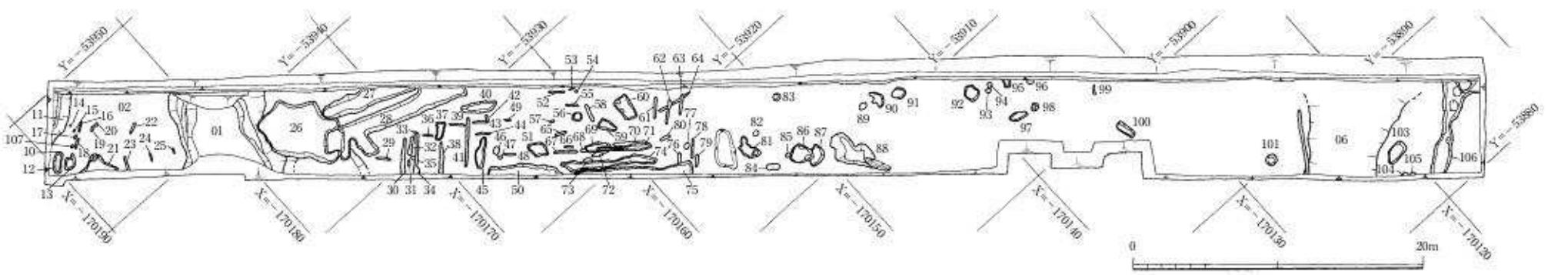
なお03-2区の北西約25mには03-1区が位置し、北西方向に流れるNR004が検出されている。幅は15m以上を測る。09-1区ではNR004の延長になるとみられる河道が認められることから、NR004は03-1区と09-1区の間で東方向に屈曲し、おそらく10-1区検出の54河道につながると推測する。

人力掘削により遺構面より1.7m下（T.P.20.0m）まで全体を掘り下げたが、河道底面を確認することができなかつたので、部分的にさらに0.5m掘り下げ、T.P.19.5m付近で河道底を確認した。その0.5m間の堆積土は灰色砂シルトであった。また河道底以下の基盤層の状況を確認するために1.1mさらに掘り下げた。堆積厚0.2mの灰色砂、0.4mの黄褐色粗砂、0.5m以上の灰色粗砂と続き、いずれも河川状堆積の様相を示していた。

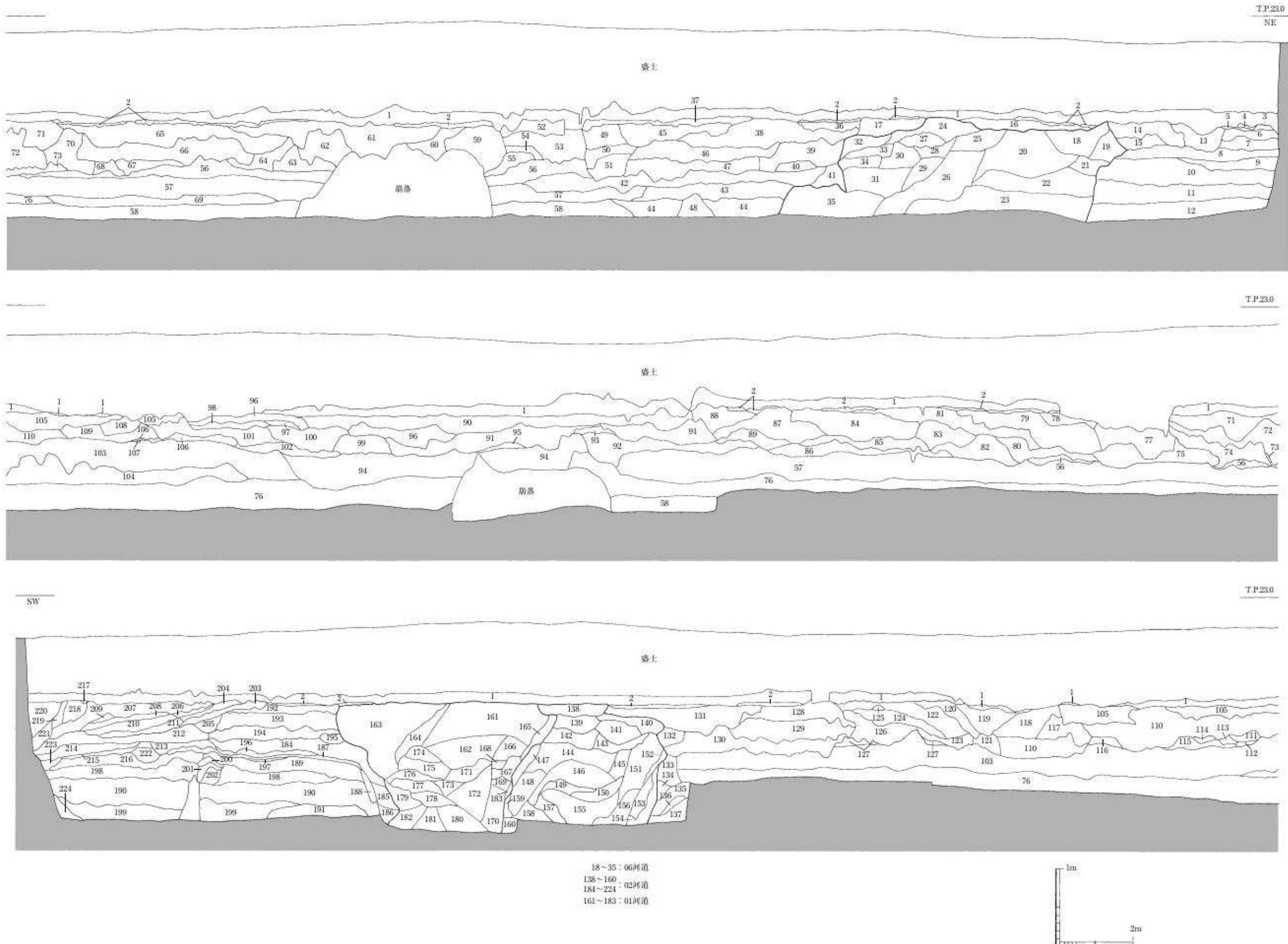
遺構面から1.7m下までの堆積土の状況は、大別すると上下に分けることができる。上層は灰色（10Y6/1・7.5Y6/1・2.5Y6/1）・灰白色（10Y7/1・7.5Y7/2・2.5Y7/1・5Y7/1）・オリーブ灰色（10Y6/2・10Y5/2・2.5GY6/1）を基調とする砂シルト、下層は主として粘土や粘シルトからなる。上下層とも北東の岸壁の立ち上がり際では砂シルトと砂が入り混じり、不整合な状況を呈しているが、01河道を挟んだ河道中心部寄りでは上下層ともに水平あるいはそれに近い堆積状況である。なお北東岸付近の砂シルトは概して上層に堆積している。

この02河道の北東岸は2段に落ち込んでいて、幅2～5mのテラス状部が形成されている。その一隅でまとまった土器の出土があった。

土器のほとんどは1m四方ほどの範囲に集中するが、その一群から少し離れて近在する甕と高



第6図 09-1区遺構全体



第7図 09-1区土層

- 1 灰色 (5Y4/1) 砂シルト、旧耕作土
- 2 灰オリーブ色 (5Y6/2) 砂シルト、床土
- 3 にぶい黄色 (2.5Y6/4) 砂シルト、明緑灰色 (10G7/1) 砂シルト少量含む
- 4 明黄褐色 (2.5Y7/6) 粘シルト、明黄褐色 (2.5Y7/6) 砂質土僅かに含む
- 5 浅黄色 (2.5Y7/4) 砂シルト、繊りやや欠く
- 6 明黄褐色 (10YR6/6) 粘質土、マンガン少量含む、全体に酸化
- 7 明黄褐色 (10YR6/6) 粘土、マンガン少量含む、全体に酸化
- 8 明黄褐色 (10YR7/6) 粘土、マンガン少量含む、全体に酸化
- 9 にぶい黄褐色 (10YR7/4) 粘土、全体に酸化、繊りやや欠く
- 10 にぶい黄橙色 (10YR7/3) 粘土、全体に酸化、繊りやや欠く
- 11 浅黄色 (2.5Y7/4) 粘土、灰白色 (5Y7/1) 粘土少量含む、全体にやや酸化
- 12 灰白色 (5Y7/1) 粘土、全体にやや酸化、繊りやや欠く
- 13 明黄褐色 (2.5Y6/6) 粘土、破碎繊含む、粗質
- 14 明黄褐色 (2.5Y6/7) 粘土、炭化物・礫・破碎繊少量含む
- 15 明黄褐色 (2.5Y6/6) 粘土、破碎繊含む、やや粗質
- 16 浅黄色 (2.5Y7/4) 砂質土、灰色 (5Y5/1) 砂シルトブロック・破碎繊少量含む
- 17 にぶい黄色 (2.5Y6/4) 砂質土、礫・破碎繊僅かに含む、繊りあり
- 18 黄褐色 (2.5Y5/3) 砂質土、礫少量含む、繊りあり
- 19 にぶい黄色 (2.5Y6/3) 精質土、粘性やや欠く
- 20 灰黄色 (2.5Y7/2) 粗砂、礫多包、粗質
- 21 灰黄色 (2.5Y6/2) 砂、礫少量含む、粗質
- 22 黄灰色 (2.5Y6/1) 砂質土、礫多包、粗質
- 23 灰黄色 (2.5Y6/1) 砂、明黄褐色 (2.5Y6/6) 砂僅かに含む
- 24 黄褐色 (2.5Y5/4) 砂質土、礫僅かに含む、繊りあり
- 25 灰黄色 (2.5Y7/2) 砂質土、灰白色 (2.5Y8/1) 粗砂・礫少量含む
- 26 灰白色 (7.5Y7/1) 粗砂、礫多包
- 27 黄褐色 (2.5Y5/3) 砂質土、明黄褐色 (2.5Y7/6) 砂質土・礫少量含む、粗質
- 28 灰黄色 (2.5Y6/2) 粗砂、礫・破碎繊含む、繊りあり
- 29 鹽灰色 (10YR6/1) 粗砂、浅黄色 (2.5Y7/3) 粗砂・礫僅かに含む
- 30 黄灰色 (2.5Y6/1) 粗砂、明黄褐色 (2.5Y7/6) 砂・礫僅かに含む
- 31 灰色 (5Y6/1) 粗砂、明黄褐色 (2.5Y6/6) 砂・礫含む
- 32 にぶい黄色 (2.5Y6/3) 精質土、礫・破碎繊少量含む
- 33 灰色 (5Y6/1) 砂シルト、浅黄色 (2.5Y7/4) 砂シルト・礫僅かに含む、粗質
- 34 灰白色 (5Y7/1) 砂シルト、黄色 (5Y7/6) 精質土ブロック含む、繊りやや欠く
- 35 灰色 (5Y6/1) 砂、繊僅かに含む
- 36 灰オリーブ色 (5Y6/2) 砂シルト、灰色 (N6/0) 粘土ブロック含む、粗質
- 37 灰白色 (5Y7/1) 砂シルト、礫僅かに含む、全体に酸化
- 38 灰オリーブ色 (5Y5/2) 砂シルト、灰白色 (10Y7/1) 砂シルトブロック少量含む
- 39 灰オリーブ色 (5Y5/3) 砂質土、明青灰色 (10BG7/1) 粘質土ブロック・青灰色粘シルト (2.5Y4/1) ブロック含む
- 40 灰黄色 (2.5Y7/2) 砂シルト、鵝灰色 (10Y5/1) 粘質土ブロック僅かに含む、全体に酸化
- 41 黄灰色 (2.5Y6/1) 粗砂、繊僅含む
- 42 明緑灰色 (5G7/1) 砂シルト、繊り欠く
- 43 灰色 (7.5Y6/1) 砂シルト、炭化物僅かに含む、全体にやや酸化
- 44 明青灰色 (10BG7/1) 砂シルト、浅黄色 (2.5Y7/4) 粗砂少量含む、繊り欠く
- 45 暗黃色 (2.5Y5/2) 砂質土、同色の粗砂・礫含む、繊りあり
- 46 にぶい黄色 (2.5Y6/3) 砂シルト、明青灰色 (10BG7/1) 砂シルト含む、繊りやや欠く
- 47 にぶい黄色 (2.5Y6/3) 粗砂、同色の砂シルト・礫少量含む
- 48 浅黄色 (2.5Y7/4) 粗砂、明青灰色 (5B7/1) 砂シルト少量含む
- 49 灰黄色 (2.5Y6/2) 粗砂、同色の砂シルトブロック・礫含む
- 50 明オリーブ灰色 (2.5GY7/1) 砂シルト、繊り欠く
- 51 灰色 (5Y6/1) 砂シルト・灰オリーブ色 (5Y6/2) 粗砂混合層、礫含む
- 52 浅黄色 (2.5Y7/4) 砂シルト、全体にやや酸化
- 53 灰オリーブ色 (5Y6/2) 砂シルト、灰色 (5Y5/21) 粘シルトブロック・礫僅かに含む
- 54 灰色 (10Y6/1) 砂シルト、明青灰色 (10BG7/1) 砂シルト少量含む、繊りやや欠く
- 55 黄褐色 (2.5Y5/3) 粗砂、同色の砂シルト・礫含む
- 56 明黄褐色 (10YR6/6) 砂シルト、全体に酸化、繊り欠く
- 57 灰黄色 (2.5Y6/2) 粘質土、破碎繊少量含む、繊りやや欠く
- 58 明緑灰色 (10B7/1) 粘土、全体に酸化
- 59 にぶい黄褐色 (10YR7/2) 砂シルト、明黄褐色 (5Y6/6) 砂シルトブロック・黄灰色 (2.5Y5/1) 粘土ブロック僅かに含む
- 60 黄褐色 (2.5Y5/3) 砂シルト、礫僅かに含む、繊りやや欠く
- 61 浅黄色 (2.5Y7/3) 砂シルト、全体にやや酸化、繊りあり
- 62 黄褐色 (2.5Y5/3) 砂質土、同色の粗砂・明黄褐色 (10YR7/6) 粘シルトブロック少量含む、繊りあり
- 63 黄灰色 (2.5Y5/1) 粗砂、黄褐色 (2.5Y5/3) 砂シルト・礫含む
- 64 灰色 (7.5Y6/1) 粘シルト、明黄褐色 (10YR7/6) 粘土ブロック・礫含む、繊り欠く
- 65 灰オリーブ色 (5Y6/2) 砂シルト、明黄褐色 (2.5Y7/6) 砂シルトブロック・青灰色 (10BG6/1) 砂シルトブロック含む
- 66 オリーブ黄色 (5Y6/3) 粗砂、同色の砂シルトブロック・礫含む
- 67 灰オリーブ色 (5Y5/2) 粗砂、同色の砂シルトブロック・礫少量含む
- 68 灰オリーブ色 (5Y5/2) 粗砂、同色の砂シルトブロック少量含む、礫多包
- 69 明緑灰色 (7.5GY7/1) 粘土、全体にやや酸化、繊り欠く
- 70 灰オリーブ色 (5Y5/2) 粗砂、灰オリーブ色 (5Y5/3) 砂シルトブロック・礫含む
- 71 灰オリーブ色 (7.5Y6/2) 砂シルト、灰黄色 (2.5Y6/2) 粗砂・礫少量含む
- 72 暗灰黄色 (2.5Y5/2) 砂質土、黄褐色 (2.5Y5/6) 砂質土・破碎繊含む、粗質
- 73 灰色 (10Y6/1) 砂シルト、炭化物僅かに含む、全体にやや酸化
- 74 オリーブ灰色 (2.5GY6/1) 砂シルト、礫少量含む、全体にやや酸化
- 75 鵝灰色 (10YR5/1) 砂シルト、鵝灰色 (10YR6/1) 粗砂・灰白色 (2.5Y8/1) 砂シルトブロック含む
- 76 オリーブ灰色 (5GY6/1) 粘シルト、炭化物僅かに含む、全体に酸化
- 77 灰黄褐色 (10YR4/2) 粘質土、にぶい黄色 (2.5Y6/3) 粗砂・礫含む、繊りあり
- 78 灰黄色 (2.5Y6/2) 粘シルト、全体に酸化、繊りあり
- 79 灰黄色 (2.5Y6/2) 粗砂、にぶい黄色 (2.5Y6/3) 砂シルトブロック・礫含む
- 80 黄灰色 (2.5Y6/1) 粗砂、灰色 (5Y5/1) 砂シルト含む、全体にやや酸化
- 81 黄褐色 (2.5Y5/4) 粘質土、全体にやや酸化、繊りあり
- 82 暗灰黄色 (2.5Y5/2) 砂、黄灰色 (2.5Y6/1) 砂シルト僅かに含む
- 83 灰白色 (10YR8/1) 粗砂・にぶい黄褐色 (10YR6/3) 粘シルト混合層、礫含む
- 84 黄褐色 (10YR5/2) 粘質土、礫少量含む、全体にやや酸化
- 85 にぶい黄橙色 (10YR7/2) 砂シルト、灰黄褐色 (10YR6/2) 粗砂・灰色 (5Y5/1) 粘質土ブロック含む
- 86 黄灰色 (2.5Y6/1) 粘シルト、炭化物僅かに含む、全体に酸化

- 87 にぶい黄色 (2.5Y6/3) 砂シルト、同色の粗砂含む、全体に酸化、粗質
 88 浅黄色 (2.5Y7/3) 砂シルト、礫僅かに含む、全体にやや酸化
 89 灰黄色 (2.5Y7/2) 砂シルト、灰白色 (2.5Y8/1) 粗砂・礫含む、粗質
 90 灰白色 (5Y7/2) 砂シルト、全体に酸化、繊りあり
 91 灰白色 (2.5Y8/1) 砂シルト、黄橙色 (10YR7/8) 粘シルトブロック含む、やや粗質
 92 灰黄色 (2.5Y7/2) 粘シルト、全体に酸化
 93 浅黄色 (2.5Y7/3) 砂シルト、炭化物僅かに含む、全体にやや酸化
 94 灰白色 (5Y7/1) 粘質土、全体に酸化、繊りあり
 95 灰色 (7.5Y6/1) 粘質土、全体に酸化、繊りやや欠く
 96 にぶい黄色 (2.5Y6/4) 砂シルト、青灰色 (10BG5/1) 砂シルトブロック少量含む
 97 にぶい黄色 (2.5Y6/4) 砂シルト、繊りあり
 98 黄灰色 (2.5Y6/1) 砂シルト、全体に酸化
 99 にぶい黄色 (2.5Y6/3) 粘質土、同色の粗砂・灰色 (7.5Y5/1) 粘土ブロック含む、粗質
 100 明黄褐色 (10YR6/6) 砂シルト、粘性欠く、繊りあり
 101 灰黄色 (2.5Y6/2) 砂シルト、灰黄色 (2.5Y7/2) 砂僅かに含む、全体にやや酸化
 102 灰黄色 (2.5Y7/2) 砂シルト、全体にやや酸化、繊りやや欠く
 103 灰色 (5Y6/1) 粘シルト、全体に酸化、やや粗質
 104 緑灰色 (10GY6/1) 粘土、部分的に酸化、繊り欠く
 105 にぶい黄色 (2.5Y6/4) 砂シルト、同色の砂僅かに含む、繊りあり
 106 灰白色 (2.5Y7/1) 砂シルト、炭化物含む、繊りやや欠く
 107 灰白色 (2.5Y7/1) 砂シルト、106層に近似するが炭化物少量
 108 黄灰色 (2.5Y6/1) 砂質土、礫少量含む、粗質
 109 灰白色 (2.5Y7/1) 砂シルト、炭化物少量含む、繊りあり
 110 浅黄色 (2.5Y7/3) 砂シルト、同色の砂・礫含む、繊りやや欠く
 111 灰色 (7.5Y6/1) 砂シルト、炭化物・繊僅かに含む、全体に酸化
 112 灰白色 (5Y7/2) 粘シルト、炭化物少量含む、全体に酸化
 113 灰白色 (5Y7/2) 粘シルト、灰色 (5Y5/1) 粘質土・炭化物含む、繊りあり
 114 灰色 (5Y5/1) 粘質土、灰白色 (5Y7/2) 粘シルトブロック少量含む
 115 灰白色 (2.5Y8/2) 粘土、炭化物少量含む、全体にやや酸化
 116 灰白色 (2.5Y8/2) 粘土、115層に近似するが炭化物より少ない
 117 黄灰色 (2.5Y5/1) 砂シルト、黄灰色 (2.5Y6/1) 粗砂・礫・破碎礫含む、粗質
 118 灰黄色 (2.5Y6/2) 砂シルト、同色の粗砂・礫・破碎礫含む、粗質
 119 灰黄色 (2.5Y6/2) 砂質土、同色の砂少量含む、礫含む、粗質
 120 暗灰黄色 (2.5Y5/2) 砂シルト、同色の粗砂僅かに含む、全体にやや酸化
 121 灰黄色 (2.5Y6/2) 砂質土、119層に近似するが炭化物僅かに含み礫は少量
 122 にぶい黄橙色 (10YR6/3) 粗砂、灰黄色 (2.5Y6/2) 砂シルトブロック僅かに含む
 123 暗オリーブ色 (5Y5/2) 粗砂、礫含む
 124 明黄褐色 (2.5Y6/6) 砂シルト、灰色 (5Y5/1) 砂質土・細礫少量含む、繊りあり
 125 紺灰色 (10YR5/1) 粘質土、炭化物僅かに含む、繊りやや欠く
 126 灰白色 (2.5Y7/1) 粗砂、浅黄色 (2.5Y7/3) 砂シルトブロック少量含む、礫含む
 127 オリーブ灰色 (5GY6/1) 砂シルト、炭化物僅かに含む、繊りあり
 128 明オリーブ灰色 (5GY7/1) 砂シルト、繊維含む、粗質
 129 灰黄色 (2.5Y6/2) 砂、黄灰色 (2.5Y6/1) 粘シルトブロック・繊僅かに含む
 130 にぶい黄色 (2.5Y6/3) 砂シルト、同色の砂・黃色 (2.5Y7/8) 砂質土・炭化物僅かに含む
 131 明オリーブ灰色 (5GY7/1) 砂シルト、炭化物僅かに含む、粗質
 132 暗灰黄色 (2.5Y5/2) 砂質土、明青灰色 (5B7/1) 砂シルト少量含む、粗質
 133 明綠灰色 (7.5GY7/1) 粘シルト、炭化物少量含む、全体に酸化
 134 灰色 (10Y6/1) 粘シルト、破碎礫僅かに含む
 135 灰色 (7.5Y5/1) 粘シルト、細礫僅かに含む、やや粗質
 136 灰色 (7.5Y5/1) 砂質土、全体にやや酸化、繊り欠く
 137 灰色 (7.5Y6/1) 砂質土、繊りやや欠く
 138 暗オリーブ色 (5Y6/2) 砂質土、同色の砂・灰白色 (5Y7/2) 粗砂・礫含む、粗質
 139 浅黄色 (2.5Y7/3) 砂・緑灰色 (10GY6/1) 砂シルト混合層、繊りやや欠く
 140 暗オリーブ色 (5Y5/2) 砂質土、礫含む、繊りあり
 141 灰黄色 (2.5Y7/2) 砂シルト、青灰色 (10BG6/1) 砂シルトブロック・炭化物少量含む
 142 緑灰色 (10GY6/1) 砂シルト、炭化物僅かに含む、部分的に酸化
 143 オリーブ黄色 (5Y6/3) 砂シルト、青灰色 (10BG6/1) 砂シルト少量含む
 144 オリーブ灰色 (2.5GY6/1) 砂シルト、灰白色 (7.5Y7/1) 砂・炭化物含む
 145 紺灰色 (10YR4/1) 砂シルト、灰白色 (5Y8/1) 砂ラミナー状に堆積、炭化物僅かに含む
 146 黄色 (5Y7/6) 砂・灰白色 (5Y5/1) 砂シルト混合層、炭化物僅かに含む
 147 明綠灰色 (10GY7/1) 砂シルト、全体にやや酸化、粘性あり
 148 黄灰色 (2.5Y5/1) 粘土、炭化物僅かに含む、繊り欠く
 149 灰白色 (5Y7/1) 砂、灰色 (5Y6/1) 粘シルト・炭化物少量含む
 150 暗灰黄色 (2.5Y5/2) 粘シルト・灰白色 (2.5Y7/1) 砂混合層、炭化物少量含む
 151 灰色 (N4/0) 粘土、やや粗質
 152 灰色 (N4/0) 粘土・明綠灰色 (7.5GY7/1) 粘シルト混合層、炭化物僅かに含む
 153 灰色 (N4/0) 粘土・明綠灰色 (7.5GY8/1) 粘シルト混合層、繊り欠く
 154 緑灰色 (7.5GY5/1) 粘土、明綠灰色 (7.5GN7/1) 粘土少量含む、炭化物僅かに含む
 155 紺灰色 (10YR6/1) 砂シルト、灰色 (N4/0) 粘土含む、炭化物少量含む
 156 灰色 (N4/0) 粘土、炭化物少量含む、粘性強い、繊り欠く
 157 紺灰色 (10YR5/1) 粘土、炭化物少量含む、繊りやや欠く
 158 灰白色 (7.5Y8/1) 粗砂・紺灰色 (10YR5/1) 粘シルト混合層、炭化物少量含む
 159 灰白色 (10Y7/1) 砂シルト、炭化物僅かに含む、粘性あり
 160 灰白色 (5Y8/1) 粗砂、繊僅かに含む、部分的に酸化
 161 にぶい黄褐色 (10Y7/2) 粗砂、礫多包
 162 灰白色 (5Y7/1) 粗砂、礫多包
 163 黄灰色 (2.5Y6/2) 粗砂、礫多包
 164 暗灰黄色 (2.5Y5/2) 粗砂、繊僅かに含む
 165 明黄褐色 (2.5Y6/6) 砂シルト、灰白色 (10YR8/1) 砂・細礫僅かに含む
 166 明黄褐色 (2.5Y7/6) 粗砂、繊含む
 167 にぶい黄褐色 (10YR5/4) 砂、灰色 (10Y6/1) 砂シルト・細礫僅かに含む
 168 にぶい黄褐色 (10YR5/4) 粗砂、繊少量含む、全体にやや酸化
 169 灰黄褐色 (10YR5/2) 粗砂、繊少量含む
 170 紺灰色 (10YR6/1) 粗砂、繊少量含む、全体にやや酸化
 171 灰白色 (5Y7/1) 粗砂、繊含む
 172 灰黄褐色 (10YR5/2) 砂、繊少量含む

- 173 灰色（5Y5/1）砂、細礫少量含む
 174 灰黄色（25Y6/2）細砂、礫僅かに含む
 175 にぶい黄色（25Y6/3）砂、礫少量含む
 176 灰黄色（25Y6/2）砂、灰色（N6/0）砂・細礫少量含む
 177 灰オリーブ色（5Y5/2）粗砂、礫含む
 178 暗灰黄色（25Y5/2）砂、細礫少量含む
 179 明黄褐色（25Y7/6）砂・灰白色（75Y7/1）砂混合層、炭化物少量含む
 180 灰黄色（25Y6/2）粗砂、礫含む、全体に酸化
 181 暗オリーブ色（5Y4/3）粗砂、礫含む
 182 灰白色（10Y7/1）砂、浅黄色（5Y7/3）砂・炭化物僅かに含む
 183 浅黄色（5Y7/3）砂、灰白色（10Y7/1）砂シルト僅かに含む
 184 灰色（10Y6/1）砂シルト、灰白色（5Y8/1）砂少量含む、縮り欠く
 185 鵝灰色（10YR5/1）粘質土、灰白色（N7/0）砂少量含む
 186 灰白色（75Y7/1）砂、明黄褐色（25Y7/6）砂僅かに含む
 187 黄褐色（10YR6/6）砂シルト、全体に酸化、縮り欠く
 188 黄灰色（25Y5/1）粘シルト、灰白色（5Y8/1）砂含む
 189 灰色（75Y4/1）粘シルト、炭化物・破碎礫僅かに含む
 190 灰色（5Y4/1）粘土、同色の砂・炭化物僅かに含む
 191 灰色（5Y4/1）粗砂、礫含む
 192 オリーブ灰色（10Y6/2）砂シルト、鵝灰色（75YR4/1）砂シルトブロック僅かに含む
 193 オリーブ灰色（10Y5/2）砂シルト、明黄褐色（25Y6/6）砂・炭化物僅かに含む
 194 オリーブ灰色（10Y5/2）砂シルト、193層に近似するがやや粗質
 195 灰色（10Y6/1）砂シルト、灰白色（10Y7/1）砂僅かに含む
 196 灰白色（10Y7/1）砂、炭化物僅かに含む、全体にやや酸化
 197 灰白色（10Y8/1）砂、全体に酸化
 198 灰色（75Y4/1）粘土、礫少量含む、縮りあり
 199 灰色（75Y4/1）砂質土、同色の砂シルト・礫少量含む、粗質
 200 灰白色（N8/0）砂・黄灰色（25Y5/1）粘シルト混合層、縮り欠く
 201 黄灰色（25Y5/1）砂シルト、細礫僅かに含む、粗質
 202 黄灰色（25Y5/1）砂シルト、灰白色（25Y7/1）粗砂・炭化物含む、粗質
 203 灰オリーブ色（75Y6/2）砂シルト、全体にやや酸化、縮りあり
 204 灰白色（75Y7/2）砂シルト、全体にやや酸化、縮りあり
 205 浅黄色（25Y7/3）砂シルト、全体にやや酸化、縮りあり
 206 灰オリーブ色（75Y6/2）砂シルト、全体にやや酸化、粗質
 207 浅黄色（25Y7/3）砂シルト、炭化物僅かに含む、全体にやや酸化
 208 灰白色（25Y7/1）砂シルト、全体にやや酸化
 209 灰オリーブ色（75Y6/2）粗砂、同色の砂シルト含む
 210 オリーブ黄色（75Y6/3）砂シルト、炭化物僅かに含む、縮りあり
 211 灰白色（75Y7/1）砂シルト、全体にやや酸化、縮りあり
 212 灰色（75Y6/1）砂シルト、炭化物僅かに含む、全体にやや酸化
 213 灰色（25Y6/1）砂シルト、全体に酸化、縮りやや欠く
 214 灰白色（5Y7/1）砂シルト、浅黄色（25Y7/4）砂・炭化物少量含む、縮りやや欠く
 215 鵝灰色（10YR5/1）粘土、炭化物少量含む、縮りやや欠く
 216 灰白色（5Y7/1）砂シルト、灰白色（5Y8/1）砂ラミナー状に堆積、炭化物少量含む
 217 灰白色（5Y7/1）粘質土、炭化物僅かに含む、縮りあり
 218 オリーブ黄色（75Y6/3）砂質土、礫・破碎礫含む、縮りあり
 219 灰黄色（25Y6/2）砂質土、礫含む、縮りあり
 220 にぶい黄色（25Y6/4）粘質土、黄灰色（25Y6/1）粘質土ブロック僅かに含む
 221 灰色（5Y5/1）砂質土、にぶい黄色（25Y6/4）砂質土ブロック・炭化物僅かに含む
 222 灰白色（5Y7/2）砂、灰色（5Y5/1）砂・炭化物少量含む
 223 灰色（75Y6/1）砂シルト、炭化物僅かに含む
 224 灰色（75Y4/1）粗砂、細礫少量含む

杯各1点、および高杯1点のみもそれぞれ出土した。その3点も含め土器が集中する範囲からは、200点・7417gの破片が出土した。そのうちの23点が復元実測可能であった。

200点の土器のうち弥生～古墳時代とした詳細な時期比定のできない破片が92点・1117gを数え、点数比で46%にのぼる。残り108点は弥生中期後葉4点・103g、弥生後期1点・61g、弥生後期～庄内式期75点・2292点、庄内式期27点・3791g、庄内～布留式期1点・53gであり、弥生後期～庄内式期に中心がある。

この一群の土器は、破片化の進んだものもあるが、全体としては割合に破片は大きい。またテラス状部に直接のるのではなく、岸の肩部から流入した堆積土（第8図1層）に包含された状況を示していた。したがって庄内式期に、流入土に混じって岸肩部から投棄あるいは転落したものとみられる。

また河道全体の出土土器は、完形に近いものも含めて240点・9502gを数える。時期が特定できず弥生～古墳時代としたものが112点・1849gであり、半数近くを占めている。時期比定の可

能なものには、弥生中期後葉や後期の土器も存在するが、基本的には庄内式期を中心とするまとまりである。庄内式期と捉えたものは34点・4518gで、点数比で全体の14%を占める。庄内～布留式期の時期比定の微妙な土器も1点・53gあるが、これを除くと布留式期に比定できる土器はなかった。このことから、この02河道は、庄内式期にほとんどが埋没し、もし一部に窪みが残っていたとしても布留式期には完全に埋まりきったと推定できる。

また出土土器のうち甕(14)は、胴部の一部を欠いているもののほぼ完形である。しかしこれ以外の破片は、図上で全形復元できたとしても、接合作業を重ねても完形にはならなかった。このことから、河道肩部にあった完形の土器が転落したと考えるよりも、使用によって破損したものを河道内に投棄した可能性のほうが高い状況にある。

まとまって出土した土器の器種には、図示した高杯、鉢、台付鉢、甕のほか壺もあり、多種にわたっている。図示した土器は23点である。

1・2は有稜高杯の杯部。杯部の稜はやや不明瞭で、上半部の外反も緩やかになっている。またともに口径に比して杯部の深さが乏しい。

3は椀形高杯。杯部の口径は14.8cmを測り、大きめである。また深さもある。僅かに内湾気味であるが、ほぼ直線的に立ち上がる。弥生後期～庄内式期に比定できよう。

4は小型の椀形高杯。杯部はやや開き気味。脚部は裾にかけて若干屈曲して開く。器面剥離のため脚部の外面調整は不明瞭だが、ミガキ調整の痕跡が僅かに残っている。杯部内外面にもミガキ調整が僅かに認められる。なお脚部内面の調整は摩滅のために不明。

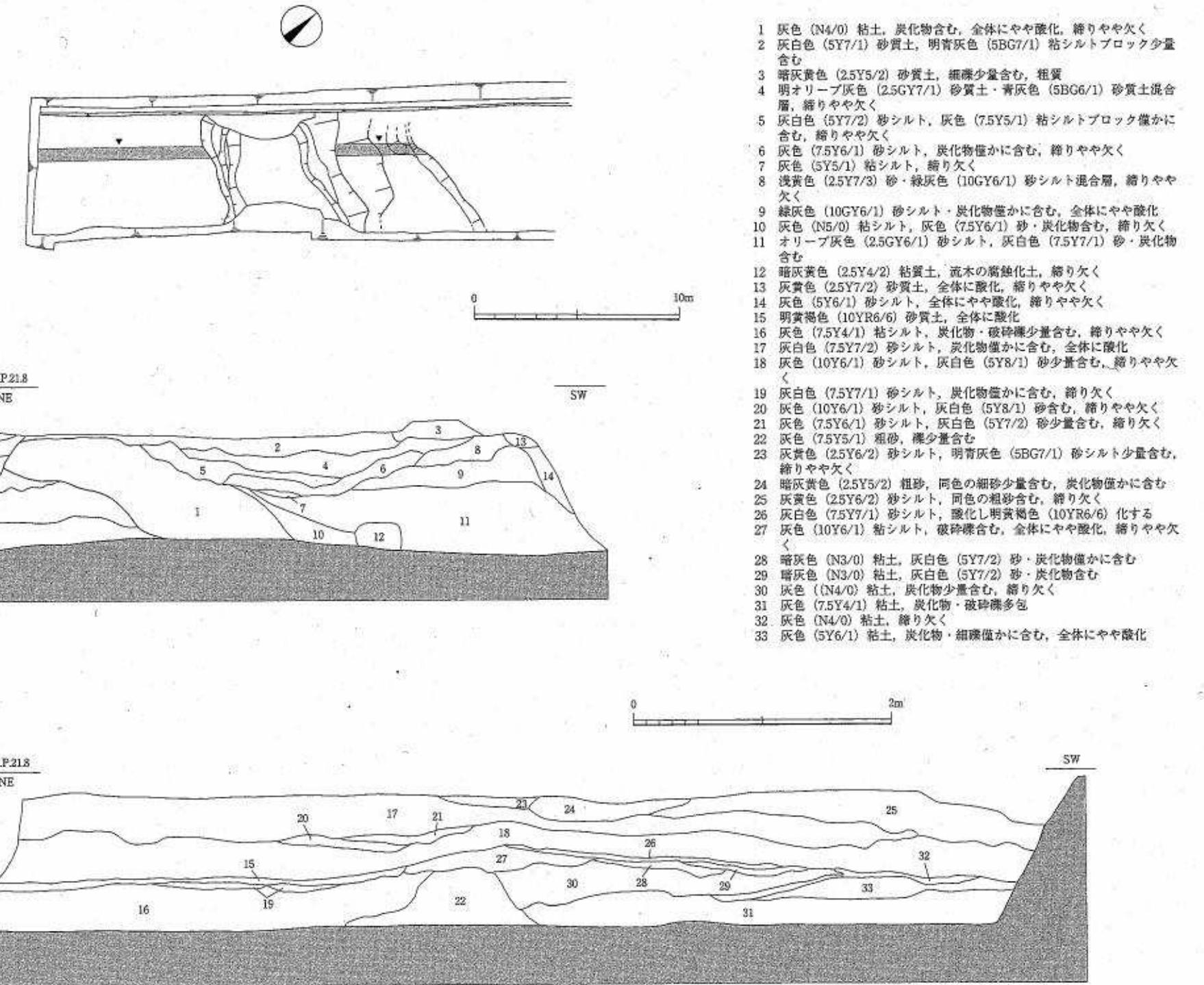
5は杯部外面に9条以上の沈線を巡らせた椀形高杯。剥離しているために外面下半部分の器面調整は不鮮明であるが、僅かに横位ミガキ痕が残っている。それに対して、内面の横位ミガキ調整の痕跡は顕著である。脚部は欠失しているが、僅かに残る部分から、杯部に比べて太めの脚部であった可能性が高い。

6も椀形高杯。杯部上半は顕著に内湾する。杯部内外面には、ともに横位を基調としたミガキ調整が施されている。口縁部端はやや丸味がある。杯部底を欠損しているため、脚部の太さについては不明。

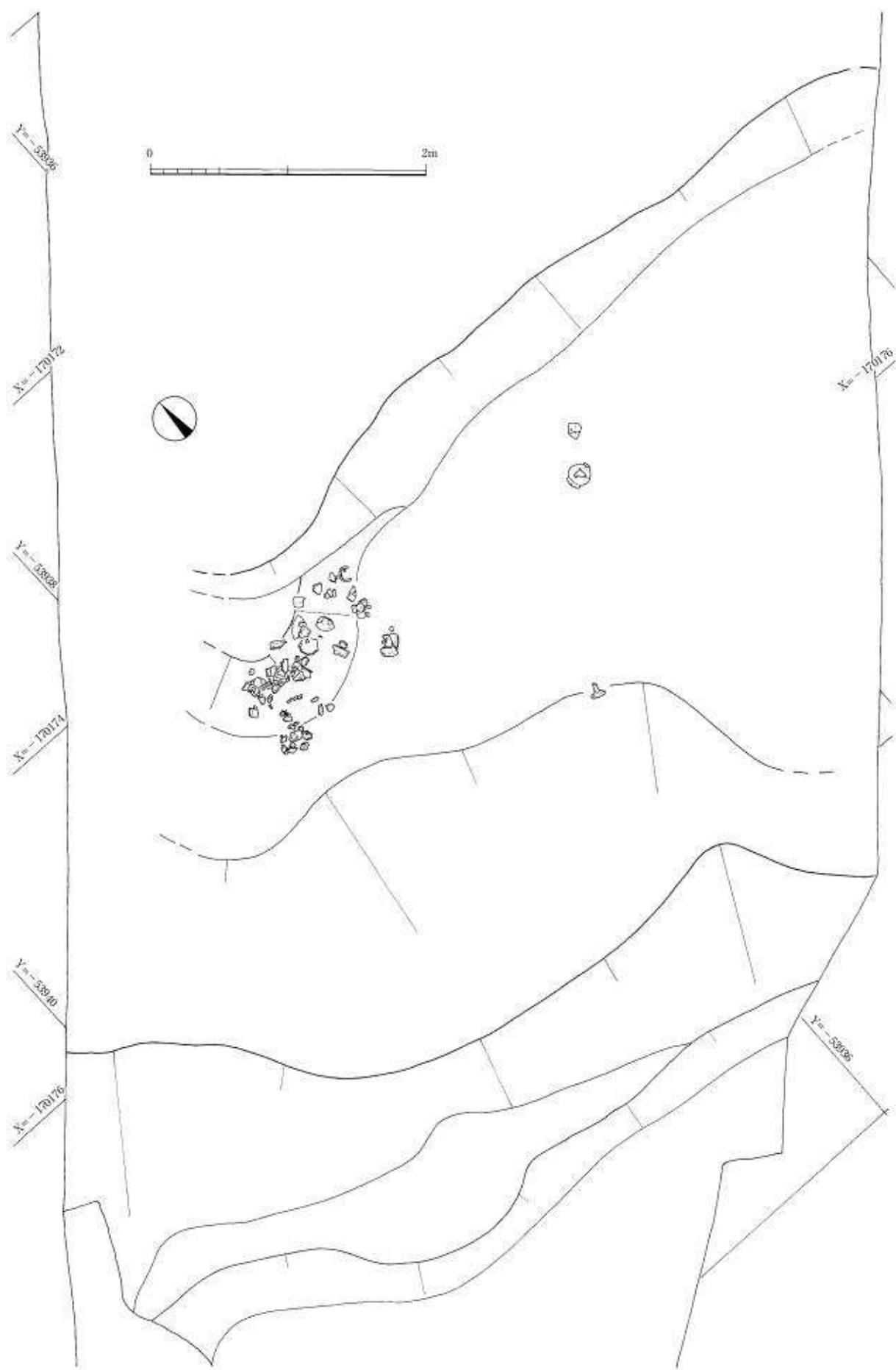
7は高杯の柱状脚部である。脚柱部に縦位、脚裾部に横位のミガキ調整を施している。裾部は幾分内湾する。内面にヘラナデ調整の痕跡が残る。

8～10は高杯の脚部。8・9は裾部に上下2段の透孔が配されている。ともに外面調整は縦位ミガキである。10の外面もミガキ調整が施されているが、上半が縦位であるのに対して、裾部は斜位である。透孔は現状5孔が認められる。同一の高さに穿たれた以外に高い位置に配されたものもあり、また間隔も不等であって、配列パターンは不明である。

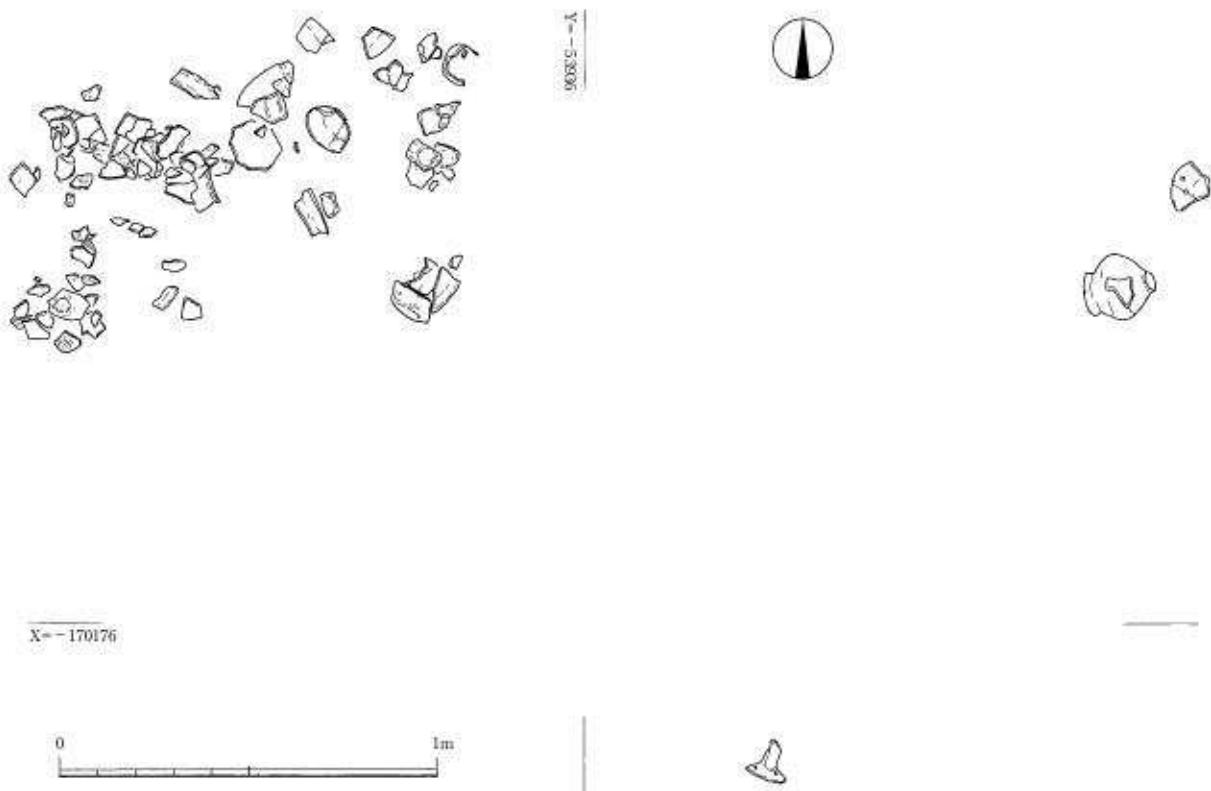
11・12は鉢。ともに口縁部が外反する。また底部は突起し、底面はほぼ平坦である。口縁部外面にヘラナデ調整がなされ、底部近くまでタタキメが残る点も共通している。さらに11では胴部下半の外面に強いヘラナデ調整も認められる。内面調整はともにヘラナデを基調としていて、部



第8図 02河道土層



第9図 02河道土器出土状況（1）



第10図 02河道士器出土状況（2）

分的にユビナデが加えられている。

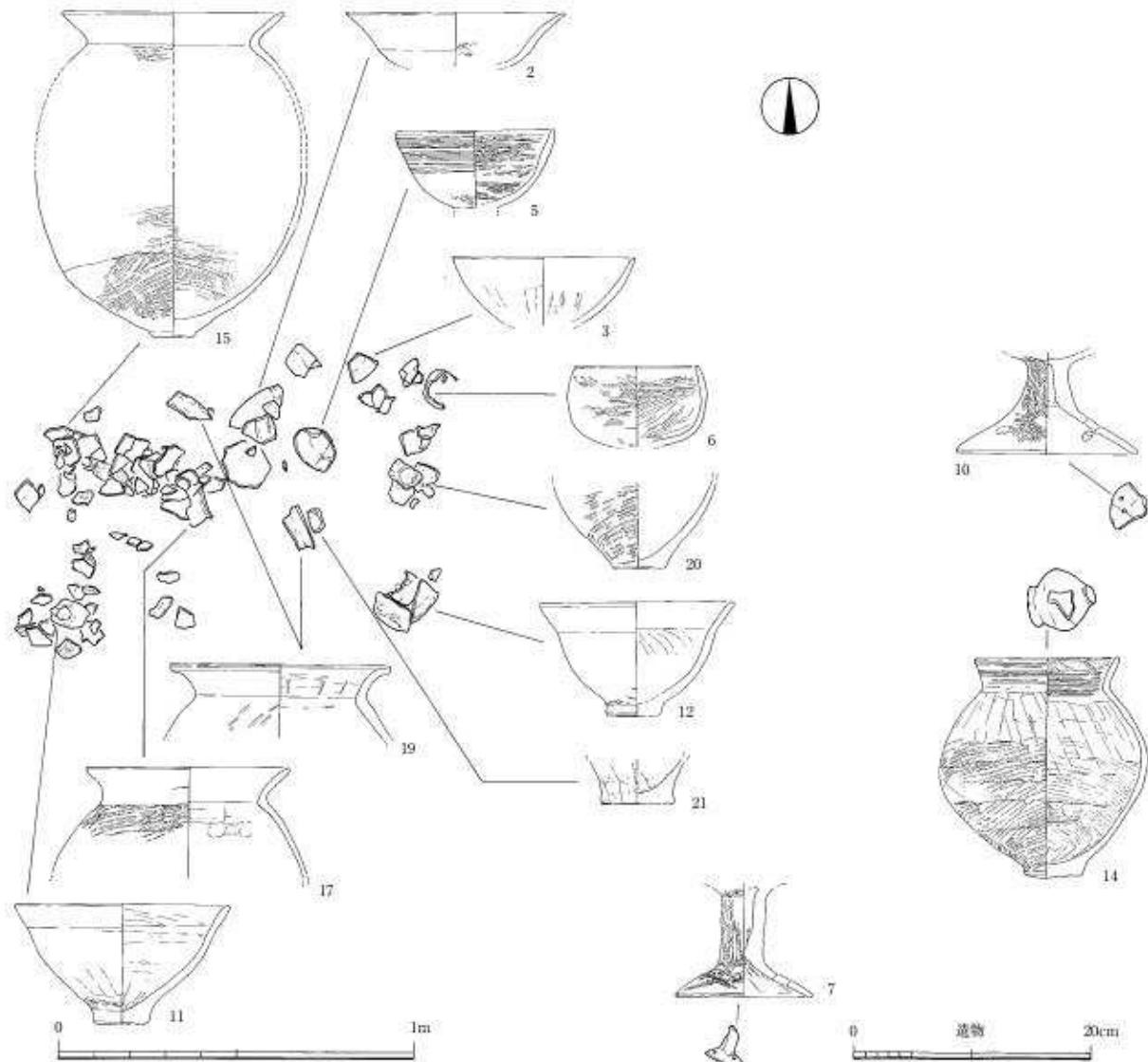
13は台付鉢。半球形の鉢部に、短く「ハ」字状に開く脚台部が付く。脚台部の器壁は厚みがあり、端部を内側に折り込んで平坦に仕上げている。鉢部の内外面は横位のヘラナデ調整であるが、外面のヘラナデは強めで、ヘラケズリ状になっている。内面の器面は平滑に整えられている。脚台部内面にはユビオサエの痕跡が顯著に残る。また外面端部には粘土を貼り付けたような痕跡がみられる。弥生後期後半に比定できよう。

14は甕であるが、図示した15～19と形状や調整技法が幾分異なっている。口縁部は開きが乏しく、直立気味に立ち上がる。胴部は中程に最大径があり、球形に近い。底部は幾分突出し、底面も僅かに張り出し気味だが、平坦に近い。口縁部は、外面調整がヘラナデ、内面はハケ。胴部の調整は外面の上半がヘラケズリ。下半にはやや長めのタタキメが残る。内面は上半が強いヘラナデ。下半にはハケメが残る。胴部に6条の粘土接合痕が認められる。胴部の一部を欠失しているが、破損のためか、あるいは人為的かは不明である。

15は甕1個体分の資料であるが、胴部の破損が著しいために全形復元ができなかった。頸部は「く」字状に屈曲し、口縁部はやや外反気味である。胴部は球形度に乏しく、幾分長胴形を呈するようである。底部の突出は低く、底面はほぼ平坦である。

16は口縁部の開きが大きく、胴部の球形度を欠く。17は胴部肩の内面にヘラナデ・ユビオサエが施され、口縁部との接合部分内面に一稜が生じている。弥生後期に遡るであろう。

18は球形の胴部と「く」字状の頸部から短く外反した口縁部をもつ。胴部外面のタタキメは幾



第11図 02河道士器集中範囲の土器相

分右下がりの部分もあるが、全体としては水平に近い。

19は口縁部端が直立し面をもつ。口縁部内面にヘラナデとユビナデが施され、ヘラナデ工具の痕跡が認められる。胴部内面調整もユビナデ・ヘラナデである。

20は胴部下半から底部にかけての資料である。底部はほとんど突出せず、底面は僅かに上げ底気味であるが平坦に近い。弥生後期後半に遡る可能性もあるが、庄内式期に収まるであろう。

21は突出した底部の破片資料である。器面調整は、外面がヘラケズリ、内面がヘラナデ・ユビナデ。底面はややいびつである。弥生中期後葉。

22も壺の底部である。摩滅のため外面のタタキメは消えている。幾分突出した形態を示し、弥生後期後半に収まると考える。

23は底部がほとんど突出しない。底面はやや上げ底気味である。底部近くの外面および底面に強いヘラナデを施している。胴部内面にはハケメが残る。

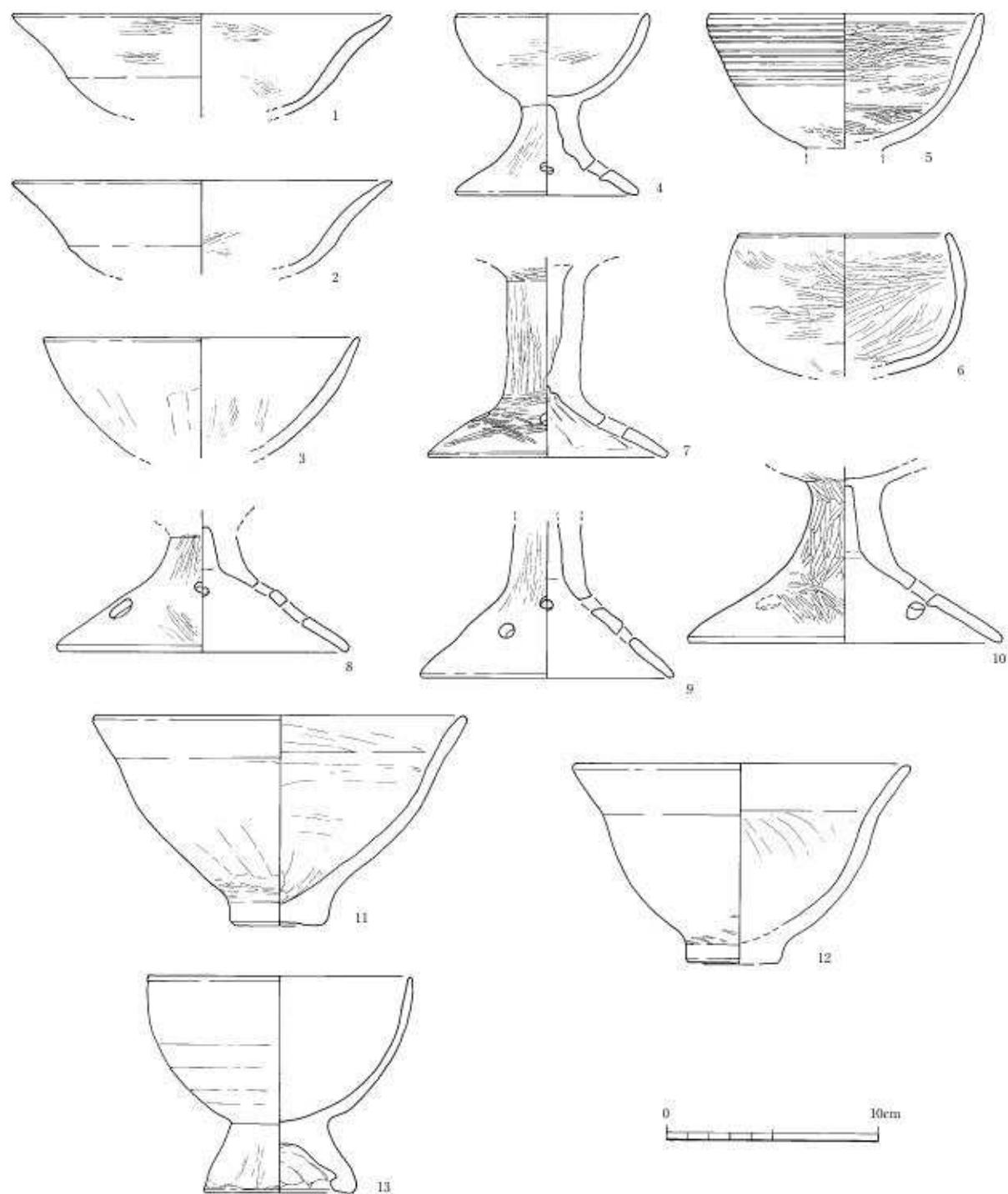
以上、02河道の北東岸付近でまとまって出土した土器についてみてきた。弥生中期後葉に遡る

ものや後期（後半）と考えられるものも数点含まれているが、大半は庄内式期と捉えられる。また布留式期に該当する土器は認識できなかった。

02河道では、北東岸近くの一群以外にも40点・2085gの土器破片が出土している。そのうち10点を図示した。

24は弥生中期後葉の壺の頸部。簾状文が現状で4段施され、肩部には円形浮文が貼付されている。内面調整はハケメののちユビナデ・ユビオサエである。外面調整はヘラナデ。

25は甕の胴部上半から口縁部にかけての破片。口縁部は短く、端部は突出して内傾する。口縁



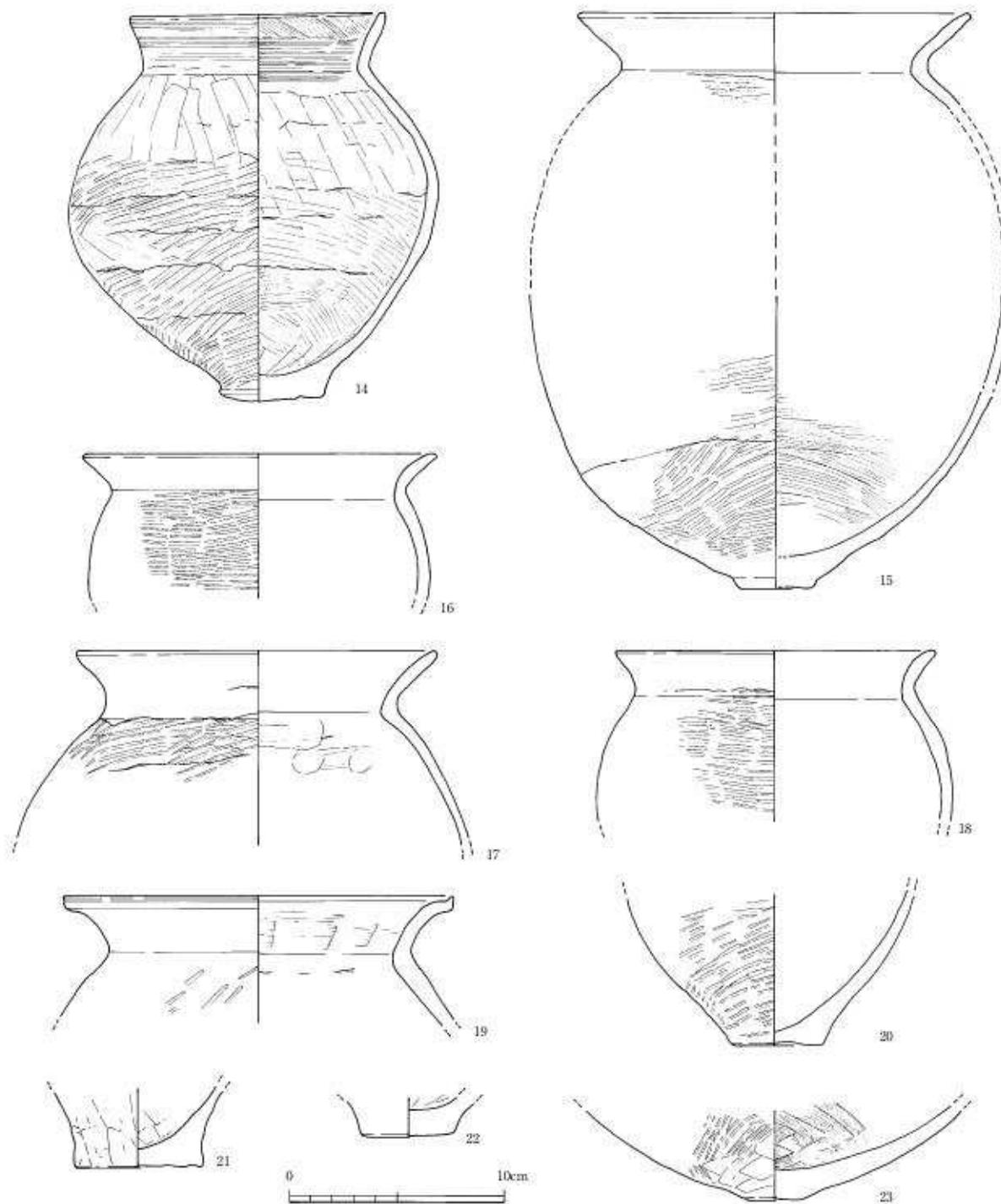
第12図 02河道士器集中範囲出土土器（1）

部内面にはユビナデがなされている。胴部内外面ともヘラナデ調整である。弥生中期後葉。

26は上半と下半が接合できないが、同一の個体と考えられる甕である。頸部は「く」字状に屈曲し、口縁部は開き気味である。胴部は球形に近いとみられる。底部は僅かに突出するのみで、底面は平坦である。胴部内面に強いヘラナデ調整がなされている。

27もV様式系甕である。頸部は「く」字状に外反し、口縁部は開き気味に立ち上がる。端部は丸く收まる。口縁部外面にヘラナデの痕跡がハケメ状に残っている。

28は甕の口縁部である。外反気味に立ち上がる口縁部端の外辺に刻目が施されている。刻目は



第13図 02河道土器集中範囲出土土器（2）

ヘラ状工具の押圧による。外面調整はヘラナデ・縦位ミガキ、内面はヘラナデである。淡路や西摺の系統を引いたものの可能性もあるが、胎土や色調からは在地の土器とみられる。庄内式期に比定できると考える。

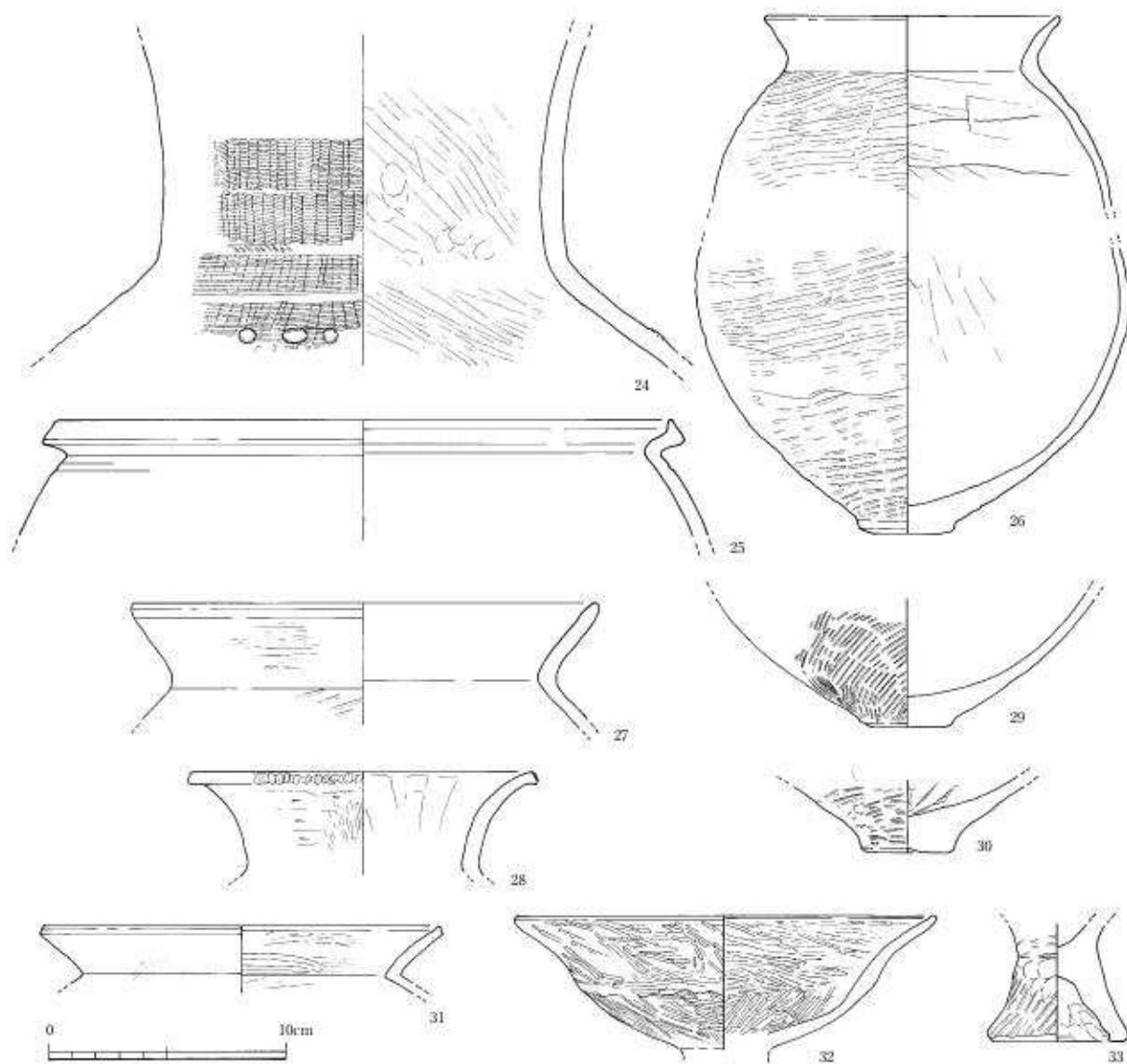
29はV様式系甕の胴部下半から底部にかけての破片。底部はほとんど突出せず、底面は平坦である。胴部内面調整はヘラナデ・ユビナデ。

30は底部が幾分突出していて、底面中央が僅かに窪んでいる。弥生後期後半に比定できよう。

31は庄内式系甕の口縁部。口縁部端は僅かに直立する。口縁部外面はヘラナデ調整がなされ、口縁部から胴部にかけての外面には細いタタキメが残っている。また口縁部の内面にはハケメがみられる。

32は有稜高杯の杯部。杯部の屈曲はやや緩やかで、口縁部にかけての開きが弱い。内外面ともにミガキ調整が顕著に残る。庄内式期に比定できる。

33は製塩土器の脚部。内面にユビナデの痕跡が明瞭に残る。端面にはヘラナデ調整。



第14図 02河道出土土器

01河道

01河道は調査区南西端近くに位置する、02河道を切り込んだ河道である。01河道の埋没と大きな時間差はなく、02河道の軟弱部分を流水が削り込んで形成されたと考えられる。土層断面では切り合い関係が明確に認められるが、01河道は02河道の一部であるとの捉え方をしてよいだろう。

幅は7.0mを測る。検出範囲においてはN-50°-Wに方向をとり、河道02の北岸とほぼ平行する。平面的には、北東岸の方が南西岸よりも緩やかに立ち上がるが、調査区北西壁での土層断面をみると両岸の立ち上がりはほぼ等しい状況にある。人力により遺構面より1.7m下（T.P.20.0m）まで全体を掘り下げたが河道底面を捉えることはできず、部分的にさらに0.6m掘り下げ、T.P.19.4m付近で河道底面を認めることができた。なおその0.6m間の堆積土は、灰色砂礫層であった。またさらに、河道底面以下の状況を確認するために1mほど掘り下げた。河道底面以下は黄色味をおびた灰色粗砂・粗砂礫であった。

堆積土は、一部の立ち上がり付近で砂シルト（第165層）が認められたほかは砂であった。この砂層は色調や質により細分できるが、いずれも不整合な堆積状況を示していて、ことに堆積土の下半において顕著であった。全体として、継続的な流水による砂の堆積と考えられる。堆積砂の色調は、にぶい黄褐色（10YR7/2）・灰黄色（2.5Y6/2）・明黄褐色（2.5Y6/6・2.5Y7/6）・灰黄褐色（10YR5/2）・灰白色（5Y7/1・10Y7/1）が主体的である。多くの層で礫を含んでいる。

出土遺物は302点・9007gを数える。大半は時期の特定ができない弥生～古墳時代としたもので180点・4122gを数え、点数比で全体の60%を占める。次いで弥生後期～庄内式期64点・1210g、庄内式期37点・2213gとなり、庄内式期に土器の中心時期がある。それよりも古い弥生中期後葉や後期、あるいは縄文土器が認められる一方、庄内～布留式期、あるいは布留式期の土器も存在する。庄内～布留式期は4点・407g、布留式期は3点・163gが認められたが、前者では3点が、後者では1点が出土層位の不明なものである。そして庄内～布留式期の1点・17gは遺構面下100～120cmの位置で、2点の布留式期の土器のうち1点・39gは遺構面下60～80cm、1点・72gは遺構面下140～160cmの位置でそれぞれ出土している。

また遺構面下180cmまでは比較的均等な土器出土量であり、周辺域に散在していた遺物を常時混入しながら河川が埋没していく状況が窺われる。

出土遺物の中心時期は02河道と同じく庄内式期であるが、布留式期の土器が堆積土の深い部分からも出土していることから、02河道の最終埋没段階に01河道が形成されたとみられる。このことは土層観察からも窺えるが、土器の様相からみれば、両河道の先後は明確でないほどの時期差にすぎない。

出土遺物のうち、38点を図示した。34は弥生中期中葉あるいは後葉の壺。頸部に櫛描文を、口縁部内面端に櫛歯による刺突文を施す。口縁部内面にユビオサエの痕跡が明瞭に残る。

35は弥生中期後葉の壺。口縁部は屈曲して水平に張り出し、端部は上下に肥厚する。口縁部の

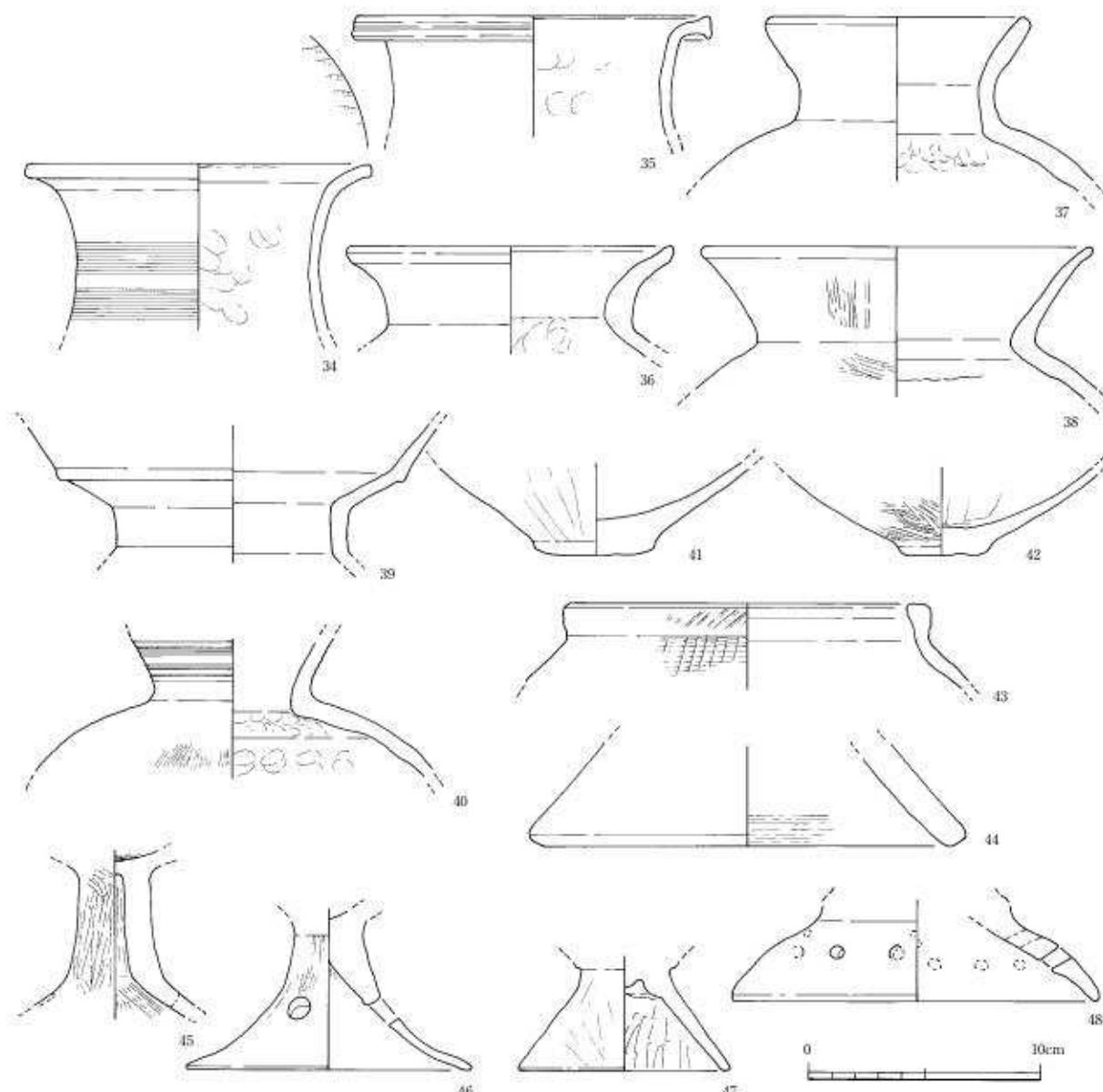
内面調整はユビナデ・ユビオサエ。

36は直口壺。口縁部の開きはやや緩やかである。口縁部端は面取り氣味になっている。頸部内面にユビオサエの痕跡が残る。2次焼成を受け、変色している。庄内式期に比定できる。

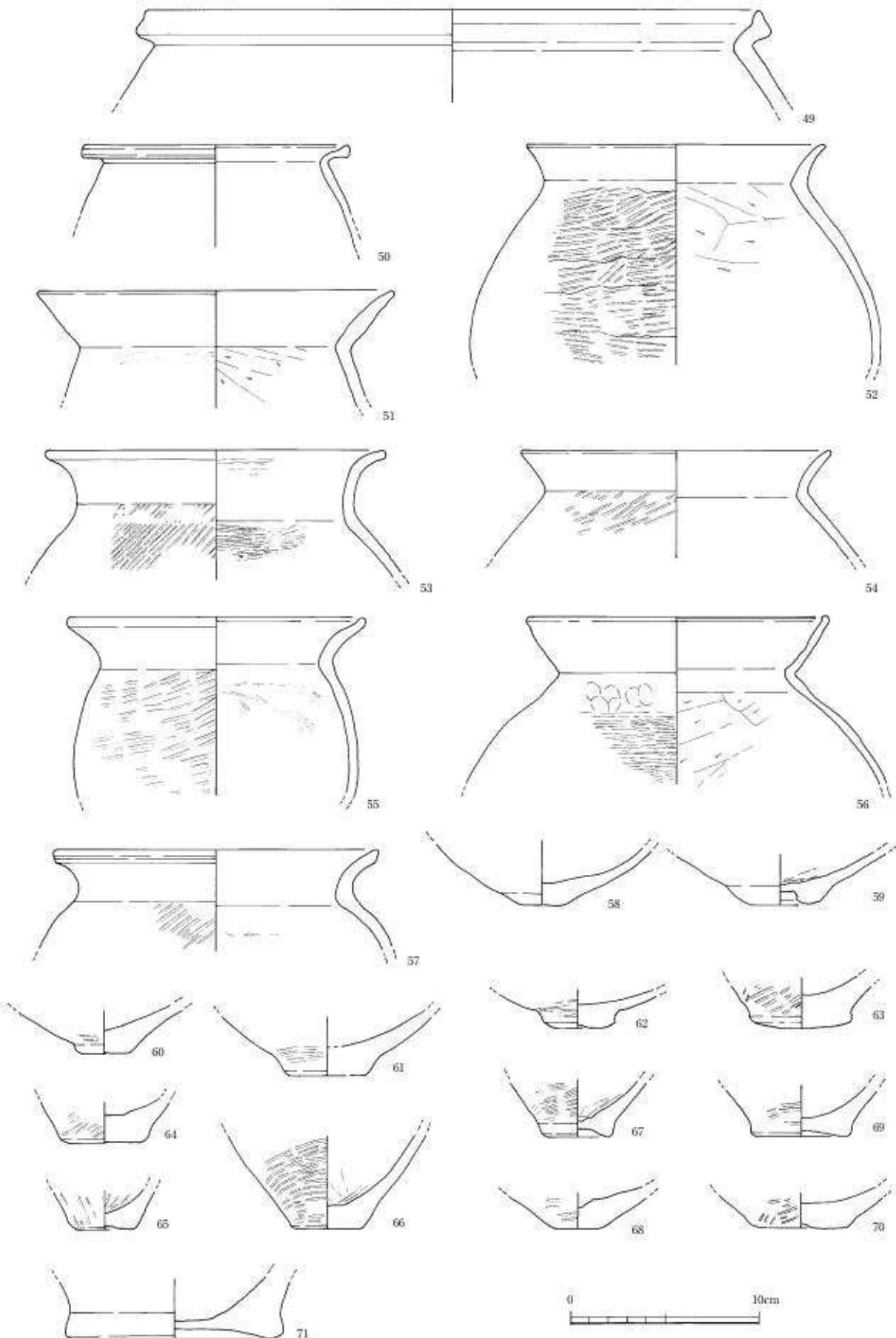
37も直口壺。頸部は直立氣味である。口縁部端は平坦である。口縁部は内外面ともユビナデ、胴部は外面ヘラナデ、内面がユビオサエにより器面調整がなされている。器壁は全体に厚い。庄内～布留式期。

38も直口壺。頸部は「く」字状に屈曲し、口縁部は大きく開く。口縁部端は幾分丸味がある。口縁部外面にハケ、胴部外面にミガキ調整の痕跡が僅かに残る。布留式期と考える。

39は有段口縁壺。頸部が直立し、口縁部は外反氣味に立ち上がる。口縁部外面は上半が縦位ヘラナデ、下半が横位ヘラナデ、頸部には縦位ヘラナデが施されている。口縁部内面の調整は上半がヘラナデ・ユビナデ、下半から頸部にかけてユビナデである。庄内式期に比定できる。



第15図 01河道出土土器（1）



第16図 01河道出土土器（2）

40は口縁部下半から胴部上半にかけての壺の破片資料。口縁部下半に2条1単位の沈線文が巡る。胴部上半の外面調整は強いヘラナデ、内面はユビオサエ・ユビナデである。外面にはヘラナデの調整痕跡が僅かながら残っている。本資料も庄内式期に比定できよう。

41は壺の底部から胴下部にかけての資料である。内外面とも磨滅のため調整は不明瞭であるが、外面はヘラナデ、内面はユビナデがなされているとみられる。庄内～布留式期であろう。

42も壺の底部から胴下部にかけての資料。胴部外面には底部近くまでミガキ調整が施されている。内面調整はヘラナデ。底面はヘラケズリにより平滑に仕上げられている。庄内式期。

43は弥生中期後葉の無頸壺。口縁部は短く直立し、端部は肥厚する。端面は平坦である。口縁部に櫛歯による刺突文、胴部には簾状文を施している。内面調整は口縁部、胴部とともに現状ユビナデが認められる。

44は台付土器の脚部と考えられる。外面調整はヘラケズリ、内面はユビナデ・ヘラナデで、端部近くに横位ヘラナデの痕跡が残っている。弥生中期後葉であろう。

45は高杯の柱状脚部資料。外面は縦位ヘラケズリ、内面はハケ調整がなされている。庄内式期と考える。

46も高杯の脚部資料。外面には縦位ミガキが施されている。内面は磨滅のため不明瞭であるが、ヘラナデ調整がなされているとみられる。庄内～布留式期。

47は「ハ」字状に開く脚部資料。庄内式期の低脚高杯とみられる。脚部の開きは直線的である。杯底部が脚部に差し込まれている。器面調整は外面がユビオサエ・ヘラケズリ、内面がヘラナデで、端面は平坦に仕上げられている。

48も高杯の脚部。内湾しながら裾部は立ち上がり、一段を有して脚柱部に続くとみられる。裾部は内外面ともヘラナデ調整がなされている。裾部に透孔が穿たれているが、上下2列と下列のみの配列があり、現状からみると上下列と下列の配置が交互に繰り返されている可能性が高い。庄内式期。

49～70は甕である。49は弥生中期後葉。口縁部は短く、端部は上方に肥厚し内傾する。胴部内外面ともヘラナデ調整。

50も弥生中期後葉。口縁部は水平に近く屈曲し、端部は僅かに肥厚する。端面はほぼ平坦である。磨滅のため外面の調整は不明瞭であるが、内面では口縁部から胴部にかけてユビナデを行い、胴部にユビオサエを加えている。

51は頸部が「く」字状に屈曲し、口縁部は大きく開く。胴部の球形度は低いとみられる。口縁部では外面に強いヘラナデ、内面にユビナデ、胴部内面にヘラケズリがなされ、胴部外面はタタキ調整の上に強いヘラナデが部分的に加えられている。弥生後期。

52は口縁部が短く、胴部の球形度は高い。胴部には横方向に先行する左下がりのタタキメが僅かに認められる。胴部上半内面には強いヘラナデがなされている。庄内式期。

53もV様式系甕。口縁部下半は直立気味に立ち上がり、上半は外反する。口縁部端には丸味が

ある。胴部のタタキメは細かい。内面にはハケメが残り、口縁部内面にユビナデを加えている。

54は頸部が「く」字状に屈曲し、口縁部は直線的に開く。肩部の開きは大きく、胴部は球形を呈するとみられる。胴部のタタキメは細かい。内面調整は口縁部がヘラナデ、胴部がユビナデ。V様式系甕。

55は口縁部が大きく開くが、球形度の高い胴部の直径は15.5cmほどで、小型である。口縁部端には丸味がある。口縁部内面はユビナデ・ヘラナデ調整、胴部内面はハケメのちユビナデがなされている。V様式系甕。

56は布留式系甕。「く」字状に屈曲する頸部から直線的に開いて口縁部は立ち上がり、端部は丸く肥厚する。胴部の球形度は高いとみられる。口縁部の外面にヘラナデ、内面にユビナデ調整を施す。胴部外面にハケメが残り、それに先行するユビナデの痕跡が上半に認められる。内面調整はヘラケズリで、部分的にユビナデが施されている。

57は肩部の張りが強く、屈曲する頸部から短く口縁部が立ち上がる。口縁部端は面をもつ。口縁部の内外面はヘラナデ調整がなされている。胴部内面はユビナデ。外面全体に煤が付着している。V様式系甕。

58もV様式系甕の胴部下半以下の資料。底部はほとんど突出しない。胴部内面はヘラナデ調整。2次焼成を受けていて、外面は荒れている。

59は弥生後期の甕である。底部の突出はやや低いが、輪状台である。胴部内面にヘラケズリ調整がなされている。

60~70は甕の底部。60~63の底部は突出しているが、その度合は小さく底面は平坦である。また内面調整の判明するもののうち、62・63・70は現状ユビナデが認められるのみであるが、60・64・65・66・67・68・69ではヘラナデ調整がなされている。いずれもV様式系甕と考える。

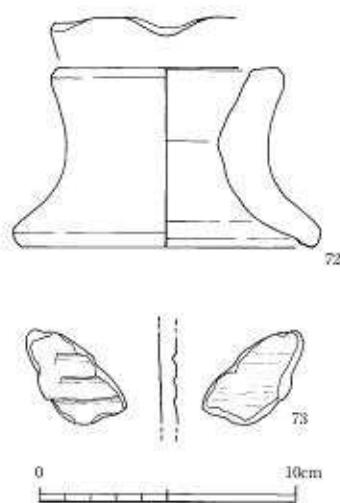
71は縄文土器の底部と考えられる破片である。底部は上げ底で、器壁は薄くなる。胎土に長石・石英とともに角閃石を含む。中期の可能性が高い。

06河道

06河道は調査区北東端近くに位置する。04-2区の河道1の延長上に当たり、遺物がほとんど出土しないと予測されたため、河道全体を0.4mほど掘り下げ、その後土層観察のためのトレンチを設定し、その部分は遺構面より合計2.3m下（T.P.19.3m）まで掘削した。その結果、河道底面は遺構面下1.5m（T.P.20.1m）付近にあることが判明した。

河道は現状最大幅7.0mを測るが、北西方向に幅を広げながら延びているため、幅はさらに広がると予測される。

トレンチ内における堆積土の状況をみると、北東岸はそれよりも北東側に堆積している基盤層を切り崩しているが、



第17図 06河道出土土器

南西岸では南西側の基盤層が上部を覆っている。このことから、06河道は北東から基盤層が形成される過程で、開析・埋没したものと考えられる。

平成15・16年度の発掘調査の成果に基づいて、大町遺跡の基盤層の形成完了は弥生時代中期、04-2区の河道1は縄文時代後期の埋没であると考えた。06河道の堆積土と基盤層の状況は、その見解を追認する材料となる。

06河道自体の堆積土は、遺構面下10~20cmの上層（18・19・24・25・27・32層）とそれ以下の下層に大別することができる。下層は、33・34層が砂シルトだが、それ以外は砂である。色調は灰黄色（2.5Y7/2・2.5Y6/1・2.5Y6/2）・灰白色（7.5Y7/1）・褐灰色（10YR6/1）・黄灰色（2.5Y6/1）・灰色（5Y6/1）である。堆積状況はやや不整合で、ことに南西半ではそれが顕著である。上層は主として砂質土（18・24・25・27層）で、部分的に粘質土（19・32層）が混じる。砂質土の色調は黄褐色（2.5Y5/4・2.5Y5/3）や灰黄色（2.5Y7/2）が主体で、幾分酸化しているとみられる。

出土遺物は、縄文土器1点・28gと器台と思われる土器1点・177gの2点だけである。器台は調査区の側溝掘削時に出土したもので、具体的な層位は不明だが、上層からの出土である。一方、縄文土器は遺構面下80~100cmから出土していて、河道の埋没時期を示すものと考えられる。2点ともに図示した。

72は器台と考える資料である。ユビオサエによる抉り込みが口縁部に現状で2箇所認められるが、それ以外の口縁部端辺はほぼ平坦である。脚部裾の端部は平坦な正面をもつ。端部内側に、端面調整時に出た粘土が延び出ている。内外面とも摩滅のため、器面調整は不明。時期を確定することはできないが、庄内～布留式期の間に収まるのではないか。

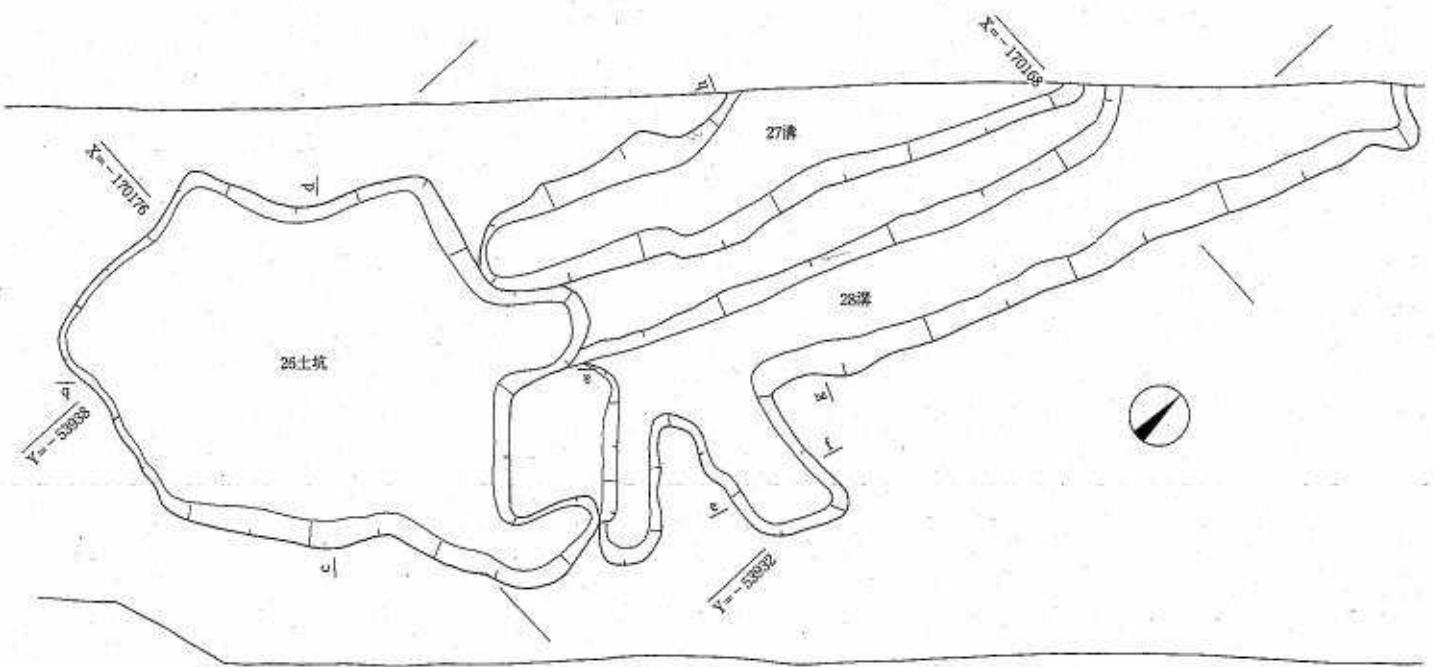
73は縄文後期後半の土器破片。外面に竹管による沈線文が現状で3条認められる。04-2区の河道1でも縄文後期の土器が出土していて、既述したように後期に河道が埋没したと考えた。72の具体的な出土位置は不明だが、堆積土上部からの出土であることから、踏み込みなどによる上層からの混入の可能性は捨てきれない。出土位置の明らかな縄文土器をみると、04-1区河道1と同一の河道であり、以前の想定通り埋没時期は縄文時代後期としてよかろう。

26土坑

26土坑は調査区南西寄りに位置する。02河道の一部を切り込んでいる。長径4.8m、短径3.9mを測り、平面は方形に近いが一部突起したように延び出ている。現状の深さは15cmで、平面規模に比べて浅い。覆土は青灰色（5B6/1）粘シルトや灰色（7.5Y5/1）砂質土が先行し、その後灰色（5Y4/1）砂シルトが堆積している。

出土遺物は弥生後期～庄内式期土器3点・28g、弥生～古墳時代の土器5点・34g、古墳時代以後の土師器3点・22g、須恵器3点・28g、陶器5点・108g、磁器4点・13g、瓦8点・557gである。

4点の磁器のうち3点は碗類、1点は瓶類で、いずれも肥前系である。2点は18世紀後半～19



TP21.7
a



- 1 灰色 (5Y4/1) 砂シルト, 繊りあり
- 2 灰色 (7.5Y5/1) 砂質土, 淡黄色 (5Y7/4) 砂少量含む, やや粗質
- 3 青灰色 (5B6/1) 粘シルト, 灰オリーブ色 (5Y5/3) 砂少量含む

TP21.7
c



d

TP21.7
e



TP21.7
g



0 1m

- 1 灰色 (7.5Y6/1) 砂シルト, 穢僅かに含む, 繊り欠く
- 2 灰色 (5Y5/1) 砂シルト, 繊りあり, やや粗質
- 3 灰オリーブ色 (7.5Y6/2) 砂シルト, 穢僅かに含む, 粗質
- 4 灰色 (7.5Y6/1) 砂質土, 黄灰色 (2.5Y6/1) 砂質土僅かに含む, 繊りあり
- 5 オリーブ黄色 (5Y6/4) 粘質土, 全体にやや酸化
- 6 灰色 (7.5Y6/1) 砂シルト, 全体にやや酸化, 繊りあり

第18図 26土坑・27溝・28溝

世紀中葉に比定できる。残りの磁器 2 点と陶器のうちの 2 点は 17 世紀後半～18 世紀中葉である。よって最も新しい時期の遺物をとれば、この 26 土坑は近世後半期に比定できる。なお 8 点の瓦のうちの平瓦 1 点（74）の端面には「泉額瓦」の刻印があり、「瓦」のあとに「商」と思われる文字が続いている。

27・28溝

27・28溝は調査区南西寄りに位置する。両溝は現状では南北に向きを揃えてほぼ平行しているが、28溝の北端が西方に屈曲して27溝と連接する可能性がある。一方27溝の南端は26土坑の立ち上がりとほぼ重なっている。28溝の南端は深さを緩やかに減じて基盤層と同化し、その基盤層は26土坑に向かって下降しているため、重複関係は不明であるが、両溝と26土坑は一体のものであろう。

27溝の覆土は上下層に分かれ、上層は灰色（7.5Y6/1）砂質土、下層はオリーブ色（5Y6/4）粘質土と灰色（7.5Y6/1）砂シルト。28溝では、底上に灰オリーブ色（7.5Y6/2）砂シルトが薄く堆積する以外は灰色（5Y5/1・7.5Y6/1）砂シルト。

27溝からは時期の詳細を得ない弥生～古墳時代の土器 3 点・30 g、陶器 2 点・11 g、磁器 3 点・11 g、瓦 1 点・135 g が出土している。磁器のうち 1 点は肥前系の碗で、18 世紀中葉に年代比定できるので、遺物の点からも 26 土坑と同時存在だと判断できる。

28溝からは弥生後期～庄内式期土器 1 点・6 g、弥生～古墳時代土器 3 点・46 g、須恵器 1 点・6 g、黒色土器 1 点・6 g が出土した。近世に下る遺物はなかったが、遺構の状況から 27 溝と同時に機能していたとみられ、28溝も近世後半期に位置付けられよう。

11溝

11溝は調査区南西端に位置し、02河道の堆積土上に形成されている。北東辺の立ち上がりが捉えられる以外、調査区外に延び出ているため全容は不明である。現状の幅 1.1m、長さ 3.7m である。深さは最大 24cm を測る。南東部分にかけて深さを緩やかに減じる。

覆土は上下 2 層に区分される。上層は全体にやや酸化したにぶい黄色（2.5Y6/3）粘質土、下層はマンガンを僅かに含んだ灰色（5Y5/1）粘土である。

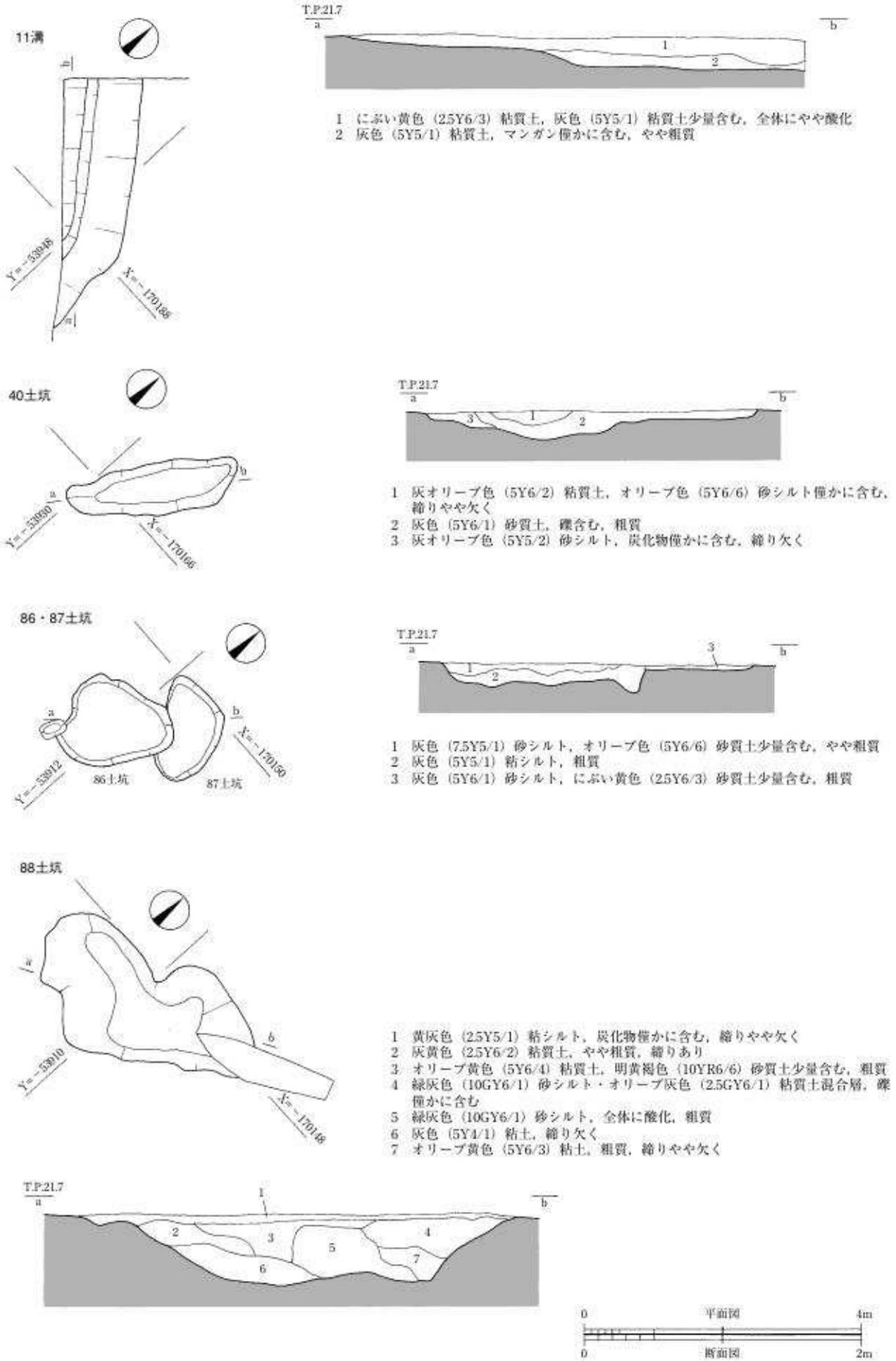
遺物の出土はなく、時期比定はできないが、周辺の耕作痕の形成と一体となって機能していた可能性が高い。

40土坑

40 土坑は調査区の中央やや南西寄りに位置する。長径 2.5m、短径 0.8m、深さ 20cm を測る。掘方は明瞭である。底部は中央にかけて緩やかに下降する。覆土の大半は礫を含んだ灰色（5Y6/1）砂質土である。出土遺物はなく、時期比定はできない。

86・87土坑

調査区のほぼ中央に位置する。86 土坑は長径 1.7m、短径 1.2m、深さ 17cm、先行する 87 土坑は長径 1.4m、短径 1.0m、深さ 5 cm である。86 土坑の覆土は上下 2 層に分かれ、上層が灰色



第19図 11溝・40土坑・86・87土坑・88土坑

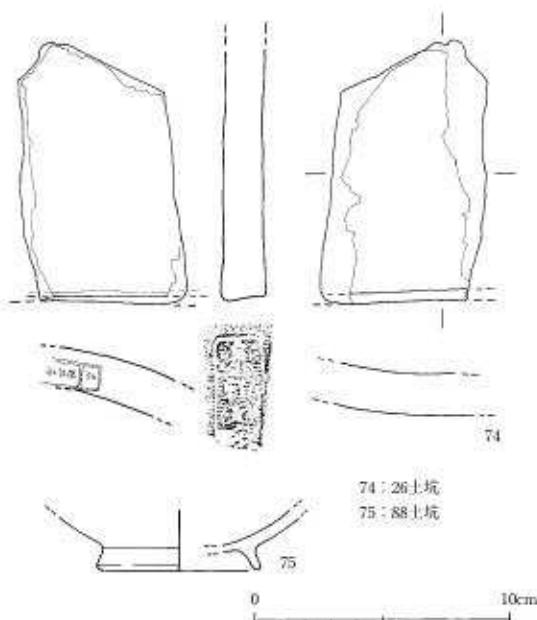
(7Y5/1) 砂シルト、下層は灰色 (5Y5/1) 粘シルト。87土坑は、にぶい黄色 (2.5Y6/3) 砂質土を少量含んだ灰色 (5Y6/1) 砂シルトの単一層。

86土坑からは瓦器 2 点・7 g、陶器 2 点・44 g、磁器 1 点・5 g、瓦 5 点・308 g が出土した。87土坑からは弥生～古墳時代土器 1 点・13 g、古墳時代以後の土師器 1 点・41 g、須恵器 1 点・19 g が出土した。86土坑の磁器は肥前系皿で、18世紀末以降に年代を求めることが可能、両土坑とも近世後半期以降と考えられる。

88土坑

調査区のほぼ中央に位置し、86・87土坑に接する。北東部分の一部が攪乱されているが、現状の最大長2.9m、幅1.7m、深さ53cmを測る。覆土はブロック状の不整合な状況を呈していて、人為的な埋め戻しの可能性が高い。

出土遺物は布留式期の土器（甕）1点・6 g、古墳時代以後の土師器 3 点・172 g、陶器 4 点・104 g、磁器 4 点・23 g、瓦 6 点・506 g、埴輪 1 点・17 g である。陶器のうちの 1 点は瀬戸・美濃系の片口鉢で、18世紀中葉に比定できる。また磁器の 1 点は17世紀末～18世紀中葉の肥前系中碗、2 点は18世紀後葉～19世紀中葉の肥前系鉢である。したがって88土坑も近世後半期に位置付けられる。



第20図 遺構出土遺物



- 1 灰色 (N5/0) 粘質土、灰オリーブ色 (7.5Y6/2) 粘質土少量含む、やや粗質
- 2 灰色 (N5/0) 粘質土、灰オリーブ色 (7.5Y6/2) 粘質土少量含む、粗質
- 3 灰オリーブ色 (7.5Y6/2) 粘土、炭化物僅かに含む

第21図 106溝

なお埴輪は須恵質で、外面横～斜位ハケ、内面ヘラケズリの調整がなされている。

出土遺物のうち、土師器椀（75）1点のみを図示した。この土師器椀は10世紀代に比定できるもので、88土坑の形成・埋没時期を示すものではないが、10-1区や10-3区において検出された水田の形成時期に該当している。その時期に遺跡内の広い範囲に水田耕作地が及んでいた、あるいは少なくとも人の活動があったことを示している。

106溝

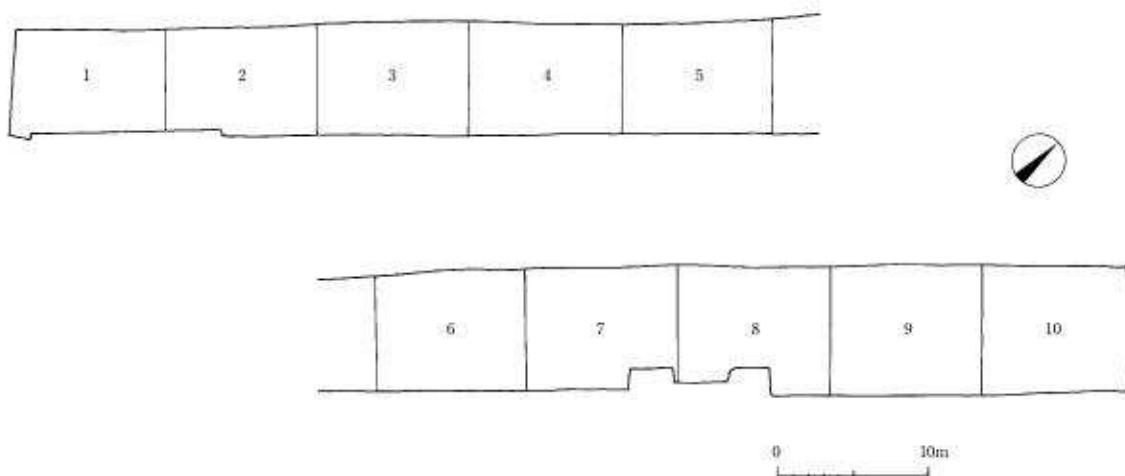
106溝は調査区の北東端に位置する。現長6.6m、幅1.6m、深さ22cmを測る。北側は2条に分岐して調査区外に延び出ている。覆土は灰オリーブ色（7.5Y6/2）粘土が主体で、掘方の深い部分には灰色（N5/0）粘質土が認められる。遺物の出土はなかった。

トレンチ内出土の遺物

09-1区では、基盤層の堆積状況を調査するために、調査区の北西辺にトレンチを設定した。その掘削にともなってトレンチ内から遺物の出土がみられた。

こうした遺物は、基盤層の形成過程で包含されたもののほか、基盤層上面から踏み込まれたものも少なからずあろう。弥生時代中期後葉までの遺物は前者といえる。弥生後期～布留式期にかけてのものは、01・02河道にみられるように、基盤層形成後に流水などにより形成された窪地に落ち込んだ遺物の可能性が高く、踏み込みの影響とは断定できない。踏み込みによる基盤層への混入と考えられるのは、古墳時代中期以降、ことに中・近世の遺物である。なお遺物は、調査区を10m単位に分割して取り上げた。

出土遺物の内訳は、縄文土器1点・6gをはじめ弥生中期後葉5点・251g、弥生後期4点・179g、弥生後期～庄内式期11点・106g、庄内式期3点・189g、庄内～布留式期11点・337g、布留式期3点・107g、弥生～古墳時代122点・942g、古墳時代以後の土師器3点・48g、須恵器1点・10g、瓦器1点・4g、陶器6点・62g、磁器3点・60g、瓦9点・1421gおよび製塩土器1点・76gである。



第22図 09-1区のグリッド

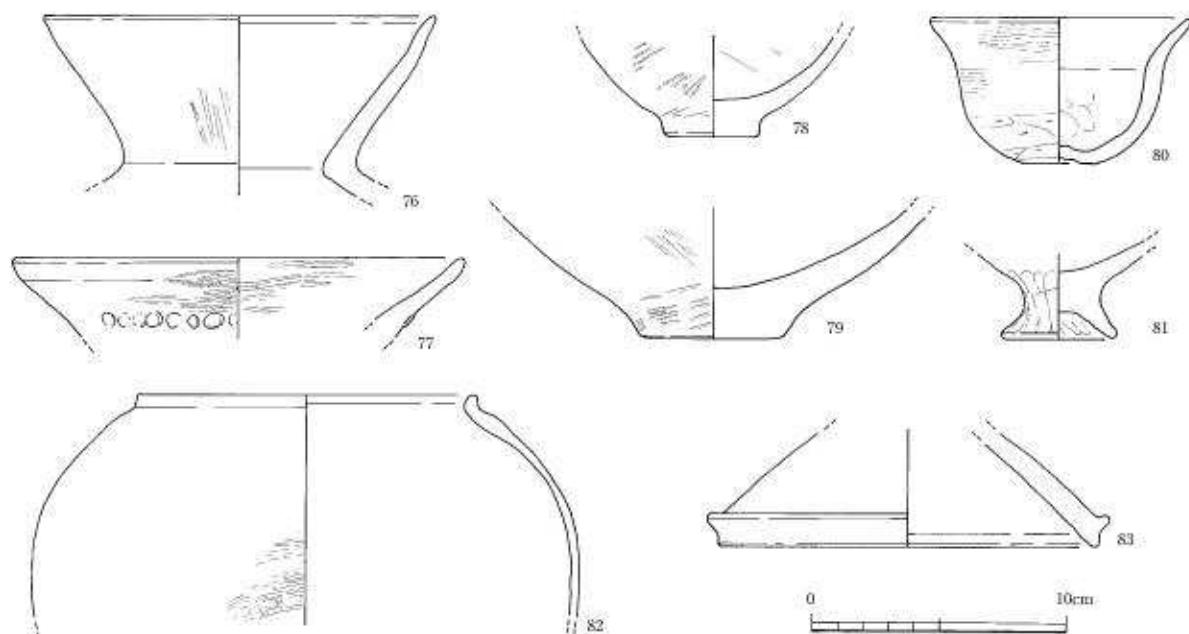
古墳時代中期以降の遺物が出土したのは遺構面下0～30cmの範囲と、30～60cmの範囲で、前者では古墳時代以後の土師器2点・24g、須恵器1点・10g、瓦器1点・4g、陶器5点・50g、磁器2点・59g、瓦6点・987g、後者からは土師器1点・24g、陶器1点・12g、磁器1点・1g、瓦3点・434gである。瓦を除く土器類の平均重量は前者が13g、後者は12gで、いずれも小破片である。なお遺構面下0～30cmの範囲では、縄文土器をはじめ古墳時代中期以前の土器が46点・864g、30～60cmの範囲では105点・1090g出土していて、古墳時代以後の土器類との点数差は明確である。

そして遺構面下60cm以下の範囲になると古墳時代中期以後の土器類は認められなくなる。60～80cmの範囲では弥生後期～庄内式期4点・45g、弥生～古墳時代の時期比定できない土器3点・64gの7点が、60～80cmの範囲ではサヌカイト剥片のみが出土している。こうした出土深度から考えて、遺構面下60cmまでの範囲で出土した古墳時代中期以後の土器類や瓦は、基盤層上面から踏み込まれて混入したものである可能性が高く、基盤層の形成は弥生後期～庄内式期には既に終わっていたとみられる。なお79層からも弥生中期後葉の土器2点・125gが出土しているが、この層はグリッド4の遺構面下20～40cmに対応するので、上述の点と離隔はない。

出土した175点の土器類の破片資料のうち、8点を図示した。

76はグリッド1の遺構面下0～30cmで出土した直口壺の口縁部。口縁部上半は内湾気味であるが、ほぼ直線的に立ち上がっている。口縁部の内面端は削げていて、端部は尖り気味である。外面には不鮮明ながら縦位ミガキが僅かに認められる。内面の調整は摩滅のために不明。庄内～布留式期。

77はグリッド9の遺構面下0～30cmで出土。壺の口縁部上半のみの破片資料である。現状は、直線的に大きく開いて立ち上がっている。口縁部端外面が面取りされている。外面には横位、内



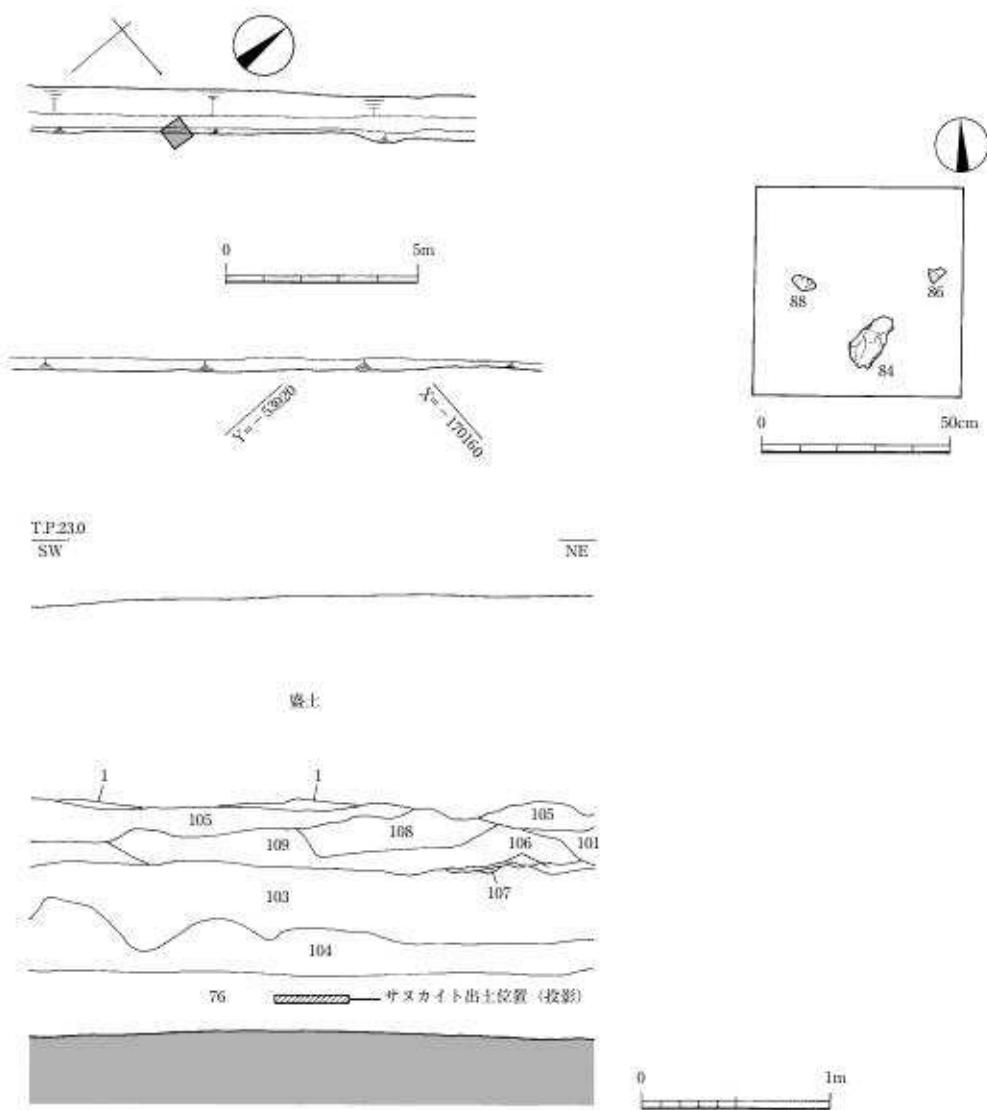
第23図 トレンチ内出土土器

面は横～斜位のミガキ調整が施されている。外面には円形浮文が比較的密に貼付されている。庄内式期に比定できよう。なお器台の可能性もある。

78はグリッド9の遺構面下30～60cmで出土した弥生後期の甕の底部。底部は明瞭に突出している。外面のタタキメは胴最下部にまで及んでいる。内面には強いヘラナデ調整が行われている。また底面にもタタキ調整がなされ、そののちヘラケズリによって平坦に仕上げられている。

79も甕の底部。グリッド10の遺構面下30～60cmで出土。底部の突出は低く、底面は平坦である。また胴下部の開きは大きく、胴部の球形度は高いとみられる。胴下部から底部にかけてタタキメが残るが、胴部には右下がりの調整痕も不鮮明ながら認められる。タタキメというよりもミガキに近い調整である。庄内式期に比定できよう。

80はトレンチ位置が不明であるが、遺構面下30～60cmで出土した小型壺。大きく外方に開く口縁部と、ほぼ球形の胴部をもつ。口縁部端は丸く收まる。底部は僅かに窪んでいる。口縁部から胴部上半にはハケメが残る。またハケ調整のうちユビナデが部分的になされている。胴部下半には横位ヘラケズリが施されている。内面調整は、口縁部から胴部上半にかけてユビナデ、胴部



第24図 サスカイト剥片出土状況

下半はユビナデ・ユビオサエ。布留式期に比定できよう。

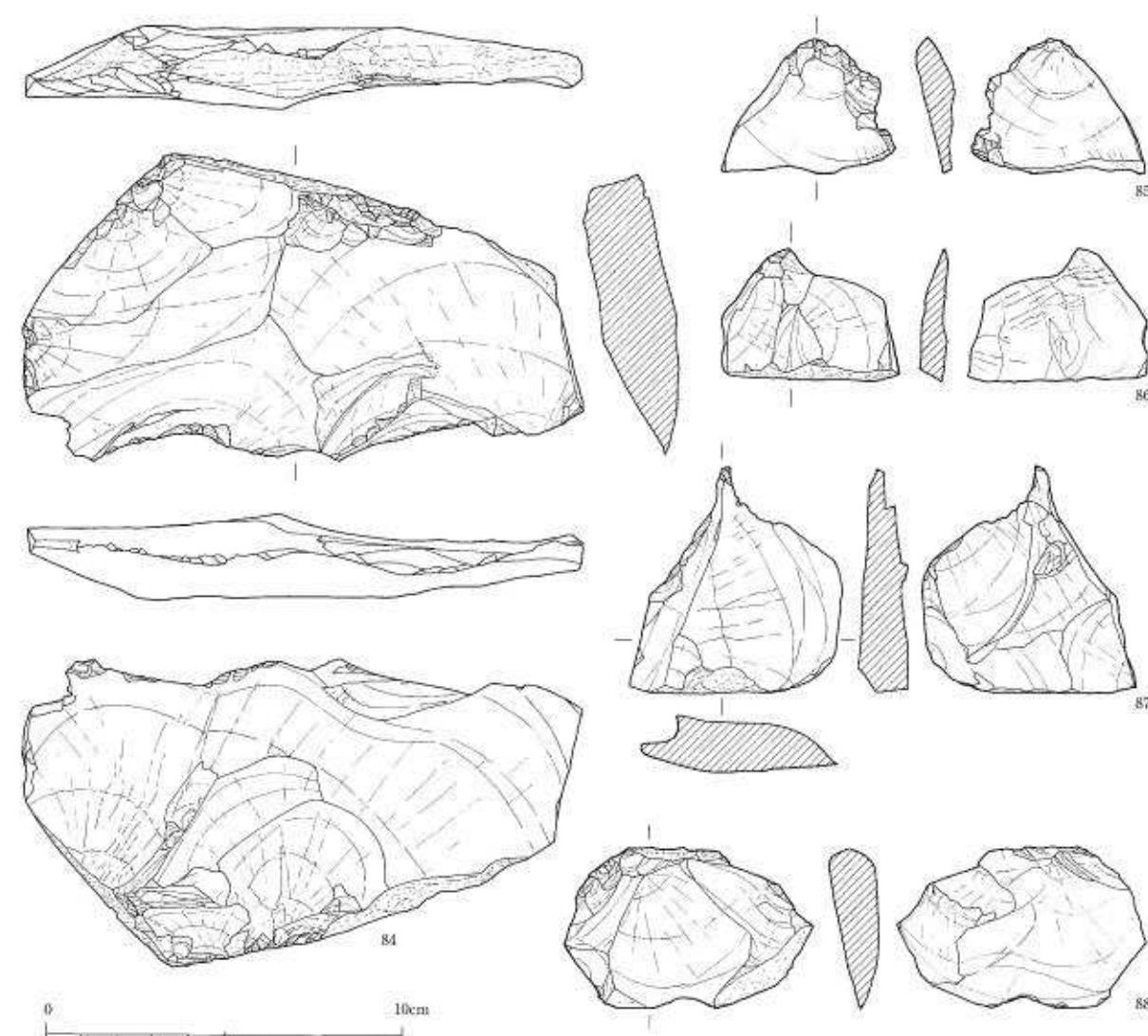
81は製塙土器の脚部資料。グリッド4の遺構面下30~60cmで出土。胴部から脚部にかけての外面と脚部内面にユビオサエの痕跡が明瞭に残る。胴下部内面にはユビナデ調整がなされている。時期は確定できないが、弥生後期の可能性が高い。

82はグリッド4の遺構面下20~40cmに対応する79層から出土した弥生中期後葉の無頸壺。胴部の球形度は高い。胴部外面中程にハケメが僅かに残る。内面はヘラナデ調整とみられるが、摩滅のために不明瞭である。この土器は、基盤層の形成時期を示しているといえる。

83はグリッド8の遺構面下0~30cmから出土した。弥生中期後葉の台付土器の脚部。内外面とも摩滅のため器面調整は不明。脚部端が明瞭に上方へ肥厚している。

サスカイト剥片の出土

調査区中央やや南西寄りのトレンチ内で、サスカイト剥片が5点出土した。5点のうち3点は出土状態を捉えることができた。3点は、遺構面から1mほど下がったT.P.20.6m付近で近接して出土した。また残りの2点も、3点と同レベルにあった。



第25図 サスカイト剥片

サヌカイト剥片が含まれていたのは、基盤層の76層（オリーブ灰色（5GY6/1）粘シルト）であり、トレンチ下部の広い範囲にわたって水平堆積している。遺構面から0.8～1.4m下にあたる。このレベルからの出土土器はなく、よってサヌカイト剥片の時期比定もできない。基盤層の形成が弥生時代中期中葉にはほぼ完了すると考えられることから、それに近い時期の可能性もあるが、サヌカイト剥片を包含した76層は安定した堆積状況を示していて、基盤層形成の最終段階ではないことから、中期以前に遡ることも考えられる。サヌカイト剥片は散乱せず、まとまりを保ったまま安定した基盤層の形成期に包含されたといえる。

2 10-1区の発掘調査

（1）調査成果の概要

10-1区は大町遺跡の北端近くに位置する。住棟建築に伴う調査で、調査面積は966m²を測る。この調査区では盛土下と基盤層上面の2面それぞれで遺構を検出することができた。

第1遺構面は比較的水平な面で、標高はT.P.21.9～21.6mを測る。検出遺構は溝7条、土坑6基、小穴19基、耕作痕13条、畦1条、水田段差1箇所である。このうち15・20・21・22溝、その周辺の若干の土坑と耕作痕、および49土坑が正方位をとる。09-1区においては、正方位に主軸をとる遺構の多くは近世後半期に比定された。この10-1区でも正方位の遺構がその時期に比定できる可能性は高い。

一方、北東-南西の斜方位の遺構には畦、水田段差、耕作痕などがあり、かつては調査区一帯が地形に沿った水田であったことは明らかである。正方位をとる遺構との時期差は判然としないが、ただ正方位をとる遺構の多くが近世後半期に比定できるとみられることから、斜方位の遺構が先行する可能性は高い。

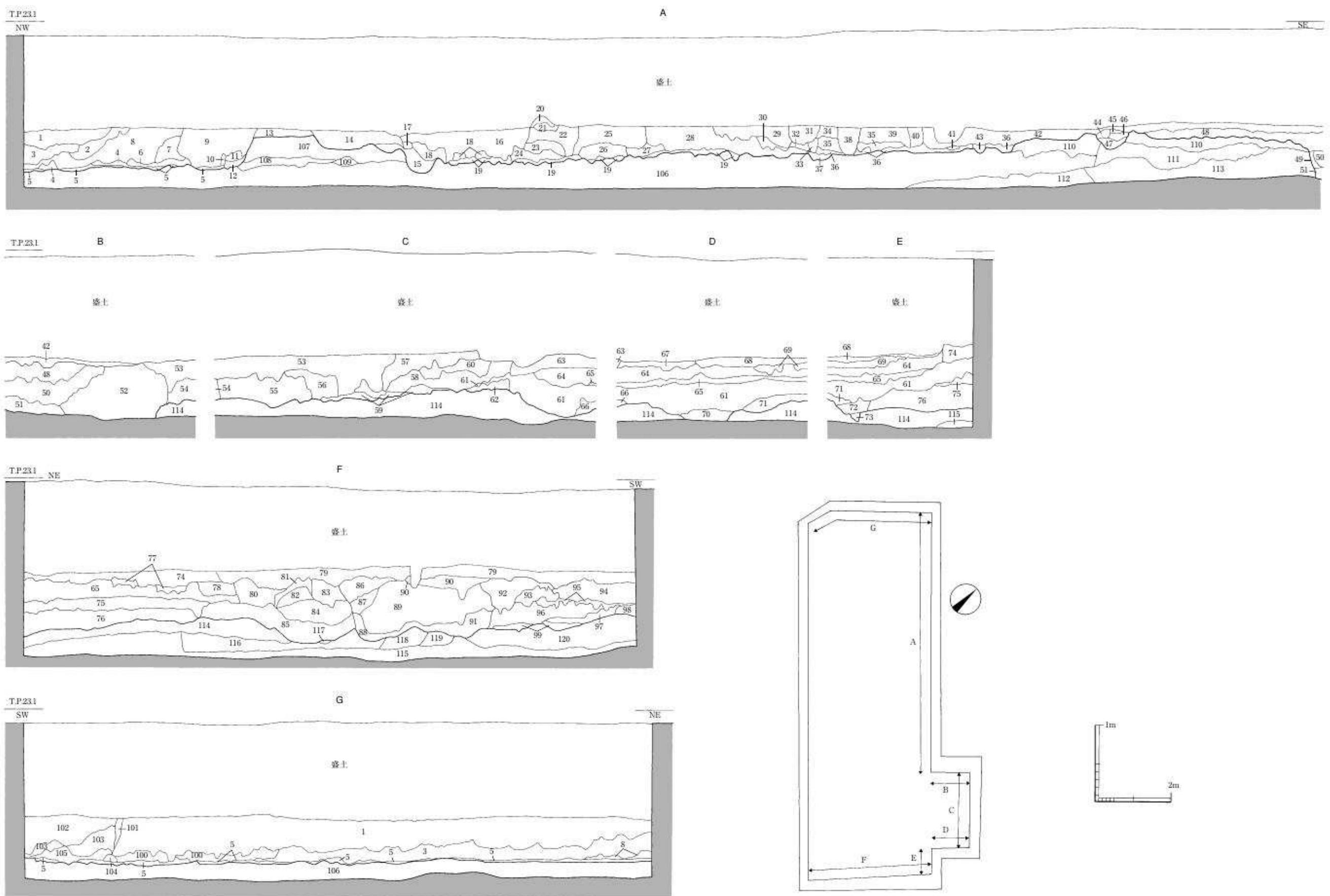
第2遺構面の標高はおおよそT.P.21.6～21.3mを測る。検出遺構は河道1条、土坑9基、小穴9基、畦1条、水田段差1箇所で、弥生時代中期後葉から中世までの遺構が同一面で検出された。水田域を形成する45畦と59水田段差は北東-南西方向に延びている。両遺構は、水田域の形成にあたって基盤層を削り込み、高低差を設けている。

出土遺物は10-1区全体で1793点・17911gを数えた。その多くは、第1遺構面と第2遺構面の間の耕作土などに包含されていたものである。

（2）調査区土層

現地表面下には府営住宅造成時の盛土が1.0m～1.8mの厚さであり、その直下が第1遺構面となる。この調査区では盛土下の近・現代の旧耕作土や床土は部分的にしか存在が認められず、しかも層厚も薄い。だが近接する10-2区では旧耕作土が約0.2mの厚さで認められるので、10-1区でも第1遺構面上に旧耕作土と床土が本来は形成されていたと考えられる。おそらく府営住宅造成時に削平されたのであろう。

第1遺構面と第2遺構面との間では、3種類の特徴的な堆積土が認められた。第1は水田耕作



第26図 10-1区土層

- 1 灰黄色 (2.5Y7/2) 砂シルト、炭化物僅かに含む、全体にやや酸化
- 2 灰オリーブ色 (5Y6/2) 砂質土、褐色 (10YR4/4) 粘質土ブロック・礫僅かに含む、織りやや欠く
- 3 灰白色 (2.5Y8/2) 砂シルト、明青灰色 (10BG7/1) 粘シルト少量含む、全体にやや酸化
- 4 灰白色 (7.5Y7/1) 砂シルト、灰黄色 (2.5Y6/2) 粗砂含む、全体にやや酸化
- 5 灰色 (7.5Y6/1) 粘土、灰色 (N6/0) 粘土含む、全体に酸化
- 6 黄褐色 (2.5Y5/3) 砂質土、礫含む、全体にやや酸化、粗質
- 7 にぶい黄褐色 (10YR5/4) 砂質土、明黄褐色 (2.5Y6/6) 粘土ブロック・礫少量含む、全体にやや酸化
- 8 灰黄色 (2.5Y7/2) 砂シルト・黄褐色 (2.5Y5/4) 砂質土混合層、炭化物・マンガン僅かに含む
- 9 黄褐色 (2.5Y5/3) 砂質土、灰黄色 (2.5Y6/2) 粘質土ブロック・礫少量含む、全体に酸化
- 10 灰色 (N6/0) 粘質土、炭化物僅かに含む、やや粗質
- 11 灰白色 (5Y7/1) 粘質土、灰オリーブ色 (5Y6/2) 砂少量含む、酸化し黄色 (5Y7/6) 化する
- 12 黄灰色 (2.5Y6/1) 粘質土、灰色 (N6/0) 粘土・炭化物僅かに含み、やや粗質
- 13 灰白色 (7.5Y7/1) 砂シルト、全体にやや酸化、織りあり
- 14 黄灰色 (2.5Y6/1) 砂質土、マンガン・細織少量含む、全体にやや酸化
- 15 灰白色 (5Y7/1) 砂シルト、細織少量含む、酸化し明黄褐色 (2.5Y6/6) 化する
- 16 灰色 (7.5Y6/1) 砂質土、明黄褐色 (2.5Y7/6) 砂質土・礫少量含む、全体に酸化
- 17 黄色 (2.5Y7/8) 砂質土、炭化物・細織少量含む
- 18 灰色 (7.5Y6/1) 砂シルト、マンガン少量含む、酸化し明黄褐色 (2.5Y7/6) 化する
- 19 灰色 (7.5Y5/1) 粘シルト、灰白色 (7.5Y7/1) 粘シルト・炭化物少量含む、部分的に酸化
- 20 灰白色 (5Y7/2) 砂質土、細織含む、粗質
- 21 灰黄色 (2.5Y7/2) 砂質土、明黄褐色 (2.5Y7/6) 砂質土・細織少量含む、織りあり
- 22 灰白色 (7.5Y7/2) 砂質土、灰白色 (7.5Y7/1) 粗砂含む、織多包、粗質
- 23 灰色 (N6/0) 粘土・明黄褐色 (2.5Y6/6) 砂質土混合層、灰白色 (7.5Y8/1) 砂・炭化物僅かに含む
- 24 にぶい黄色 (2.5Y6/3) 砂質土、灰色 (N6/0) 少量含む、粗質
- 25 灰オリーブ色 (7.5Y6/2) 砂質土、灰白色 (7.5Y7/1) 粗砂含む、織多包
- 26 灰色 (7.5Y6/1) 粘質土・灰オリーブ色 (5Y5/2) 砂質土混合層、にぶい黄色 (2.5Y6/4) 粗砂少量含む
- 27 にぶい黄色 (2.5Y6/4) 砂質土、同色の砂・礫含む
- 28 灰黄色 (2.5Y6/2) 砂シルト、明黄褐色 (2.5Y6/6) 粘質土ブロック・礫少量含む
- 29 灰白色 (7.5Y7/1) 砂質土、同色の砂・灰色 (7.5Y5/1) 粘シルト含む、粗質
- 30 灰色 (7.5Y5/1) 砂シルト、灰白色 (7.5Y7/1) 砂・炭化物・織少量含む
- 31 灰色 (7.5Y7/1) 砂・灰色 (7.5Y6/1) 粘シルトブロック・細織少量含む
- 32 灰色 (5Y6/1) 砂シルト・オリーブ黄色 (5Y6/3) 砂混合層、細織少量含む
- 33 灰色 (5Y5/1) 砂シルト・灰白色 (5Y7/1) 砂質土混合層、細織含む、粗質
- 34 灰白色 (2.5Y7/1) 砂質土、灰色 (7.5Y5/1) 粘質土ブロック・細織少量含む
- 35 灰白色 (5Y7/2) 砂質土・灰色 (5Y5/1) 粘シルト混合層、織・破砕織少量含む、全体にやや酸化
- 36 にぶい黄色 (2.5Y6/3) 砂質土、灰白色 (2.5Y7/1) 粘質土・炭化物少量含む
- 37 灰黄色 (2.5Y6/2) 粘質土、青灰色 (10BG6/1) 粘土ブロック僅かに含む、酸化し明黄褐色 (10YR6/6) 化する
- 38 灰白色 (7.5Y7/1) 砂質土、暗灰色 (2.5Y5/2) 粘質土少量含む、織多包
- 39 灰白色 (10Y7/1) 砂シルト、灰色 (10Y5/1) 粘シルトブロック・明黄褐色 (2.5Y7/6) 粘質土少量含む
- 40 灰オリーブ色 (5Y6/2) 砂・灰色 (7.5Y5/1) 砂質土・織少量含む
- 41 にぶい黄色 (2.5Y6/3) 砂質土、暗灰色 (2.5Y4/2) 砂質土僅かに含む、粗質
- 42 黄灰色 (2.5Y6/2) 砂質土、織含む、全体にやや酸化、粗質
- 43 灰白色 (7.5Y7/1) 粗砂、細織僅かに含む
- 44 灰オリーブ色 (5Y6/2) 砂質土、同色の砂含む、全体にやや酸化
- 45 灰オリーブ色 (5Y6/2) 砂質土・灰色 (N6/0) 粘土混合層、全体に酸化
- 46 灰色 (7.5Y6/1) 砂質土、灰色 (N6/0) 砂質土少量含む、全体にやや酸化
- 47 灰白色 (7.5Y7/1) 砂質土、同色の砂含む、全体にやや酸化
- 48 灰黄色 (2.5Y6/2) 砂シルト、炭化物・細織少量含む、酸化し明黄褐色 (2.5Y6/6) 化する
- 49 灰白色 (5Y7/1) 砂シルト、灰色 (N6/0) 粘土ブロック少量含む、粗質
- 50 明黄褐色 (2.5Y6/6) 粗砂、灰白色 (2.5Y7/1) 粘質土ブロック・灰色 (N6/0) 粘土ブロック少量含む
- 51 灰白色 (2.5Y7/1) 粘質土、黄褐色 (2.5Y5/4) 粗砂含む、酸化しにぶい黄色 (2.5Y6/4) 化する
- 52 灰白色 (2.5Y7/1) 粘質土・黄褐色 (2.5Y5/3) 砂質土混合層、酸化し明黄褐色 (10YR6/6) 化する
- 53 灰白色 (2.5Y7/1) 粘質土、黄灰色 (2.5Y6/1) 粘質土少量含む、酸化し明黄褐色 (2.5Y6/6) 化する
- 54 暗灰黄色 (2.5Y5/2) 砂シルト、炭化物・マンガン少量含む、酸化し灰黄色 (2.5Y7/2) 化する
- 55 灰黄色 (2.5Y6/2) 砂質土、黄灰色 (2.5Y6/1) 粗砂・織含む、酸化し明黄褐色 (2.5Y6/6) 化する
- 56 灰オリーブ色 (5Y6/2) 砂質土、にぶい黄色 (2.5Y6/3) 粗砂・灰白色 (5Y6/1) 粘質土ブロック・織含む
- 57 灰色 (5Y6/1) 砂質土、灰白色 (5Y7/1) 粘シルトブロック・灰色 (N6/0) 粘質土少量含む、全体にやや酸化
- 58 灰色 (7.5Y6/1) 砂シルト、灰白色 (7.5Y5/1) 粘質土・明黄褐色 (2.5Y6/6) 粘質土・織少量含む
- 59 黄灰色 (2.5Y5/1) 砂シルト、にぶい黄色 (2.5Y6/4) 粗砂少量含む、酸化し明黄褐色 (2.5Y6/6) 化する
- 60 灰白色 (7.5Y7/1) 砂質土、灰白色 (2.5Y7/8) 砂質土・織少量含む、全体に酸化、粗質
- 61 灰白色 (N7/0) 粘土、炭化物少量含む、鉄分沈着、酸化し灰色 (N5/0) 化する
- 62 灰白色 (N7/0) 粘土、61層に近似するが酸化度やや低い
- 63 灰白色 (5Y7/1) 砂質土、同色の砂・明黄褐色 (2.5Y7/6) 砂質土・織少量含む
- 64 灰白色 (N7/0) 粘土、61層に近似するが酸化度より高い
- 65 灰白色 (N7/0) 粘土、61層に近似するがにぶい黄色 (2.5Y6/4) 砂含む
- 66 灰白色 (N7/0) 粘土、61層に近似するが灰白色 (5Y7/1) 砂・明黄褐色 (10YR6/6) 砂少量含む
- 67 灰白色 (5Y7/2) 砂・織僅かに含む、全体にやや酸化
- 68 灰白色 (7.5Y7/1) 砂質土、同色の粗砂含む、織多包、粗質
- 69 灰色 (5Y6/1) 砂シルト、同色の砂・織含む、粗質
- 70 灰色 (N6/0) 粘シルト、同色の砂・炭化物・鉄分少量含む
- 71 灰白色 (N7/0) 粘土、61層に近似するが鉄分少なく織り欠く
- 72 灰白色 (N7/0) 粘質土、にぶい黄褐色 (10YR6/4) 粗砂少量含む、酸化し灰色 (N5/0) 化する
- 73 灰色 (N6/0) 砂シルト、灰白色 (7.5Y7/1) 砂・炭化物僅かに含む、全体に酸化
- 74 灰白色 (5Y7/2) 砂シルト、同色の砂質土・明黄褐色 (2.5Y7/6) 砂質土・灰オリーブ色 (7.5Y6/2) 砂質土含む
- 75 灰白色 (N7/0) 粘土、61層に近似するがマンガン含む
- 76 灰白色 (N7/0) 粘土、61層に近似するが酸化度低い
- 77 灰オリーブ色 (5Y6/2) 砂質土、暗灰黄色 (2.5Y5/2) 粘質土ブロック・明黄褐色 (2.5Y6/6) 粘質土ブロック含む
- 78 灰白色 (N7/0) 粘土、炭化物僅かに含む、酸化し灰色 (N6/0) 化する
- 79 灰黄色 (2.5Y7/2) 砂質土、灰白色 (7.5Y7/1) 粗砂含む、織・破砕織多包、全体に酸化、粗質
- 80 灰白色 (2.5Y7/1) 砂質土、明黄褐色 (10YR6/6) 砂質土・灰白色 (5Y6/1) 粗砂・織含む、粗質
- 81 灰白色 (5Y7/2) 砂シルト、灰白色 (N7/0) 粘土僅かに含む、全体にやや酸化
- 82 灰白色 (N7/0) 粘土、灰白色 (5Y7/2) 粘土・炭化物・鉄分少量含む、酸化し灰色 (N5/0) 化する
- 83 灰色 (5Y6/1) 砂シルト、灰白色 (5Y7/1) 粘シルト・灰オリーブ色 (5Y6/2) 砂質土・炭化物含む、織りあり
- 84 灰白色 (N7/0) 粘土、炭化物・マンガン・鉄分含む、酸化し灰色 (N5/0) 化する
- 85 灰白色 (N7/0) 粘土、同色の砂・炭化物・鉄分・織少量含む、織りやや欠く
- 86 灰色 (10Y6/1) 砂質土、同色の砂・明黄褐色 (2.5Y6/6) 粘質土ブロック・織含む、粗質、織りあり

- 87 灰白色 (10Y7/2) 砂シルト、明黄褐色 (2.5Y6/6) 粘質土ブロック・礫含む。粗質
 88 明青灰色 (10BG7/1) 粘土・黄色 (2.5Y8/6) 粘土混合層、灰白色 (2.5Y7/1) 砂・灰色 (N5/0) 粘土ブロック含む
 89 灰色 (10Y6/1) 砂質土、灰色 (5Y6/1) 粗砂・明黄褐色 (2.5Y6/6) 粘質土ブロック少量含む。全体にやや酸化
 90 灰色 (5Y6/1) 砂質土、灰白色 (2.5Y7/1) 砂・明黄褐色 (2.5Y7/6) 砂質土含む。酸化しオリーブ黄色 (5Y6/3) 化する
 91 灰白色 (N7/0) 粘土、明青灰色 (10BG7/1) 粘土ブロック・炭化物少量含む。酸化し灰色 (N6/0) 化する
 92 灰白色 (2.5Y7/1) 砂シルト、灰色 (N6/0) 粘土ブロック・細礫僅かに含む。全体に酸化
 93 灰白色 (N7/0) 粘土、灰白色 (5Y7/2) 粘質土・灰オリーブ色 (5Y6/2) 粗砂少量含む。酸化し灰色 (N5/0) 化する
 94 にい黄色 (2.5Y6/3) 粗砂、黄灰色 (2.5Y6/1) 粘土ブロック・礫少量含む。全体にやや酸化
 95 灰白色 (5Y7/2) 粘質土、灰白色 (N7/0) 粘土・炭化物僅かに含む。繊りあり
 96 灰白色 (N7/0) 粘土、灰オリーブ色 (5Y5/2) 砂・炭化物・鉄分少量含む。酸化し灰色 (N6/0) 化する
 97 灰白色 (N7/0) 粘土、灰白色 (7.5Y7/1) 粗砂含む。繊り欠く
 98 灰白色 (N7/0) 粘土、炭化物・鉄分僅かに含む。繊りやや欠く
 99 灰白色 (N7/0) 粘土、96層に近似するが粘性あり
 100 黄褐色 (2.5Y5/3) 砂質土、にい黄色 (2.5Y6/3) 砂シルト・礫含む。全体にやや酸化
 101 灰黃色 (2.5Y6/2) 砂シルト、同色の砂・マンガン僅かに含む
 102 灰色 (7.5Y6/1) 砂シルト・にい黄色 (2.5Y6/3) 砂質土混合層、明黄褐色 (2.5Y6/6) 砂質土・礫少量含む
 103 黄灰色 (2.5Y6/1) 砂質土、暗黄褐色 (2.5Y6/6) 砂質土・灰色 (N6/0) 粘質土含む。酸化し灰黄色 (2.5Y6/2) 化する
 104 灰色 (5Y6/1) 砂シルト、灰黄色 (2.5Y6/2) 砂僅かに含む。繊り欠く
 105 黄褐色 (2.5Y5/3) 粘質土・青灰色 (5B6/1) 砂シルト混合層、灰黄色 (2.5Y6/2) 粗砂少量含む
 106 灰色 (5Y6/1) 粘土、炭化物含む。酸化し明黄褐色 (10YR6/6) 化する
 107 灰白色 (5Y7/2) 粘土、炭化物含む。酸化し明黄褐色 (2.5Y6/8) 化する
 108 灰白色 (5Y7/1) 粘土、炭化物少量含む。酸化し明黄褐色 (2.5Y6/8) 化する
 109 灰色 (7.5Y6/1) 粘土、炭化物含む。酸化し明黄褐色 (2.5Y7/6) 化する
 110 灰黄色 (2.5Y7/2) 粘土。酸化し明黄褐色 (2.5Y6/8) 化する
 111 灰白色 (5Y7/1) 粘土、炭化物僅かに含む。酸化しにい黄色 (2.5Y6/4) 化する
 112 灰白色 (10YR7/1) 粘土、炭化物・マンガン少量含む。全体にやや酸化、やや粗質
 113 灰白色 (10YR7/1) 粘土、112層に近似するが細質
 114 灰白色 (7.5Y7/1) 粘土、炭化物・マンガン少量含む。酸化し灰黄色 (2.5Y7/2) 化する
 115 灰色 (5Y7/1) 粘土、炭化物・鉄分少量含む。全体に酸化
 116 灰白色 (5Y7/1) 粘土、115層に近似するが酸化度低い
 117 明黄褐色 (10YR6/6) 粗砂、全体に酸化
 118 明青灰色 (10BG7/1) 粘土、灰色 (N6/0) 粘土・鉄分僅かに含む。繊り欠く
 119 灰白色 (7.5Y7/1) 粘土、炭化物・鉄分僅かに含む。酸化し明黄褐色 (2.5Y7/6) 化する
 120 灰白色 (7.5Y7/1) 粘土、同色の砂・炭化物・鉄分僅かに含む

土（4・5・10・11・12・18・19・24層）である。灰色系の粘土・粘質土を基調としていて、砂が混じることもある。この水田耕作土は調査区の北西部から北西辺にかけて基盤層上に薄く、しかし明確に堆積している。ことに45畳の北西裾付近では厚く堆積していて（10・11・12層）、畦と一体で耕作地が形成された状況を示している。この水田耕作土からは弥生～古墳時代の時期不詳土器4点・180g、古墳時代以後の土師器1点・2gが出土したのみで、時期を明確に示す遺物の出土はなかった。

第2は水田耕作土の上にのる灰白色・灰黄色系の砂シルト・砂質土を基調とした層（1・2・3・14・15・16・28・39・42・48・79）で、粘土・粘質土ブロックを含み、土壤化のあまり進んでいない粗質土である。また酸化により全体が多少変色している。こうした土質の特徴から、畠作に伴う客土の可能性が高い。この層は調査区壁面の土層観察A・C・F・Gラインで存在が認められたように、調査区全体に存在していて、第1遺構面の基盤の大半を形成している。

この畠地耕作土は、水田耕作土よりも上に堆積していて、瓦器をはじめとした14世紀を下限とする土器類が出土している。よって、水田耕作土の廃絶後から14世紀にかけて形成されたと考えられる。

第3は流水の堆積作用により形成されたとみられる層（6・7・9・22・25・26層）である。黄褐色あるいは灰色系の砂質土で、河道内堆積土と類似している。この流水堆積層を把握できるのは、調査区の北西部と南東部の一部だけであるが、45畳の北西裾や畦より少し南東寄りの土層観察Aラインで明らかのように、流水堆積層は水田耕作土より上部にある一方、畠地耕作土には切り込まれている。したがって、水田耕作を廃絶させた原因が洪水であり、その洪水により流入

した堆積土であると考えることができる。そして、流入土の堆積後、10-1区周辺では客土を加えて耕作地を整え、14世紀代にかけて畠作が営まれたと考えられる。

そして畠地形成後の状況については、第1遺構面の北西-南東方向の水田跡が近世に比定できるので、中世後半期以降再び水田が形成されたとみられる。

なお調査区土層観察B・C・D・E・Fラインでは、土層の大半が54河道の堆積土であった。またGラインでは水田耕作土とそれを覆う畠地耕作土が顕著に認められた。基盤層は106~120層で、灰色系の粘土が主体であるが、いずれも酸化のため黄褐色化している。

(3) 第1遺構面の検出遺構と出土遺物

検出遺構は溝7条、土坑6基、小穴19基、耕作痕13条、畦1条、水田段差1箇所である。そのうち主な遺構を取り上げる。

水田遺構

31水田段差、36畦および北西-南東方向に平行あるいは直交する38~44・47・48耕作痕の一群が水田遺構である。なお第1遺構面の検出時に、45畦の上面が不鮮明ながらも既に現れていたが、本来は第2遺構面に伴う畦である。

36畦に伴う遺物が陶器1点・1gだけなので水田遺構の時期は不詳であるが、09-1区の調査成果からするとほぼ正方位をとる溝などは近世後半期に比定できる可能性が高いことから、水田遺構はそれより以前の中世の畠地以降、近世後半期までの間に形成されたと考えられる。

20・21・22溝

調査区のほぼ中央に位置する溝群で、N-13~21°-Eの比較的南北方向に近い主軸をとる。また3条は直線上に並んでいることから、一連のものである可能性が高い。

深さは20溝が3cm、21溝が12cm、22溝が10cmを測るにすぎない。平面規模に比して浅いことから、上面は幾分削平されているとみられる。平面の形状はいびつである。

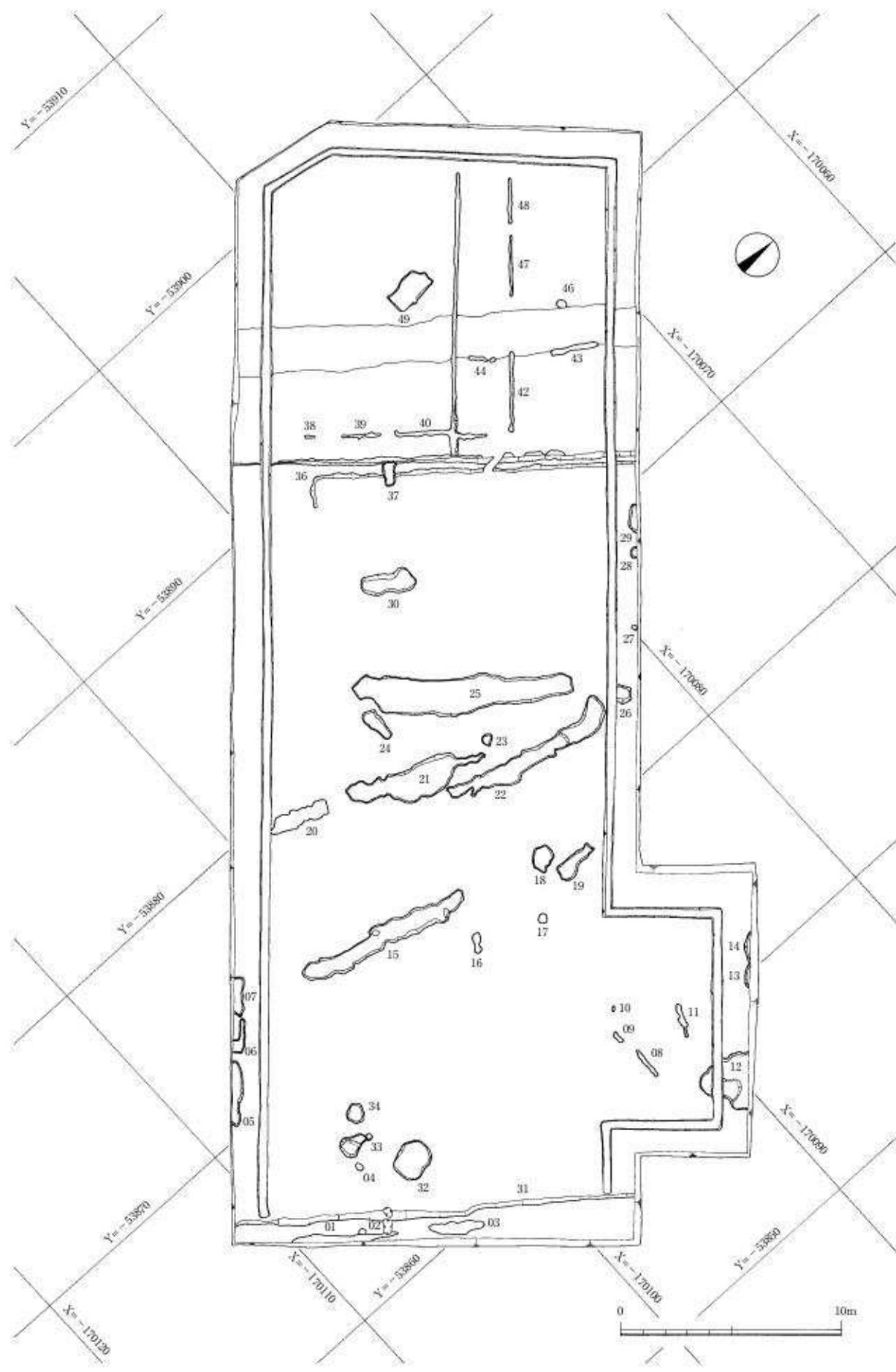
覆土は20溝が灰黄色(2.5Y6/2)砂シルト・黄褐色(2.5Y5/3)粘質土の混合層、21溝は底上に灰黄色(2.5Y6/2)粘質土が部分的に堆積するが大半が灰色(5Y6/1)砂シルトで、両溝とも砂シルト基調である。これに対して22溝では上層が灰色(5Y6/1)粘シルト、下層が黄褐色(2.5Y5/4)粘質土で、底上に灰色(5Y5/1)粘シルトが部分的に認められ、粘シルト基調である。

出土遺物は、21溝からは須恵器1点・11g、22溝からも須恵器1点・21gが出土しただけで、ともに1点のみの小破片であることから遺構の時期を示す資料とはみなしがたい。また20溝からの出土遺物はなかった。

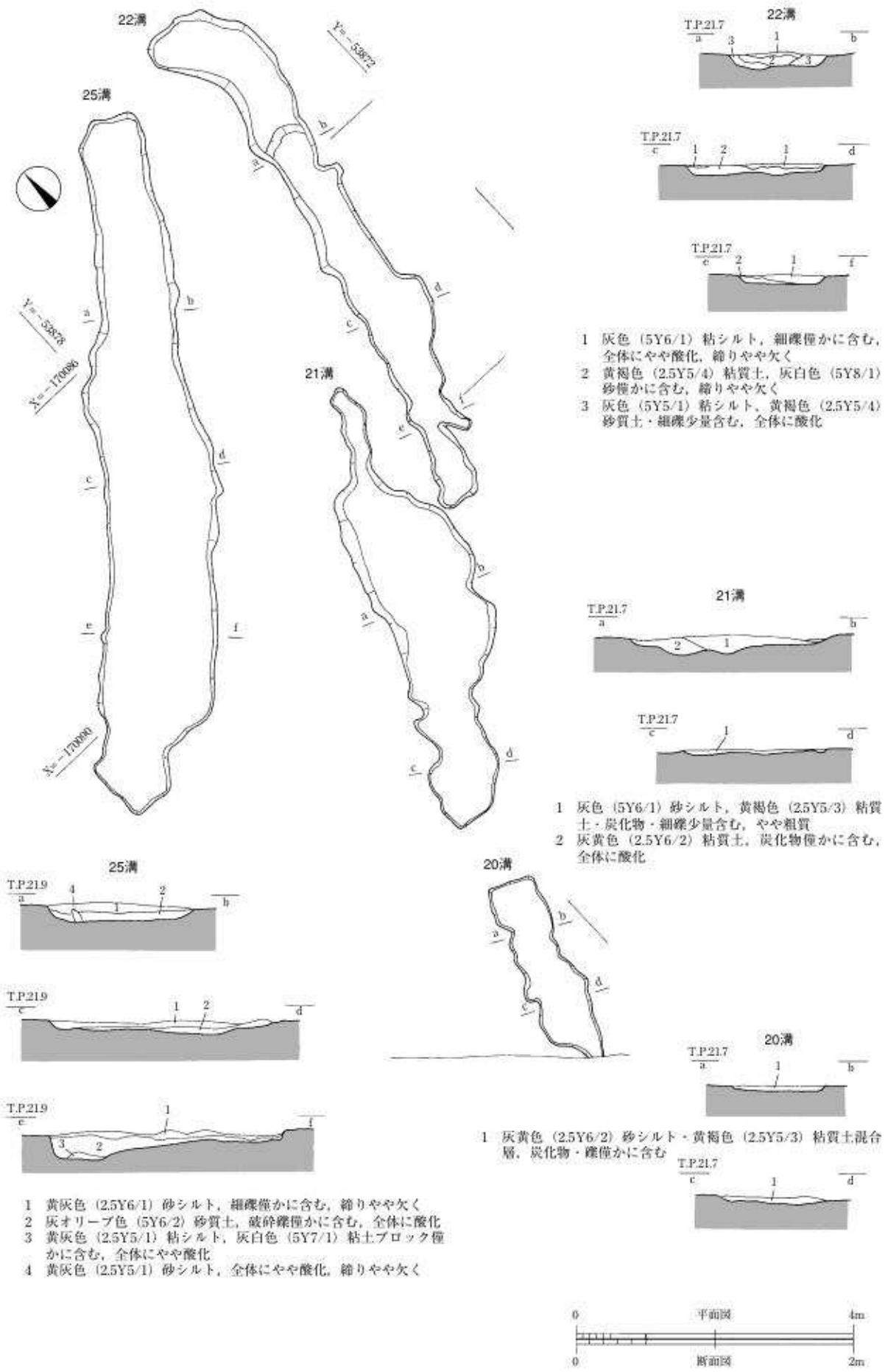
この3条の溝と関連する可能性のあるのが15溝と考えられる。また主軸に若干の方向差はあるが、25溝も平面形状や堆積土の様相が類似していて、一群のものと捉えることができよう。

25溝

20~22溝の近くに位置する25溝は長さ10.1m、幅1.5m、深さ21cmを測る。主軸をN-42°-Eにとり、北東-南西の斜方位により近い。しかし既述したように平面形状や堆積土の様相が20~



第27図 10-1区第1遺構面遺構全体



第28図 20溝・21溝・22溝・25溝

22溝に類似している。

覆土は上下に大別でき、上層は黄灰色（2.5Y6/1）砂シルト、下層は灰オリーブ色（5Y6/2）砂質土である。部分的に黄灰色（2.5Y5/1）粘シルトや黄灰色（2.5Y5/1）砂シルトを含む。この砂シルト基調の覆土状況は20・21溝と共通する。なお出土遺物はない。

15溝

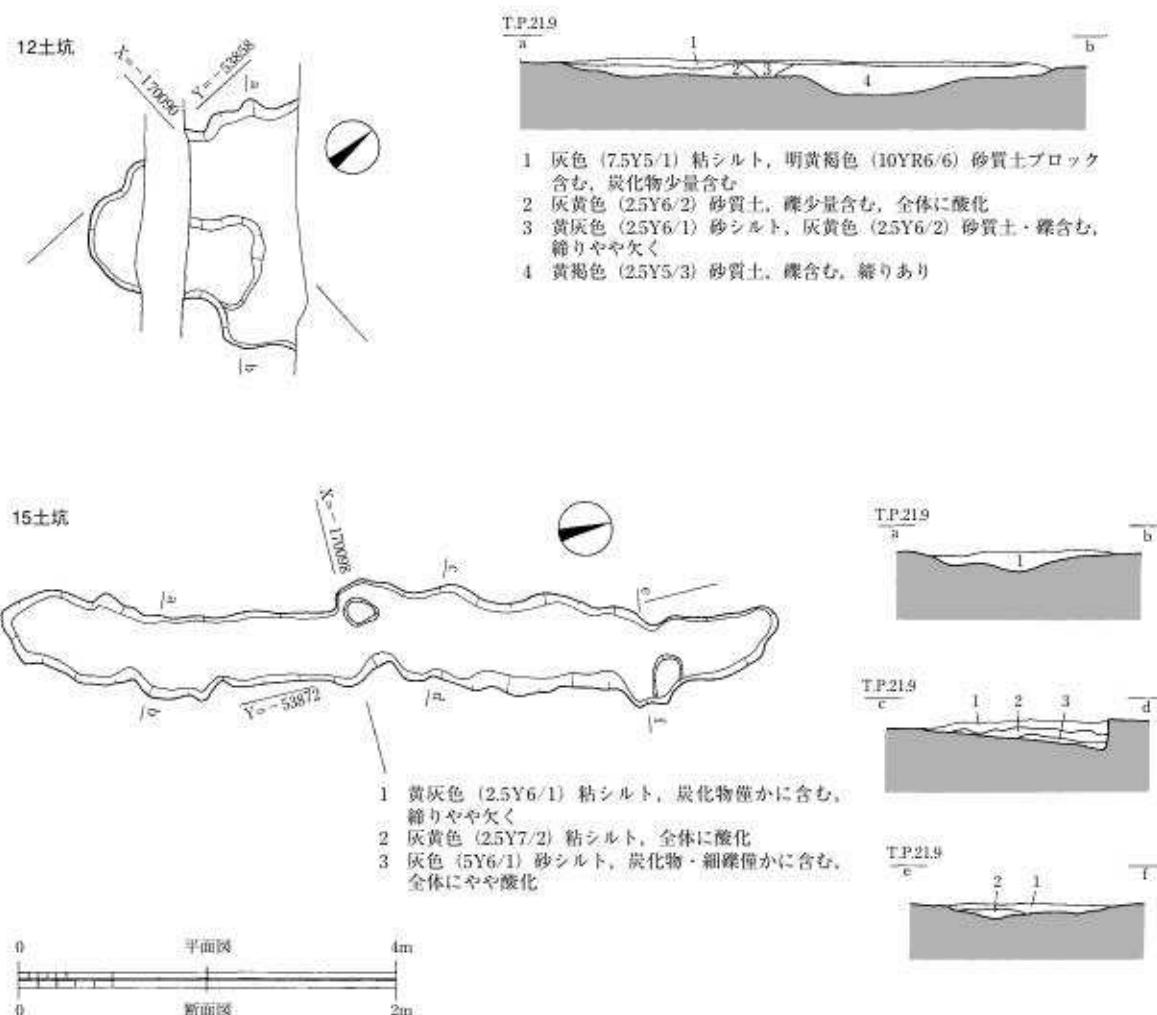
15溝は、20～22溝と約5m離れて平行している。溝の北方延長には18・19土坑があり、20～22溝のように断続する溝の一部の可能性もある。

長さ8.2m、幅1.0m、深さ14cmを測る。平面形はいびつで、20～22溝と共通している。覆土は上下に大別でき、上層は黄灰色（2.5Y6/1）粘シルト、下層は灰黄色（2.5Y7/2）粘シルトで、掘方の深い部分では灰色（5Y6/1）砂シルトが底上に堆積している。覆土が粘シルト基調である点は22溝に近い。

出土遺物はなく時期は不明であるが、20～22溝と一群をなすものと考えられる。

12土坑

調査区東端付近に位置する。調査区外に遺構の半分が伸び出ている。現状の長さ2.2m、幅2.6



第29図 12土坑・15溝

m、深さ15cmを測る。掘方は比較的明瞭である。

覆土は上下に大別でき、上層は灰色（7.5Y5/1）粘シルトの薄層、下層は黄褐色（2.5Y5/3）砂シルトで、覆土の大半を占めている。

出土遺物はなく、時期は不詳。

第1遺構面検出遺構の時期

第1遺構面検出遺構のうち、近世の遺物が出土したのは16小穴（陶器1点・2g）と36畦の北西側溝（陶器1点・1g）で、その他の遺構（21・22・41溝、30・37土坑）で弥生～古墳時代の時期不詳の土器や須恵器が出土しただけであった。したがって16小穴を除くと、明確な比定時期を求めることができない。

ただし、既述したように正方位の遺構が近世後半期に比定できるとすれば、この検出面における遺構は中世畠地の廃絶から近世後半期までの間に形成されたとみることができ、遺構から出土した遺物とも矛盾しない。

（4）第2遺構面の検出遺構と出土遺物

第2遺構面では河道1条、土坑9基、小穴9基、畦1条、水田段差1箇所の合計21基の遺構を検出した。第2遺構面は基盤層上面に該当し、過去の調査区や10-3区の遺構検出面と対応している。検出遺構のうち、主なものを取り上げる。

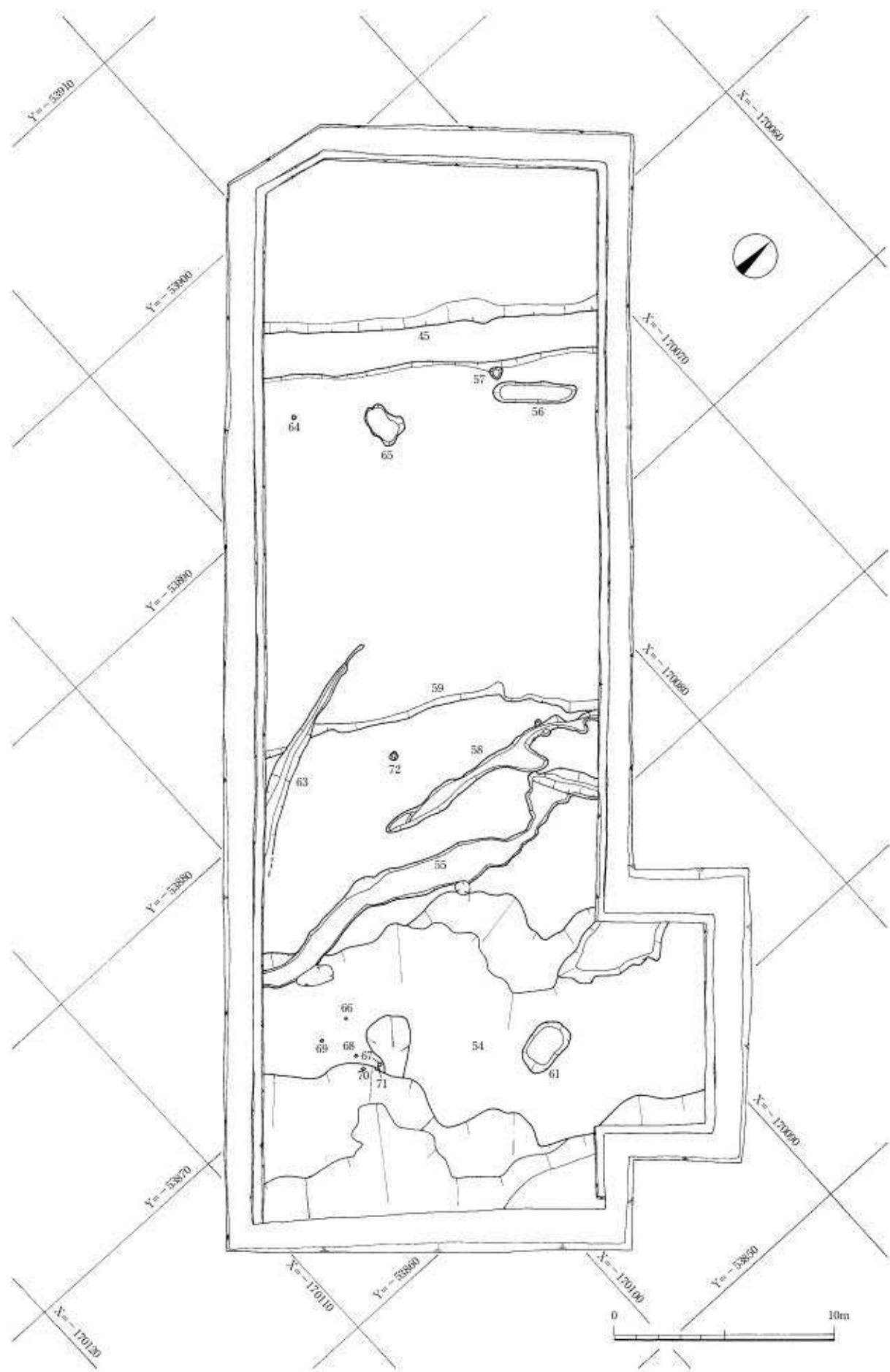
65土坑

65土坑は調査区の北西寄りの中央近くに位置する。長径2.0m、短径1.5m、深さ15cmを測る。平面形は多少いびつである。

この土坑からは379点・4168gの土器類、1点・8gの瓦および5点・77gの石器が出土した。時期不詳の弥生～古墳時代の土器を除くと、土器類の大半は弥生中期後葉の土器である。ただし古墳時代の土器や須恵器、そして瓦器も出土している。

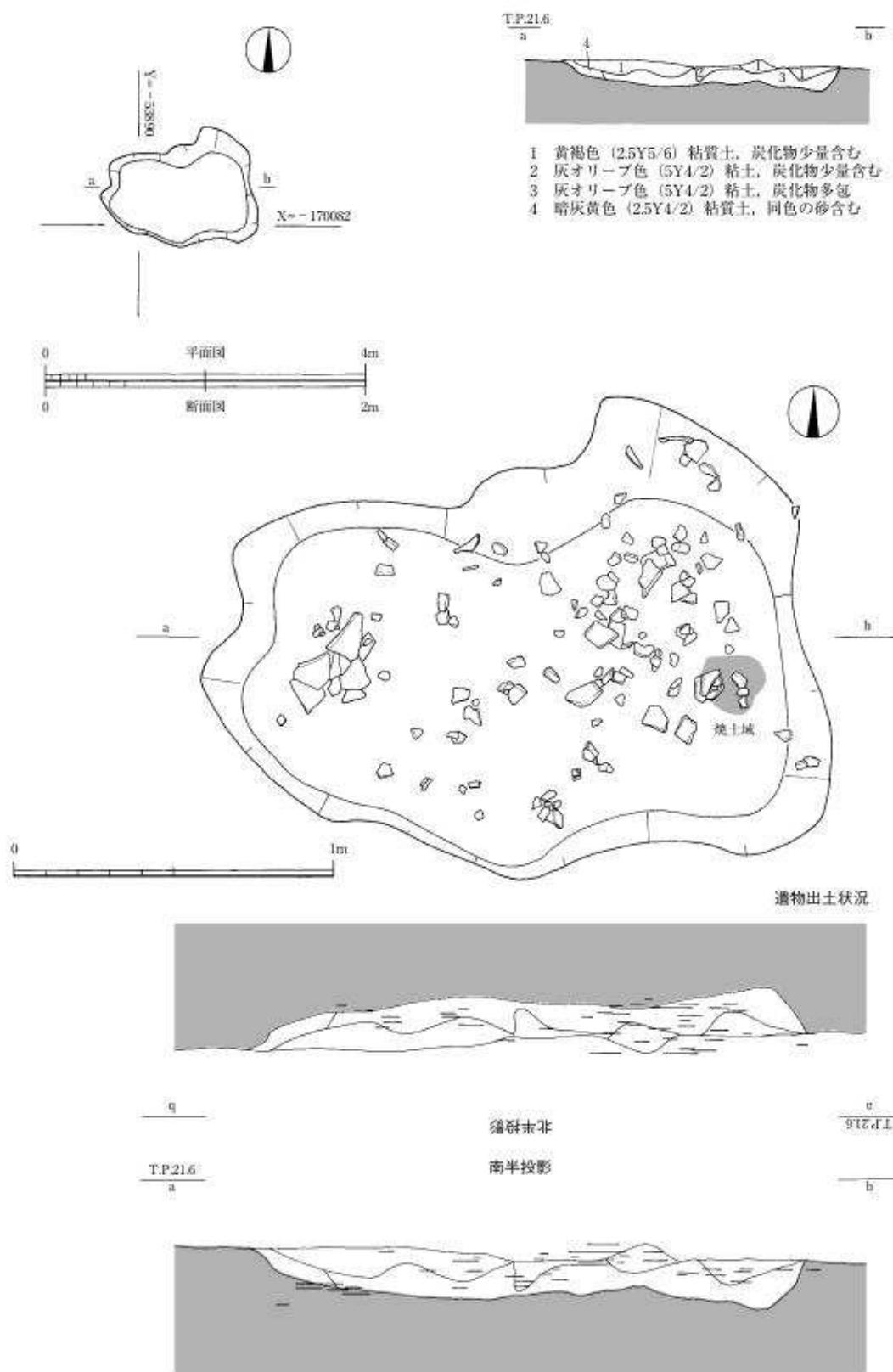
弥生～古墳時代とした時期不詳土器を除くと、古墳時代の遺物は布留式期1点・3g、古墳時代中期以降の遺物は古墳時代以後の土師器1点・29g、須恵器4点・63g、黒色土器1点・5g、瓦器17点・37g（瓦質土器1点・2gを含む）、陶器1点・6g、瓦1点・8g、鉄釘1点・4gである。このうち布留式期の土器1点以外は、65土坑検出以前にその上面で遺物集中域出土遺物として弥生中期後葉の土器などとともに取り上げたものである。本来65土坑内の上部に包含されていた遺物と、第2遺構面上に堆積した耕作土などに含まれた古墳時代以降の遺物とが混ざり、しかも65土坑内の土器数量が多いことから、その上面を遺物集中域として認識したのである。したがって65土坑は弥生中期後葉の遺構であると、改めて指摘しておく。

弥生中期後葉の土器は64点・2444gである。また石器はサスカイト製石剣の基部破片1点・25g、緑色結晶片岩製石庖丁1点・42g、砂岩製とみられる砥石1点・6g、そしてサスカイト剥片5点・13gである。これらの遺物は平面および垂直分布において偏在することなく、土坑内の各所から出土した。



第30図 10-1区第2遺構面遺構全体

土坑東端近くの底面上で、直径20cmの範囲に焼土が広がっていた。焼土は1cmほどの層厚であるにすぎず、周辺にも被熱の痕跡が認められない。土坑底面が焼成を受けて形成された焼土ではない。焼土内からは弥生中期後葉の土器1点・6g、弥生～古墳時代の時期不詳の土器19点・



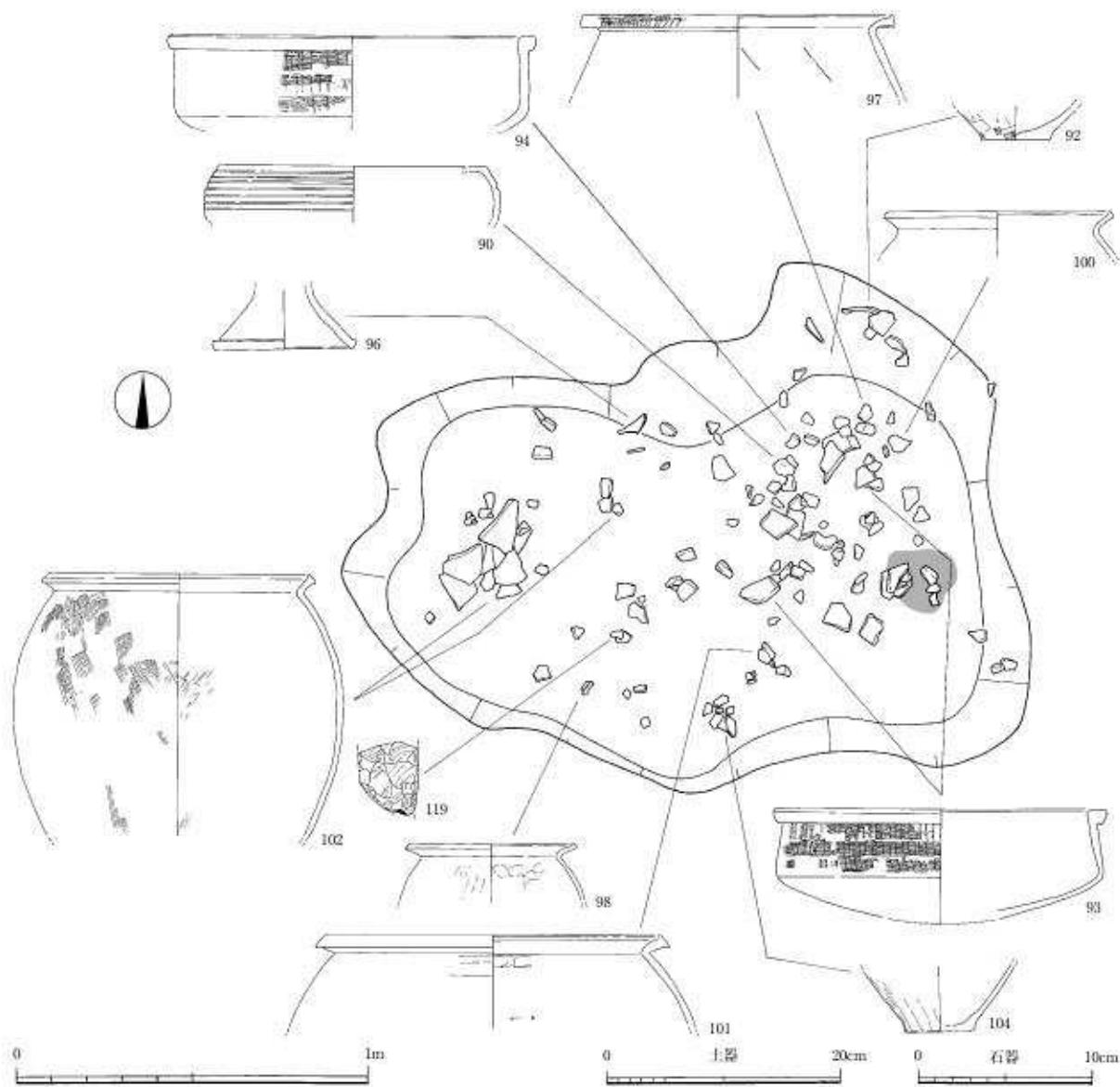
第31図 65土坑

31 g の計20点・37 g の土器破片が出土した。1点当たり平均1.85 g という重量に示されているよう、破片は極めて小さく、焼土内に混入したものとみられる。焼土は他所で形成され、土坑内に投棄されたものであろう。

土坑の覆土は上下に大別でき、上層は黄褐色（2.5Y5/6）粘質土、下層は灰オリーブ色（5Y4/2）粘土である。底上には暗灰黄色（2.5Y4/2）粘質土が薄く堆積している。この底上の暗灰黄色粘質土を除く各層には、炭化物が含まれている。

65土坑内遺物として認識し、遺物出土状況図を作成したが、その範囲内から出土した土器は107点・2096 g で、1点当たり平均20 g である。各個体の破片化が進んでいることが示されているといえるが、それはまた接合作業を行っても完形になるものが皆無であるうえに、図上でも完形に復元できるものがなかったことにも表れている。こうしたことから、65土坑は弥生中期後葉の廃棄土坑と考えられる。

出土遺物のうち土器類23点と石器4点の実測図を掲示し、また7点の土器の拓影を示した。



第32図 65土坑の遺物相

なお23点の土器類のうち19点は弥生中期後葉の土器であるが、残り4点は土坑上層に混入した遺物である。

89は広口壺。口縁部端は上下に肥厚し、端面はヘラナデにより平坦に仕上げられている。

90は大型壺の折り返し口縁部。湾曲が著しい。現状7条の凹線文が認められる。

91は壺の口縁部の小破片。口縁部は水平に張り出し、端部は上下に肥厚する。口縁部正面に3条の凹線を巡らせ、口縁部内面の端部近くに櫛歯刺突文を施している。

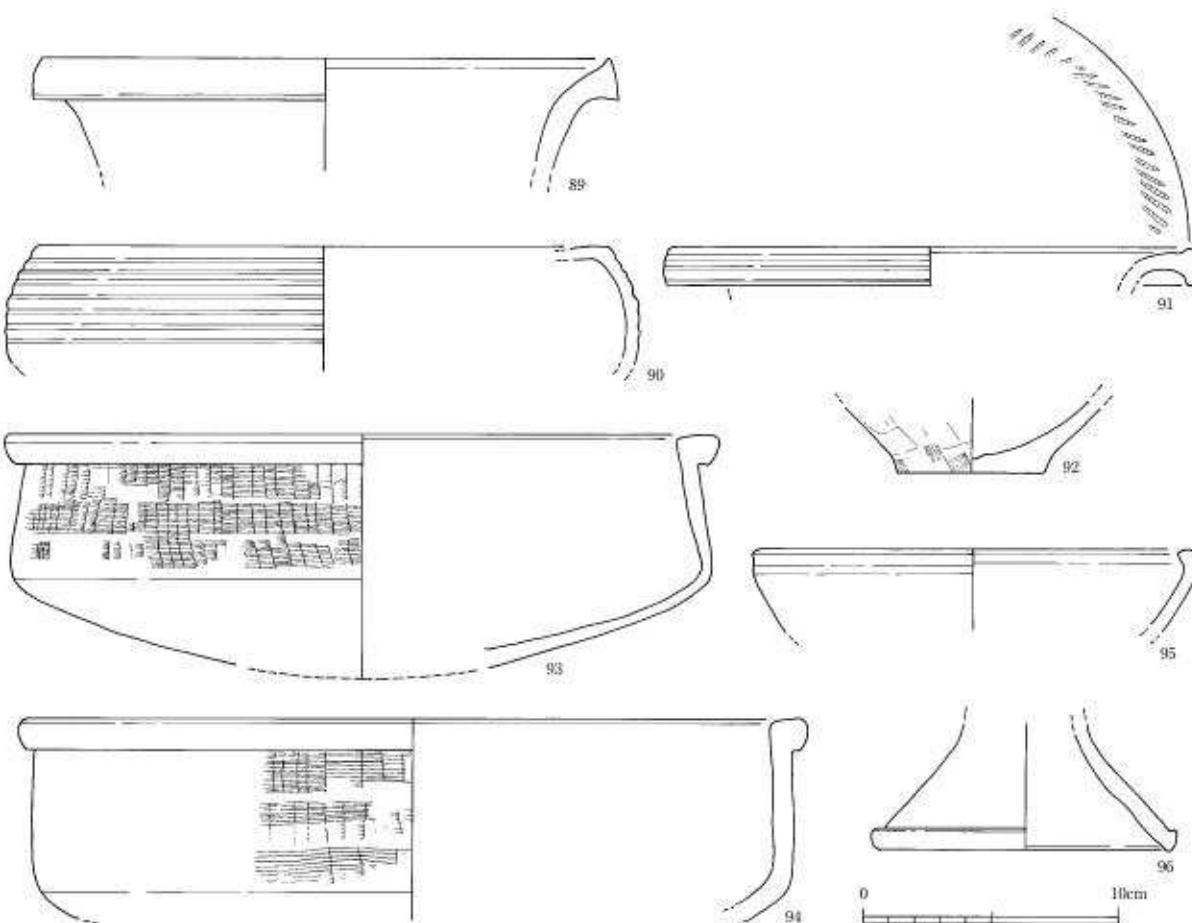
92は壺の底部。強いヘラナデにより底面は平坦に仕上げられている。また胴部外面も強いヘラナデがなされ、ハケメ状の擦痕となっている。

93は鉢。口縁部は外方に肥厚し、断面方形を呈する。胴部は内傾し、外面には簾状文を3段に施している。施文具の幅は1.5cmほどである。

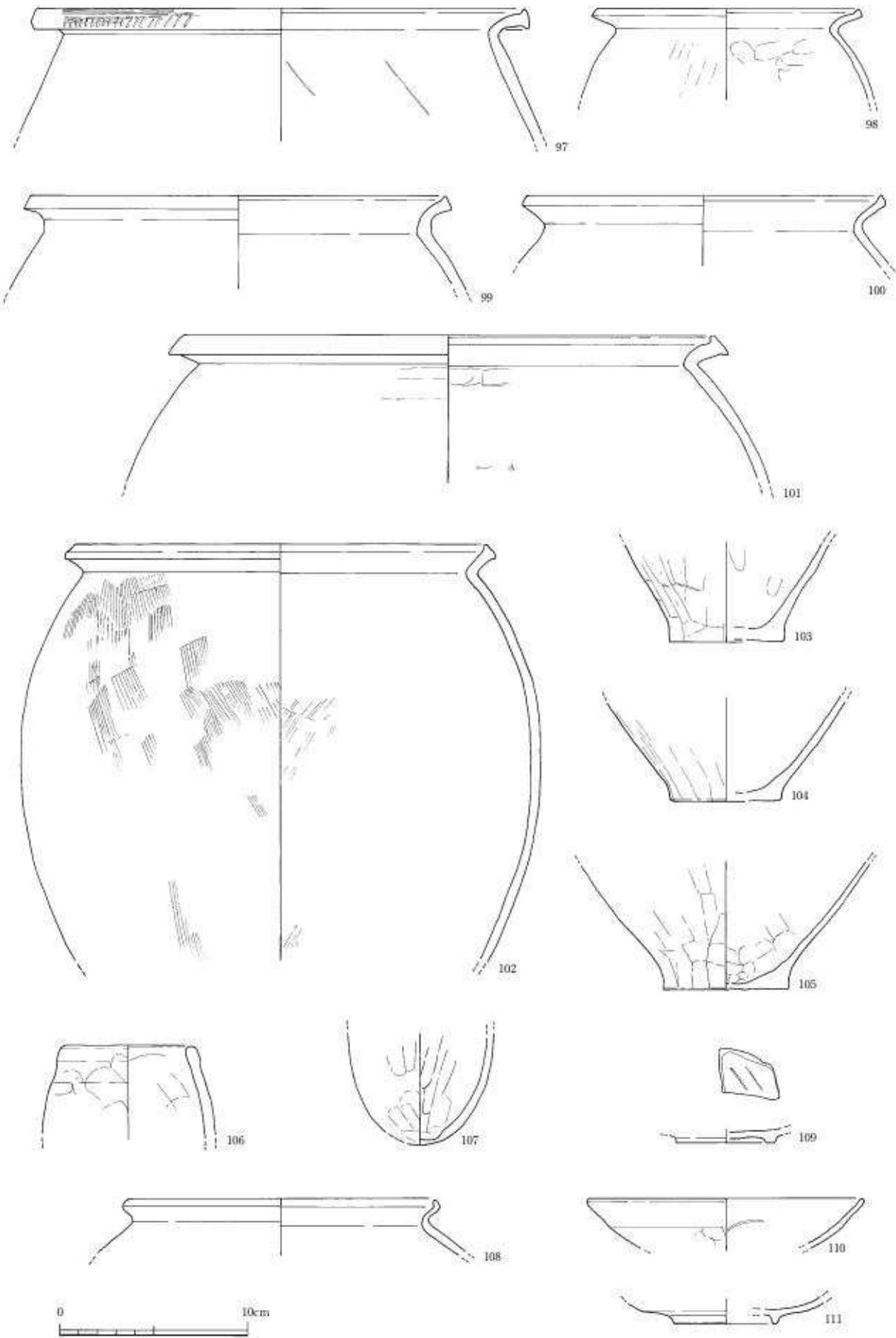
94も鉢。93と同じく口縁部は外方に肥厚する。胴部の内傾は93ほど強くはなく、むしろ直立気味である。胴部外面に簾状文が3段施されている。93と同じく幅約1.5cmの施文具を使用している。

95は高杯の杯部。口縁部は直立する。口縁部外面に浅い凹線を1条巡らせる。口縁部内面端は肥厚する。

96は高杯の脚部。脚裾部端は上方に肥厚し、面をもつ。2次焼成を受けているため外面調整は



第33図 65土坑出土土器 (1)



第34図 65土坑出土土器（2）

不明である。

97～105は甕。97は頸部が「く」字状に強く屈曲し、口縁部は短く外方に張り出す。口縁部端は上下に肥厚して面をつくり、ヘラナデがなされたのち刻目を入れている。胴部内面には強いヘラナデがなされている。

98の頸部は強く「く」字状に屈曲する。口縁部端は上方に肥厚する。胴部内面にはユビナデ・ユビオサエ調整がなされていて、調整痕が明瞭に残る。

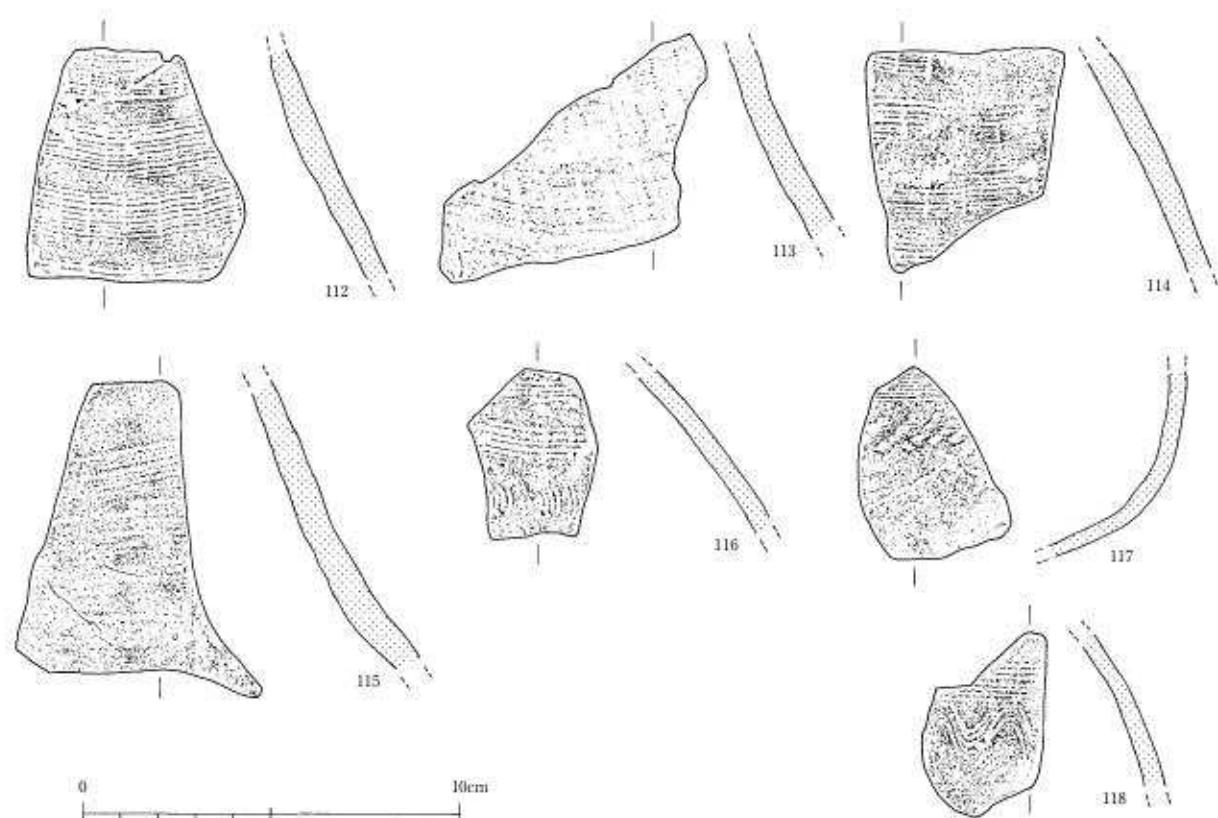
99は、頸部の屈曲が97に比べてやや緩い。口縁部端は上方に若干肥厚し、面をつくる。器面が荒れていて、胴部内外面の調整は不明である。

100の頸部も「く」字状に屈曲している。また98と同じく口縁部端は上方に肥厚して、幾分面をつくっている。

101も頸部が「く」字状に屈曲し、短い口縁部へと続く。口縁部端は上下に肥厚する。胴部外面はヘラナデ、内面はユビナデにより器面調整がなされている。内面にはハケメが僅かに残る。また頸部内面にはユビオサエの痕跡がみられる。

102も「く」字状に屈曲する頸部から口縁部が短く立ち上がる。口縁部端は上下に肥厚する。胴部外面にはハケメが残り、下半にヘラケズリが加えられている。器面の剥離により内面調整は不鮮明だが、ハケ調整ののちヘラナデが施されているとみられる。

103は胴部から底部にかけての資料。底部は少し突出し、僅かに上げ底になる。胴部外面にヘ



第35図 65土坑出土土器（3）

ラケズリ、内面にヘラナデ・ユビナデがなされている。

104も甕の胴部から底部にかけての資料。底部はほぼ平底である。胴部外面には強いヘラナデ、内面はヘラナデ・ユビナデがなされている。

105も甕の胴部から底部にかけての資料。底部は僅かに突出するがほぼ平底となる。底部から胴部にかけて大きく開く。胴部外面はヘラケズリ、内面はユビナデ・ユビオサエにより器面調整がなされている。

106は蛸壺の上半資料。口縁部にかけて内傾する。口縁部から胴部にかけて外面にはユビナデ調整がなされ、頸部に緊縛痕が残る。胴部内面調整はユビナデ・ユビオサエ。

107は蛸壺の下半資料。胴部から底部にかけて外面はユビオサエ・ユビナデ、内面はユビナデにより器面調整がなされている。

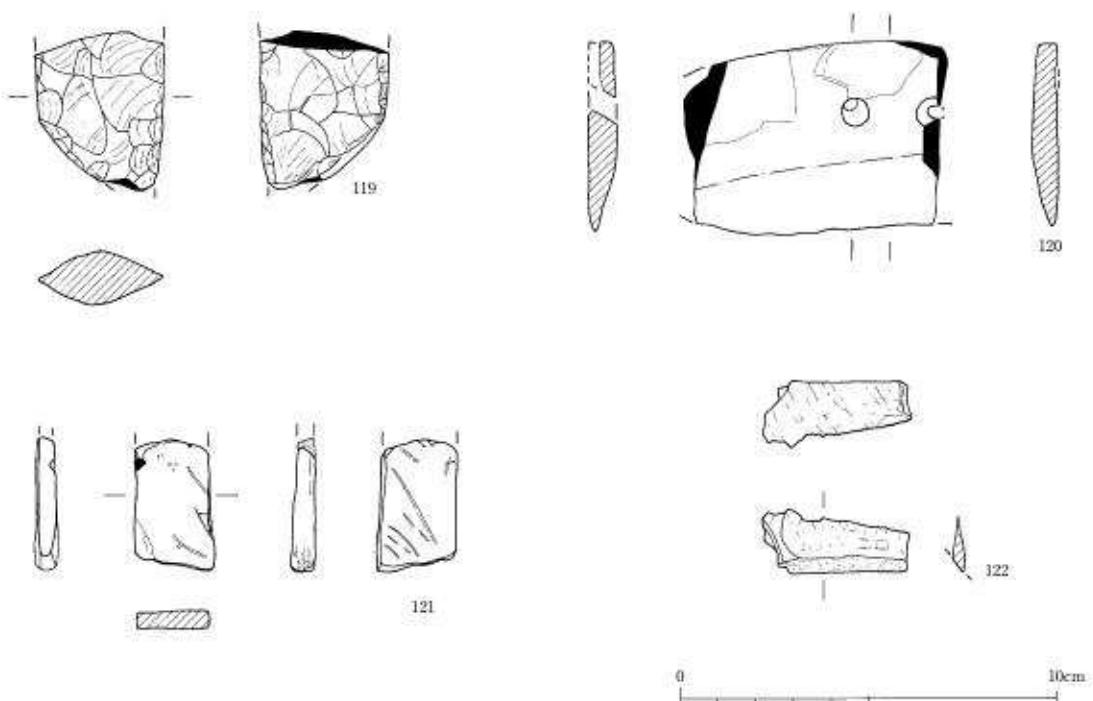
108~111は65土坑上層から出土した土器類で、65土坑の平面輪郭が明らかになる前に遺物集中域として取り上げたものである。

108は甕の胴部から口縁部にかけての資料。口縁部端は内傾して短く立ち上がる。摩滅のため内外面とも器面調整は不明。弥生後期~庄内式期に比定できよう。

109は黒色土器椀の底部。高台の断面は低い方形を呈している。11世紀代に位置付けられる。

110と111は瓦器椀。110は胴部から口縁部にかけて直線的に立ち上がる。摩滅のため内面の暗文は不明瞭である。111の高台も断面は低い方形である。ともに13世紀代に位置付けることができよう。

112~118は、器形の一部も図上復元できないほどの小破片であるため、拓影と断面図のみを示した。112は壺の胴部。簾状文が現状で4段認められる。113・114も同じく簾状文の施された壺



第36図 65土坑出土石器

の胴部で、現状で113には3段、114には4段にわたる施文がなされている。115は凹線文の施された壺の胴部。凹線文は現状で3段認められる。116は簾状文と扇状文が施された壺の胴部。簾状文は現状で2段施されている。117は凹線文と櫛歯刺突文の施された破片。高杯の杯部とみられるが、鉢胴部の可能性もある。

以上の112～117は弥生中期後葉の土器片である。これに対して118は庄内式期のものであろう。この118は遺物集中域とした65土坑上層からの出土であるので、上部の耕作土などから混入したもののか可能性が高いと考えられる。胴部に沈線文と波状文が描かれていて、類例は03-2区NR001でも出土しているが、平成21・22年度調査では唯一の事例である。

119～122は石器である。65土坑内からの出土であることから、いずれも弥生中期後葉の遺物であると考えられるが、時期の遡る可能性もあり、断定はできない。

119はサスカイト製の石剣の基部破片。側辺に沿って細部調整がなされている。石剣は07-1区でも出土している。

120は緑色結晶片岩製石庖丁。片歯である。紐懸孔が2孔穿たれている。

121は小型の砥石。肉眼観察からは砂岩製とみられる。表裏面ともに極細い筋状の研ぎ傷が斜方向に認められる。金属製品の刃部を研磨したような傷である。

122はサスカイトの剥片。一部に原石面を残す。

54河道

54河道は調査区南東端に位置する。北西岸は検出できたが、それ以外は調査区外に延び出ている。現状の最大幅は14.5mを測り、さらに南東方向に下降しているので、河道の中心は調査区南東辺のおおよそ3m南東先付近にあるのではないかとみられる。また河道底部の傾斜状況から、南西から北東方向に流水していたと考えられる。

この54河道の南西方向には03-1区のNR004と03-2区のNR001が存在しているが、先にみたようにNR001は09-1区の02河道につながると考えられるので、54河道はNR004が北東方向に流れを変えたものである可能性が高い。

調査区南端付近の河道内では流木が重なりあって出土した。いずれも自然木で、加工材はなかった。しがらみを構成する材木の可能性も考えたが、それを裏付ける根柢を欠くことから、自然木のまとまりと捉えておきたい。

河道内の堆積土は上下に大別することができ、上層は砂・砂質土・砂シルト、下層は粘土・粘質土・粘シルトを基調としている。したがって、主として下層は安定した自然堆積、上層は流水による堆積で形成されたとみられる。なお流木が堆積する面をひとつの時期の河底と判断して掘削をやめたが、09-1区の01・02河道の状況から窺えるように、さらに下方にまで河道自体は続いている。

出土遺物は弥生～古墳時代の時期不詳土器28点・236gのほか、古墳時代中期以前の土器と以降のものとがある。後者には須恵器9点・208g、瓦器（瓦質土器を含む）8点・31g、陶器1

点・7 g がある。瓦器や陶器は上層から出土しているので、第2遺構面上を覆った耕作土などからの混入の可能性が高い。

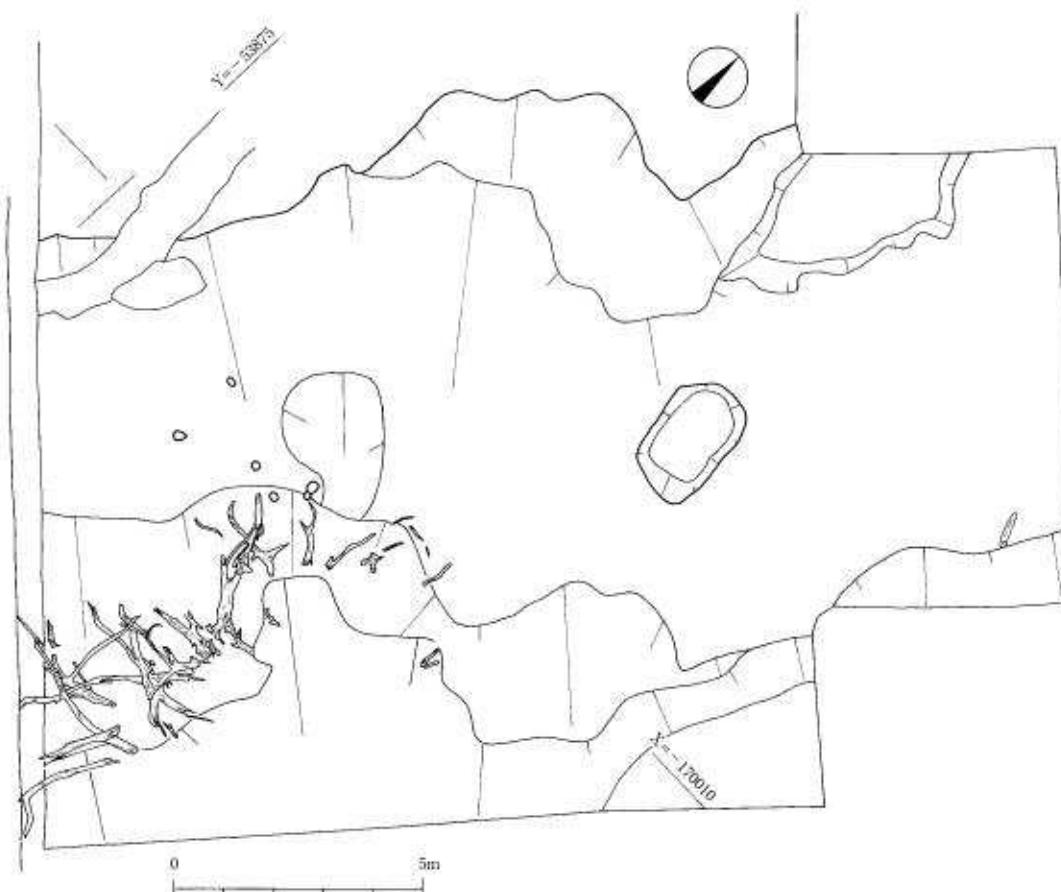
一方、古墳時代中期以前の土器には縄文土器2点・9 g をはじめ弥生中期後葉2点・73 g、弥生後期～庄内式期2点・32 g、庄内式期1点・11 g がある。

出土レベルをみると、河道底に近いT.P. 21.2～21.0mの範囲出土の土器類は縄文土器2点・9 g、弥生中期後葉1点・31 g、弥生後期～庄内式期1点・15 g、弥生～古墳時代土器3点・143 g、須恵器1点・83 g であり、須恵器を除くと庄内～布留式期までに収まりそうである。

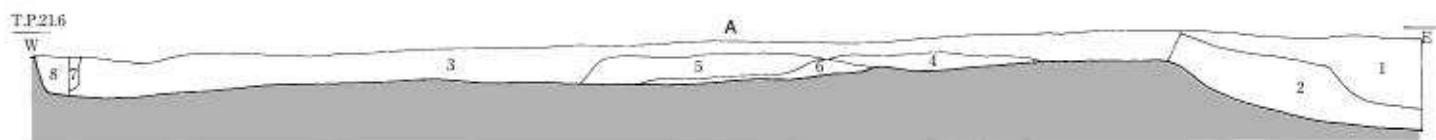
したがって弥生時代から古墳時代前期にかけてのいずれかの時期に埋没したと考えられる。河道底近くから出土した土器類は、須恵器を除くと1点当たりの平均重量は28 g であり、図示できた土器が2点に留まることからも示されているように、埋没時期を確定できる遺物はなかった。ただ03-1区NR004や周囲の河道の様相を考慮すると、庄内式期を中心とする頃にはほぼ埋没したのではないかと推定できる。

また、河道内に1辺5 m単位のグリッドを設定して21分割し、遺構面より20cmごとの標高に基づいて遺物を取り上げた。平面的にはやはり深度の深い南東部分で出土する傾向があり、グリッド2・18で出土量が多かった。

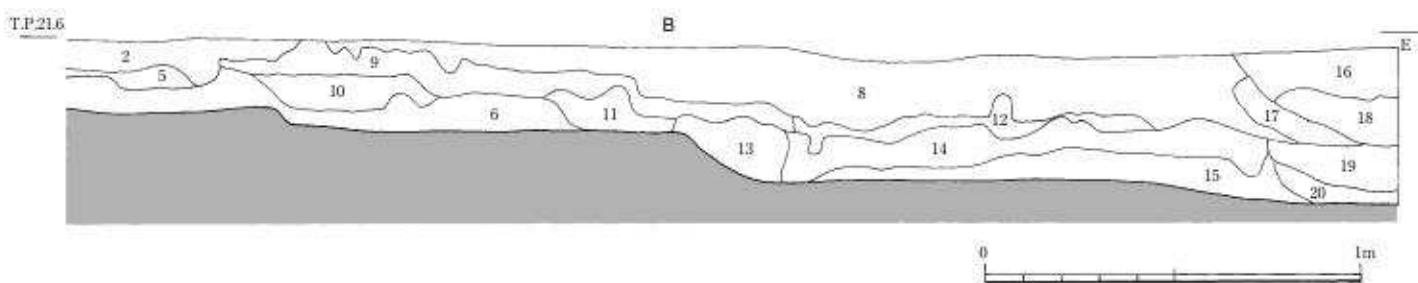
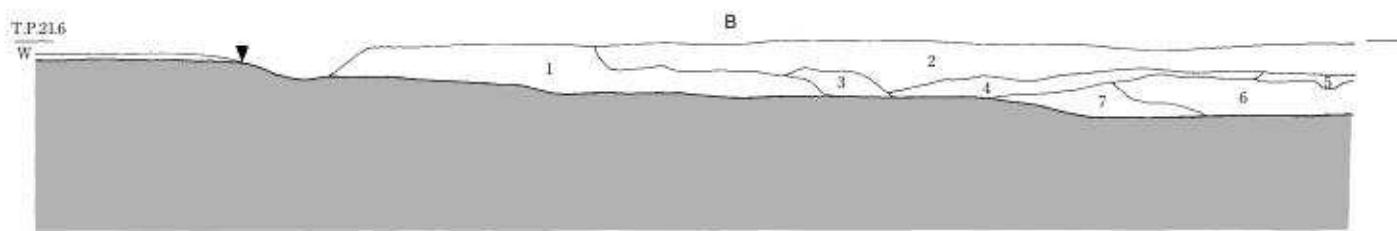
出土レベルごとにみると、T.P. 21.8～21.6mでは弥生～古墳時代の時期不詳土器3点・5 g が出



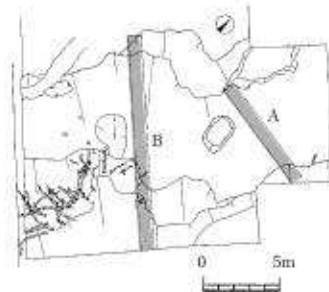
第37図 54河道



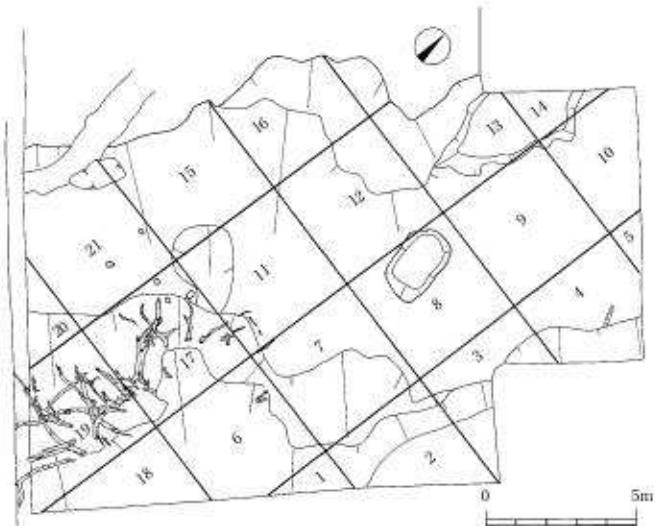
- 1 灰色 (N5/0) 粘土。同色の砂質土・炭化物・マンガン少量含む。全体にやや酸化、縮りやや欠く
- 2 灰白色 (N7/0) 粘土。同色の砂質土・炭化物少量含む。全体にやや酸化
- 3 灰色 (5Y6/1) 砂質土。同色の粘質土ブロック・難・破碎織合む。全体にやや酸化
- 4 灰白色 (5Y7/1) 砂。同色の砂シルト・灰色 (N5/0) 粘土ブロック含む。部分的に酸化
- 5 灰色 (5Y6/1) 砂シルト。同色の粘土・明黄褐色 (10YR6/6) 砂僅かに含む。細塵・破碎織合む
- 6 灰白色 (5Y7/1) 粘土。炭化物僅かに含む。全体にやや酸化
- 7 灰黄色 (2.5Y6/2) 砂質土。炭化物僅かに含む。縮り欠く
- 8 灰色 (5Y6/1) 砂質土。緑灰色 (7.5GY6/1) 粘質土含む



- 1 灰色 (7.5Y6/1) 砂。明黄褐色 (10YR6/6) 砂質土僅かに含む。全体にやや酸化
- 2 灰色 (7.5Y6/1) 砂シルト。同色の砂・灰色 (5Y6/1) 粘土ブロック含む。礫少量含む
- 3 黄褐色 (10YR5/6) 粗砂・灰色 (N5/0) 粘土混合層。粗質、縮り欠く
- 4 灰色 (5Y5/1) 粘質土。同色の砂質土・灰オリーブ色 (5Y6/2) 粘土ブロック含む。全体に酸化
- 5 暗灰黄色 (2.5Y5/2) 粘質土。黄褐色 (10YR5/6) 砂質土僅かに含む。酸化し黄褐色 (10YR5/6) 化する
- 6 灰色 (5Y6/1) 粘土。炭化物僅かに含む。酸化し黄褐色 (2.5Y5/6) 化する
- 7 灰色 (5Y6/1) 粘土。酸化し明黄褐色 (10YR6/6) 化する
- 8 灰色 (7.5Y5/1) 砂。灰色 (2.5Y4/1) 砂シルトブロック・灰色 (7.5Y6/1) 砂シルト僅かに含む。礫多包
- 9 黄灰色 (2.5Y5/1) 粘質土。灰白色 (N7/0) 粘土ブロック・難・破碎織合む。全体に酸化
- 10 灰色 (7.5Y6/1) 粘土。炭化物僅かに含む。酸化し黄褐色 (10YR5/6) 化する
- 11 灰色 (N6/0) 粘土。褐灰色 (7.5YR5/1) 粘土・明黄褐色 (10YR6/6) 粘質土少量含む。粗質
- 12 青灰色 (5BG5/1) 粘シルト。褐灰色 (7.5YR5/1) 粘土・炭化物含む。部分的に酸化
- 13 青灰色 (5BG6/1) 粘シルト。炭化物少量含む。全体に酸化
- 14 青灰色 (5BG6/1) 粘シルト。炭化物少量含む。全体にやや酸化
- 15 灰色 (5Y6/1) 粘質土。同色の砂・炭化物僅かに含む。全体に酸化
- 16 灰オリーブ色 (7.5Y6/2) 粗砂。灰色 (N5/0) 粘土ブロック・礫少量含む。全体にやや酸化
- 17 灰色 (N5/0) 粘土。灰色 (7.5Y5/1) 砂質土・礫少量含む。粗質
- 18 灰色 (7.5Y6/1) 砂シルト。灰色 (N6/0) 粘土ブロック・礫僅かに含む。酸化し明黄褐色 (10YR6/6) 化する
- 19 灰色 (5Y5/1) 粗砂。灰色 (5Y6/1) 粘土・礫含む。部分的に酸化
- 20 灰オリーブ色 (5Y6/2) 粘土。炭化物含む。部分的に酸化、縮り欠く



第38図 54河道土層



第39図 54河道のグリッド

出土したにすぎないが、T.P.21.6～21.4mでは弥生～古墳時代の土器1点・2gのほか、須恵器3点・42g、瓦器1点・1g、陶器1点・7gも出土した。T.P.21.4～21.2mになると弥生～古墳時代の土器数が増えて6点・27gとなるが、瓦器も3点・19g出土している。そしてT.P.21.2～21.0mでは、既述したように須恵器1点・83gを除くと、古墳時代中期以前の土器のみという状況になる。

出土遺物のうち4点を図示した。そのうち125と126の2点は河道上部からの混入品とみられるが、河道理没後の周辺の歴史的状況を捉える上で有効だと考え、掲示した。

123はV様式系甕の口縁部。「く」字状に屈曲する頸部から口縁部が短く立ち上がる。口縁部端は尖り気味。

124は弥生中期後葉の甕の底部資料。胴下部の器面調整は外面がヘラケズリ、内面がユビナデである。

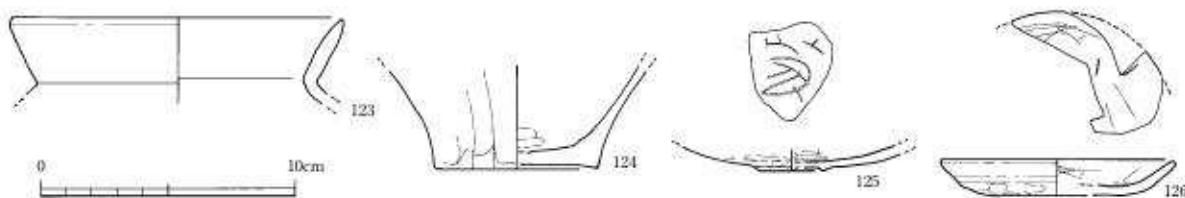
125は瓦器椀、126は瓦器皿である。125の高台は脆弱化していて、紐状になっている。底部近くの外面に粘土の接合痕がみられる。内面の暗文は不鮮明である。13世紀後葉に比定できる。

126の瓦器皿は器高に乏しい。口縁部外面下にユビナデを施しているため、口縁部にかけて僅かに外反する。13世紀後葉。

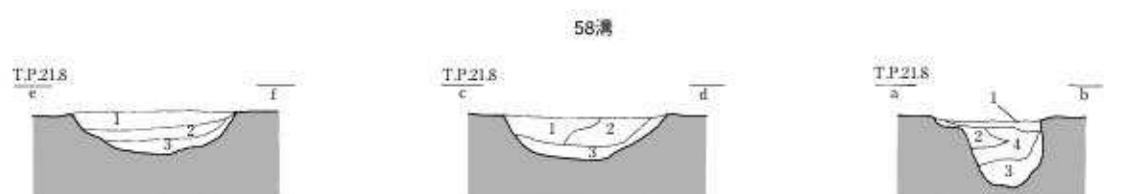
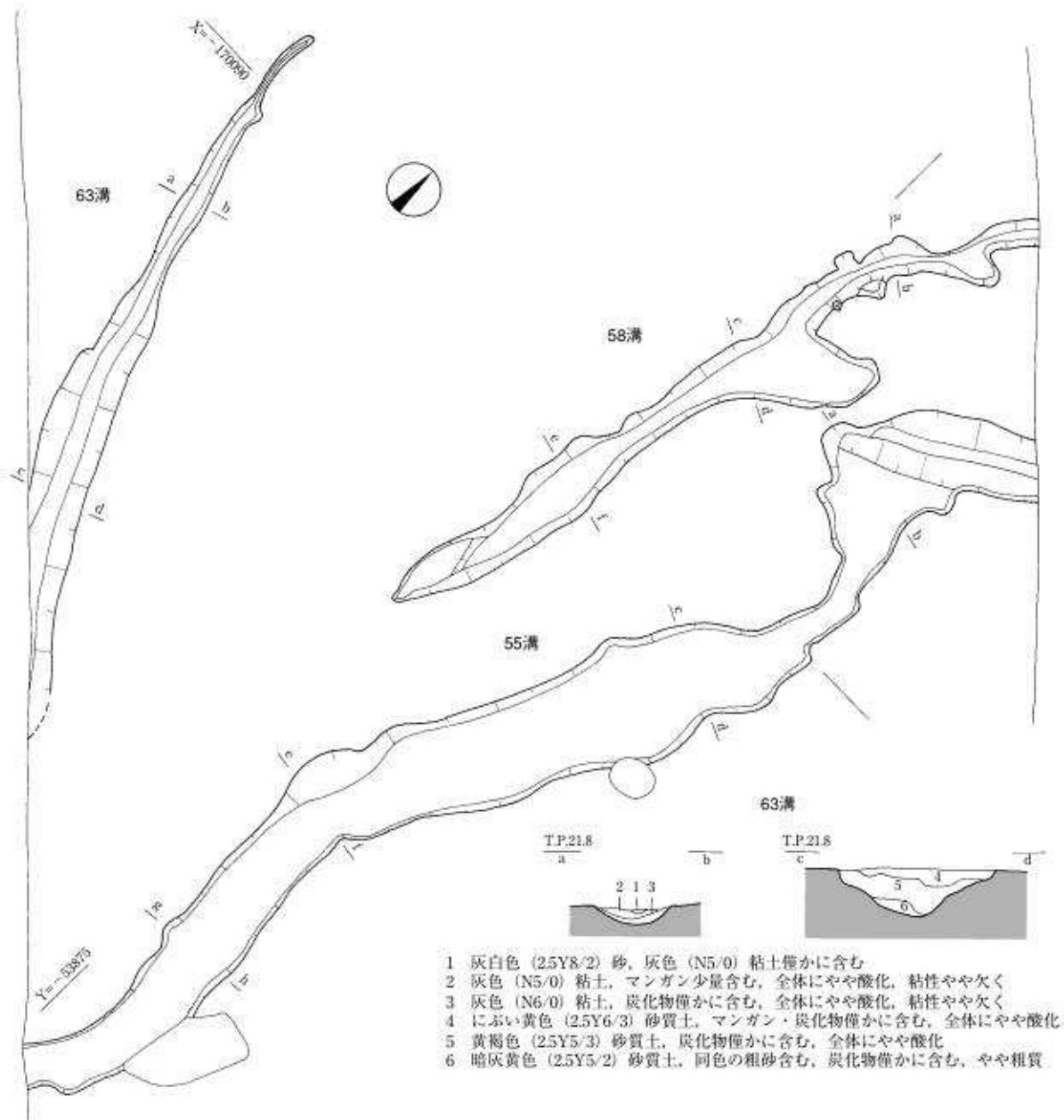
55溝

55溝は調査区の中央やや南東寄りに位置している。若干蛇行しながら南北に延びる溝である。最大幅は1.5mを測る。溝底は北に向かうほど僅かに浅くなっていくが、調査区北東辺近くで掘方が1段下がっている。溝底は北寄りほど平坦に近い。

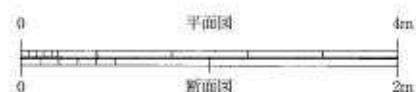
覆土は上下に大別でき、上層は灰黄色(2.5Y6/2)の粘質土あるいは砂、下層は灰黄色(2.5Y6/2)砂・粗砂、灰白色(2.5Y7/1)粘土・粘質土・砂シルト・砂、灰色(5Y6/1)砂シルト、黄灰色(2.5Y6/1)砂シルト、明黄褐色(10YR6/6)粘シルトなどである。下層の覆土状況は複雑で、人為的な埋め戻しの可能性がある。



第40図 54河道出土土器類



- 1 黄灰色 (2.5Y5/1) 粗砂, 黄褐色 (2.5Y5/4) 砂質土・炭化物僅かに含む, 全体にやや酸化
 2 黄灰色 (2.5Y6/1) 砂, 灰色 (5Y6/1) 砂・炭化物・マンガン僅かに含む, 全体にやや酸化
 3 黄灰色 (2.5Y5/1) 粗砂, 小礫僅かに含む, 酸化し黄褐色 (10YR5/6) 化する
 4 灰色 (N6/0) 砂シルト, 炭化物僅かに含む, 全体にやや酸化



第41図 55溝・58溝・63溝

出土遺物はV様式系甕1点・551gと弥生～古墳時代の土器16点・125gである。そのうち甕1点を図示した。

図示した127はV様式系甕の胴部。球胴形を呈する。胴部外面はタタキののちヘラケズリ調整、内面には強いヘラナデ調整がなされている。

58溝

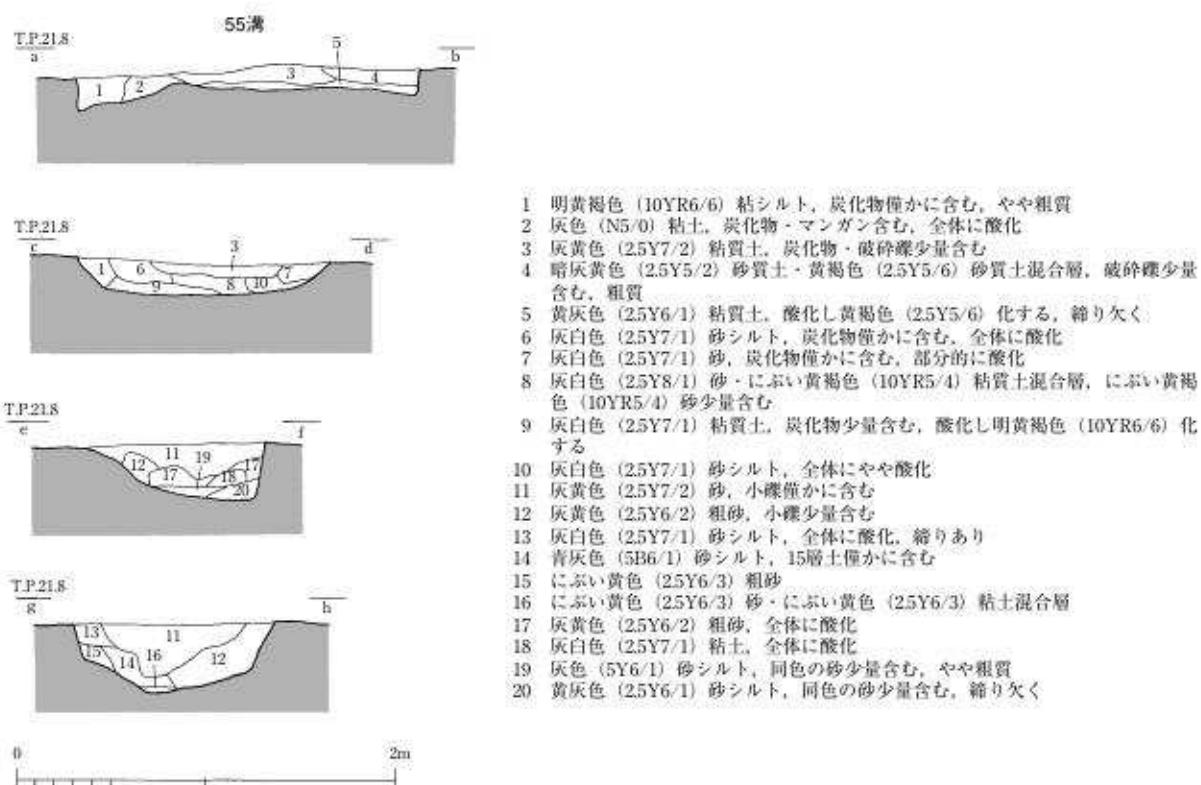
58溝は55溝の西に近接し、ほぼ平行に走る溝である。ただし調査区の中央付近で途切れていて、南方には延びない。部分的に東へ張り出して幅を広げた箇所もあるが、幅はおよそ1.0m以内である。深さは最大35cmで、僅かながら北方に下降している。こうした状況は55溝と同様である。

覆土は黄灰色（2.5Y5/1・2.5Y6/1）の砂が主体で、部分的に灰色（N6/0）砂シルトが混じる。V様式系甕の破片2点・31gが出土したのみで、詳細な時期比定はできない。

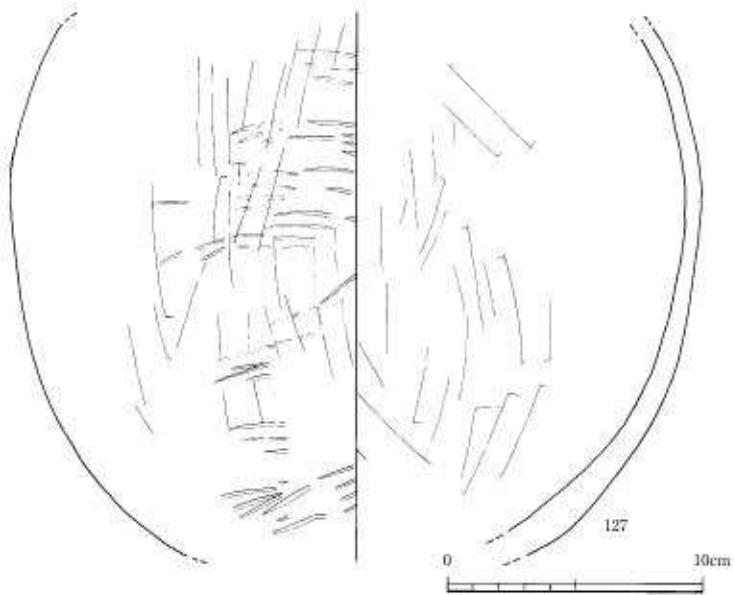
63溝

63溝は55・58溝の西に位置する。おおまかには南北方向に主軸をとるが、55・58溝よりも少し西方に軸が振れている。また調査区の中央付近で北端が先細りして途切れている。本来は溝底を上昇しつつ北方に延びていたものが、上面の削平により北側が消失した可能性はある。ただそうだとすれば、55・58溝とは逆に南方に溝底が下降していたことになる。とはいっても現状では、南下状況が捉えられるほど底面の高低差は明瞭ではない。現状の幅は1.0m、深さ30cmである。

覆土は観察箇所によって異なるが、中央付近では黄色系（2.5Y6/3など）の砂質土を基調とし



第42図 55溝土層



第43図 55溝出土土器

ている。出土遺物はV様式系甕1点・7gだけである。

56溝

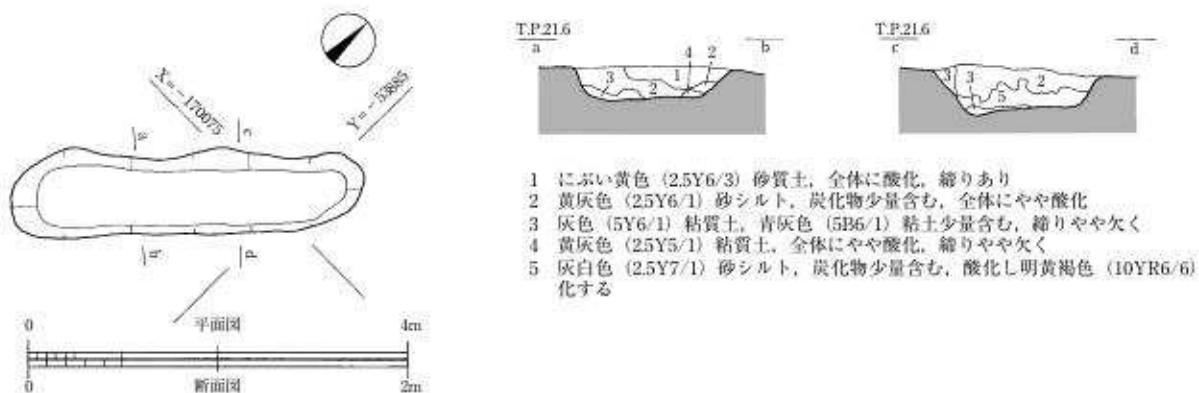
56溝は調査区の北西寄りに位置し、北東-南西方向に主軸をとる。長さ3.8m、幅0.9m、深さ27cmを測る。底部は平坦で、掘方は明瞭である。

覆土は青灰色(5B6/1)粘土を含む灰色(5Y6/1)粘質土が底上に堆積するが、大半では黄灰色(2.5Y6/1)砂シルトとに

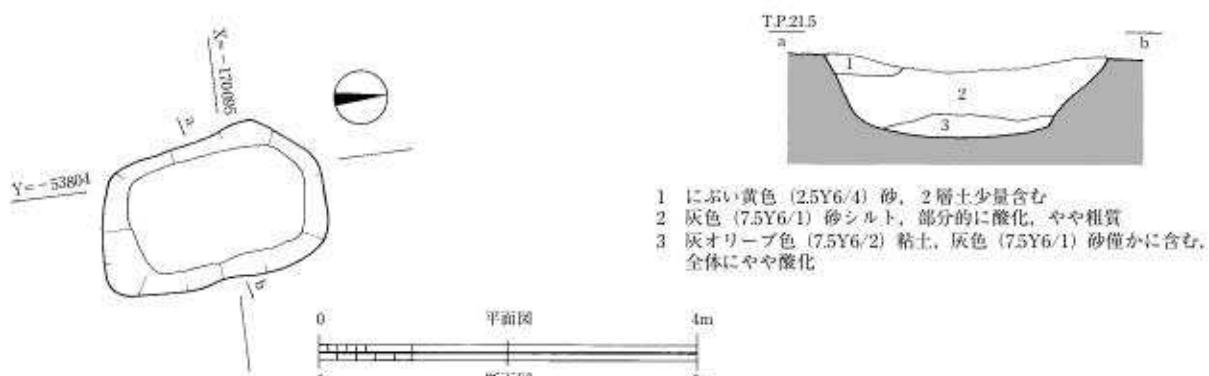
ぶい黄色(2.5Y6/3)砂質土か灰白色(2.5Y7/1)砂シルトである。須恵器1点・1gと陶器1点・7gが出土した。ともに小破片のため、この溝に本来的に伴うかは不明であるが、中世あるいはそれ以前の遺構だとみられる。

61土坑

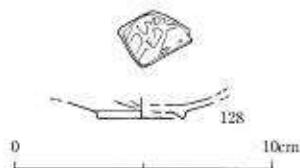
61土坑は調査地の南東寄りの、54河道内に位置している。長径2.6m、短径1.6mを測り、深さ



第44図 56溝



第45図 61土坑



第46図 45畦出土瓦器

は現状35cmである。掘方は明瞭である。主軸は正方位に近い。覆土は、上部の一部ににぶい黄色（2.5Y6/3）砂、底上に灰オリーブ色（7.5Y6/2）粘土が認められるが、大半は灰色（7.5Y6/1）砂シルトである。出土遺物はなく、時期比定できないうが、54河道の最終埋没以前に形成された可能性が高い。

水田遺構

45畦および59水田段差などから構成される水田遺構が調査区北西半分に広がる。本来は調査区南東半分にも遺構の分布は広がっていたのであろうが、北西から南東方向に水田面が上昇していることから、調査区南東半分では後世の削平がいったん基盤層に達し、遺構面を消失したと考えられる。

45畦は上面幅2.0m、下面幅3.0mを測り、幅広い。また水田床土下に対応する基盤層上面からの比高差は北西で0.7m、南東で0.3mである。45畦の上部を形成する13層からは弥生中期後葉の土器3点59g、弥生～古墳時代の土器58点・295gと瓦器3点・18gが出土した。瓦器のうち1点（128）は、高台が断面三角形を呈するが、鋭さを保っている。また見込みには格子文とみられる暗文が認められる。こうしたことから12世紀後葉～13世紀前葉に比定でき、水田遺構の最終段階の時期を示していると考えられる。

この水田遺構の耕作土は、調査区土層（第26図）でみたように、基盤層上に薄く延びる5層などであった。また、調査区の中央に縦断方向に設定した土層観察ベルト（第47図）においても水田耕作土が認められた。基盤層あるいはその2次堆積土（7層）の上に広がる6～9・14・15・16・18層が該当する。いずれも粘土や粘質土、粘シルトなどの粘性度の高い土質である。

水田耕作土から確實に出土した遺物としては、弥生～古墳時代の土器4点・180g、古墳時代以後の土師器1点・2gである。このうち土師器1点を図示した（135）。後述するように、12世紀後葉～13世紀前葉に比定できる。

第1遺構面～第2遺構面間出土の土器類

第1遺構面と第2遺構面の間の堆積土からは、近世や中世の遺物とともに黒色土器をはじめとする平安時代の土器類も少なからず出土している。こうした遺物が水田耕作土の時期を示すと考えられる。

そして調査区の壁面でみた調査区土層と同じく、調査区中央の土層観察ベルトにおいても水田耕作土の上に流水堆積層（3・4・35）、そして畠地耕作土（10・20・22・34・48・50・51・73）が順次形成されている。畠地耕作土は砂質土および砂シルトで、酸化した層が比較的多い。また11・12・29～32・53・61・67層は畠地の畝間溝内の堆積土とみられる。この溝の存在からも、畠作地であったことが確認できる。

第1遺構面と第2遺構面の間には水田耕作土と畠地耕作土、流水堆積土、それら以外の自然的および人為的な堆積土があり、多くの遺物が含まれていた。遺物の中には、第2遺構面

検出の古代以前の遺構の上部が削平されたために堆積土中に混入したものもある。また第1遺構面形成後の遺物が、踏み込みなどの影響によって混じったものもあった。

出土遺物の総数は、土器類1223点・9884gと瓦39点・2016g、サスカイト3点・2291g、製塩土器3点・44g、釘3点・62gを合わせた1271点・14297gである。

土器類は弥生中期後葉の土器19点・741g、弥生後期8点・244g、弥生後期～庄内式期62点・928g、庄内式期6点・247g、庄内～布留式期3点・130g、布留式期3点・122g、弥生～古墳時代の時期不詳土器736点・4097g、古墳時代以後の土師器18点・279g、須恵器141点・1968g、黒色土器6点・13g、瓦器166点・719g、陶器33点・235g、磁器21点・161gである。弥生～古墳時代の時期不詳土器が点数比で土器類の60%を占めているが、次いで瓦器が14%にのぼる。したがって第1遺構面と第2遺構面間の堆積土形成の中心時期は、遺跡内において瓦器の存在が顕著である13世紀代にあったのではなかろうか。

この時期は、畠地耕作土の形成期でもある。畠地耕作土からは弥生後期の土器1点・23g、弥生後期～庄内式期4点・69g、弥生～古墳時代の時期不詳土器15点・171g、瓦器1点・12gおよび瓦2点・51gが出土している。出土遺物量が少なく、しかも破片化の進んだ資料であるため畠地耕作土の時期を決めることが難しいが、第1～2遺構面間の堆積土に包含されていた遺物の状況を考え併せると、13世紀を中心とした14世紀代までに求められるのが妥当といえる。

なお調査区を細分したグリッド別に出土状況を通観すると、グリッド1からは201点・2331g、グリッド3からは219点・1107g、次いでグリッド7で145点・985gの土器類が出土しているが、その他のグリッドでは100点以下であった。また遺物の出土がなかったグリッドは存在していない。すなわち、出土量に特別な傾向は認められないといえる。

1271点の出土遺物のうち、17点を図示した。

129は弥生中期後葉の甕。頸部は緩やかに「く」字状に屈曲し、口縁部は短く立ち上がる。口縁部は上方に僅かに肥厚する。口縁部内外面はユビナデ、胴部外面はヘラナデ、内面ユビナデにより器面調整がなされている。

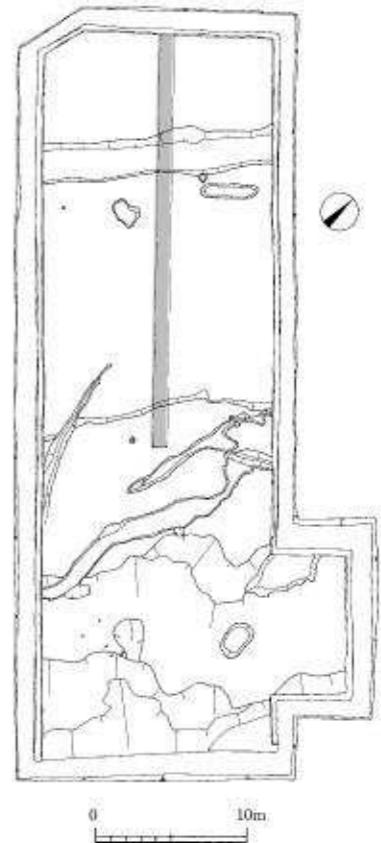
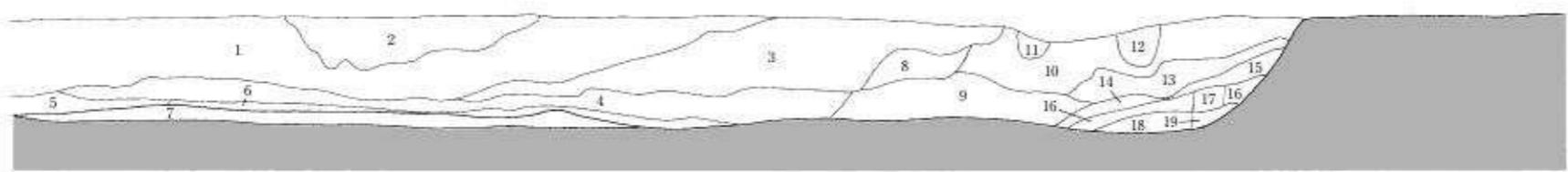
130は弥生中期後葉の壺の口縁部資料。口縁部外面および端部はヘラナデ調整がなされ、端部に面をもつ。

131は製塩土器の脚部。脚部外面にユビナデ・ユビオサエの調整跡が顕著に残る。詳細な時期は不明。

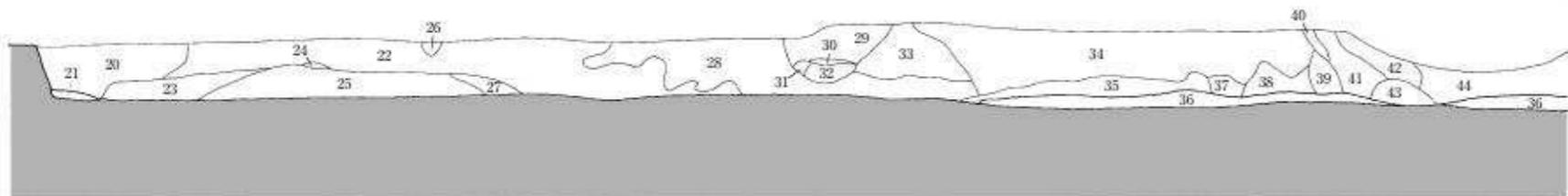
132は瓦器椀。深さのある胴部から内湾気味に口縁部は立ち上がる。口縁部端は丸く取まる。口縁部内外面はユビナデ、胴部外面はユビオサエにより器面調整がなされている。胴部内面には太いミガキが認められるが、不鮮明である。12世紀前半に位置付けられよう。

133は土師器皿。底部から胴部にかけて幾分丸味があり、屈曲を強めて口縁部は立ち上がる。口縁部内外面ユビナデ・ユビオサエ、胴部内面ユビナデにより器面調整がなされている。12世紀後半に比定できよう。

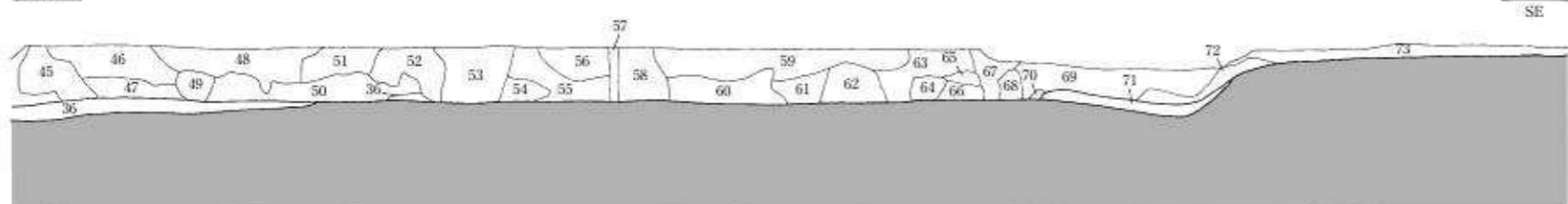
T.P.22.0
NW



T.P.22.0



T.P.22.0

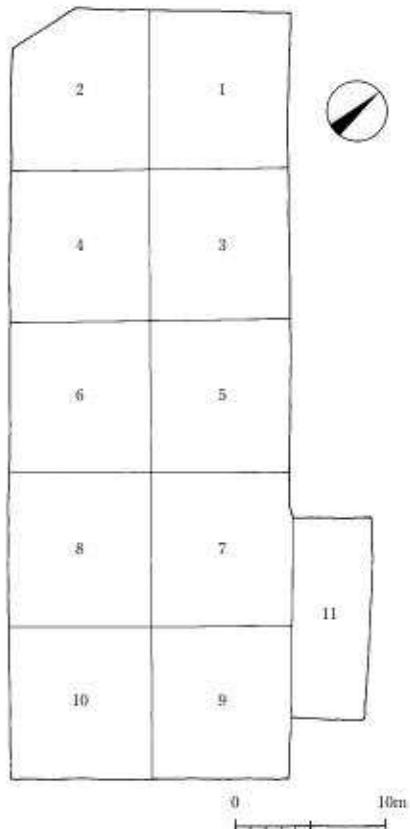


第47図 第1・2遺構面間土層

- 1 灰オリーブ色 (5Y6/2) 砂シルト、同色の砂・黄褐色 (10YR5/6) 粘質土ブロック含む。マンガン少量含む
- 2 灰オリーブ色 (5Y6/2) 粗砂、黄褐色 (10YR5/6) 粘質土ブロック少量含む、マンガン僅かに含む
- 3 黄灰色 (2.5Y5/1) 砂質土、小礫含む、酸化し黄褐色 (2.5Y5/4) 化する
- 4 灰黄色 (2.5Y6/2) 砂シルト、全体に酸化、縮りやや欠く
- 5 黄灰色 (2.5Y6/1) 砂シルト、全体にやや酸化、縮り欠く
- 6 灰色 (N5/0) 粘土、粘質土含む、縮りやや欠く、水田耕土
- 7 青灰色 (5BG6/1) 粘質土、全体に酸化、縮りやや欠く
- 8 黄褐色 (2.5Y5/3) 粘質土、黄褐色 (10YR5/6) 粘質土ブロック・マンガン含む、粗質
- 9 黄灰色 (2.5Y6/1) 粘シルト、黄褐色 (10YR5/6) 粘質土ブロック・オリーブ褐色 (2.5Y4/3) 粘質土ブロック含む、水田耕土
- 10 灰黄色 (2.5Y6/2) 砂シルト、炭化物僅かに含む、全体に酸化
- 11 暗灰黄色 (2.5Y5/2) 砂質土、小礫含む、粗質
- 12 黄褐色 (2.5Y5/3) 砂質土、小礫含む、縮り欠く
- 13 黄灰色 (2.5Y6/1) 砂シルト、黄褐色 (10YR5/6) 粘質土ブロック・明青灰色 (5BG7/1) 粘質土ブロック含む、粗質
- 14 灰色 (7.5Y5/1) 粘質土、同色の粘質土・灰色 (N5/0) 粘質土含む、縮りやや欠く、水田耕土
- 15 灰色 (N5/0) 粘質土・灰色 (5Y6/1) 粘質土混合層、黄褐色 (10YR5/6) 粘質土ブロック僅かに含む、水田耕土
- 16 灰色 (7.5Y6/1) 粘土、全体に酸化、水田耕土
- 17 灰色 (5Y6/1) 粘質土、同色の砂少量含む、全体に酸化
- 18 青灰色 (5BG6/1) 粘シルト、全体に酸化、縮り欠く、水田耕土
- 19 青灰色 (5BG6/1) 粘シルト、18層に類似するがより粗質
- 20 灰オリーブ色 (5Y6/2) 砂シルト、灰色 (N5/0) 粘質土・マンガン含む、粗質
- 21 灰黄色 (2.5Y6/2) 粘土、全体に酸化、縮り欠く
- 22 暗灰黄色 (2.5Y5/2) 砂質土、炭化物・マンガン僅かに含む、全体にやや酸化
- 23 にぶい黄色 (2.5Y6/3) 粘質土、全体にやや酸化
- 24 灰色 (N5/0) 粘質土、縮りやや欠く、水田耕土
- 25 灰白色 (2.5Y8/1) 粘質土、炭化物少量含む、酸化し明黄褐色 (2.5Y6/6) 化する
- 26 灰色 (N5/0) 粘質土・灰黄色 (2.5Y6/2) 砂質土混合層、粗質
- 27 暗灰黄色 (5Y5/2) 粘質土・灰色 (5Y5/1) 粘シルト混合層、炭化物僅かに含む、65土坑覆土の再堆積土
- 28 灰色 (7.5Y5/1) 砂、灰色 (5Y5/1) 粘質土・破碎塊・小礫少量含む
- 29 灰オリーブ色 (7.5Y6/2) 砂質土、破碎塊・小礫含む、粗質
- 30 灰色 (N6/0) 粘質土、全体に酸化
- 31 灰色 (N6/0) 粘質土、明黄褐色 (2.5Y6/6) 粘質土少量含む
- 32 灰色 (5Y6/1) 粘質土、マンガン少量含む、全体に酸化、粗質
- 33 灰オリーブ色 (5Y5/2) 砂質土、同色の砂・灰色 (N6/0) 粘質土・小礫少量含む、粗質
- 34 灰黄色 (2.5Y6/2) 砂質土、同色の砂・マンガン・小礫僅かに含む
- 35 灰色 (5Y5/1) 砂、炭化物僅かに含む、部分的に酸化
- 36 灰黄色 (5Y6/2) 粘質土、灰黄色 (2.5Y7/2) 砂僅かに含む、酸化し明黄褐色 (2.5Y6/6) 化する
- 37 暗灰黄色 (5Y5/2) 粘質土、全体にやや酸化、縮りあり
- 38 灰黄色 (2.5Y6/2) 粘質土、同色の砂多包
- 39 にぶい黄色 (2.5Y6/3) 砂質土、黄灰色 (2.5Y5/1) 粘質土・破碎僅かに含む
- 40 黄灰色 (2.5Y5/1) 砂質土、やや粗質
- 41 灰黄色 (5Y6/2) 砂質土・明黄褐色 (2.5Y6/6) 粘質土混合層、破碎塊・小礫含む、粗質
- 42 灰オリーブ色 (5Y6/2) 砂質土、明黄褐色 (2.5Y6/6) 粘質土少量含む、やや粗質
- 43 暗灰黄色 (2.5Y5/2) 粘質土、明黄褐色 (2.5Y6/6) 粘質土少量含む、粗質
- 44 黄灰色 (2.5Y4/1) 砂質土、明黄褐色 (2.5Y6/6) 粘質土ブロック・破碎塊・小礫少量含む
- 45 灰黄色 (2.5Y6/2) 砂質土、礫含む、粗質
- 46 にぶい黄橙色 (10YR7/4) 砂質土、礫含む、全体に酸化、粗質
- 47 灰色 (5Y6/1) 砂シルト、灰色 (5Y5/1) 粘質土・炭化物・破碎塊含む
- 48 灰色 (5Y6/1) 砂シルト、全体にやや酸化、破碎含む、やや粗質
- 49 灰黄色 (2.5Y6/2) 砂質土、黄灰色 (2.5Y5/1) 粘質土・礫含む、縮りあり
- 50 黄灰色 (2.5Y5/1) 砂シルト、黄灰色 (2.5Y6/1) 粘質土ブロック僅かに含む、全体にやや酸化
- 51 にぶい黄色 (2.5Y6/3) 砂質土、灰色 (5Y5/1) 粘質土ブロック・炭化物少量含む、縮りあり
- 52 にぶい黄色 (2.5Y6/4) 砂質土、灰黄色 (2.5Y6/2) 砂質土・炭化物少量含む、縮りあり
- 53 黄灰色 (2.5Y6/1) 砂質土、灰白色 (2.5Y7/1) 砂・細礫僅かに含む、縮り欠く
- 54 にぶい黄色 (2.5Y6/3) 砂質土、灰白色 (2.5Y7/1) 砂質土・炭化物僅かに含む
- 55 灰オリーブ色 (5Y6/2) 砂質土、細礫・破碎量含む、粗質
- 56 黄灰色 (2.5Y6/2) 砂質土、灰白色 (2.5Y7/1) 砂・細礫僅かに含む、酸化し明黄褐色 (2.5Y6/6) 化する
- 57 灰色 (5Y5/1) 砂シルト、マンガン僅かに含む、縮りやや欠く
- 58 にぶい黄色 (2.5Y6/3) 砂シルト、マンガン・細礫・破碎量含む、縮りあり
- 59 灰白色 (2.5Y7/1) 砂質土、灰色 (N5/0) 粘質土・細礫含む
- 60 オリーブ灰色 (2.5GY6/1) 砂質土、灰色 (N5/0) 粘質土・細礫少量含む
- 61 オリーブ灰色 (2.5GY6/1) 砂質土、細礫・破碎含む、粗質
- 62 黄灰色 (2.5Y6/1) 砂シルト、灰色 (N5/0) 粘質土・礫少量含む、全体にやや酸化
- 63 灰色 (5Y6/1) 砂質土、同色の砂含む、細礫・破碎多包
- 64 黄灰色 (2.5Y6/1) 砂シルト、全体にやや酸化
- 65 黄灰色 (2.5Y6/1) 砂シルト、酸化し明黄褐色 (2.5Y6/6) 化する、縮りあり
- 66 灰色 (N5/0) 粘質土、灰黄色 (2.5Y7/2) 砂僅かに含む、全体にやや酸化、水田耕土
- 67 灰色 (5Y6/1) 砂質土・灰白色 (5Y7/1) 砂質土混合層、礫含む、粗質、縮りやや欠く
- 68 黄灰色 (2.5Y6/1) 砂シルト、細礫僅かに含む、全体に酸化
- 69 黄灰色 (2.5Y6/2) 砂質土、同色の砂少量含む、細礫・破碎含む、粗質
- 70 灰色 (N6/0) 粘質土、マンガン僅かに含む、縮りやや欠く、水田耕土
- 71 黄灰色 (2.5Y6/2) 粘質土、全体に酸化
- 72 灰色 (5Y6/1) 粘質土、灰白色 (N7/0) 粘土僅かに含む、酸化し明黄褐色 (2.5Y6/8) 化する
- 73 黄灰色 (2.5Y6/1) 砂質土、細礫少量含む、酸化し明黄褐色 (2.5Y6/6) 化する、縮りやや欠く

134も土師器Ⅲ。胴部は浅めで、口縁部にかけて短く直線的に立ち上がる。口縁部内外面ユビナデ、胴部外面ユビオサエ、胴部内面ユビナデにより器面調整がなされている。12世紀後葉～13世紀前葉。

135は土師器椀の底部資料。高台は脆弱化していて、断面は低い三角形になっている。底径は



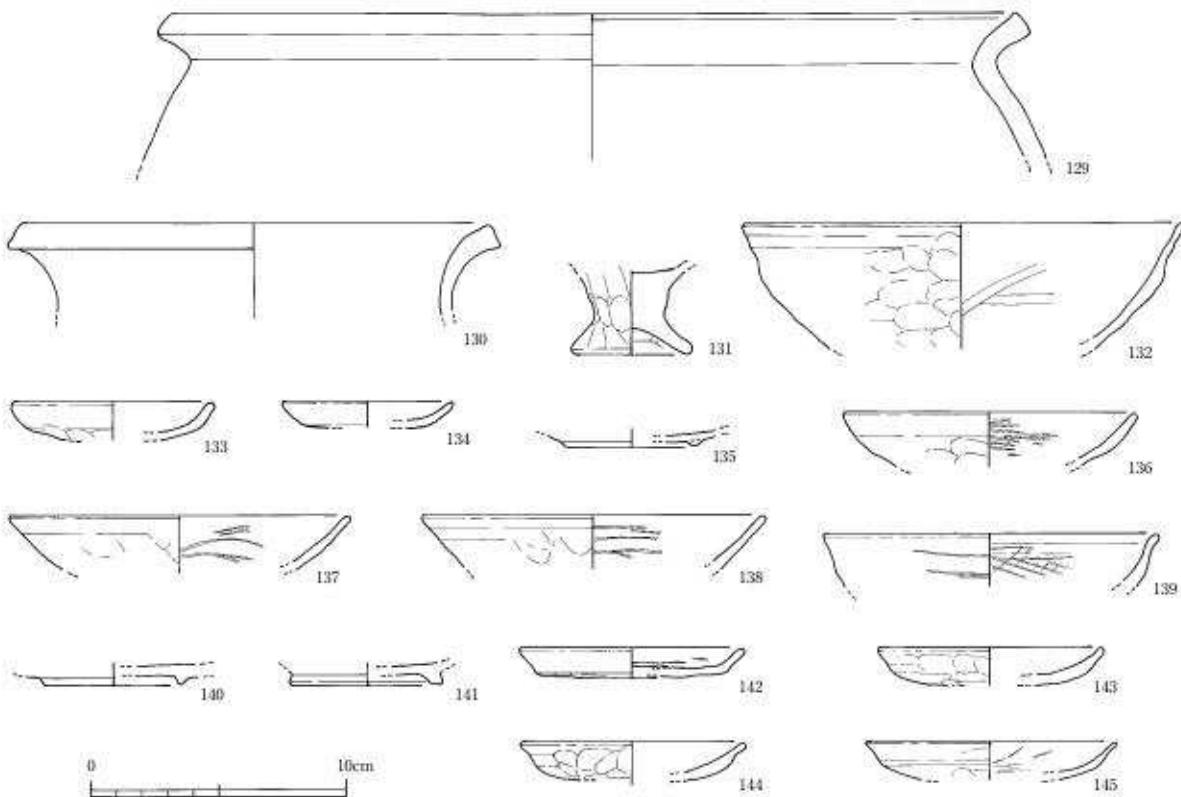
第48図 10-1区のグリッド

やや大きめである。全体に摩滅しているため、器面調整は不明。12世紀後葉～13世紀前葉とみられる。

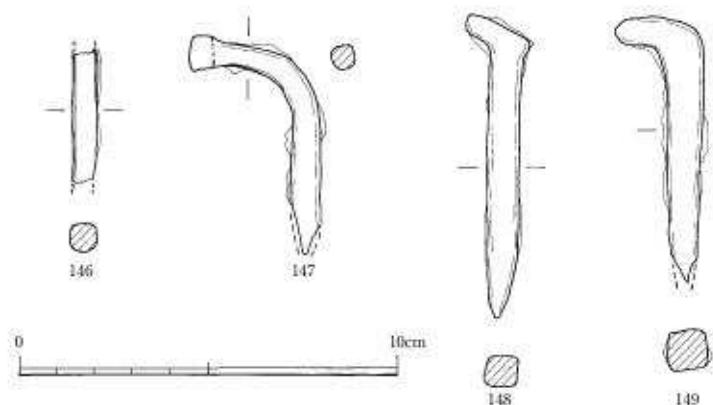
136は瓦器椀。胴部から口縁部にかけて直線的に立ち上がる。胴部は浅めとみられる。口縁部内外面ユビナデ、胴部外面ユビオサエにより器面調整がなされている。胴部内面のミガキは幾分密である。13世紀代に位置付けられる。

137は瓦器椀。136よりも口径はあるが、136と同じく胴部は浅いとみられる。胴部から口縁部にかけて直線的に立ち上がる。口縁部内外面ユビナデ、胴部外面ユビオサエ、内面ユビナデにより器面調整がなされている。胴部内面に加えられたミガキが粗く残る。13世紀後半に取ると考えられる。

138も瓦器椀。胴部から口縁部にかけて直線的に立ち上がるが、136や137に比べて胴部は深いとみられる。口縁部内外面ユビナデ、胴部外面ユビオサエ、内面ユビナデにより器面調整がなされ、内面にはミガキが加



第49図 第1・2遺構面間出土土器類



第50図 鉄釘

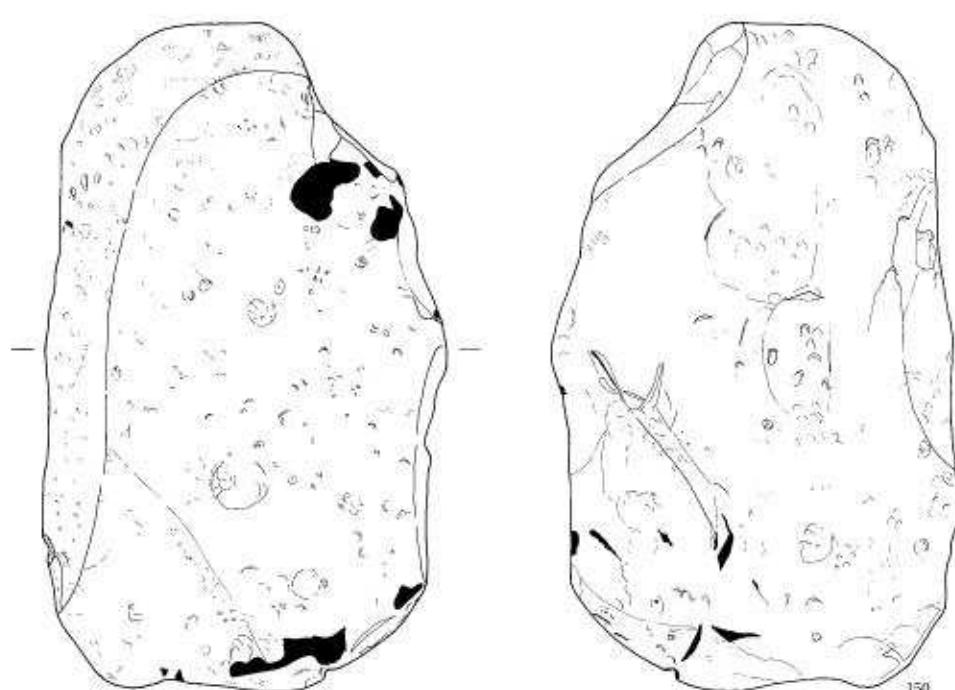
えられている。13世紀後半に比定できる。

139は瓦器椀。胴部は内湾して立ち上がり、口縁部は外反する。端部は丸く收まる。口縁部外面はユビナデ、内面ヘラナデ、胴部は内外面ともユビナデのちミガキによる調整がなされている。内面のミガキは密である。

12世紀前半に位置付けられよう。

140は瓦器椀の底部資料。高台はやや低く、断面三角形を呈するが、鋭い形状を幾分保っている。13世紀代に取まろう。高台部内外面ユビナデ調整。

141も瓦器椀の底部資料。この高台もやや低いが、断面は明瞭な方形を呈しているので12世紀後半に位置付けられよう。高台部内外面ユビナデ調整。



第51図 サスカイト原石・石鎌

142は瓦器皿。胴部から口縁部にかけて短く直線的に立ち上がり、口縁部は僅かに外反する。胴部は浅い。口縁部内外面ユビナデ、胴部外面ユビオサエ・ヘラケズリ、内面ユビナデにより器面調整がなされている。12世紀後半に比定できよう。

143も瓦器皿。

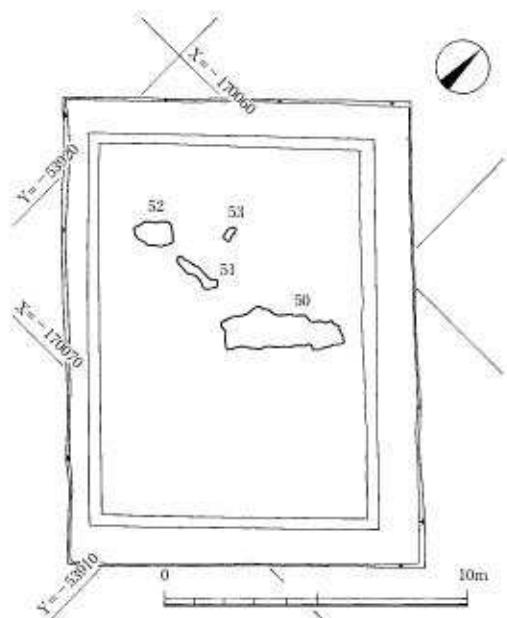
胴部から口縁部にかけて幾分丸味をもって立ち上がる。口縁部端は丸く収まる。器面調整は、口縁部内外面ユビナデ、胴部外面ユビオサエ、内面ユビナデ。12世紀後半に比定できよう。

144も瓦器皿。口縁部から胴部にかけてやや直線的に立ち上がり、口縁部下のユビナデにより口縁部は外反する。器面調整は、口縁部内外面ユビナデ、胴部外面ユビオサエ、胴部内面ユビナデ。12世紀後半に比定できる。

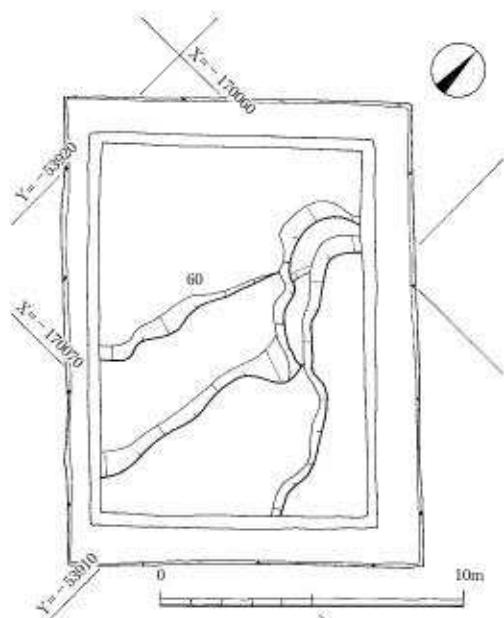
145も瓦器皿。口縁部から胴部にかけて幾分丸味をもって立ち上がり、口縁部下のユビナデにより口縁部は外反する。器面調整は、口縁部内外面ユビナデ、胴部外面ユビオサエ、胴部内面ユビナデ。胴部内面にはミガキの痕跡が僅かに残る。12世紀後半に比定できよう。

第1遺構面と第2遺構面の間の堆積土からは、土器類以外に鉄器や石器も出土している。鉄器はいずれも釘である。包含層遺物として取り上げた3点と、遺物集中域とした65土坑上層から出土した1点の、計4点がある(146~149)。146は身部のみの破片だが、その1点を除くと全体の形状をほぼ捉えることができる。148・149は頭部が折れ曲がる搔折形を呈している。2点とも1辺1cmほどの太身である。

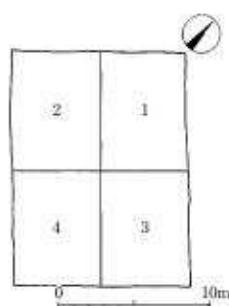
石器にはサスカイト剥片のほかサスカイト原石とサスカイト製石鏃もある。150はサスカイト原石。長さ17.8cm、重量1145gを測る。サスカイト剥片は09-1区の基盤層76層から5点(84~



第52図 10-2区第1遺構面遺構全体

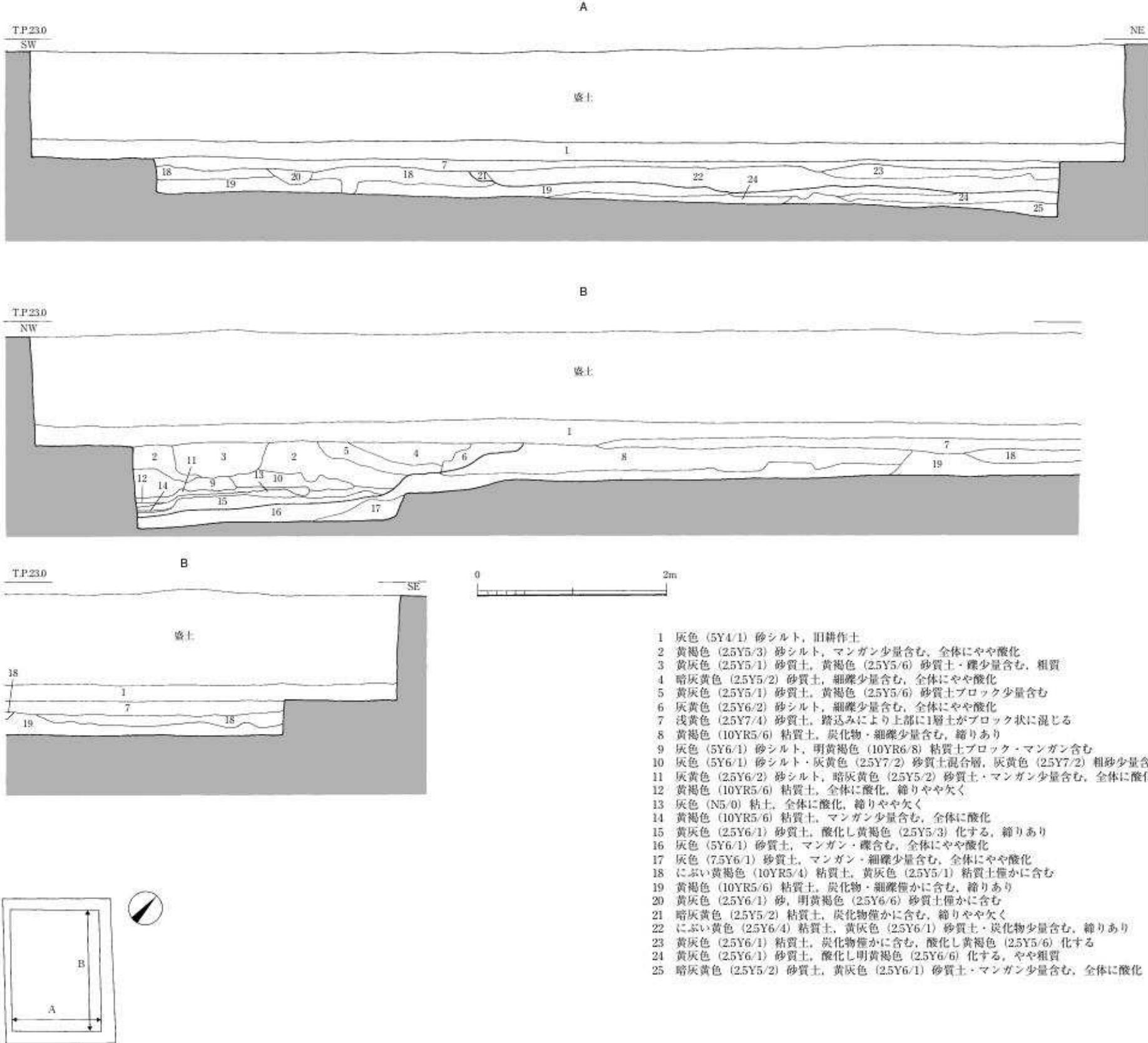


第53図 10-2区第2遺構面遺構全体



第54図 10-2区グリッド

88) が出土したのをはじめ、10-1区で7点(54河道・2点、65土坑2点(122)、65土坑上層・1点、第1遺構面下堆積土・1点、調査区一括・1点)、10-3区で3点(遺構面上・3点)が出土している。65土坑出土の2点は弥生中期後葉のものとすることができるとしても、他の剥片については縄文時代に遡る可能性もあり、時期の詳細は不明。ただ原石が出土していることから、遺跡内でサスカイトを使用して石器が製作されていた可能性は高い。



第55図 10-2区土層

151は石鎚の先端部破片。時期は不明。

3 10-2区の発掘調査

(1) 調査成果の概要

10-2区は10-1区の北西約10mに位置する。防火水槽建築工事に伴う発掘調査で、調査面積は166m²である。

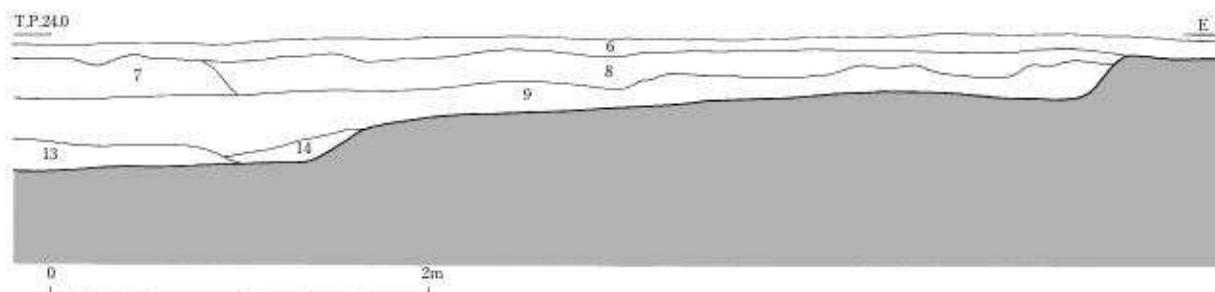
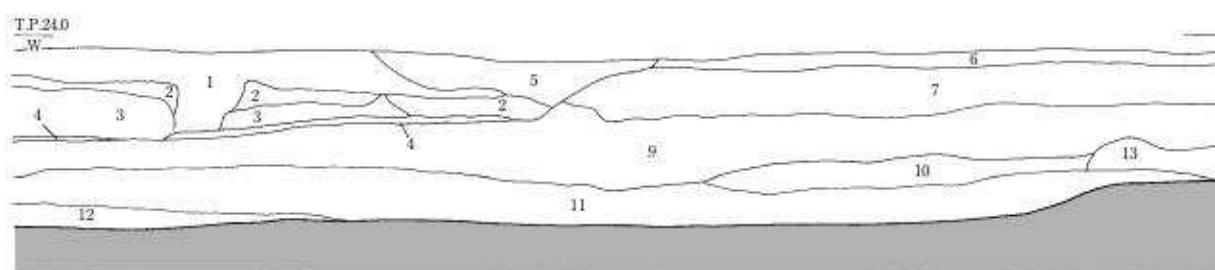
この調査区でも10-1区と同じく、盛土・旧耕作土下と基盤層上でそれぞれ遺構面を確認することができた。第1遺構面はほぼ水平で、標高はT.P.21.8mを測る。検出遺構は土坑1基、小穴2基、耕作痕1条である。耕作痕は東-西方向に主軸をとり、10-1区の耕作痕の一部と向きを等しくしている。

第2遺構面の標高はおおよそT.P.21.7mである。この面では、調査区の東隅を除いて河道が広がっていた。

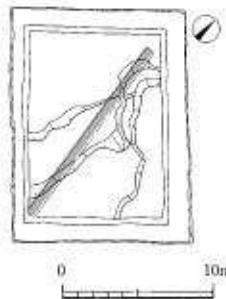
出土遺物は、10-2区全体で234点・1627gを数えた。その多くは60河道の堆積土に包含されていたものである。

(2) 調査区土層

現地表面下には府営住宅造成時の盛土が0.9~1.0mの厚さで存在し、その下に旧耕作土が0.2m



- 1 灰黄色(25Y6/2)砂シルト・明黄褐色(10YR6/6)粘シルト混合層、細礫少量含む、全体に酸化
- 2 灰色(7.5Y6/1)粘質土・明黄褐色(10YR6/6)粘シルト混合層、炭化物僅かに含む、全体に酸化
- 3 灰色(7.5Y6/1)粘質土・明黄褐色(10YR6/6)粘シルト混合層、灰色粘質土やや多い
- 4 灰色(7.5Y6/1)粘土、炭化物僅かに含む
- 5 灰白色(5Y7/1)砂シルト、全体にやや酸化
- 6 灰黄色(25Y6/2)砂シルト、全体にやや酸化
- 7 灰黄褐色(10YR6/2)砂シルト、全体に酸化、やや粗質
- 8 灰黄褐色(10YR5/2)砂質土、炭化物僅かに含む、全体に酸化
- 9 灰色(5Y5/1)粘土、炭化物僅かに含む、酸化し明黄褐色(10YR6/6)化する
- 10 灰色(5Y6/1)粘質土、炭化物・細礫少量含む、全体に酸化
- 11 灰色(7.5Y6/1)粘土、炭化物・マンガン・破碎礫少量含む、全体に酸化
- 12 灰白色(7.5Y7/1)粘土、同色の砂・炭化物少量含む
- 13 灰色(5Y5/1)粘質土、灰黄色(25Y7/2)砂・炭化物僅かに含む、全体に酸化
- 14 灰色(7.5Y6/1)粘土、炭化物少量含む、全体に酸化



第56図 60河道士層

の厚さで認められる。さらに旧耕作土下には浅黄色（2.5Y7/4）砂質土（7層）が厚さ0.2mで堆積し、その下が基盤層となる。この浅黄色砂質土の上面が第1遺構面、基盤層上面が第2遺構面である。

基盤層は最上層に黄褐色系の粘質土（8・18・19層）が堆積し、その下に灰色・黄灰色・灰黄色の砂質土（16・17・24・25層）が続いている。調査区における基盤層は、河川状堆積により形成されている。

（3）検出遺構と出土遺物

10-2区の第1遺構面では土坑1基、小穴2基、耕作痕1条を検出したが、いずれの遺構も深さ4～5cm程度にすぎない。耕作痕だけでなく土坑や小穴もまた、起耕時の掘削によって生じた痕跡である可能性が高い。

第2遺構面では、調査区の東～南東に僅かな岸がある60河道を検出した。

60河道

東岸が僅かにみられるものの、10-2区のほぼ全域に広がった河道である。現況から、北へ流れる河道とみられる。現状の幅は最大10mを測り、おそらくその2倍程度の広さがあると推定される。また現状での最大深度は80cmである。

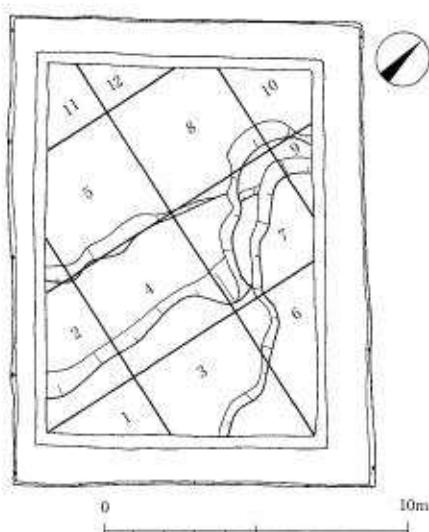
調査区壁面をみると、観察ラインによって堆積土の状況が異なり、Aラインは粘質土・粘土が主体、Bラインでは砂質土・砂シルトが主体となっているが、河道に設定した土層観察ベルトをみると上層が酸化して黄色味をおびた灰色系の砂シルト、下層が灰色系の粘質土に分かれている。この上下に2分された状況が、おそらく60河道堆積土の本来の様相を示しているのであろう。

60河道からは187点・1323gの遺物が出土した。大半は弥生～古墳時代の土器（158点・844g）で、詳細な時期比定ができないものである。弥生中期後葉の土器は11点・140gで、弥生後期の土器2点・123g、V様式系甕1点・35g、布留式期1点・11gも認められるが、比較的点数の

多い弥生中期後葉の土器にしても平均重量は13gにすぎないので、いずれの時期の土器も河道の年代を特定することはできないといえる。

一方、古墳時代中期以降の遺物も出土している。古墳時代以後の土師器4点・72g、須恵器2点・25g、黒色土器1点・4g、瓦器（瓦質土器を含む）5点・17g、瓦2点・52gである。これらの遺物の多くは遺構面から30cm以内に当たるT.P.21.7～21.4mの、比較的上層部分からの出土である。

こうした中で、須恵器1点・18gがグリッド4のT.P.21.0～20.8m、瓦器1点・5gがグリッド6のT.P.21.4～21.2mから出土している。ただともに小破片



第57図 60河道のグリッド

であり、堆積土の亀裂内に落ち込んだものの可能性がある。また上層部から出土した中世以降の遺物も、踏み込みなどの影響により混入したものである可能性は高い。

いずれの時期や種類の遺物も点数が少なかったり、小破片であるため60河道の埋没時期を示す資料であるかは根拠に乏しいが、周辺の調査成果を参考にすると、庄内～布留式期に埋没したとみるのが妥当である。

なお河道に設定したグリッド別に出土状況を通観すると、まず河道の中央寄りに位置するグリッド11・12からは遺物の出土がなかった。このことから、遺物は流水により運ばれたのではなく、河岸から流れ込んだと推定することができる。

出土遺物が比較的多いのは、グリッド4の42点・309g、グリッド6の32点・213gで、岸部と岸際にあたっている。その他のグリッドでは20点以下の出土量にすぎない。またグリッド4の遺物1点当たりの平均重量は7g、またグリッド6においても同様であり、遺物の破片化が進んでいる。

古墳時代中期以降の遺物については、同一種類が複数点出土したグリッドはなかった。この分散的な状況は、そうした遺物が河道内への混入品であることを端的に示している。

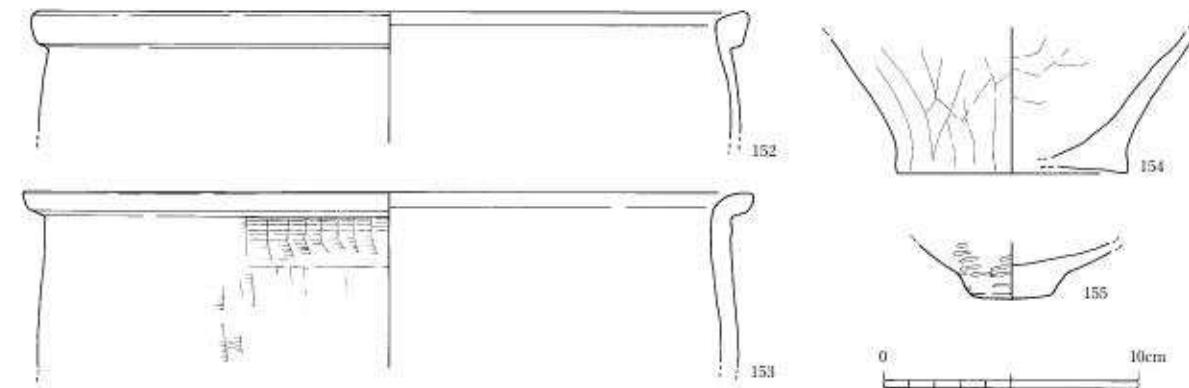
出土遺物は既述したように小破片であり、図上復元が困難なものも多かった。そのため4点を図示したに留まる。

152は弥生中期後葉の鉢。胴部から口縁部にかけてやや内傾する。口縁部端は外方に肥厚し、断面は方形に近い。全体に摩滅していて器面調整は不明瞭だが、胴部内面はユビナデがなされているとみられる。

153も弥生中期後葉の鉢。胴部から口縁部にかけて直立気味に立ち上がり、口縁部端は外方に折り返される。胴部外面に簾状文が施されている。胴部内面の器面調整はユビナデ。

154は弥生中期後葉の壺底部資料。底面は上げ底気味である。胴部外面ヘラケズリ、内面ユビナデにより器面調整がなされている。

155はV様式系甕の底部。底部は少し突出するが、底面はやや丸味のある平底。底部端までタキ調整が及んでいる。



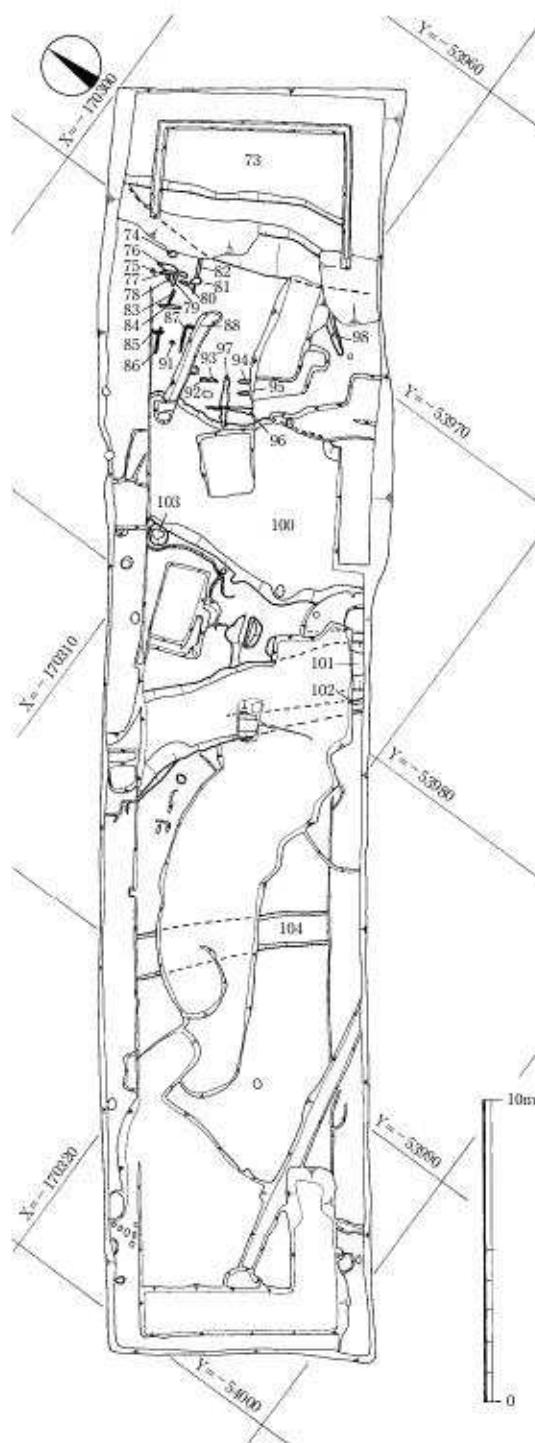
第58図 60河道出土土器

4 10-3区の発掘調査

(1) 調査成果の概要

10-3区は住宅敷地内の南西端近くに当たり、住宅内を横断する新設道路の建設部分である。06-1区の南西延長にあたる。天の川の南西に位置するこの調査区は、田鶴羽遺跡の範囲内である。調査面積は347m²であった。

この調査地では盛土・旧耕作土の下が遺構面で、10-1・2区とは異なり、1面だけであった。



第59図 10-3区遺構全体

遺構面の標高はT.P.22.9~22.8mである。検出遺構は河道1条、溝3条、土坑1基、小穴5基、耕作痕18条、水田1箇所である。

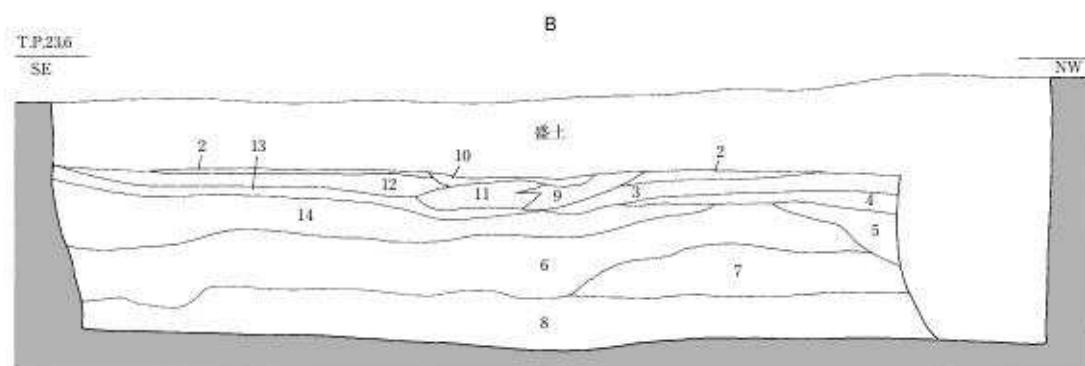
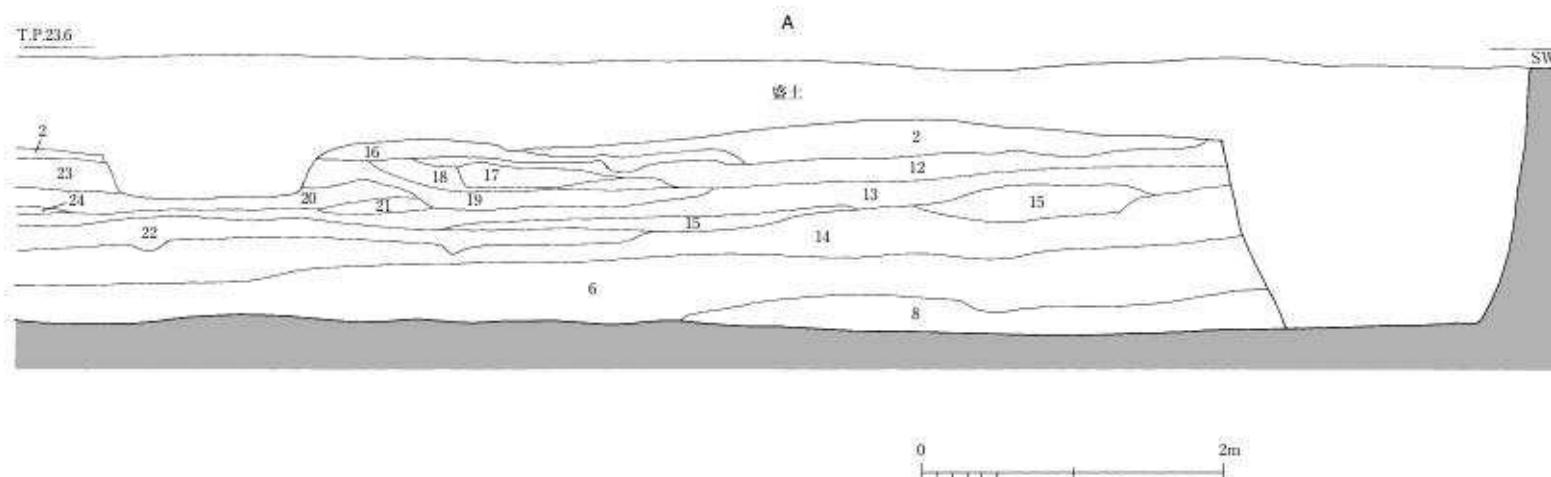
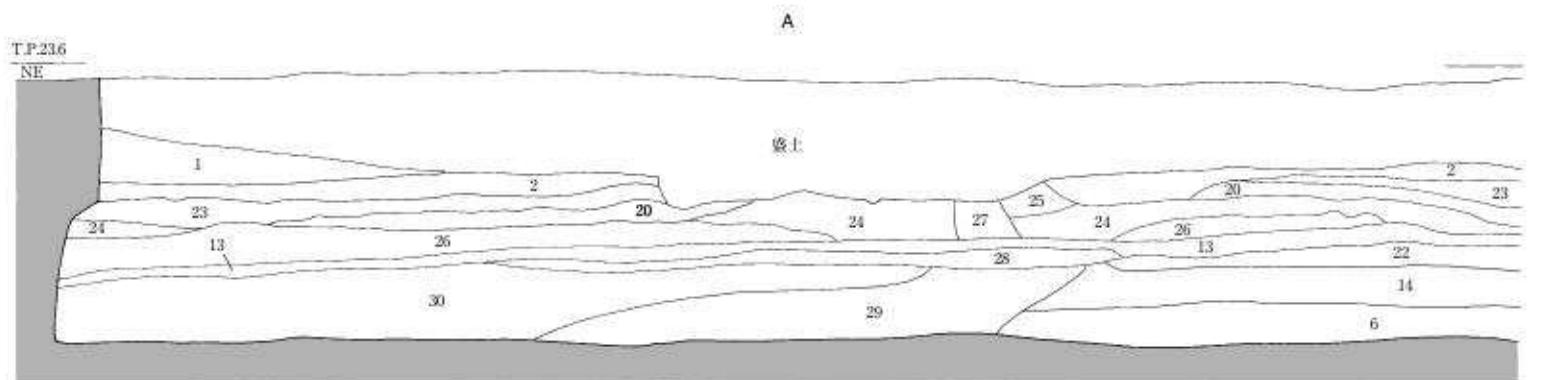
調査区内には多くの攪乱が入り、ことに調査区の南西半分では著しく、本来存在した数多くの遺構が消失しているとみられる。また溝および耕作痕は北西-南東、あるいはそれと直交する方向に主軸をとる。

出土遺物は10-3区全体で、1520点・10144gの土器類と瓦9点・602g、製塩土器1点・373g、埴輪1点・8g、石鎌1点・1g、サスカイト剥片2点・3gの合計1534点・11131gを数えた。その半数近くは、100河道の堆積土に包含されていたものである。

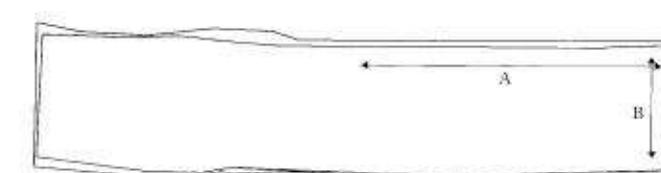
(2) 調査区土層

現地表面下に府営住宅造成時の盛土が0.5~0.6mの厚さであり、部分的ではあるがその下には旧耕作土が最大30cmの厚さで認められる。旧耕作土下のT.P.22.9~22.8mの高さでは、調査区のほぼ全面に黄色系の砂シルト(2・10層)が広がり、遺構面となっている。

この黄色系砂シルト以下が調査区の基盤層である。上部を占める黄色系砂シルトの下は、主として調査区南西半分が黄(褐)色系の砂質土、北東半分が黄色系の砂である。この砂層は砂質土を肩にして堆積している状況を示しているので、基盤層の形成が南西から北東方向に進んだとみることができる。



- 1 灰色 (5Y4/1) 砂シルト、旧耕作土
- 2 にぶい黄色 (2.5Y6/3) 砂シルト、全体にやや酸化、縫りやや欠く
- 3 黄褐色 (2.5Y5/3) 砂質土、縫多包、粗質
- 4 明黄褐色 (10YR6/6) 砂質土、細縫・破碎縫多包、粗質
- 5 黄褐色 (2.5Y5/4) 砂質土、縫多包、粗質
- 6 黄褐色 (2.5Y5/3) 砂質土、縫多包、粗質
- 7 黄褐色 (2.5Y5/3) 砂質土、細縫多包
- 8 明黄褐色 (10YR6/6) 砂質土、灰白色 (2.5Y8/2) 粘土ブロック少量含む、縫多包
- 9 黄灰色 (2.5Y7/2) 粘シルト、黄褐色 (2.5Y5/3) 砂質土少量含む、全体にやや酸化
- 10 浅黄色 (2.5Y7/4) 粗砂、細縫多包
- 11 黄褐色 (2.5Y5/3) 粗砂、細縫多包
- 12 暗灰黄色 (2.5Y5/2) 粘質土、縫多包、粗質
- 13 明黄褐色 (10YR6/6) 砂質土、縫含む、全体に酸化、やや粗質
- 14 灰黄色 (2.5Y6/2) 砂質土、細縫多包、粗質
- 15 黄褐色 (2.5Y5/4) 砂質土、細縫多包、粗質
- 16 黄褐色 (2.5Y5/3) 砂シルト、細縫多包
- 17 黄褐色 (2.5Y5/3) 砂質土、細縫多包
- 18 灰黄色 (2.5Y7/2) 砂シルト、同色の砂、細縫含む
- 19 にぶい黄色 (2.5Y6/3) 粗砂、細縫多包、粗質
- 20 灰白色 (7.5Y7/1) 砂シルト、細縫僅かに含む、全体にやや酸化
- 21 にぶい黄色 (2.5Y6/3) 砂質土、縫含む、やや粗質
- 22 暗灰黄色 (2.5Y5/2) 粗砂、縫含む
- 23 浅黄色 (2.5Y7/3) 砂質土、縫含む、粗質
- 24 灰黄色 (2.5Y6/2) 粗砂、縫縫・破碎縫含む
- 25 暗灰褐色 (2.5Y4/2) 砂シルト、細縫・破碎縫含む
- 26 灰黄色 (2.5Y6/2) 粗砂、灰白色 (5Y7/1) 砂シルト含む
- 27 灰白色 (10YR7/1) 粗砂、縫多包、部分的に酸化
- 28 にぶい黄色 (2.5Y6/3) 粗砂、炭化物含む、縫多包
- 29 灰黄色 (2.5Y6/2) 粗砂、縫多包
- 30 黄灰色 (2.5Y6/1) 粗砂、縫多包



第60図 10-3 区土層

この進行方向は、天の川以東の様相と逆である。

天の川の東側では、北東から南西に向かって基盤層が形成されたことが04-1・2区や09-1区の発掘調査によって判明した。したがって天の川に向かって東西両側から基盤層の形成が進み、最後に現在の流れのみが残ったといえる。なお基盤層内では、粘質土の存在は希薄である。

(3) 検出遺構と出土遺物

河道や溝などの遺構を合計29基検出したが、そのうち河道1条、溝3条、水田1箇所を取り上げる。

100河道

100河道は調査区の北東寄りを横断する。幅は8.3mを測る。現状の最大深度は80cmである。西岸際が深く、東岸に向かって底面は上昇する。西岸は急角度で立ち上がるが、遺構面下20cmほどの部分から上はテラス状に広がっている。このテラス状部分の幅は0.2mから2.0m以上に及んでいる。河道内堆積土の状況をみると、河道本流部分の堆積土がテラス状部分の堆積土を切り込んでいる。このことから、100河道は新旧2条の河道が重複したものといえる。

堆積土は黄褐色（2.5Y5/6・2.5Y5/4・2.5Y5/1）・にぶい黄色（2.5Y6/4）・灰白色（N7/0・2.5Y7/1）・灰色（N6/0・N5/0・N4/0・5Y4/1・7.5Y5/1）系の粘土・粘質土が主体で、北西壁の立ち上がり近くには砂質土（37層）が認められる。またテラス状部上では砂質土と粘質土が互層に、あるいは粘質土が砂質土を挟り込んで堆積している。

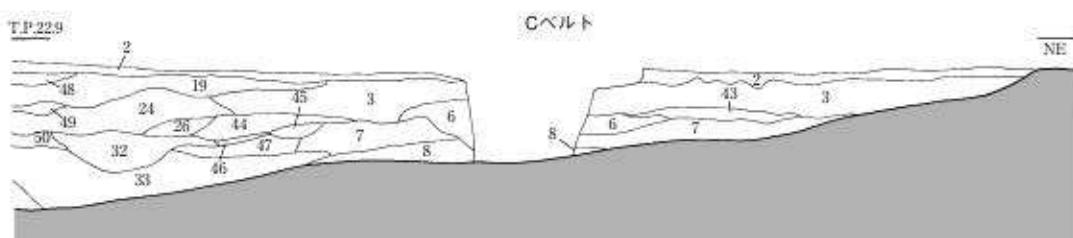
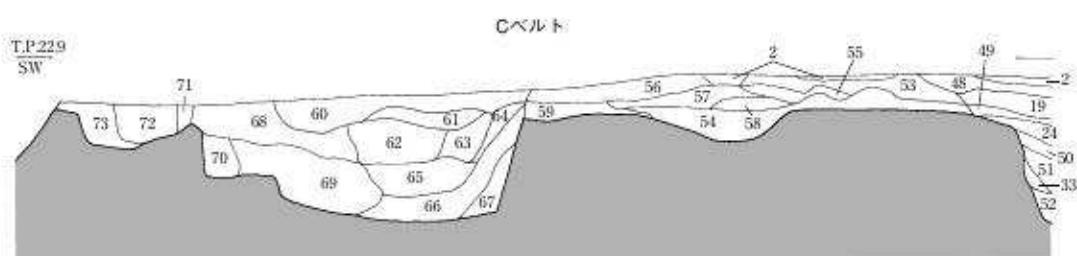
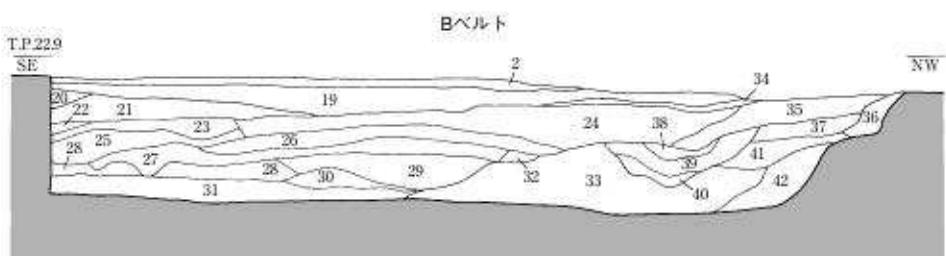
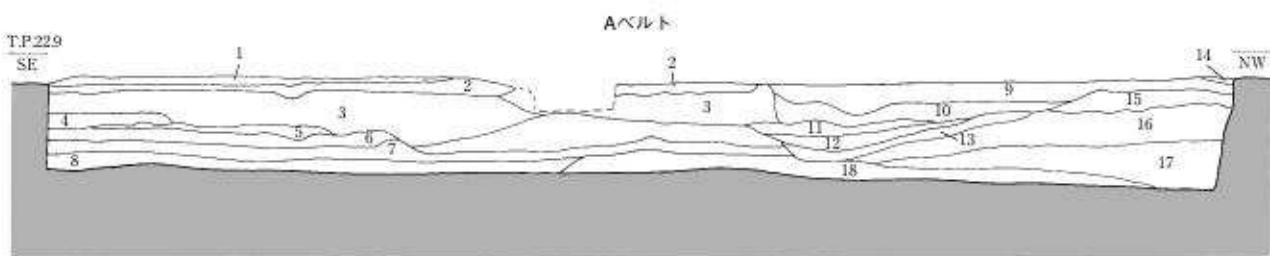
出土遺物は789点、5815gを数える。10-3区出土遺物総数の52%（点数比）を占めている。出土遺物は弥生～古墳時代の土器750点・3857gをはじめ、弥生中期後葉の土器9点・292g、弥生後期4点・207g、弥生後期～庄内式期9点・468g、庄内式期1点・9g、庄内～布留式期2点・129g、布留式期7点・320g、須恵器3点・31g、瓦器2点・8g、瓦1点・121g、製塩土器1点・373gである。弥生～古墳時代の土器とした、時期比定のできないものは点数比で100河道出土遺物の95%にのぼる。それに次ぐのが弥生中期後葉と弥生後期～庄内式期の9点であるにすぎない。

古墳時代中期以後の遺物は須恵器、瓦器、瓦であるが、いずれも小破片が出土したにすぎない。しかも一括として取り上げた瓦器1点・5gを除くと、いずれも上層からの出土であるので、これらは堆積土上層への混入品の可能性が高い。

一方、古墳時代中期以前の土器には、弥生中期後葉、後期、庄内式期、布留式期のものがある。ことに庄内～布留式期の土器には、図示できるものも一定量存在している。こうしたことと周辺の河道の状況を考え併せると、100河道は庄内～布留式期にかけて埋没したと考えられる。

出土土器のうち18点を図示した。そのなかには須恵器1点および瓦器2点も含めた。これらは埋没した河道内に後出的に混入したものと考えるが、調査区周辺の歴史的状況を表わす資料であることから併せて図示した。

156は小型壺。胴部は扁球形を呈している。口縁部と胴部の接合部内面には稜が立つ。胴部内



第61図 100河道

- 1 黄褐色 (2.5Y5/6) 粘質土、炭化物・破碎繅含む、全体に酸化
- 2 黄褐色 (2.5Y5/4) 粘質土、黄灰色 (2.5Y6/1) 粘シルト・炭化物含む、全体に酸化
- 3 にぶい黄色 (2.5Y6/4) 粘質土、黄灰色 (2.5Y6/1) 粘シルト・炭化物含む、全体に酸化
- 4 にぶい黄色 (2.5Y6/4) 粘質土、黄灰色 (2.5Y6/1) 粘シルト少量含む
- 5 にぶい黄色 (2.5Y6/4) 粘質土、黄灰色 (2.5Y6/1) 粘シルト含む、炭化物多包
- 6 灰白色 (N7/0) 粘土、炭化物少量含む、酸化し明黄褐色 (10YR6/6) 化する
- 7 灰白色 (N7/0) 粘土、炭化物少量含む、酸化し明黄褐色 (10YR6/6) 化する
- 8 灰色 (N6/0) 粘土、灰色 (5Y6/1) 細砂・炭化物少量含む
- 9 黑褐色 (10YR3/1) 粘質土、炭化物・マンガン・破碎繅含む、全体にやや酸化
- 10 黑褐色 (10YR3/2) 粘質土、炭化物多包、マンガン・破碎繅少量含む、全体にやや酸化
- 11 黑褐色 (10YR3/2) 粘質土、炭化物・マンガン・破碎繅少量含む、全体にやや酸化
- 12 黑褐色 (7.5Y3/1) 粘土、炭化物・破碎繅少量含む、全体にやや酸化
- 13 灰色 (N4/0) 粘土、炭化物少量含む、粘性強い
- 14 暗灰黄色 (2.5Y5/2) 粘質土、炭化物少量含む、酸化し黄褐色 (2.5Y5/6) 化する
- 15 黄灰色 (2.5Y5/1) 粘質土、同色の砂・炭化物・破碎繅含む、全体にやや酸化
- 16 暗灰黄色 (2.5Y5/2) 砂質土、同色の粘質土含む、破碎繅多包
- 17 黄灰色 (2.5Y5/1) 砂質土、同色の砂・繅含む、繅り欠く
- 18 黄褐色 (2.5Y5/4) 砂質土、灰色 (7.5Y6/1) 砂・細繅少量含む、全体に酸化
- 19 灰黄褐色 (10YR4/2) 粘質土、破碎繅含む、全体にやや酸化、繅りあり
- 20 黄灰色 (2.5Y6/1) 砂質土、明黄褐色 (10YR6/6) 粘土ブロック含む
- 21 黑褐色 (10YR3/2) 粘質土、灰白色 (10YR7/1) 粘シルト・炭化物・マンガン・破碎繅少量含む
- 22 黑褐色 (10YR3/2) 粘質土、明黄褐色 (2.5Y6/6) 砂質土ブロック含む
- 23 黑褐色 (10YR3/2) 粘質土、炭化物・破碎繅僅かに含む
- 24 黄灰色 (2.5Y6/1) 粘土、同色の細砂・炭化物・破碎繅少量含む
- 25 黑褐色 (10YR3/2) 粘土、灰白色 (5Y7/2) 砂・粘シルト少量含む、全体に酸化、繅りやや欠く
- 26 黄灰色 (2.5Y5/1) 粘土、同色の細砂・炭化物少量含む
- 27 暗灰黄色 (2.5Y5/2) 粗砂、同色の粘質土・破碎繅少量含む
- 28 灰色 (N4/0) 粘土、炭化物含む、繅り欠く
- 29 灰色 (N5/0) 粘土、黄褐色 (2.5Y5/3) 粗砂ラミナー状に堆積、炭化物少量含む
- 30 灰色 (N4/0) 粘土、灰色 (5Y6/1) 砂・炭化物少量含む、繅り欠く
- 31 灰色 (7.5Y6/1) 砂・繅多包、粗質
- 32 黑褐色 (10YR3/1) 砂シルト、炭化物・破碎繅含む、やや粗質
- 33 黑色 (7.5Y2/1) 粘土、明黄褐色 (10YR6/6) 粘質土ブロック・灰白色 (2.5Y7/1) 粘シルト含む
- 34 黄灰色 (2.5Y4/1) 粘土、炭化物・マンガン含む、全体に酸化
- 35 黄灰色 (2.5Y5/1) 粘土、炭化物・マンガン少量含む、全体にやや酸化
- 36 灰黄色 (2.5Y7/2) 砂シルト、暗灰色 (N3/0) 粘土ブロック含む
- 37 灰色 (N5/0) 砂質土、炭化物少量含む、全体に酸化、繅りあり
- 38 黑褐色 (2.5Y3/1) 粘質土、明黄褐色 (2.5Y6/6) 粘質土ブロック少量含む、繅りあり
- 39 黑褐色 (2.5Y3/1) 粘質土、同色の粗砂・炭化物・破碎繅含む、繅り欠く
- 40 黑褐色 (2.5Y3/1) 粘質土、同色の粗砂・明黄褐色 (2.5Y6/6) 粘質土含む、繅り欠く
- 41 黄灰色 (2.5Y5/1) 粘シルト、炭化物僅かに含む、全体に酸化
- 42 灰黄色 (2.5Y7/2) 砂シルト、黄灰色 (2.5Y4/1) 粘質土少量含む
- 43 灰白色 (2.5Y7/1) 砂シルト、炭化物含む、酸化し明黄褐色 (10YR6/6) 化する
- 44 黄灰色 (2.5Y5/1) 砂質土、同色の粗砂・炭化物・破碎繅含む、粗質
- 45 黄灰色 (2.5Y5/1) 粘土、明黄褐色 (10YR6/6) 砂質土・炭化物含む、繅りやや欠く
- 46 灰黄褐色 (10YR5/2) 砂質土、明黄褐色 (10YR6/6) 砂質土・炭化物少量含む
- 47 灰色 (N5/0) 粘土、炭化物・破碎繅少量含む、繅りやや欠く
- 48 にぶい黄褐色 (10YR4/3) 粘質土、灰白色 (2.5Y7/1) 粘シルト・炭化物・破碎繅少量含む
- 49 黄灰色 (2.5Y5/1) 粘質土、同色の粗砂・炭化物少量含む、繅りやや欠く
- 50 灰色 (5Y4/1) 粘土、灰色 (5Y6/1) 砂・炭化物少量含む、全体にやや酸化
- 51 灰白色 (N7/0) 粘土、炭化物・破碎繅僅かに含む、全体にやや酸化
- 52 灰色 (7.5Y5/1) 粘土、やや緑味あり、粘性強い
- 53 灰白色 (5Y7/1) 砂質土、明黄褐色 (10YR6/6) 砂質土・炭化物・マンガン・破碎繅含む
- 54 暗灰黄色 (2.5Y5/2) 砂質土、黄灰色 (2.5Y6/1) 砂質土・炭化物・細繅・破碎繅含む
- 55 鹤灰色 (10YR4/1) 砂質土、灰白色 (5Y7/1) 砂質土・炭化物・破碎繅僅かに含む
- 56 にぶい黄褐色 (10YR4/3) 粘質土、炭化物・マンガン・細繅・破碎繅含む、粗質
- 57 にぶい黄褐色 (10YR4/3) 粘質土、破碎繅多包、粗質
- 58 鹤灰色 (10YR4/1) 粘質土、炭化物・破碎繅含む、繅りやや欠く
- 59 灰白色 (2.5Y7/1) 粘質土、炭化物・細繅僅かに含む、酸化し明黄褐色 (10YR6/6) 化する
- 60 黄褐色 (10YR5/6) 砂質土、灰白色 (5Y6/1) 粘質土・炭化物・マンガン・破碎繅少量含む、全体に酸化
- 61 暗灰黄色 (2.5Y5/2) 砂質土、同色の粘質土・破碎繅含む、全体にやや酸化、粗質
- 62 黑灰色 (2.5Y6/1) 粘質土、マンガン・細繅含む、全体に酸化
- 63 灰白色 (2.5Y7/1) 砂質土、同色の粘質土・破碎繅少量含む、全体にやや酸化
- 64 灰白色 (2.5Y7/1) 砂質土、炭化物少量含む、酸化し明黄褐色 (10YR6/6) 化する
- 65 黄灰色 (2.5Y5/1) 粘土、同色の粗砂・明黄褐色 (10YR6/6) 粘質土含む、繅りやや欠く
- 66 灰色 (N5/0) 粘土、炭化物含む、粘性強い
- 67 明黄褐色 (10YR6/6) 粘土、灰白色 (5Y6/1) 粘土・炭化物・マンガン少量含む、繅りやや欠く
- 68 灰色 (5Y6/1) 粘質土・明黄褐色 (10YR6/6) 砂質土混合層、炭化物・細繅含む、やや粗質
- 69 灰色 (5Y6/1) 砂、同色の砂シルト・灰白色 (N5/0) 粘質土・炭化物含む、全体にやや酸化
- 70 黄灰色 (2.5Y5/1) 砂質土、繅含む、繅りやや欠く
- 71 黄灰色 (2.5Y4/1) 粘質土、炭化物・破碎繅少量含む
- 72 鹤灰色 (10YR6/1) 粘質土、明黄褐色 (10YR6/6) 粘土ブロック・炭化物・細繅含む、全体にやや酸化
- 73 黄褐色 (10YR5/6) 粘質土、鹤灰色 (10YR6/1) 粘質土・炭化物・破碎繅含む、繅りやや欠く

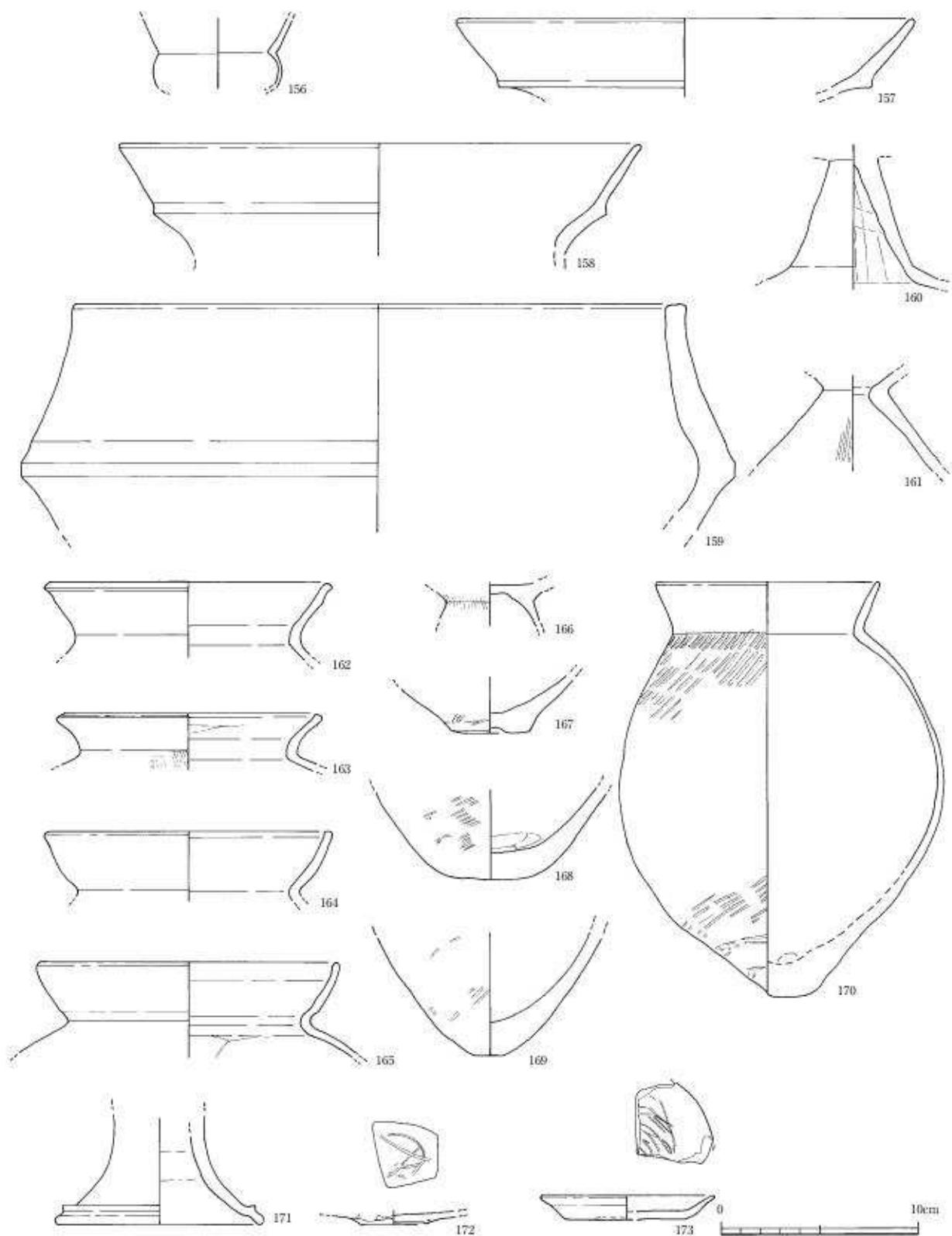
1~59: 100河道 60~70: 101溝 71~73: 102溝

面はユビナデ調整がなされているが、それ以外の器面調整は摩滅のために不明。布留式期古段階に比定できよう。

157は有段口縁壺。口縁部は大きく外方に開き、有段部は鋭い。口縁部外面ヘラナデ、内面ユビナデによる器面調整がなされている。庄内式期。

158も有段口縁壺。157よりも口縁部の開きや有段部の突出は鈍い。内外面とも摩滅のため器面調整は不明。布留式期。

159は複合口縁大型壺。口縁部は「く」字状に屈曲する。外面ヘラナデ、内面ユビナデによる器面調整がなされている。口縁部端面は平坦である。八尾市佐堂遺跡からも類似資料が出土して



第62図 100河道出土土器

いる（（財）大阪文化財センター『佐堂（その2）』1984）。非在地系である。庄内～布留式期。

160は高杯の脚部。裾部の大半は欠失しているが、遺存部分からすると端部に向かって大きく開くと推測される。摩滅のため外面の器面調整は不明だが、内面はヘラナデ・ユビナデがなされている。ただ、粘土の接合痕を消し切れていない。庄内式期に位置付けられよう。

161は小型器台。脚部は「ハ」字状に大きく開く。脚部外面は縦位ミガキ、内面はヘラナデにより器面調整がなされている。庄内式期に収まるであろう。

162は弥生後期の甕の口縁部。口縁部はやや長めで、端部は僅かに外方に肥厚し、端面は幾分平坦になる。口縁部外面はヘラナデ、内面はヘラナデ・ユビナデによる器面調整。

163は布留式系甕。口縁部はやや短く、内面端は僅かに肥厚する。口縁部内外面ヘラナデ調整。胴部外面にハケメが残る。

164も布留式系甕。口縁部はやや内湾して立ち上がる。内面端は僅かに肥厚する。摩滅のため外面調整は不明。内面調整はユビナデ。

165も布留式系甕。口縁部はやや内湾して立ち上がる。内面端は僅かに肥厚する。口縁部外面ヘラナデ、内面ユビナデ・ヘラナデ、胴部内面ヘラケズリによる器面調整がなされている。

166は台付甕の接合部分の資料。底部および脚台部の器壁は薄い。底部から脚台部にかけて連続してハケ調整がなされる。脚台部内面はヘラナデ。東海～関東地方の系統を引いたものであるが、小破片であるため詳細は不明。

167は弥生後期の甕の底部。底部の突出は低いが、底面中央は窪んでいる。底部までタタキ調整が及んでいる。胴部の内面調整はヘラナデ。

168は庄内式系の甕の底部。丸底気味である。底部近くまでタタキ調整がなされている。胴部内面はユビナデ、底部内面はユビオサエにより器面調整がなされている。

169・170は尖底形の製塩土器。胴部外面はタタキ、内面はヘラナデ・ユビナデによる器面調整。底部は厚い。170は被熱のため外面が剥離していて、内壁面は発砲しかかっている。形状は全体にいびつである。

171～173は、河道埋没後の混入遺物であるが、既述したように調査区周辺の歴史的状況を捉える上での参考資料として図示した。

171は須恵器高杯の脚部。脚端近くに突線を巡らせて段をなしている。また内面のユビナデのため、脚端近くが屈曲気味になっている。脚部外面もユビナデ調整。MT15～TK10型式に位置付けられ、田鶴羽古墳群の時期とほぼ等しい。

172は瓦器椀の底部。高台は脆弱化し、紐状の痕跡が僅かに残るのみである。ただ内面の暗文は、不鮮明ながら認められる。胴部の外面調整はユビオサエ。13世紀後葉。

173は瓦器皿。胴部の立ち上がりは低いが、外反気味で、口縁部端は幾分尖る。器面調整は口縁部から胴部にかけての外面がユビナデ、内面はユビナデ・ヘラナデ、底部外面はユビオサエ、内面はユビナデである。内面の暗文は比較的よく残っている。12世紀中葉に位置付けられよう。

101・102溝

101・102溝は調査区のほぼ中央に位置する、北西－南東方向の溝である。攪乱が著しく、断続的にしか検出することができなかった。

2条の溝は、調査区南東辺付近では別個の溝であったが、北西辺付近では重複して平面的には1条の溝となっている。攪乱をまぬがれ島状に残った遺構面（X = -107316m、Y = -53982m付近）では、102溝が単独で捉えられるので、この付近までは2条が離れて走行していて、これより北西寄りで一体化したとみられる。

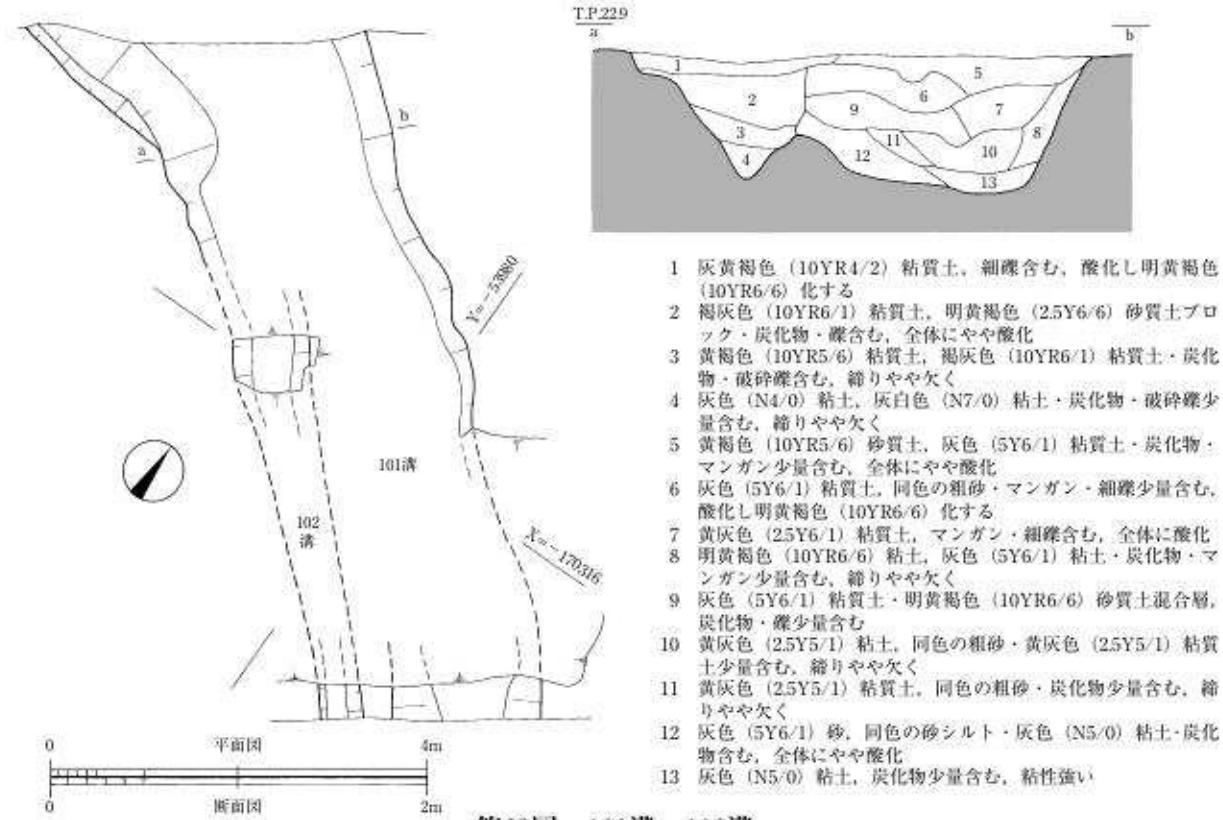
ただ調査区北西辺近くに設定した土層観察ベルトにおいては、102溝が101溝を切り込んでいる状況にあることから、2条の溝は同時に存在していたのではなく、101溝の埋没後に102溝がその脇に掘削されたと考えられる。

調査区南東辺付近における101溝の幅は1.6m、102溝は0.4mである。深さはともに60～70cmほどである。

覆土は、101溝では上層が黄褐色（10YR5/6）砂質土。中層が灰色（5Y6/1）粘質土・黄灰色（2.5Y6/1）粘質土・灰色（5Y6/1）粘質土と明黄褐色（10YR6/6）砂質土の混合層や灰白色（2.5Y7/1）砂質土など。下層が黄灰色（2.5Y5/1）粘土・砂質土・灰色（5Y6/1）砂など。やや不整合な堆積状況を呈している。

102溝は、上層が灰黄色（10YR4/2）粘質土・褐灰色（10YR6/1）粘質土。下層は黄褐色（10YR5/6）粘質土・灰色（N4/0）粘土・黄灰色（2.5Y4/1）粘質土。

101溝からは弥生～古墳時代の土器48点・222g、古墳時代以後の土師器5点・100g、須恵器



12点・232g、黒色土器2点・7gが出土した。いずれも破片が小さく、図上復元もできないが、遺構面下20~40cmの範囲から出土した土師器の中には、13世紀代に位置付けられる土師質土器羽釜が存在していた。おそらくこの頃に101溝が埋没したのであろう。

102溝自体からの出土遺物はないが、101溝と重複した部分から出土した土器はある。本来どちらの溝に含まれていたかは不明だが、弥生~古墳時代の土器1点・6gだけなので上述した101溝の推定埋没年代に影響を与えない。遺跡周辺の状況を考慮しても、両溝は13世紀代のものと捉えられる。

104溝

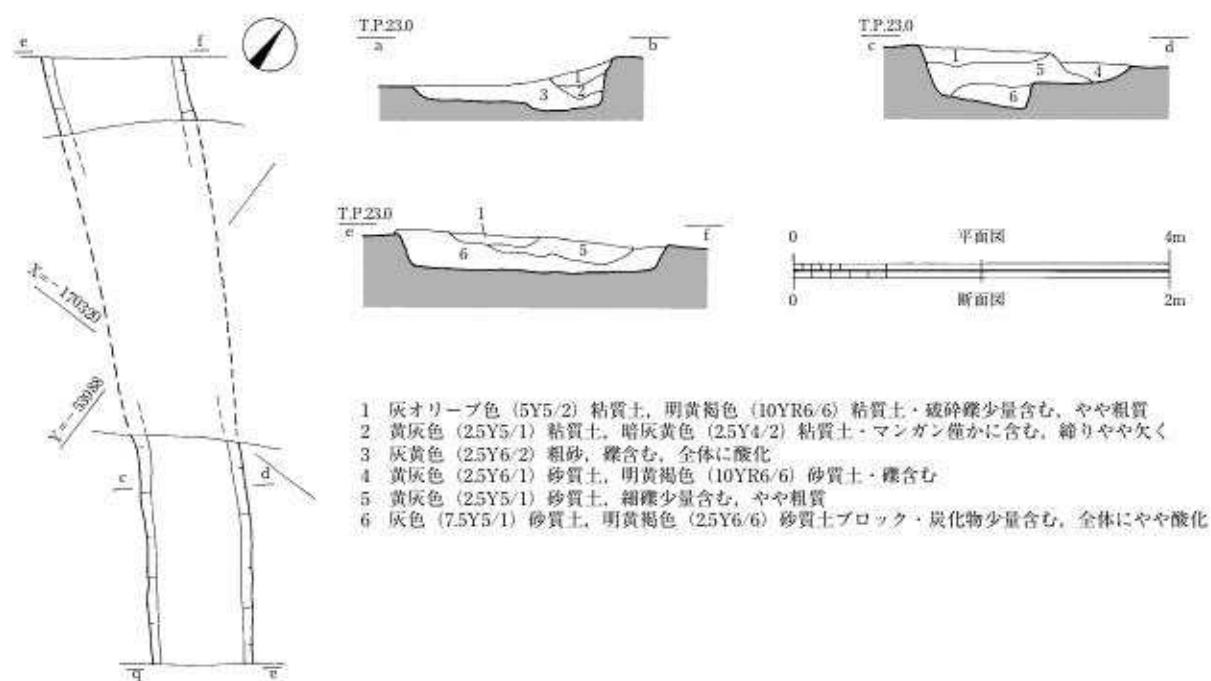
104溝は調査区の中央やや南西寄りに位置する。101・102溝と平行するように調査区を横断する、北西~南東方向の溝である。101・102溝と同じく攪乱により、分断されているが、調査区内で両端が確認できるので、溝の状況をある程度把握することはできる。

溝幅は、調査区南東辺付近で1m、北西辺付近で1.5mを測る。深さは最大30cmである。北西端と南東端との高低差が現状で4cmほどでしかないことから、どちらの方向に流れていったかは明らかでない。

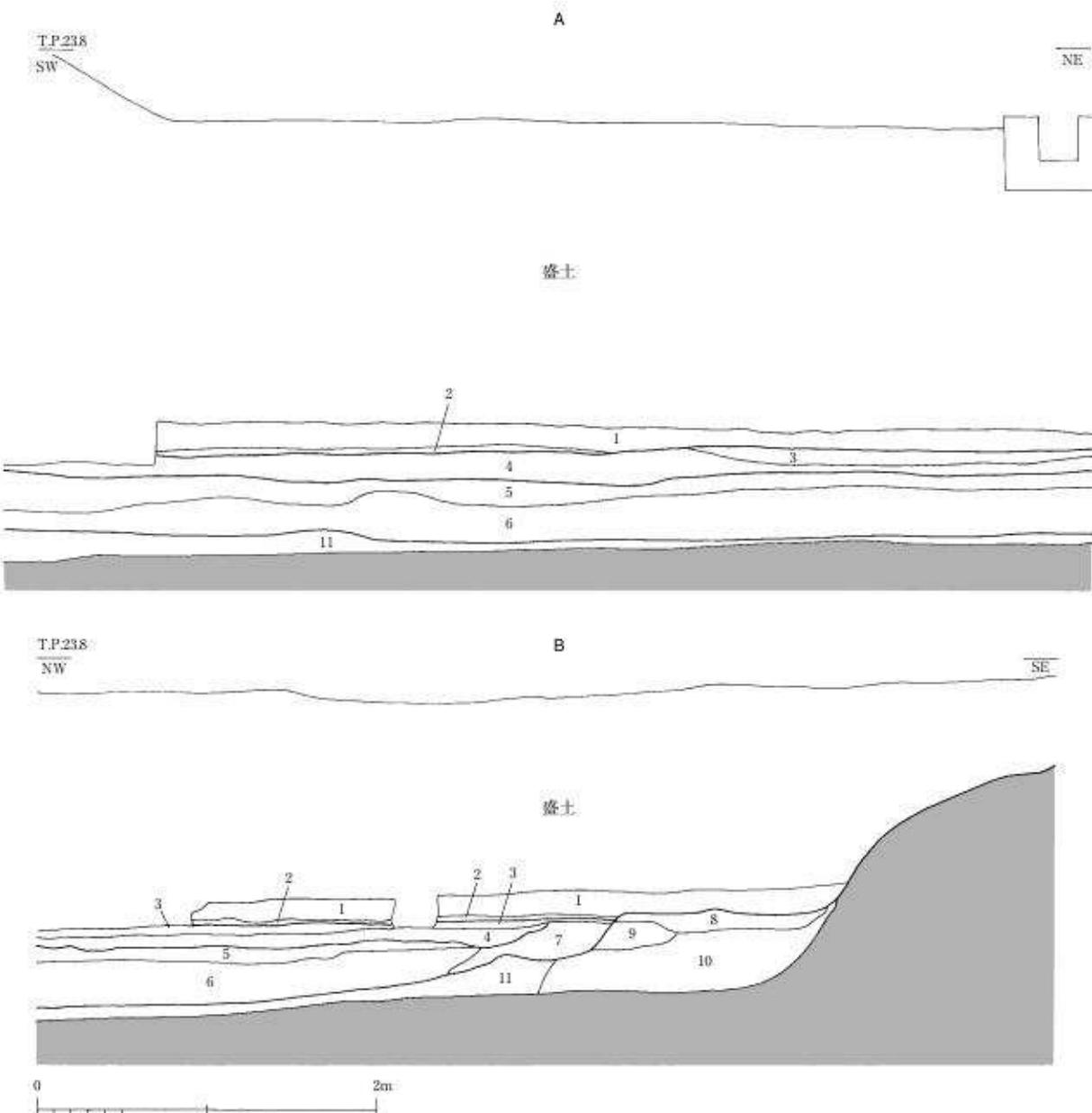
覆土は、底上に灰色(7.5Y5/1)・灰黄色(2.5Y6/2)粗砂、上層に灰オリーブ色(5Y5/2)粘質土・黄灰色(2.5Y5/1)砂質土・同色粘質土が堆積。

出土遺物は弥生~古墳時代の土器8点・13g、古墳時代以後の土師器1点・5g、須恵器2点・112g、黒色土器1点・1g、瓦器6点・20gである。瓦器のうち年代比定が可能な179などから、この溝は101・102溝と同じく13世紀代のものと考えられる。

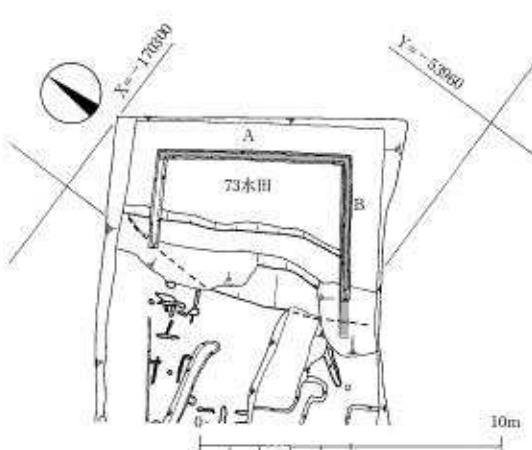
出土遺物のうち図示したのは3点である。そのうちの1点は、この溝の埋没年代を示すとみら



第64図 104溝



- 1 暗灰色 (N3/0) 粘質土、旧耕作土
 - 2 灰白色 (2.5Y7/1) 砂シルト、床土
 - 3 黄灰色 (2.5Y5/1) 粘質土、同色の砂質土・炭化物含む
 - 4 黄褐色 (2.5Y5/4) 粘質土、同色の砂質土・マンガン含む、全体に酸化
 - 5 灰白色 (2.5Y7/1) 粘土、マンガン含む、酸化しにぶい黄色 (2.5Y6/3) 化する
 - 6 灰白色 (2.5Y7/1) 粘土、マンガン含む、酸化しにぶい黄色 (2.5Y6/4) 化する
 - 7 黄灰色 (2.5Y4/1) 粘質土、細繊合む、全体にやや酸化
 - 8 暗灰褐色 (2.5Y5/2) 砂質土、疊多包、全体にやや酸化
 - 9 灰白色 (5Y8/1) 砂シルト・にぶい黄色 (2.5Y6/4) 砂質土混合層、縦りやや欠く
 - 10 黄灰色 (2.5Y5/1) 砂質土、疊多包、全体にやや酸化
 - 11 灰色 (5Y4/1) 粘質土、疊含む、全体にやや酸化
- 3-4: 近世耕作土 5-7: 中世耕作土 8-11: 基盤層



第65図 73水田

れる先述の瓦器碗。残りの2点はそれよりも古い須恵器であるが、田鶴羽古墳群に関する参考資料となる。

177は須恵器の杯蓋。口縁部は直立し、天井部にかけて丸味をもつ。口縁部および胴部の内外面はユビナデ、天井部外面はヘラケズリ、内面ユビナデにより器面調整がなされている。TK23型式に比定できる。

178も須恵器杯蓋。177とは異なり、口縁部から胴部にかけての内外面調整はヘラナデ。天井部は外面にヘラケズリ、内面にユビナデがなされている。177より新しく、MT15～TK10型式に位置付けられる。

179は瓦器碗の底部資料。断面三角形の高台は高さを保っているが、全体に鈍い形状を呈している。13世紀前葉に位置付けられよう。

73水田

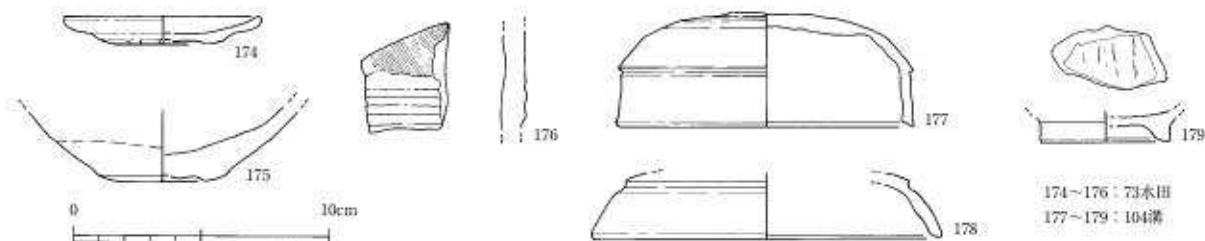
73水田は調査区の南東端で検出された。1.5mほどの比高差のある水田段差の下位で、水田耕作土が確認された。水田耕作土は上下2面あり、黄灰色(2.5Y5/1)・黄褐色(2.5Y5/4)粘質土からなる近世の耕作土と、灰白色(2.5Y7/1)粘土・黄灰色(2.5Y4/1)粘質土からなる古代～中世の耕作土(以下、中世耕作土と呼ぶ)に分かれる。

出土遺物は弥生～古墳時代の時期不詳土器3点・27g、古墳時代以後の土師器1点・4g、須恵器1点・12g、黒色土器1点・4g、瓦器1点・5g、陶器2点・35g、磁器1点・11g、瓦3点・100gおよび埴輪1点・8gである。このうち中世耕作土に包含されていたのは、弥生～古墳時代の土器2点・16g、黒色土器1点・4g、瓦器1点・5g、陶器1点・33gである。陶器は13世紀に比定できる灰釉陶器である。したがって中世耕作土は、以下に示す出土遺物の比定時期からみて、13世紀代まで形成されたと考えられる。

出土遺物14点のうち、3点を図示した。

174は瓦器皿。胴部は外方に屈曲し、口縁部は僅かに内湾する。底部は上げ底氣味。口縁部内外面ユビナデ、胴部から底部にかけての外面はユビナデ・ユビオサエ、内面はユビナデにより器面調整がなされている。13世紀に比定できよう。

175は灰釉陶器。胴部はやや内湾氣味に立ち上がる。削り出し高台。胴部外面はヘラケズリ調整がなされ、底部近くを除いて灰釉が施されている。内面は全体に灰釉が掛かる。13世紀前半に位置付けられよう。



第66図 遺構出土遺物

176は円筒埴輪の小破片。突帯は低い。外面の斜位ハケメは細かい。内面調整は縦ヘラケズリ・ユビナデ。6世紀代の埴輪である。調査区は田鶴羽古墳群に近いが、古墳群から埴輪は出土していないので、古墳群に後続する時期の古墳の存在が予測される。

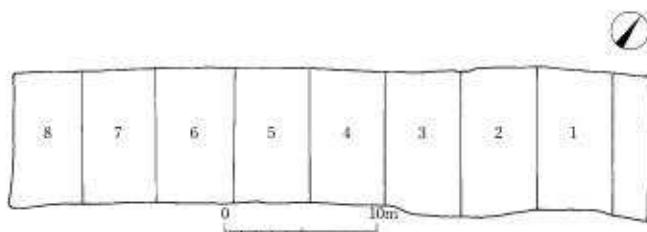
73水田から出土した遺物は、平安時代後半、中世、そして近世にまで及ぶ。そのうち平安時代後半から中世にかけてのものは中世耕作土に対応すると考えられ、平安時代後半期から13世紀にかけて耕作土が形成されたことを暗示している。さらにこうした状況は、45畦をはじめとする10-1区における水田遺構の年代状況にも近い。

したがって、天の川の両岸の比較的広い範囲において、遅くとも平安時代後半期以降13世紀にかけて、水田が形成されていたことはほぼ確実である。

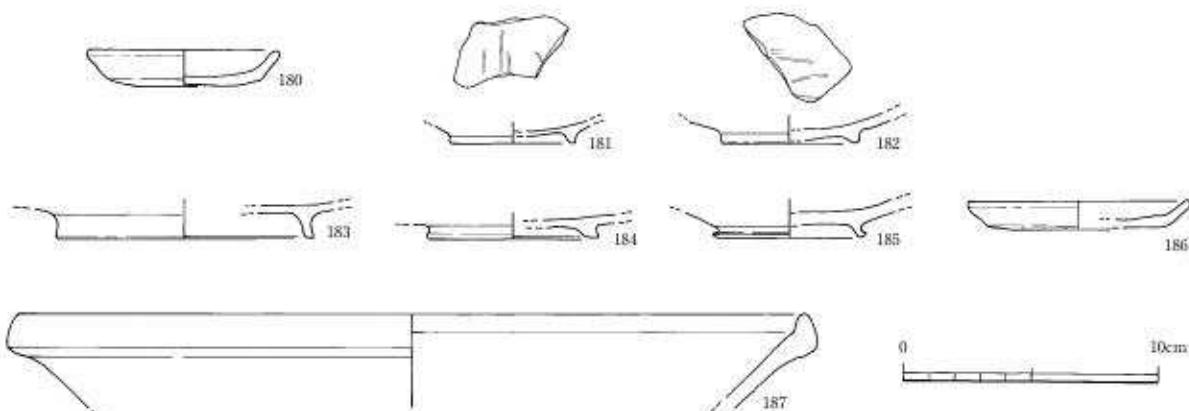
さらに、73水田と近接して走行する101・102・104溝も13世紀代に廃絶されている点から、水田と同時期に機能していた可能性が高く、その3条の溝は水田に伴った用水路ではないかと考えられる。

遺構外出土遺物

73水田における段差下位部分を除いて調査区を10m単位で分割し、8グリッドを設定して遺構外出土遺物を取り上げた。出土した土器類および瓦は625点・3737gを数える。そのうち土器類は弥生後期～庄内式期の土器2点・108g、庄内～布留式期5点・273g、弥生～古墳時代にかけての土器407点・1765g、古墳時代以後の土師器9点・162g、須恵器56点・587g、黒色土器8点・26g、瓦器128点・390g、陶器4点・35g、磁器1点・10gである。点数比で65%が比定時



第67図 10-3区のグリッド



第68図 遺構外出土遺物

期不詳の弥生～古墳時代の土器であるが、次いで瓦器が多く、20%を占めている。

攪乱の著しいグリッド7・8からは遺物の出土が認められなかった。またグリッド4で188点・1239g、グリッド3で80点・478gの多量の土器類が出土していて、両グリッドで遺構外出土遺物の42%（点数比）を占めている。

10-3区では旧耕作土直下が遺構面に該当しているため、遺物を含んだ堆積土は基本的には存在していない。したがって遺構検出作業時などで取り上げた遺物は、本来いずれかの遺構に包含されていたものであったとみられる。グリッド3・4における出土土器類の多さは、100河道や101・102溝が存在する位置に当たっていることによるといえる。

出土遺物にうち8点を図示した。これらは当調査区周辺の歴史的状況を考える上での参考となり得る。

180は土師器皿。胴部から口縁部にかけてやや内湾しながら立ち上がる。口縁部端は尖り気味。胴部から口縁部にかけての器面調整は、内外面ともユビナデ。底部は外面ヘラケズリ、内面ヘラナデ・ユビナデである。12世紀前半。

181は瓦器椀の底部。高台は外方にやや張り出し、断面方形に近い。内面に暗文が残るが、摩滅のため不鮮明になっている。器面調整も摩滅のために不明。12世紀後半に位置付けられる。

182も瓦器椀の底部。高台の断面はやや鈍い三角形を呈する。内面に暗文が残るが、摩滅のために不鮮明である。高台部内外面はユビナデ調整がなされているとみられるが、それ以外の器面調整については摩滅のために不明。13世紀代。

183はA類黒色土器椀の底部。高台は外方に張り出し気味である。摩滅のために器面調整や内面のミガキは不明になっている。10世紀前半。

184は瓦器椀の底部。高台の断面は、やや幅広い方形を呈している。底部外面にはユビナデ調整がなされているが、それ以外の調整や内面の暗文は摩滅のために不明である。12世紀後葉に収まるであろう。

185も瓦器椀の底部。高台はやや低いが断面は方形を呈し、端部は外方に張り出す。本資料も器面調整や内面の暗文は不鮮明になっている。12世紀後半。

186は瓦器皿。胴部は浅い。口縁部にかけて直線的に開いて立ち上がる。器壁はやや厚め。胴部から口縁部にかけて内外面ともユビナデ調整。底部は外面ヘラナデ、内面ヘラナデ・ユビナデ。12世紀後半。

187は須恵質土器の捏鉢。口縁部にかけて直線的に立ち上がり、口縁部端は上方に肥厚する。胴部から口縁部にかけての外面はヘラナデ、内面はユビナデによって器面調整がなされている。12世紀末～13世紀前葉に位置付けられる。

図示した遺物は主として12世紀後半から13世紀代にかけてのものであった。したがってこうした遺物は、水田形成期から廃絶期までに水田耕作土や用水路（101・102・104溝）内に埋まつるものであると考えられる。

IV まとめ

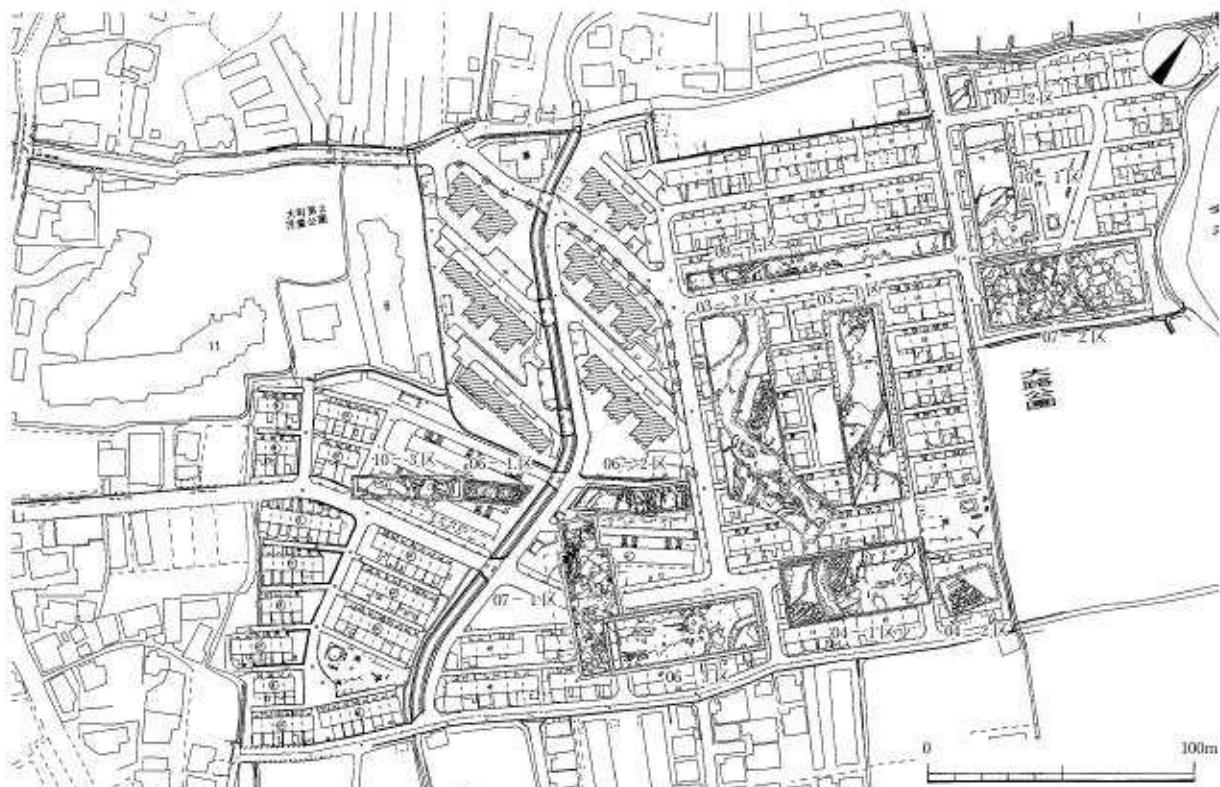
1 平成21・22年度と既往の調査成果

大町遺跡においては、試掘・確認調査を除いて、過去4カ年度にわたって9調査区の発掘調査を行った。平成21・22年度の4調査区を加えると、調査区は住宅敷地内の西および南の一部を除くほぼ全域に分散している。とはいっても、近世頃に旧地形の改変を受け、大半の調査区では中世以前の遺構が消失していた。そうした中で、10-1区では遺構面の残りがよく、弥生時代中期後葉や平安時代後期～鎌倉時代前半の遺構が検出された。また、遺存状況は悪いものの、10-3区でも平安時代～鎌倉時代の遺構は見つかった。ここでは平成21・22年度の調査区と過去の周辺調査区の発掘調査成果とを併せてまとめたい。

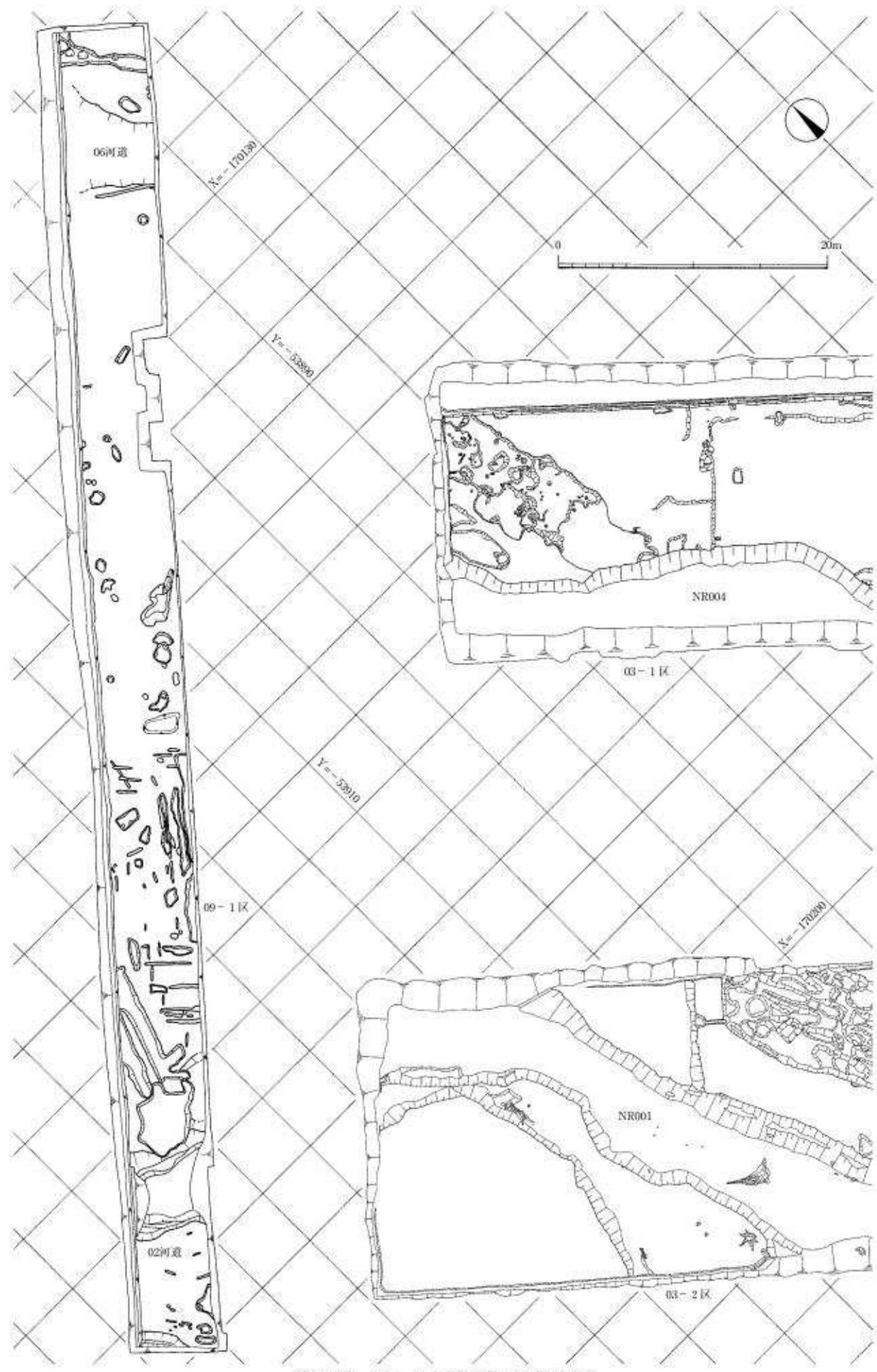
09-1区周辺

09-1区の周辺では、03-1区と03-2区が近接して位置している。03-1区では調査区の南西辺に沿ってNR004が、03-2区では調査区をほぼ縦断するようにNR001がそれぞれ流れている。そして既述したように、09-1区で検出した02河道がNR001の北西延長に該当すると考えられる。

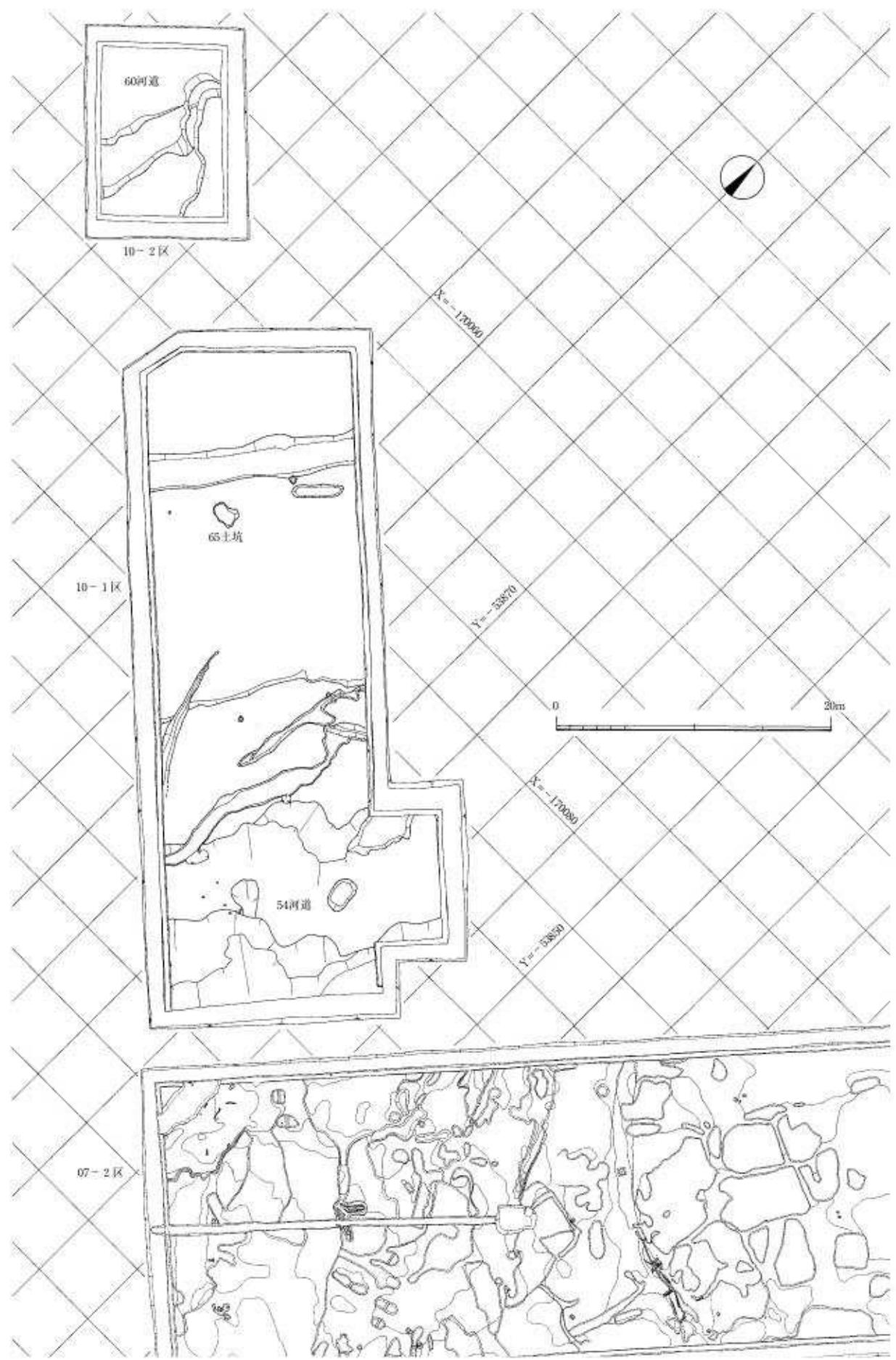
一方、NR004の延長とみられる河道の存在は、09-1区では認められなかった。09-1区では、調査区北東端近くで06河道を検出したが、それは03-1区のさらに南東に位置する04-2区の河



第69図 平成21・22年度と既往の調査区



第70図 09-1区と周辺の調査区



第71図 10-1・2区と周辺の調査区

道1の北西延長部分だと考えた。NR004の延長部分が09-1区で確認できることから、NR004は09-1区の手前で東方向に屈曲していると考えられる。

04-1区では庄内～布留式期の075堅穴状遺構が検出された。この時期の遺構は、075堅穴状遺構と、それに近接した1基の土坑にその可能性があるのみで、河道を除くと、03-1・2区においても存在は認められなかった。09-1区にあっても庄内～布留式期の遺構は、河道を除いて確認できない。ただし、02河道の北東岸付近で出土した庄内式期の土器のまとまりをみると、河道付近にその時期の遺構が存在したことは推測される。

なお03-1区、03-2区ともに、河道の岸部では近世末から近代にかけての粘土採掘坑が検出された。これに対して09-1区で検出された不定形の土坑はいずれも浅く、粘土採掘坑とはみられない。03-1・2区の南東に位置している04-1・2区でも粘土採掘坑が検出されているので、09-1区と03-1・2区の間が粘土採掘坑の北西への広がりの境界だと考えられる。

10-1・2区周辺

10-1・2区の周辺には、07-2区が近接している。10-1区では庄内式期にほぼ埋没した54河道をはじめ、13世紀前葉に廃絶された水田、その後に形成された畠地耕作土、あるいは弥生時代中期後葉の遺物廃棄土坑（65土坑）などが見つかっている。これに対して07-2区では遺構の存在は不明瞭で、主として調査区の北東半分で中世とみられる小水田状の落ち込みが捉えられているだけである。ただ導水施設の可能性がある木組みも見つかっていることから、何らかの耕作地が10-1区より南東方向にも広がっていたとの推測は可能であろう。

10-1区の北西に10-2区が位置していて、そこでも自然河川の痕跡である60河道が検出された。この60河道からは100点を超える土器の破片が出土しているが、河道の時期を決定する材料を欠いている。ただ周囲の状況から、庄内～布留式期に埋没した可能性が高い。

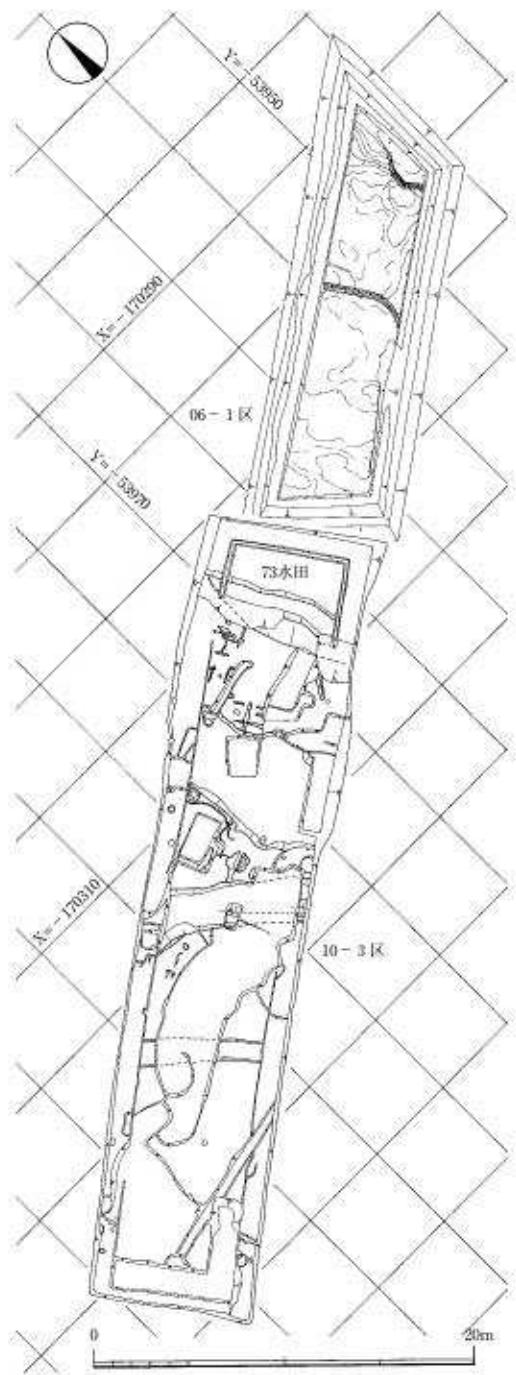
10-2区の南方に位置するのは09-1区・03-1区であり、09-1区では縄文時代後期に埋没したとみられる06河道が調査区北東端近くに存在しているが、その付近で庄内～布留式期の河道は見つかっていない。03-1区では、先述のNR004とNR005の2条の自然河川が検出されている。ともに出土遺物の数が少なく、埋没時期を決めるることは難しい。

10-3区周辺

10-3区は06-1区と隣接している。これらの調査区は天の川の西岸にあり、遺跡としては田鶴羽遺跡にあたる。天の川を挟んだ東岸には06-2区や07-1区・06-3区が位置している。

10-3区では13世紀代まで続いた水田耕作土とその後近世まで続く近世耕作土が調査区北東端で検出されたほか、13世紀代に廃棄された3条の用水路とみられる溝、庄内～布留式期に埋没した河道などが検出された。06-1区でも10-3区検出の73水田の続きが広がっていたが、この水田以外の遺構は検出されていない。

天の川の東岸の06-2区では13世紀中葉に廃絶された木組井戸、14世紀中葉廃絶の石組井戸、そして土器溜りなどが検出されている。土器溜りは13世紀前～中葉頃とされているが、遺物をみ



第72図 10-3区と周辺の調査区

大町遺跡における土地利用の変遷

平成21・22年度および過去4カ年度の発掘調査成果に基づいて、大町遺跡の土地利用の変遷をまとめておく。

まず縄文時代後期には河道1（04-2区）や06河道（09-1区）が存在する。それらを堆積させながら基盤層の形成は進み、弥生時代中期中葉にはほぼ完了を迎える。中期後葉には地盤が安定する。この段階に集落の形成が始まっていたとみられ、10-1区の遺物廃棄土坑（65土坑）がそれを示している。ただし基盤層の形成が終わり安定期にあったとはいえ、その後に流水が基盤層を切り込み形成した河川は、遺跡内において幾筋も存在していた（03-1区：NR001、04-1

ると13世紀後葉～14世紀前葉とするのが妥当と考える。したがって石組井戸と土器溜りは、10-1区や10-3区の水田が廃絶された後に設けられたものである。ただ木組井戸については判断がつかない。土器溜りからは土師器や瓦器とともに土師質土器土釜、青磁、瓦などが出土しているので、これらを使用していた家屋が近在した可能性もある。

また06-2区の北東半分には粘土採掘坑が群集している。07-1区では粘土採掘坑の存在は認められない。その広がりの西端は06-2区の北東半分までとなる。

07-1区では、14世紀中葉に廃絶した石組井戸、土師器・瓦器・瓦などが出土した大落ち込みのほか、墓の可能性もある14世紀中葉の土坑や石列群が検出された。石列群の時期は不明であるが、周辺からは13世紀中葉の瓦器椀や14世紀中葉の瓦質土器の土釜が出土しているので、その頃に構築されたものかも知れない。

07-1区に隣接する06-3区では、14世紀中葉に廃絶した石組井戸が検出された。このほか、弥生時代後期末に埋没したとされる大溝もあるが、残りの遺構には不定形な落ち込みが多い。

このように、10-3区の北東には水田が広がっていたが、天の川を越えると様相は異なり、06-2区・07-1区・06-3区に囲まれた範囲には屋地が存在していた可能性がある。

区：河道2・3、09-1区：01・02河道、10-1区：54河道、10-2区：60河道、10-3区：100河道など）。こうした河道も主として庄内式期には埋まり、布留式期にはほぼ平坦地化する。これらの河道の中には、明らかな切り合い関係が認められるものもあるので、すべてが同時期に存在していたのではない。弥生時代中期中葉から後期にかけての時間幅の中で、先行河道や基盤層の軟弱部分をそれぞれに削り込んで形成されたのである。

各河道が埋没する庄内式期から布留式期にかけては、規模の大きな集落が遺跡内で形成されていたと推定される。当該期の遺構としては、075竪穴状遺構と可能性のある030土坑があるにすぎないが、河道から出土した多量の土器が集落の存在を暗示している。ことに09-1区の02河道北東岸付近で認められた土器の出土状況は、付近に集落があったことを示唆している。また075竪穴状遺構は、3箇所の炉と粘土の貼床を付設した工房の痕跡とみられ、集落内で生産活動も行われていたと考えられる。

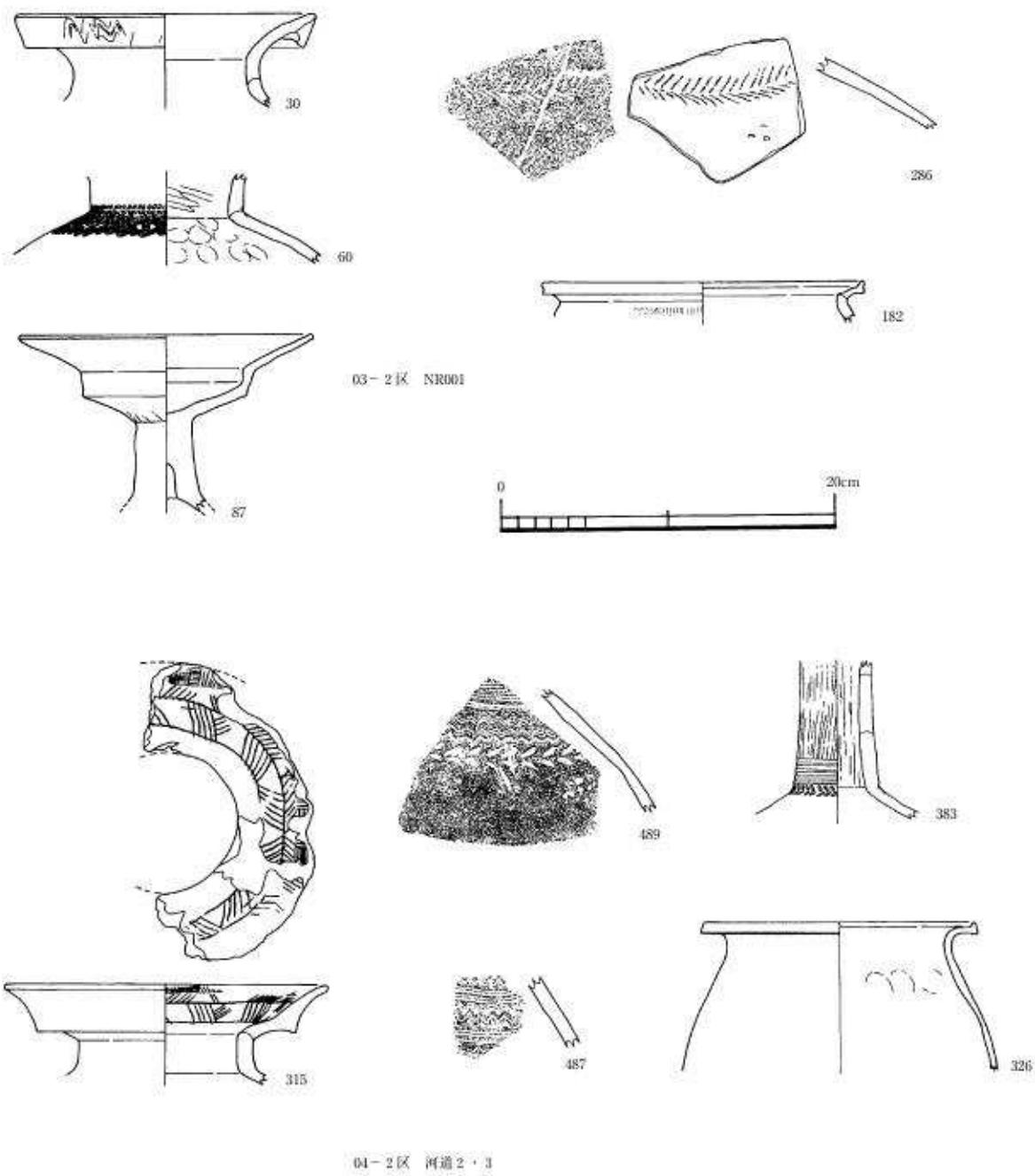
さらに、この遺跡で注目されるのは、非在地系土器が複数点出土していることである。09-1区02河道からは淡路あるいは西摺の系統を引いた可能性のある刻目口縁部の甕（28：遺物番号、以下同じ）が出土している。10-3区100河道からは複合口縁大型壺（159）、東海～関東地方の台付甕（166）が出土した。加えて03-2区NR001では東海地方西部の系統を引いたとみられる壺（30／口縁部波状文、60／頸部刺突文・胴部櫛描波状文、286／胴部櫛歯刺突矢羽状文：番号は『大町遺跡』2007遺物番号、以下同じ）、同じく東海地方西部系統の可能性がある高杯（87／有段高杯）、そして吉備系の甕（182）が出土している。04-1区の河道2からは東海地方西部系統とみられる壺（315／口縁部綾杉文、489／胴部櫛歯直線文・波状文・櫛歯羽状文）や高杯（383／脚部沈線文・刺突矢羽状文）、および吉備系甕（326）が、また河道3からも東海地方西部系統とみられる壺（487／胴部櫛歯直線文・波状文）が出土した。また04-1区では、胴部タタキメが右下がりの大和系甕を6点確認している。このように、大町遺跡では東海地方西部や吉備、大和の系統を引いたとみられる土器が数多く存在していて、集落が交流の拠点であったとの推測もできる。

古墳時代中・後期の様相は不明瞭であるが、10-3区で出土した埴輪や5世紀後葉～6世紀前葉の須恵器、および田鶴羽古墳群や池尻古墳の存在から、天の川以西において古墳が築造されていた可能性はある。なお09-1区88土坑からも埴輪片1点が出土している。

飛鳥・奈良時代の様相については不明である。

平安時代になると、天の川東西両岸には水田が形成された。水田耕作土が確認できたのは10-1区と10-3区だけであるが、その両調査区においては遺構面が一段下がった部分に耕作土が残存している状況であった。したがって両調査区以外にあっては、後世の削平などのために消失したと考えられる

そして10-1区では、13世紀前葉頃に洪水のために水田が放棄されたとみられ、10-3区でもほぼ同様の時期に水田が放棄されている。遺跡内の大部分を洪水が襲い、水田生産は休止に追い



第73図 大町遺跡既往調査の非在地系土器

やられたのであろう。

10-1区では、その後14世紀代にかけて畠地となる。10-3区では中世の水田耕作土の上に近世耕作土が直接のっているため、畠地が形成された期間があったかは不明である。むしろ畠地範囲は限定的であり、広い範囲で水田が回復されたと推測するが、ただそれを示す証拠はない。

また遺跡の南東端にあたる、06-2区、07-1区、06-3区に囲まれたあたりでは、ほぼ同時期に廃絶された石組井戸が複数存在している。このことから、その周辺は耕作地ではなく、屋地が存在した可能性もある。

15世紀以降、近世前葉にかけての状況は再び不明となる。ただ04-1区では、075堅穴状遺構

の残存する掘方の低さにみられるように、地形の改変を受けていることは明らかである。この04-1区以外には明らかに地形改変を受けていると判断される調査区はないが、しかし遺物包含層がほとんど形成されていないことからも、少なくとも天の川以東においては、04-1区と同様に多少の地形改変があったと推測される。

そして、かつては地形改変の時期を近世後期とみたが、近世後半期の正方位遺構に先行する斜方位遺構も遺構面に残存していることを考慮すると、近世初頭、あるいは中世末頃に求めるほうが妥当かも知れない。そして、いずれの方向の耕作痕も同一遺構面で認められることから、近世のほぼ全期間において水田耕作地が広がっていたと考えられる。

ところで、近世中葉頃に遺構の軸方位が変化した原因については判然としない。斜方位は、遺跡周辺の広い範囲にわたる自然地形に沿ったものである。これに対して正方位を生み出した要因は用水路の付け替えなどによる、小範囲における地割変化が影響した可能性もあるのかも知れない。ただ現水田地割が斜方位であることから、正方向への変化は一時的であったとみられる。

近世末から近代にかけては、粘土採掘が頻繁に行われた。瓦、土壁そして近代以降では煉瓦の素材として粘土が採られたのであるが、また客土をするために耕作土自体も採取されたのではないかと推測する。

ところで既述したように、遺跡の中でも粘土採掘範囲はやや限定的であり、西は06-2区北東半分までである。03-2区や04-1区では長方形土坑群と不定形土坑が、04-2区では長方形土坑群がそれぞれ検出されているが、03-1区では長方形土坑群は認められず、不定形土坑2基(SX008・009)が見つかっているだけなので、組織的な粘土採掘の東限は04-1区中央付近で、一部東方に拡張された場所もあったという状況を示している。

遺跡内における基盤層上部は、層厚差はあるものの、黄褐色系の粘土・シルトが広がっているので、河道にあたらない限り、どの地点においても同質の粘土採取は可能であったはずである。にもかかわらず、遺跡内でも限定的なのは、搬出ルートが影響しているとみられる。ただいずれにせよ、粘土採掘は農閑期における作業なので、遺跡内およびその周辺は、府営住宅建設時まで農地であり続けたことに違いはない。

2 弥生時代中期における大町遺跡

平成22年度の調査では、10-1区において弥生時代中期後葉の遺物を含む土坑(65土坑)が検出された。65土坑内からは、口縁部に櫛歯刺突文をもつ壺(91)、胴部に簾状文を施した鉢(93)、口縁部に凹線文を巡らす壺(90)など多くの土器片と共に、割れた石剣(119)、石庖丁(120)、さらに砥石(121)などが出土した。

今回検出された65土坑は、土器や石器などを廃棄したいわゆる遺物廃棄土坑で、土坑内には焼土や炭化物なども含まれていた。大町遺跡の弥生時代中期においては、人為的な痕跡を残す遺構に一括した遺物が伴うものは、65土坑がはじめてである。

周辺の遺跡

泉州地域の沿岸部では、弥生時代前期には四ツ池遺跡や池上曾根遺跡などの拠点集落が成立する。しかしながら、段丘部に位置する大町遺跡周辺では土器の出土は知られているが、拠点的な集落はわかっていない。

弥生時代中期になると、中葉頃に最盛期を迎える池上曾根遺跡、前期から続く春木八幡山遺跡のほかに、田治米宮内遺跡、池尻遺跡、畠遺跡などが出現する。さらに天の川左岸に下池田遺跡、春木川右岸に栄の池遺跡、津田川流域に上松中尾遺跡などが出現する。いずれも堅穴住居跡が幾つか検出され、集落が形成されたことが窺える。

中でも、大町遺跡に近接する弥生時代の遺跡として、天の川によって開析を受けた丘陵の北西側に弥生時代中期～後期を中心とする一大集落である下池田遺跡、さらに西側を流れる春木川によって開析を受けた丘陵の東側緩斜面には、弥生時代中期の遺跡である栄の池遺跡が立地する。

下池田遺跡では、中期中葉～後期中葉にかけて堅穴住居跡が多数構築され、この地域における大規模な集落域を形成している。土器棺や土坑などと共に、溝内から大量の遺物も出土しており、大町遺跡における河道内から出土した遺物を彷彿とさせるものである。

同じく近接する栄の池遺跡では、中期前葉～中葉にかけて堅穴住居跡や方形周溝墓などが築かれ、集落域を形成している。自然流路内からは中期（第Ⅲ様式～第Ⅳ様式）の遺物が多量に出土している。その中には生駒西麓、紀伊、その他の地域の搬入品もみられ、交易がなされていたことが窺える。おおむね、この地域で明確に集落の形成が認められるのは中期中葉頃からとみられる。中期中葉以降、栄の池遺跡は集落が衰退しはじめ、移行するように中期中葉から下池田遺跡では活発に堅穴住居が築かれるようになる。栄の池遺跡の人々が下池田遺跡へ移動したとの指摘もある。

大町遺跡で今回検出した65土坑の遺物は、幾つかの河道で主に検出した遺物より先行する弥生時代中期後葉頃（第Ⅳ様式）に相当する。大町遺跡で集落がいつ位の時期から形成されるかはわからないが、弥生時代中期後葉には確實に集落が形成されていたといえるであろう。

また、いつ頃まで集落が継続するのかについても不確定ではあるが、栄の池遺跡やこの地域の広域的な集落とされる下池田遺跡と関わりをもちつつ、大町遺跡の集落が存続していたものと考えられる。

課題と展望

大町遺跡の発掘調査の結果として、人為的な痕跡を残す遺構が非常に少なく、集落域を想起しうる遺構は見られなかった。明確な遺構に伴う弥生時代の遺物は10-1区の65土坑から出土した弥生時代中期後葉（第Ⅳ様式）の一括遺物のみであった。

遺跡内から出土した土器には、中期後葉のもの他に、弥生時代後期から古墳時代初頭頃に相当する遺物が河道内から大量に検出されている。

大町遺跡周辺では、多くの遺跡で自然河川跡などがみられるが、弥生時代後半から古墳時代前

期前葉頃には河川の氾濫が頻発し、不安定な土地であったと推定される。検出された河道内で流木が多数埋まって検出されたもの（10-1区54河道など）もあり、洪水の激しさが窺える。

しかしながら、河道内から検出された遺物のなかには、流水で遠方から流れてきたものではなく、一箇所にまとめて廃棄したように遺物の検出状態が良好なもの（09-1区02河道）もみられた。このような状況から、幾つかの河道の周辺では、近接して集落が営まれていたと判断することができる。

幾度となく起こった河川の氾濫とその流れの勢いで網の目状に河道が刻まれたことにより、形成されていたであろう集落の遺構は削平されてしまったのであろう。また、後世の耕作痕や粘土採掘などによる大規模な削平で、存在したであろう弥生時代の集落の痕跡も消失したものと考えられる。

大町遺跡における集落の形成は、弥生時代中期から古墳時代前半頃までという短期間の存続だけではなく、縄文時代後期頃、さらに古墳時代前半以降においても集落が営まれていたものと推測される。集落の存続期間が実際にどのようなものであったのか課題となる。

3 大町遺跡周辺の古墳時代初頭および前後期の集落動向

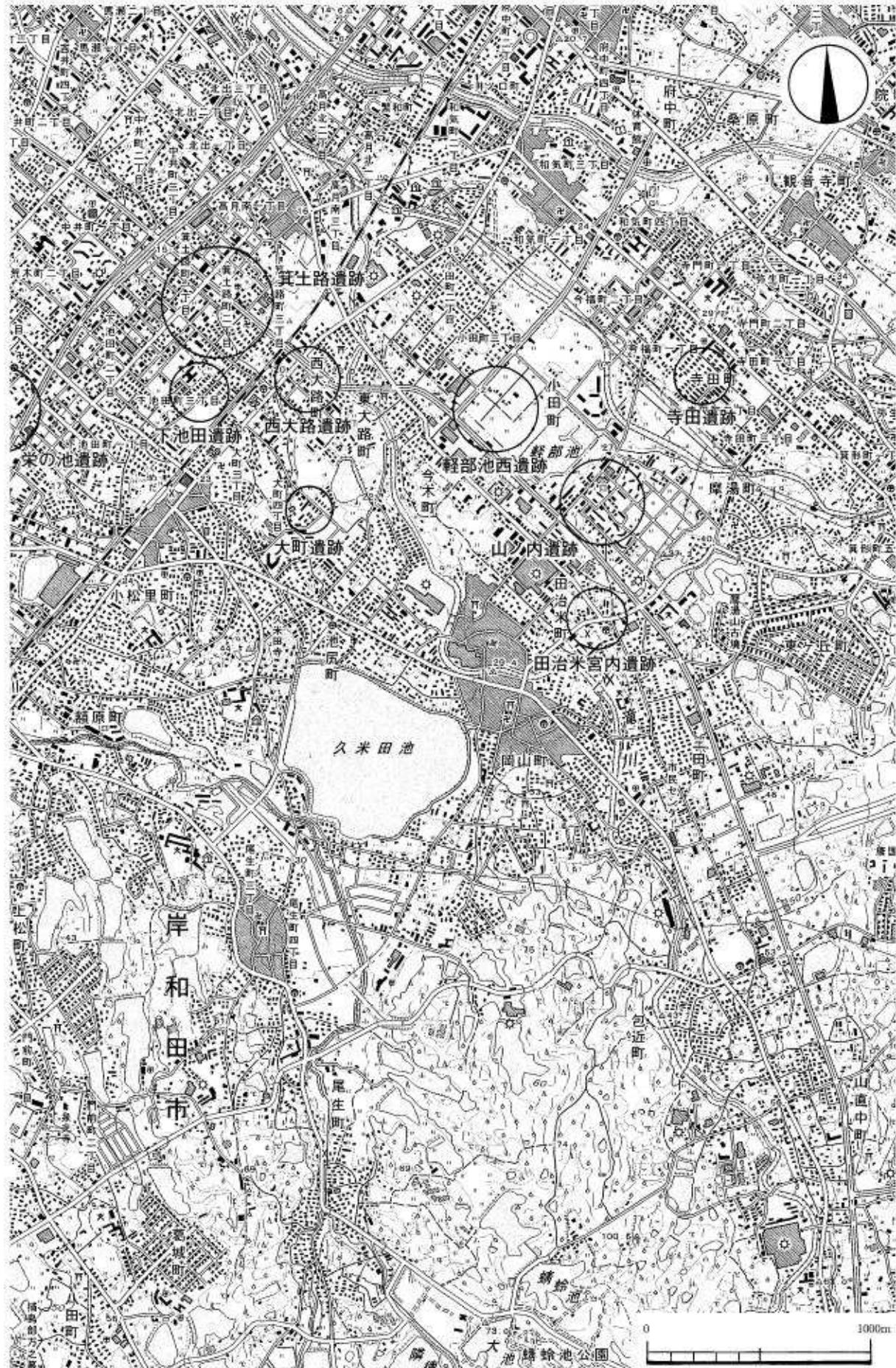
大町遺跡の様相

平成13年度の発掘調査以来、庄内式期あるいはその併行期を中心とする土器が数多く出土したことによって、それまでの大町遺跡に対する評価が大きく変化した。ただし、土器の大半は河道から出土したものである。後世の削平を受けたために中世以前の遺構のほとんどが消失していて、古墳時代初頭頃の遺構としては、04-1区の075堅穴状遺構と、遺物の出土はないが覆土の状況から当該期の可能性がある030土坑の2例のみである。したがってこれまでの発掘調査によっても、この時期の集落様相を解明するための材料は得られていない。

とはいっても、河道から出土した多量の土器は、破損しているものの、流転のため著しく磨滅した状態のものは極めて少なく、出土地点からさほど遠くない場所で投棄されたと考えられる。そしてNR001（03-1区）、河道2（04-1区）、02河道（09-1区）における土器の出土量をみると、集落規模の大きさは容易に想像できる。

当該期の確実な遺構としては、既述したように075堅穴状遺構があがる程度である。この遺構は、何らかの生産に関わる工房跡だと考えられるが、しかしその具体的な内容は不明である。床面に3箇所の炉跡があり、加熱行為がなされていたことは間違いない。その一方、炉に溜まった焼土や炭化物は少なく、長期間高温で加熱し続けたような状況は見て取れない。だが内容不明とはいえ、工房と捉えたほうがよい遺構が遺跡内に存在していることは、出土土器の多さとともに、集落の大きさや構造を推測する手掛かりとなる。

ところで大町遺跡に近在して、庄内式期あるいはその前後の時期に集落が形成されていたとみられる遺跡が複数存在している。大町遺跡と同じく牛滝川の西岸には箕土路遺跡、下池田遺跡、



第74図 大町遺跡周辺の古墳時代初頭および前後期の遺跡概念

西大路遺跡、そして少し距離があるが栄の池遺跡がある。栄の池遺跡は牛滝川流域というよりもむしろ春木川に近い。一方、牛滝川東岸には、軽部池西遺跡、山ノ内遺跡、田治米宮内遺跡があり、さらに東方の松尾川を超えると、寺田遺跡が所在している。以下に、そうした遺跡の概要を示す。

箕土路遺跡

箕土路遺跡では弥生時代後期～古墳時代前期の土器溜り、溝、土坑、河道などが検出されている。河道のうち1011-ORは天の川の前身河川だとされていて、幅10m、深さは1.5m以上を測る。弥生時代中・後期の土器が出土しているので、大町遺跡で検出された多くの河道と近い時期に埋没したとみられる。

溝のうちの1条では、まとまった布留式期の土器が肩部から出土している。また土器溜りからは土師器の甕や高杯が出土したといわれていて、古墳時代前期に比定できるのであろう。

河道から弥生時代中・後期の土器が出土した状況からすると、当該期における集落の存在は確実視できよう。さらに、河道が埋没し、地盤が安定した後の庄内～布留式期にも、集落が継続していたと推定することが可能であろう。

下池田遺跡

下池田遺跡は、大町遺跡の北西約1kmに位置する。これまで八木北小学校建設工事と府営岸和田下池田住宅（旧称：大町第四住宅）建て替え工事に伴った発掘調査が実施され、遺跡の様相がある程度明らかになった。

八木北小学校建設に伴う一連の調査では、弥生時代後期（～庄内式期）の円形周溝墓3基、庄内式期の陸橋部の付いた円形周溝墓1基、弥生時代中・後期の竪穴住居跡20軒以上、および井戸、溝、土坑、小穴、河道など多数の遺構が検出された。

弥生時代後期（～庄内式期）の円形周溝墓群と庄内式期の円形周溝墓とは約300m離れていて、前者の3基は連接している。庄内式期の円形周溝墓の墳丘部はやや長円形を呈していて、直径は約6mほどである。東隅に幅3.4m、長さ3.7mの陸橋部が付設されている。

また河道のうちの1条からは、弥生時代中・後期の土器が出土しているので、埋没時期は後期といえる。

なお遺跡内からは多量の土器のほか、「二連式」銅鏡や石突状の石製品など、通有の住居跡からは出土しない稀少品も出土している。

府営住宅の建て替え工事に伴う発掘調査は、大阪府教育委員会が実施した南西半分と、財団法人大阪府文化財センター実施の北東半分に大きくは分れ、検出遺構の様相も異なっている。

住宅地内の南西半分では、弥生時代後期～古墳時代前期の遺構は主として河道であった。そのうち平成15年度調査で検出されたSD006とSD007は、翌平成16年度調査検出の002自然河道と001自然河道にそれぞれ対応する。

001河道は弥生後期以前にいったん埋没するが、その後、後期に軟弱部分に通水し、庄内式期

に再び埋まったと考えられる。また002自然河道は弥生時代中期後葉に埋没が始まり、後期に埋まつたとみられる。なお002自然河道からは、木製扉1点が出土した。さほど磨滅していないので、出土地点近辺で投棄されたとみられる。集落内の建物に使用されていたものであろうが、そうした扉を付けた建物の存在は、この集落の格を暗示している。

住宅地内北東半分における弥生時代後期～古墳時代前期の遺構としては、堅穴住居跡3軒、堅穴状遺構1基をはじめ井戸、溝、土坑、小穴、河道が見つかった。3軒の堅穴住居跡と堅穴状遺構は弥生時代後期前・中葉に比定されていて、調査地の北東寄りに位置している。

庄内～布留式期の遺構には井戸、溝、土坑、河道がある。井戸からは多量の土器が出土していて、しかも井戸廃棄時の祭祀に使用されたとみられる完形土器も検出された。その中には布留式系甕が含まれているので、井戸の廃絶は布留式期である。また、まとまった土器が出土した河道もあり、古墳時代初頭から前半期にかけても集落の形成が継続されていた。

以上の概観からすると、弥生時代中期から後期中葉にかけては、遺跡の北東半分が主として居住域となり、南西半分には河道が存在していた。その後、後期後葉～布留式期にかけて河道はほぼ埋没し、地盤が安定する。遺跡の北域は墓域化し、周溝墓が築造される。これに対して当該期の住居跡は検出されていないので、居住域は判然としない。ただ、弥生時代後期中葉までの居住域範囲で庄内～布留式期の井戸、溝、土坑が検出されているので、その時期の居住域も遺跡の北東寄りに存在していた可能性は高い。ただし、上述したように遺跡の北寄りが墓域になっていることを考えると、居住域は弥生時代後期中葉以前よりもさらに南寄りの限定された範囲であったのかも知れない。

また弥生時代後期中葉に掘削、そして後葉に再掘削され、庄内式期前半まで機能していたと考えられる64溝は、弥生時代後期後半～庄内式期の集落域の西端を画するように東～西から北西～南東方向に延びている。

庄内式期になると、先の64溝の南西寄りに120溝が掘られた。北西～南東方向に延びていて、64溝と同じく集落域を区画する溝である可能性が高い。

このように、下池田遺跡では、弥生時代後期中葉以降の住居跡の検出はないものの、集落域を画するかのように長く延びる溝や井戸、溝、土坑の存在、そして多数の出土土器から、庄内～布留式期にかけても集落が継続され、しかも規模も縮小していないと推測することができよう。とすれば、古墳時代初頭頃においては、大町遺跡と集落形成が重複する。

西大路遺跡

西大路遺跡では、弥生時代後期の堅穴住居跡3軒、土坑、小穴、河道など、庄内式期の堅穴住居跡3軒、土坑、土器溜り、溝、小穴などが検出された。また布留式期の遺構には堅穴住居跡1軒と水利施設、溝、河道などがある。

庄内式期の堅穴住居跡のうち、2軒にはベッド状遺構が付設されている。1軒は長辺6.3m・短辺6.05m、他の1軒は長辺6.0m・短辺5.9mを測り、やや大きい。残りの1軒は、1辺5.7mを測る

焼失家屋である。

土器溜りは、河道の肩部に沿った長さ4m、幅1mほどの範囲から土器が出土していて、掘方はなく、河道の埋没中に投棄あるいは置かれたとみられている。器種には壺、甕、高杯、鉢、製塙土器があり、破片総数1500点、約320個体があったと推定されている。大町遺跡09-1区02河道の岸近くで検出された土器の集中域とは、点数に違いはあるが、状況は類似している。

布留式期の竪穴住居跡は、長辺3.6m、短辺3.5mの小型である。また水利施設は、河道に直交して設けられた堰である。この堰の脇に溝を掘削し、導水している。

栄の池遺跡

栄の池遺跡における弥生時代の遺構には、竪穴住居跡5軒、井戸1基、方形周溝墓2基、河道2条などがある。

河道のうちの1条からは中期後葉の土器が、他の1条からは中期中葉～後期の土器が出土している。したがって中期後葉に埋没した河道と後期埋没の河道があった。竪穴住居跡の1軒からは石庖丁が出土しているので中期に比定できると考えられ、残りの4軒も同様の時期に位置付けることができよう。方形周溝墓の時期も不詳だが、弥生時代中期に集落が盛行するとみられることがから、当該期の可能性がある。

井戸からは後期の土器が出土しているので、中期ほどの規模ではないかも知れないが、その時期にも集落が営まれていた可能性は高い。

軽部池西遺跡

軽部池西遺跡では、弥生時代後期後半の竪穴住居跡をはじめ土器溜り、溝、溝状遺構、小穴、河道などが見つかっている。集落は確かに形成されているが、その規模は不明である。

竪穴住居跡は長辺4.7m、短辺3.3mを測り、長方形を呈している。炉は検出されていない。掘方内外で小穴が多数検出されたことから、複数の竪穴住居跡が重複しているとの見方もある。土器溜りは長辺5m、短辺3mほどの大きさで、甕、高杯、広口壺、短頸壺、鉢などが出土した。この土器溜り周辺に住居が存在していた可能性が高い。

また墓の可能性が示唆されている台状遺構も存在する。弥生時代中期後葉に比定されていて、その時期にも集落の形成があったのかも知れない。ただ遺跡では後期前半の遺物が欠けていることから、若干の断絶期があったものとみられる。

山ノ内遺跡

山ノ内遺跡では弥生時代後期後半に比定された2軒の竪穴住居跡と土坑、溝、小穴、河道が検出された。竪穴住居跡はともに焼失家屋である。

そのうちの1軒は長辺6.1m、短辺5.0～5.5mの方形。一度建て替えがなされ、長辺5.8m、短辺5.4～5.5mに縮小している。床面の一部が中央部より10cmほど高いことから、ベッド状遺構が付設されていた可能性も指摘されているが、判然としない。床面中央に炉が設けられ、主柱穴4基が確認されている。住居跡全体から炭化物が出土している。出土土器は少量だが、外面タタキ調

整された甕も出土している。

約8m離れて位置する別の1軒の竪穴住居跡は、半分が調査区外に伸び出ているために全容は不明であるが、長辺4.4m、短辺4.2mほどの規模と推定されている。この住居跡も方形を呈している。出土土器の数は少ないが、サスカイトの石鏃や剥片が20点以上出土した。

この竪穴住居跡の南西に長径約2mの不定形土坑が位置している。土坑の壁面が焼けていることから、焼土坑の可能性が示されている。

河道は、古墳時代以降に埋没したものもあるが、多くは弥生時代後期のうちにほぼ埋まっているようである。

竪穴住居跡の状況や焼土坑が存在から、西大路遺跡に類似した集落構造であった可能性も推定することができる。

田治米宮内遺跡

平成9年度の土地区画整理事業に伴う発掘調査で、弥生時代後期末の竪穴住居跡1軒が発見された。従来より、弥生時代後期や終末期とされた庄内式併行期の土器が多数出土していて、弥生時代後期～古墳時代初頭にかけて集落が形成されたと考えられてきた。規模や構造は不明だが、集落の存在は確実といえる。

寺田遺跡

松尾川の東岸に位置する寺田遺跡では、弥生時代中期後葉から古墳時代中期まで、小期間の断絶はあるが、集落形成がほぼ続いている。弥生時代後期後半では、竪穴住居跡など居住空間を示す遺構はみられないが、河道は存在する。

庄内～布留式期になると、前時期の河道は少し位置を変えて流れ、遺跡の北西に井戸や掘立柱建物跡が設けられる。この時期、遺跡の西寄りに居住域が広がっていた可能性が高い。

古墳時代初頭および前後期の集落動向

以上8遺跡を取り上げ、庄内式期およびその前後を含めた期間の集落動向を概観した。その結果、大町遺跡周辺においては、下池田遺跡が最も中核的な集落であると推定できる。それは、かつての推定とは異なり、弥生時代後期に留まらず庄内式期、そして布留式期にかけても集落が継続していたことを近年の調査成果から見通せるようになってきたことによる。

大町遺跡の集落形成は、10-1区65土坑にみられるように、弥生時代中期後葉から始まるのかも知れないが、集落規模が大きくなるのは後期末～庄内式期からといえ、その状況が布留式期前半まで続いた可能性は高い。布留式期の特徴を示す土器の峻別が難しいことから、現状では庄内式期に比べて集落規模が縮小している印象を受けてしまうが、現実は維持され続けていたのである。そして、大町遺跡の集落様相は、西大路遺跡のそれと近似しているのではないかとも推測する。

ところで西大路遺跡では、ベッド状遺構を付設した住居跡が検出されていて、重層化した集落構造を垣間見ることができる。

これらに対して栄の池遺跡、軽部池西遺跡、田治米宮内遺跡では、集落規模が大きいとはみられない。ただ山ノ内遺跡では、検出された竪穴住居跡の1軒にベッド状遺構が付設されていた可能性もあり、やはり重層化した集落構造を形成していたと推測できる。規模や構造は不詳だとしても、集落自体は地域内で一定の社会的位置を占めていたといえる。

こうしたことからすると、牛滝川流域においては中核集落としての下池田遺跡があり、その周囲に準中核集落の大町遺跡や西大路遺跡が展開し、さらに栄の池遺跡、軽部池西遺跡、田治米宮内遺跡という一般集落が近在するという状況を認めることができる。また山ノ内遺跡は、準中核的集落に比定できるかも知れない。

すなわち、中核集落の周囲に、規模や構造の異なる集落が衛星的に取りまく構図を読み取ることができるのである。ただこうした構図は、牛滝川流域に限ったことではない。松尾川流域をはじめ、河川によって分断された和泉中央部の各流域においては、多くのところでみられる様相と考えられる。

4 田鶴羽遺跡の古墳群

田鶴羽古墳群の概要

06-1区や10-3区が位置する天の川以西は、田鶴羽遺跡の範囲に該当している。田鶴羽遺跡は平成元年に集合住宅建築に伴う発掘調査によって新規発見、周知された遺跡である。調査の結果、中世の遺構とともに、6基の小型方墳が発見された。ここではそれを田鶴羽古墳群と呼んでおく。

古墳は、2基が周溝を連接させているが、残りの4基は調査区内に散在的に分布している。全体に東に多いが、特に偏在するとはいえない。

田鶴羽遺跡の南には、遺跡範囲とほぼ接する位置に池尻古墳がかつて存在した。円墳であるということ以外には、実態の大半は不明であり、田鶴羽古墳群との関係も知り得ない。

10-3区からは、田鶴羽古墳群とほぼ同時期のものとみられる須恵器の杯蓋（遺物番号177、以下同じ）や、それより後出する杯蓋（178）、高杯（171）が出土している。著しい攪乱のためもあって当該期の遺構は検出されなかったが、その時期の人の活動域が大町住宅の範囲内にも及んでいたことはほぼ確かである。

田鶴羽古墳群の6基の墳丘規模は、不明瞭な部分もあるが、それぞれ異なっていて、大きいものは1辺12mほど、あるいは12m以上、小さいものは1辺6m強で、おおむね1辺8～12m程度であった。田鶴羽古墳群は、小規模方墳で構成されているといえる。

いずれの古墳も、削平のため埋葬施設は遺存していない。また掘方の痕跡も残っていないことから、木棺直葬であった可能性が高い。

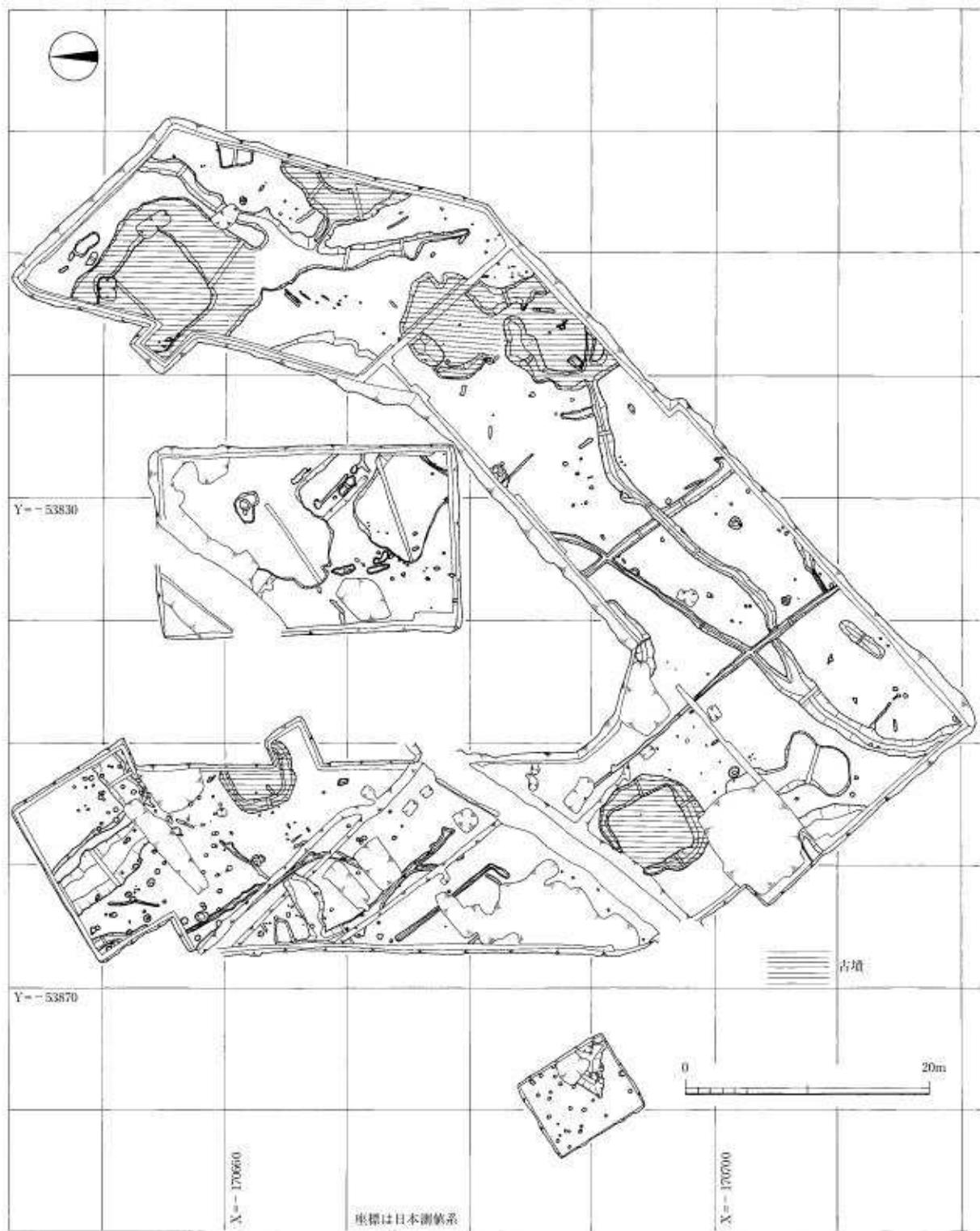
副葬品についても不明であるが、周溝内からは須恵器が出土している。これに対して、埴輪の出土はなかったといわれている。

出土した須恵器

出土した須恵器の器種には甕、壺、小型壺、器台、装飾器台、台付鉢、高杯、杯蓋、杯身が認められる。以下に、掲載写真に則して特徴を概観する。

1は小型壺。口径7.5cm、器高5cm強である。口縁部は外反して立ち上がり、端部は尖り気味である。

2は台付鉢。口径7cm強、器高6cm弱である。脚部端は一稜をもって直立する。また口縁部



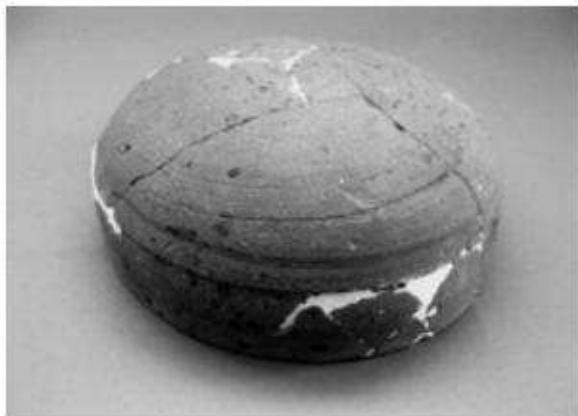
第75図 田鶴羽遺跡の遺構 (平成元年度調査) (岸和田市教育委員会提供)



1



2



3



4



5



6

第76図 田鶴羽古墳群出土須恵器（1） (岸和田市教育委員会提供)



7



8



9



10



11



12

第77図 田鶴羽古墳群出土須恵器（2） (岸和田市教育委員会提供)

は外反して立ち上がる。

3は杯蓋。口径11cm強、器高5cmほどである。口縁部と天井部の境には一稜が巡る。口縁部は直立する。天井部はやや丸味がある。口縁部の内面端は一段をなしている。

4も杯蓋。破損が著しく、本来の大きさは不明である。写真3とほぼ類似した形状であるとみられる。

5は甌。口縁部の破損は大きいものの、本来の形状をほぼ留めている。口縁部は直立し、外面に2条の沈線を巡らせる。頸部には、カキメを挟んで波状文が2段に施されている。カキメは胴部上半まで及んでいて、胴部下半にはヘラケズリがなされている。

6は壺。頸部は直立気味で、口縁部は大きく開く。口縁部から頸部にかけて2条の沈線を挟んで波状文が3段に施されている。口縁部端は僅かに上方に立ち上がる。

7も壺。口縁部は断面方形を呈し、上端は僅かに立ち上がる。胴部には、平行タタキメの上にカキメが施されている。底部は突出気味である。

8～11は甌。8の口縁部端は突出していない。9の口縁部端は上方に突出する。口縁部全体が焼け歪んでいる。10は、口縁部端の内面がユビナデによりやや窪み、そのため先端は尖り気味である。11の口縁部は下方に折り返されている。上端はほとんど突出していない。

12は大型器台の脚部。器受部も残っていて、接合して完形の1個体となる。

これら以外にも別個体の小型壺や杯蓋、さらに高杯、杯身、装飾器台がある。そのうち、杯身は胴部がやや浅めであり、杯蓋に示される型式観よりも新しいものとみられる。

装飾器台について

装飾器台は脚部の破片である。沈線で区切られた縦位櫛歯文が描かれ、脚上半に方形、裾部に円形の透孔が穿たれている。裾上部に像が接着されているが、像の形状は不明である。

この装飾器台は、山田邦和の分類に従うと配像筒形器台となる。この形態の器台は、初期の須恵器からMT15～TK10型式期まで存在することが指摘されている。そしてTK47型式期頃まではほぼ全て、それ以降からTK10型式期までは大半のものが、古墳の墳丘上や周溝内に置かれたとみられている。その状況は、田鶴羽古墳群にも当てはまろう。

この配像筒形器台は、主として全長25m以上の古墳の葬送儀礼に用いられたと考えられている。田鶴羽古墳群では、その規模の古墳は存在していないが、それにもかかわらず配像筒形器台が配されていたことから、被葬者の地位の高さが推測できる。

大阪府内では、配像筒形器台は高藏寺85号窯跡と大野池231号窯跡から出土している。しかし、古墳からの出土はない。この点でも、田鶴羽古墳群の被葬者は特別な位置にあったのではないかと想像される。

田鶴羽古墳群の須恵器の多くはTK23型式期で、一部にMT15～TK10型式期に下りそうなものもあるという状況が窺える。したがって田鶴羽古墳群は、主として5世紀後葉に形成され一部6世紀前葉まで築造が継続したか、墓前祭祀があったと捉えることができる。

牛滝川流域の古墳・古墳群

牛滝川流域では、埋没した5～6世紀の古墳が、幾つかの遺跡で発見されている。三田遺跡では径10mの円形状古墳1基、1辺11mの方墳と5mの方墳が検出された。6世紀前葉の築造とみられている。田治米宮内遺跡では1辺20mの方墳1基が発見された。山直北遺跡では5世紀後半～6世紀前葉の方墳4基と円墳1基が見つかった。須恵器と埴輪が出土した古墳と須恵器のみ出土した古墳がある。この5基以外に、さらに2基の古墳も発見されている。山直中遺跡では石室の礫床が残る古墳1基が発見されている。

田鶴羽古墳群は、久米田古墳群の北東100～200mほどに位置している。久米田古墳群は、全長130mの前方後円墳である貝吹山古墳、全長70mほどの帆立貝式前方後円墳の風吹山古墳をはじめとして、古墳時代中期にかけて10基前後の古墳が築造されたとみられている。この古墳群は久米田丘陵の上に位置しているが、田鶴羽古墳群はその丘陵の裾部に占地している。さらに古墳のまとまりの点からも、久米田古墳群と田鶴羽古墳群は別の古墳群であることは明らかである。ただし田鶴羽古墳群出土の須恵器をみると、その被葬者の社会的な位置は決して低くない。

牛滝川流域において、5～6世紀の堅穴住居跡は山直北遺跡、二俣池北遺跡、上フジ遺跡などで発見されている。したがって散在的に集落が形成されていたとみてよい。ただ田鶴羽古墳群を含め流域の古墳・古墳群が、決して大きくはないそうした集落を基盤として築造されたとすれば、当該期におけるこの地域の歴史的位置付けを考える上では重要な検討材料となる。

5 大町遺跡周辺の中世遺跡の動向

大町遺跡の様相

大町遺跡では13世紀から14世紀代に比定できる遺構が複数発見されている。06-2区では土器溜り(45:遺構番号、以下同じ)、木枠井戸(47)、石組井戸(48)、土坑(32)、06-3区で石組井戸(53)、07-1区で大落ち込み、溝(16)、墓の可能性のある土坑(2)、石組井戸(15)、10-1区で畠地、10-3区で溝3条(101・102・104)がそれぞれ検出されている。

このうち畠地の年代は推定耕作期間を示しているが、その他の遺構については廃絶時期である。

調査区	遺構(遺構番号)	時期	出土遺物	備考
06-2区	土器溜り(45)	13世紀後葉～14世紀前葉	土師器、土師質土器、瓦器、青磁、瓦	
	木枠井戸(47)	13世紀中葉	土師質土器、瓦器、瓦	
	石組井戸(48)	14世紀中葉	土師器、土師質土器、瓦	
	土坑(32)	14世紀中葉	土師器、土師質土器、瓦器	
06-3区	石組井戸(53)	14世紀中葉	土師器、土師質土器、瓦器、瓦	
07-1区	大落ち込み	14世紀	土師器、瓦器、瓦	
	溝(16)	14世紀中葉	土師器、瓦器、瓦質土器、瓦	
	土坑(2)	14世紀中葉	土師器	墓の可能性
	石組井戸(15)	14世紀中葉	土師器、瓦器、青磁、瓦	
10-1区	畠地	13世紀中葉～14世紀	土師器、瓦器、陶器、瓦	
10-3区	溝(101)	13世紀	土師質土器	用水路
	溝(102)	13世紀		用水路
	溝(104)	13世紀	土師器、瓦器	用水路

表1 大町遺跡検出の中世遺構

したがって井戸のように使用期間が長い遺構では、廃絶時よりもかなり以前に設けられたことになる。13世紀中葉廃絶の06-1区木枠井戸は、平安時代後期に掘削されたのかも知れない。とはいえ、遺構から推定される大町遺跡の鎌倉時代から室町時代にかけての様相は、畠地などの耕作地が広がり、その一隅で家屋も設けられていたというものである。

大町遺跡周辺の牛滝川流域には、中世遺構が検出された遺跡が複数存在している。大町遺跡と同じく牛滝川の西岸には吉井遺跡、箕土路遺跡、下池田遺跡、西大路遺跡が、東岸には軽部池西遺跡、山ノ内遺跡、田治米宮内遺跡、山直北遺跡、上フジ遺跡、二俣池北遺跡、黒石遺跡、山直中遺跡が所在している。

吉井遺跡

吉井遺跡では、15世紀前半の耕作地や中葉の土坑、15世紀代の瓦溜りが発見された。さらに詳細時期は不明ながら中世に比定される溝、土坑、小穴、耕作痕も検出されている。土師器、瓦器、瓦質土器、瓦などの遺物が多数出土している。

箕土路遺跡

箕土路遺跡では、13世紀から15世紀にかけての遺構変遷が捉えられている。まず13世紀前葉～14世紀前葉では分散した3基の井戸と耕作痕が見つかっている以外、明瞭な遺構の存在はみられない。

14世紀中葉には、1基の井戸と小穴が存在するのみである。14世紀後葉においても土坑と小穴が検出されているが、集落の存在は不明瞭である。

ところが15世紀前半になると、前段階の遺構群の範囲に整地がなされ、集落域が拡大するといわれている。井戸も検出されている。

15世紀後半～16世紀には、土地利用にさほどの変化はないが、集落は幾分拡大するとみられていて、埋甕が設けられ、また水田も形成されていた。

下池田遺跡

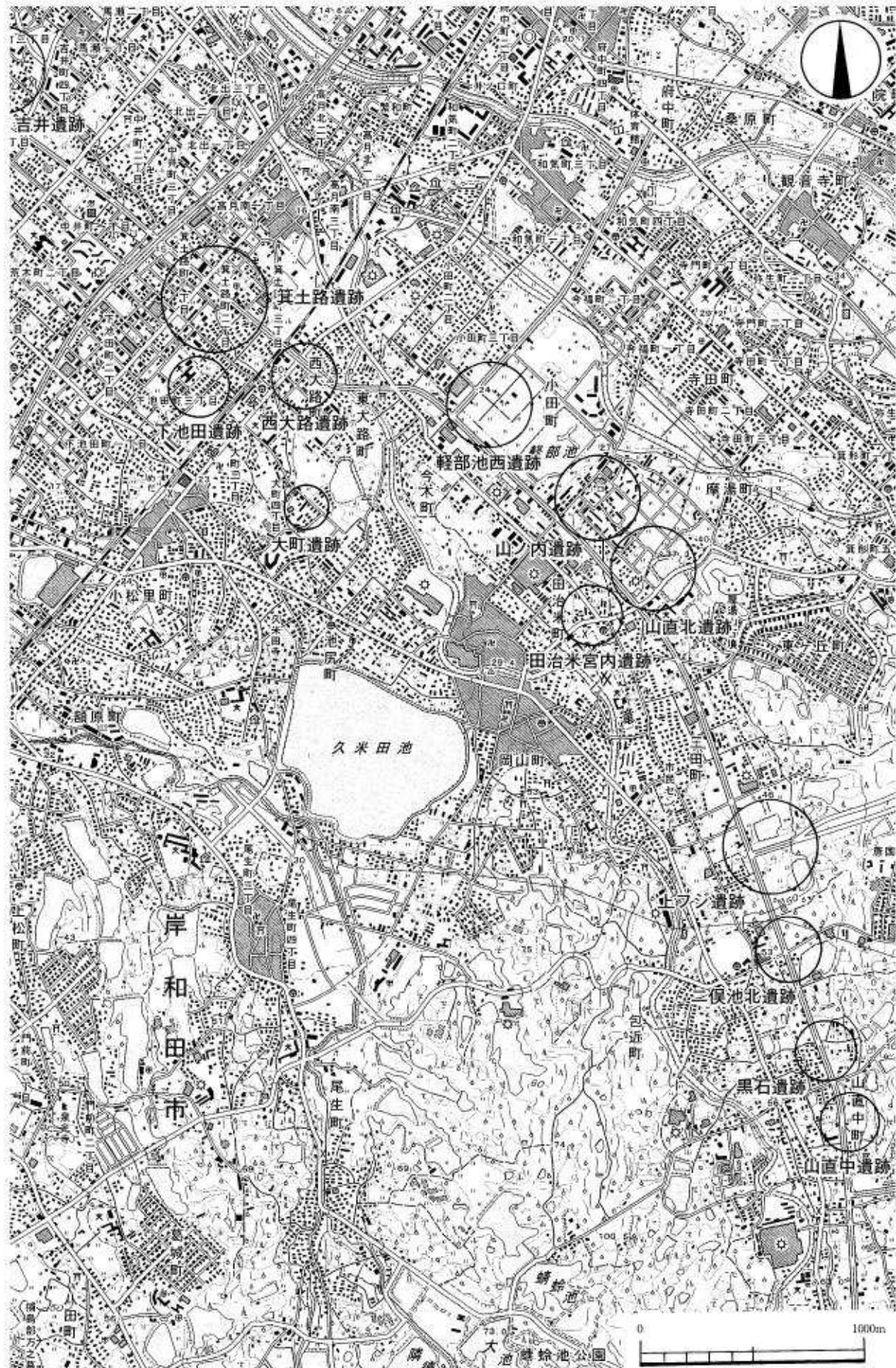
遺跡の南西半分では、中世の遺構が多数検出されている。13世紀の遺構としては4基の井戸があり、そのうちの1基は石組である。井戸の廃絶に伴って、多数の瓦器碗などが投棄されていた。このことから13世紀代には、屋地あるいは集落が存在していたと推定される。

14世紀の遺構としては溝と瓦溜りがある。15世紀になると屋地を囲む区画溝が掘削されている。また性格不明の落ち込みもこの時期頃のものとみられる。

遺跡の北東半分では13世紀前半の水田が検出されている。したがって、13世紀には水田に近接して屋地あるいは集落が存在しているという状況を窺うことができる。

西大路遺跡

西大路遺跡では、13世紀中葉から14世紀中葉にかけての遺構変遷が明らかになっている。まず13世紀中葉では、主屋と副屋と考えられる2棟の掘立柱建物跡、それを囲む区画溝、3基の井戸、さらに溝、土坑などが検出されている。13世紀後葉になると、副屋の存在は認められなくなるが、



第78図 大町遺跡周辺の中世の遺跡概念

1棟の掘立柱建物跡と掘り直された区画溝は継続する。そのほか土坑も存在する。

14世紀初頭になると建物や区画溝は認められず、井戸や土坑のみが検出されている。ところが14世紀中葉には再び区画溝が設けられていることから、14世紀になって建物の位置は多少移動したもの、屋地自体は存続していた可能性が高い。

軽部池西遺跡

この遺跡でも中世の遺構は発見されているが、遺構時期が大枠で把握されているため、具体的な遺構変遷は捉えられない。

まず古代末から中世初頭にかけては掘立柱建物跡が存在する。次いで中世になると、掘立柱建物跡とともに柵列、溝状遺構、土坑、そして耕作痕が検出されたという。発掘調査報告書によれば、遺跡内はほぼ耕作地であったことが指摘されている。

山ノ内遺跡

この遺跡では奈良時代から鎌倉時代にかけての遺構状況は不明であるが、14世紀には水田が限定的な範囲で営まれ、15世紀以降耕作地が全面に広がったとみられている。

田治米宮内遺跡

田治米宮内遺跡では、河道の窪地に杭を打設して横板をわたし、その内側に盛土をした整地層が検出されている。13世紀中葉に位置付けられている。また同時期の畦畔も見つかっている。こうしたことから、遺跡内の広範囲に水田が広がっていたと推測できる。

山直北遺跡

山直北遺跡では、13世紀の溝や耕作痕が見つかっている。また詳細時期は不明だが、1mの等間隔で平行する複数の溝が検出されていて、畝間溝の痕跡だとみられる。

上フジ遺跡

この遺跡では、室町時代まで機能した条里地割に沿った水路や溝が検出されている。また耕作痕も見つかった。

二俣池北遺跡

13世紀～14世紀前半の畦畔、溝、小溝、土坑、小穴などが検出された。この時期に大規模な土地改変があったとみられている。

黒石遺跡

黒石遺跡では、12世紀後半から14世紀末にかけての遺構変遷が捉えられている。12世紀後半～13世紀の遺構としては、掘立柱建物跡2棟と井戸が検出されている。ひとつの屋地を構成しているとみられている。

13世紀末～14世紀初頭では土坑3基と溝3条、そして14世紀前葉～末にかけては耕作痕が発見されたのみである。耕作地は15世紀以降も継続している。

山直中遺跡

山直中遺跡では、12世紀後半から15世紀前半にかけての遺構変遷が明らかにされている。12世

紀後半～13世紀前半の遺構には、掘立柱建物跡、柵列、井戸、溝、土坑、小穴群がある。掘立柱建物跡は7棟検出されていて、そのうち4棟は12世紀後半、3棟は13世紀とされている。

14世紀後半～15世紀前半の遺構としては、溝、土坑そして水田がある。水田は集落縁辺に位置していると推定されている。

中世遺跡の動向

以上の各遺跡の状況を通観すると、13世紀代に屋地形成が認められる遺跡の存在をまず指摘することができる。西大路遺跡では13世紀中・後葉の掘立柱建物跡が存在し、しかも中葉には主屋と副屋が区画溝で囲まれていた。下池田遺跡では、この時期に水田も広がっていたが、瓦器椀が多数埋められた石組井戸が存在することから、屋地の存在が推測できる。さらに両遺跡とも、建て替えがなされたのであろうが、14世紀代にも屋地形成は続く。

牛滝川東岸では山直中遺跡で3棟の掘立柱建物跡や建物の柱穴の可能性が高い小穴群、黒石遺跡では2棟の掘立柱建物跡がそれぞれ見つかっている。

これらの遺跡は、その全域が屋地であったのではない。耕作地の近接していた可能性は高いが、まずは屋地の存在を確認しておきたい。

13世紀代に耕作地が検出された遺跡には、牛滝川西岸では箕土路遺跡、東岸では二俣池北遺跡、山直北遺跡、田治米宮内遺跡がある。

箕土路遺跡では、14世紀代の様相は不明瞭であるが、15世紀代前半には前段階の遺構群の上を整地して集落が形成されたとみられている。二俣池北遺跡、山直北遺跡、田治米宮内遺跡の14～15世紀の様相も判然としない。これらに対して山ノ内遺跡では14～15世紀には水田が形成されている。上フジ遺跡では、15世紀ではあるが、溝とともに耕作痕が検出されていて、やはり耕作地が広がっていたといえる。

13世紀に屋地の存在が認められた山直中遺跡や黒石遺跡では、14世紀には水田や耕作地が広がる。ただし耕作地の認められた遺跡でも、その一隅に屋地が存在していた可能性は充分にある。

こうした遺跡の状況から読み取れるのは、中世前期から屋地の存在が確認されたり、あるいは予測できる西大路遺跡や下池田遺跡は、14世紀以降にも集落が継続したとみられるが、これらの遺跡は熊野街道沿いに位置していること、そして13世紀代に限定されるがやはり屋地の存在がみられる山直中遺跡や黒石遺跡は牛滝街道沿いにあるという、地理的状況である。

いずれの遺跡も集落自体の規模や構造は不明であるが、街道沿いに立地するという地理的条件の良さが集落形成の主要因であったと考えられる。そして、街道から少し外れた場所では、主として水田や畠地が形成されたのであろう。

大町遺跡の場合、熊野街道から400m、牛滝街道から100m離れているが、両街道に挟まれた位置にあり、地理的条件としては悪くない。遺跡内では平安時代以降、水田や畠地が広がっていたが、一隅では屋地あるいは小規模な集落が形成されていたとみられる地点もあり、地理的要因が影響していると考えられる。

参考文献

〔単行本・論文〕

池峰龍彦2006「和泉北部地域における弥生時代集落の動向」『みずほ』第40号（大和弥生文化の会）
岸和田市立郷土資料館2004『谷に刻まれた文化』
岸和田市史編さん委員会（編）1979『岸和田市史 第1巻』（岸和田市）
岸和田市史編さん委員会（編）1996『岸和田市史 第2巻』（岸和田市）
立石菜穂1995「和泉の弥生時代と遺跡」「弥生時代の大坂湾沿岸」（大阪経済法科大学出版部）
中世土器研究会（編）1995『概説 中世の土器・陶磁器』（真陽社）
西村歩1996「第6章 和泉北部の古式土師器と地域社会」「下田遺跡－都市計画道路常盤浜寺線建設に伴う発掘調査報告書－」（（財）大阪府埋蔵文化財協会）

樋口吉文1990「和泉地域」「弥生土器の様式と編年 近畿編II」（木耳社）

山田邦和1998『須恵器生産の研究』（学生社）

〔発掘調査報告書〕

【栄の池遺跡】岸和田市遺跡調査会「栄の池遺跡」1979

【上フジ遺跡】財団法人大阪府埋蔵文化財協会「二俣池北遺跡・上フジ遺跡 主要地方道岸和田・牛滝山・貝塚線建設に伴う発掘調査報告書」（（財）大阪府埋蔵文化財協会調査報告書第45輯）1989
財団法人大阪府埋蔵文化財協会「上フジ遺跡Ⅲ・三田古墳 都市計画道路泉州山手線建設に伴う発掘調査報告書」（（財）大阪府埋蔵文化財協会調査報告書第80輯）1993

【軽部池西遺跡】財団法人大阪府埋蔵文化財協会「都市計画道路磯之上山直線建設に伴う 軽部池西遺跡」（（財）大阪府埋蔵文化財協会調査報告書第11輯）1987

【黒石遺跡】財団法人大阪府埋蔵文化財協会「黒石遺跡 主要地方道岸和田・牛滝山・貝塚線建設に伴う発掘調査報告書」（（財）大阪府埋蔵文化財協会調査報告書第59輯）1990

【下池田遺跡】大谷女子大学資料館「下池田遺跡第2次発掘調査報告書」（大谷女子大学資料館報告書第17冊）1987

大阪府教育委員会「下池田遺跡」（大阪府埋蔵文化財調査報告2007-9）2008

財団法人大阪府文化財センター「下池田遺跡 大阪府営岸和田下池田住宅民活プロジェクトに伴う埋蔵文化財調査報告」（（財）大阪府文化財センター調査報告書第190集）2009

【田治米宮原遺跡】岸和田市教育委員会「田治米宮内遺跡現地説明会資料」1997

岸和田市教区委員会「田治米宮内遺跡の調査」（岸和田市文化財調査速報3）1998

【西大路遺跡】財団法人大阪府埋蔵文化財協会「都市計画道路磯之上山直線建設に伴う 西大路遺跡」（（財）大阪府埋蔵文化財協会調査報告書第23輯）1988

【二俣池北遺跡】財団法人大阪府埋蔵文化財協会「二俣池北遺跡・上フジ遺跡 主要地方道岸和田・牛滝山・貝塚線建設に伴う発掘調査報告書」（（財）大阪府埋蔵文化財協会調査報告書第45輯）1989

【寺田遺跡】大阪府教育委員会「寺田遺跡」(大阪府埋蔵文化財調査報告2006-7) 2007

大阪府教育委員会「寺田遺跡Ⅱ -府営和泉寺田住宅第2期建て替えに伴う発掘調査」(大阪府埋蔵文化財調査報告2009-7) 2010

大阪府教育委員会「大阪府教育委員会文化財調査事務所年報」15 2011

【三田遺跡】財団法人大阪府埋蔵文化財協会「主要地方道岸和田牛滝山貝塚線建設に伴う 三田遺跡」((財) 大阪府埋蔵文化財協会調査報告書第15輯) 1987

【箕土路遺跡】財団法人大阪府埋蔵文化財協会「都市計画道路磯之上山直線建設に伴う 箕土路遺跡」((財) 大阪府埋蔵文化財協会調査報告書第13輯) 1987

【山直北遺跡】財団法人大阪府埋蔵文化財協会「山ノ内遺跡Ⅱ他 (山ノ内・山直北・二俣池北遺跡) 主要地方道岸和田・牛滝山・貝塚線建設に伴う発掘調査報告書」((財) 大阪府埋蔵文化財協会調査報告書第61輯) 1990

岸和田市教育委員会「山直北遺跡 - 山直摩湯地区は場整備事業に伴う発掘調査報告書 -」(岸和田市埋蔵文化財発掘調査報告書8) 2000

【山直中遺跡】財団法人大阪府埋蔵文化財協会「近畿自動車道和歌山線建設に伴う 山直中遺跡」((財) 大阪府埋蔵文化財協会調査報告書第22輯) 1988

岸和田市教育委員会「山直中遺跡 - 給油取扱所建設に伴う発掘調査 -」(岸和田市文化財調査報告4) 1996

財団法人大阪府文化財調査研究センター「山直中遺跡Ⅲ 一般府道春木岸和田線道路拡幅に伴う 調査」((財) 大阪府文化財調査研究センター発掘調査報告書第33集) 1998

【山ノ内遺跡】財団法人大阪府埋蔵文化財協会「山ノ内遺跡Ⅱ他 (山ノ内・山直北・二俣池北遺跡) 主要地方道岸和田・牛滝山・貝塚線建設に伴う発掘調査報告書」((財) 大阪府埋蔵文化財協会調査報告書第61輯) 1990

財団法人大阪府埋蔵文化財協会「主要地方道岸和田・牛滝山・貝塚線建設に伴う 山ノ内遺跡」((財) 大阪府埋蔵文化財協会調査報告書第73輯) 1992

【吉井遺跡】財団法人大阪府埋蔵文化財協会「吉井遺跡 府営岸和田春木第2期住宅(建て替え)建設工事に伴う発掘調査報告書」((財) 大阪府埋蔵文化財協会調査報告書第34輯) 1988

岸和田市教育委員会「吉井遺跡 - 都市計画道路忠岡吉井線建設に伴う発掘調査報告書 -」(岸和田市埋蔵文化財発掘調査報告書5) 1998

大阪府教育委員会「吉井遺跡 - 府営岸和田吉井住宅建替えに伴う発掘調査 -」(大阪府埋蔵文化財調査報告2005-4) 2006

[大町遺跡]

大阪府教育委員会「大町遺跡 - 府営久米田第二住宅建て替えに伴う発掘調査 -」(大阪府埋蔵文化財調査報告2006-2) 2007

大阪府教育委員会「大町遺跡Ⅱ - 府営岸和田大町住宅建替えに伴う発掘調査 -」(大阪府埋蔵文化財調査報告2009-2) 2010

遺構一覽表

遺物觀察表

遺物組成表

調査区	遺構番号	種類	長径(m)	短径(m)	深度(cm)	主軸方向	主な出土遺物
09-1区	01	河道	5.7~	7.0	230	N-50°-W	縄文土器、弥生中・後期土器、庄内・布留式期土器(須恵器)
09-1区	02	河道	5.7~	22.0~	220	—	弥生中期・後期土器、庄内・布留式期土器
09-1区	06	河道	6.4~	7.0~	150~	N-37°-W	縄文土器、弥生～古墳時代土器
09-1区	11	溝	3.7~	1.1~	24	N-43°-W	
09-1区	12	土坑	1.5	0.5	10	N-45°-W	
09-1区	13	土坑	1.1	0.5	14	N-45°-W	
09-1区	14	小穴	0.2	0.1	2	N-43°-W	
09-1区	15	小穴	0.3	0.2	3	N-30°-W	
09-1区	16	耕作痕	0.9	0.1	2	N-42°-W	
09-1区	17	耕作痕	0.4	0.2	2	N-25°-W	
09-1区	18	耕作痕	0.8	0.1	2	N-38°-W	
09-1区	19	耕作痕	0.5	0.2	2	N-36°-W	
09-1区	20	小穴	0.3	0.2	2	N-35°-W	
09-1区	21	土坑	—	—	19	—	
09-1区	22	耕作痕	0.8	0.2	1	N-33°-W	
09-1区	23	耕作痕	1.0~	0.1	2	N-65°-W	
09-1区	24	耕作痕	0.7	0.1	1	N-68°-W	
09-1区	25	耕作痕	0.5	0.1	1	N-66°-W	
09-1区	26	土坑	4.8	3.9	15	N-40°-E	弥生～古墳時代土器、土師器、須恵器、陶器、磁器、瓦
09-1区	27	溝	5.7~	1.2	25	N-20°-E	弥生～古墳時代土器、陶器、磁器、瓦
09-1区	28	溝	10.5~	1.4	29	N-18°-E	弥生～古墳時代土器、須恵器、黑色土器
09-1区	29	耕作痕	1.2	0.1	1	N-50°-E	
09-1区	30	耕作痕	2.5~	0.2	2	N-44°-W	
09-1区	31	耕作痕	0.5	0.2	1	N-50°-W	
09-1区	32	耕作痕	1.3	0.2	2	N-41°-W	
09-1区	33	小穴	0.2	—	1	—	
09-1区	34	耕作痕	2.9~	0.3	2	N-45°-W	
09-1区	35	小穴	0.3~	0.2	1	N-45°-E	
09-1区	36	耕作痕	0.7	0.1	1	N-40°-E	
09-1区	37	土坑	1.3	0.7	6	N-44°-W	弥生～古墳時代土器、瓦
09-1区	38	耕作痕	2.3~	0.2	2	N-47°-W	磁器
09-1区	39	耕作痕	1.1	0.1	2	N-40°-W	
09-1区	40	土坑	2.5	0.8	20	N-32°-E	
09-1区	41	耕作痕	3.5	0.2	2	N-47°-W	
09-1区	42	耕作痕	0.4	0.1	1	N-56°-W	
09-1区	43	耕作痕	1.1	0.1	1	N-41°-E	
09-1区	44	耕作痕	1.1	0.1	1	N-36°-E	弥生中期土器
09-1区	45	土坑	2.3	0.7	8	N-38°-W	
09-1区	46	土坑	0.6	0.4	2	N-35°-W	
09-1区	47	小穴	0.3	0.2	4	N-52°-E	
09-1区	48	耕作痕	0.9	0.1	1	N-41°-E	
09-1区	49	耕作痕	0.5	0.1	1	N-42°-E	
09-1区	50	土坑	5.1	0.8	8	N-46°-E	
09-1区	51	土坑	1.2	0.9	2	N-24°-E	
09-1区	52	耕作痕	1.1	0.1	1	N-40°-E	
09-1区	53	耕作痕	0.5	0.1	1	N-20°-E	
09-1区	54	小穴	0.2	0.2	4	N-68°-E	
09-1区	55	耕作痕	1.0	0.1	1	N-42°-E	
09-1区	56	土坑	0.7	0.6	4	N-40°-E	

遺構一覧表（1）

概要
一部の壁際に砂シルトが認められる以外砂の堆積。下層は細分されるが整合な堆積状況を示している。砂の色調はにぶい黄褐色(10YR7/2・2.5Y6/3)・明黄褐色(2.5Y6/6・2.5Y7/6)・灰黄色(2.5Y6/2)・灰黄褐色(10YR5/2)・灰白色(5Y7/1・10YR7/1)が主流
上層は砂シルト、下層は粘土・粘質土が主に堆積。砂シルトの色調は灰色(10Y6/1・7.5Y6/1・2.5Y6/1)・灰白色(10Y7/1・7.5Y7/2・2.5Y7/1・5Y7/1)・オリーブ灰色(10Y6/2・10Y5/2・2.5Y6/1)が主流。上層は北東壁際では幾分不整合な堆積状況を示すが01河道を挟んだ南西側では下層から上層まで水平あるいはそれに近い堆積状況
下層は一部を除いて砂の堆積。色調は灰黄色(2.5Y7/2・2.5Y6/1・2.5Y6/2)・灰白色(7.5Y7/1)・褐灰色(10YR6/1)・黄灰色(2.5Y6/1)・灰色(5Y6/1)。堆積状況は不整合。上層は主として砂質土で粘土が若干混じる。砂質土の色調は黄褐色(2.5Y5/4・2.5Y5/3)や灰黄色(2.5Y7/2)が主で幾分融化している
上層は灰色(5Y5/1)の粘質土を少量含むにぶい黄色(2.5Y6/3)粘質土。下層は灰色(5Y5/1)粘質土。
黄灰色(2.5Y5/1)砂の單一層
黄灰色(2.5Y5/1)粗砂の單一層
黄灰色(2.5Y5/1)砂シルトの單一層
黄灰色(2.5Y5/1)砂シルトの單一層、明黄褐色(2.5Y6/6)砂質土僅かに含む
黄灰色(2.5Y6/1)砂シルトの單一層
黄灰色(2.5Y5/1)砂シルトの單一層、明黄褐色(2.5Y6/6)砂質土僅かに含む
黄灰色(2.5Y6/1)砂シルトの單一層
黄灰色(2.5Y6/1)砂シルトの單一層
黄灰色(2.5Y6/1)砂シルトの單一層
上層は灰色(N5/0)粘シルト、下層はにぶい黄色(2.5Y6/3)粗砂と黄灰色(2.5Y6/1)砂シルト
黄灰色(2.5Y6/1)砂シルトの單一層
灰色(5Y5/1)砂シルト
灰色(5Y5/1)砂シルト
黄灰色(2.5Y5/1)砂シルトの單一層
青灰色(5B6/1)粘シルト・灰色(7.5Y5/1)砂質土のうち灰色(5Y4/1)砂シルトが堆積
上層は灰色(5Y5/1)砂シルトと黄灰色(2.5Y6/1)砂質土を僅かに含む灰色(7.5Y6/1)砂質土。下層はオリーブ色(5Y6/4)粘質土と灰色(7.5Y6/1)砂シルト
底上にオリーブ色(7.5Y6/2)砂シルトが薄く堆積する以外は灰色(5Y5/1・7.5Y6/1)砂シルト
暗灰黄色(2.5Y4/2)砂シルト
暗灰黄色(2.5Y4/2)砂シルト
暗灰黄色(2.5Y5/2)砂シルト
暗灰黄色(2.5Y5/2)砂シルト
暗灰黄色(2.5Y5/2)砂シルト
暗灰黄色(2.5Y4/2)砂シルト
暗灰黄色(2.5Y5/2)砂シルト
黄灰色(2.5Y5/1)砂シルト
上層は灰色(5Y5/1)粘シルト。下層は灰オリーブ色(5Y5/2)砂シルト
黄灰色(2.5Y5/1)砂シルト
黄灰色(2.5Y5/1)砂シルト
灰オリーブ色(5Y5/2)砂シルト堆積のうち灰色(5Y6/1)砂質土が大半、灰オリーブ色(5Y6/2)堆積土が切り込むように堆積
暗灰黄色(2.5Y4/2)砂シルト
暗灰黄色(2.5Y5/2)砂シルト
暗灰黄色(2.5Y5/2)砂シルト
暗灰黄色(2.5Y5/2)砂シルト
灰色(5Y5/1)砂シルトの單一層、灰オリーブ色(5Y5/2)粘土僅かに含む
灰色(5Y5/1)砂シルトの單一層
灰色(5Y5/1)砂シルトの單一層
暗灰黄色(2.5Y5/2)砂シルト
暗灰黄色(2.5Y5/2)砂シルト
上層は黄灰色(2.5Y5/1)砂シルト、下層はオリーブ色(5Y6/6)砂質土を僅かに含む灰オリーブ色(7.5Y6/2)砂シルト
黄灰色(2.5Y5/1)砂質土の單一層
灰色(5Y4/1)砂シルト
黄灰色(2.5Y5/1)砂シルト
灰色(5Y4/1)砂シルトの單一層
黄灰色(2.5Y6/1)砂シルト
暗灰黄色(2.5Y5/2)砂質土の單一層、オリーブ色(5Y6/6)砂質土少量含む

調査区	遺構番号	種類	長径(m)	短径(m)	深度(cm)	主軸方向	主な出土遺物
09-1区	57	耕作痕	0.3	0.1	2	N-22°-E	
09-1区	58	耕作痕	1.3	0.2	1	N-77°-W	
09-1区	59	土坑	1.3	0.7	4	N-63°-E	
09-1区	60	土坑	1.7	0.9	4	N-78°-W	
09-1区	61	耕作痕	1.6	0.2	2	N-46°-W	
09-1区	62	耕作痕	1.7	0.2	2	N-41°-W	
09-1区	63	耕作痕	1.4	0.2	2	N-42°-W	
09-1区	64	耕作痕	2.5	0.2	2	N-11°-E	
09-1区	65	耕作痕	0.9	0.1	1	N-23°-E	
09-1区	66	耕作痕	0.7	0.1	1	N-42°-E	
09-1区	67	耕作痕	1.7	0.2	2	N-40°-E	
09-1区	68	小穴	0.4~	0.2	1	N-40°-E	
09-1区	69	土坑	1.7	0.7	10	N-38°-E	
09-1区	70	耕作痕	2.4	0.3	10	N-39°-E	
09-1区	71	耕作痕	3.7	0.5	3	N-37°-E	
09-1区	72	耕作痕	0.9	0.3	5	N-15°-E	
09-1区	73	土坑	0.7~	0.2~	4	—	
09-1区	74	溝	6.6	0.6	10	N-38°-E	磁器
09-1区	75	土坑	8.2	0.8~	13	N-36°-E	
09-1区	76	耕作痕	0.8~	0.1	1	N-41°-W	
09-1区	77	小穴	0.4	0.3	6	N-25°-W	
09-1区	78	耕作痕	1.4	0.1	2	N-50°-W	
09-1区	79	耕作痕	1.0	0.2	1	N-47°-W	
09-1区	80	耕作痕	0.8	0.1	1	N-09°-E	
09-1区	81	土坑	1.8	0.9	15	N-70°-W	陶器, 磁器, 瓦
09-1区	82	土坑	0.5	0.4	4	N-08°-E	
09-1区	83	土坑	0.5	0.5	6	N-70°-W	
09-1区	84	土坑	1.0	0.5	9	N-30°-E	
09-1区	85	土坑	0.4	0.2	14	N-14°-W	
09-1区	86	土坑	1.7	1.2	17	N-44°-E	瓦器, 陶器, 磁器, 瓦
09-1区	87	土坑	1.4	1.0	5	N-36°-E	弥生~古墳時代土器, 土師器, 須恵器
09-1区	88	土坑	2.9~	1.7	53	N-68°-E	布留式期土器, 土師器, 陶器, 磁器, 瓦, 墓輪
09-1区	89	土坑	0.6	0.5	2	N-06°-W	
09-1区	90	土坑	1.3	0.8	6	N-87°-E	
09-1区	91	土坑	0.9	0.7	4	N-30°-E	
09-1区	92	土坑	1.2	0.9	15	N-65°-W	
09-1区	93	土坑	0.4	0.2	6	N-10°-E	
09-1区	94	土坑	0.4	0.3	3	N-33°-W	
09-1区	95	土坑	0.7~	0.6	6	N-60°-W	
09-1区	96	土坑	0.5	0.3~	4	N-31°-E	
09-1区	97	土坑	1.3	0.6	10	N-20°-E	
09-1区	98	土坑	0.6	0.5	22	N-37°-W	
09-1区	99	耕作痕	0.7	0.1	2	N-56°-W	
09-1区	100	土坑	1.4	0.5	15	N-70°-E	
09-1区	101	土坑	0.8	0.8	23	—	
09-1区	102	溝	4.5	0.2	5	N-56°-W	
09-1区	103	土坑	1.7	0.9	7	N-25°-W	
09-1区	104	小穴	0.2~	0.4~	2	—	
09-1区	105	小穴	0.2~	0.3~	3	—	
09-1区	106	溝	6.6~	—	22	N-38°-W	
10-1区(第1面)	01	溝	4.8~	0.4~	7	N-35°-E	
10-1区(第1面)	02	小穴	0.3	0.2~	5	—	

遺構一覧表（2）

概土の概要
黄灰色(2.5Y5/1)砂シルト
黄灰色(2.5Y6/1)砂シルト
灰オリーブ色(5Y5/2)砂質土の單一層
灰オリーブ色(5Y6/2)砂シルトの單一層、オリーブ色(5Y6/6)砂シルト少量含む
暗灰黄色(2.5Y5/2)砂シルト
暗灰黄色(2.5Y5/2)砂シルト、黄色(2.5Y7/8)砂少量含む
灰黄色(2.5Y6/2)砂シルト
黄灰色(2.5Y5/1)砂シルト
暗灰黄色(2.5Y4/2)砂シルト
暗灰黄色(2.5Y4/2)砂シルト
暗灰黄色(2.5Y4/2)砂シルト
灰色(5Y4/1)粘シルトの單一層、オリーブ黄色(5Y6/4)砂質土僅かに含む
底上に灰オリーブ色(5Y6/2)粘シルト堆積、大半はオリーブ黄色(5Y6/3)砂質土を少量含む灰色(5Y4/1)粘質土
上層はオリーブ色(5Y6/6)粘質土を少量含む灰オリーブ色(5Y6/2)粘シルト、下層は灰色(5Y4/1)粘質土
灰オリーブ色(5Y6/2)砂質土の單一層、オリーブ黄色(5Y6/4)砂質土僅かに含む
灰色(5Y6/1)砂シルトの單一層、オリーブ色(5Y6/6)砂シルト僅かに含む
上層は灰色(5Y5/1)砂シルト、下層は灰オリーブ色(5Y6/2)砂シルト
上層は灰色(5Y4/1)粘シルト、下層はオリーブ黄色(5Y6/3)砂シルトを僅かに含む灰オリーブ色(5Y5/2)粘シルト
灰色(5Y5/1)砂シルト
上層は灰オリーブ色(5Y5/2)砂シルト、下層は灰色(2.5Y5/1)砂質土
灰色(5Y5/1)砂シルト
暗灰黄色(2.5Y4/2)砂シルト
暗灰黄色(2.5Y4/2)砂シルト
上層は灰色(5Y5/1)砂シルト、下層はオリーブ色(5Y6/6)粘質土を含む灰オリーブ色(5Y6/2)砂質土
灰オリーブ色(5Y6/2)砂シルトの單一層、灰色(5Y5/1)砂シルト少量含む
灰色(7.5Y4/1)砂シルトの單一層、オリーブ灰色(5GY6/1)砂シルト少量含む
灰オリーブ色(5Y6/1)砂シルトブロックを含む灰色(5Y5/1)粘シルトのうち黄灰色(2.5Y5/1)砂シルトが堆積
上層は明黄褐色(2.5Y7/6)砂質土を僅かに含む灰色(5Y5/1)砂シルト、下層は灰色(5Y5/1)砂シルトブロックを僅かに含む同色砂シルト
上層はオリーブ色(5Y6/6)砂質土を少量含む灰色(7.5Y5/1)砂シルト、下層は灰色(5Y5/1)粘シルト
灰色(5Y6/1)砂シルトの單一層、にぶい黄色(2.5Y6/3)砂質土少量含む
底上に灰色(5Y4/1)粘土が堆積、中層は灰黄色(2.5Y6/2)粘質土・オリーブ黄色(5Y6/4)粘シルト・緑灰色(10GY6/1)砂シルト・オリーブ灰色(2.5GY6/1)粘質土の混合層、緑灰色(10GY6/1)砂シルト・オリーブ黄色(5Y6/3)粘土が不整合に堆積、上層は黄灰色(2.5Y5/1)粘シルトが水平堆積
灰色(5Y5/1)砂シルトの單一層
黄灰色(2.5Y6/1)砂シルトの單一層、明黄褐色(2.5Y7/6)砂質土僅かに含む
灰色(5Y5/1)砂シルトの單一層、明黄褐色(2.5Y7/6)砂質土僅かに含む
灰色(7.5Y4/1)粘質土の單一層、灰白色(7.5Y7/2)粘土ブロック僅かに含む
黄灰色(2.5Y4/1)粘土の單一層
灰色(7.5Y4/1)粘質土の單一層
灰色(7.5Y4/1)粘シルトの單一層、明オリーブ色(2.5GY7/1)砂僅かに含む
灰色(7.5Y4/1)粘シルトの單一層
底上にオリーブ灰色(2.5GY6/1)砂シルトが堆積、大半は灰色(7.5Y4/1)粘シルト
上層は灰色(7.5Y5/1)砂シルト、中層は灰オリーブ色(7.5Y6/2)粗砂、下層は灰オリーブ色(7.5Y6/2)粘土
黄灰色(2.5Y4/1)砂シルト
上層は灰色(N4/0)粘シルト、下層はオリーブ灰色(2.5GY6/1)砂シルト
上層は褐灰色(10YR6/1)砂質土、下層は灰黄色(2.5Y6/2)砂
オリーブ色(2.5GY5/1)砂シルトの單一層
オリーブ灰色(2.5GY6/1)粘質土が基調、部分的に明黄褐色(10YR6/6)粘質土を含む
灰色(N5/0)粘シルトの單一層、オリーブ灰色(2.5GY6/1)粘質土少量含む
灰色(N5/0)粘シルトの單一層
灰オリーブ色(7.5Y6/2)粘土のうち灰色(N5/0)粘質土が堆積、掘方の深い部分では底上に灰色(N5/0)粗粘質土が堆積
上層は黄灰色(2.5Y5/1)砂シルト、下層は明黄褐色(2.5Y6/6)砂質土
上層は黄灰色(2.5Y5/1)砂シルト、下層は灰黄色(2.5Y7/2)砂シルト

調査区	遺構番号	種類	長径(m)	短径(m)	深度(cm)	主軸方向	主な出土遺物
10-1区(第1面)	03	溝	2.6	0.6	5	N-33°-E	
10-1区(第1面)	04	小穴	0.4	0.3	10	N-87°-W	
10-1区(第1面)	05	土坑	2.9	0.5~	5	N-48°-W	
10-1区(第1面)	06	土坑	1.1	0.5	3	N-45°-W	
10-1区(第1面)	07	土坑	1.3	0.4~	5	N-48°-W	
10-1区(第1面)	08	耕作痕	1.5	0.1	5	N-87°-W	
10-1区(第1面)	09	耕作痕	0.5	0.1	6	N-90°-W	
10-1区(第1面)	10	耕作痕	0.3	0.1	5	N-47°-W	
10-1区(第1面)	11	耕作痕	1.6	0.2	3	N-64°-W	
10-1区(第1面)	12	土坑	2.2~	2.6~	15	—	
10-1区(第1面)	13	小穴	1.0	1.2~	19	—	
10-1区(第1面)	14	小穴	1.5~	0.2~	13	—	
10-1区(第1面)	15	溝	8.2	1.0	14	N-14°-E	
10-1区(第1面)	16	小穴	0.9	0.4	4	N-58°-W	陶器
10-1区(第1面)	17	小穴	0.4	0.4	4	N-42°-W	
10-1区(第1面)	18	小穴	1.3	0.9	7	N-50°-W	
10-1区(第1面)	19	小穴	2.0	0.9	4	N-02°-W	
10-1区(第1面)	20	溝	2.3~	0.7	3	N-21°-E	
10-1区(第1面)	21	溝	6.5	1.1	12	N-25°-E	須恵器
10-1区(第1面)	22	溝	8.1	1.1	10	N-13°-E	須恵器
10-1区(第1面)	23	小穴	0.5	0.4	6	N-11°-W	
10-1区(第1面)	24	小穴	1.6	0.7	2	N-88°-W	
10-1区(第1面)	25	溝	10.1	1.5	21	N-42°-E	
10-1区(第1面)	26	小穴	0.7~	0.7	20	—	
10-1区(第1面)	27	小穴	0.2	0.2	5	N-74°-E	
10-1区(第1面)	28	小穴	0.5	0.3~	7	N-47°-W	
10-1区(第1面)	29	小穴	1.3	0.4~	6	N-43°-W	
10-1区(第1面)	30	土坑	2.5	1.0	15	N-33°-E	弥生~古墳時代土器
10-1区(第1面)	31	水田段差	—	—	—	N-38°-E	
10-1区(第1面)	32	小穴	1.8	1.4	3	N-28°-W	
10-1区(第1面)	33	小穴	1.5	0.9	20	N-01°-E	
10-1区(第1面)	34	小穴	0.9	0.8	13	N-43°-W	
10-1区(第1面)	36	埴	—	—	—	N-42°-E	陶器
10-1区(第1面)	37	小穴	1.1	0.5	6	N-52°-W	弥生~古墳時代土器
10-1区(第1面)	38	耕作痕	0.5	0.1	3	N-41°-E	
10-1区(第1面)	39	耕作痕	1.3	0.1	4	N-41°-E	
10-1区(第1面)	40	耕作痕	4.3	0.2	4	N-42°-E	
10-1区(第1面)	41	耕作痕	12.8~	0.1	5	N-47°-W	弥生~古墳時代土器, 須恵器
10-1区(第1面)	42	耕作痕	3.7	0.1	2	N-48°-W	
10-1区(第1面)	43	耕作痕	2.2	0.2	4	N-32°-W	
10-1区(第1面)	44	耕作痕	1.3	0.1	2	N-40°-W	
10-1区(第2面)	45	埴	—	—	—	N-38°-W	弥生中期土器, 弥生~古墳時代土器, 瓦器
10-1区(第1面)	46	小穴	0.4	0.3	4	N-50°-E	
10-1区(第1面)	47	耕作痕	3.3	0.1	4	N-50°-W	
10-1区(第1面)	48	耕作痕	2.1	0.1	3	N-48°-W	
10-1区(第1面)	49	土坑	2.0	1.1	5	N-05°-W	
10-2区(第1面)	50	土坑	3.9	1.4	5	N-50°-E	
10-2区(第1面)	51	耕作痕	1.5	0.4	4	N-80°-E	
10-2区(第1面)	52	小穴	1.4	0.8	4	N-50°-E	
10-2区(第1面)	53	小穴	0.5	0.3	3	N-13°-W	
10-1区(第2面)	54	河道	20.0~	14.5~	40~	—	縄文土器, 弥生中期土器, 弥生~古墳時代土器, 庄内・布留式期土器(須恵器, 瓦器)

概土の概要	
上層は黄灰色(2.5Y5/1)砂シルト、下層は黄灰色(2.5Y5/1)砂シルト・明黄褐色(10YR6/6)砂質土混合層	
上層は黄灰色(2.5Y5/1)粘シルト、下層は灰オリーブ色(5Y5/2)砂質土	
灰色(7.5Y4/1)砂シルトの單一層	
黄灰色(2.5Y4/1)砂シルトの單一層	
灰色(7.5Y4/1)砂シルトの單一層	
黄灰色(2.5Y5/1)砂シルト、明黄褐色(2.5Y6/6)砂質土僅かに含む	
上層は黄灰色(2.5Y5/1)砂シルト、下層は暗灰黄色(2.5Y5/2)砂質土	
暗灰黄色(2.5Y5/2)砂シルト	
黄灰色(2.5Y5/1)砂シルト	
上層は明黄褐色(2.5Y6/6)砂質土ブロックを含む灰色(7.5Y5/1)粘シルト、下層は灰黄色(2.5Y6/2)砂質土・黄褐色(2.5Y5/3)砂質土のうち黄灰色(2.5Y6/1)砂質土が切り込むように堆積	
上層は黄灰色(2.5Y5/1)粘シルト、下層は黄灰色(2.5Y6/1)粘シルト	
灰色(7.5Y5/1)砂質土の單一層	
上層は黄灰色(2.5Y6/1)粘シルト、下層は灰黄色(2.5Y7/2)粘シルト、掘方の深い部分では底上に灰色(5Y6/1)砂シルトが堆積	
黄灰色(2.5Y5/1)砂シルトの單一層	
灰白色(2.5Y7/1)砂質土の單一層	
上層は明黄褐色(2.5Y7/6)砂シルトブロックを含む灰白色(5Y7/1)粘シルト、下層はにぶい黄橙色(10YR6/3)砂質土	
上層は黄灰色(2.5Y5/1)砂シルト、下層は黄灰色(2.5Y5/1)砂シルトを僅かに含む黄橙色(10YR7/8)砂質土	
灰黄色(2.5Y6/2)砂シルト・黄褐色(2.5Y5/3)粘質土の混合單一層	
大半は灰色(5Y6/1)砂シルト、部分的に底上に灰黄色(2.5Y6/2)粘質土が堆積	
上層は灰色(5Y6/1)粘シルト、下層は黄褐色(2.5Y5/4)粘質土、底上に黄褐色(2.5Y5/4)砂質土を含む灰色(5Y5/1)粘シルトが堆積	
灰色(5Y5/1)粘シルトの單一層	
暗灰黄色(2.5Y5/2)砂質土の單一層、浅黄色(2.5Y7/4)砂質土僅かに含む	
上層は黄灰色(2.5Y6/1)砂シルト、下層は灰オリーブ色(5Y6/2)砂質土、部分的に底上に黄灰色(2.5Y5/1)粘シルトが堆積、黄灰色(2.5Y5/1)砂シルトを僅かに含む部分もある	
上層は黄灰色(2.5Y5/1)粘シルト、中層は灰色(7.5Y5/1)粘質土、下層は灰色(7.5Y6/1)粘シルト	
黄灰色(2.5Y5/1)粘シルトの單一層	
上層は灰色(5Y5/1)粘シルト、下層は灰オリーブ色(5Y6/2)粘質土	
黄褐色(2.5Y5/6)砂質土・暗黄色(2.5Y5/2)砂シルト混合層、部分的に黄灰色(2.5Y5/1)砂シルトが切り込むように堆積	
灰色(5Y5/1)粘シルトの單一層、灰白色(5Y7/2)粘シルト少量含む	
—	
暗灰黄色(2.5Y5/2)砂質土の單一層	
底上に黄褐色(2.5Y5/3)砂質土・にぶい黄色(2.5Y6/3)粘土が堆積、大半は灰色(5Y4/1)粘土ブロック・灰白色(2.5Y7/1)粘土ブロック混合層	
灰黄色(2.5Y6/2)砂質土のうち灰色(5Y4/1)粘土ブロック・灰白色(2.5Y7/1)粘土ブロック混合層が堆積	
—	
暗灰黄色(2.5Y5/2)砂質土の單一層	
黄灰色(2.5Y5/1)粘シルト、黄褐色(2.5Y5/3)砂質土少量含む	
黄灰色(2.5Y5/1)粘シルト、にぶい黄色(2.5Y6/4)砂質土少量含む	
黄灰色(2.5Y5/1)粘シルト、明黄褐色(2.5Y7/6)砂質土僅かに含む	
黄灰色(2.5Y5/1)粘シルト、明黄褐色(2.5Y7/6)砂質土僅かに含む	
黄灰色(2.5Y5/1)粘シルト、明黄褐色(2.5Y6/6)砂質土少量含む	
黄灰色(2.5Y5/1)粘シルト、灰黄色(2.5Y6/2)砂質土少量含む	
灰黄色(2.5Y6/2)粘シルト、灰黄色(2.5Y7/2)砂シルトブロック僅かに含む	
—	
黄灰色(2.5Y5/1)粘シルトの單一層、にぶい黄色(2.5Y6/4)砂質土少量含む	
黄灰色(2.5Y6/1)粘シルト、にぶい黄色(2.5Y6/3)砂質土少量含む	
黄褐色(2.5Y5/1)粘シルト、にぶい黄色(2.5Y6/4)砂質土少量含む	
灰色(5Y6/1)粘シルトを少量含む灰黄色(2.5Y6/2)粘質土のうち黄灰色(2.5Y5/1)粘シルトを少量含む暗灰色(2.5Y5/2)砂質土が堆積	
黄灰色(2.5Y5/1)粘シルトの單一層、浅黄色(2.5Y7/3)砂質土少量含む	
上層は黄灰色(2.5Y5/1)粘シルト、下層は灰白色(5Y8/1)砂を僅かに含むにぶい黄褐色(2.5Y6/4)砂質土	
黄灰色(2.5Y5/1)粘シルトの單一層、にぶい黄色(2.5Y6/4)砂質土少量含む	
黄灰色(2.5Y5/1)粘シルトの單一層、にぶい黄色(2.5Y6/4)砂質土少量含む	
上層は砂・砂質土・砂シルトが主体、色調は主に灰色(5Y6/1・7.5Y5/1)や灰白色(5Y7/1)系、下層は粘土・粘質土・粘シルトが主体、色調は主に灰色(5Y6/1・7.5Y6/1)系	

調査区	遺構番号	種類	長径(m)	短径(m)	深度(cm)	主軸方向	主な出土遺物
10-1区(第2面)	55	溝	17.6~	1.5	35	N-08°-E	庄内式期土器、弥生~古墳時代土器
10-1区(第2面)	56	溝	3.8	0.9	27	N-42°-E	須恵器、陶器
10-1区(第2面)	57	小穴	0.6	0.5	17	N-53°-W	
10-1区(第2面)	58	溝	11.1~	1.8	35	N-13°-E	弥生~古墳時代土器
10-1区(第2面)	59	水田段差	—	—	—	N-25°-E	
10-2区(第2面)	60	河道	—	10.0~	80~	—	弥生中・後期土器、弥生~古墳時代土器、庄内・布留式期土器(土師器、須恵器、黒色土器、瓦器、瓦)
10-1区(第2面)	61	土坑	2.6	1.6	35	N-12°-W	
10-1区(第2面)	63	溝	11.0~	1.0	30	N-20°-E	弥生~古墳時代土器
10-1区(第2面)	64	小穴	0.3	0.2	5	—	
10-1区(第2面)	65	土坑	2.0	1.5	15	N-85°-W	弥生中期土器(弥生~古墳時代土器、庄内・布留式期土器、須恵器、瓦器、陶器、瓦)
10-1区(第2面)	66	小穴	0.1	0.1	7	—	
10-1区(第2面)	67	小穴	0.2	0.1	10	—	
10-1区(第2面)	68	小穴	0.2	0.1	12	—	
10-1区(第2面)	69	小穴	0.2	0.1	8	—	
10-1区(第2面)	70	小穴	0.1	0.1	6	—	
10-1区(第2面)	71	小穴	0.1	0.1	8	—	
10-1区(第2面)	72	小穴	0.4	0.3	18	N-80°-E	
10-3区	73	水田	—	—	—	—	弥生~古墳時代土器、土師器、須恵器、黒色土器、瓦器、陶器、磁器、瓦、埴輪
10-3区	74	小穴	0.3	0.2	10	N-30°-W	
10-3区	75	小穴	0.2	0.2	4	—	
10-3区	76	耕作痕	0.7	0.2	2	N-12°-W	
10-3区	77	耕作痕	0.9	0.1	2	N-32°-W	弥生~古墳時代土器、瓦器
10-3区	78	耕作痕	0.2~	0.1	1	N-50°-E	
10-3区	79	耕作痕	0.4~	0.1	2	N-62°-E	
10-3区	80	耕作痕	0.3	0.1	2	N-18°-W	
10-3区	81	小穴	0.3	0.2	3	N-44°-E	
10-3区	82	耕作痕	1.1	0.1	3	N-66°-E	
10-3区	83	耕作痕	0.5~	0.1	2	N-70°-E	
10-3区	84	耕作痕	0.8	0.1	2	N-28°-W	
10-3区	85	耕作痕	0.3~	0.1	2	N-32°-W	
10-3区	86	耕作痕	1.0	0.1	3	N-65°-E	弥生~古墳時代土器
10-3区	87	耕作痕	0.9	0.1	2	N-63°-E	弥生~古墳時代土器、瓦器
10-3区	88	耕作痕	0.2	0.1	2	N-15°-W	
10-3区	91	小穴	0.2	0.2	3	—	
10-3区	92	耕作痕	0.5	0.1	2	N-38°-W	
10-3区	93	耕作痕	0.1	0.1	1	N-38°-E	
10-3区	94	耕作痕	0.4~	0.1	2	N-28°-W	
10-3区	95	耕作痕	0.4~	0.1	2	N-30°-W	
10-3区	96	耕作痕	1.6~	0.2	3	N-32°-W	
10-3区	97	耕作痕	1.7~	0.2	3	N-60°-E	
10-3区	98	土坑	1.5~	0.2	14	N-44°-E	
10-3区	100	河道	7.9~	8.3	80~	N-08°-W	弥生中・後期土器、庄内・布留式期土器、弥生~古墳時代土器、須恵器、瓦器、瓦
10-3区	101	溝	7.2~	1.6~	70	N-54°-W	弥生~古墳時代土器、土師器、須恵器、黒色土器
10-3区	102	溝	7.2~	0.4~	60	N-54°-W	
10-3区	103	小穴	0.2	0.1	3	N-40°-W	
10-3区	104	溝	6.3~	1.5	30	N-44°-W	弥生~古墳時代土器、土師器、須恵器、黒色土器、瓦器

遺構一覧表（4）

概土の概要	
灰黄色(2.5Y6/2)砂・粗砂・灰白色(2.5Y7/1)粘土・粘質土・砂シルト・砂・灰色(5Y6/1)砂シルト・黄灰色(2.5Y6/1)砂シルト・明黄褐色(10YR6/6)粘シルトなどが堆積したのち幾分切り込むように灰黄色(2.5Y6/2)粘質土・砂が堆積	
底上に青灰色(5B6/1)粘土を少量含む灰色(5Y6/1)粘質土が堆積、大半は黄灰色(2.5Y6/1)砂シルトとぶい黄色(2.5Y6/3)砂質土か灰白色(2.5Y7/1)砂シルト	
上層は灰白色(2.5Y7/1)砂質土、下層は灰白色(5Y7/1)粘質土	
黄灰色(2.5Y5/1・2.5Y6/1)の砂・粗砂が主体、部分的に灰色(N6/0)砂シルトが混じる	
—	
上層は酸化して黄色味をおびた灰色系の砂シルト、下層は灰色系の粘質土・粘土が基調	
上層の一部にぶい黄色(2.5Y6/4)砂、底上に灰オリーブ色(7.5Y6/2)粘土が堆積、大半は灰色(7.5Y6/1)砂シルト	
中央部では上層はぶい黄色(2.5Y6/3)砂質土、中層は黄褐色(2.5Y5/3)砂質土、下層は暗灰黄色(2.5Y5/2)砂質土	
上層は黄灰色(2.5Y4/1)粘質土、下層は暗灰黄色(2.5Y5/2)砂質土	
上層は黄褐色(2.5Y5/6)粘質土、下層は灰オリーブ色(5Y4/2)粘土、底上には暗灰黄色(2.5Y4/2)粘質土が薄く堆積、暗灰黄色粘質土を除く各層には炭化物が含まれる	
上層は灰色(7.5Y5/1)粘土と黄褐色(2.5Y5/4)粘質土、下層はぶい黄色(2.5Y6/4)粘質土	
上層は黄灰色(2.5Y4/1)粘質土、下層は黄灰色(2.5Y4/1)粘質土・ぶい黄色(2.5Y6/4)粘土混合層	
灰色(5Y4/1)粘土の單一層、黄褐色(2.5Y5/4)粘質土少量含む	
上層は黄褐色(2.5Y5/4)粘質土、下層は暗青灰色(5B64/1)粘土ブロックが混じる黄褐色(2.5Y5/4)粘質土	
ぶい黄褐色(10YR5/4)粘土のものも灰色(5Y4/1)粘土が堆積	
灰色(5Y4/1)粘土の單一層	
上層は灰黄褐色(10YR5/2)粘土、中層は黄灰色(2.5Y6/1)粘土、下層は黄灰色(2.5Y2/1)粘土	
近世耕作土は黄灰色(2.5Y5/1)粘質土・黄褐色(2.5Y5/4)粘質土、中世耕作土は灰白色(2.5Y7/1)粘土・黄灰色(2.5Y4/1)粘質土	
灰オリーブ色(5Y5/2)砂質土の單一層	
灰白色(2.5Y6/1)砂シルト	
ぶい黄色(2.5Y6/3)砂シルト	
灰白色(2.5Y6/1)砂シルト	
上層は黄灰色(2.5Y4/1)砂質土、下層は灰黄色(2.5Y6/2)砂質土を少量含む黄灰色(2.5Y5/1)砂質土	
黄褐色(2.5Y5/6・2.5Y5/4・2.5Y5/1)・ぶい黄色(2.5Y6/4)・灰白色(N7/0・2.5Y7/1)・灰色(N6/0・N5/0・N4/0・5Y4/1・7.5Y5/1)系の粘土・粘質土が主体、北西の立ち上りや西岸のテラス状部に砂質土が認められる、粘土などの間に砂層が水平に介在、黒褐色(2.5Y3/1)粘質土が部分的に埋まっているように堆積	
上層は黄褐色(10YR5/6)砂質土、中層は灰色(5Y6/1)粘質土・黄灰色(2.5Y6/1)粘質土・灰色(5Y6/1)粘質土と明黄褐色(10YR6/6)砂質土の混合層・灰白色(2.5Y7/1)砂質土など、下層は黄灰色(2.5Y5/1)粘土・砂質土・灰色(5Y6/1)砂など	
上層は灰黄色(10YR4/2)粘質土・褐色(10YR6/1)粘質土、下層は黄褐色(10YR5/6)粘質土・灰色(N4/0)粘土・黄灰色(2.5Y4/1)粘質土	
灰白色(2.5Y6/1)砂シルトの單一層	
底上に灰色(7.5Y5/1)あるいは灰黄色(2.5Y6/2)粗砂、上層に灰オリーブ色(5Y5/2)粘質土・黄灰色(2.5Y5/1)砂質土・粘質土	

欠番 09-1区: 03~05, 07~10 10-1区: 35, 62 10-3区: 89, 90, 99

遺物番号	調査区	遺構・層	実測番号	種類	時期	器種	法量	器形の特徴
1	09-1	02河道	70	土器	庄内式期	高杯	(口) 17.8 (現高) 4.8	杯部浅めで屈曲弱い
2	09-1	02河道	77	土器	庄内式期	高杯	(口) 17.8 (現高) 4.5	杯部浅めで屈曲弱い
3	09-1	02河道	75	土器	弥生後期～庄内式期	高杯	(口) 14.8 (現高) 5.6	杯部大きくて深い
4	09-1	02河道	7	土器	庄内式期	高杯	(口) 9.1 (高) 8.7	小型、杯部開き気味
5	09-1	02河道	10	土器	庄内式期	高杯	(口) 12.9 (現高) 6.5	杯部開き気味、杯部に沈線文
6	09-1	02河道	9	土器	庄内式期	高杯	(口) 10.0 (現高) 6.7	杯部内湾
7	09-1	02河道	16	土器	庄内式期	高杯	(底) 11.2 (現高) 9.2	柱状脚部、脚裾部内湾
8	09-1	02河道	73	土器	庄内式期	高杯	(底) 13.7 (現高) 6.1	脚裾部直線的に開く
9	09-1	02河道	74	土器	庄内式期	高杯	(底) 11.8 (現高) 7.3	柱状脚部、脚裾部直線的に開く
10	09-1	02河道	1	土器	庄内式期	高杯	(底) 14.8 (現高) 8.0	脚裾部内湾気味
11	09-1	02河道	4	土器	庄内式期	鉢	(口) 17.6 (高) 9.9	口縁部外反、底部突出
12	09-1	02河道	8	土器	庄内式期	鉢	(口) 15.8 (高) 9.8	口縁部外反、底部突出
13	09-1	02河道	15	土器	弥生後期後半	台付鉢	(口) 12.4 (高) 10.3	鉢部半球形、脚台部「ハ」字状に開く
14	09-1	02河道	3	土器	庄内式期	V様式系壺	(口) 11.8 (高) 18.2	口縁部直立気味、胴部球形
15	09-1	02河道	11	土器	庄内式期	V様式系壺	(口) 18.0 (現高) 19.8	長胴形、底部の突出低い
16	09-1	02河道	71	土器	弥生後期	壺	(口) 16.2 (現高) 6.9	口縁部開き大きい
17	09-1	02河道	6	土器	弥生後期	壺	(口) 16.7 (現高) 8.8	頸部の屈曲強い
18	09-1	02河道	64	土器	庄内式期	V様式系壺	(口) 15.0 (現高) 8.1	胴部球形、口縁部短い
19	09-1	02河道	14	土器	庄内式期	V様式系壺	(口) 18.2 (現高) 5.7	口縁部端直立し面をもつ
20	09-1	02河道	2	土器	庄内式期	V様式系壺	(底) 4.4 (現高) 7.0	底部の突出低い
21	09-1	02河道	76	土器	弥生中期後葉	壺	(底) 5.8 (現高) 3.6	底部突出する
22	09-1	02河道	72	土器	弥生後期後半	壺	(底) 4.3 (現高) 1.6	底部突出する
23	09-1	02河道	69	土器	庄内式期	V様式系壺	(底) 2.9 (現高) 4.2	底部ほとんど突出しない
24	09-1	02河道	78	土器	弥生中期後葉	壺	(現高) 13.1	大型壺、頸部に簾状文、肩部に円形浮文

遺物観察表（1）

整・成形の特徴	焼成	胎質	色調
【杯部】(外)ミガキ(内)ミガキ	良好	長石・チャート・赤色粒子・白色粒子	(外)7.5YR6/6橙色 (内)10YR7/2にぶい黄橙色
【杯部】(外)一(内)ミガキ	良好	長石・チャート・白色粒子	(外)10YR7/3にぶい黄橙色 (内)7.5YR7/4にぶい橙色
【杯部】(外)ヘラナデ(内)ミガキ	良好	長石・チャート・赤色粒子・白色粒子	(外)10YR7/2にぶい黄橙色 (内)5YR6/8橙色
【杯部】(外)ミガキ(内)ミガキ 【脚部】(外)ミガキ(内)一	良好	長石・石英・チャート・赤色粒子	(外)7.5YR7/3にぶい橙色 (内)5YR7/6橙色
【杯部】(外)ミガキ(内)ミガキ	良好	長石・チャート・赤色粒子・白色粒子	(外)7.5YR7/4にぶい橙色 (内)5YR6/6橙色
【杯部】(外)ミガキ(内)ミガキ	良好	長石・石英・チャート	(外)7.5YR7/3にぶい橙色 (内)7.5YR7/3にぶい橙色
【脚部】(外)ミガキ(内)ヘラナデ	良好	長石・チャート	(外)2.5Y7/2灰黄色 (内)2.5Y7/2灰黄色
【脚部】(外)ミガキ(内)一	良好	長石・石英・チャート・赤色粒子	(外)7.5YR7/6橙色 (内)10YR7/3にぶい黄橙色
【脚部】(外)ミガキ(内)一	良好	長石・石英・チャート・赤色粒子	(外)7.5YR7/4にぶい橙色 (内)10YR7/4にぶい黄橙色
【脚部】(外)ミガキ(内)一	良好	長石・チャート・赤色粒子・白色粒子	(外)10YR8/2灰白色 (内)2.5YR6/4にぶい橙色
【口縁部】(外)ヘラナデ(内)ヘラナデ 【胴部】(外)ヘラナデ・タタキ(内)ヘラナデ	良好	長石・石英・チャート・白色粒子	(外)7.5YR6/4にぶい橙色 (内)10YR6/3にぶい黄橙色
【口縁部】(外)ヘラナデ(内)ヘラナデ 【胴部】(外)タタキ(内)ヘラナデ・ユビナデ	良好	長石・石英・チャート・白色粒子	(外)2.5Y7/3浅黄色 (内)2.5Y7/2灰黄色
【脚部】(外)ヘラナデ(内)ヘラナデ 【脚台部】(外)ヘラナデ(内)ユビオサエ	良好	長石・石英・チャート・白色粒子	(外)10YR6/2灰黄褐色 (内)10YR7/2にぶい黄橙色
【口縁部】(外)ヘラナデ(内)ハケ 【胴部】(外)ヘラケズリ・タタキ(内)ヘラナデ・ハケ	良好	長石・石英・チャート・白色粒子	(外)10YR7/2にぶい黄橙色 (内)5YR6/6橙色
【口縁部】(外)ヘラナデ(内)ヘラナデ 【胴部】(外)タタキ(内)ハケ	良好	長石・チャート	(外)10YR7/3にぶい黄橙色 (内)10YR7/2にぶい黄橙色
【口縁部】(外)ヘラナデ(内)ヘラナデ 【胴部】(外)タタキ(内)ヘラナデ・ユビオサエ	良好	長石・石英・チャート・赤色粒子	(外)2.5Y7/3浅黄色 (内)2.5Y7/3浅黄色
【口縁部】(外)ユビナデ・ヘラナデ(内)ヘラナデ 【胴部】(外)タタキ(内)ヘラナデ・ユビオサエ	良好	長石・チャート・赤色粒子・白色粒子	(外)5YR7/6橙色 (内)5YR7/4にぶい橙色
【口縁部】(外)ヘラナデ(内)ヘラナデ 【胴部】(外)タタキ(内)ヘラナデ・ユビナデ	良好	長石・チャート	(外)2.5Y5/1黄灰色 (内)2.5Y7/2灰黄色
【口縁部】(外)ユビナデ(内)ヘラナデ・ユビナデ 【胴部】(外)タタキ(内)ユビナデ・ヘラナデ	良好	長石・チャート・白色粒子	(外)2.5Y7/2灰黄色 (内)2.5Y7/3浅黄色
【胴部】(外)タタキ(内)ヘラナデ	良好	長石・石英・チャート	(外)2.5Y5/1黄灰色 (内)2.5Y6/1黄灰色
【底部】(外)ヘラケズリ(内)ヘラナデ・ユビナデ	良好	長石・チャート・白色粒子	(外)2.5Y8/2灰白色 (内)2.5Y7/2灰黄色
【底部】(外)一(内)ユビナデ	良好	長石・石英・チャート	(外)5YR7/4にぶい橙色 (内)7.5YR6/4にぶい橙色
【胴部】(外)タタキ(内)ハケ 【底部】(外)ヘラナデ(内)ハケ	良好	長石・石英・チャート・白色粒子	(外)10YR6/2灰黄褐色 (内)2.5Y8/3淡黄色
【頸部】(外)ヘラナデ(内)ハケ・ユビナデ	良好	長石・チャート・赤色粒子	(外)5YR6/6橙色 (内)7.5YR6/6橙色

遺物番号	調査区	遺構・層	実測番号	種類	時期	器種	法量	器形の特徴
25	09-1	02河道	66	土器	弥生中期後葉	甕	(口) 26.0 (現高) 4.9	口縁部は短い、端部は突出して内傾
26	09-1	02河道	13	土器	庄内式期	V様式系甕	(口) 12.4 (現高) 20.2	口縁部開き気味、胴部球形
27	09-1	02河道	19	土器	弥生後期	甕	(口) 19.6 (現高) 4.9	口縁部開き気味で端部丸い
28	09-1	02河道	79	土器	庄内式期	甕	(口) 14.4 (現高) 4.4	口縁部外反気味、端部に刻目、非在地系
29	09-1	02河道	81	土器	庄内式期	V様式系甕	(底) 3.8 (現高) 5.4	底部ほとんど突出しない
30	09-1	02河道	61	土器	弥生後期後半	甕	(底) 4.0 (現高) 2.8	底部突出する、底面中央窪む
31	09-1	02河道	68	土器	庄内式期	庄内式系甕	(口) 16.8 (現高) 2.4	口縁部端僅かに直立
32	09-1	02河道	67	土器	庄内式期	高杯	(口) 17.8 (現高) 5.7	杯部の屈曲弱い
33	09-1	02河道	80	土器	(不明)	製塙土器	(脚) 5.4 (現高) 4.9	脚部端平坦
34	09-1	01河道	24	土器	弥生中期中葉～後葉	壺	(口) 15.0 (現高) 7.2	口縁部外反、頸部に櫛挫文、内面刺突文
35	09-1	01河道	40	土器	弥生中期後葉	壺	(口) 15.2 (現高) 4.9	口縁部屈曲し肩部上下に肥厚
36	09-1	01河道	23	土器	庄内式期	壺	(口) 14.0 (現高) 4.2	口縁部の開きやや緩い
37	09-1	01河道	51	土器	庄内～布留式期	壺	(口) 10.8 (現高) 6.1	頸部直立気味
38	09-1	01河道	43	土器	布留式期	壺	(口) 16.8 (現高) 6.2	口縁部大きく開く
39	09-1	01河道	41	土器	庄内式期	壺	(現高) 5.6	有段口縁、頭部直立、口縁部外反
40	09-1	01河道	38	土器	庄内式期	壺	(現高) 5.7	頸部の屈曲強い、頸部に沈線文
41	09-1	01河道	53	土器	庄内～布留式期	壺	(底) 5.2 (現高) 3.8	底部の突出低い
42	09-1	01河道	17	土器	庄内式期	壺	(底) 3.2 (現高) 3.5	底部の突出やや低い
43	09-1	01河道	28	土器	弥生中期後葉	無頸壺	(口) 15.4 (現高) 3.4	口縁部に櫛齒刺突文、胴部に簾状文
44	09-1	01河道	31	土器	弥生中期後葉	台付土器	(脚) 17.4 (現高) 4.5	脚台部は直線的に立ち上がる
45	09-1	01河道	18	土器	庄内式期	高杯	(現高) 6.1	柱状脚部
46	09-1	01河道	50	土器	庄内～布留式期	高杯	(脚) 12.2 (現高) 6.4	脚部幅大きく広がる
47	09-1	01河道	32	土器	庄内式期	高杯	(脚) 9.0 (現高) 4.7	脚部直線的に開き低い
48	09-1	01河道	52	土器	庄内式期	高杯	(脚) 15.8 (現高) 4.6	脚部内湾し端部丸い

遺物観察表（2）

整・成形の特徴	焼成	胎質	色調
【口縁部】(外)ユビナデ(内)ユビナデ 【胴部】(外)ヘラナデ(内)ヘラナデ	良好	長石・チャート・白色粒子	(外)2.5Y7/4浅黄色 (内)2.5Y8/3淡黄色
【口縁部】(外)ヘラナデ(内)ヘラナデ 【胴部】(外)タタキ(内)ヘラナデ	良好	長石・チャート・白色粒子	(外)10YR5/1褐色 (内)7.5YR5/3にぶい褐色
【口縁部】(外)ヘラナデ(内)一 【胴部】(外)タタキ(内)一	良好	長石・赤色粒子・白色粒子	(外)5YR6/6橙色 (内)7.5YR7/4にぶい橙色
【口縁部】(外)ヘラナデ・ミガキ(内)ヘラナデ	良好	長石・石英・チャート	(外)10YR7/3にぶい黄橙色 (内)2.5Y7/3浅黄色
【胴部】(外)タタキ(内)ヘラナデ・ユビナデ	良好	長石・チャート	(外)10YR4/1褐色 (内)2.5Y6/2灰黄色
【胴部】(外)タタキ(内)ヘラナデ	良好	長石・チャート	(外)2.5Y5/1黄灰色 (内)2.5Y7/3浅黄色
【口縁部】(外)ヘラナデ(内)ハケ 【胴部】(外)タタキ(内)一	良好	長石・チャート・角閃石	(外)10YR5/2灰黄褐色 (内)10YR5/2灰黄褐色
【杯部】(外)ミガキ(内)ミガキ	良好	長石・石英・チャート	(外)5YR6/6橙色 (内)10YR7/3にぶい黄橙色
【脚部】(外)タタキ(内)ユビナデ	良好	長石・チャート・白色粒子	(外)7.5YR7/4にぶい橙色 (内)10YR5/1褐色
【口縁部】(外)ヘラナデ(内)ユビナデ・ユビオサエ	良好	長石・赤色粒子・白色粒子	(外)10YR8/3浅黄橙色 (内)7.5YR7/4にぶい橙色
【口縁部】(外)ヘラナデ(内)ユビナデ・ユビオサエ	良好	長石・石英・チャート	(外)2.5Y7/3浅黄色 (内)10YR7/3にぶい黄橙色
【口縁部】(外)一(内)一 【胴部】(外)一(内)ユビオサエ	良好	長石・石英・赤色粒子	(外)5YR6/4にぶい橙色 (内)7.5YR5/1褐色
【口縁部】(外)ユビナデ(内)ユビナデ 【胴部】(外)ヘラナデ(内)ユビオサエ	良好	長石・チャート・白色粒子	(外)10YR7/3にぶい黄橙色 (内)7.5YR7/3にぶい橙色
【口縁部】(外)ハケ(内)ユビナデ 【胴部】(外)ミガキ(内)ヘラナデ・ユビナデ	良好	長石・石英・チャート・白色粒子	(外)7.5YR6/4にぶい橙色 (内)10YR5/1褐色
【口縁部】(外)ヘラナデ(内)ヘラナデ・ユビナデ 【頸部】(外)ヘラナデ(内)ユビナデ	良好	長石・石英・チャート	(外)10YR8/3浅黄橙色 (内)7.5YR7/3にぶい橙色
【口縁部】(外)ヘラナデ(内)ヘラナデ 【胴部】(外)ヘラナデ(内)ユビナデ・ユビオサエ	良好	長石・石英・チャート・赤色粒子	(外)2.5Y7/2灰黄色 (内)2.5Y7/3浅黄色
【胴部】(外)ヘラナデ(内)ユビナデ 【底部】(外)ヘラナデ(内)一	良好	長石・チャート・赤色粒子・白色粒子	(外)5YR6/6橙色 (内)10YR6/2灰黄褐色
【口縁部】(外)ミガキ(内)ヘラナデ 【底部】(外)ヘラケズリ(内)一	良好	長石・石英・白色粒子	(外)10YR7/2にぶい黄橙色 (内)2.5Y7/2灰黄色
【口縁部】(外)ユビナデ(内)ユビナデ 【胴部】(外)ヘラナデ(内)ユビナデ	良好	長石・石英・赤色粒子・白色粒子	(外)7.5YR7/6橙色 (内)10YR7/3にぶい黄橙色
【脚部】(外)ヘラケズリ(内)ユビナデ・ヘラナデ	良好	長石・石英・チャート・白色粒子	(外)10YR8/3浅黄橙色 (内)2.5Y7/3浅黄色
【脚部】(外)ヘラケズリ(内)ハケ	良好	長石・石英	(外)5YR6/6橙色 (内)7.5YR7/3にぶい橙色
【脚部】(外)ミガキ(内)ヘラナデ	良好	長石・チャート・赤色粒子・白色粒子	(外)7.5YR7/4にぶい橙色 (内)5YR6/6橙色
【脚部】(外)ユビオサエ・ヘラケズリ(内)ヘラナデ	良好	長石・チャート・赤色粒子・白色粒子	(外)10YR8/3浅黄橙色 (内)10YR8/3浅黄橙色
【脚部】(外)ヘラナデ(内)ヘラナデ	良好	長石・石英・チャート・赤色粒子	(外)10YR8/3浅黄橙色 (内)10YR8/3浅黄橙色

遺物番号	調査区	遺構・層	実測番号	種類	時期	器種	法量	器形の特徴
49	09-1	01河道	46	土器	弥生中期後葉	甕	(口) 32.6 (現高) 4.8	口縁部は短い、端部内傾
50	09-1	01河道	47	土器	弥生中期後葉	甕	(口) 14.0 (現高) 3.7	口縁部は水平に屈曲、端部は肥厚
51	09-1	01河道	42	土器	弥生後期	甕	(口) 18.8 (現高) 5.7	口縁部は直線的に大きく開く
52	09-1	01河道	65	土器	庄内式期	V様式系甕	(口) 15.8 (現高) 11.8	口縁部短い、胴部球形
53	09-1	01河道	26	土器	庄内式期	V様式系甕	(口) 17.9 (現高) 6.6	口縁部は直立したのち外反
54	09-1	01河道	48	土器	庄内式期	V様式系甕	(口) 16.4 (現高) 6.7	口縁部直線的に開く
55	09-1	01河道	25	土器	庄内式期	V様式系甕	(口) 15.8 (現高) 9.6	小型甕、口縁部大きく開く
56	09-1	01河道	49	土器	布留式期	布留式系甕	(口) 15.9 (現高) 8.9	口縁部直線的に開く、端部丸く肥厚
57	09-1	01河道	44	土器	庄内式期	V様式系甕	(口) 17.2 (現高) 5.2	口縁部短く外反し端部面をもつ
58	09-1	01河道	36	土器	庄内式期	V様式系甕	(底) 2.1 (現高) 3.1	底部ほとんど突出しない
59	09-1	01河道	22	土器	弥生後期	甕	(底) 3.2 (現高) 2.6	底部輪状台
60	09-1	01河道	34	土器	庄内式期	V様式系甕	(底) 3.2 (現高) 2.3	底部の突出低い
61	09-1	01河道	29	土器	庄内式期	V様式系甕	(底) 4.6 (現高) 3.1	底部の突出低い
62	09-1	01河道	27	土器	庄内式期	V様式系甕	(底) 3.8 (現高) 1.8	底部の突出低い
63	09-1	01河道	39	土器	庄内式期	V様式系甕	(底) 5.5 (現高) 3.2	底部の突出低い
64	09-1	01河道	45	土器	庄内式期	V様式系甕	(底) 4.7 (現高) 2.2	底部ほとんど突出しない
65	09-1	01河道	63	土器	庄内式期	V様式系甕	(底) 3.3 (現高) 2.0	底部ほとんど突出しない
66	09-1	01河道	60	土器	庄内式期	V様式系甕	(底) 4.0 (現高) 5.1	底部ほとんど突出しない
67	09-1	01河道	30	土器	庄内式期	V様式系甕	(底) 3.8 (現高) 2.9	底部ほとんど突出しないが上げ底
68	09-1	01河道	35	土器	庄内式期	V様式系甕	(底) 3.1 (現高) 1.7	底部ほとんど突出しない
69	09-1	01河道	33	土器	庄内式期	V様式系甕	(底) 5.3 (現高) 2.5	底部ほとんど突出しない
70	09-1	01河道	37	土器	庄内式期	V様式系甕	(底) 5.0 (現高) 1.7	底部ほとんど突出しない
71	09-1	01河道	21	土器	繩文中期	深鉢	(底) 11.5 (現高) 3.0	底部上げ底
72	09-1	06河道	20	土器	庄内～布留式期	器台	(口) 8.7 (高) 7.1	口縁部に抉り込み

遺物観察表（3）

整・成形の特徴	焼成	胎質	色調
【口縁部】(外) — (内) — 【胴部】(外) ヘラナデ (内) ヘラナデ	良好	長石・チャート・赤色粒子	(外) 10YR7/2にぶい黄橙色 (内) 10YR7/2にぶい黄橙色
【口縁部】(外) — (内) ユビナデ 【胴部】(外) — (内) ユビナデ・ユビオサエ	良好	長石・チャート・赤色粒子・白色粒子	(外) 7.5YR7/3にぶい橙色 (内) 10YR6/2灰黄褐色
【口縁部】(外) ヘラナデ (内) ユビナデ 【胴部】(外) タタキ・ヘラナデ (内) ヘラケズリ	良好	長石・石英・チャート・赤色粒子	(外) 10YR7/3にぶい黄橙色 (内) 2.5Y8/3淡黄色
【口縁部】(外) — (内) — 【胴部】(外) タタキ (内) ヘラナデ	良好	長石・チャート・白色粒子	(外) 2.5Y5/2暗灰黄色 (内) 2.5Y7/3浅黄色
【口縁部】(外) — (内) ユビナデ 【胴部】(外) タタキ (内) ハケ・ユビナデ	良好	長石・チャート・赤色粒子・白色粒子	(外) 7.5YR8/3浅黄橙色 (内) 10YR7/4にぶい黄橙色
【口縁部】(外) — (内) ヘラナデ 【胴部】(外) タタキ (内) ユビナデ	良好	長石・石英・チャート・白色粒子	(外) 7.5YR7/3にぶい橙色 (内) 5YR6/4にぶい橙色
【口縁部】(外) — (内) ユビナデ・ヘラナデ 【胴部】(外) タタキ (内) ハケ・ユビナデ	良好	長石・石英・チャート・赤色粒子	(外) 10YR7/3にぶい黄橙色 (内) 2.5Y7/2灰黄色
【口縁部】(外) ヘラナデ (内) ユビナデ 【胴部】(外) ユビナデ・ハケ (内) ヘラケズリ	良好	長石・白色粒子	(外) 2.5Y7/6灰黄色 (内) 2.5Y7/6灰黄色
【口縁部】(外) ヘラナデ (内) ヘラナデ 【胴部】(外) タタキ (内) ユビナデ	良好	長石・チャート・赤色粒子	(外) 10YR6/2灰黄褐色 (内) 7.5YR7/2明褐灰色
【胴部】(外) — (内) ヘラナデ	良好	長石・石英・チャート・赤色粒子	(外) 10YR7/2にぶい黄橙色 (内) 10YR5/1褐灰色
【胴部】(外) — (内) ヘラナデ	良好	長石・石英・チャート・白色粒子	(外) 2.5Y7/3浅黄色 (内) 2.5Y7/3浅黄色
【胴部】(外) タタキ (内) ヘラナデ	良好	長石・チャート・赤色粒子	(外) 2.5Y4/1黄灰色 (内) 10YR6/3にぶい黄橙色
【胴部】(外) タタキ (内) — 【底部】(外) ヘラケズリ (内) —	良好	長石・チャート・白色粒子	(外) 2.5Y6/6橙色 (内) 10YR6/2灰黄褐色
【胴部】(外) タタキ (内) ユビナデ	良好	長石・石英・白色粒子	(外) 2.5Y5/1黄灰色 (内) 10YR7/2にぶい黄橙色
【胴部】(外) タタキ (内) ユビナデ	良好	長石・チャート・白色粒子	(外) 10YR6/3にぶい黄橙色 (内) 5Y6/1灰色
【胴部】(外) タタキ (内) ヘラナデ	良好	長石・チャート・赤色粒子	(外) 5YR6/4にぶい橙色 (内) 2.5Y8/2灰白色
【胴部】(外) タタキ・ヘラケズリ (内) ヘラナデ	良好	長石・チャート・赤色粒子	(外) 5YR6/4にぶい橙色 (内) 10YR7/3にぶい黄橙色
【胴部】(外) タタキ (内) ヘラナデ	良好	長石・チャート・白色粒子	(外) 7.5YR7/4にぶい橙色 (内) 2.5Y7/2灰黄色
【胴部】(外) タタキ (内) ヘラナデ	良好	長石・石英・チャート・白色粒子	(外) 10YR7/3にぶい黄橙色 (内) 2.5Y7/4浅黄色
【胴部】(外) タタキ (内) ヘラナデ	良好	長石・チャート・白色粒子	(外) 5YR6/4にぶい橙色 (内) 5YR6/3にぶい橙色
【胴部】(外) タタキ (内) ヘラナデ	良好	長石・チャート・白色粒子	(外) 10YR7/3にぶい黄橙色 (内) 2.5Y6/2灰黄色
【胴部】(外) タタキ (内) ユビナデ	良好	長石・チャート	(外) 2.5Y5/4にぶい赤褐色 (内) 2.5Y7/2灰黄色
【胴部】(外) ユビナデ (内) ユビナデ	良好	長石・石英・白色粒子・角閃石	(外) 7.5YR7/4にぶい橙色 (内) 10YR7/3にぶい黄橙色
【口縁部】(外) — (内) — 【胴部】(外) — (内) —	良好	長石・石英・赤色粒子・白色粒子	(外) 2.5Y8/3淡黄色 (内) 7.5YR6/2灰褐色

遺物番号	調査区	遺構・層	実測番号	種類	時期	器種	法量	器形の特徴
73	09-1	06河道	82	土器	縄文後期後半	深鉢	(現高) 3.4	胴部に沈線文
74	09-1	26土坑	83	瓦	近世	平瓦	(現長) 9.9	端面に刻印
75	09-1	88土坑	54	土師器	10世紀	椀	(高台) 7.1 (現高) 2.1	高台高くて張り出し強い
76	09-1	遺構面-0 ~30cm	5	土器	庄内～布留式期	直口壺	(口) 15.4 (現高) 6.5	口縁部上半内窓気味
77	09-1	遺構面-0 ~30cm	55	土器	庄内式期	壺	(口) 17.8 (現高) 3.1	口縁部直線的に大きく開く
78	09-1	遺構面-30 ~60cm	57	土器	弥生後期	甕	(底) 3.8 (現高) 3.9	底部突出する、底面平坦
79	09-1	遺構面-30 ~60cm	58	土器	庄内式期	V様式系甕	(底) 5.6 (現高) 4.8	底部の突出低い、底面は平坦
80	09-1	遺構面-30 ~60cm	59	土器	布留式期	小型壺	(口) 10.2 (高) 5.8	胴部球形、口縁部大きく開く
81	09-1	遺構面-30 ~60cm	56	土器	(弥生後期)	製塙土器	(脚) 4.4 (現高) 3.3	脚部やや低い
82	09-1	79層	12	土器	弥生中期後葉	無頸壺	(口) 13.2 (現高) 8.8	胴部の球形度高い
83	09-1	遺構面-0 ~30cm	62	土器	弥生中期後葉	台付土器	(裾) 14.8 (現高) 4.4	脚部端上方に肥厚
84	09-1	76層	84	石器	(不明)	サヌカイト 剥片	(長) 9.6 (幅) 15.6	
85	09-1	76層	85	石器	(不明)	サヌカイト 剥片	(長) 3.9 (幅) 5.0	
86	09-1	76層	86	石器	(不明)	サヌカイト 剥片	(長) 3.6 (幅) 5.0	
87	09-1	76層	87	石器	(不明)	サヌカイト 剥片	(長) 6.2 (幅) 6.0	
88	09-1	76層	88	石器	(不明)	サヌカイト 剥片	(長) 4.6 (幅) 7.0	
89	10-1	65土坑	3	土器	弥生中期後葉	広口壺	(口) 22.3 (現高) 4.4	口縁部端上下に肥厚
90	10-1	65土坑	10	土器	弥生中期後葉	壺	(口) 22.2 (現高) 4.7	折り返し口縁部、凹線文
91	10-1	65土坑	72	土器	弥生中期後葉	壺	(口) 20.4 (現高) 1.5	口縁部水平に張り出す、櫛歯刺突文
92	10-1	65土坑	21	土器	弥生中期後葉	壺	(底) 5.7 (現高) 2.9	底面平坦
93	10-1	65土坑	8	土器	弥生中期後葉	鉢	(口) 27.8 (現高) 9.2	口縁部端外方に肥厚、胴部に簾状文
94	10-1	65土坑	22	土器	弥生中期後葉	鉢	(口) 30.2 (現高) 8.0	口縁部端外方に肥厚、胴部に簾状文
95	10-1	65土坑	74	土器	弥生中期後葉	高杯	(口) 17.0 (現高) 3.2	口縁部直立、凹線文
96	10-1	65土坑	6	土器	弥生中期後葉	高杯	(裾) 11.3 (現高) 5.0	脚裾部端上方に肥厚

遺物観察表（4）

整・成形の特徴	焼成	胎質	色調
【胴部】(外)ヘラナデ(内)ヘラナデ	やや不良	長石・チャート	(外)10YR4/1褐色 (内)2.5Y6/2灰黄色
【平部】(凹)ヘラナデ(凸)ヘラナデ	良好	長石・白色粒子	(凹)N7/0黑色 (凸)N7/0黑色
【胴部】(外)ユビナデ(内)ヘラナデ 【底部】(外)ユビナデ(内)ユビナデ	良好	長石・チャート・黒色粒子・白色粒子	(外)10YR7/2にぶい黄橙色 (内)2.5Y3/1黒褐色
【口縁部】(外)ミガキ(内)一	良好	長石・石英・チャート・赤色粒子	(外)7.5YR6/6橙色 (内)7.5YR7/4にぶい橙色
【口縁部】(外)ミガキ(内)ミガキ	良好	長石・チャート・赤色粒子・白色粒子	(外)7.5YR7/4にぶい橙色 (内)7.5YR7/4にぶい橙色
【胴部】(外)タタキ(内)ヘラナデ	良好	長石・チャート・白色粒子	(外)2.5YR5/4にぶい赤褐色 (内)2.5Y7/2灰黄色
【胴部】(外)タタキ(内)ヘラナデ	良好	長石・チャート・赤色粒子・白色粒子	(外)5YR6/4にぶい橙色 (内)7.5YR7/4にぶい橙色
【口縁部】(外)ハケ・ユビナデ(内)ユビナデ 【胴部】(外)ヘラケズリ(内)ユビナデ・ユビオサエ	良好	長石・チャート・赤色粒子・白色粒子	(外)5YR6/4にぶい橙色 (内)7.5YR7/4にぶい橙色
【胴部】(外)ユビオサエ(内)ユビナデ 【脚部】(外)ユビオサエ(内)ユビオサエ	良好	長石・チャート	(外)7.5YR6/6橙色 (内)7.5YR7/4にぶい橙色
【口縁部】(外)ユビナデ(内)ユビナデ 【胴部】(外)ハケ・ヘラナデ(内)ヘラナデ	やや不良	長石・赤色粒子・白色粒子	(外)5YR7/4にぶい橙色 (内)5YR6/6橙色
【脚台部】(外)一(内)一	良好	チャート・白色粒子	(外)2.5Y7/3浅黄色 (内)2.5Y7/3浅黄色
細部調整あり			
細部調整あり			
【口縁部】(外)ユビナデ(内)ヘラナデ・ユビナデ	やや不良	長石・チャート・赤色粒子	(外)5YR8/1灰白色 (内)5YR7/1明褐色
【口縁部】(外)ユビナデ(内)ユビナデ	やや不良	長石・石英・チャート	(外)10YR7/2にぶい黄橙色 (内)5YR7/3にぶい橙色
【口縁部】(外)ユビナデ(内)ユビナデ	やや不良	長石・石英・チャート	(外)5YR4/1褐色 (内)5YR7/6橙色
【胴部】(外)ヘラナデ(内)ヘラナデ・ユビナデ 【底部】(外)ヘラナデ(内)ユビナデ	良好	長石・チャート	(外)5YR5/6明赤褐色 (内)7.5YR7/4にぶい橙色
【口縁部】(外)ユビナデ(内)ユビナデ 【胴部】(外)ヘラナデ(内)ヘラナデ・ユビナデ	やや不良	長石・チャート・赤色粒子	(外)7.5YR7/2明褐色 (内)2.5YR6/6橙色
【口縁部】(外)ユビナデ(内)ユビナデ 【胴部】(外)ヘラナデ(内)ヘラナデ・ユビナデ	やや不良	長石・チャート	(外)10YR8/1灰白色 (内)10YR8/1灰白色
【口縁部】(外)ユビナデ(内)ユビナデ 【杯部】(外)ヘラナデ(内)ヘラナデ	良好	長石・チャート	(外)2.5Y5/6明赤褐色 (内)2.5Y5/6明赤褐色
【脚部】(外)一(内)ユビナデ・ヘラナデ	良好	長石・石英・チャート	(外)2.5Y7/6橙色 (内)7.5YR6/4にぶい橙色

遺物番号	調査区	遺構・層	実測番号	種類	時期	器種	法量	器形の特徴
97	10-1	65土坑	20	土器	弥生中期後葉	甕	(口) 26.0 (現高) 7.1	口縁部水平に張り出す
98	10-1	65土坑	19	土器	弥生中期後葉	甕	(口) 14.0 (現高) 4.8	口縁部上方に肥厚
99	10-1	65土坑	9	土器	弥生中期後葉	甕	(口) 22.1 (現高) 5.1	口縁部端上方にやや肥厚
100	10-1	65土坑	7	土器	弥生中期後葉	甕	(口) 18.8 (現高) 3.8	口縁部端上方に肥厚
101	10-1	65土坑	14	土器	弥生中期後葉	甕	(口) 28.2 (現高) 7.9	口縁部短い、端部上下に肥厚
102	10-1	65土坑	23	土器	弥生中期後葉	甕	(口) 24.0 (現高) 22.3	口縁部短い、端部上下に肥厚
103	10-1	65土坑	16	土器	弥生中期後葉	甕	(底) 6.0 (現高) 5.3	底部の突出低い、僅かに上げ底
104	10-1	65土坑	11	土器	弥生中期後葉	甕	(底) 6.0 (現高) 5.6	底部の突出低い、平底
105	10-1	65土坑	17	土器	弥生中期後葉	甕	(底) 6.5 (現高) 6.8	底部の突出低い、平底
106	10-1	65土坑	13	土器	(不明)	蛸壺	(口) 6.9 (現高) 5.0	砲弾形、口縁部に繋縛痕
107	10-1	65土坑	15	土器	(不明)	蛸壺	(現高) 6.0	砲弾形
108	10-1	65土坑上層	75	土器	弥生後期～庄内式期	甕	(口) 16.4 (現高) 3.0	口縁部端内傾
109	10-1	65土坑上層	2	黒色土器	11世紀	椀	(高台) 5.2 (現高) 0.8	高台低く断面方形
110	10-1	65土坑上層	64	瓦器	13世紀	椀	(口) 14.7 (現高) 2.7	胴部から口縁部にかけ直線的
111	10-1	65土坑上層	1	瓦器	13世紀	椀	(高台) 5.2 (現高) 1.5	高台低く断面方形
112	10-1	65土坑	69	土器	弥生中期後葉	壺	(現高) 6.2	胴部外面簾状文
113	10-1	65土坑	73	土器	弥生中期後葉	壺	(現高) 5.1	胴部外面簾状文
114	10-1	65土坑	71	土器	弥生中期後葉	壺	(現高) 5.7	胴部外面簾状文
115	10-1	65土坑	65	土器	弥生中期後葉	壺	(現高) 7.4	胴部外面回線文
116	10-1	65土坑	76	土器	弥生中期後葉	壺	(現高) 4.4	胴部外面簾状文・扇状文
117	10-1	65土坑	70	土器	弥生中期後葉	高杯(鉢)	(現高) 4.9	胴部外面回線文・櫛歯刺突文
118	10-1	65土坑上層	66	土器	庄内式期	壺	(現高) 4.0	胴部外面沈線文・波状文
119	10-1	65土坑	18	石器	弥生	石劍	(現長) 4.2	
120	10-1	65土坑	4	石器	弥生前～中期	石庖丁	(綫幅) 5.0	

遺物観察表（5）

整・成形の特徴	焼成	胎質	色調
【口縁部】(外)ユビナデ(内)ユビナデ 【胴部】(外)ヘラナデ(内)ヘラナデ	良好	長石・石英・チャート	(外)10YR5/2灰黄褐色 (内)10YR6/2灰黄褐色
【口縁部】(外)ユビナデ(内)ユビナデ 【胴部】(外)ヘラナデ(内)ユビナデ・ユビオサエ	良好	長石・チャート	(外)7.5YR4/2灰褐色 (内)2.5Y6/1黄灰色
【口縁部】(外)ユビナデ(内)ユビナデ 【胴部】(外)ー(内)ー	やや不良	長石・チャート	(外)10YR8/2灰白色 (内)10YR8/2灰白色
【口縁部】(外)ユビナデ(内)ユビナデ 【胴部】(外)ヘラナデ(内)ヘラナデ	やや不良	長石・石英・チャート	(外)10YR6/3にぶい黄橙色 (内)10YR5/2灰黄褐色
【口縁部】(外)ユビナデ(内)ユビナデ 【胴部】(外)ヘラナデ(内)ハケ・ヘラナデ	良好	長石・チャート	(外)7.5YR7/4にぶい橙色 (内)10YR7/4にぶい黄橙色
【口縁部】(外)ユビナデ(内)ユビナデ 【胴部】(外)ハケ・ヘラケズリ(内)ハケ・ヘラナデ	不良	長石・チャート	(外)10YR6/1にぶい橙色 (内)10YR6/2灰黄褐色
【胴部】(外)ヘラケズリ(内)ヘラナデ・ユビナデ 【底部】(外)ヘラナデ(内)ユビナデ	やや不良	長石・チャート	(外)2.5Y8/2灰白色 (内)2.5Y5/1黄灰色
【胴部】(外)ヘラナデ(内)ヘラナデ・ユビナデ 【底部】(外)ヘラナデ(内)ユビナデ	やや不良	長石・チャート	(外)5Y3/1オリーブ黒色 (内)5Y3/1オリーブ黒色
【胴部】(外)ヘラケズリ(内)ユビナデ・ユビオサエ 【底部】(外)ヘラナデ(内)ユビナデ・ユビオサエ	良好	長石・石英・チャート	(外)10YR4/2灰黄褐色 (内)10YR5/2灰黄褐色
【口縁部】(外)ユビナデ(内)ユビナデ 【胴部】(外)ユビナデ(内)ユビナデ・ユビオサエ	やや不良	長石・チャート	(外)5Y7/1灰白色 (内)5YR7/6橙色
【胴部】(外)ユビナデ・ユビオサエ(内)ユビナデ 【底部】(外)ユビナデ・ユビオサエ(内)ユビナデ	やや不良	長石・石英・チャート	(外)5YR7/4にぶい橙色 (内)2.5YR6/5橙色
【口縁部】(外)ー(内)ー 【胴部】(外)ー(内)ー	良好	長石・チャート	(外)5YR7/6橙色 (内)2.5YR7/1明褐色
【底部】(外)ー(内)ー 【高台部】(外)ユビナデ(内)ユビナデ	良好	長石	(外)N3/0暗灰色 (内)N3/0暗灰色
【口縁部】(外)ユビナデ(内)ユビナデ・ユビオサエ 【胴部】(外)ー(内)ー	やや不良	長石	(外)N5/0灰色 (内)N7/0灰白色
【底部】(外)ユビナデ(内)ー 【高台部】(外)ユビナデ(内)ユビナデ	やや不良	長石	(外)N3/0暗灰色 (内)N5/0灰色
【胴部】(外)ヘラナデ(内)ヘラナデ	良好	長石・チャート	(外)5YR6/6橙色 (内)10YR7/3にぶい黄橙色
【胴部】(外)ヘラナデ(内)ヘラナデ	良好	長石・石英・チャート	(外)10YR5/3にぶい黄褐色 (内)7.5YR5/4にぶい褐色
【胴部】(外)ヘラナデ(内)ヘラナデ	良好	長石・石英・チャート	(外)2.5YR7/4にぶい橙色 (内)2.5YR7/4にぶい橙色
【胴部】(外)ヘラナデ(内)ヘラナデ	不良	長石・チャート・赤色粒子	(外)10YR8/2灰白色 (内)10YR8/2灰白色
【胴部】(外)ヘラナデ(内)ヘラナデ	良好	長石・チャート	(外)2.5YR6/6橙色 (内)2.5YR6/6橙色
【胴部】(外)ヘラナデ(内)ヘラナデ	良好	長石・石英・チャート	(外)N3/0暗灰色 (内)7.5YR7/2明褐色
【胴部】(外)ミガキ(内)ヘラナデ	やや不良	長石・チャート	(外)N4/0灰色 (内)5Y7/1灰白色

遺物番号	調査区	遺構・層	実測番号	種類	時期	器種	法量	器形の特徴
121	10-1	65土坑	12	石器	弥生	砥石	(現長) 3.4 (幅) 2.0	
122	10-1	65土坑	5	石器	弥生	サヌカイト剥片	(縦長) 1.8 (幅) 4.0	
123	10-1	54河道	36	土器	庄内式期	V様式系甕	(口) 13.6 (現高) 3.4	口縁部短く立ち上がる、端部尖り気味
124	10-1	54河道	37	土器	弥生中期後葉	甕	(底) 6.4 (現高) 4.1	ほぼ平底
125	10-1	54河道	38	瓦器	13世紀後葉	椀	(高台) 2.5 (現高) 1.1	高台紐状
126	10-1	54河道	39	瓦器	13世紀後葉	皿	(口) 9.2 (高) 1.4	器高は低い
127	10-1	55溝	44	土器	庄内式期	V様式系甕	(現高) 21.4	胴部球形
128	10-1	45畦	78	瓦器	12世紀後葉～ 13世紀前葉	椀	(高台) 3.4 (現高) 0.9	高台覗く断面三角形
129	10-1	グリッド1	77	土器	弥生中期後葉	甕	(口) 33.2 (現高) 5.8	口縁部短い、端部上方に肥厚
130	10-1	グリッド11	49	土器	弥生中期後葉	壺	(口) 18.4 (現高) 3.6	口縁部端平坦
131	10-1	グリッド9	50	土器	(不明)	製塙土器	(脚) 4.4 (現高) 2.4	裾短く開く
132	10-1	グリッド3	55	瓦器	12世紀前半	椀	(口) 17.2 (現高) 6.0	胴部深い、内湾
133	10-1	グリッド6	61	土師器	12世紀後半	皿	(口) 7.8 (現高) 1.5	胴部幾分丸味あり
134	10-1	グリッド6	67	土師器	12世紀後葉～ 13世紀前葉	皿	(口) 6.7 (現高) 1.1	胴部浅め、口縁部短い
135	10-1	水田耕作土	68	土師器	12世紀後葉～ 13世紀前葉	椀	(高台) 5.0 (現高) 0.6	高台低く断面三角形
136	10-1	グリッド8	60	瓦器	13世紀	椀	(口) 11.4 (現高) 2.1	胴部浅め、口縁部にかけて直線的
137	10-1	グリッド9	51	瓦器	13世紀後半	椀	(口) 13.2 (現高) 2.2	胴部浅め、口縁部にかけて直線的
138	10-1	グリッド7	52	瓦器	13世紀後半	椀	(口) 13.3 (現高) 2.1	口縁部にかけて直線的
139	10-1	グリッド7	53	瓦器	12世紀前半	椀	(口) 13.0 (現高) 2.1	胴部内湾、口縁部外反
140	10-1	一括	58	瓦器	13世紀	椀	(高台) 5.3 (現高) 0.9	高台低く断面三角形
141	10-1	グリッド8	59	瓦器	12世紀後半	椀	(高台) 5.7 (現高) 0.9	高台低く断面方形
142	10-1	グリッド6	62	瓦器	12世紀後半	皿	(口) 8.7 (高) 1.2	胴部浅い、口縁部にかけて直線的
143	10-1	グリッド3	57	瓦器	12世紀後半	皿	(口) 8.7 (現高) 1.5	口縁部にかけて幾分丸味あり
144	10-1	グリッド5	56	瓦器	12世紀後半	皿	(口) 8.8 (現高) 1.6	口縁部にかけて直線的、口縁部外反

遺物観察表（6）

整・成形の特徴	焼成	胎質	色調
【口縁部】(外) ヘラナデ (内) ユビナデ	良好	長石・チャート	(外) 5YR7/4にぶい橙色 (内) 5YR7/3にぶい橙色
【胴部】(外) ヘラケズリ (内) ユビナデ 【底部】(外) ヘラナデ・ユビオサエ (内) ユビナデ	良好	長石・チャート	(外) 5Y4/1灰色 (内) 5Y4/1灰色
【胴部】(外) ユビオサエ (内) 一 【高台部】(外) ユビナデ (内) ユビナデ	良好	長石	(外) 5Y5/1灰色 (内) 5Y5/1灰色
【口縁部】(外) ユビナデ (内) ユビナデ 【胴部】(外) ユビオサエ (内) ユビナデ	良好	長石・チャート	(外) N5/0灰色 (内) N5/0灰色
【胴部】(外) タタキ・ヘラケズリ (内) ヘラナデ	良好	長石・石英・チャート・赤色粒子	(外) 10YR7/3にぶい黄橙色 (内) 10YR7/4にぶい黄橙色
【高台部】(外) ユビナデ (内) ユビナデ	良好	長石	(外) N3/0暗灰色 (内) N3/0暗灰色
【口縁部】(外) ユビナデ (内) ユビナデ 【胴部】(外) ヘラナデ (内) ユビナデ	良好	長石・チャート	(外) 10YR7/4にぶい黄橙色 (内) N3/0暗灰色
【口縁部】(外) ヘラナデ (内) ヘラナデ	良好	長石・チャート・赤色粒子	(外) 2.5Y7/3浅黄色 (内) 10YR7/4にぶい黄橙色
【脚部】(外) ユビナデ・ユビオサエ (内) ユビナデ	良好	長石・チャート	(外) 2.5YR6/3にぶい橙色 (内) 2.5Y7/2灰黄色
【口縁部】(外) ユビナデ (内) ユビナデ 【胴部】(外) ユビオサエ (内) ミガキ	良好	長石・チャート	(外) 5YR7/4にぶい橙色 (内) 7.5YR7/4にぶい橙色
【口縁部】(外) ユビナデ (内) ユビナデ 【胴部】(外) ユビオサエ (内) ユビナデ	良好	長石	(外) 2.5YR6/2灰黄色 (内) 2.5YR6/2灰黄色
【口縁部】(外) ユビナデ (内) ユビナデ 【胴部】(外) ユビオサエ (内) ユビナデ	良好	長石・赤色粒子	(外) 10YR6/3にぶい黄褐色 (内) 10YR5/2灰黄褐色
【高台部】(外) 一 (内) 一	不良	長石・チャート	(外) 5YR6/6橙色 (内) 5YR6/4にぶい橙色
【口縁部】(外) ユビナデ (内) ユビナデ 【胴部】(外) ユビオサエ (内) ミガキ	良好	長石・チャート	(外) N5/0灰色 (内) N5/0灰色
【口縁部】(外) ユビナデ (内) ユビナデ 【胴部】(外) ユビオサエ (内) ユビナデ・ミガキ	良好	長石・チャート	(外) 5Y7/1灰白色 (内) 5Y7/1灰白色
【口縁部】(外) ユビナデ (内) ユビナデ 【胴部】(外) ユビオサエ (内) ユビナデ・ミガキ	良好	長石・チャート	(外) N7/0灰白色 (内) 5Y7/1灰白色
【口縁部】(外) ユビナデ (内) ヘラナデ 【胴部】(外) ユビナデ・ミガキ (内) ユビナデ・ミガキ	良好	長石	(外) N4/0灰色 (内) N4/0灰色
【高台部】(外) ユビナデ (内) ユビナデ	やや不良	長石	(外) 5Y5/1灰色 (内) 5Y5/1灰色
【高台部】(外) ユビナデ (内) ユビナデ	やや不良	長石	(外) N4/0灰色 (内) N6/0灰色
【口縁部】(外) ユビナデ (内) ユビナデ 【胴部】(外) ユビオサエ・ヘラケズリ (内) ユビナデ	良好	長石・チャート	(外) N5/0灰色 (内) N5/0灰色
【口縁部】(外) ユビナデ (内) ユビナデ 【胴部】(外) ユビオサエ (内) ユビナデ	やや不良	長石・赤色粒子	(外) 5Y5/1灰色 (内) 5Y7/1灰白色
【口縁部】(外) ユビナデ (内) ユビナデ 【胴部】(外) ユビオサエ (内) ユビナデ	やや不良	長石	(外) N3/0暗灰色 (内) N3/0暗灰色

遺物番号	調査区	遺構・層	実測番号	種類	時期	器種	法量	器形の特徴
145	10-1	グリッド9	54	瓦器	12世紀後半	皿	(口) 9.8 (現高) 1.5	口縁部にかけて丸味あり、口縁部外反
146	10-1	65土坑上層	63	鉄器	(不明)	釘	(現長) 3.6	
147	10-1	グリッド9	46	鉄器	(不明)	釘	(現長) 5.8	
148	10-1	グリッド8	48	鉄器	(不明)	釘	(長) 8.2	頭部は搔折形
149	10-1	55溝	47	鉄器	(不明)	釘	(現長) 7.2	頭部は搔折形
150	10-1	グリッド1	45	石器	(不明)	サスカイト原石	(長) 17.8	
151	10-1	グリッド8	98	石器	(不明)	サスカイト石礫	(現長) 1.9	
152	10-2	60河道	42	土器	弥生中期後葉	鉢	(口) 27.8 (現高) 5.1	口縁部にかけて内傾、端部外方に肥厚
153	10-2	60河道	41	土器	弥生中期後葉	鉢	(口) 28.6 (現高) 7.0	口縁部端折返し、胴部簾状文
154	10-2	60河道	40	土器	弥生中期後葉	壺	(底) 9.0 (現高) 5.6	上げ底氣味
155	10-2	60河道	43	土器	庄内式期	V字式系壺	(底) 3.0 (現高) 2.2	底部の突出低い、底面は丸味あり
156	10-3	100河道	25	土器	布留式期	小型壺	(現高) 3.6	胴部扁球形
157	10-3	100河道	31	土器	庄内式期	有段口縁壺	(口) 23.0 (現高) 3.9	口縁部大きく開く
158	10-3	100河道	93	土器	布留式期	有段口縁壺	(口) 26.2 (現高) 5.7	口縁部の開きやや鈍い
159	10-3	100河道	27	土器	庄内～布留式期	複合口縁大型壺	(口) 30.9 (現高) 11.6	口縁部「く」字状に起曲、非在地系
160	10-3	100河道	91	土器	庄内式期	高杯	(現高) 7.4	裾大きく開く
161	10-3	100河道	92	土器	庄内式期	小型器台	(現高) 5.1	脚部「ハ」字状に開く
162	10-3	100河道	32	土器	弥生後期	壺	(口) 14.0 (現高) 3.9	口縁部やや長め、端部外方に肥厚
163	10-3	100河道	33	土器	布留式期	布留式系甕	(口) 12.4 (現高) 2.9	口縁部端僅かに肥厚
164	10-3	100河道	26	土器	布留式期	布留式系壺	(口) 14.0 (現高) 3.5	口縁部やや内湾、端部僅かに肥厚
165	10-3	100河道	28	土器	布留式期	布留式系壺	(口) 15.0 (現高) 4.9	口縁部やや内湾、端部肥厚
166	10-3	100河道	24	土器	弥生後期～布留式期	台付甕	(現高) 2.3	脚台部内湾気味、非在地系
167	10-3	100河道	99	土器	弥生後期	甕	(底) 2.0 (現高) 2.9	底部の突出低い、底面座む
168	10-3	100河道	29	土器	庄内式期	庄内式系甕	(底) 3.9 (現高) 4.7	丸底氣味

遺物観察表（7）

整・成形の特徴	焼成	胎質	色調
【口縁部】(外)ユビナデ(内)ユビナデ 【胴部】(外)ユビオサエ(内)ユビナデ	不良	長石	(外)N4/0灰色 (内)7.5Y6/1灰色
【口縁部】(外)ー(内)ー 【胴部】(外)ー(内)ユビナデ	やや不良	長石・チャート・赤色粒子	(外)7.5YR6/6橙色 (内)2.5Y7/3浅黄色
【口縁部】(外)ー(内)ー 【胴部】(外)ー(内)ユビナデ	良好	長石・チャート・赤色粒子	(外)10YR5/2灰黄褐色 (内)10YR5/3にぶい黄褐色
【胴部】(外)ヘラケズリ(内)ユビナデ	やや不良	長石・チャート	(外)7.5YR7/2明褐灰色 (内)10YR8/1灰白色
【胴部】(外)タタキ(内)ー	やや不良	長石・チャート	(外)7.5YR7/4にぶい橙色 (内)7.5YR7/6橙色
【口縁部】(外)ー(内)ー 【胴部】(外)ー(内)ユビナデ	やや不良	長石・石英・チャート・赤色粒子	(外)5YR6/6橙色 (内)5YR6/6橙色
【口縁部】(外)ヘラナデ(内)ユビナデ	やや不良	長石・石英・赤色粒子	(外)7.5YR6/6橙色 (内)7.5YR6/6橙色
【口縁部】(外)ー(内)ー	やや不良	長石・チャート	(外)7.5YR7/4にぶい橙色 (内)7.5YR7/6橙色
【口縁部】(外)ヘラナデ(内)ユビナデ	良好	長石・赤色粒子	(外)10YR7/4にぶい黄橙色 (内)10YR8/4浅黄橙色
【脚部】(外)ー(内)ヘラナデ・ユビナデ	良好	長石・チャート・赤色粒子	(外)10YR7/2にぶい黄橙色 (内)10YR7/2にぶい黄褐色
【脚部】(外)ミガキ(内)ヘラナデ	良好	長石・チャート・赤色粒子	(外)7.5YR7/6橙色 (内)7.5YR7/6橙色
【口縁部】(外)ヘラナデ(内)ヘラナデ・ユビナデ	良好	長石・石英・チャート	(外)2.5YR6/2灰黄色 (内)2.5YR6/2灰黄色
【口縁部】(外)ヘラナデ(内)ヘラナデ 【胴部】(外)ハケ(内)ー	良好	長石・石英・チャート	(外)10YR5/3にぶい黄褐色 (内)10YR7/2にぶい黄橙色
【口縁部】(外)ー(内)ユビナデ	良好	長石・石英・赤色粒子	(外)10YR7/4にぶい黄橙色 (内)7.5YR7/6橙色
【口縁部】(外)ヘラナデ(内)ヘラナデ・ユビナデ 【胴部】(外)ー(内)ヘラケズリ	良好	長石・石英	(外)2.5Y7/1灰白色 (内)2.5Y5/1黄灰色
【脚台部】(外)ハケ(内)ヘラナデ	良好	長石・雲母	(外)10YR6/6明黄褐色 (内)10YR6/6明黄褐色
【底部】(外)タタキ(内)ヘラナデ	良好	長石・チャート	(外)10YR7/4にぶい黄橙色 (内)5Y4/1灰色
【胴部】(外)タタキ(内)ユビナデ 【底部】(外)ー(内)ユビオサエ	やや不良	長石・石英	(外)5Y5/1灰色 (内)5Y4/1灰色

遺物番号	調査区	遺構・層	実測番号	種類	時期	器種	法量	器形の特徴
169	10-3	100河道	94	土器	(不明)	製塙土器	(底) 1.4 (現高) 6.3	尖底形
170	10-3	100河道	30	土器	(不明)	製塙土器	(口) 11.2 (現高) 21.2	尖底形
171	10-3	100河道	97	須恵器	MT15～TK10型式	高杯	(頸) 10.3 (現高) 5.6	脚端近くに突起
172	10-3	100河道	35	瓦器	13世紀後葉	椀	(高台) 3.3 (現高) 0.7	高台紙状
173	10-3	100河道	34	瓦器	12世紀中葉	皿	(口) 8.6 (高) 1.2	口縁部にかけて外反
174	10-3	73水田・6層	89	瓦器	13世紀	皿	(口) 7.6 (高) 1.1	胴部屈曲、口縁部内湾
175	10-3	73水田・5層	88	陶器	13世紀前半	椀	(底) 4.0 (現高) 2.9	削り出し高台
176	10-3	73水田・2層	87	埴輪	6世紀	円筒埴輪	(現高) 3.9	凸帯は低い
177	10-3	104溝	95	須恵器	TK23型式	杯蓋	(口) 11.6 (高) 4.6	天井部にかけて丸味あり
178	10-3	104溝	96	須恵器	MT15～TK10型式	杯蓋	(口) 13.6 (現高) 2.5	口縁部にかけ「ハ」字状に開く
179	10-3	104溝	90	瓦器	13世紀前葉	椀	(高台) 5.1 (現高) 1.2	高台高く断面太い三角形
180	10-3	グリッド3	85	土師器	12世紀前半	皿	(口) 7.4 (高) 1.8	口縁部にかけてやや内湾
181	10-3	グリッド3	84	瓦器	12世紀後半	椀	(高台) 4.8 (現高) 0.9	高台外方に張り出す、断面方形
182	10-3	グリッド4	83	瓦器	13世紀	椀	(高台) 5.2 (現高) 1.2	高台低く断面三角形
183	10-3	グリッド5	79	黒色土器	10世紀前半	椀	(高台) 10.1 (現高) 1.6	高台外方に張り出し気味
184	10-3	グリッド4	80	瓦器	12世紀後葉	椀	(高台) 6.6 (現高) 1.0	高台断面幅広の方形
185	10-3	グリッド5	86	瓦器	12世紀後半	椀	(高台) 5.5 (現高) 1.5	高台断面方形、端部外方に張り出す
186	10-3	グリッド4	81	瓦器	12世紀後半	皿	(口) 8.6 (高) 1.1	口縁部にかけて直線的
187	10-3	グリッド4	82	須恵質土器	12世紀末～13世紀前葉	捏鉢	(口) 30.8 (現高) 3.8	口縁部端上方に肥厚

遺物観察表（8）

整・成形の特徴	焼成	胎質	色調
【胴部】(外)タタキ(内)ヘラナデ・ユビナデ	良好	長石・チャート	(外)5YR5/4にぶい赤褐色 (内)7.5YR7/4にぶい橙色
【胴部】(外)タタキ(内)ヘラナデ・ユビナデ	やや不良	石英	(外)10YR7/1灰白色 (内)5YR7/1明褐灰色
【脚部】(外)ユビナデ(内)ユビナデ	やや不良	長石・チャート	(外)7.5Y6/1灰色 (内)10Y8/1灰白色
【胴部】(外)ユビオサエ(内)一	良好	長石・チャート	(外)5Y7/1灰白色 (内)N5/0灰色
【口縁部】(外)ユビナデ(内)ユビナデ・ヘラナデ 【胴部】(外)ユビナデ(内)ユビナデ・ヘラナデ	良好	長石・チャート	(外)N5/0灰色 (内)N3/0暗灰色
【口縁部】(外)ユビナデ(内)ユビナデ 【胴部】(外)ユビナデ・ユビオサエ(内)ユビナデ	良好	長石・チャート	(外)N5/0灰色 (内)10YR8/1灰白色
【胴部】(外)ヘラケズリ・灰釉(内)ユビナデ・灰釉 【底部】(外)ユビナデ(内)ユビナデ	良好	チャート	(外)2.5Y7/3浅い黄色 (内)2.5Y7/1灰白色
【胴部】(外)ハケ・ユビナデ(内)ヘラケズリ・ユビナデ	良好	長石・チャート・赤色粒子	(外)5YR7/4にぶい橙色 (内)10YR8/4浅黄橙色
【口縁部】(外)ユビナデ(内)ユビナデ 【天井部】(外)ヘラケズリ(内)ユビナデ	良好	長石	(外)N6/0灰色 (内)N6/0灰色
【口縁部】(外)ヘラナデ(内)ヘラナデ 【天井部】(外)ヘラケズリ(内)ユビナデ	良好	長石	(外)N4/0灰色 (内)N6/0灰色
【高台部】(外)ユビナデ(内)ユビナデ	良好	長石	(外)N3/0暗灰色 (内)N3/0暗灰色
【口縁部】(外)ユビナデ(内)ユビナデ 【胴部】(外)ユビナデ(内)ユビナデ	良好	長石・石英・チャート	(外)10YR5/2灰黄褐色 (内)5Y5/1灰色
【高台部】(外)一(内)一	良好	長石・チャート	(外)N3/0暗灰色 (内)5Y7/2灰白色
【高台部】(外)ユビナデ(内)ユビナデ	良好	長石	(外)2.5Y6/4にぶい黄色 (内)2.5Y6/4にぶい黄色
【高台部】(外)一(内)一	良好	長石・赤色粒子	(外)2.5Y6/6橙色 (内)2.5Gy3/1暗オリーブ灰色
【底部】(外)ユビナデ(内)一	良好	長石	(外)N3/0暗灰色 (内)N3/0暗灰色
【高台部】(外)一(内)一	良好	長石・チャート	(外)N5/0灰色 (内)N5/0灰色
【口縁部】(外)ユビナデ(内)ユビナデ 【胴部】(外)ユビナデ(内)ユビナデ	良好	長石・チャート	(外)N3/0暗灰色 (内)N3/0暗灰色
【口縁部】(外)ヘラナデ(内)ユビナデ 【胴部】(外)ヘラナデ(内)ユビナデ	良好	長石・チャート	(外)2.5Y7/1灰白色 (内)N7/0灰白色

09-1区 01河道

出土位置	縹文	出土遺物														
		弥生 IV期	弥生 V期	V期 ～庄内	庄内	庄内 ～布留	布留	弥生 ～古墳	土師 器	須恵 器	黒色 土器	瓦器	陶器	磁器	瓦	その他
遺構面上	点数	0	0	1	4	3	0	0	9	0	0	0	0	0	0	0
	重量	0	0	17	98	274	0	0	79	0	0	0	0	0	0	0
遺構面-0～-20cm	点数	1	0	1	2	2	0	0	8	0	0	0	0	0	0	0
	重量	288	0	62	31	72	0	0	194	0	0	0	0	0	0	0
遺構面-20～-40cm	点数	0	3	1	8	9	0	0	30	0	0	0	0	0	0	0
	重量	0	158	27	119	480	0	0	775	0	0	0	0	0	0	0
遺構面-40～-60cm	点数	0	0	0	2	4	0	0	10	0	0	0	0	0	0	0
	重量	0	0	0	44	278	0	0	249	0	0	0	0	0	0	0
遺構面-60～-80cm	点数	0	0	0	4	5	0	1	13	0	0	0	0	0	0	0
	重量	0	0	0	72	170	0	0	39	282	0	0	0	0	0	0
遺構面-80～-100cm	点数	0	0	0	7	3	0	0	24	0	0	0	0	0	0	0
	重量	0	0	0	261	297	0	0	456	0	0	0	0	0	0	0
遺構面-100～-120cm	点数	0	1	0	10	1	1	0	15	0	0	0	0	0	0	0
	重量	0	43	0	157	56	17	0	247	0	0	0	0	0	0	0
遺構面-120～-140cm	点数	0	0	1	1	1	0	0	21	0	0	0	0	0	0	0
	重量	0	0	78	41	78	0	0	309	0	0	0	0	0	0	0
遺構面-140～-160cm	点数	0	1	0	6	2	0	1	16	0	0	0	0	0	0	0
	重量	0	48	0	68	61	0	72	278	0	0	0	0	0	0	0
遺構面-160～-180cm	点数	0	0	0	5	2	0	0	6	0	0	0	0	0	0	0
	重量	0	0	0	53	69	0	0	217	0	0	0	0	0	0	0
遺構面-180～-200cm	点数	0	0	0	1	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0
	重量	0	0	0	9	0	0	0	8	0	0	0	0	0	0	0
遺構面-200～-220cm	点数	0	0	0	1	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0
	重量	0	0	0	17	75	0	0	10	0	0	0	0	0	0	0
一括	点数	0	2	2	12	4	3	1	31	0	0	0	0	0	0	0
	重量	0	100	71	209	303	390	52	989	0	0	0	0	0	0	0

09-1区 02河道

出土位置	縹文	出土遺物														
		弥生 IV期	弥生 V期	V期 ～庄内	庄内	庄内 ～布留	布留	弥生 ～古墳	土師 器	須恵 器	黒色 土器	瓦器	陶器	磁器	瓦	
遺構面上	点数	0	1	0	0	2	0	0	4	0	0	0	0	0	0	0
	重量	0	30	0	0	61	0	0	56	0	0	0	0	0	0	0
遺構面-0～-20cm	点数	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	重量	0	28	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
遺構面-60～-80cm	点数	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	重量	0	30	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
遺構面-80～-100cm	点数	0	1	1	1	1	0	0	2	0	0	0	0	0	0	0
	重量	0	315	42	10	348	0	0	16	0	0	0	0	0	0	0
遺構面-100～-120cm	点数	0	0	0	0	0	0	0	2	0	0	0	0	0	0	0
	重量	0	0	0	0	0	0	0	28	0	0	0	0	0	0	0
土器集中範囲	点数	0	1	0	24	14	0	0	15	0	0	0	0	0	0	0
	重量	0	52	0	1338	2992	0	0	274	0	0	0	0	0	0	0
土器集中範囲（1層）	点数	0	3	1	51	11	1	0	77	0	0	0	0	0	0	0
	重量	0	51	61	954	799	53	0	843	0	0	0	0	0	0	0
193層	点数	0	0	0	5	2	0	0	7	0	0	0	0	0	0	0
	重量	0	0	0	73	50	0	0	261	0	0	0	0	0	0	0
一括	点数	0	0	0	1	2	0	0	5	0	0	0	0	0	0	0
	重量	0	0	0	9	268	0	0	371	0	0	0	0	0	0	0

09-1区 06河道

出土位置	縹文	出土遺物														
		弥生 IV期	弥生 V期	V期 ～庄内	庄内	庄内 ～布留	布留	弥生 ～古墳	土師 器	須恵 器	黒色 土器	瓦器	陶器	磁器	瓦	
遺構面-80～-100cm	点数	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	重量	28	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
一括	点数	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	重量	0	0	0	177	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0

10-1区 54河道

出土位置	縦文	出土遺物													
		弥生 IV期	弥生 V期	V期 ～庄内	庄内	庄内 ～布留	布留	弥生 ～古墳	土師 器	須恵 器	黒色 土器	瓦器	陶器	磁器	瓦
グリッド2/T.P.21.8～21.6	点数	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0
	重量	0	0	0	0	0	0	2	0	0	0	0	0	0	0
グリッド2/T.P.21.6～21.4	点数	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	サヌカイト
	重量	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
グリッド2/T.P.21.2～21.6	点数	2	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	重量	9	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
グリッド3/T.P.21.6～21.4	点数	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	サヌカイト
	重量	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
グリッド4/T.P.21.7～21.6	点数	0	0	0	0	0	0	2	0	0	0	0	0	0	0
	重量	0	0	0	0	0	0	3	0	0	0	0	0	0	0
グリッド4/T.P.21.4～21.2	点数	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	2	0	0	0
	重量	0	0	0	0	0	0	2	0	0	0	17	0	0	0
グリッド6/T.P.21.6～21.4	点数	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	1	0	0	0
	重量	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	7	0	0	0
グリッド6/T.P.21.4～21.2	点数	0	0	0	0	0	0	2	0	0	0	0	0	0	0
	重量	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
グリッド9/T.P.21.6～21.4	点数	0	0	0	0	0	0	0	2	0	0	0	0	0	0
	重量	0	0	0	0	0	0	0	25	0	0	0	0	0	0
グリッド9/T.P.21.4～21.2	点数	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0
	重量	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	2	0	0	0
グリッド13/T.P.21.4～21.2	点数	0	0	0	0	0	0	3	0	0	0	0	0	0	0
	重量	0	0	0	0	0	0	0	10	0	0	0	0	0	0
グリッド13/T.P.21.2～21.0	点数	0	0	0	0	0	0	1	0	1	0	0	0	0	0
	重量	0	0	0	0	0	0	0	19	0	83	0	0	0	0
グリッド18/T.P.21.6～21.4	点数	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	1	0	0	0
	重量	0	0	0	0	0	0	2	0	0	0	1	0	0	0
グリッド18/T.P.21.2～21.0	点数	0	1	0	1	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0
	重量	0	31	0	15	0	0	0	34	0	0	0	0	0	0
グリッド21/T.P.21.2～21.0	点数	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0
	重量	0	0	0	0	0	0	0	96	0	0	0	0	0	0
一括	点数	0	1	0	1	1	0	0	15	0	5	0	4	0	0
	重量	0	42	0	17	11	0	0	59	0	83	0	11	0	0

10-1区 65土坑

出土位置	縦文	出土遺物													
		弥生 IV期	弥生 V期	V期 ～庄内	庄内	庄内 ～布留	布留	弥生 ～古墳	土師 器	須恵 器	黒色 土器	瓦器	陶器	磁器	瓦
覆土内	点数	0	38	0	0	0	0	39	0	0	0	0	0	0	0
	重量	0	1538	0	0	0	0	558	0	0	0	0	0	0	0
焼土内	点数	0	1	0	0	0	0	19	0	0	0	0	0	0	サヌカイト
	重量	0	16	0	0	0	0	31	0	0	0	0	0	0	0
上層	点数	0	19	0	0	2	0	145	1	4	1	17	1	0	0
	重量	0	802	0	0	18	0	333	29	63	5	37	6	0	0
一括	点数	0	6	0	0	0	0	66	0	0	0	0	0	0	サヌカイト
	重量	0	88	0	0	0	0	141	0	0	0	0	0	0	0

10-1区 遺構

出土位置	縦文	出土遺物													
		弥生 IV期	弥生 V期	V期 ～庄内	庄内	庄内 ～布留	布留	弥生 ～古墳	土師 器	須恵 器	黒色 土器	瓦器	陶器	磁器	瓦
15小穴	点数	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0
	重量	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	2	0	0
21溝	点数	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	重量	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
22溝	点数	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	重量	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
30土坑	点数	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0
	重量	0	0	0	0	0	0	2	0	0	0	0	0	0	0
36柱倒溝	点数	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0
	重量	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
37小穴	点数	0	0	0	1	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0
	重量	0	0	0	3	0	0	83	0	0	0	0	0	0	0
41耕作痕	点数	0	0	0	0	0	0	5	0	1	0	0	0	0	0
	重量	0	0	0	0	0	0	3	0	8	0	0	0	0	0
45駐	点数	0	3	0	0	0	0	58	0	0	0	3	0	0	0
	重量	0	59	0	0	0	0	295	0	0	0	18	0	0	0
55溝	点数	0	0	0	0	1	0	16	0	0	0	0	0	0	0
	重量	0	0	0	0	651	0	125	0	0	0	0	0	0	0
56溝	点数	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0
	重量	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	7	0	0	0
58溝	点数	0	0	0	2	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	重量	0	0	0	31	0	0	6	0	0	0	0	0	0	0
63溝	点数	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	重量	0	0	0	7	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0

10-1区 第1・2遺構面間

出土位置		縦文	出土遺物												瓦器	陶器	磁器	瓦	その他
			弥生 IV期	弥生 V期	V期 ～庄内	庄内	庄内 ～布留	布留	弥生 ～古墳	土師 器	氣恵 器	黒色 土器	瓦器	陶器	磁器				
グリッド1	点数	0	5	5	43	5	0	0	122	1	6	0	8	1	3	1	サスカイト。		
	重量	0	258	182	630	247	0	0	724	53	44	0	46	2	23	128	製塗土器		
グリッド1・2	点数	0	1	0	1	0	0	0	12	0	0	0	0	0	0	0	0		
	重量	0	56	0	4	0	0	0	105	0	0	0	0	0	0	0	0		
グリッド2	点数	0	2	0	2	0	0	0	19	1	5	0	2	0	0	2	0		
	重量	0	101	0	14	0	0	0	321	5	143	0	25	0	0	395	0		
グリッド3	点数	0	5	1	3	0	0	0	145	4	19	0	38	2	2	0	0		
	重量	0	132	28	35	0	0	0	451	88	222	0	126	14	41	0	0		
グリッド3・4	点数	0	0	1	1	0	0	2	21	0	7	0	11	1	0	1	0		
	重量	0	0	11	5	0	0	0	116	116	0	175	0	34	3	0	63		
グリッド4	点数	0	1	0	1	0	0	0	31	0	10	1	4	2	3	2	0		
	重量	0	34	0	72	0	0	0	342	0	187	1	8	28	17	9	0		
グリッド5	点数	0	2	0	2	0	0	0	58	0	9	1	14	4	0	6	0		
	重量	0	84	0	13	0	0	0	292	0	95	2	43	36	0	145	0		
グリッド6	点数	0	6	0	0	0	2	0	56	6	16	1	22	2	3	3	0		
	重量	0	0	0	0	0	0	0	267	45	189	1	104	4	25	100	0		
グリッド7	点数	0	0	0	1	0	0	0	81	2	19	1	25	6	4	6	0		
	重量	0	0	0	28	0	0	0	250	34	176	4	82	48	59	304	0		
グリッド7・8	点数	0	0	0	1	0	0	0	6	0	5	0	3	0	0	0	0		
	重量	0	0	0	24	0	0	0	42	0	97	0	8	0	0	0	0		
グリッド8	点数	0	0	0	0	0	0	0	21	0	6	0	5	4	1	2	鉢		
	重量	0	0	0	0	0	0	0	68	0	52	0	20	45	2	31	0		
グリッド9	点数	0	0	0	2	0	0	0	50	0	8	1	16	3	1	2	製塗土器, 瓢		
	重量	0	0	0	31	0	0	0	195	0	71	1	134	10	3	71	0		
グリッド9・10	点数	0	0	0	0	0	0	1	8	0	0	0	0	0	0	2	0		
	重量	0	0	0	0	0	0	0	61	0	0	0	0	0	0	83	0		
グリッド10	点数	0	0	0	0	0	0	0	8	1	6	0	2	2	1	2	0		
	重量	0	0	0	0	0	0	0	42	20	22	0	3	15	1	122	0		
グリッド11	点数	0	0	0	0	0	0	0	27	0	16	1	13	1	0	4	0		
	重量	0	0	0	0	0	0	0	170	0	326	4	45	1	0	96	0		
墓地耕作土	点数	0	0	1	4	0	0	0	15	0	0	0	1	0	0	2	0		
	重量	0	0	23	69	0	0	0	171	0	0	0	12	0	0	51	0		
水田耕作土	点数	0	0	0	0	0	0	0	4	1	0	0	0	0	0	0	0		
	重量	0	0	0	0	0	0	0	180	2	0	0	0	0	0	0	0		
一括	点数	0	3	0	1	0	1	0	42	2	9	0	8	5	3	4	0		
	重量	0	76	0	3	0	75	0	300	32	169	0	35	29	20	418	0		

10-2区 遺構外

出土位置		縦文	出土遺物												瓦器	陶器	磁器	瓦	その他
			弥生 IV期	弥生 V期	V期 ～庄内	庄内	庄内 ～布留	布留	弥生 ～古墳	土師 器	氣恵 器	黒色 土器	瓦器	陶器	磁器				
第1遺構面上面	点数	0	0	0	0	0	0	0	0	3	0	0	0	0	0	0	0	0	
	重量	0	0	0	0	0	0	0	0	18	0	0	0	0	0	0	0	0	
第1～2遺構面間	点数	0	0	0	1	0	0	0	16	4	6	0	2	1	1	0	0	0	
	重量	0	0	0	37	0	0	0	64	38	50	0	5	3	2	0	0	0	
一括	点数	0	0	0	0	0	0	0	13	0	0	0	1	0	0	0	0	0	
	重量	0	0	0	0	0	0	0	75	0	0	0	2	0	0	0	0	0	

遺物組成表 (4)

弥生V期			弥生V期～庄内						庄内			庄内～布留			布留			弥生～古墳					
造	甕	高杯	壺	甕	钵	高杯	器台	台付 鉢	壺	高杯	V様式 系縄	庄内 系縄	壺	甕	高杯	手培	壺	布留 系縄	高杯	壺	甕	高杯	不明
4	0	1	0	43	0	0	0	0	1	1	4	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	122
-160	0	22	0	630	0	0	0	0	37	62	148	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	724
0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	12
0	0	0	0	4	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	165
0	0	0	0	12	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	16
0	0	0	0	14	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	72	0	0	239
1	0	0	0	3	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	44
28	0	0	0	25	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	211
1	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	2	0	0	0	0
11	0	0	0	5	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	116	0	0	0	0
0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	41
0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	342
0	0	0	0	33	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	58
0	0	0	0	161	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	292
0	0	0	0	2	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	56
0	0	0	0	65	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	267
0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	87
0	0	0	0	28	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	244
0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	6
0	0	0	0	24	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	42
0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	46
0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	37
0	0	0	0	2	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	56
0	0	0	0	31	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	195
0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	8
0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	6	0	0	0	61
0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	8
0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	42
0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	27
0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	176
1	0	0	0	4	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	15
23	0	0	0	69	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	171
0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	4
0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	180
0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	42
0	0	0	0	3	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	75	0	0	0	0	369

弥生V期			弥生V期～庄内						庄内			庄内～布留			布留			弥生～古墳					
造	甕	高杯	壺	甕	钵	高杯	器台	台付 鉢	壺	高杯	V様式 系縄	庄内 系縄	壺	甕	高杯	手培	壺	布留 系縄	高杯	壺	甕	高杯	不明
0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	6
0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	16
0	0	0	0	37	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	64
0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	13
0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	76

10-3区 100河道

出土位置	縄文	出土遺物															
		弥生 IV期	弥生 V期	V期 ～庄内	庄内	庄内 ～布留	布留	弥生 ～古墳	土師 器	乳頭 器	黒色 土器	瓦器	陶器	磁器	瓦	その他	
遺構面-30～-40cm	点数	0	0	0	0	0	1	1	2	0	0	0	0	0	0	0	0
	重量	0	0	0	0	0	24	7	41	0	0	0	0	0	0	0	0
遺構面-40～-50cm	点数	0	0	0	0	0	0	126	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	重量	0	0	0	0	0	0	439	0	0	0	0	0	0	0	0	0
遺構面-50～-60cm	点数	0	2	0	0	0	0	0	25	0	0	0	0	0	0	0	0
	重量	0	322	0	0	0	0	115	0	0	0	0	0	0	0	0	0
遺構面-60～-70cm	点数	0	0	0	0	0	0	18	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	重量	0	0	0	0	0	0	88	0	0	0	0	0	0	0	0	0
上層	点数	0	7	4	7	1	0	4	501	0	3	0	1	0	0	1	0
	重量	0	70	207	339	9	0	155	2797	0	31	0	3	0	0	121	0
下層	点数	0	0	0	1	0	0	1	9	0	0	0	0	0	0	0	0
	重量	0	0	0	44	0	0	154	76	0	0	0	0	0	0	0	0
一括	点数	0	0	0	1	0	1	1	69	0	0	0	1	0	0	0	0
	重量	0	0	0	85	0	65	4	309	0	0	0	5	0	0	0	0
製塩土器																	

10-3区 73水田

出土位置	縄文	出土遺物															
		弥生 IV期	弥生 V期	V期 ～庄内	庄内	庄内 ～布留	布留	弥生 ～古墳	土師 器	乳頭 器	黒色 土器	瓦器	陶器	磁器	瓦	その他	
近世耕作土	点数	0	0	0	0	0	0	0	1	1	1	0	0	1	1	3	埴輪
	重量	0	0	0	0	0	0	0	11	14	12	0	0	2	11	100	
中世耕作土（5層）	点数	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	1	0	0
	重量	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	4	0	33	0	0
中世耕作土（6層）	点数	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0
	重量	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	5	0	0	0	0
中世耕作土（一系）	点数	0	0	0	0	0	0	0	2	9	9	0	0	0	0	0	0
	重量	0	0	0	0	0	0	16	0	0	0	0	0	0	0	0	0

10-3区 104溝

出土位置	縄文	出土遺物															
		弥生 IV期	弥生 V期	V期 ～庄内	庄内	庄内 ～布留	布留	弥生 ～古墳	土師 器	乳頭 器	黒色 土器	瓦器	陶器	磁器	瓦	その他	
上面	点数	0	0	0	0	0	0	0	4	1	1	3	5	0	0	0	0
	重量	0	0	0	0	0	0	0	21	5	27	1	14	0	0	0	0
下層	点数	0	0	0	0	0	0	0	4	0	1	0	1	0	0	0	0
	重量	0	0	0	0	0	0	16	0	3	85	0	6	0	0	0	0

10-3区 101溝

出土位置	縄文	出土遺物															
		弥生 IV期	弥生 V期	V期 ～庄内	庄内	庄内 ～布留	布留	弥生 ～古墳	土師 器	乳頭 器	黒色 土器	瓦器	陶器	磁器	瓦	その他	
遺構面-0～-40cm	点数	0	0	0	0	0	0	0	38	3	9	1	0	0	0	0	0
	重量	0	0	0	0	0	0	0	170	47	217	5	0	0	0	0	0
遺構面-20～-60cm	点数	0	0	0	0	0	0	0	8	2	2	0	0	0	0	0	0
	重量	0	0	0	0	0	0	0	49	53	15	0	0	0	0	0	0
一括	点数	0	0	0	0	0	0	0	2	0	1	1	0	0	0	0	0
	重量	0	0	0	0	0	0	0	3	0	5	2	0	0	0	0	0
101・102溝	点数	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0
	重量	0	0	0	0	0	0	0	6	0	0	0	0	0	0	0	0

10-3区 遺構面上（遺構外）

出土位置	縄文	出土遺物															
		弥生 IV期	弥生 V期	V期 ～庄内	庄内	庄内 ～布留	布留	弥生 ～古墳	土師 器	乳頭 器	黒色 土器	瓦器	陶器	磁器	瓦	その他	
グリッド1	点数	0	0	0	0	0	0	0	2	1	2	0	0	1	0	1	0
	重量	0	0	0	0	0	0	0	13	37	9	0	6	16	0	74	0
グリッド2	点数	0	0	0	0	0	0	0	2	0	0	0	0	0	0	0	0
	重量	0	0	0	0	0	0	0	16	0	0	0	0	0	0	0	0
グリッド3	点数	0	0	0	0	0	0	0	44	1	10	0	24	0	0	1	0
	重量	0	0	0	0	0	0	0	236	3	75	0	85	0	0	80	0
グリッド4	点数	0	0	0	0	0	0	0	84	2	26	4	68	1	1	2	石築
	重量	0	0	0	0	0	0	0	468	29	281	14	216	0	10	216	0
グリッド5	点数	0	0	0	0	0	0	0	16	2	3	0	10	0	0	0	サヌカイト
	重量	0	0	0	0	0	0	0	71	54	36	8	23	0	0	0	0
グリッド6	点数	0	0	0	0	0	0	0	1	0	4	0	6	0	0	0	0
	重量	0	0	0	0	0	0	0	5	0	126	0	6	0	0	0	0
100河道西延張中世包含層	点数	0	0	0	1	0	0	5	0	179	1	7	3	6	0	1	0
	重量	0	0	0	43	0	0	0	505	38	44	4	12	0	0	11	0
100河床東延張中世包含層	点数	0	0	0	1	0	0	0	54	0	0	0	3	0	0	0	0
	重量	0	0	0	65	0	0	0	0	303	0	0	0	7	0	0	0
一括	点数	0	0	0	0	0	0	0	25	2	4	0	17	2	0	0	0
	重量	0	0	0	0	0	0	0	88	23	16	0	47	14	0	0	0

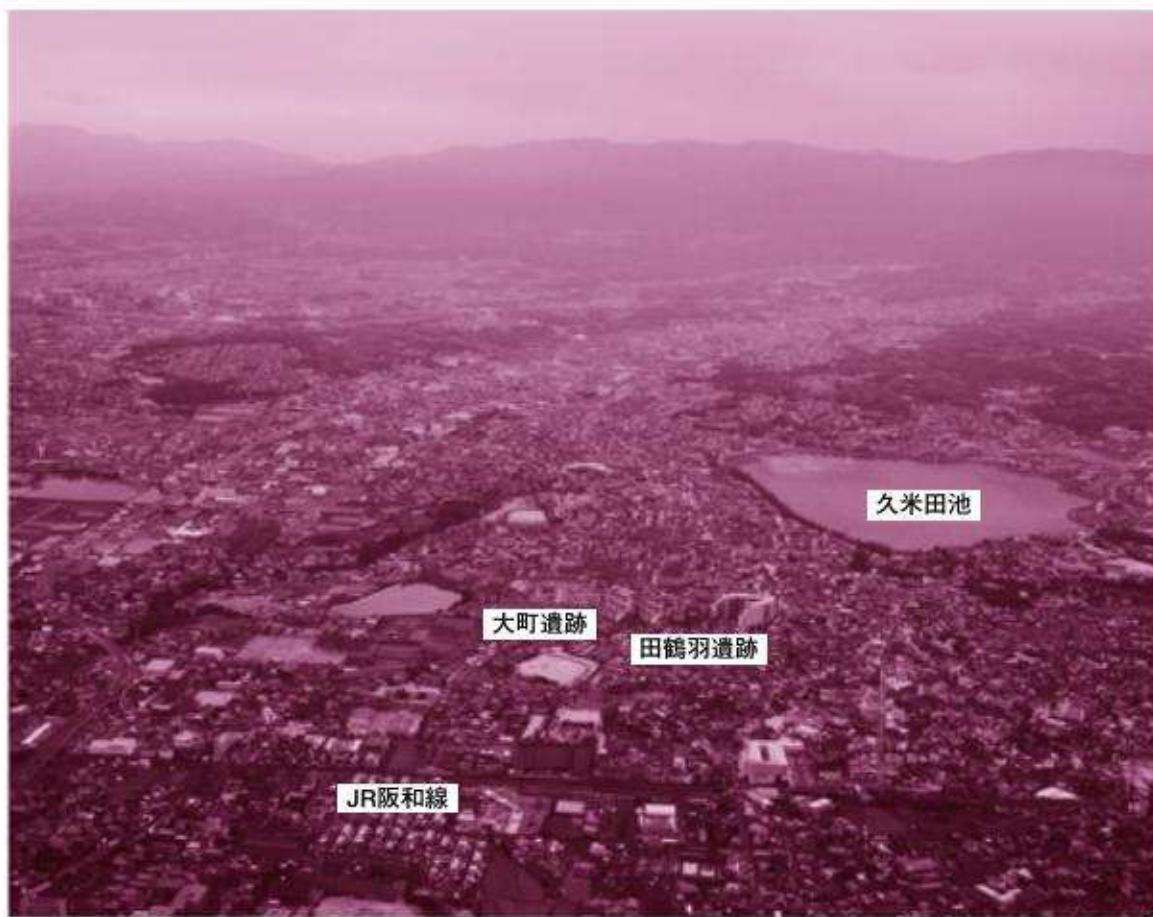
報告書抄録

ふりがな	おおまちいせき 3
書名	大町遺跡 III
副書名	府営岸和田大町住宅建て替え工事に伴う発掘調査
シリーズ名	大阪府埋蔵文化財調査報告
シリーズ番号	2011-2
編著者名	三木 弘、杉本清美
編集機関	大阪府教育委員会文化財保護課
所在地	〒540-8571 大阪府大阪市中央区大手前二丁目 TEL 06-6941-0351(代)
発行年月日	2012年3月30日

ふりがな 所収遺跡名	ふりがな 所在地	コード		北緯 °'〃	東経 °'〃	調査期間	面積 (m ²)	調査原因
		市町村	遺跡番号					
おおまちいせき 大町遺跡	きしわだし 岸和田市 おおまち 大町	27202	122	34° 27' 50"	135° 24' 50"	20091105 ～ 20100202 20100701 ～ 20110111	800 1480	記録保存調査
所収遺跡名	種別	主な時代		主な遺構		主な遺物	特記事項	
大町遺跡	集落跡 散布地	弥生 古墳 中世 近世		廃棄土坑、水田 跡、畠地、河道、 溝、土坑、小穴		縄文土器、弥 生土器、土師 器、瓦器、陶 器、磁器ほか	弥生中期後葉の廃棄土 坑、平安～鎌倉時代の 水田跡	

要約	<p>大町遺跡は岸和田市の北部に位置する。府営岸和田大町住宅の建て替えに伴ってこれまで4カ年度にわたり発掘調査を実施し、古墳時代前期の工房跡や弥生時代後期～古墳時代前期に埋没した複数の河道を検出した。</p> <p>本書の2カ年度の調査でも、古墳時代初頭の河道を検出したほか、弥生時代中期後葉の遺物廃棄土坑、平安時代～鎌倉時代前半期の水田跡、鎌倉時代後半期以後に営まれた畠地など、これまでの調査で検出されなかった時代の遺構が見つかった。</p> <p>河道の1条では、投棄されたとみられる庄内式期の土器がまとまって出土した。器種には高杯、鉢、台付鉢、甕、壺がある。</p> <p>遺物廃棄土坑からは土器のほか、石庖丁、石剣の基部、砥石なども出土した。</p>

図 版

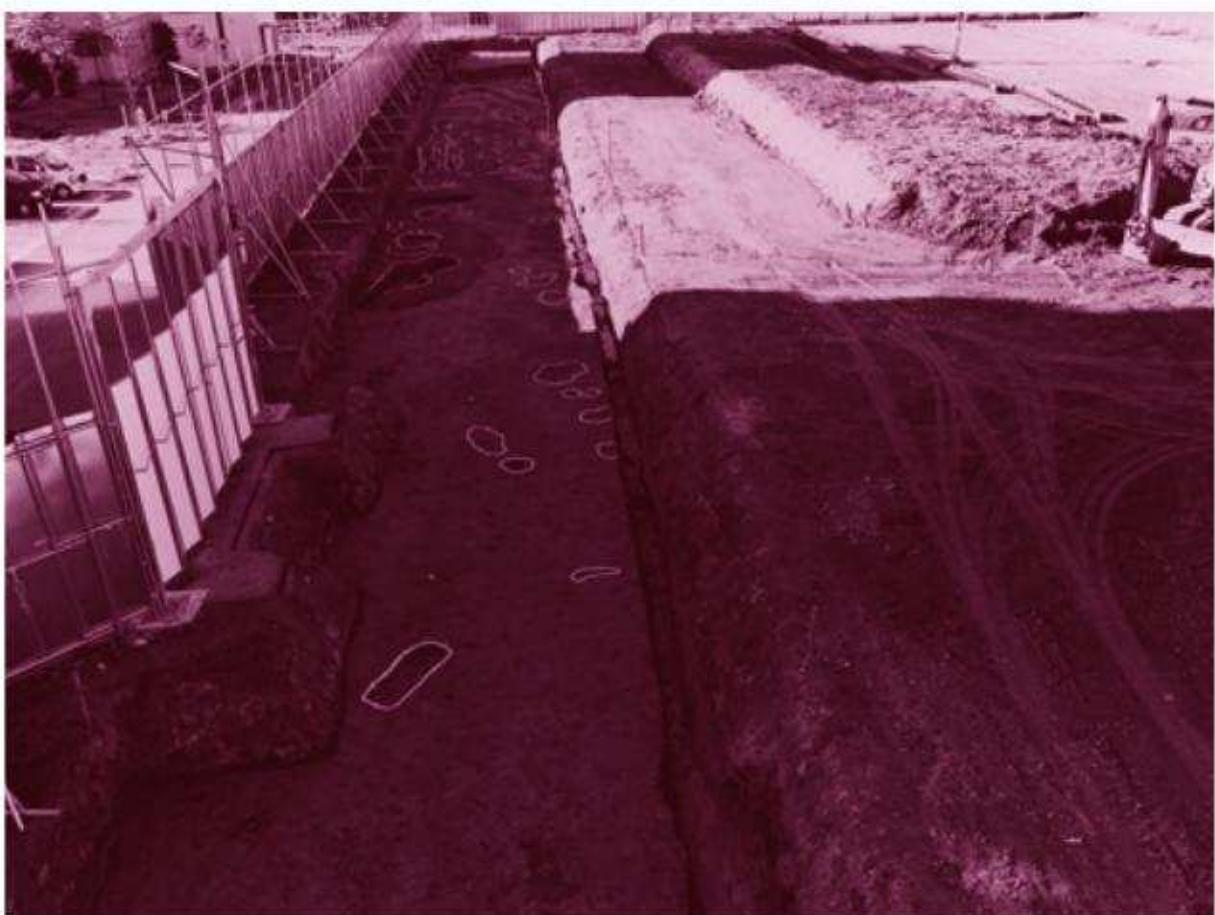


H16.10.7撮影

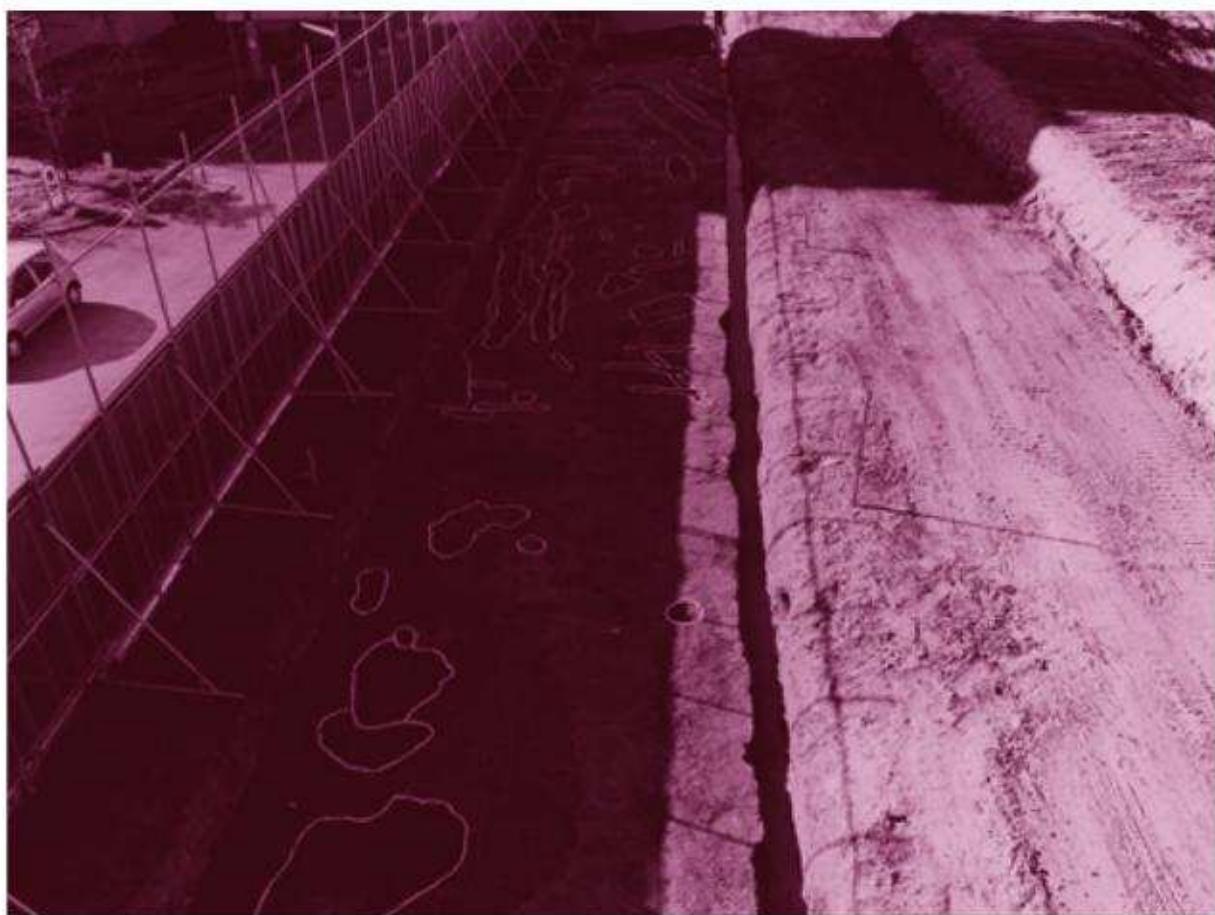
図版
1
09
—
1
区



1 09-1区全景（南西から）



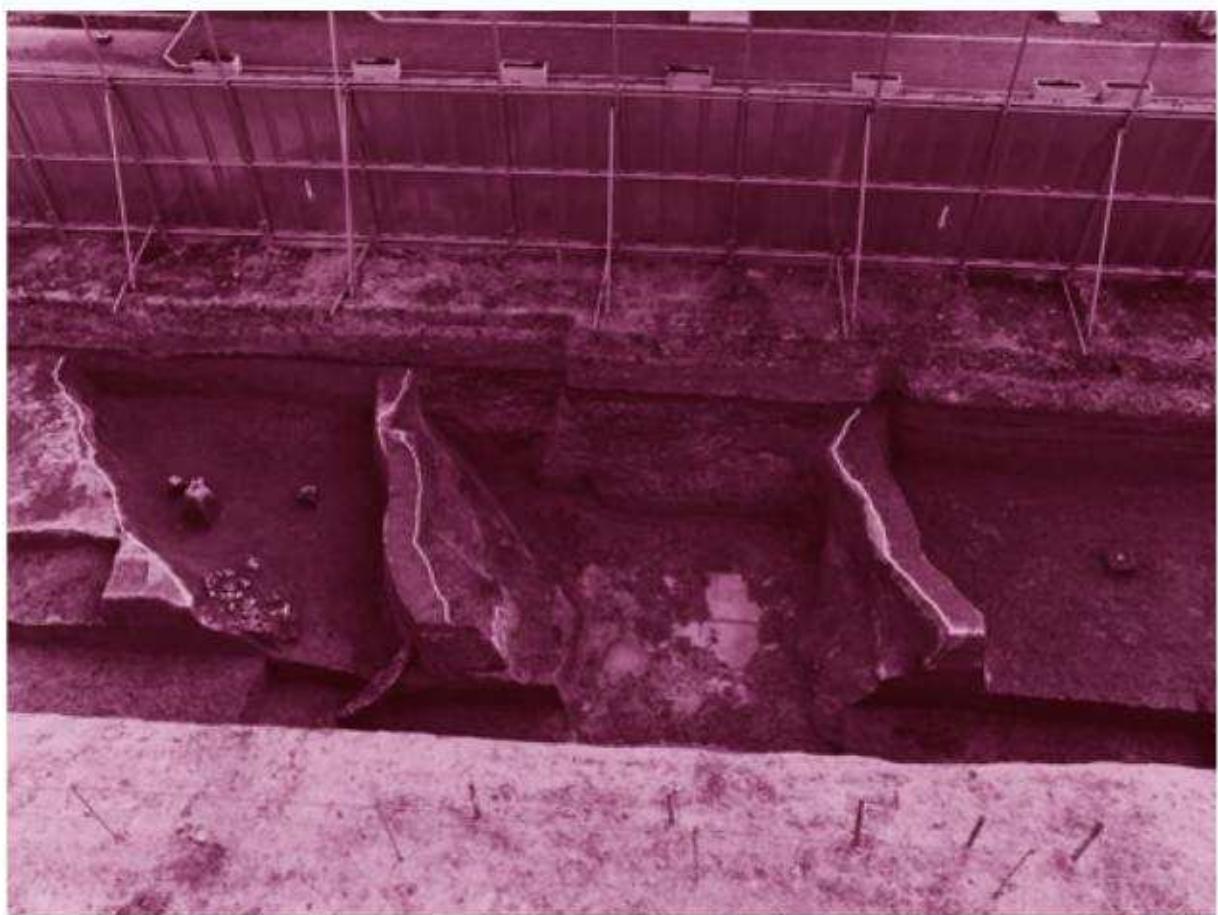
2 09-1区全景（北東から）



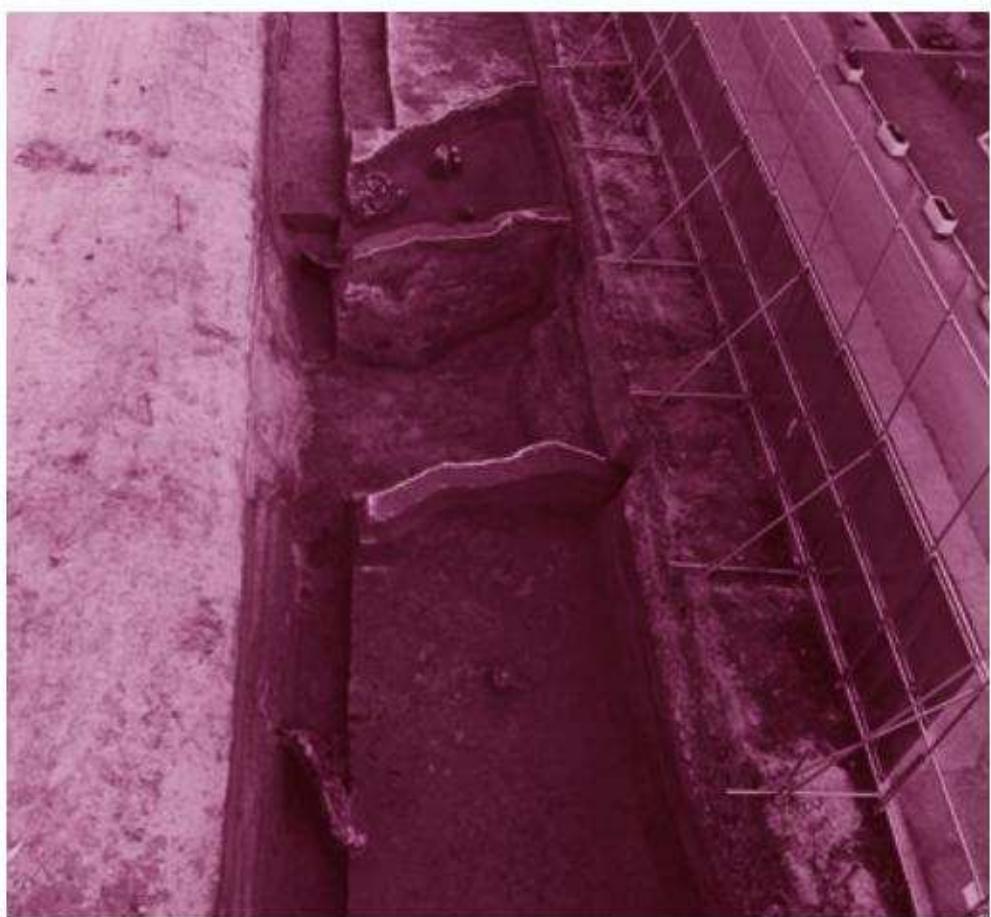
1 09-1区全景（北東から）



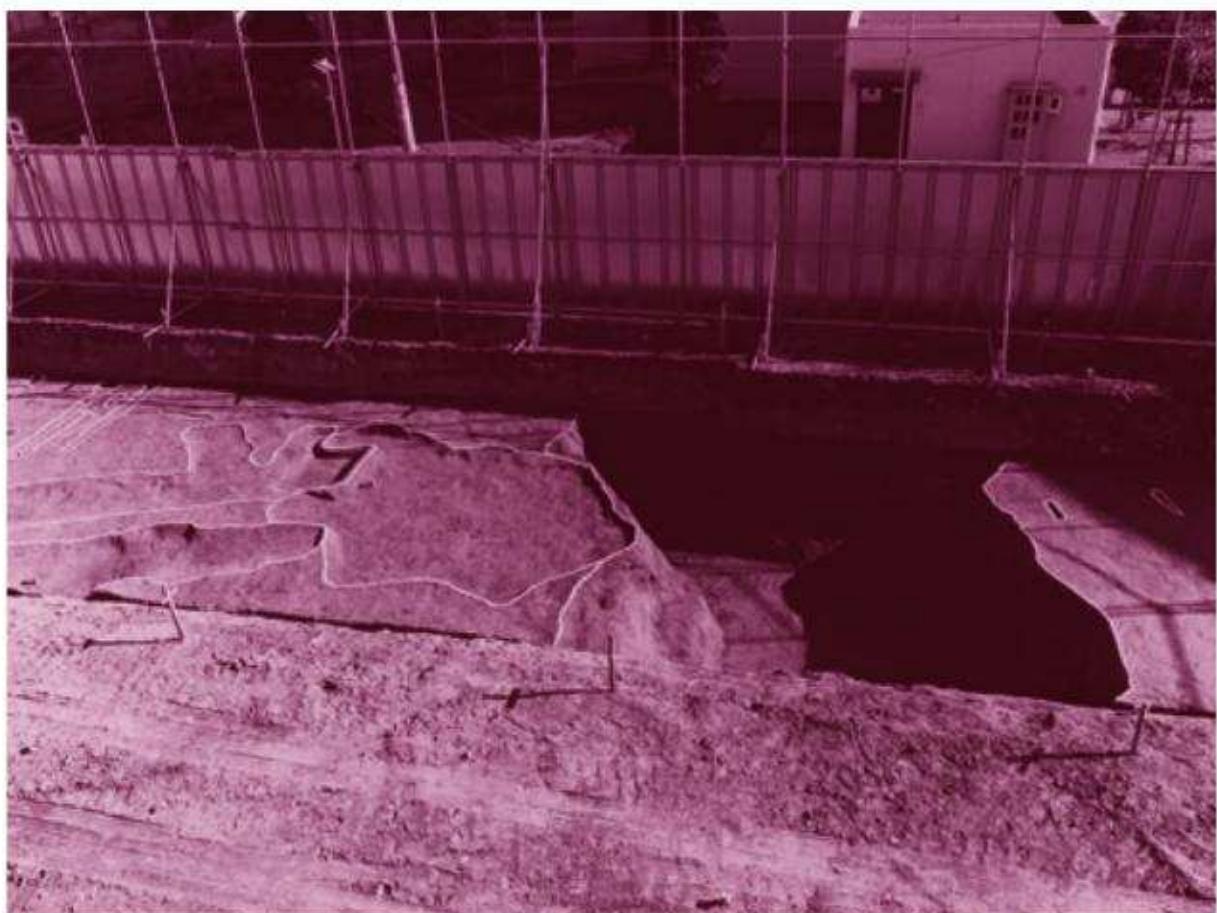
2 09-1区全景（北東から）



1 01・02河道全景（北西から）



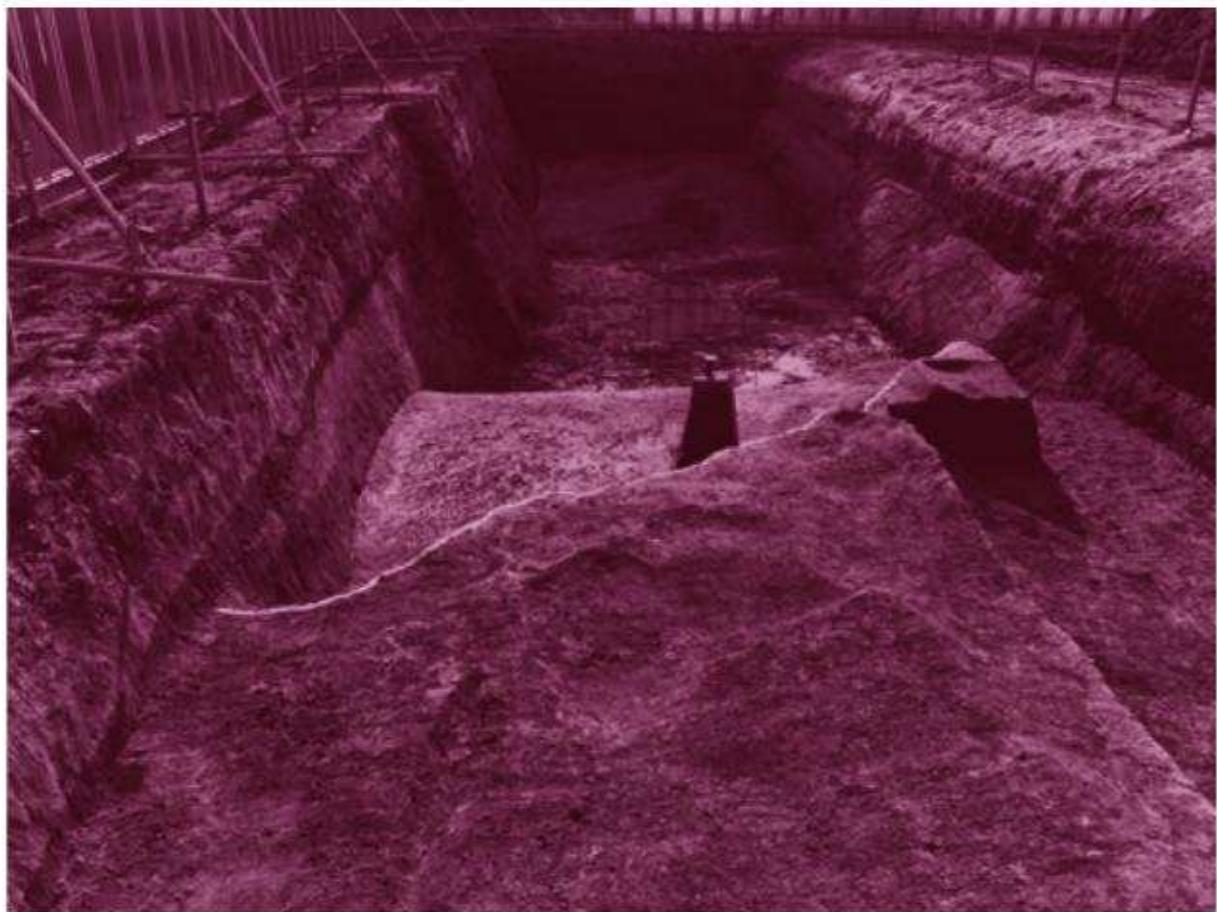
2 01・02河道全景（南西から）



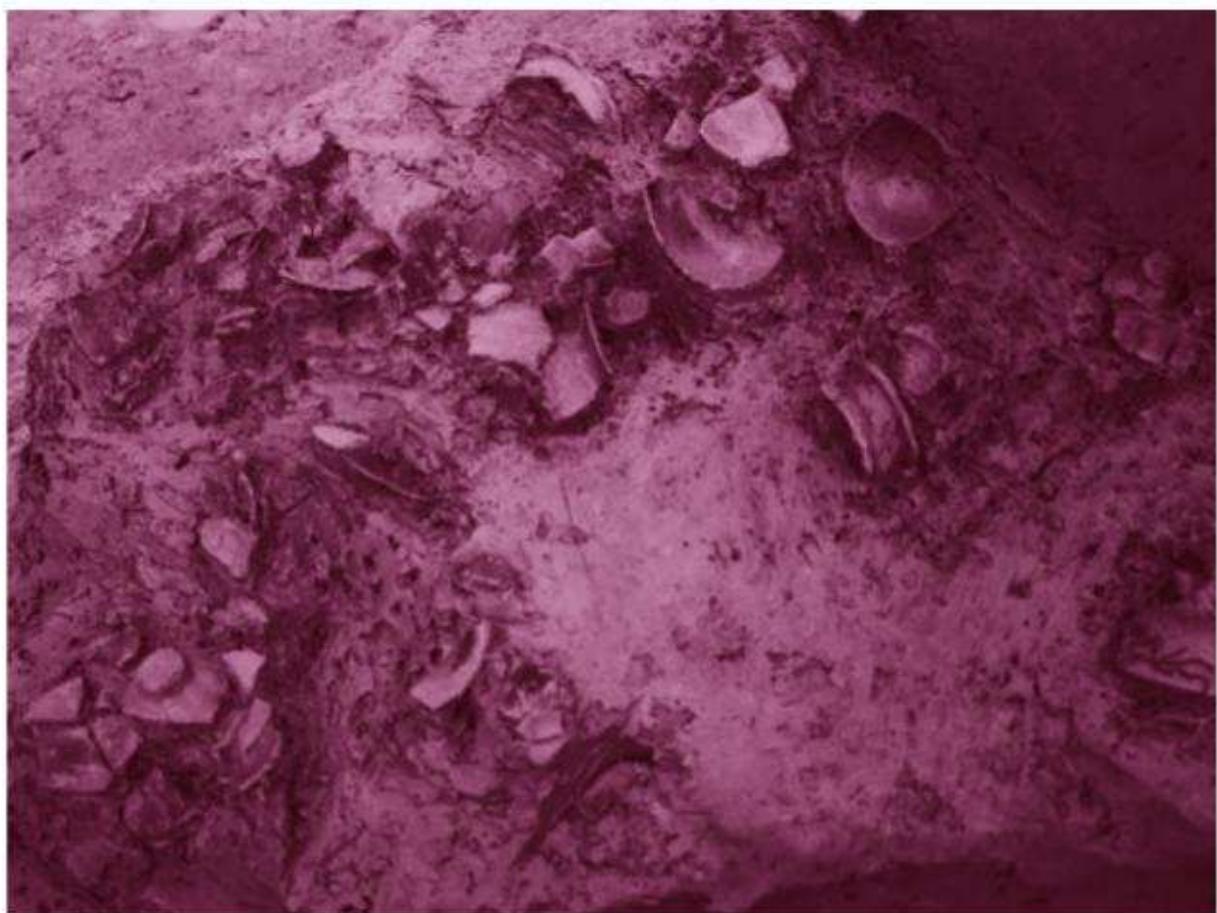
1 01河道全景（北西から）



2 01河道士層断面（東から）



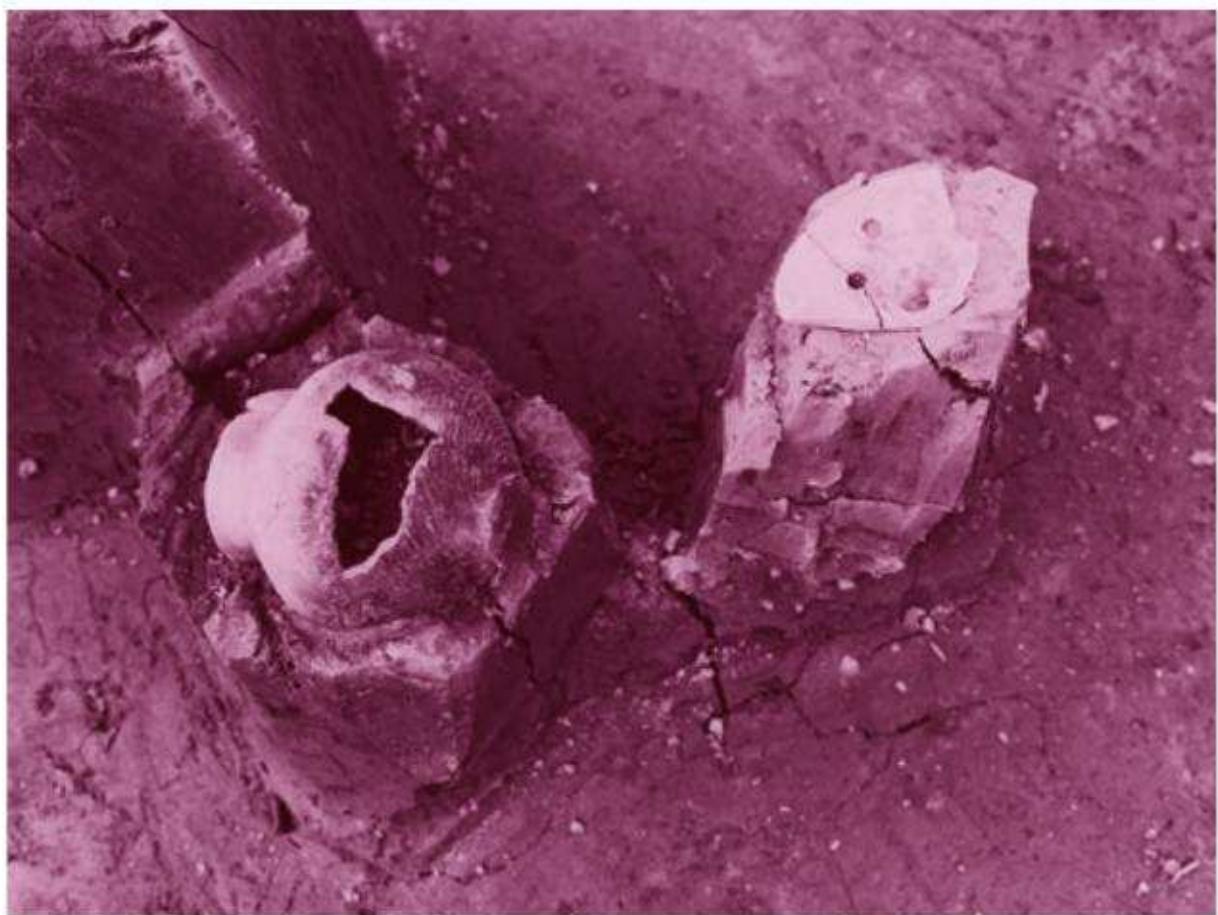
1 02河道全景（北東から）



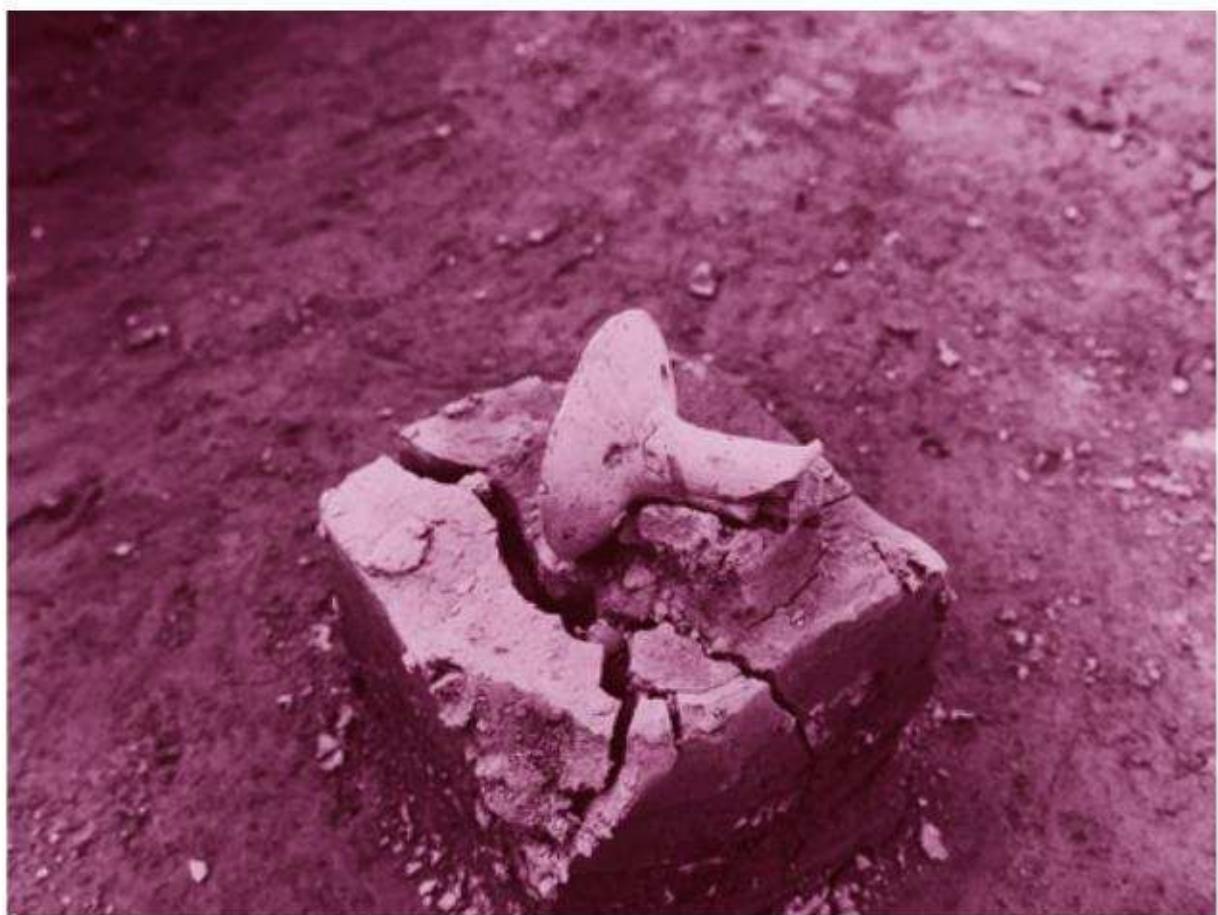
2 02河道士器出土状況（南から）



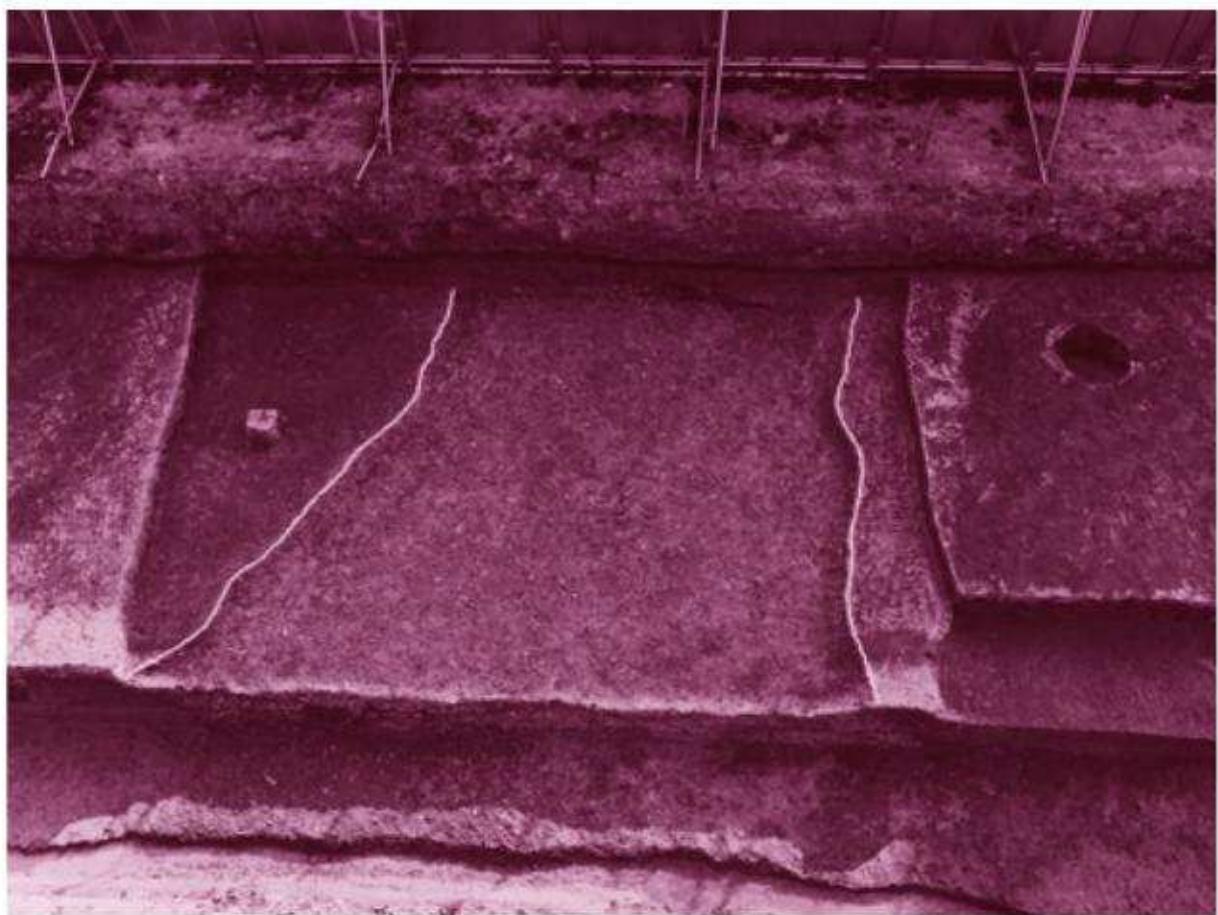
1 02 河道土器出土状況（北から）



2 02 河道土器出土状況（南東から）



1 02河道士器出土状況（東から）



2 06河道全景（北西から）



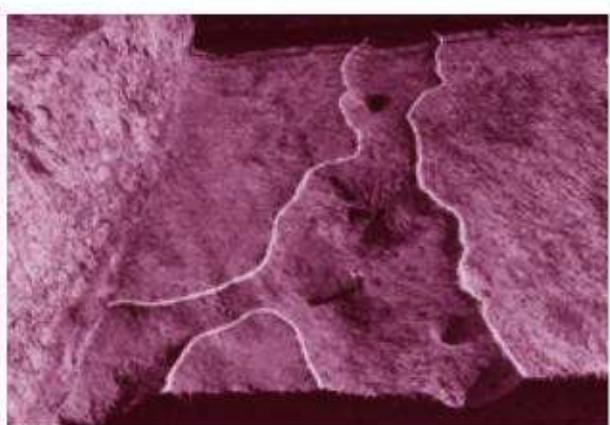
1 26土坑、27・28溝全景（南西から）



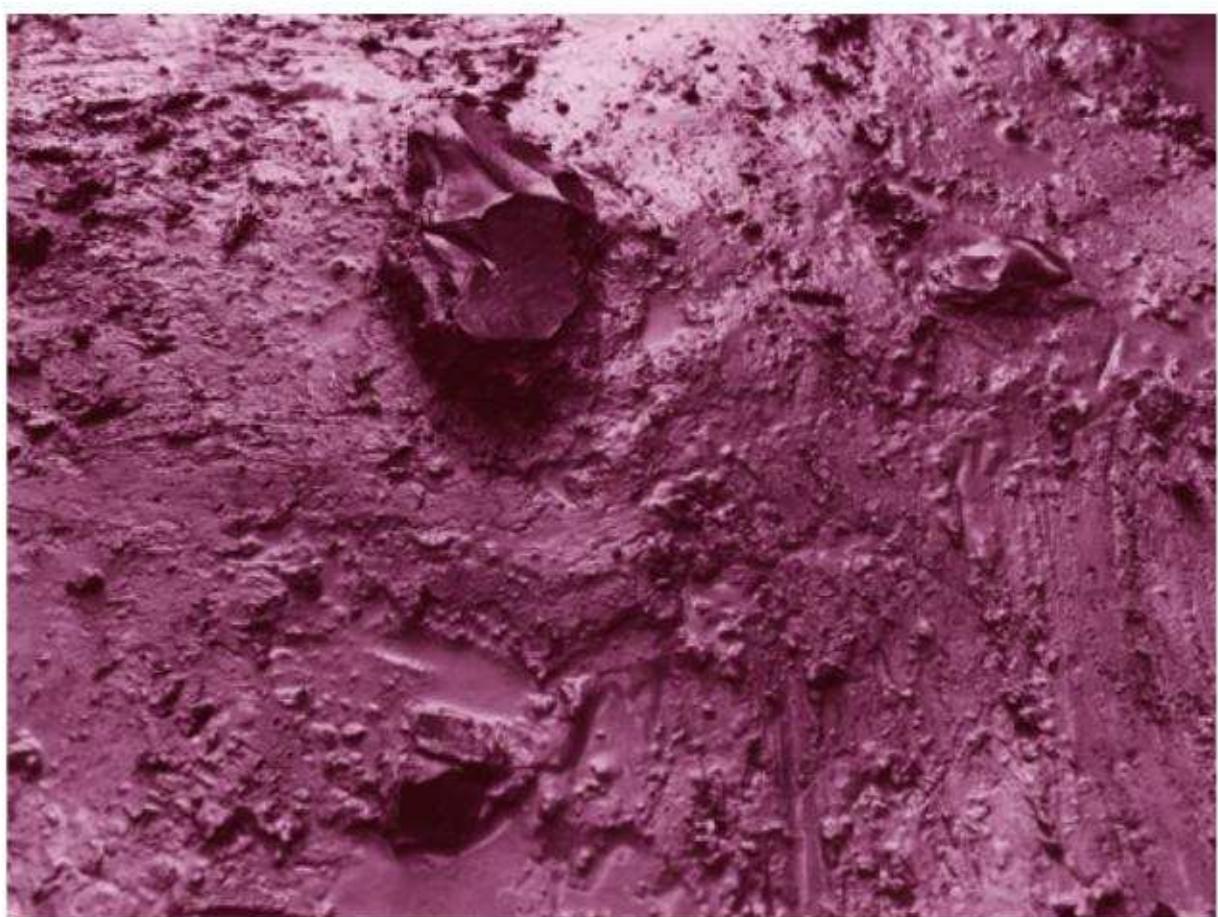
2 86・87土坑全景（南から）



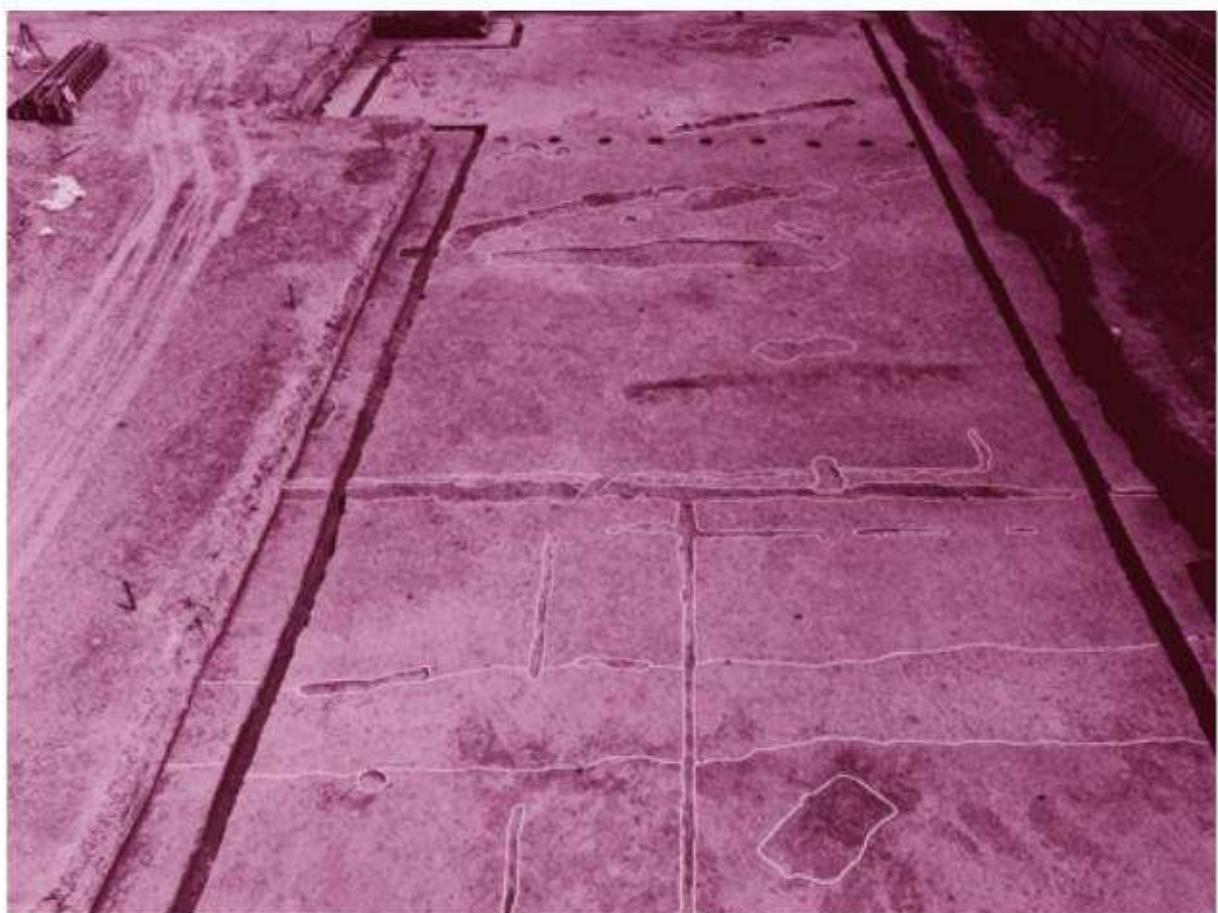
3 88土坑全景（北東から）



4 106溝全景（北西から）



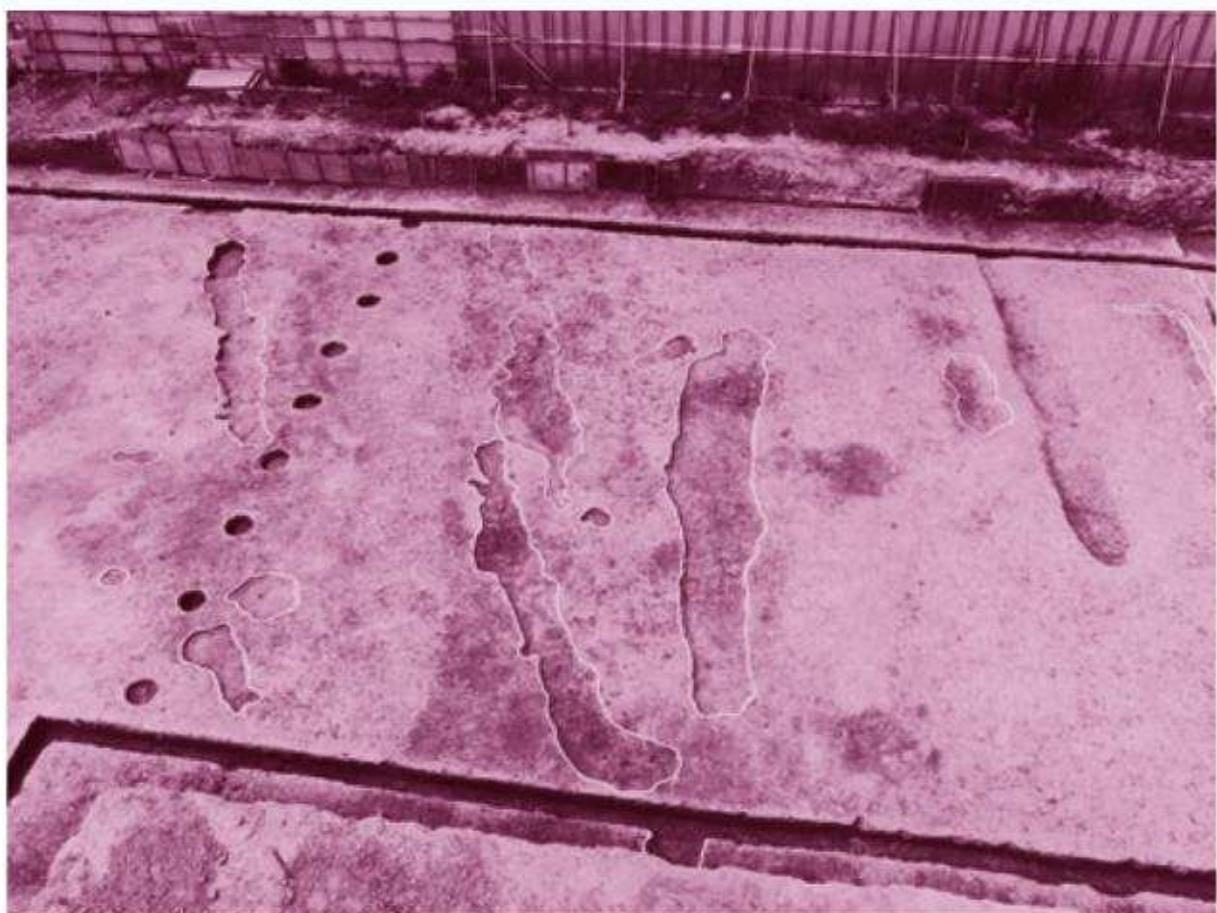
5 サスカイト剥片出土状況（北東から）



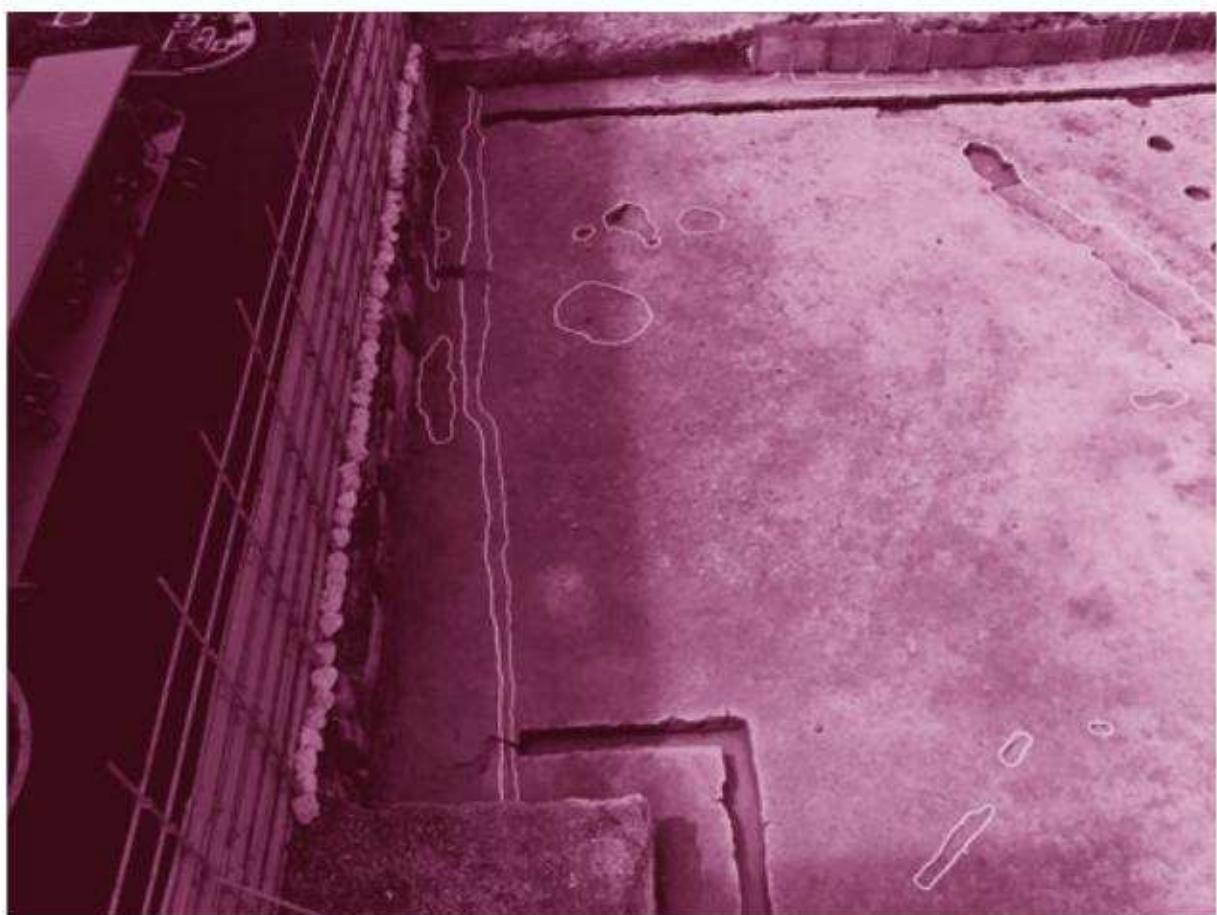
1 10-1区第1遺構面全景（北西から）



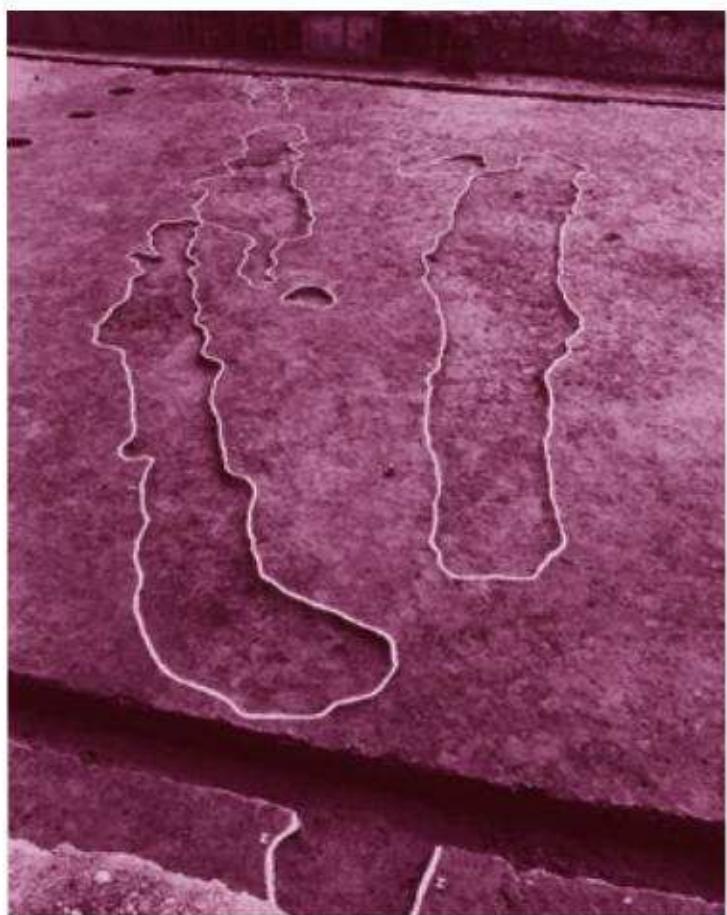
2 10-1区第1遺構面北側（北東から）



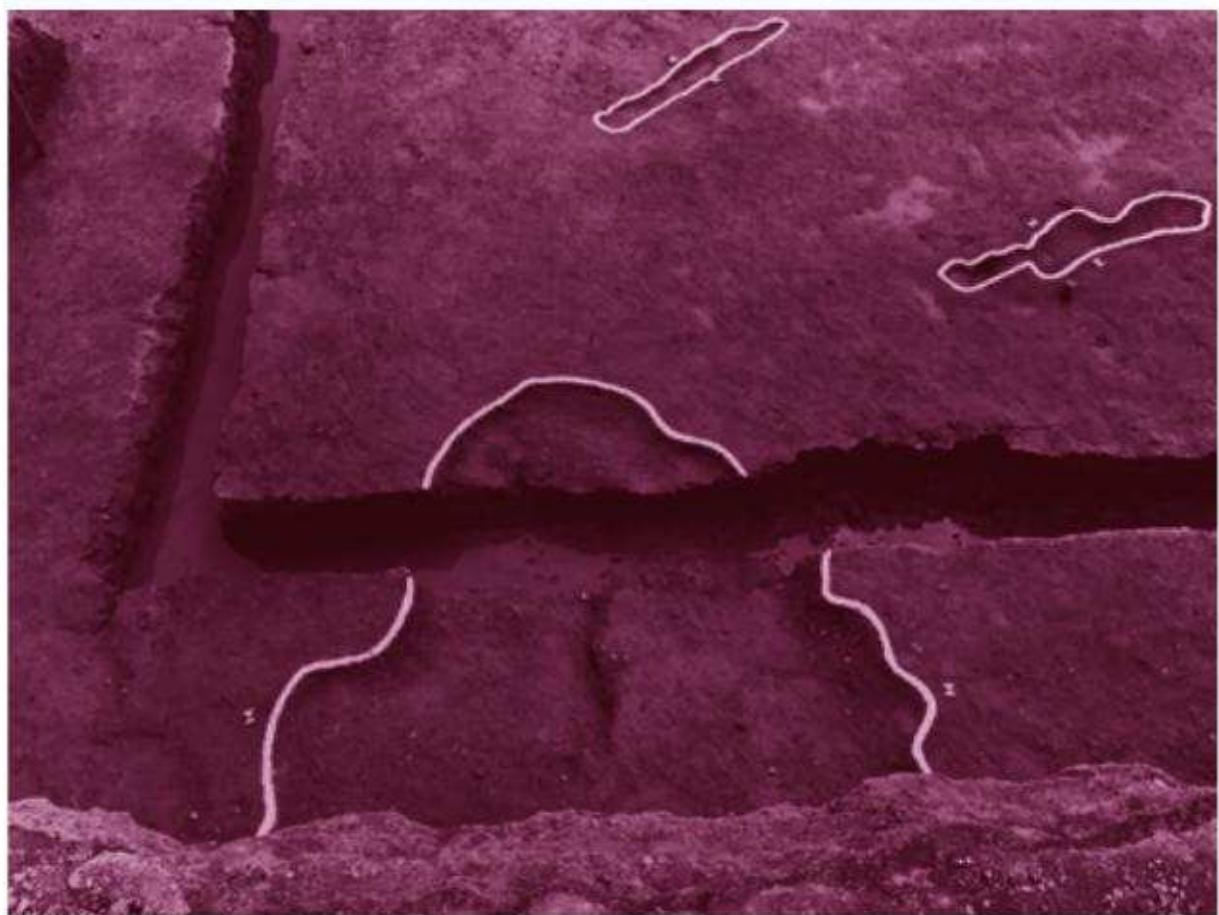
1 10-1区第1遺構面中央（北東から）



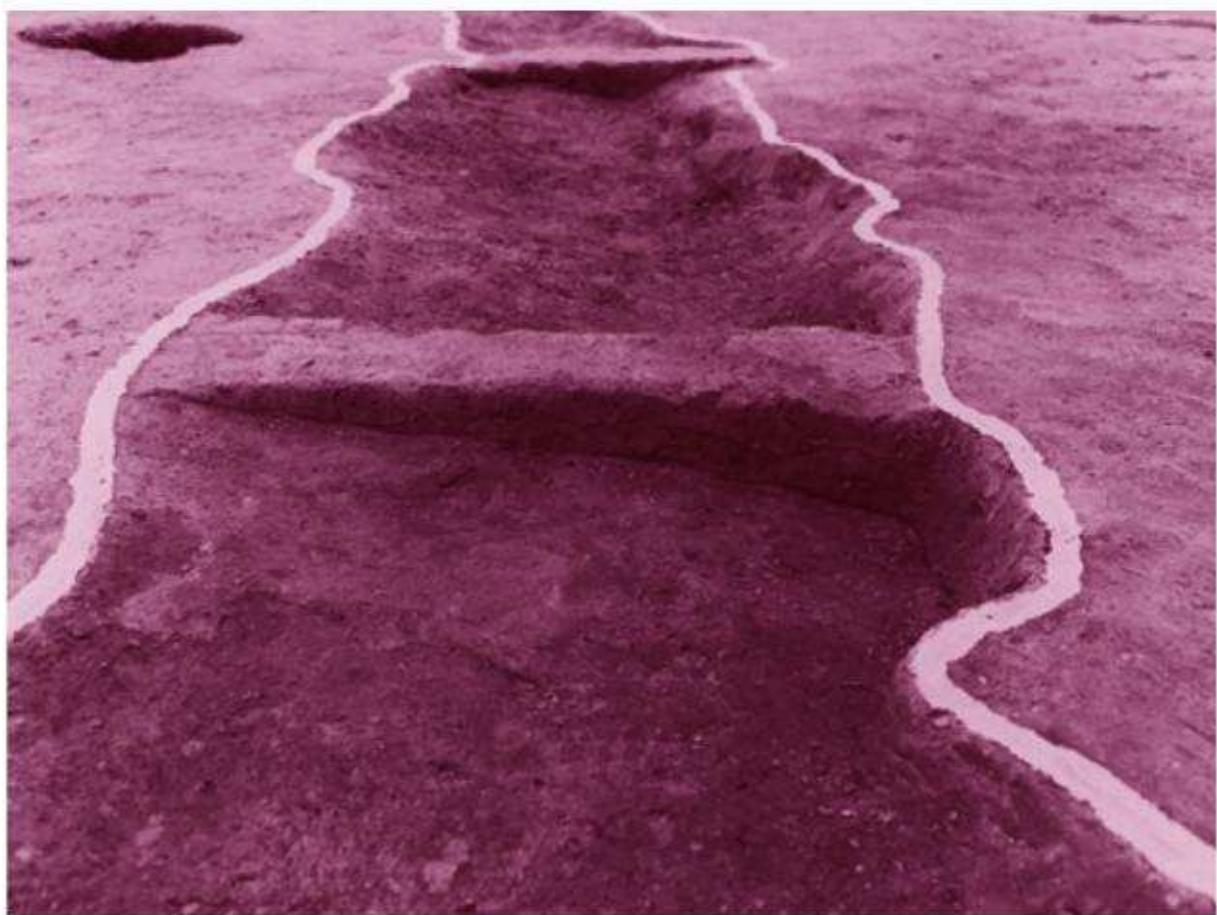
2 10-1区第1遺構面南側（北東から）



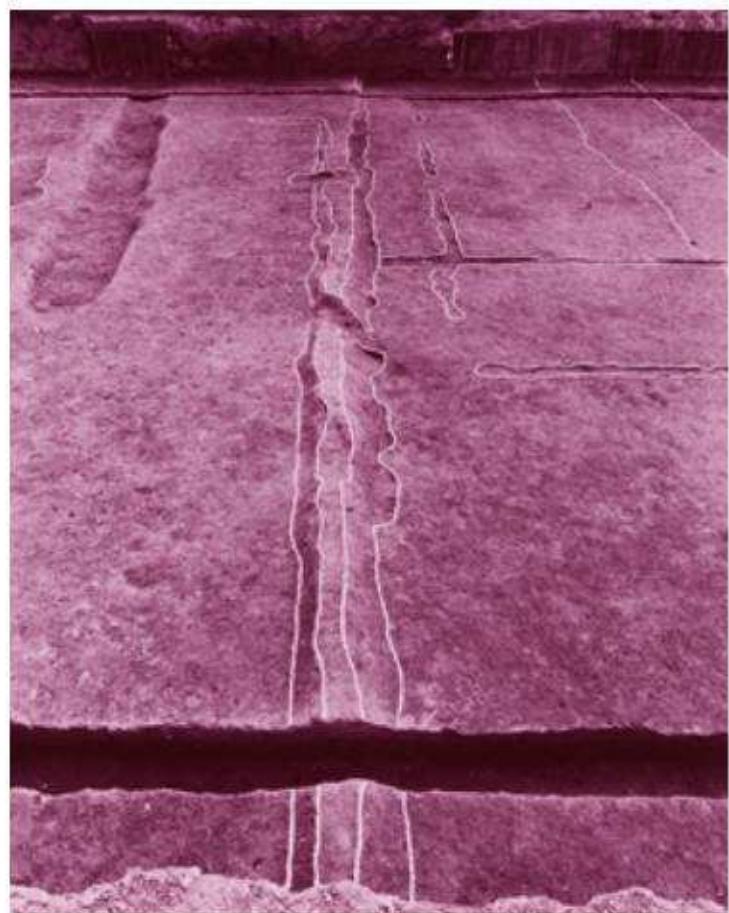
1 21・22・25溝全景 (北東から)



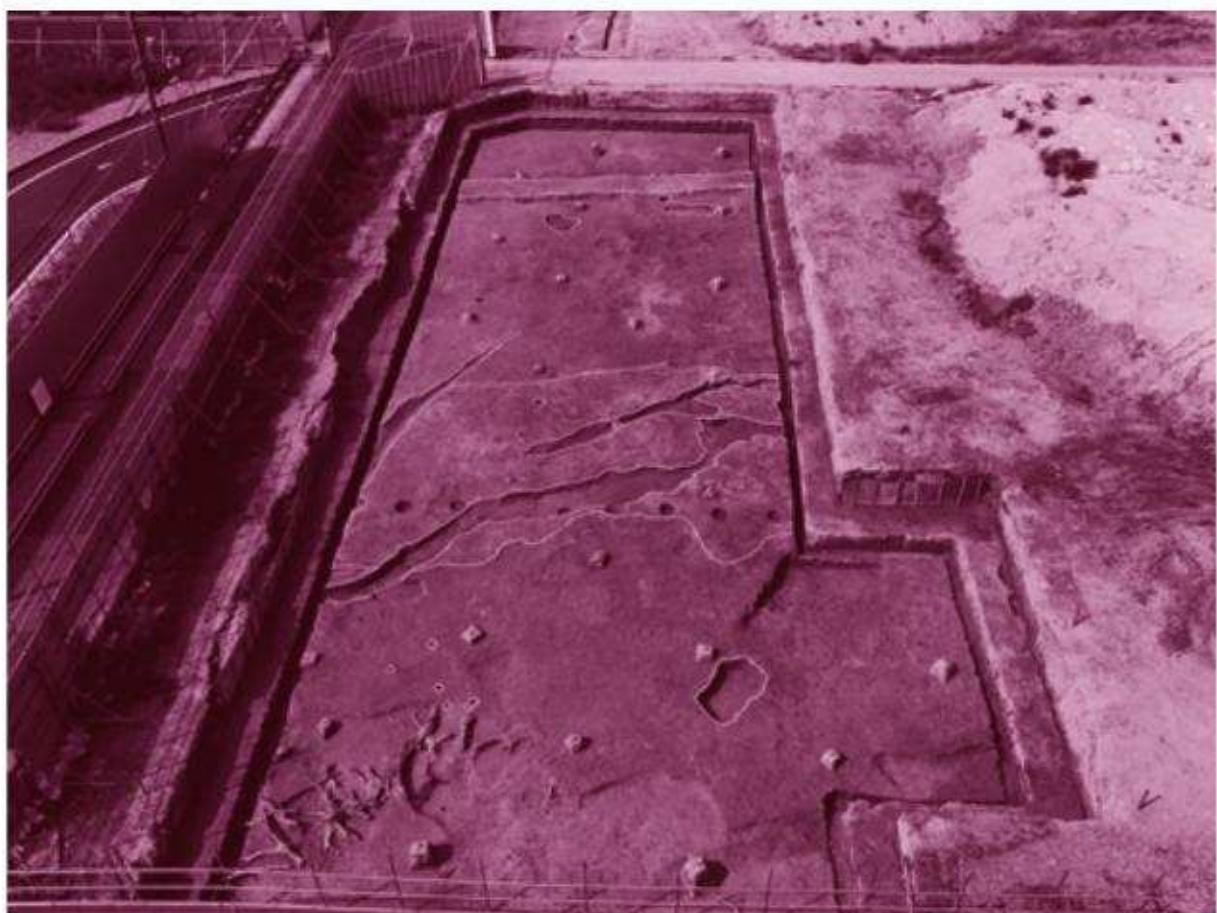
2 12土坑全景 (北東から)



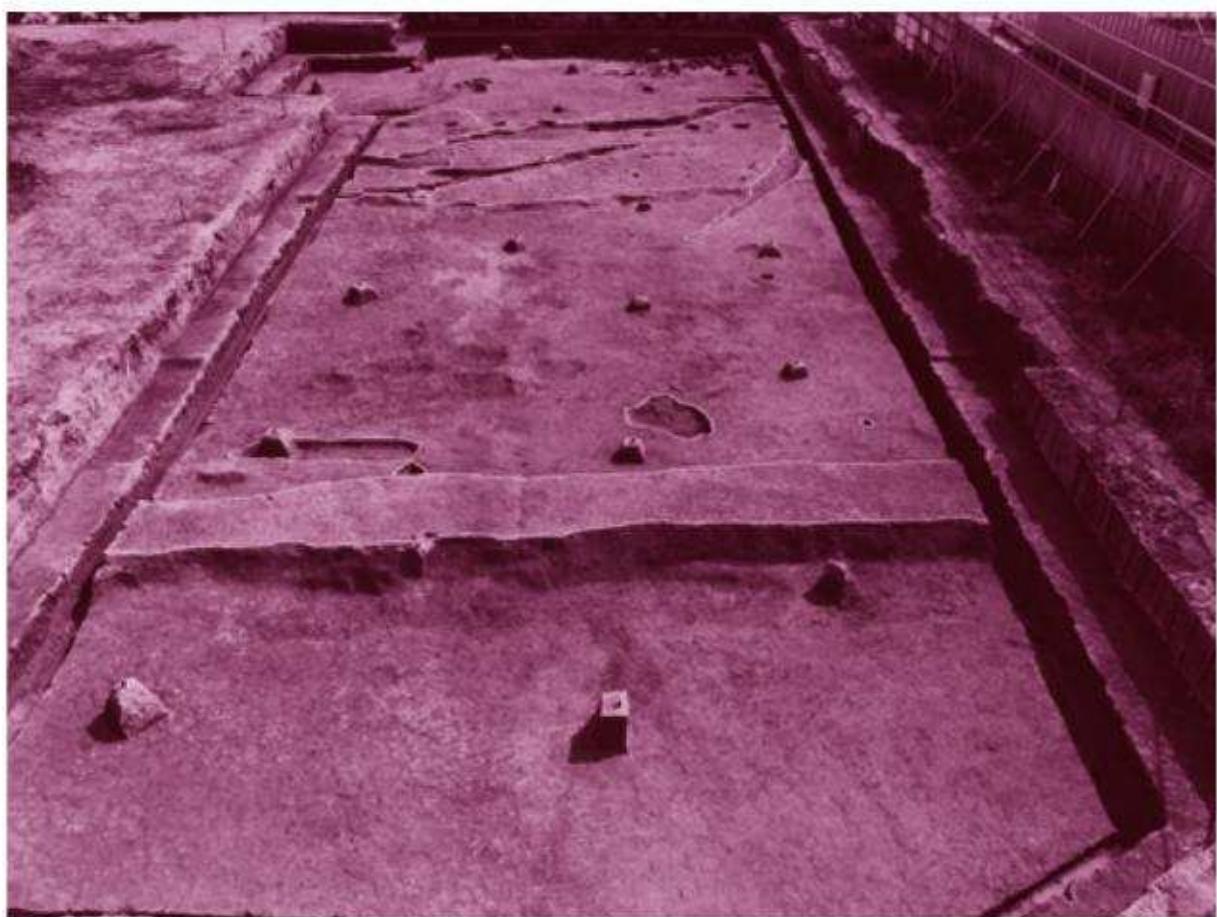
1 15溝土層断面（南西から）



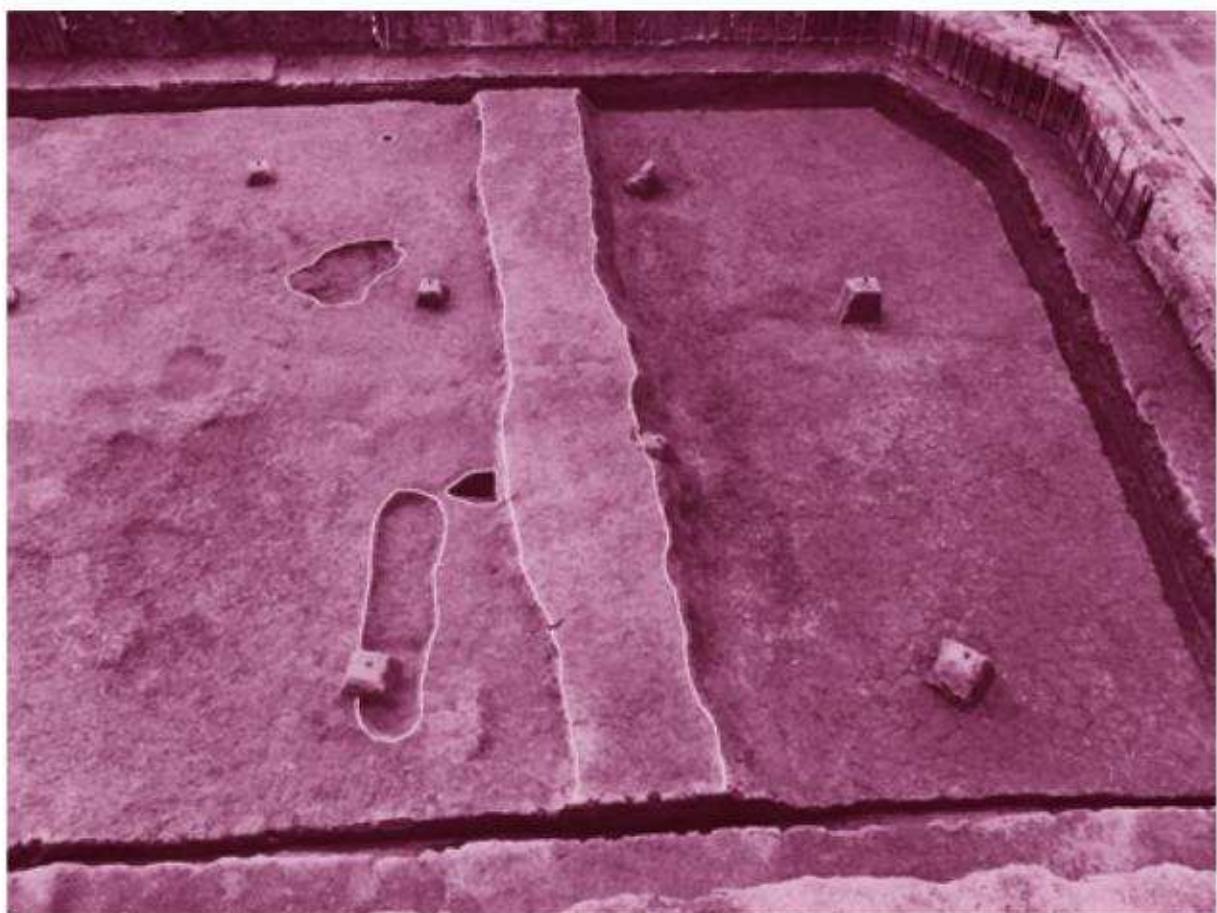
2 36畦全景（北東から）



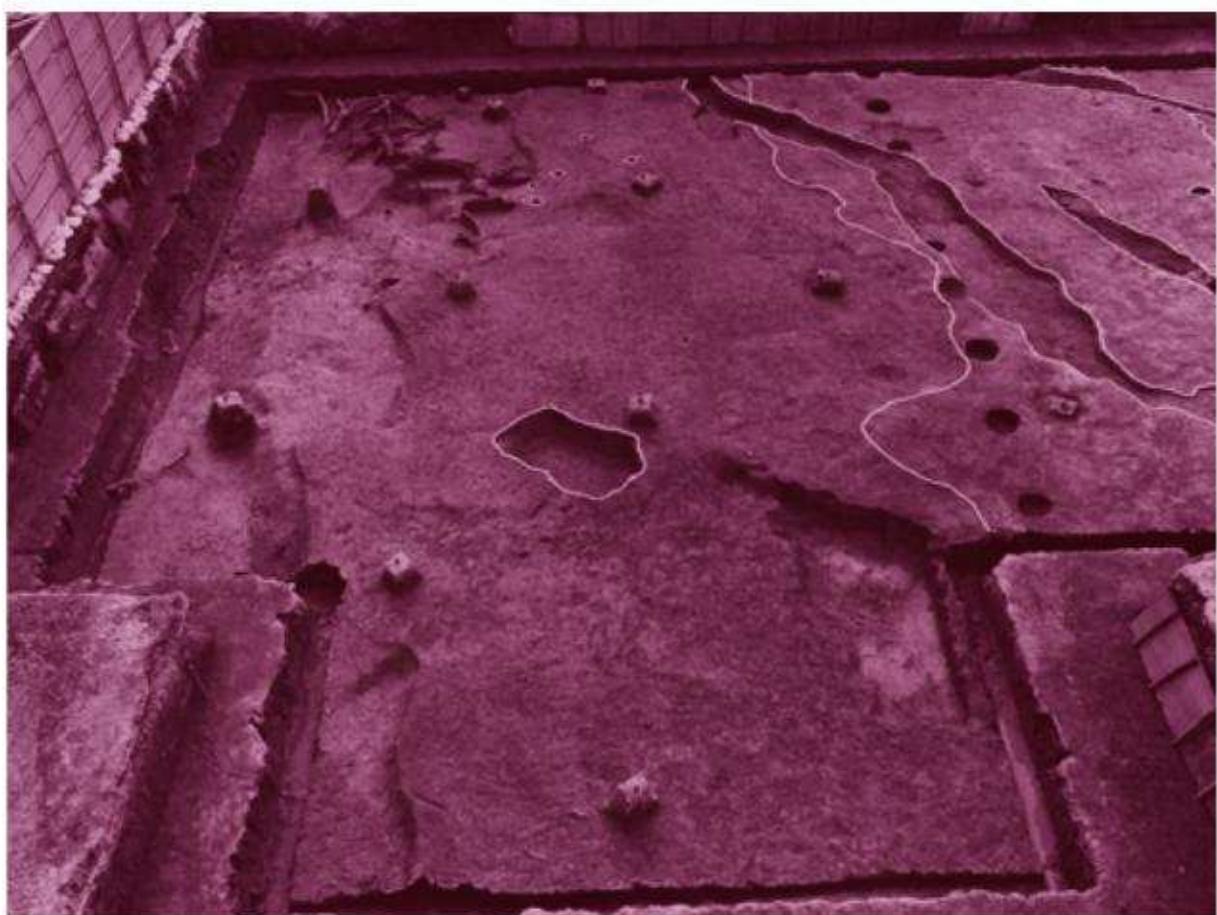
1 10-1区第2遺構面全景（南東から）



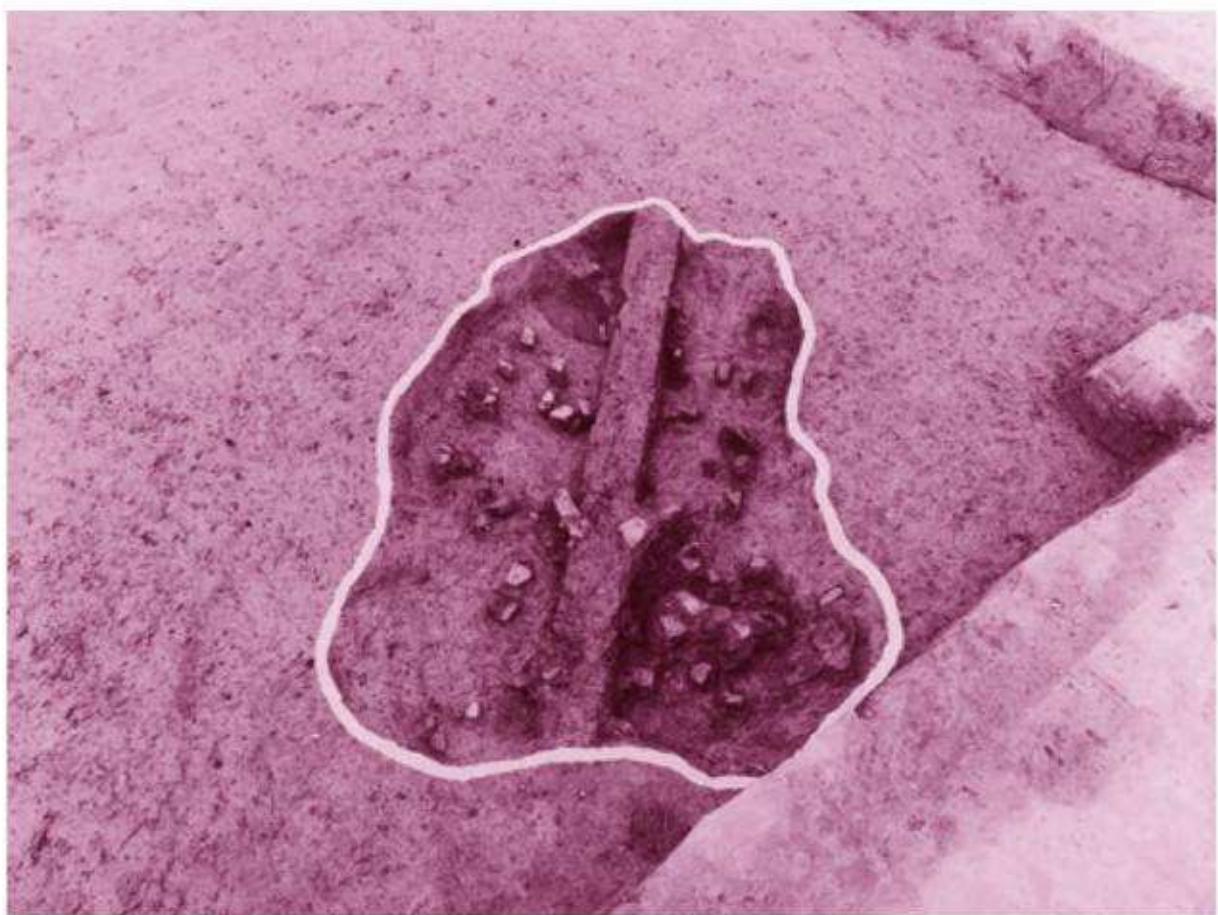
2 10-1区第2遺構面全景（北西から）



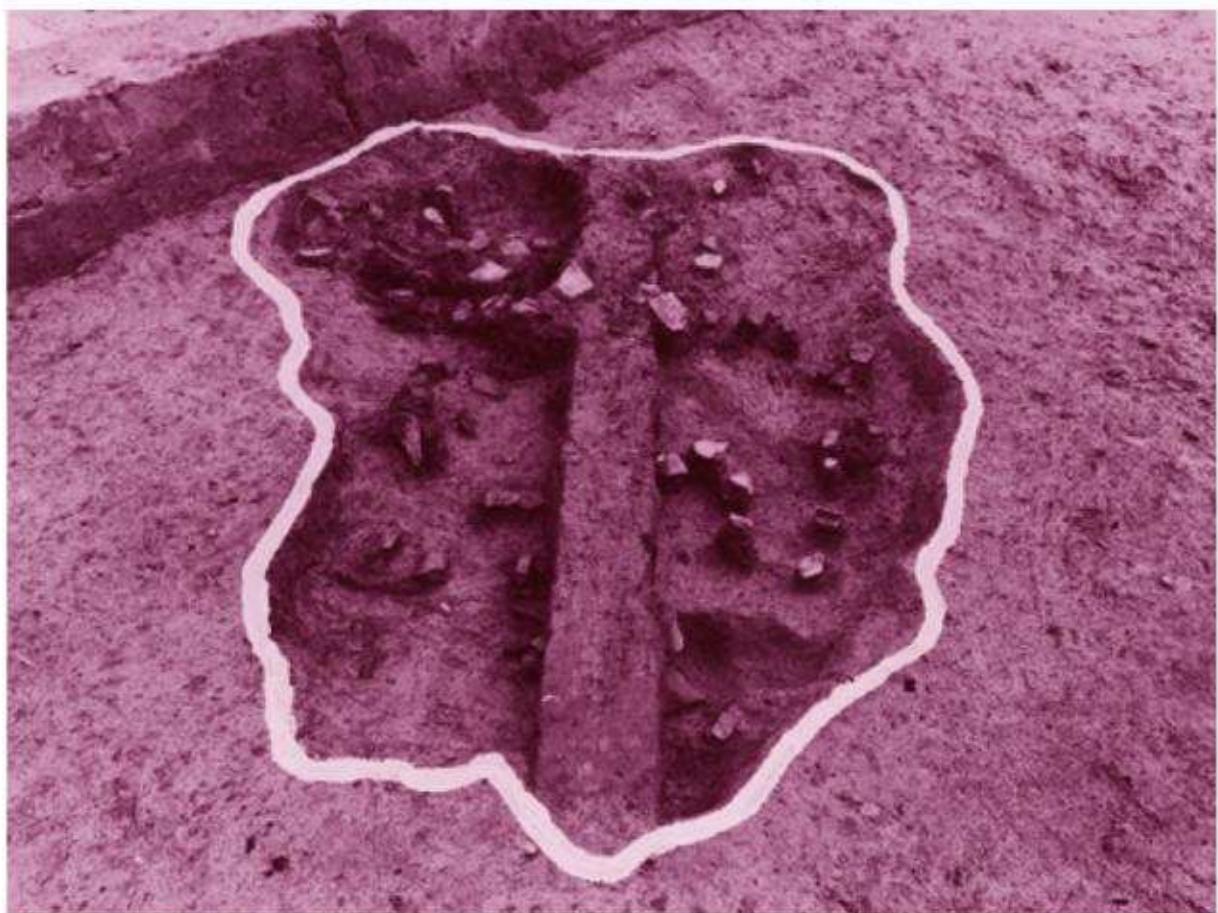
1 10-1区第2遺構面北側（北東から）



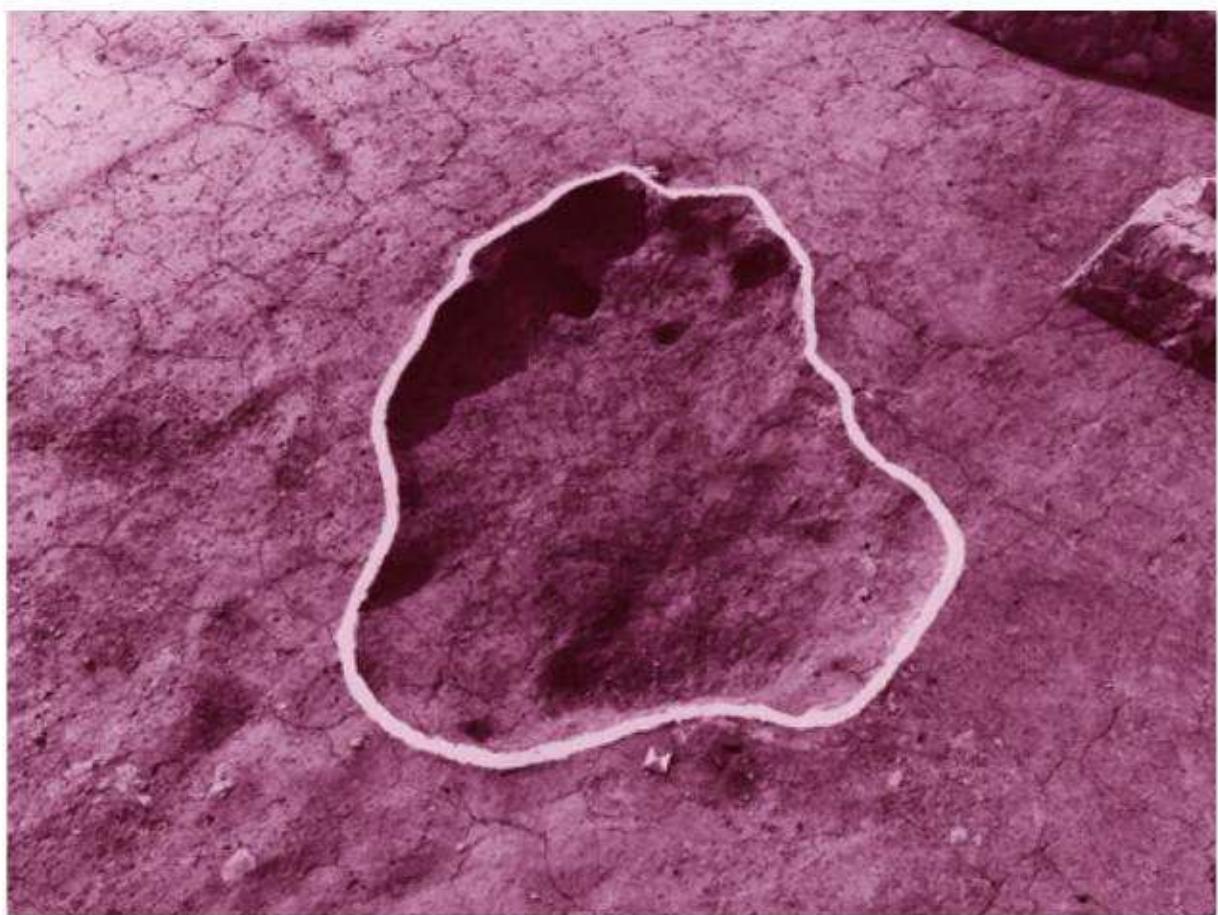
2 10-1区第2遺構面南側（北東から）



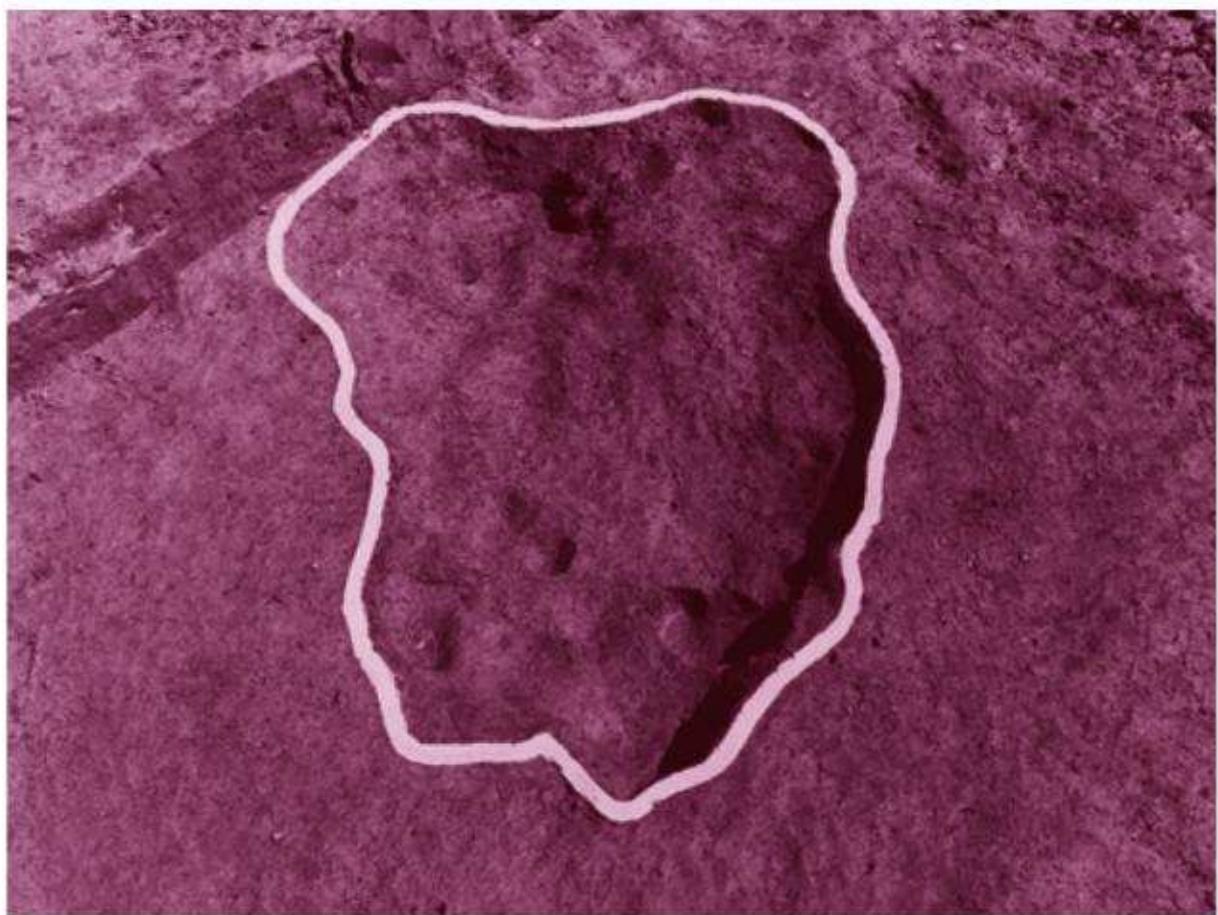
1 65土坑遺物出土状況（東から）



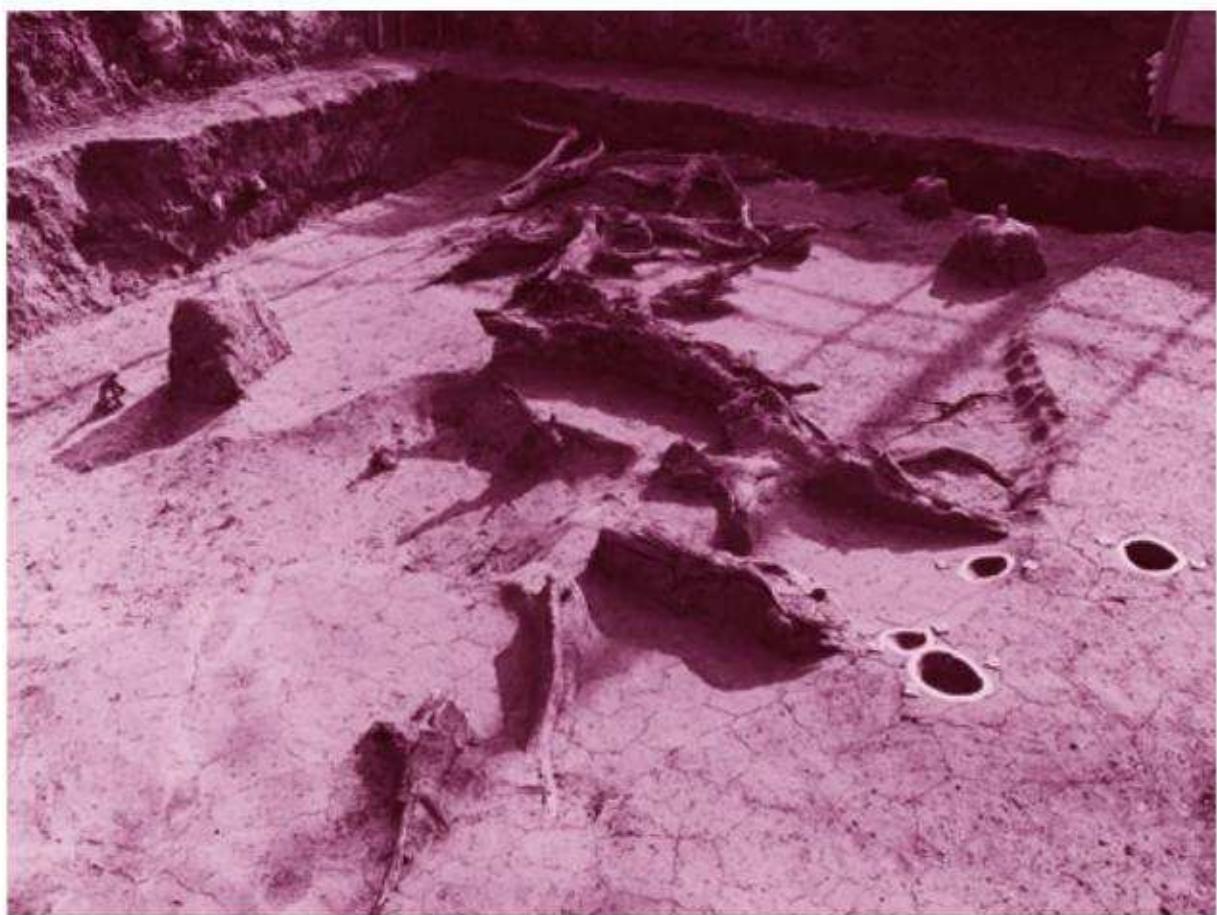
2 65土坑遺物出土状況（西から）



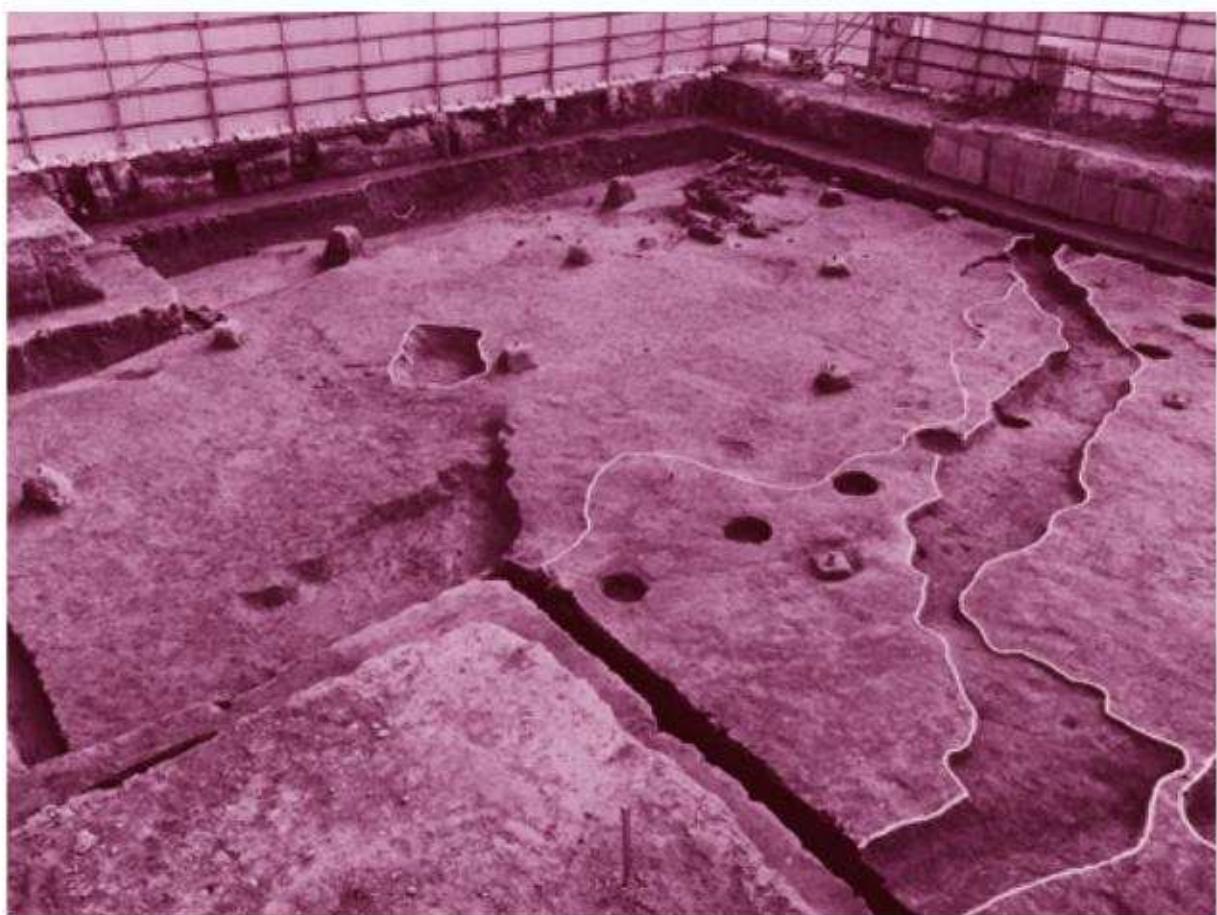
1 65土坑全景（東から）



2 65土坑全景（西から）



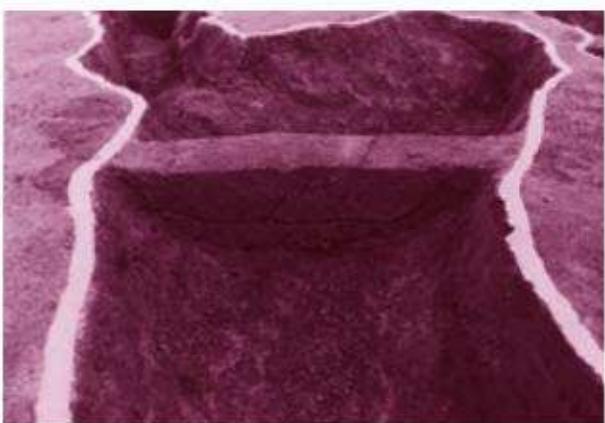
1 54河道流木出土状況（北から）



2 54河道全景（北から）



1 63溝土層断面（南から）



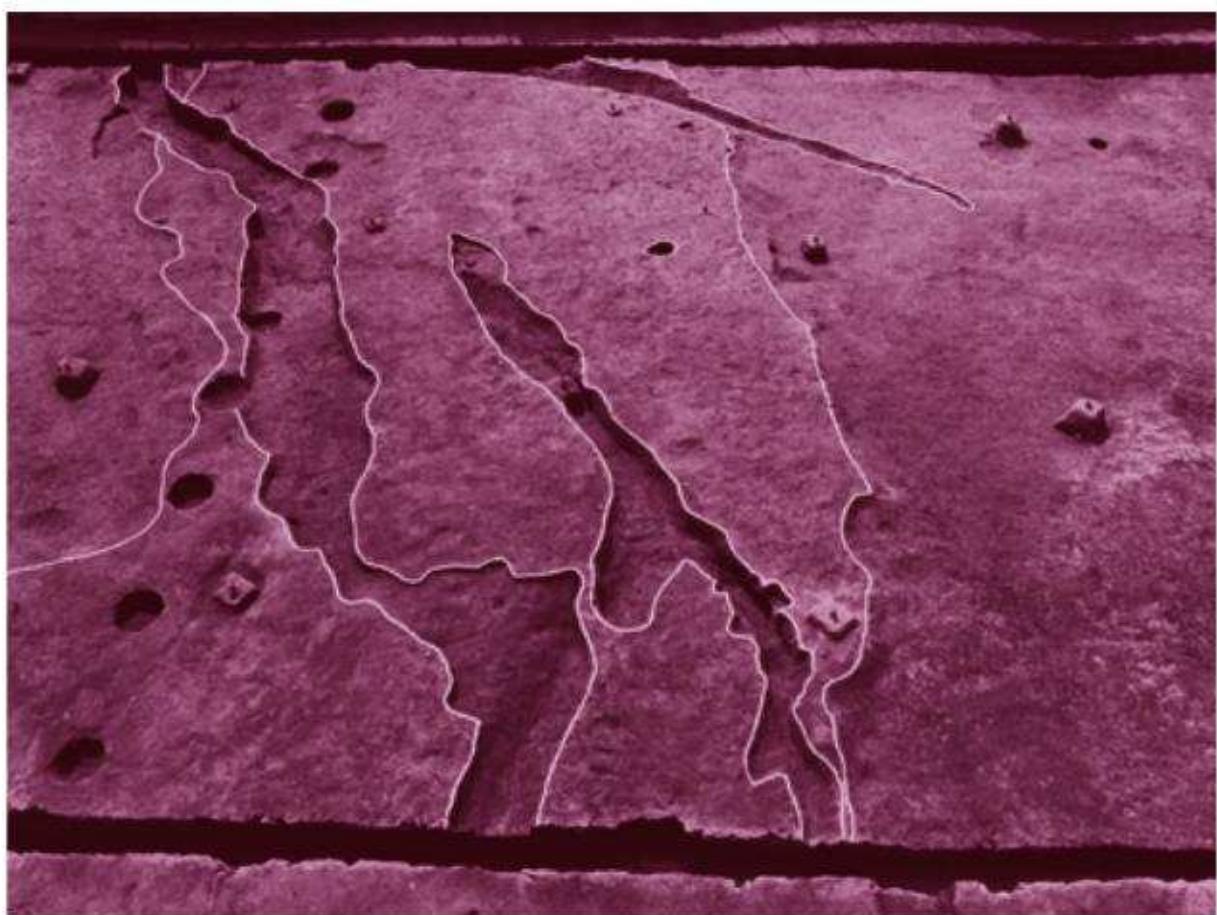
2 58溝土層断面（南から）



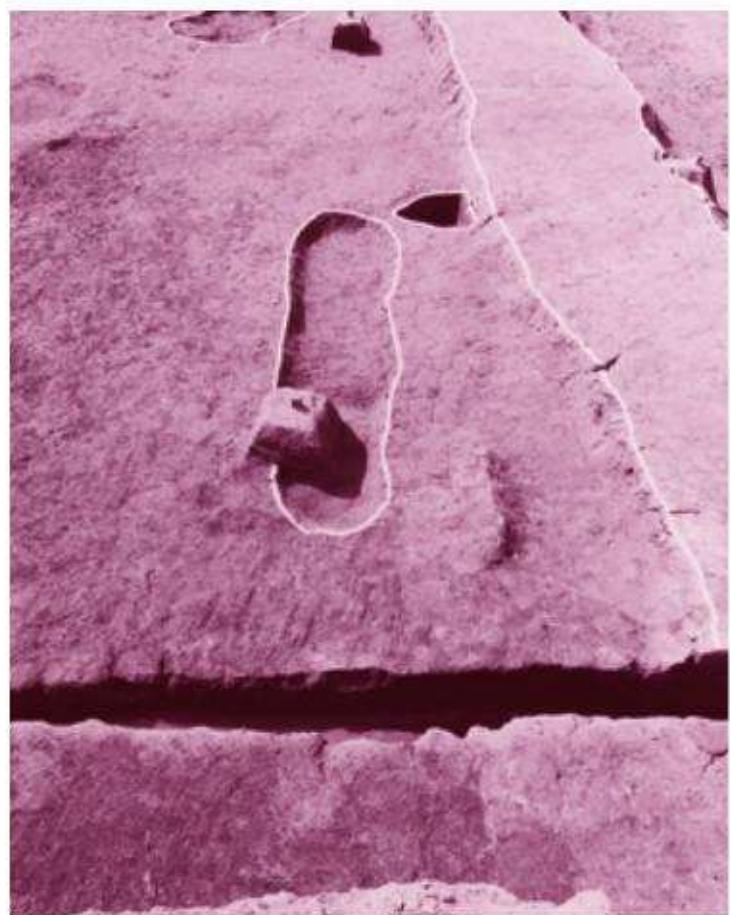
3 58溝土層断面（南から）



4 55溝土層断面（北西から）



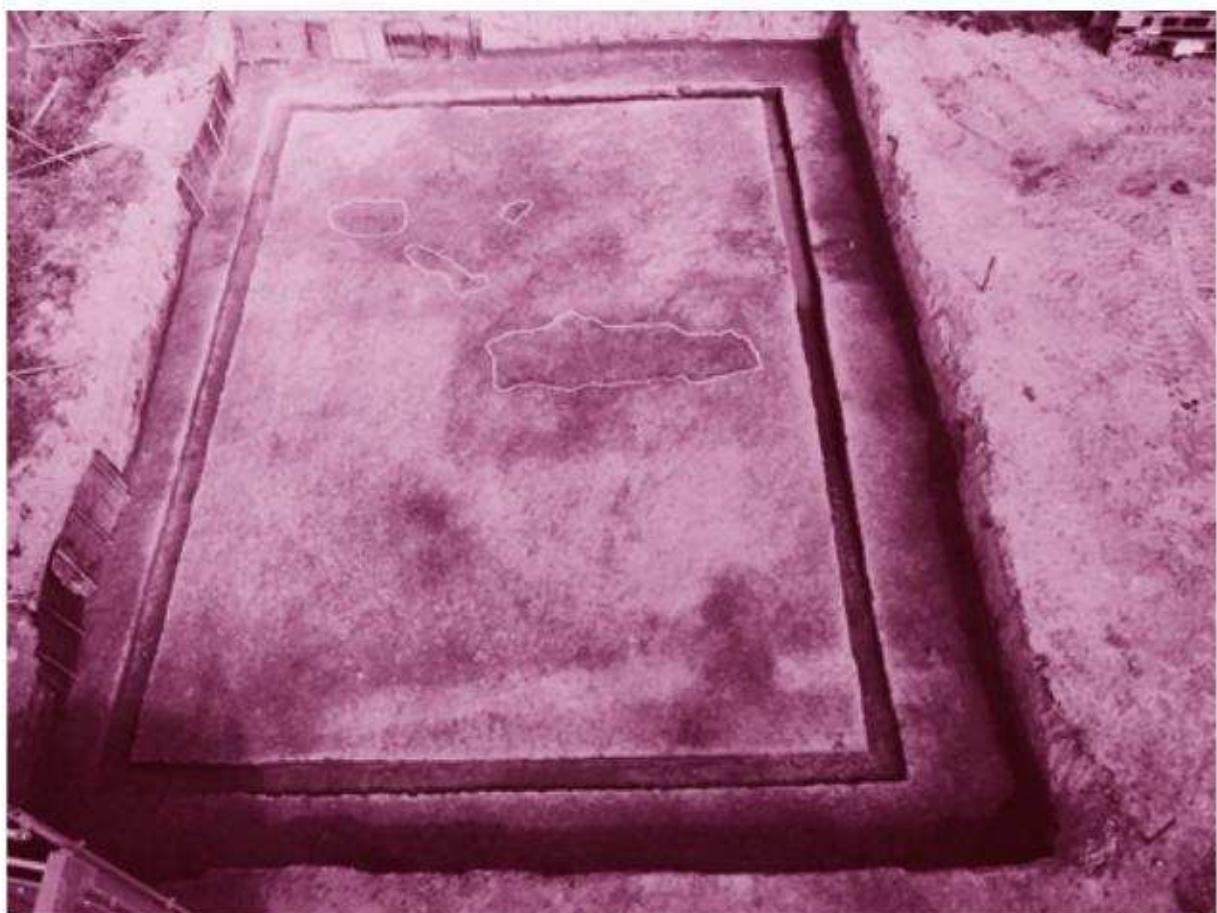
5 55・58・63溝全景（北東から）



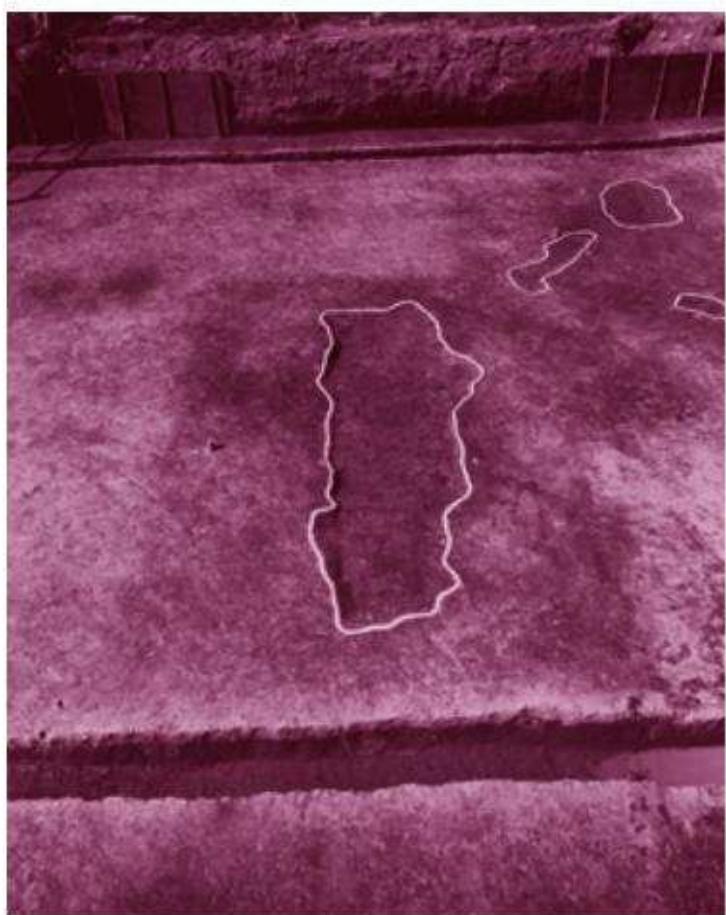
1 56土坑全景（北東から）



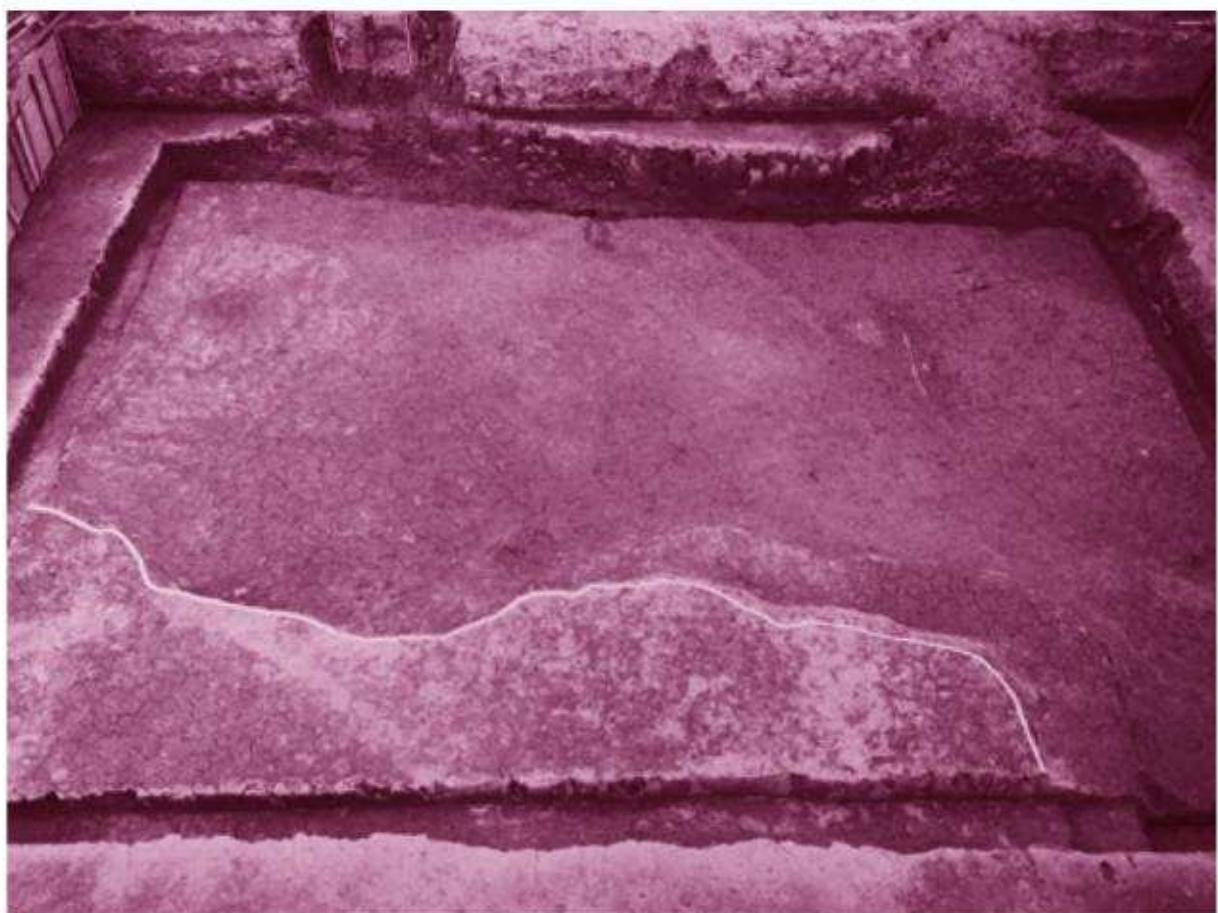
2 61土坑全景（南から）



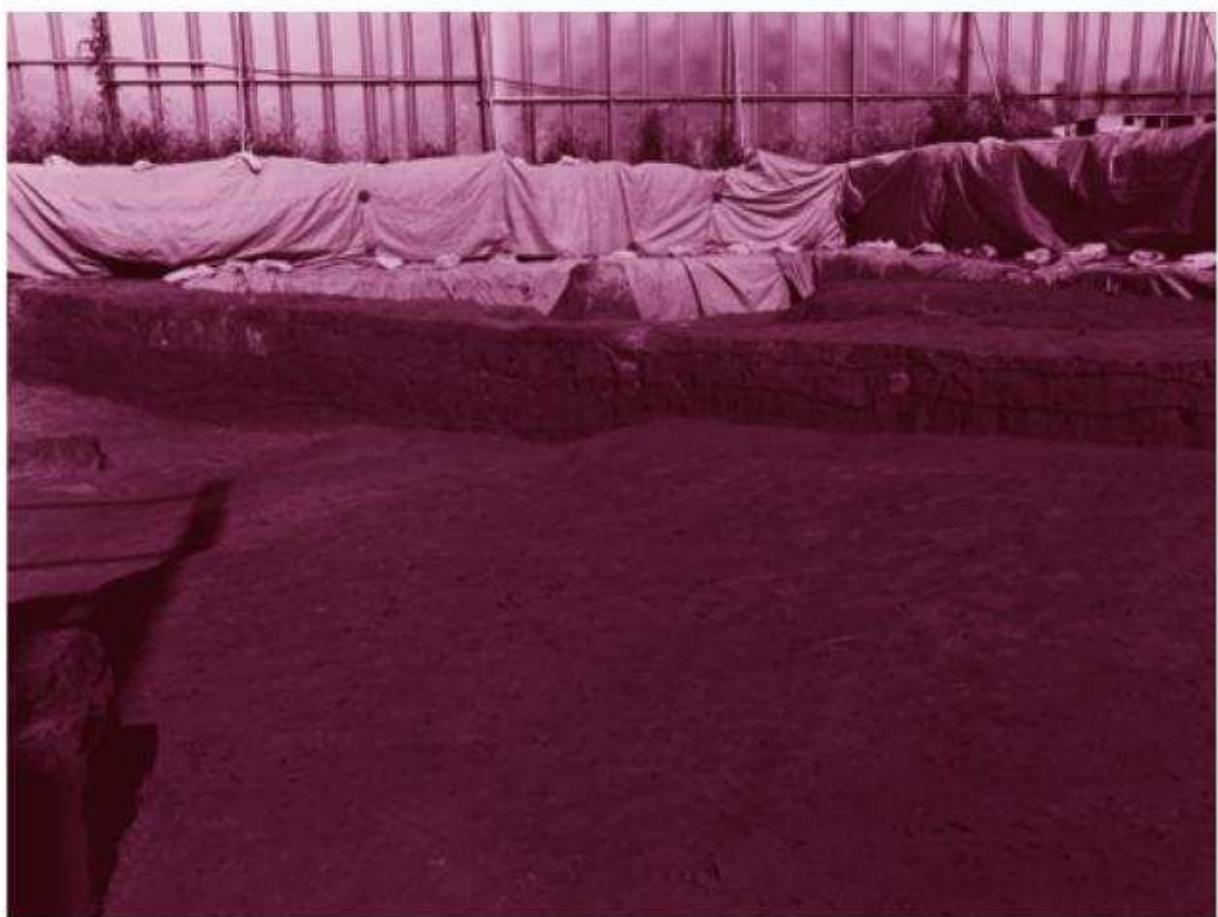
1 10-2区第1遺構面全景（南東から）



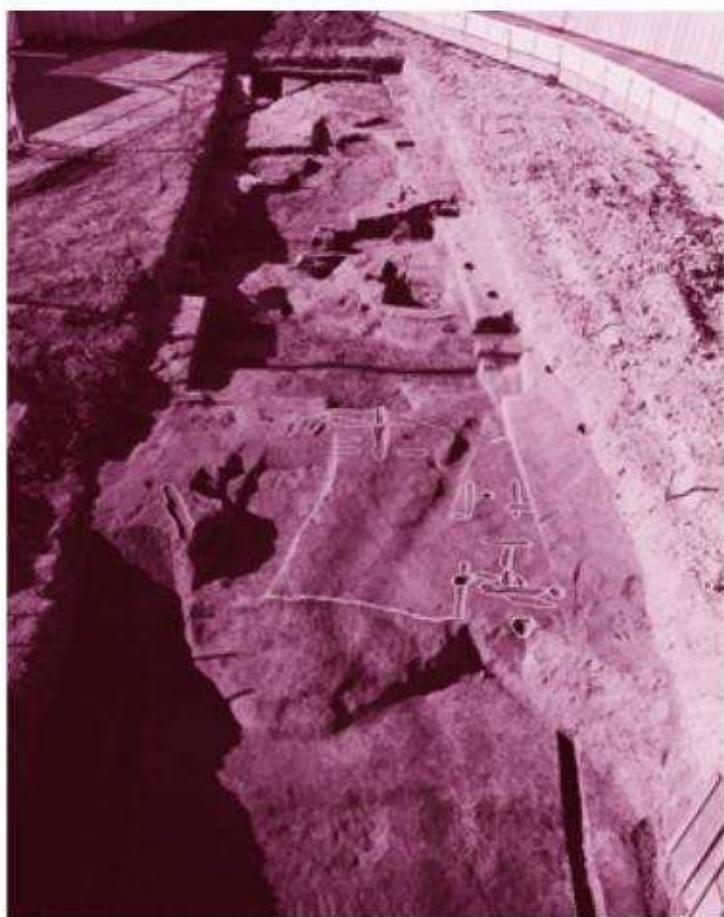
2 10-2区第1遺構面全景（北東から）



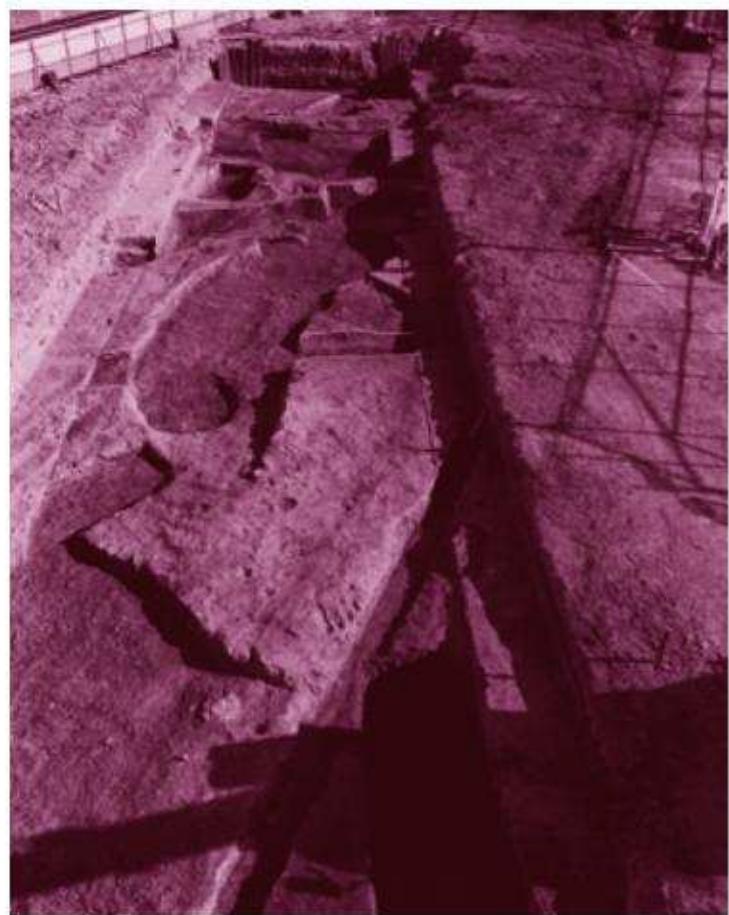
1 10-2区第2遺構面全景（南東から）



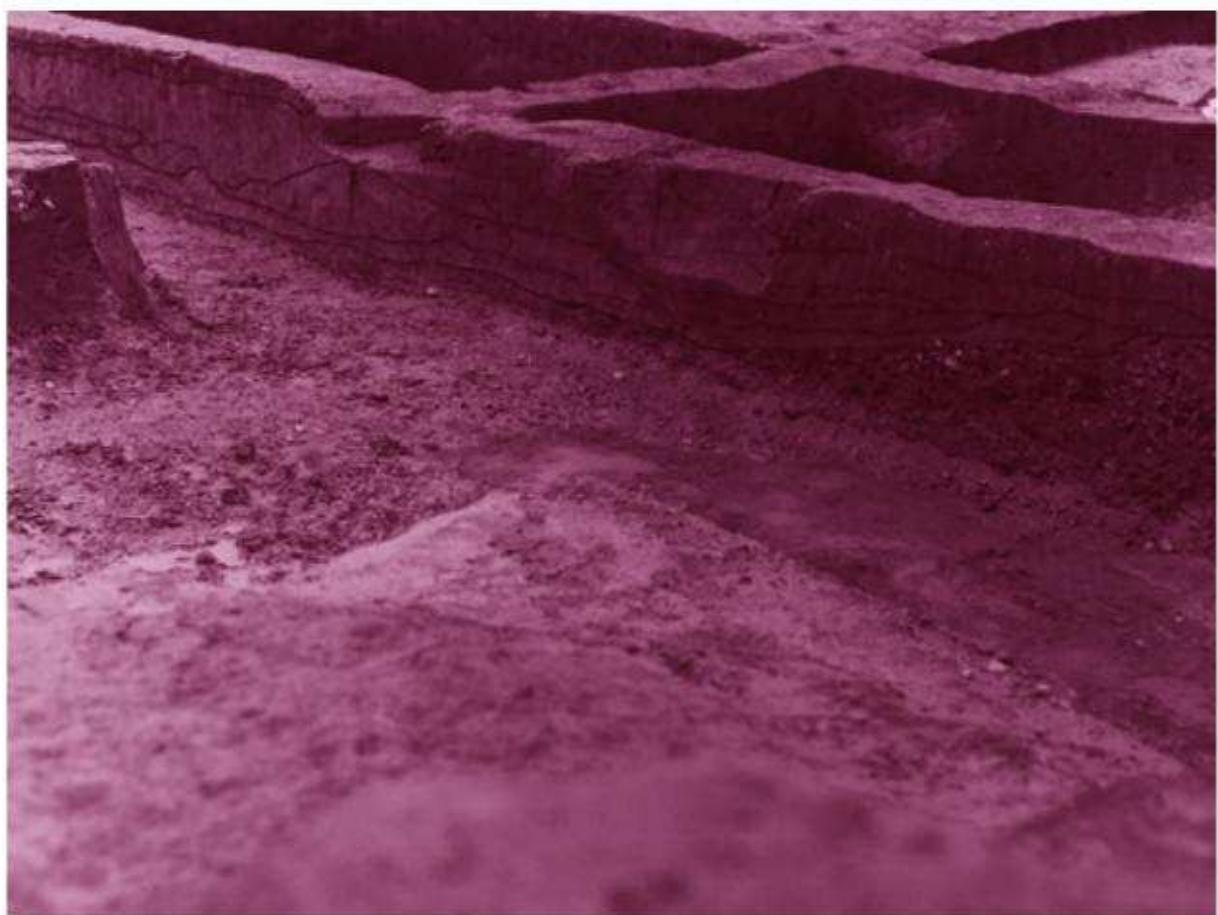
2 60河道士層断面（南から）



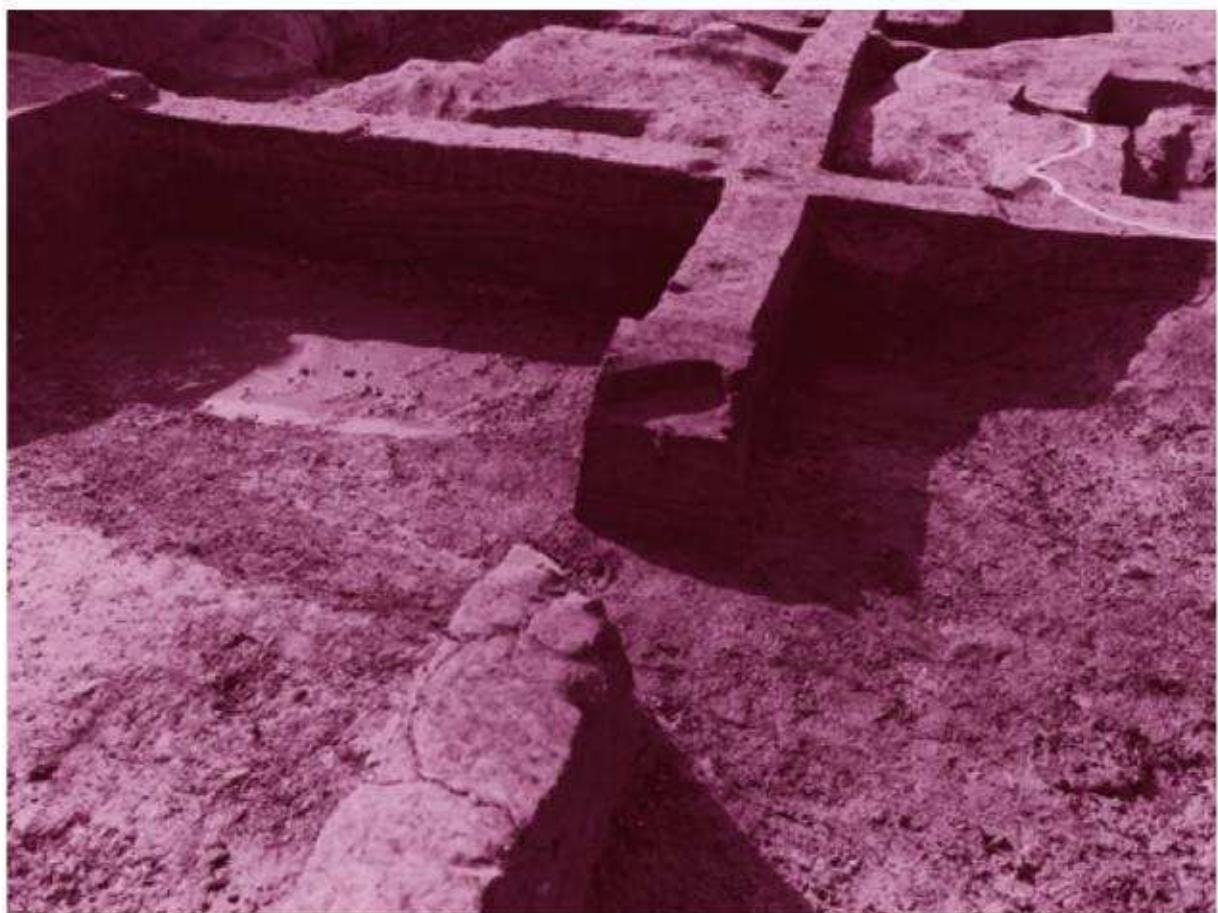
I 10-3区全景（北東から）



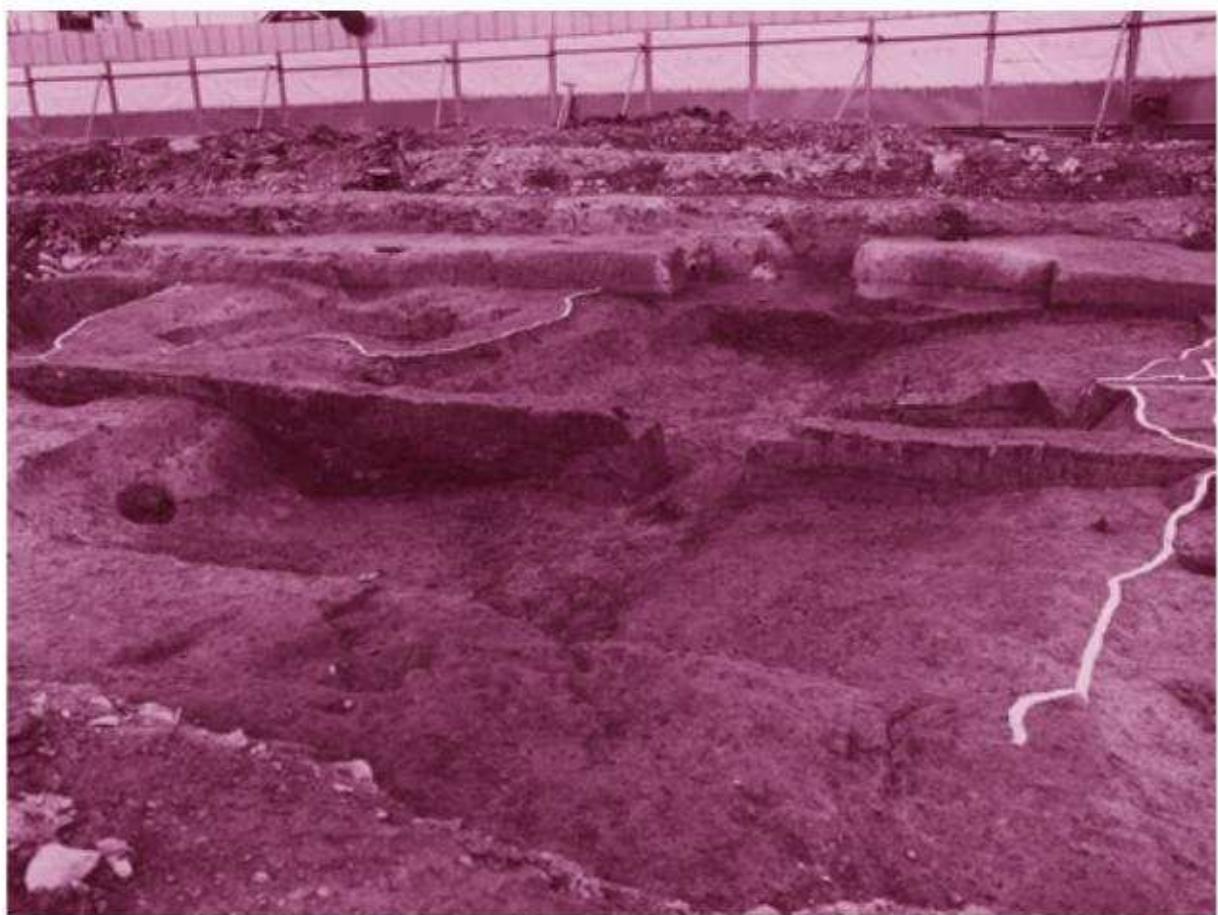
2 10-3区全景（南西から）



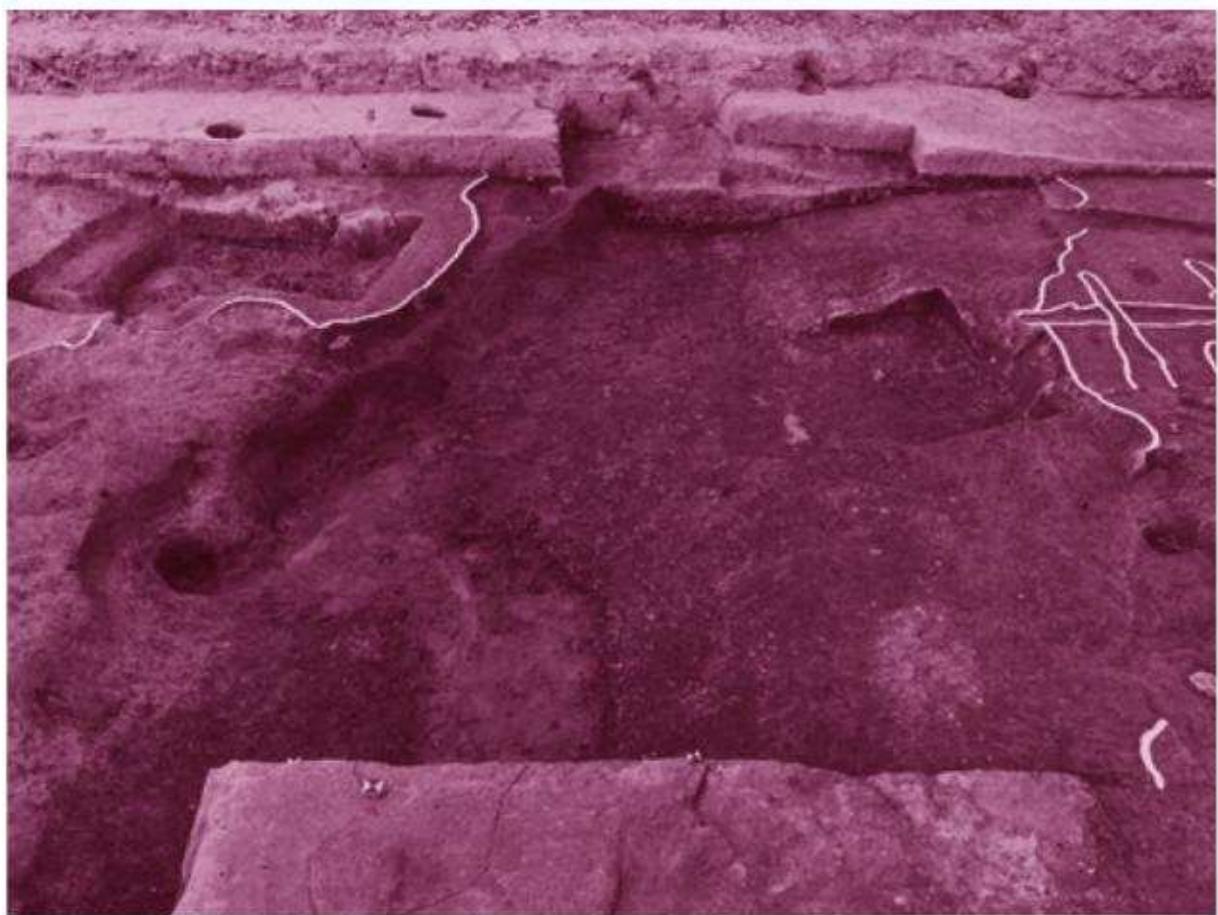
1 100河道土層断面（北から）



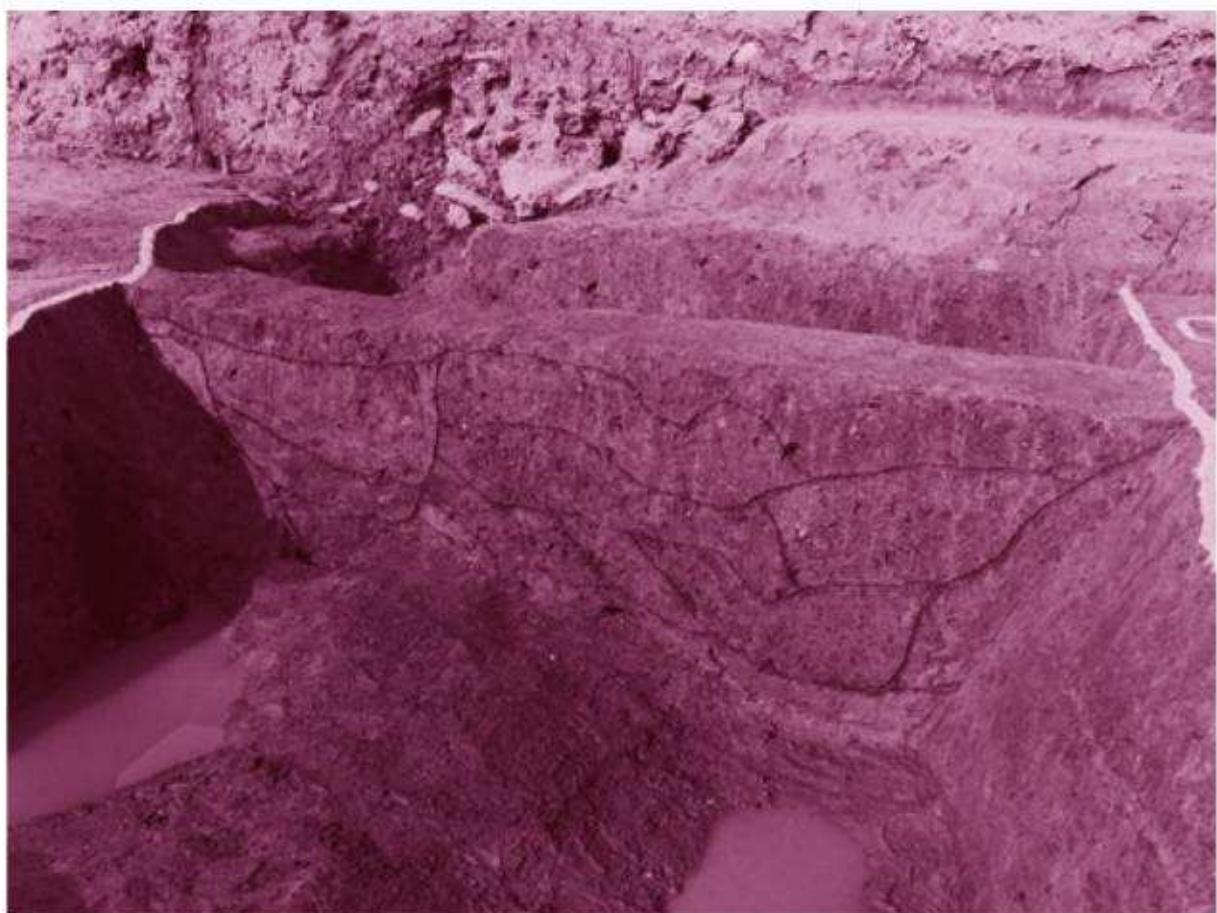
2 100河道土層断面（北から）



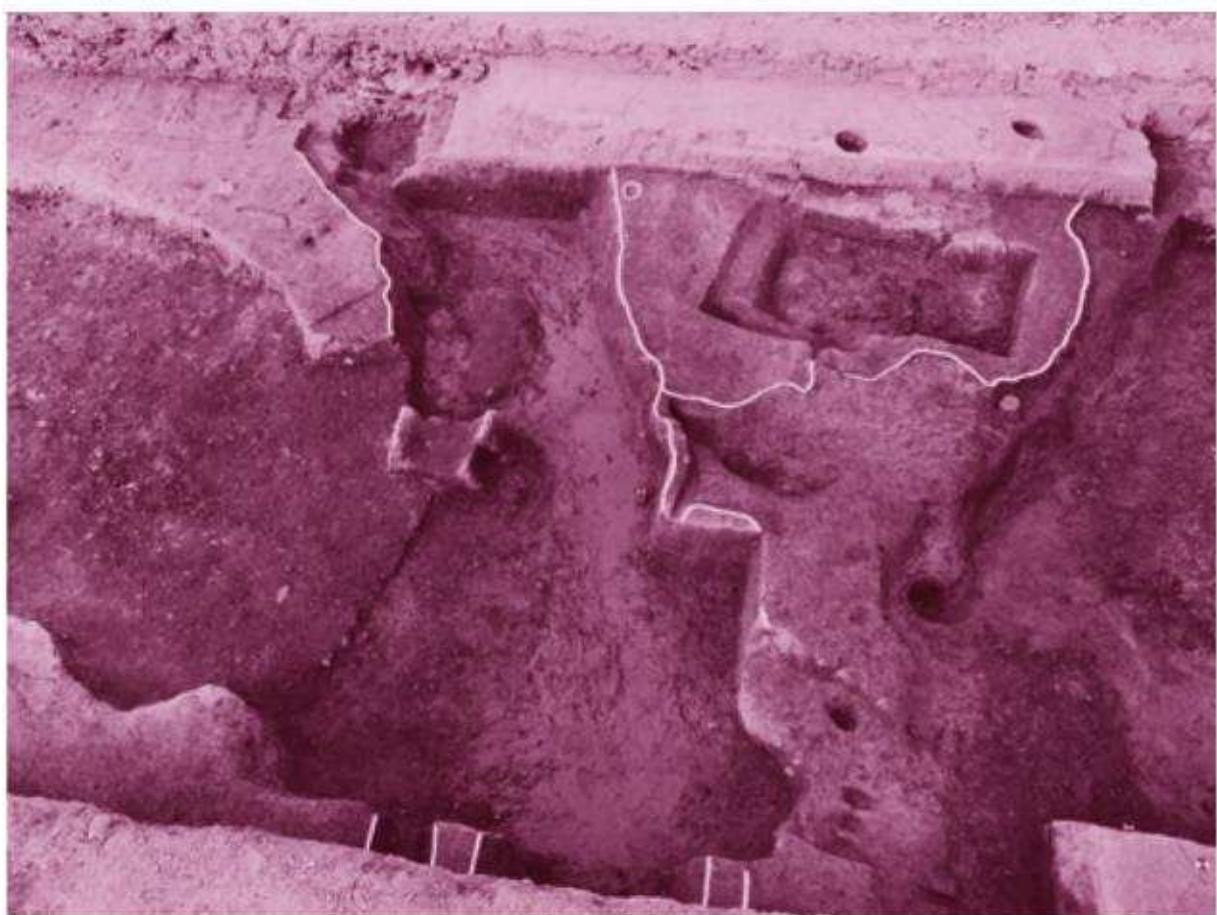
1 100河道全景（東から）



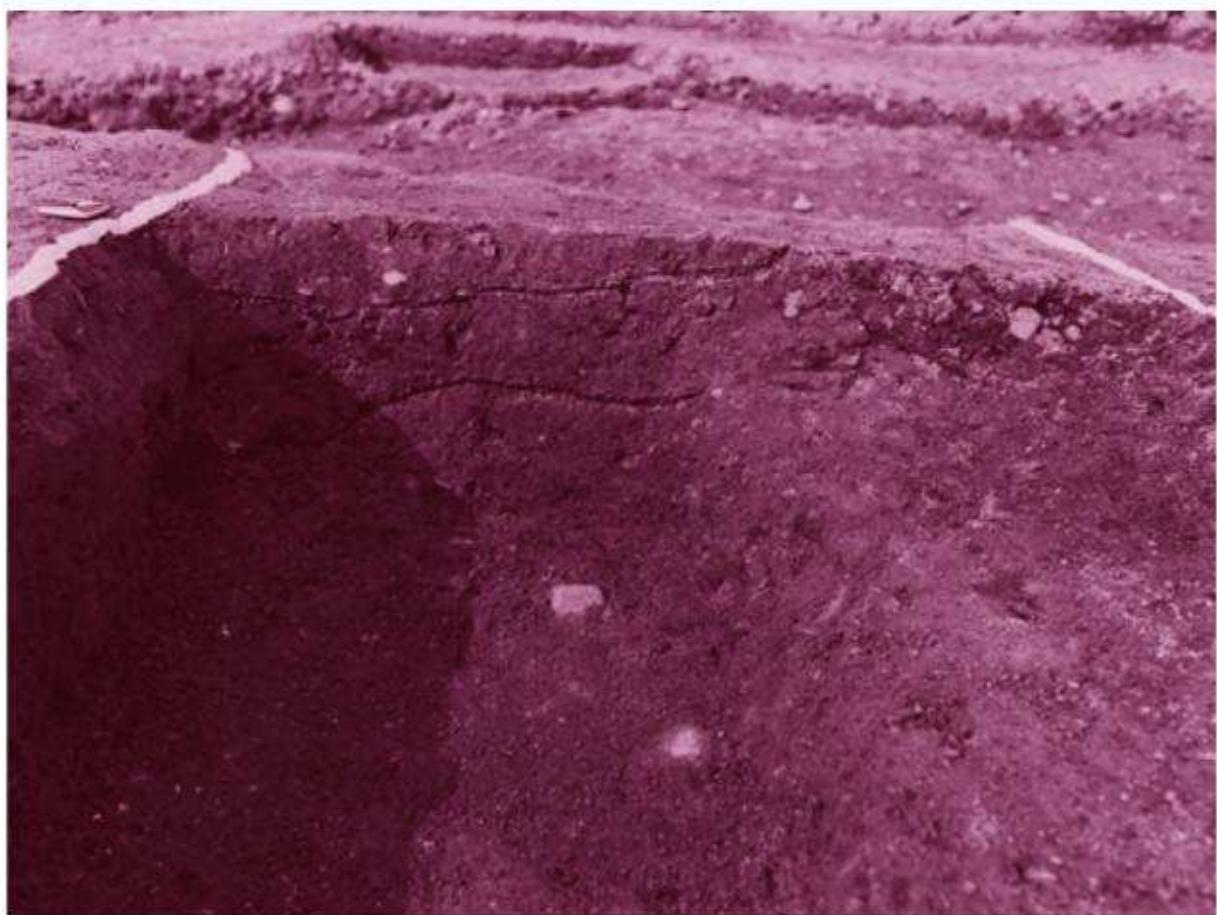
2 100河道全景（南東から）



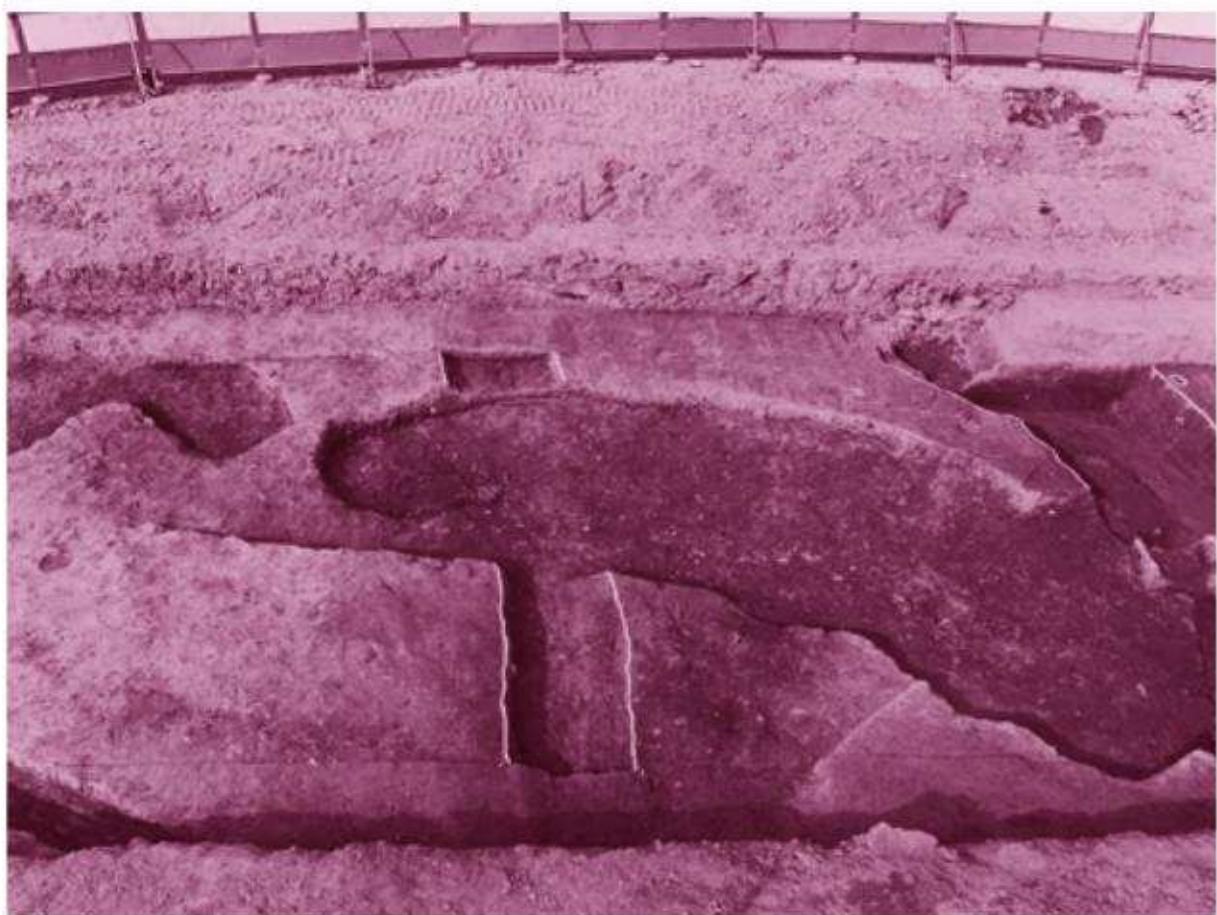
1 101・102溝土層断面（南東から）



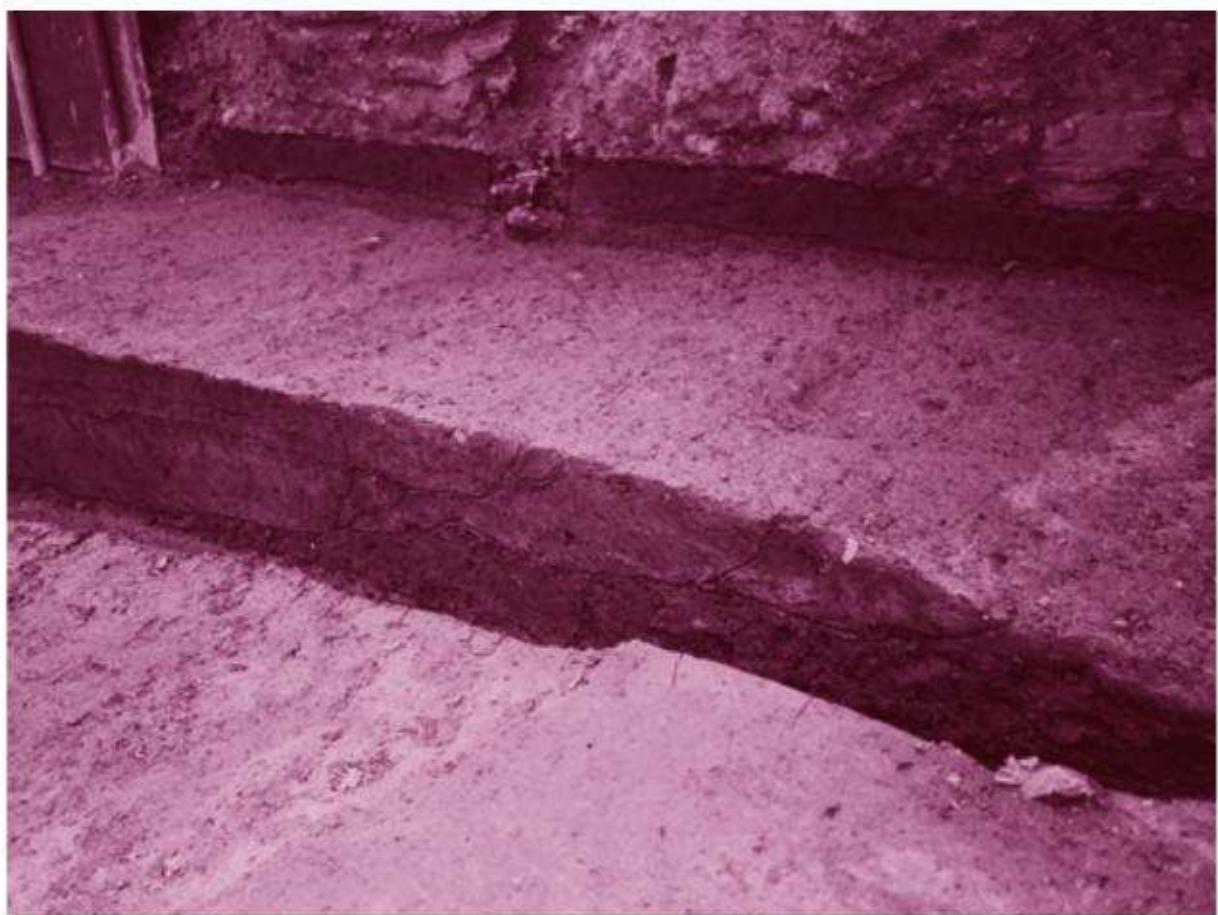
2 101・102溝全景（南東から）



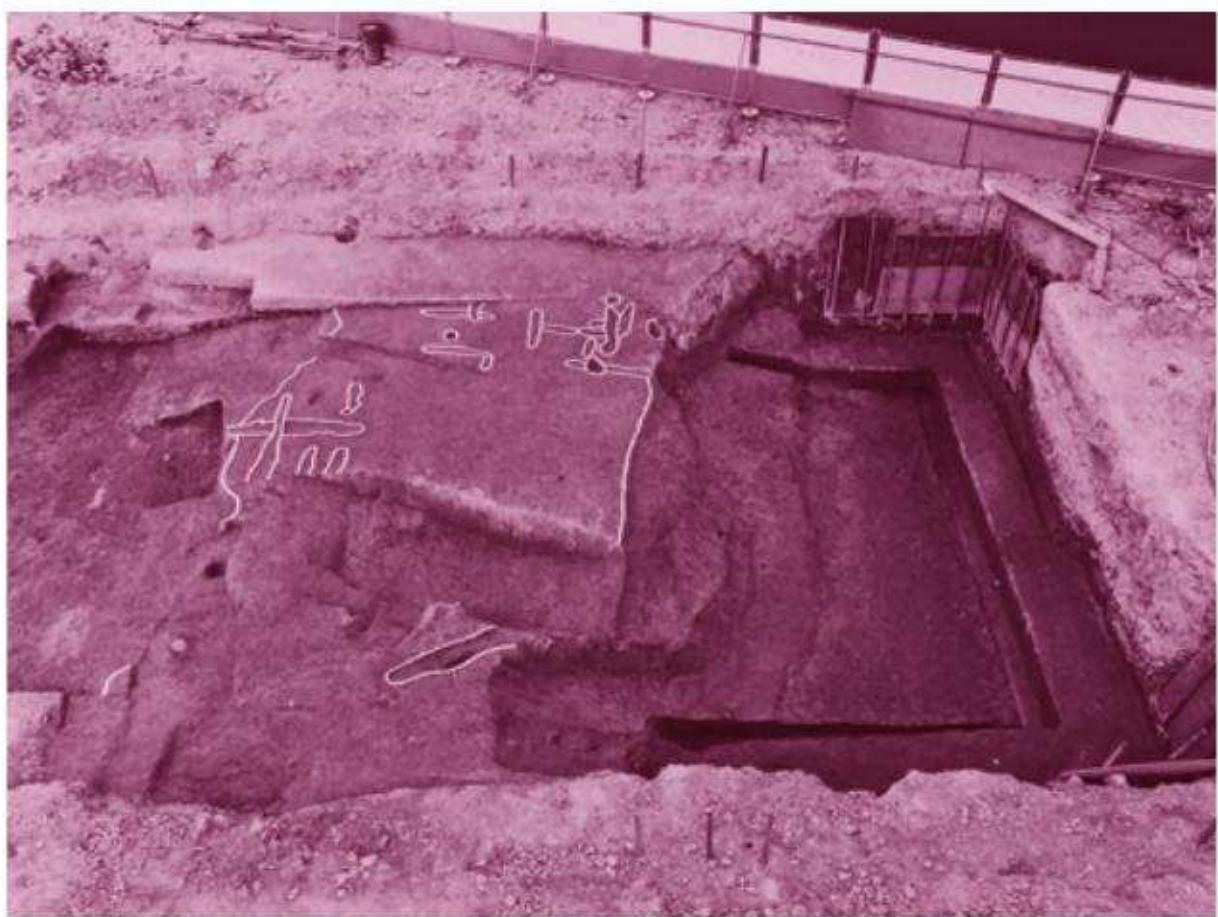
1 104溝土層断面（南東から）



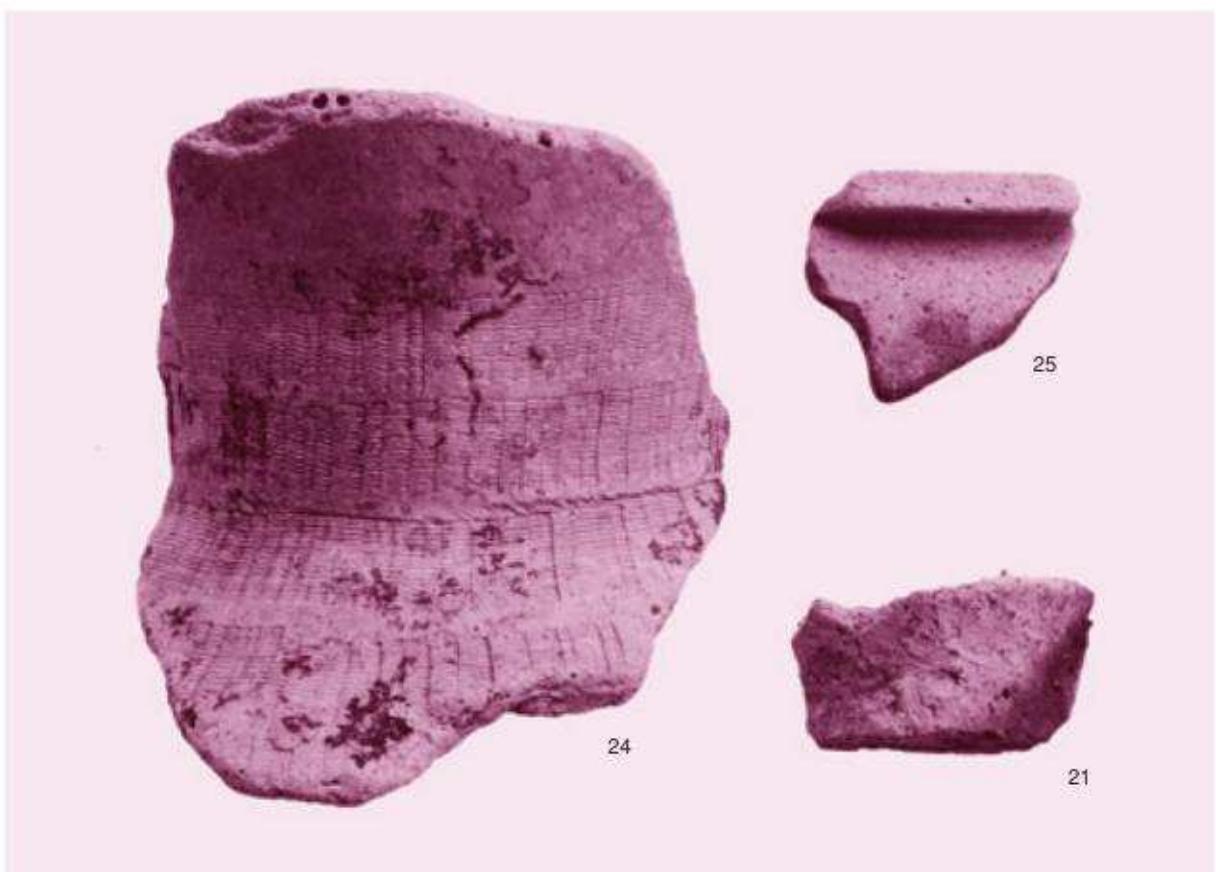
2 104溝全景（南東から）



1 73水田土層断面（西から）



2 73水田全景（南東から）



1 壺・甕



24

2 壺



1 高杯



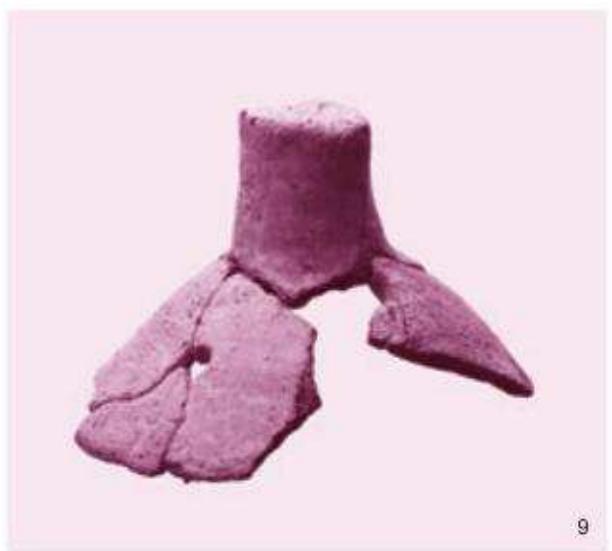
2 高杯



3 高杯



4 高杯



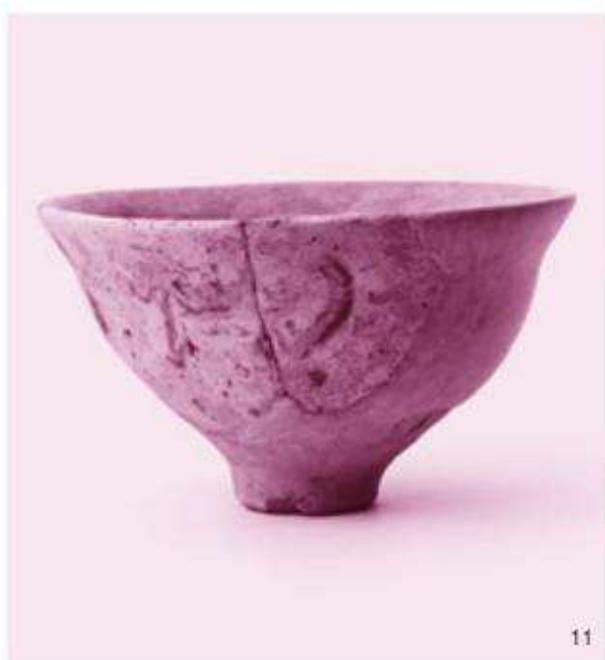
5 高杯



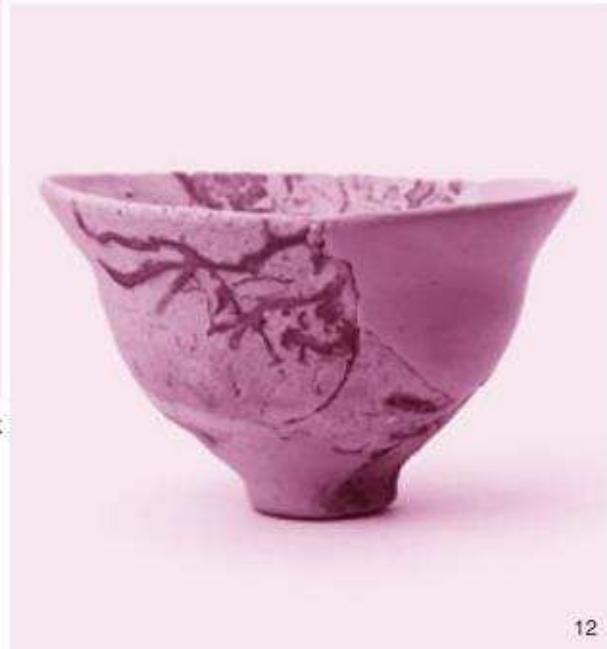
6 高杯



1 高杯



3 鉢



4 鉢

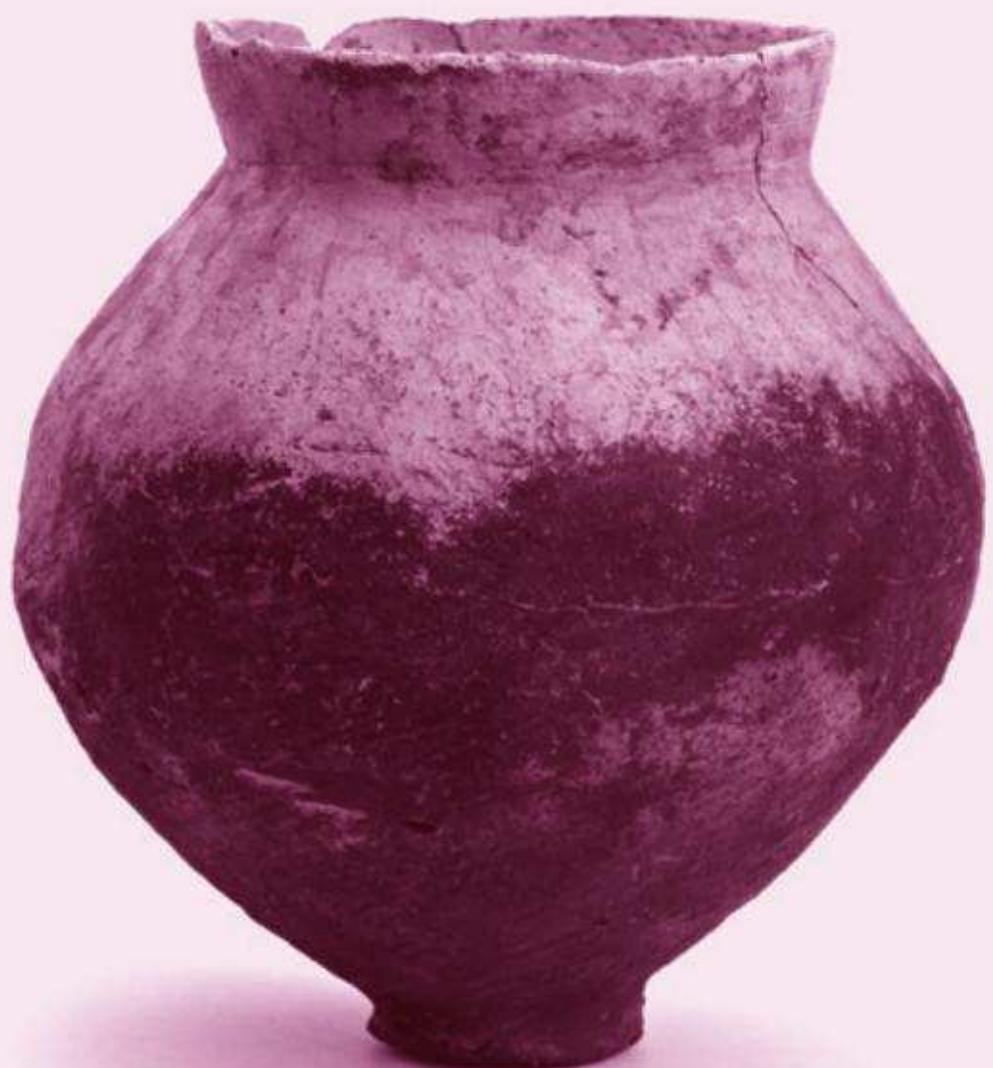


1 高杯

図版
31

09
—
1区

02 河道出土土器



14

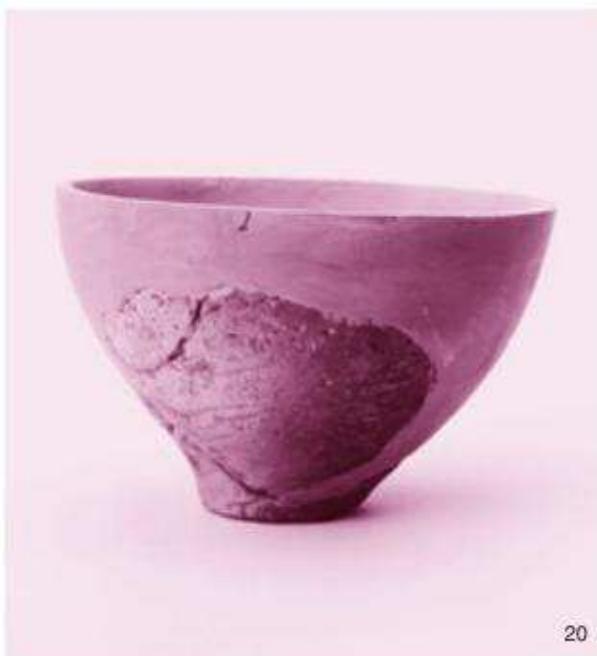
1 罐



17
1 菩



19
2 菩



20
3 菩



33
4 製塙土器

図版
33

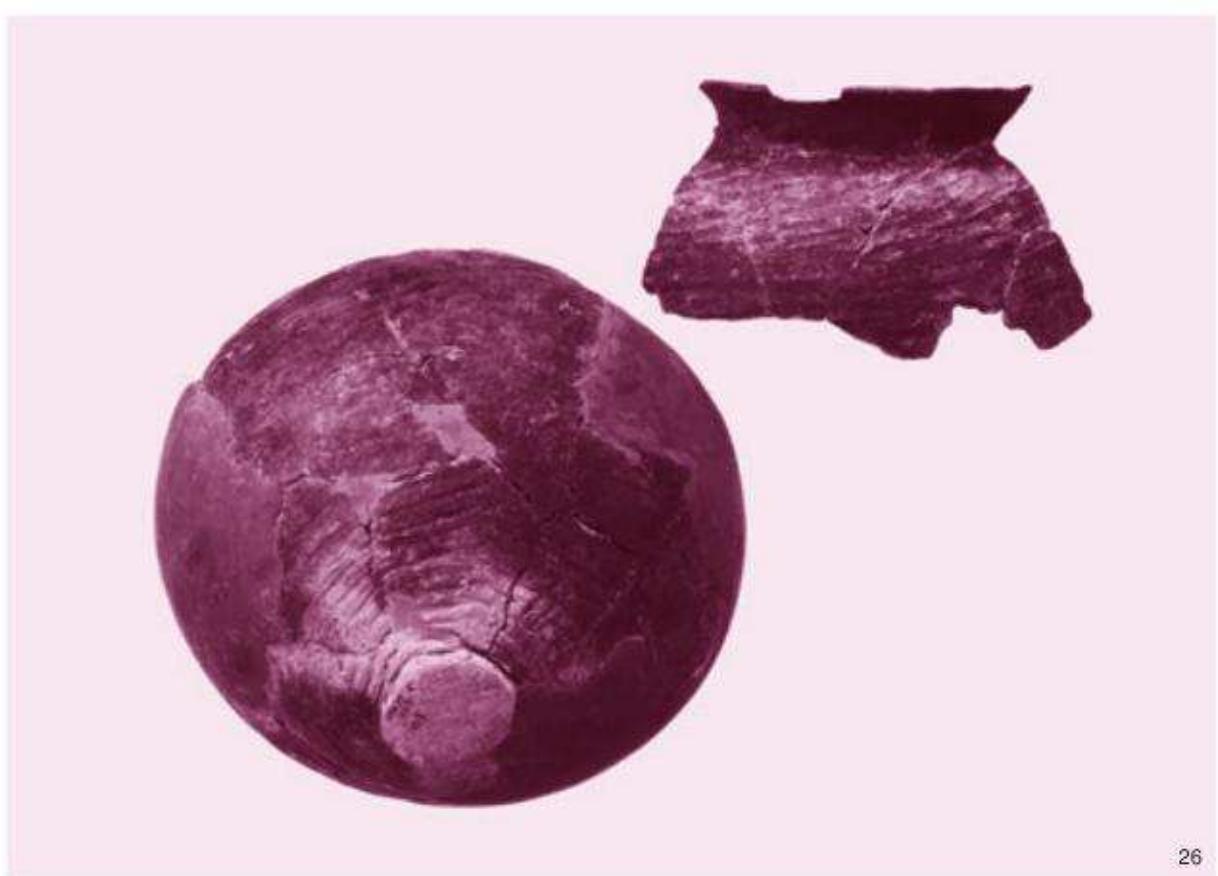
09
—
1区

02 河道出土土器



15

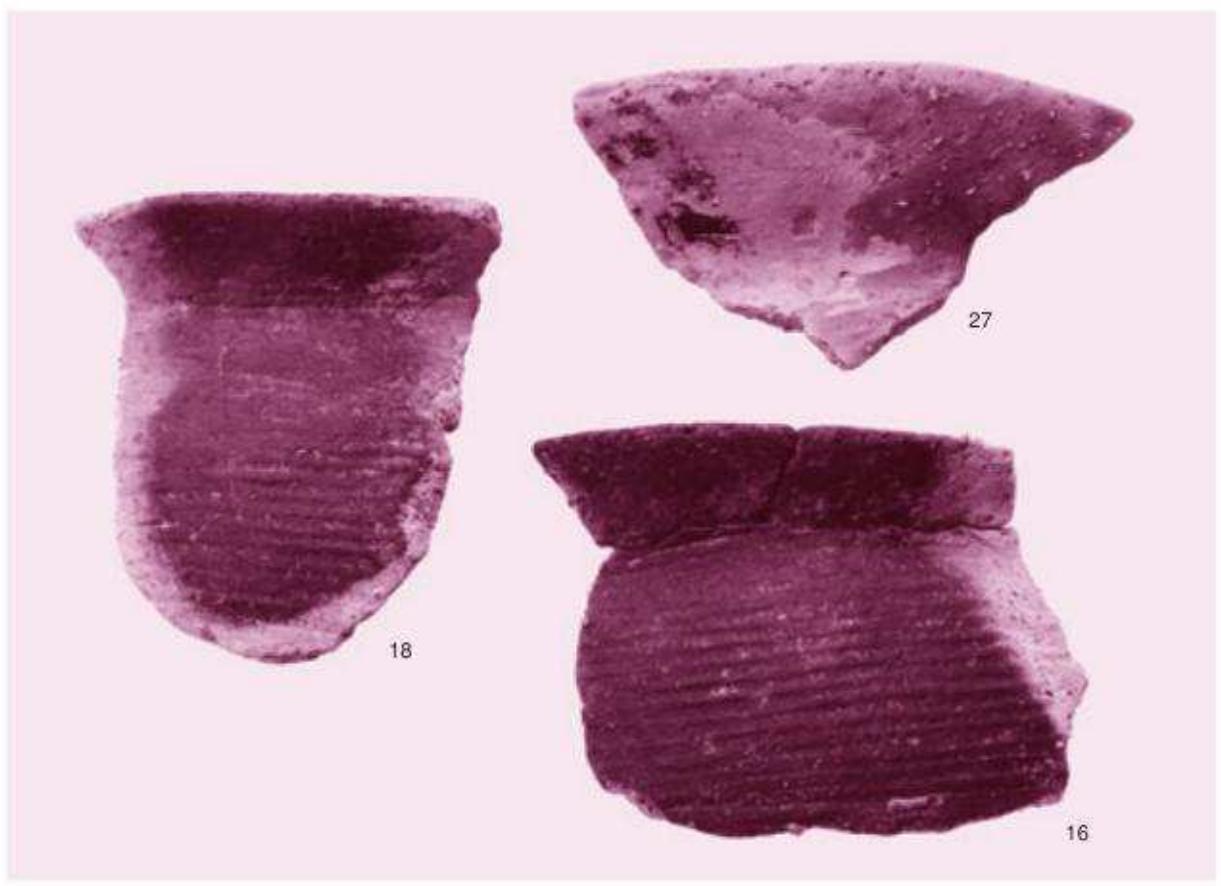
1 瓢



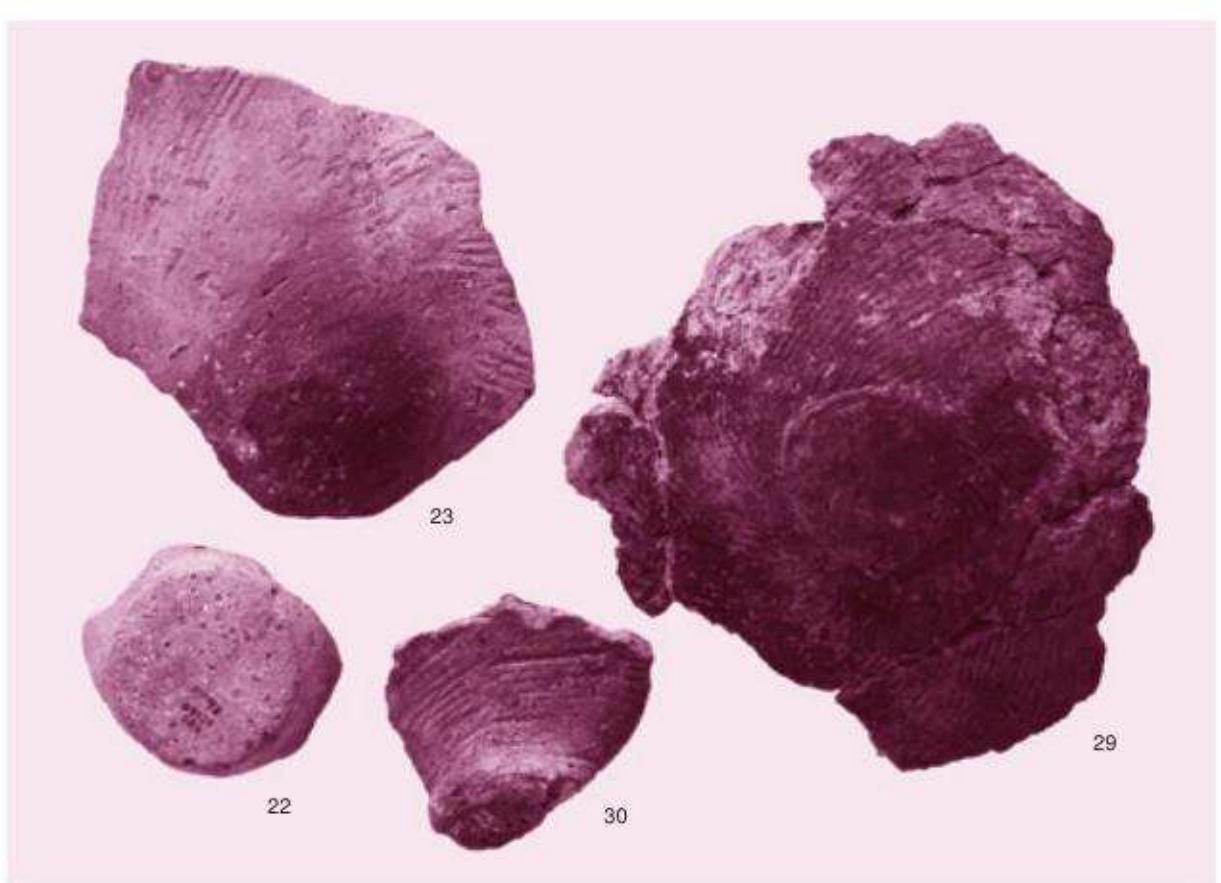
26

2 瓢

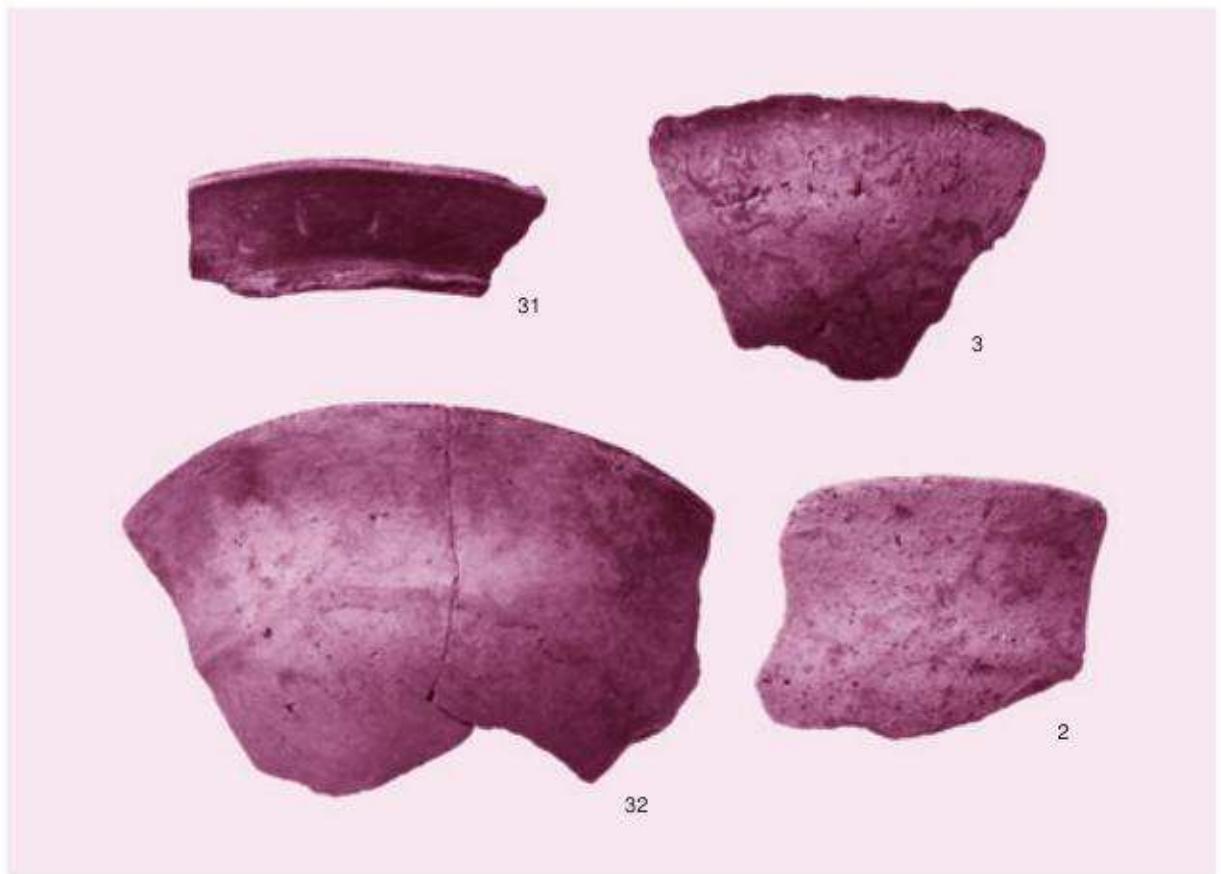
1 瓦



2 瓦



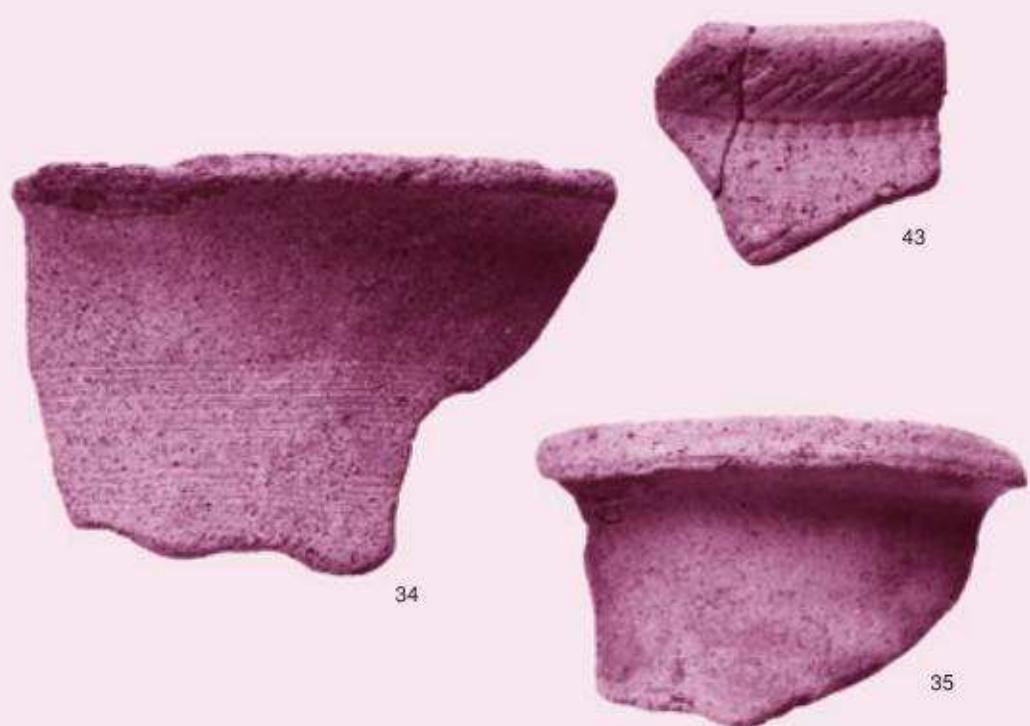
1 壺・高杯



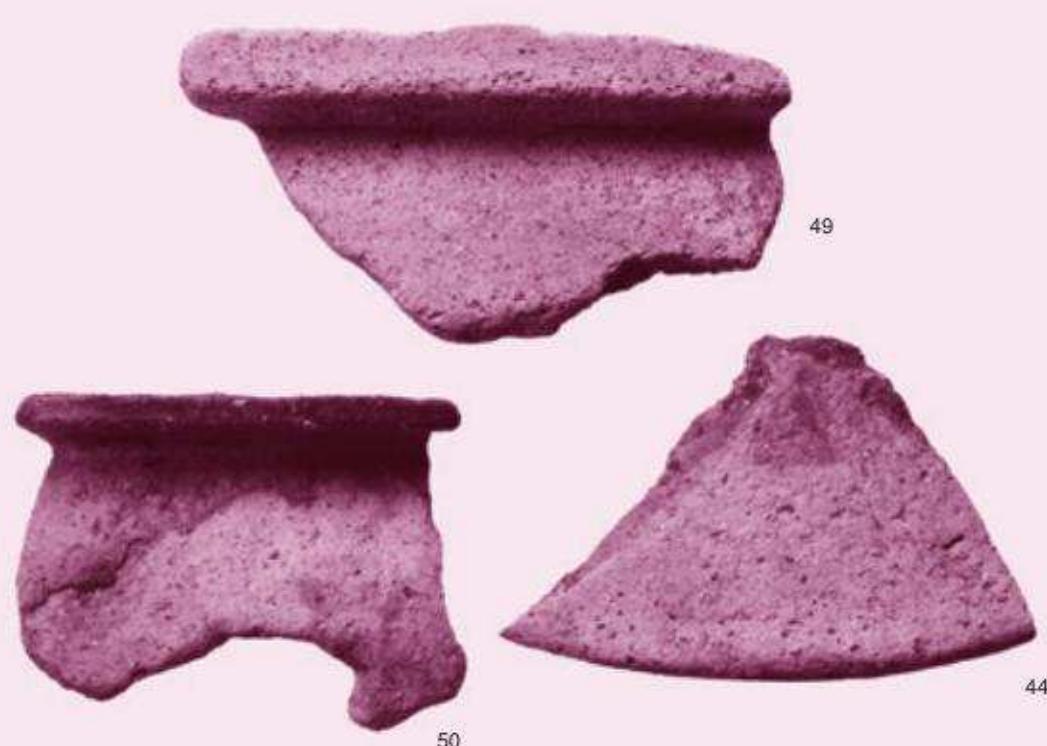
28

2 壺



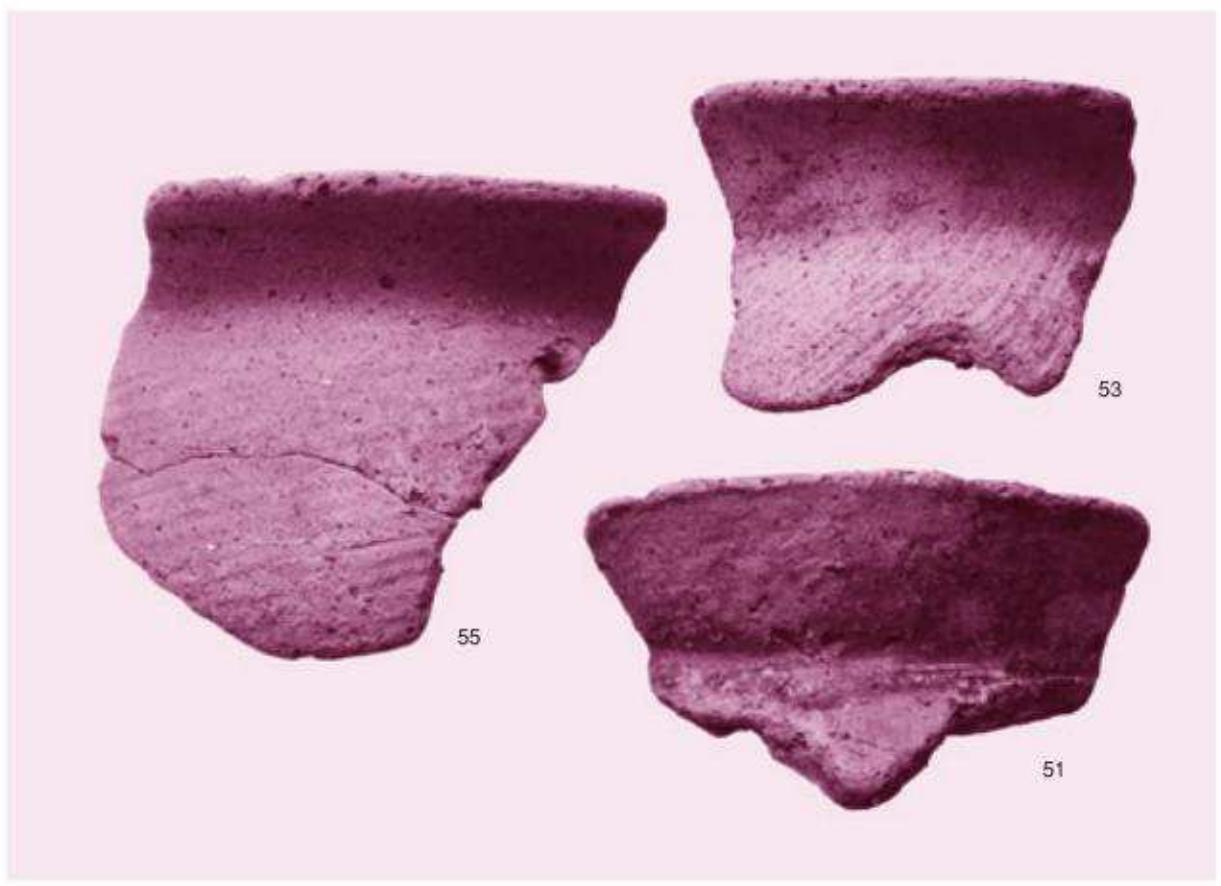


1 壺・無頸壺



2 瓢・台付土器

1 瓦



2 瓦

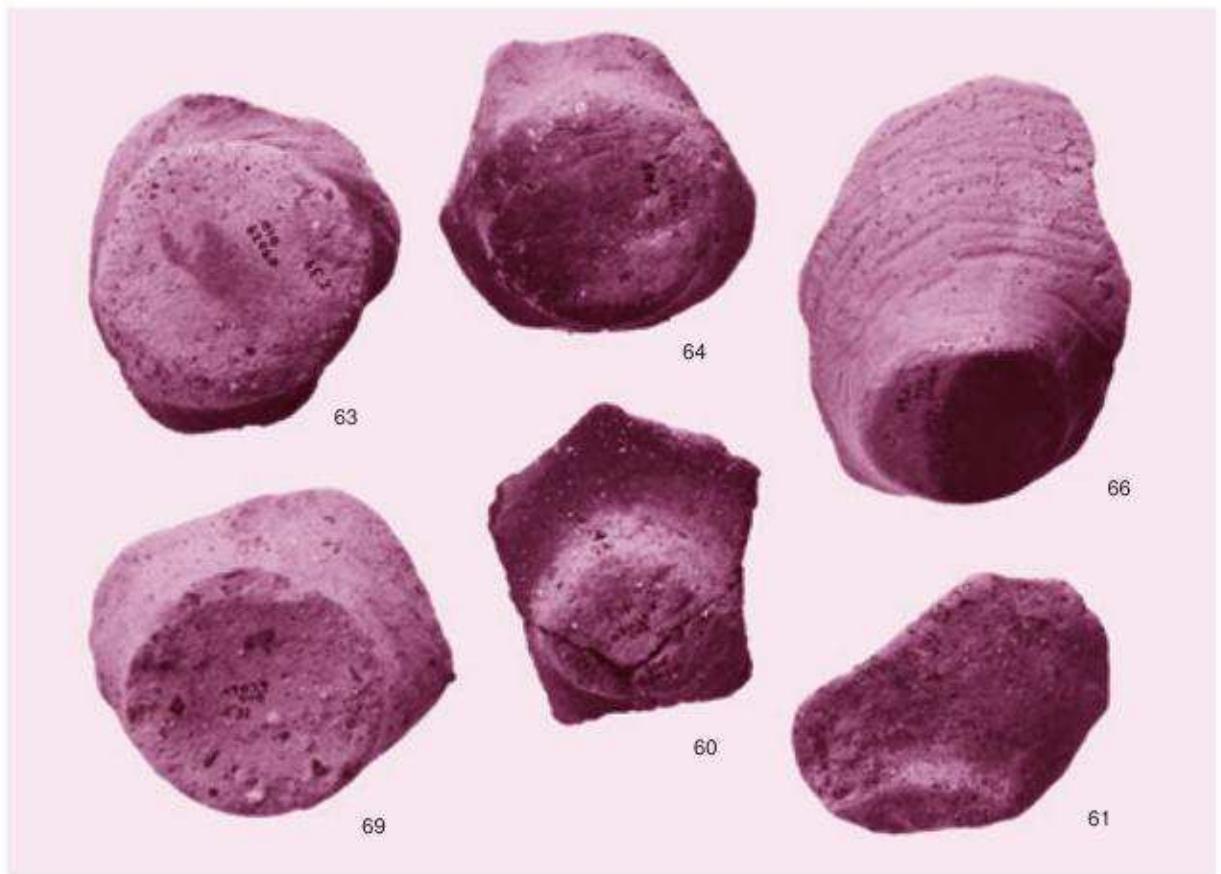


図版
38

09
—
1区

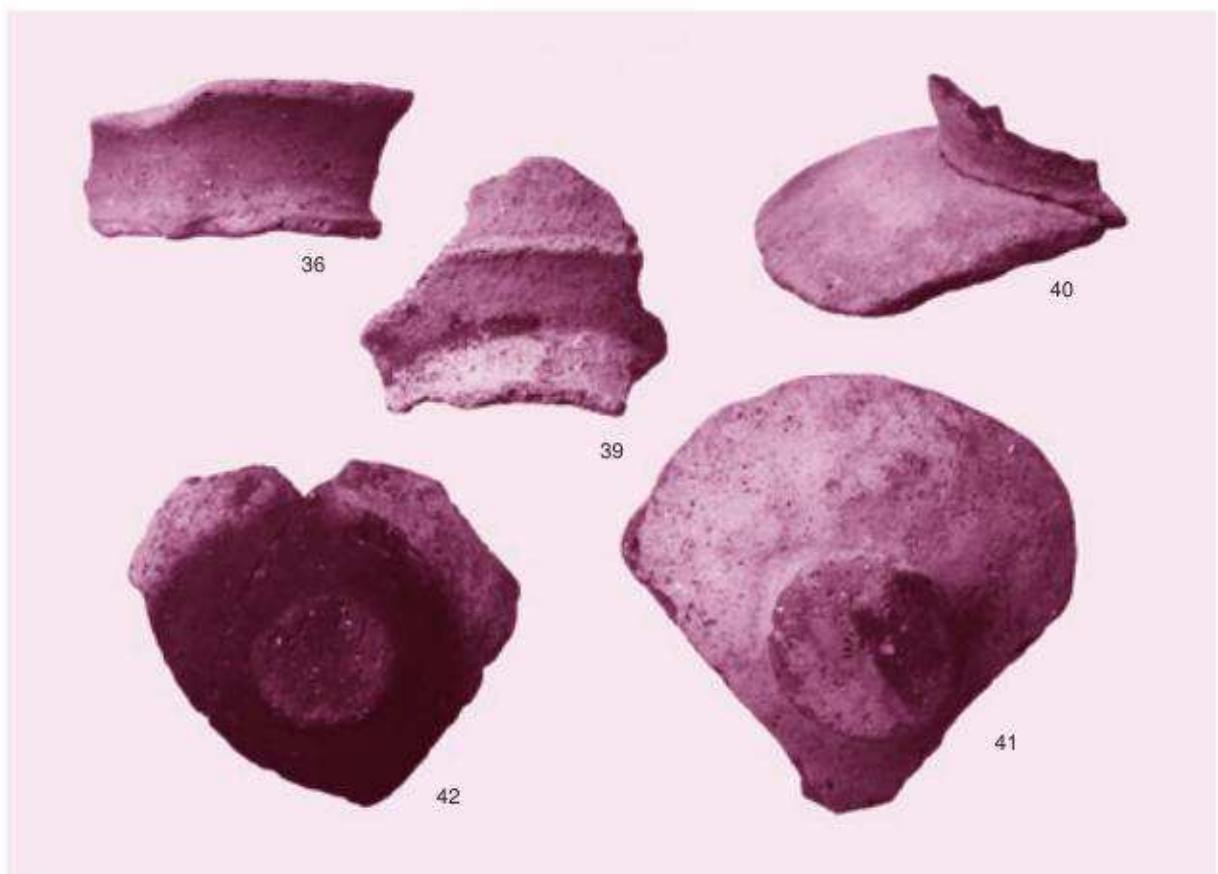
01 河道出土土器

1 瓢

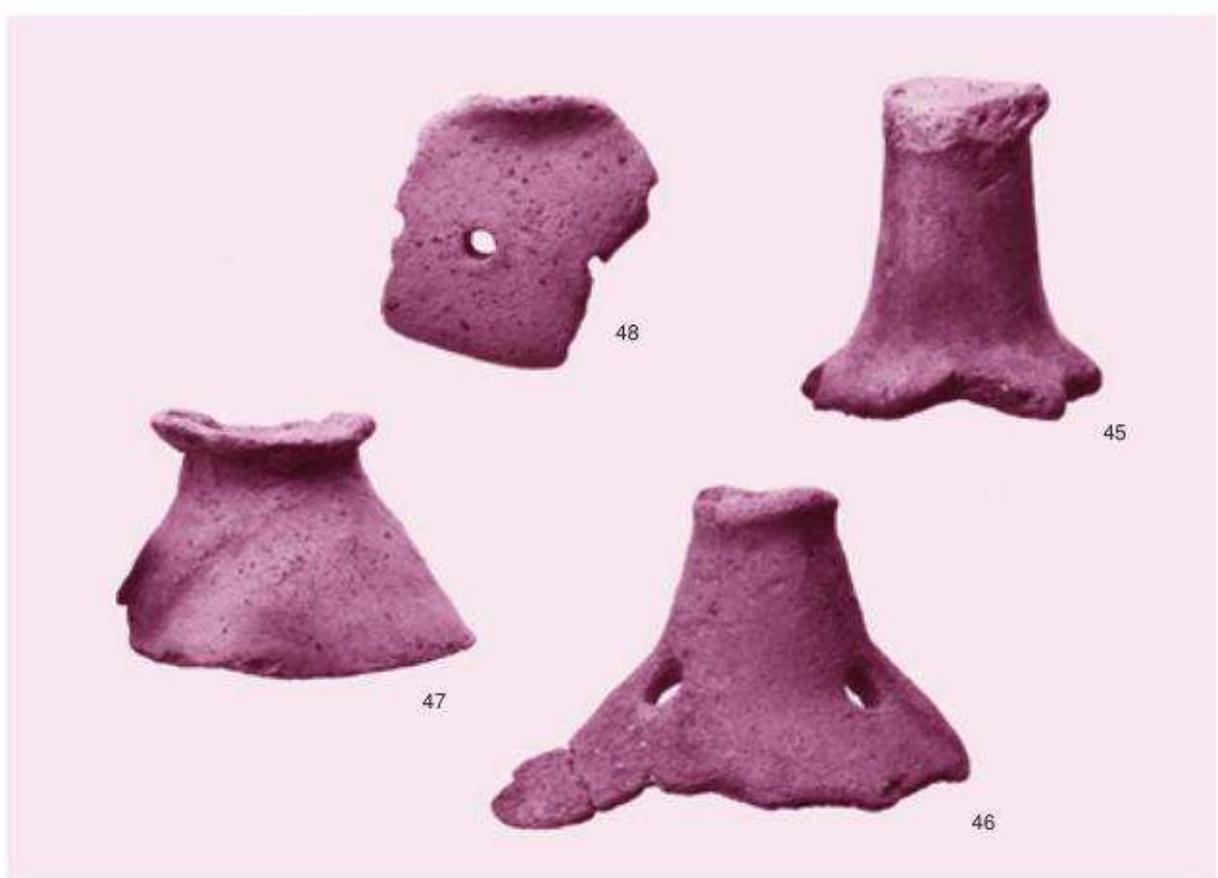


2 瓢





1 壺

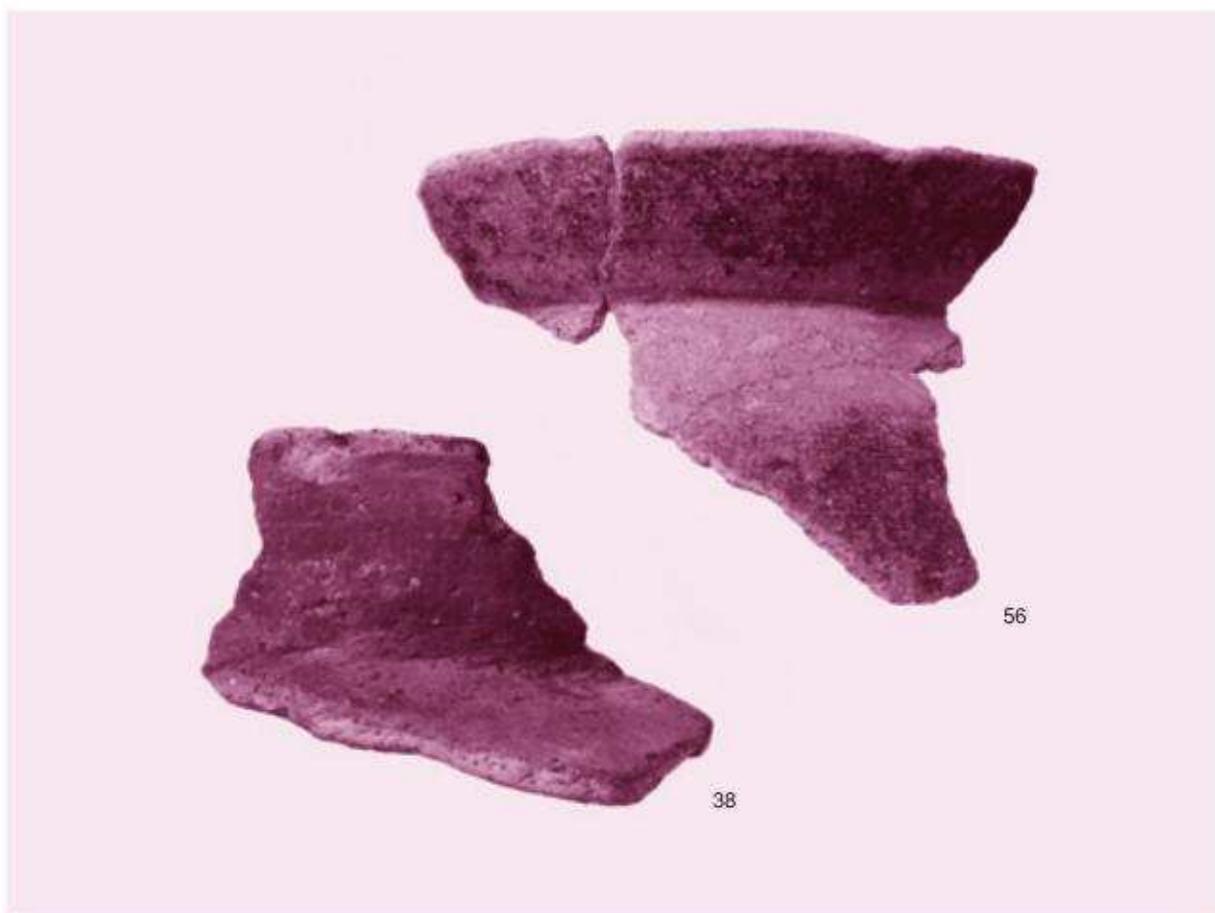


2 高杯

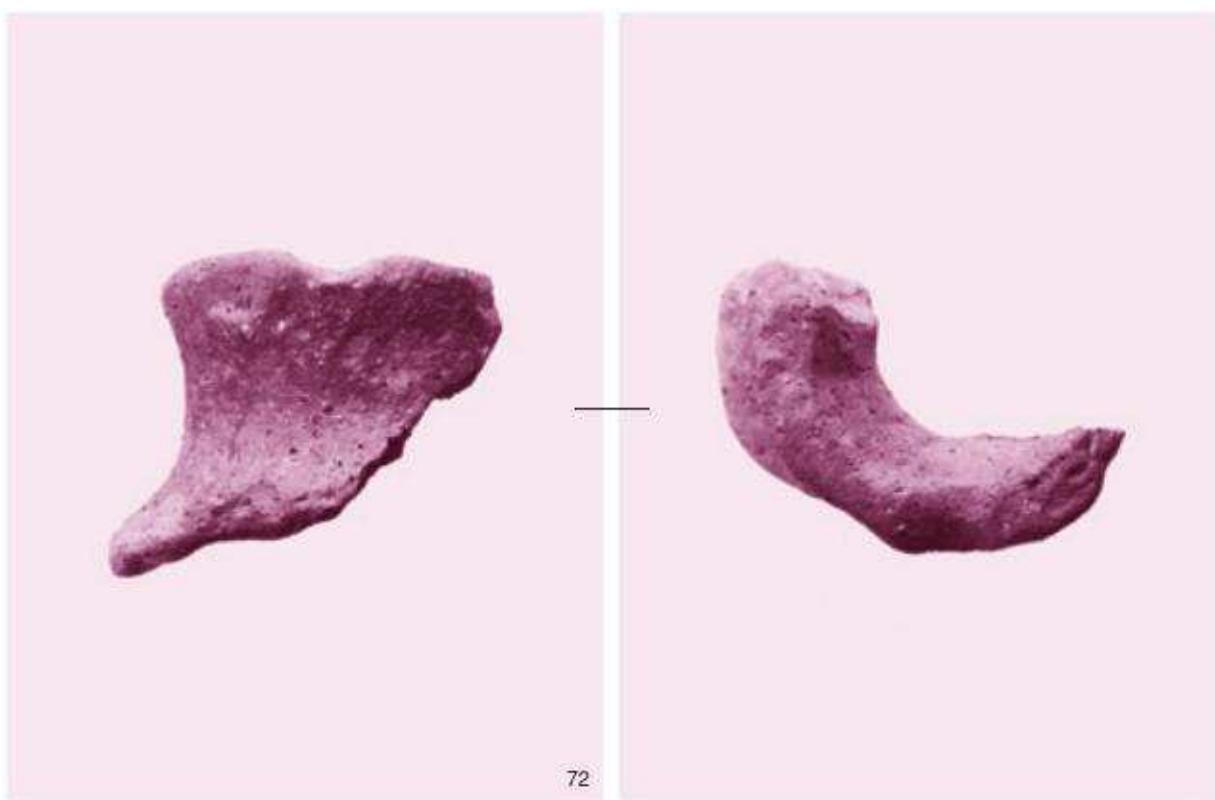
圖版
40

09
—
1區

01 河道 · 06 河道出土土器



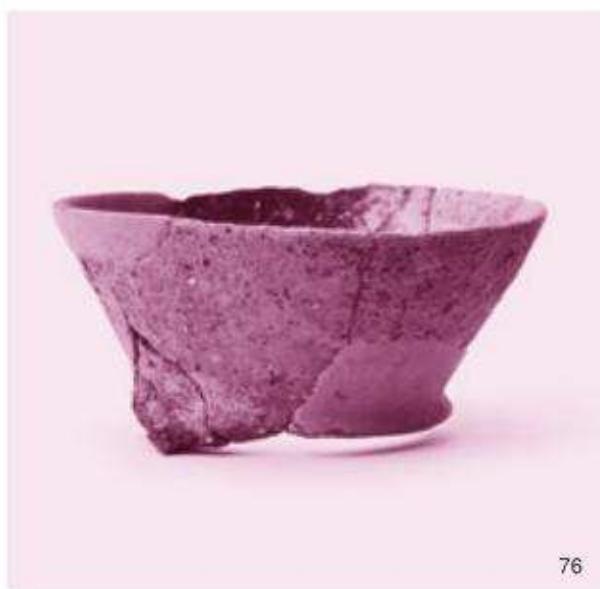
1 01河道出土甕·壺



2 06河道出土器台



1 基盤層出土無頸壺



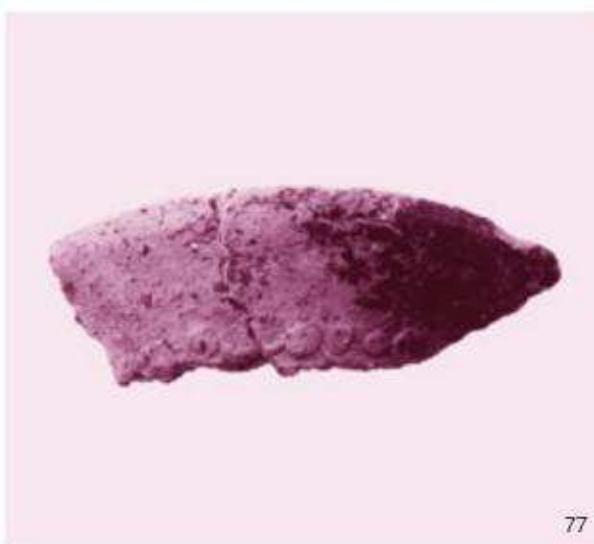
2 基盤層出土壺



3 基盤層出土小型壺



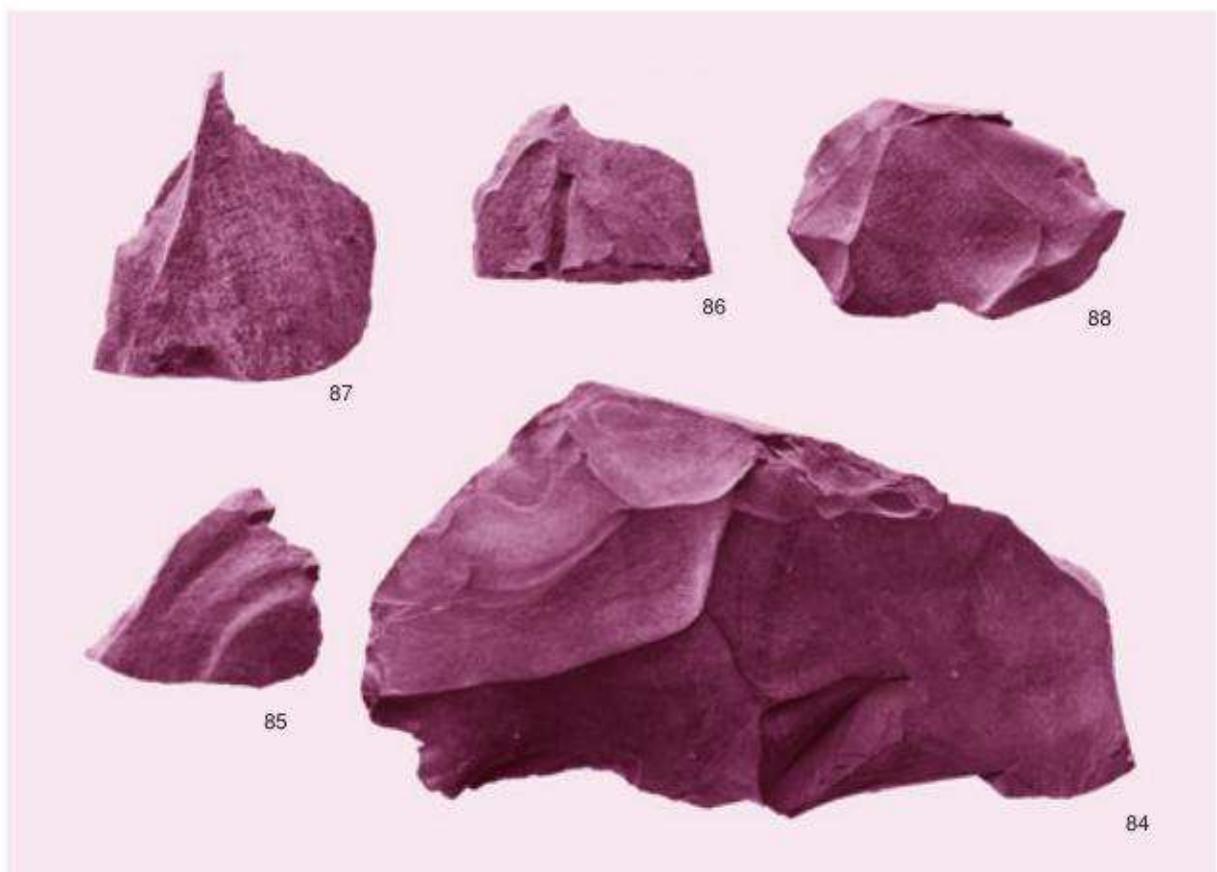
4 基盤層出土製鹽土器



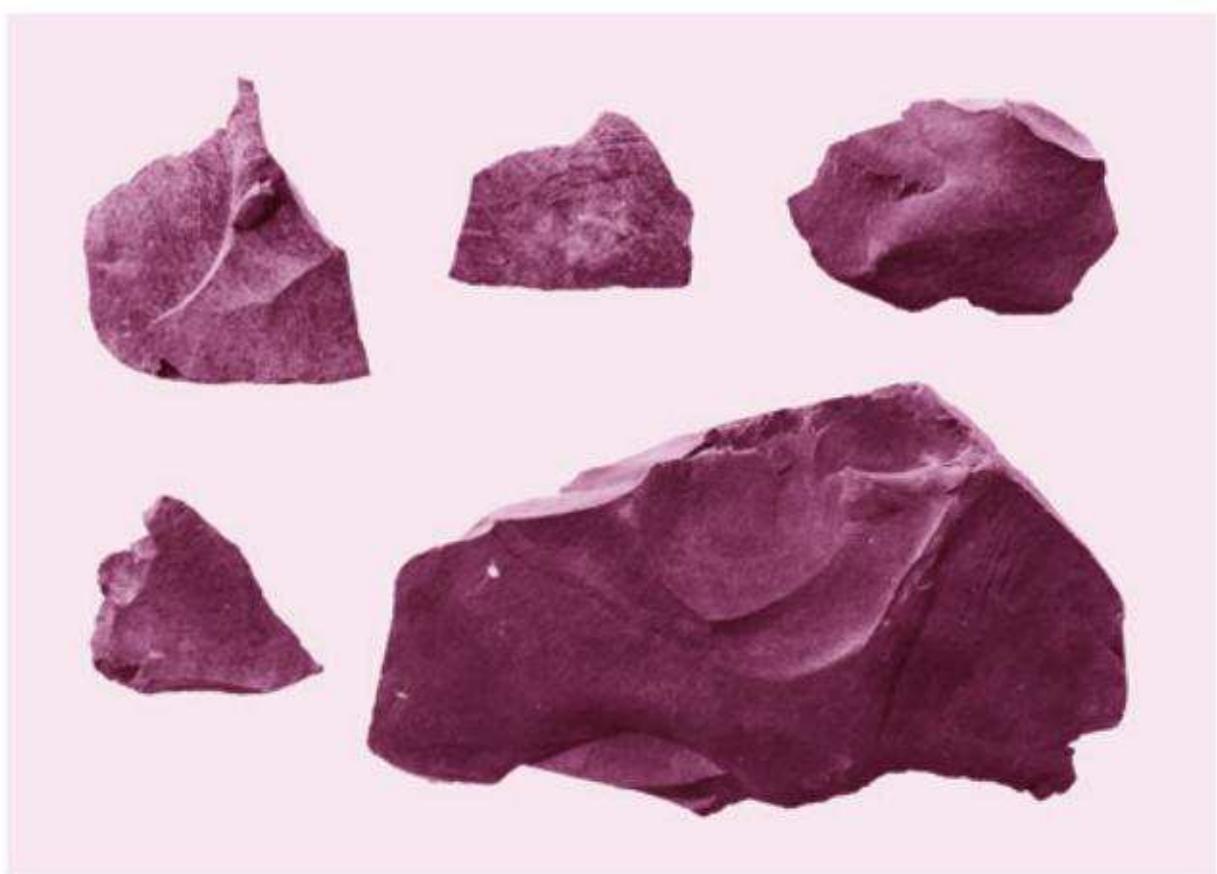
5 基盤層出土壺



6 26土坑出土瓦



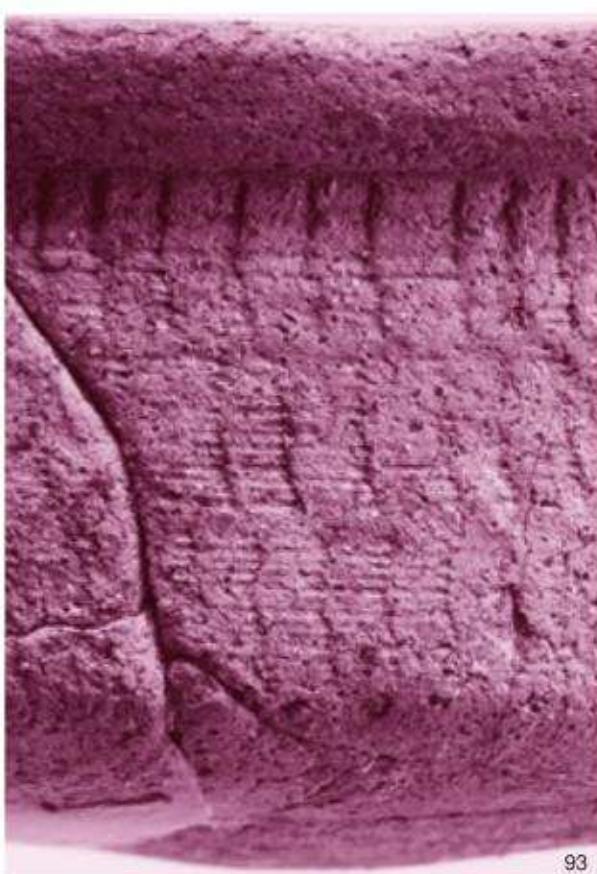
1 サスカイト剥片 (1)



2 サスカイト剥片 (2)

93

1 鉢



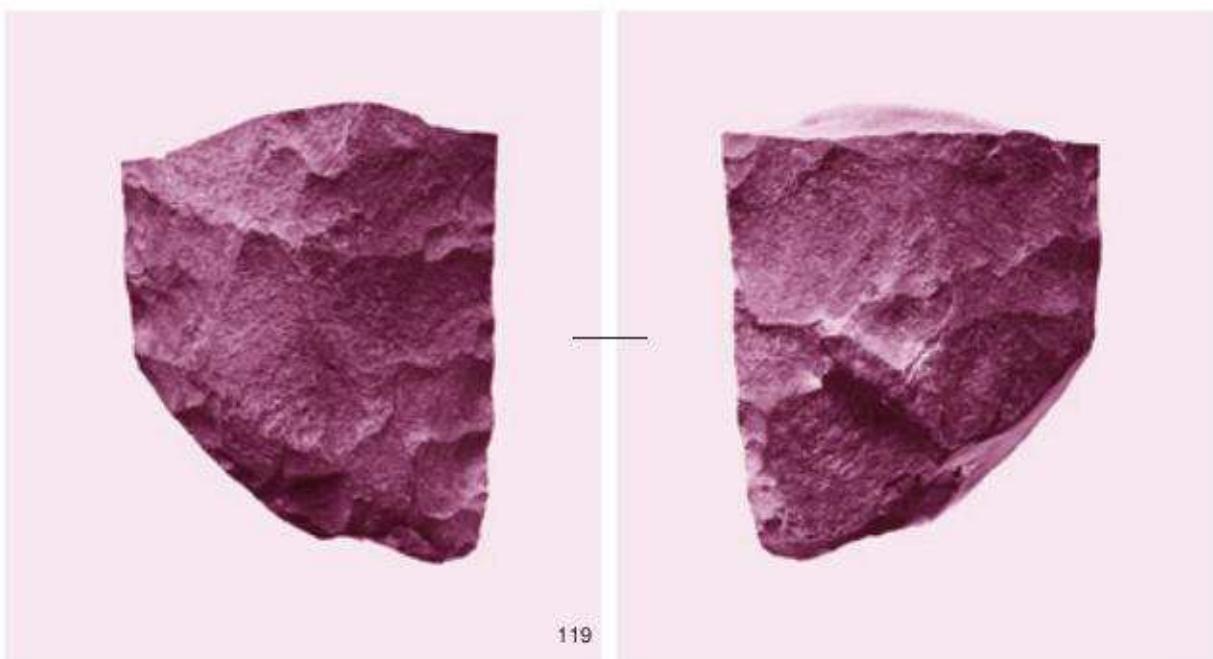
93

2 鉢



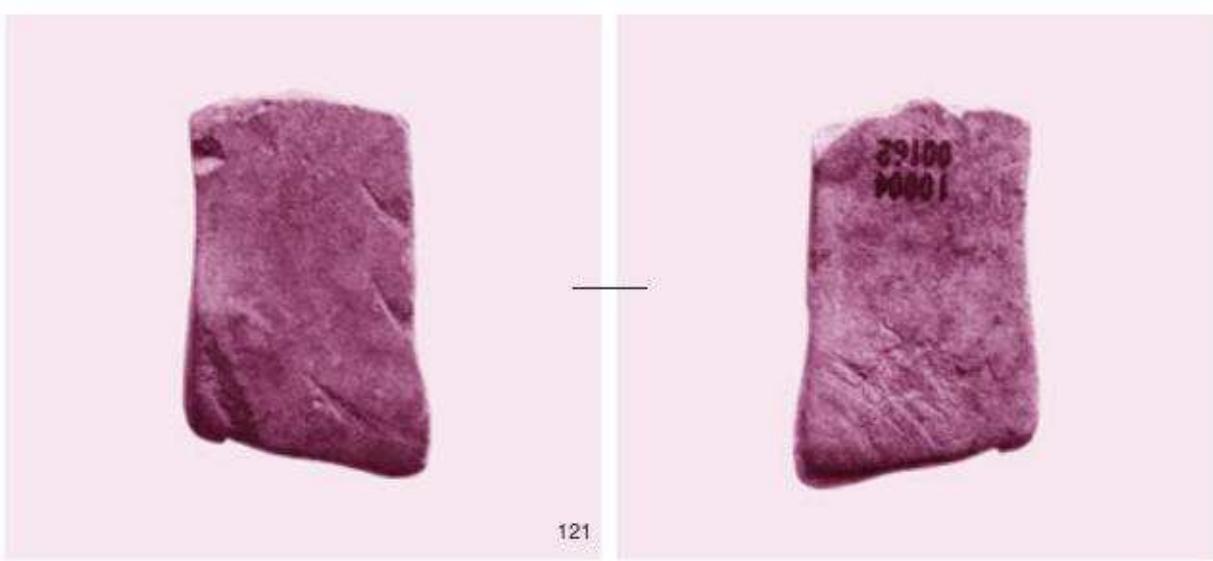
102

3 瓢



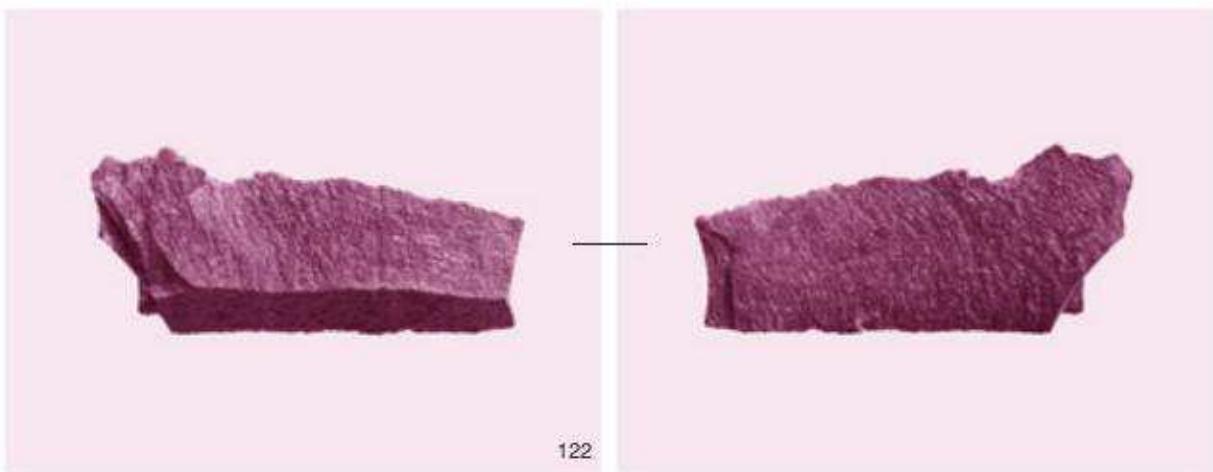
119

1 石劍



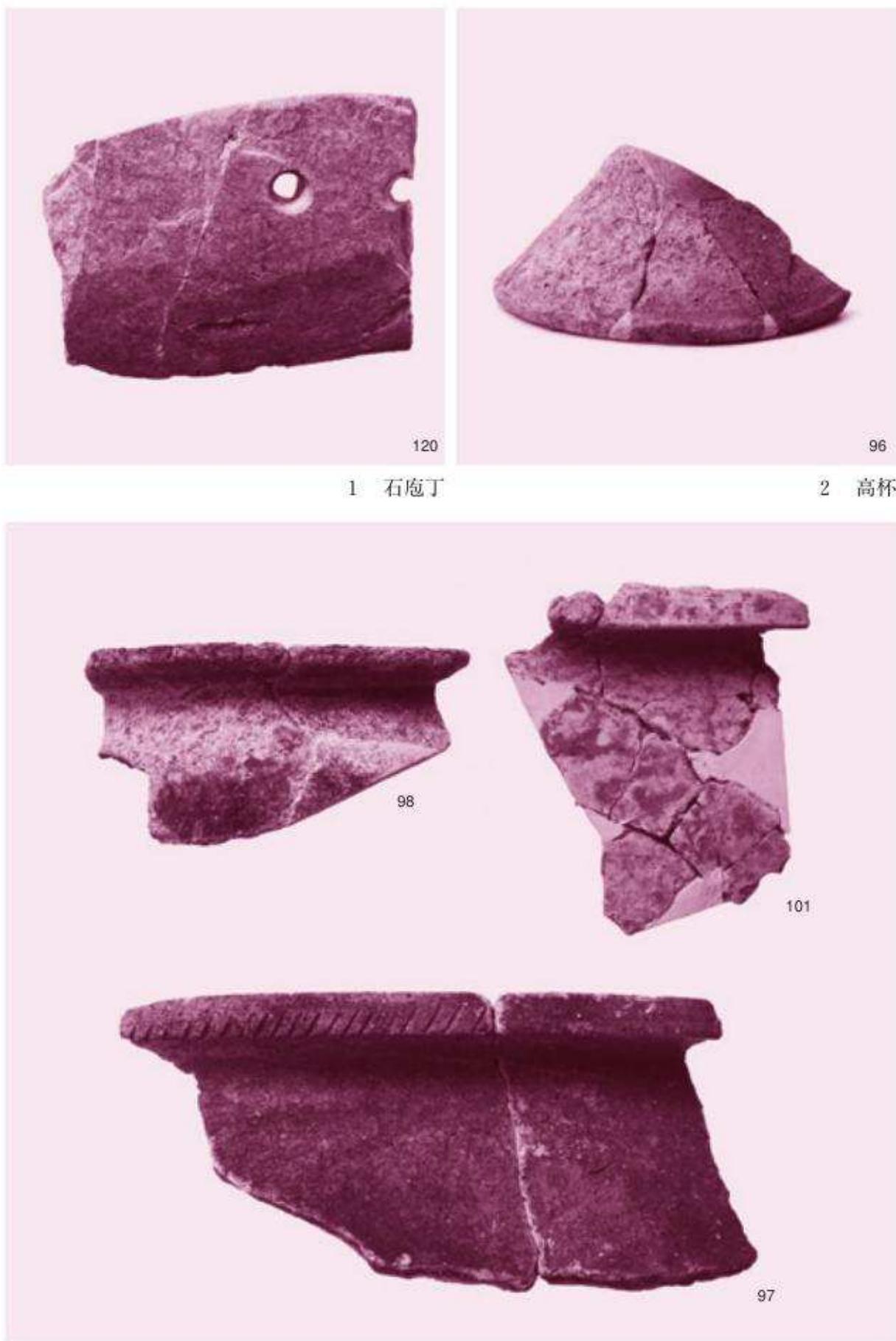
121

2 砥石



122

3 サスカイト剥片



1 石庖丁

2 高杯

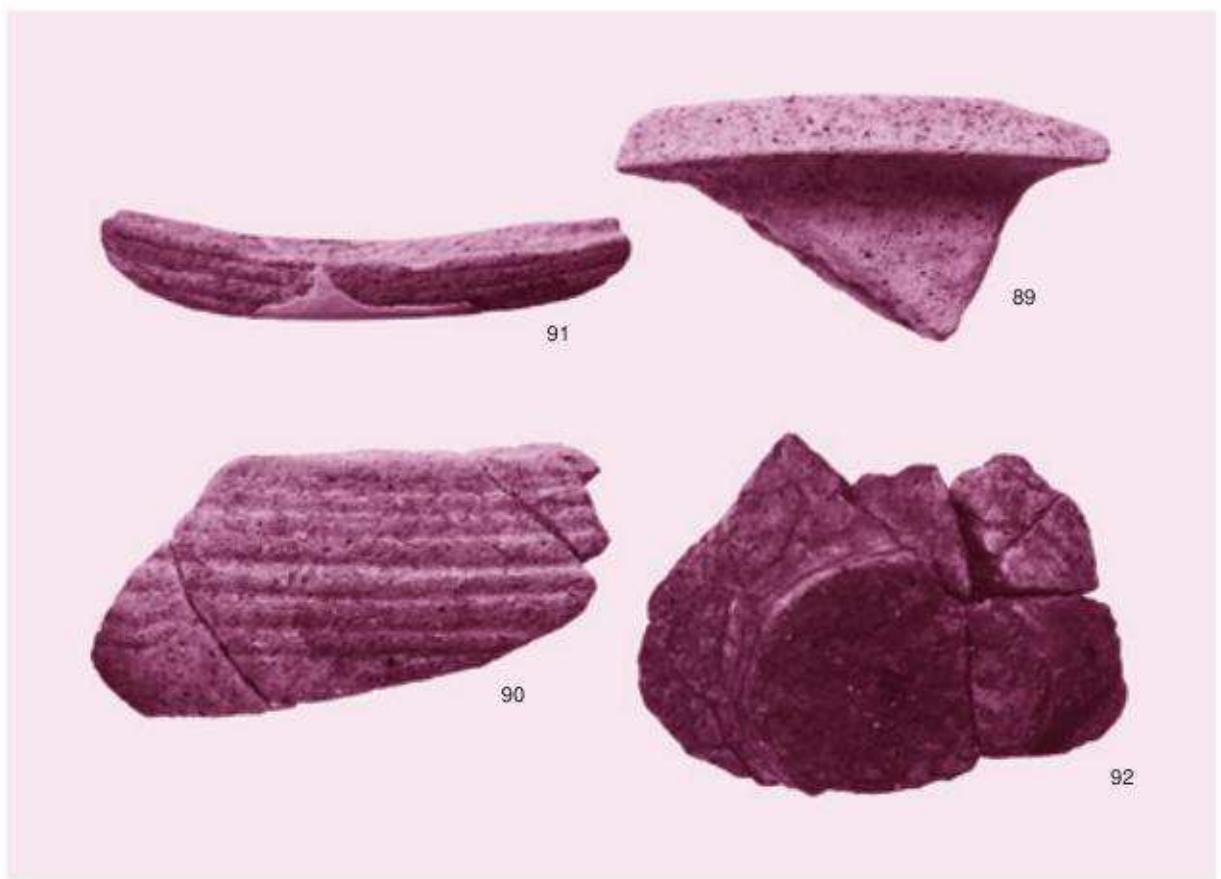
98

101

97

3 瓢

1 壺

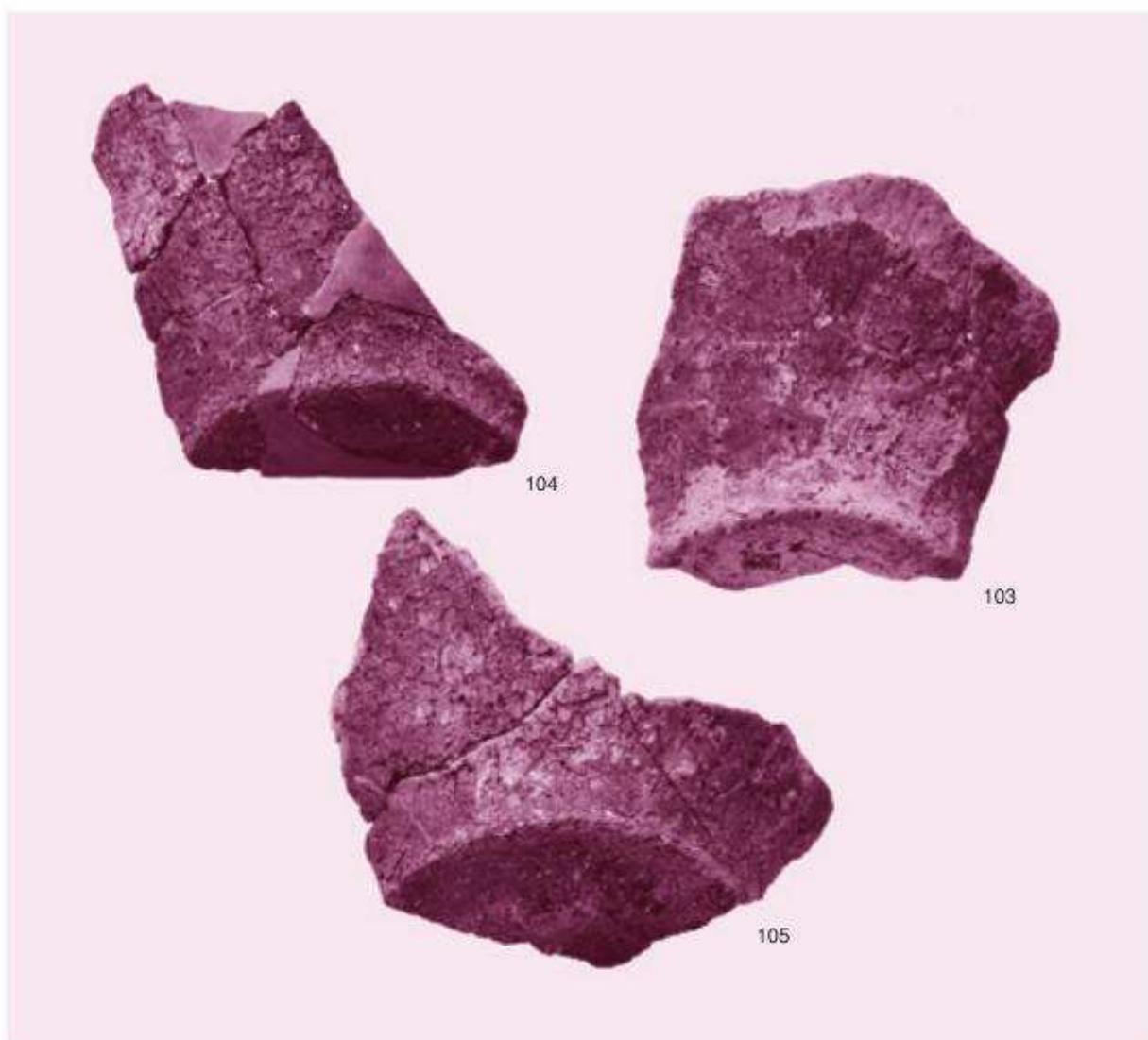


95

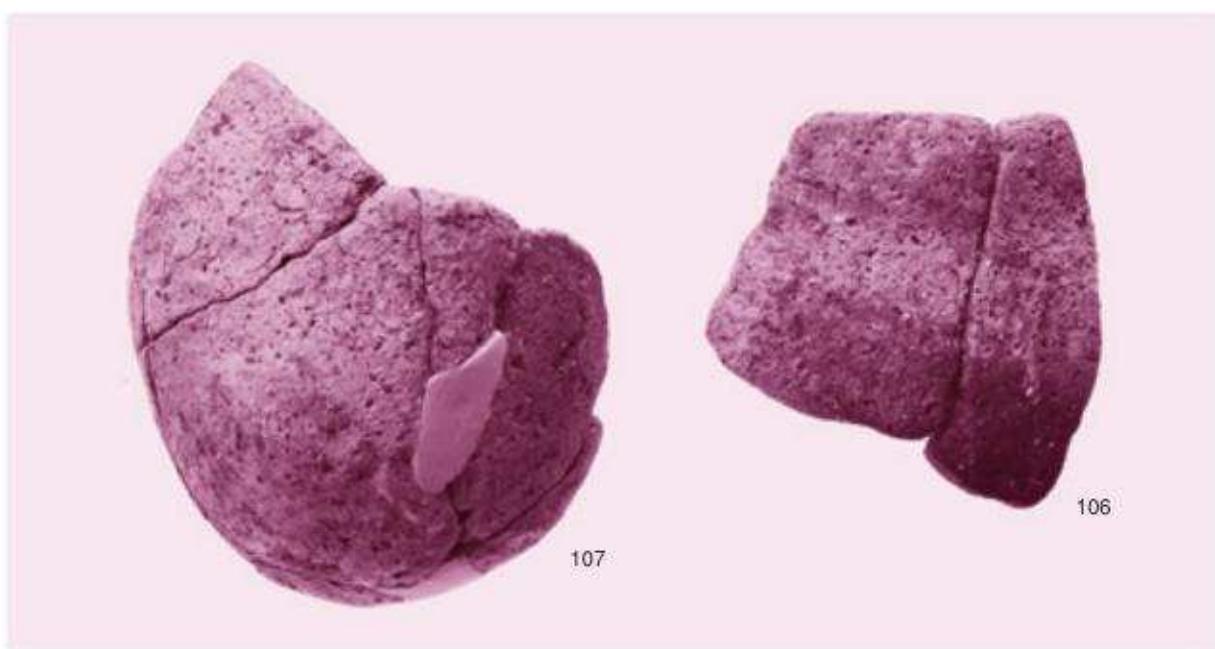
94



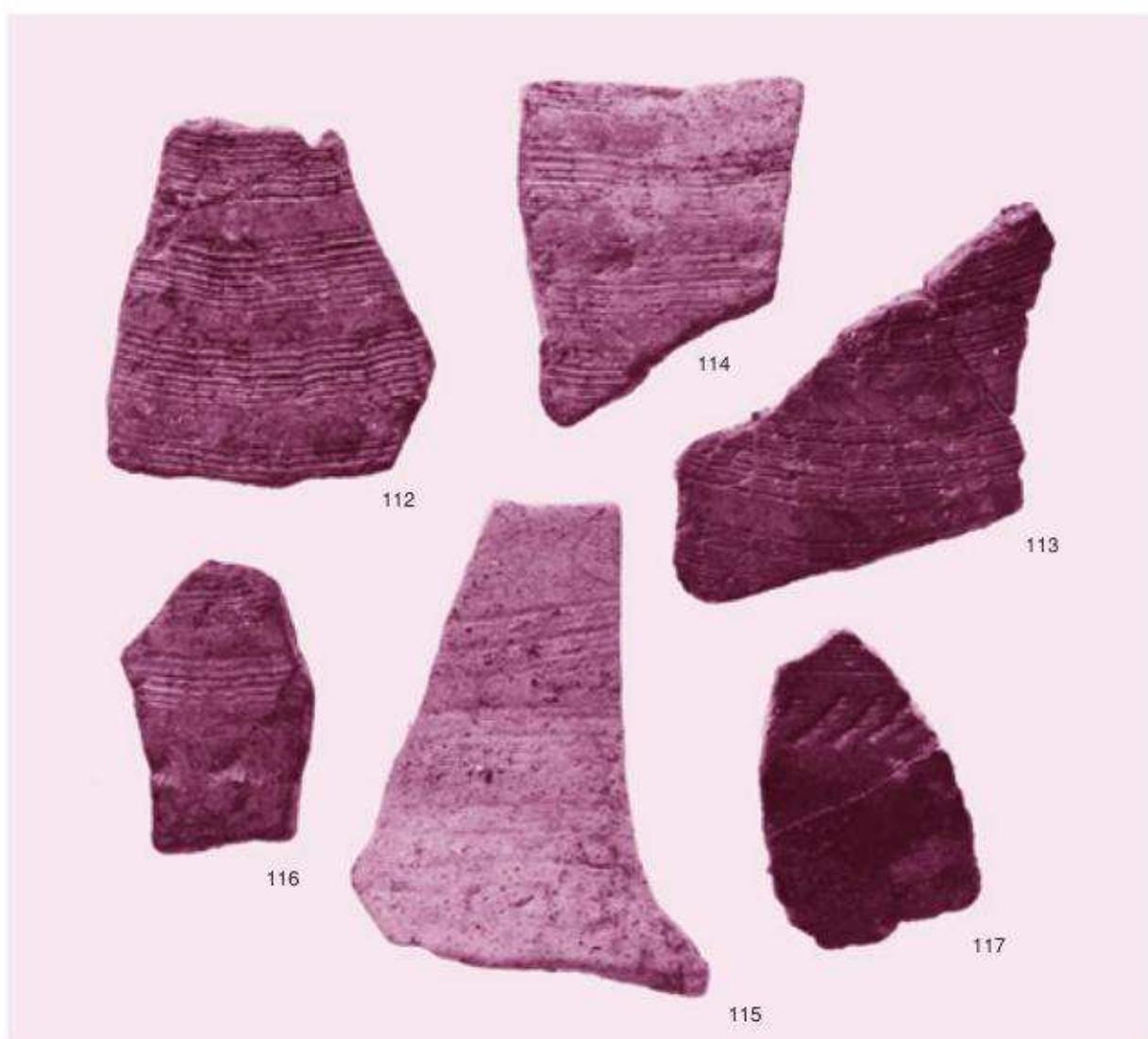
2 鉢・高杯



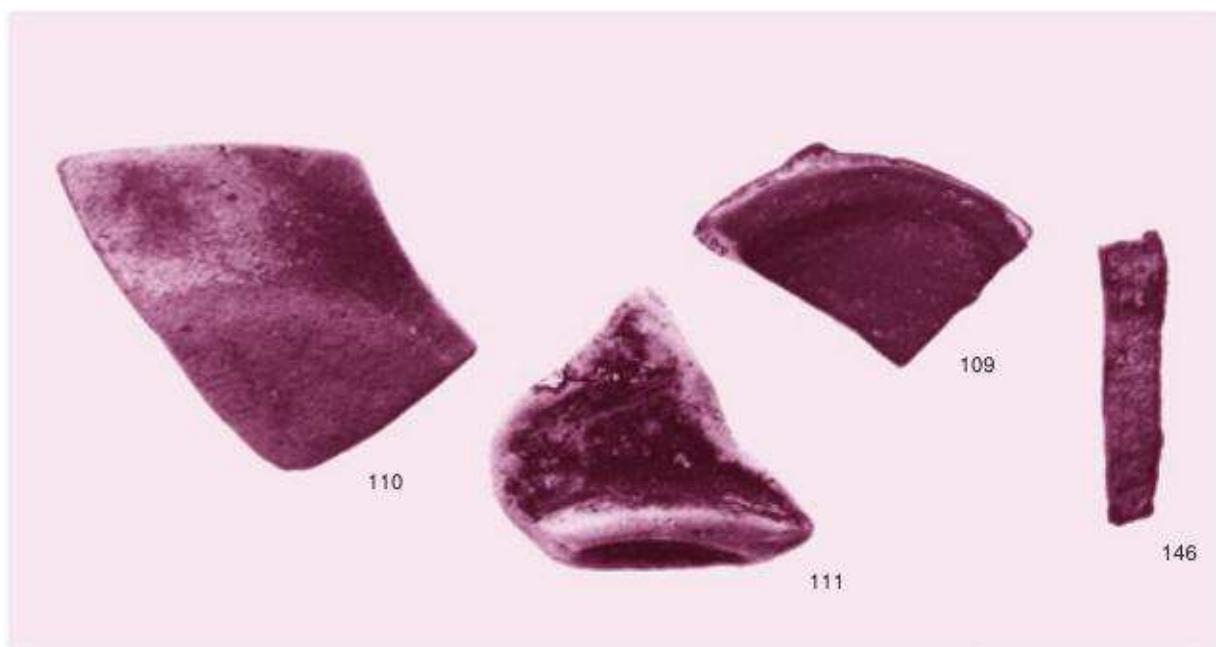
1 壺



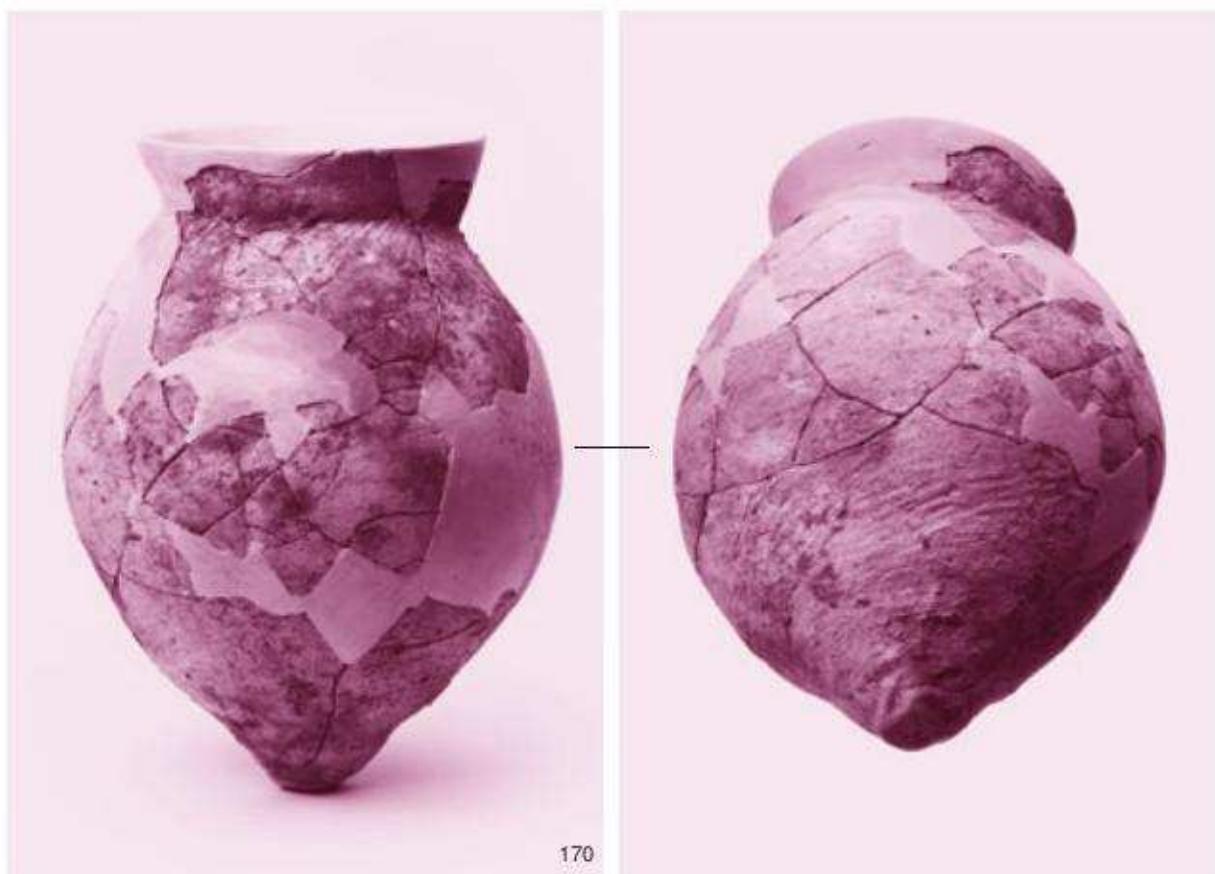
2 蜷壺



1 壺・高杯



2 上層出土黒色土器椀・瓦器椀・鉄釘



170

1 製塩土器



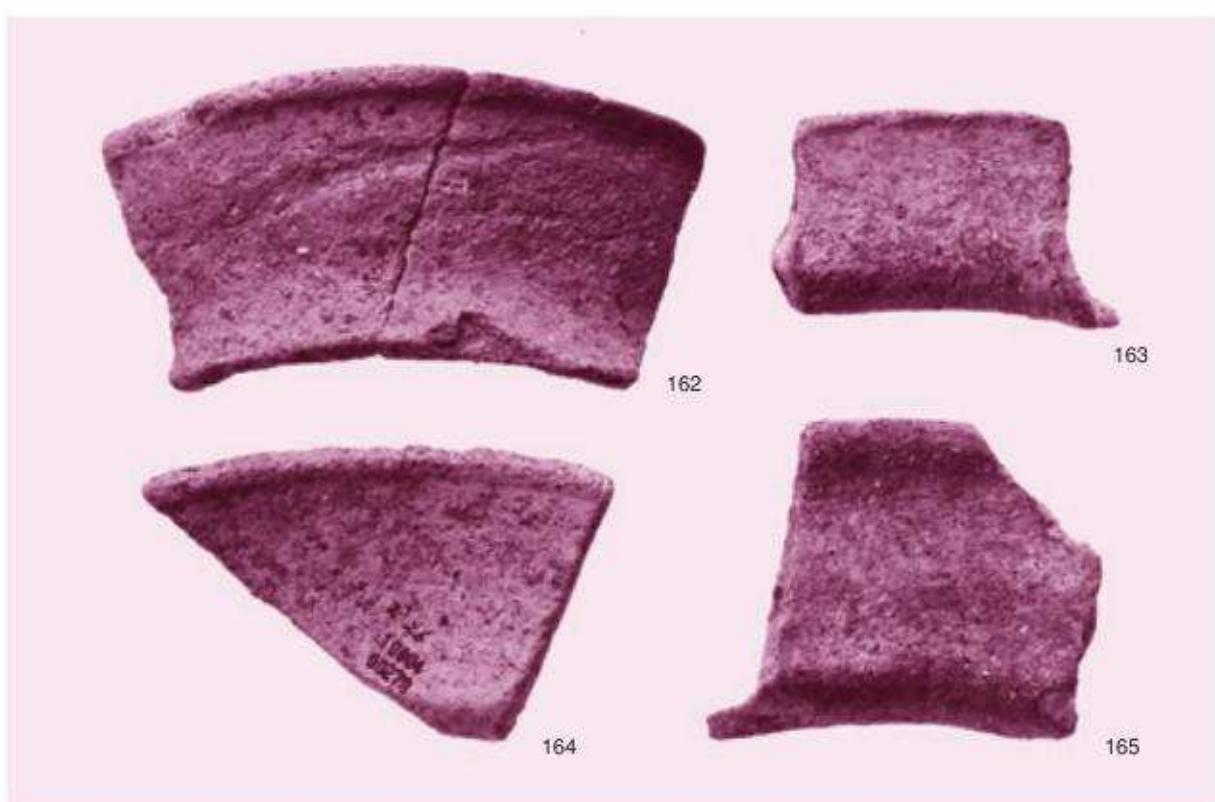
166

2 台付甕

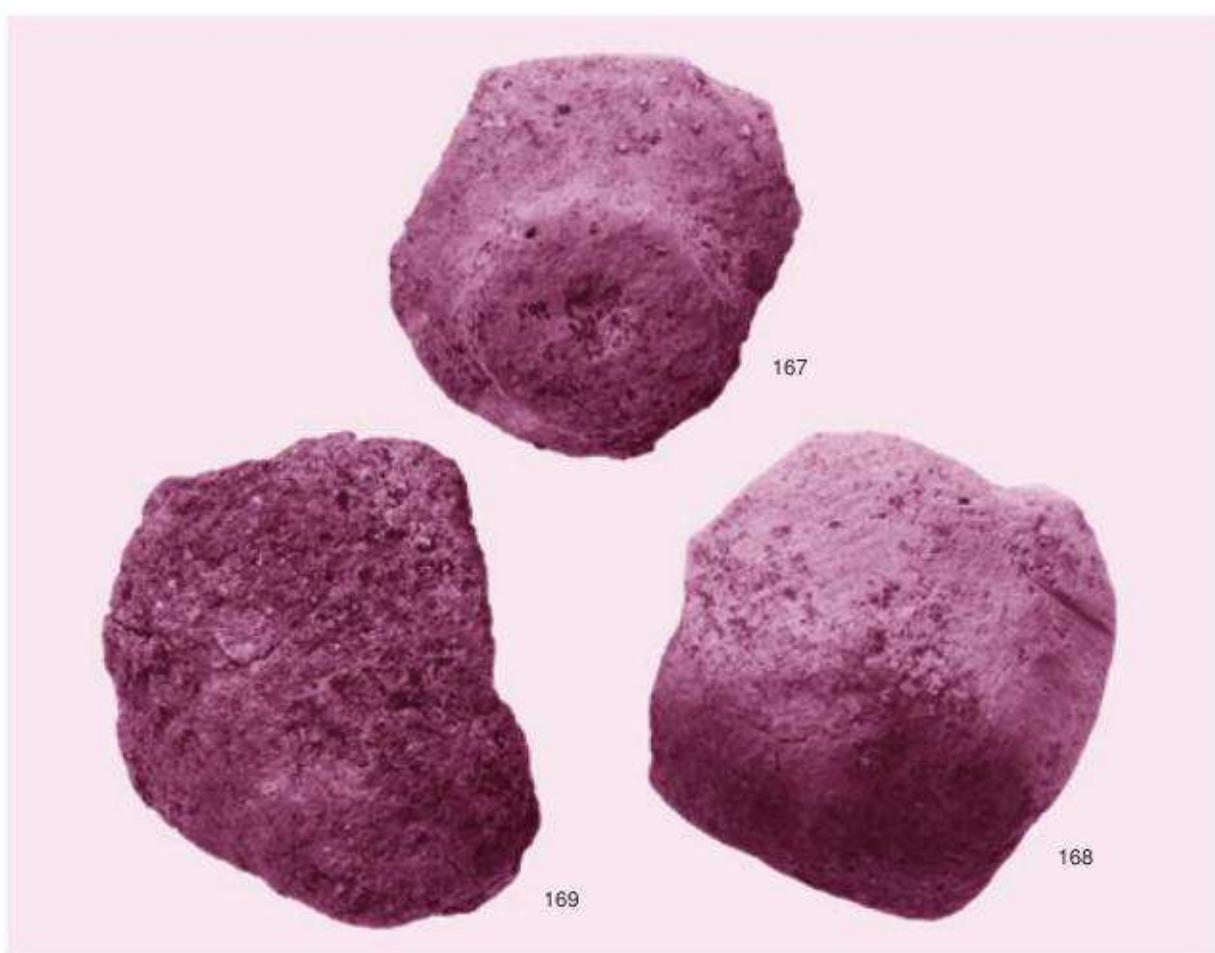


171

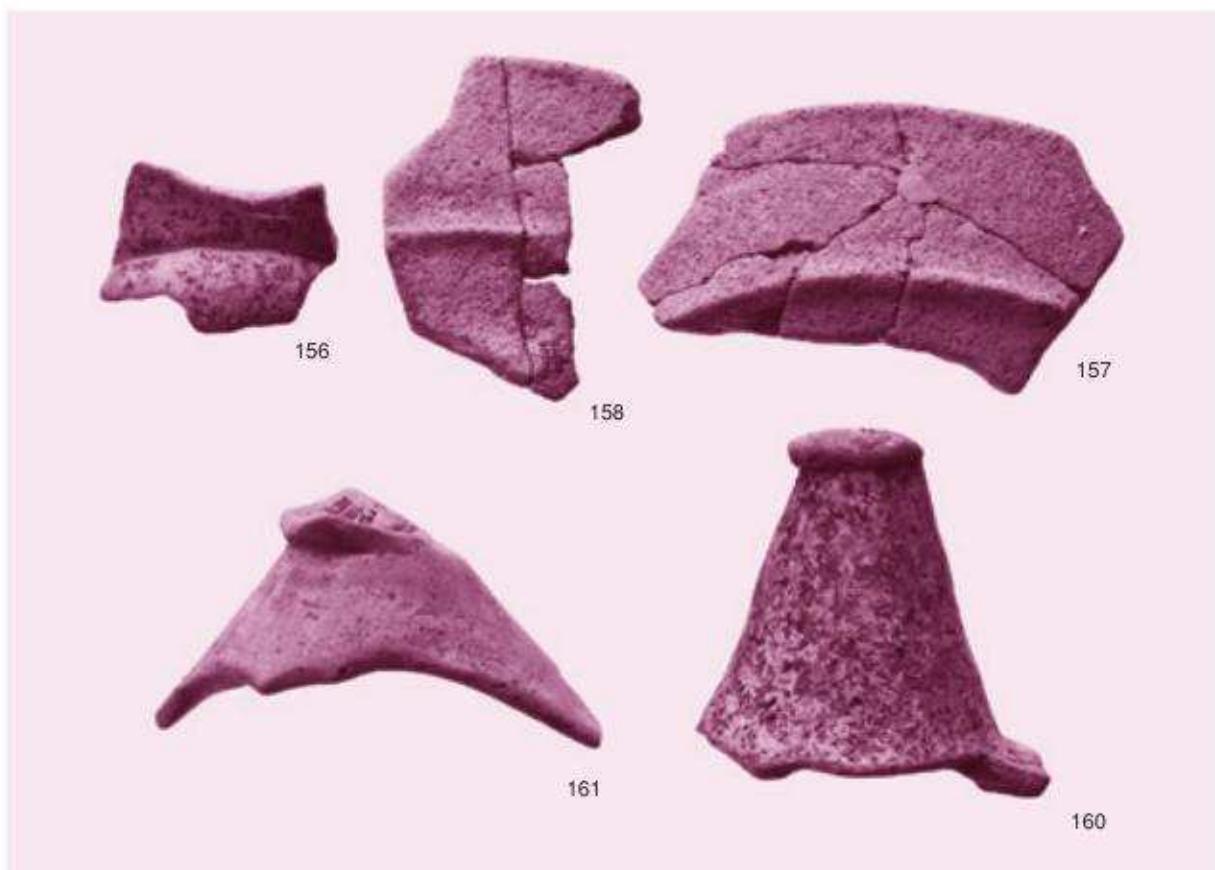
3 須恵器高杯



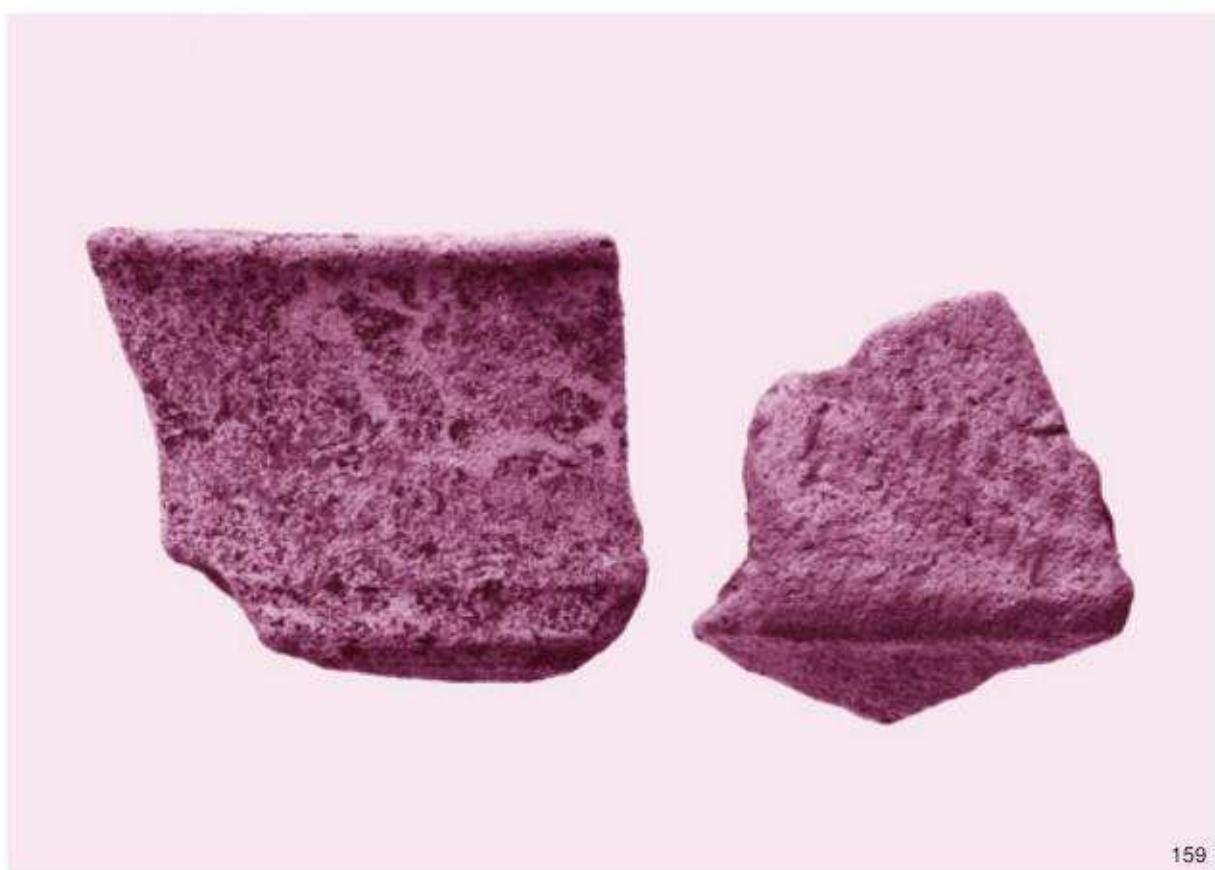
1 壺



2 壺・製塙土器

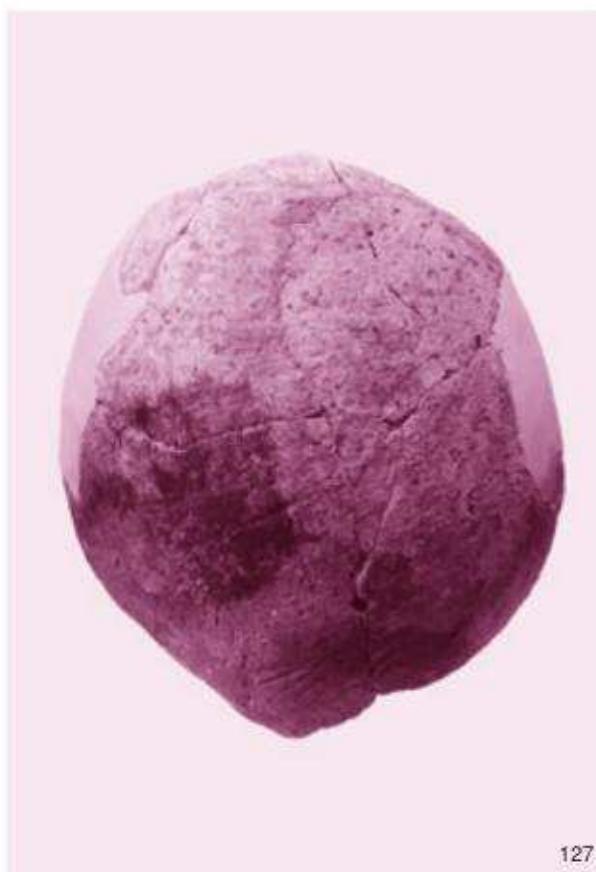


1 壺・器台・高杯



159

2 壺



127



177

1 55溝出土甕 (左) 2 104溝出土須惠器杯蓋 (右上) 3 堆積土出土製鹽土器 (右下)



123



124

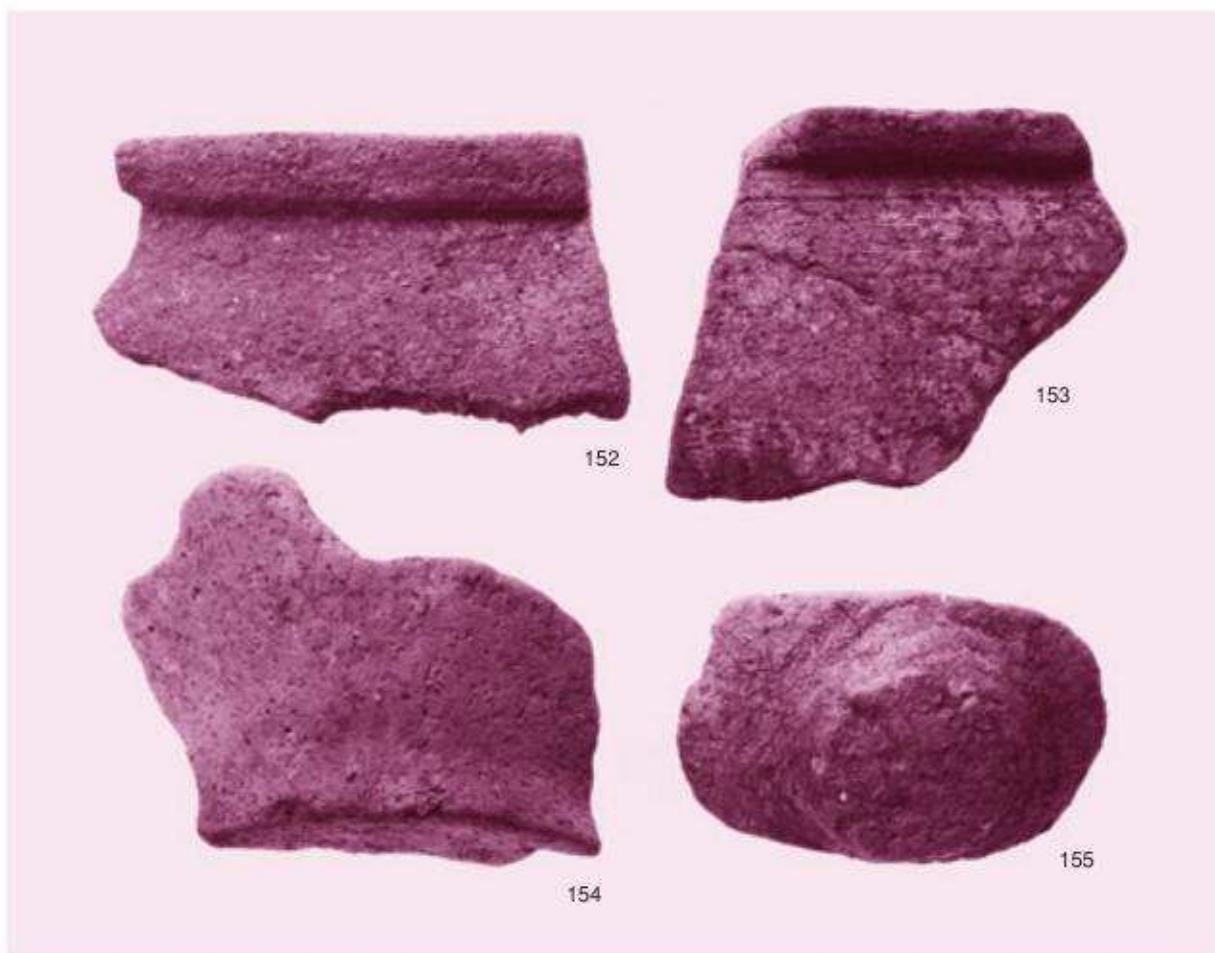
4 54河道出土甕

図版
53

10
—
2区

60
河道
—
10
—
3区

73
水田
出土
遺物

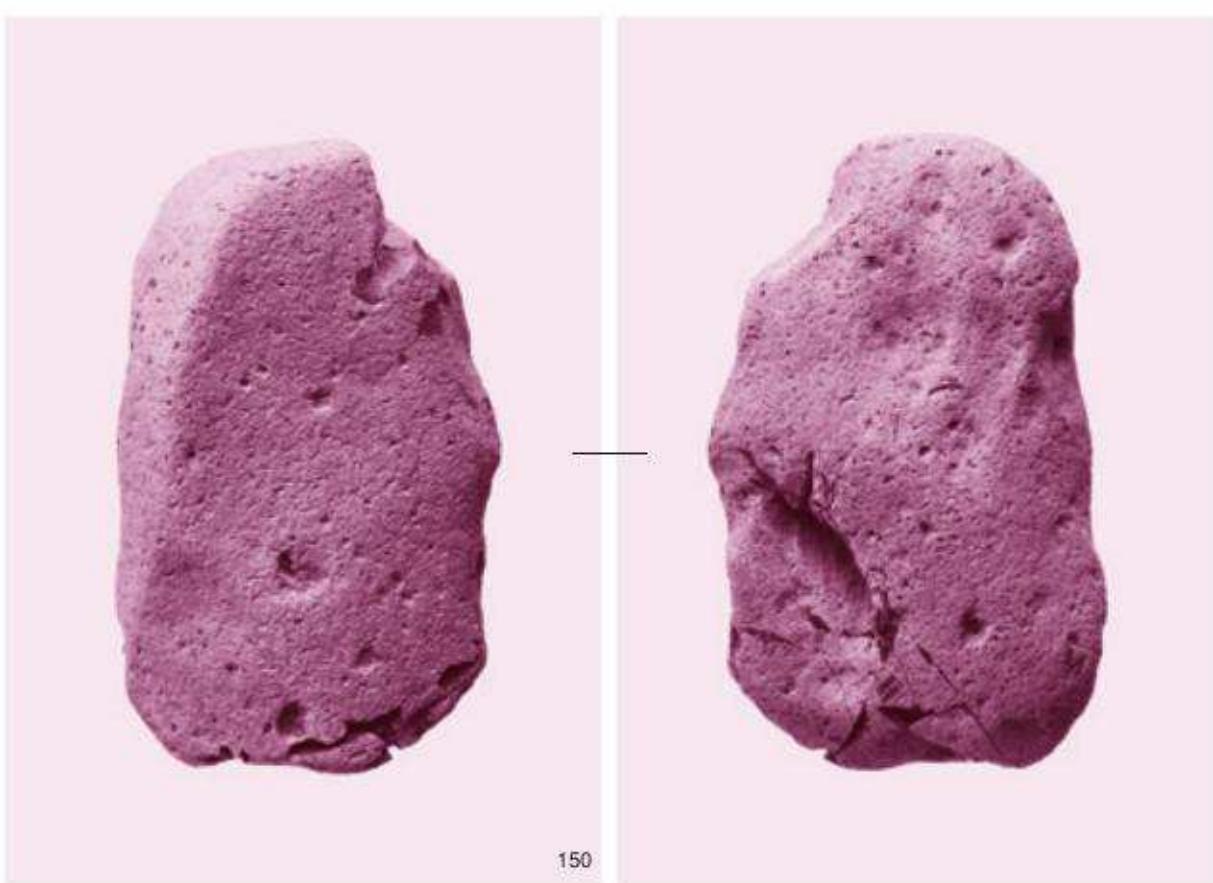


1 60河道出土鉢・壺・甕

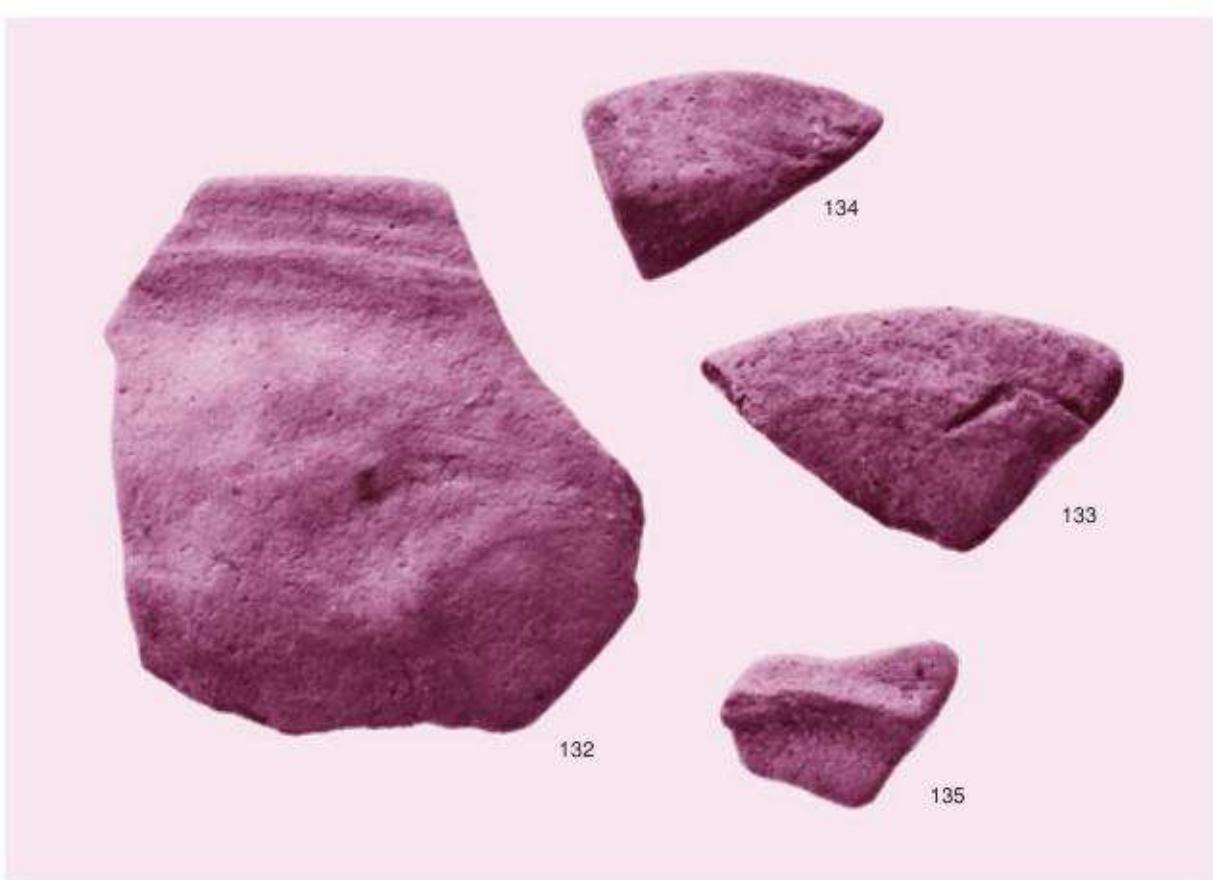


2 73水田出土埴輪・陶器椀・瓦器皿

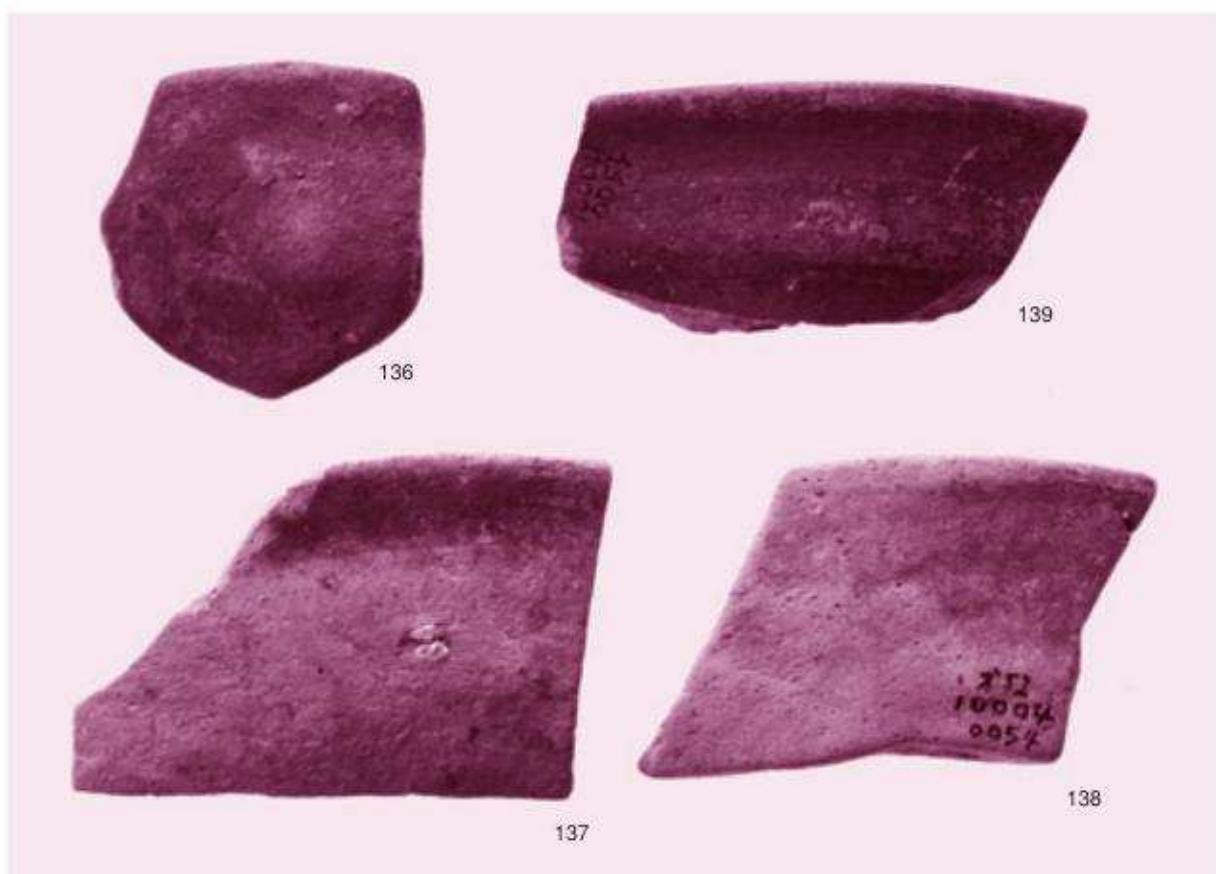
図版 54
10—1区 第1・2遺構面間出土遺物



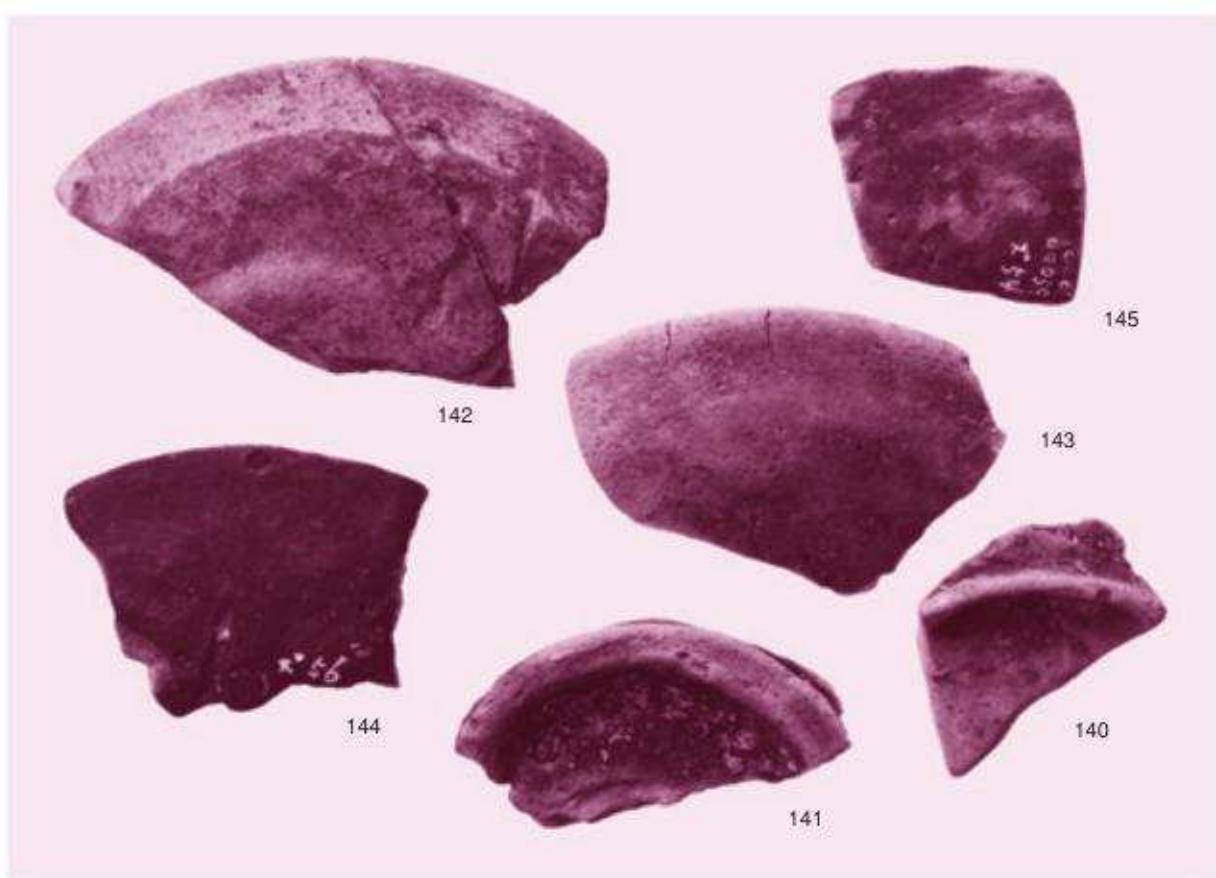
1 サスカイト原石



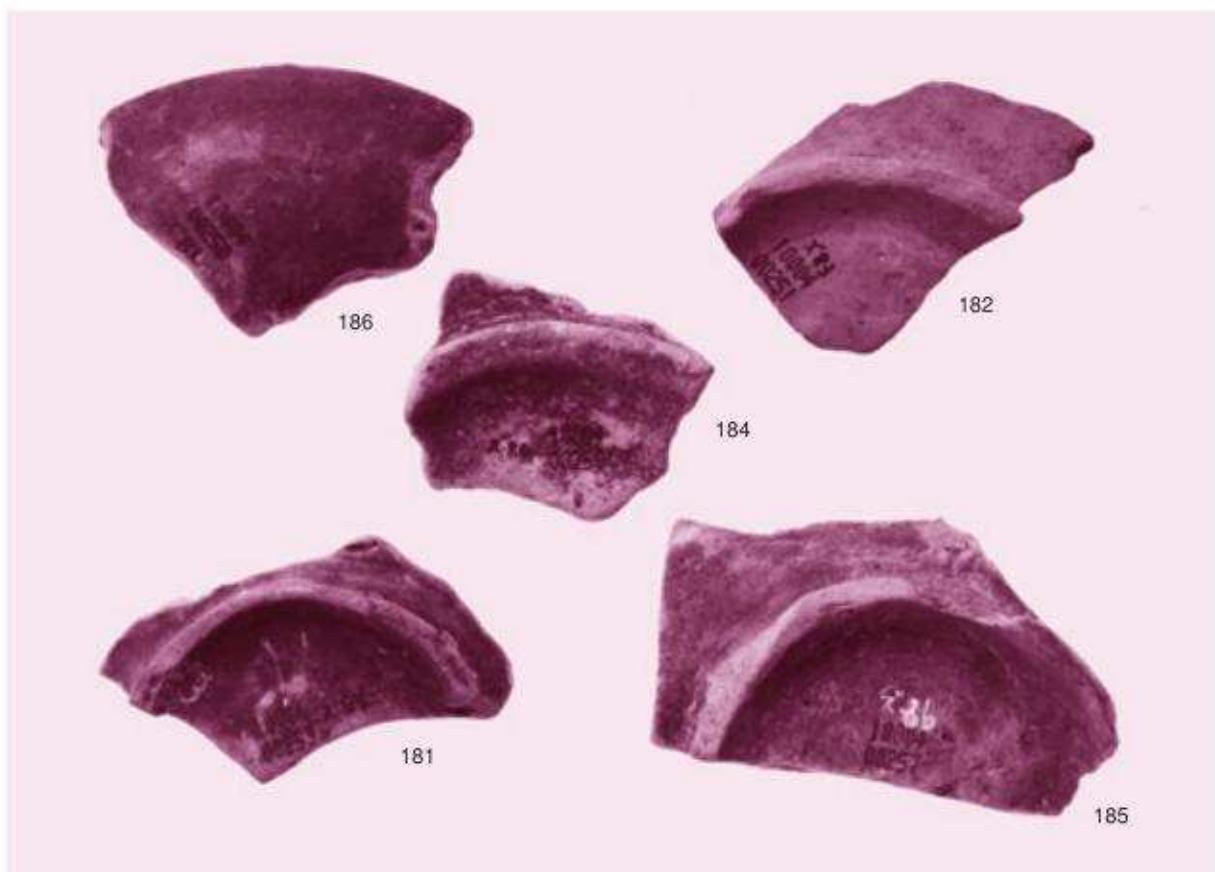
2 土師器皿・椀・瓦器椀



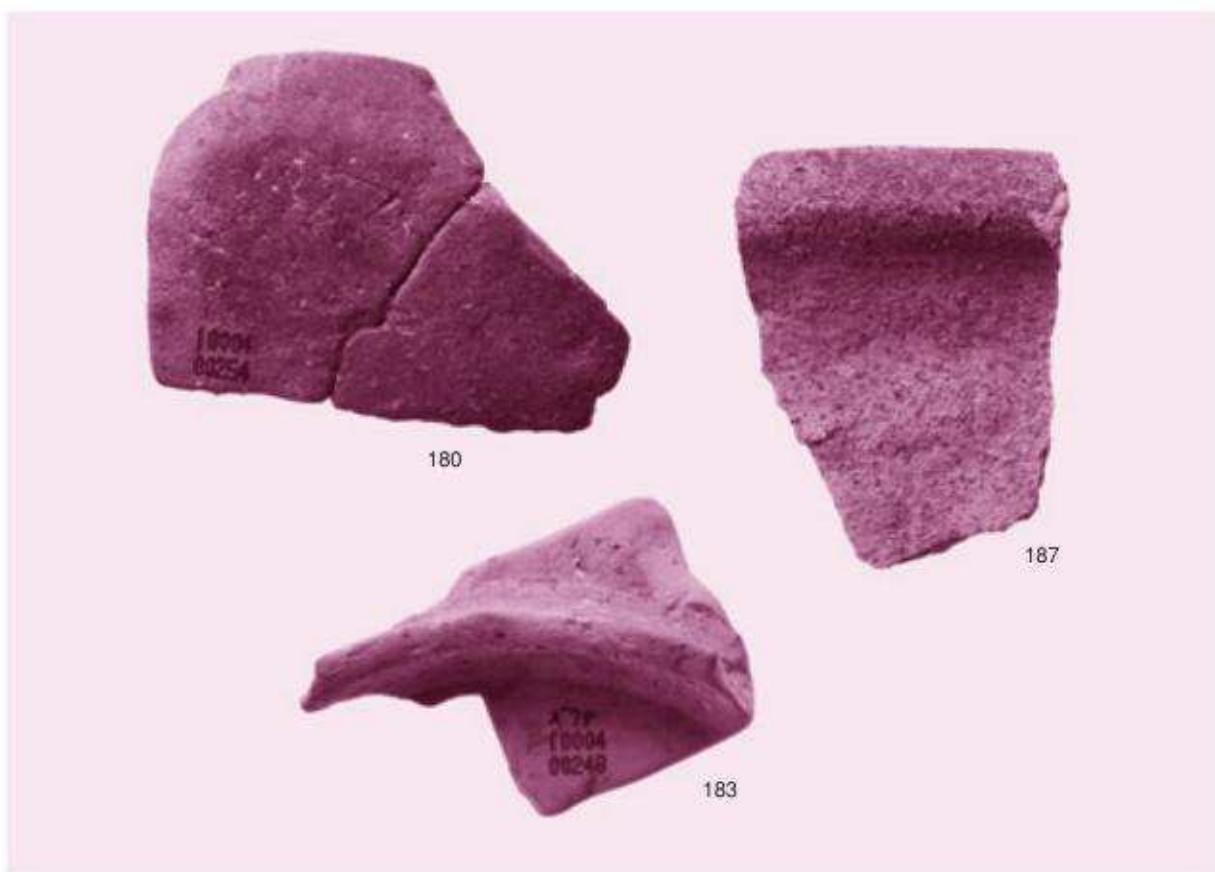
1 瓦器碗



2 瓦器碗・皿



1 瓦器椀・皿



2 土師器皿・黑色土器椀・須恵質土器捏鉢

大阪府埋蔵文化財調査報告2011-2

大町遺跡Ⅲ

—府営岸和田大町住宅建て替え工事に伴う発掘調査—

発行 大阪府教育委員会

〒540-8571 大阪市中央区大手前二丁目
TEL 06-6941-0351（代表）

発行日 2012年3月30日

印刷 株中島弘文堂印刷所

〒537-0002 大阪市東成区深江南二丁目六番八号